香川県歴史博物館建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

高松城跡

1999.11

香川県教育委員会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

香川県歴史博物館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

高松城跡

正誤表

位置	誤	正
259 頁　4	（口径）2.6	（底径）2.6
259 頁　29 （器高）	23.0	トル
261 頁　71	（口径）7.4	（底径）7.4
263 頁　187（口径）	107	10.7
266 頁　263	最大幅 29	最大幅 2.9
266 頁　273（器高）	8.6	トル
267 頁　276（器高）	5.5	トル
271 頁　464（器高）	2.4	トル
271 頁　469（口径）	18.0	トル
272 頁　482（器高）	1.9	トル
273 頁　502（口径）	18.0	トル
275 頁　612（口径）	33.0	トル
280 頁　740（器高）	3.6	トル
281 頁　809（器高）	2.9	トル
281 頁　813（器高）	6.2	トル
282 頁　816（器高）	5.2	トル
283 頁　847（器高）	5.5	トル
287 頁　1264	（口径）12.0	（底部）12.0

香川県歴史博物館建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

高松城跡

1999.11

香川県教育委員会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

(1) 石垣全景（南より）

(2) SA01・SA02・SD01（南より）

(1) 第 4 遺構面上層出土遺物（朝鮮半島産白磁　内面）

(2) 第 4 遺構面上層出土遺物（朝鮮半島産白磁　外面）

序　　文

香川県教育委員会では，四国横断自動車道や高松東道路の建設などの大規模開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査と，それに伴う出土品の整理及び発掘調査報告書作成の業務を，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して実施しております。

このたび，「歴史博物館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告」として刊行いたしますのは，高松市玉藻町にあります香川県歴史博物館の建設工事に伴い，平成７年度に調査を行いました高松城跡についてであります。

この遺跡の調査では，安土桃山時代から江戸時代にかけての多くの遺構･遺物が出土しておりますが，なかでも，調査区を縦断するように検出した東ノ丸東側の石垣は讃岐松平家による大規模な造成の一端を垣間見せてくれる貴重な資料です。また，生駒期から松平期にかけての膨大な瓦類と陶磁器類は，近世初期の武士階級の生活・文化を示す貴重な資料です。

本報告書が香川県の歴史を考える資料として広く活用されますとともに，埋蔵文化財に対する理解と関心を深められるものとなれば幸いです。

最後になりましたが，発掘調査から報告書の刊行に至るまでの間，関係諸機関並びに地元関係各位に多大なご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに，今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成11年11月

香川県教育委員会
教育長　折　原　　守

例　　言

1．本報告書は，歴史博物館建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書で香川県高松市玉藻町に所在する高松城跡（たかまつじょうあと）の報告を収録した。

2．発掘調査は，香川県教育委員会が調査主体，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターを調査担当者として実施した。

3．発掘調査は，予備調査および一部の本調査を平成６年４月１日から６月30日まで実施し，残りの本調査を平成７年４月１日から平成８年３月31日まで実施した。発掘調査の担当は以下のとおりである。

平成６年度

西村尋文　　中西昇　　森澤千尋

平成７年度

北山健一郎　　山田秀樹　　陶山仁美

4．調査にあたって，下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同，敬称略）

松平公益会，財団法人香川県民ホール，高松市立城内中学校，佐賀県立九州陶磁文化館，
佐賀県立名護屋城博物館，滋賀県立安土城郭調査研究所，愛知県陶磁資料館，
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター，地元自治会

5．報告書の作成は，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。
本報告書の執筆・編集は北山が担当した。

6．報告書の作成にあたっては，下記の方々のご教示を得た。記して謝意を表したい。

東信男，井上喜久男，大橋康二，加藤理文，北垣聰一郎，木戸雅寿，木村伸幸，小竹森直子，
戸塚和美，中井均，廣田佳久，松井一明，松下孝幸，松田直則，宮武正登，山上雅弘，吉成承三

（五十音順，敬称略）

7．本報告書で用いる方位の北は，国土座標系第Ⅳ系の北であり，標高はT.P.を基準としている。
また，遺構は下記の略号により表示している。

SA	柵列	SB	礎石および掘立柱建物跡	SD	溝状遺構
SE	井戸跡	SK	土坑	SP	柱穴
SR	自然河川	ST	埋葬遺構	SX	不明遺構

8．挿図の一部に国土地理院発行の1/25,000　地形図『高松北部』を使用した。

目　　次

第１章　調査に至る経緯と経過
第１節　調査に至る経緯……1
第２節　調査の経過……2

第２章　立地と環境
第１節　地理的環境……9
第２節　歴史的環境……9

第３章　調査の成果
第１節　土層序……12
第２節　主な遺構と遺物……17
１．第Ⅰ期……17
２．第Ⅱ期……26
３．第Ⅲ期……94
４．第Ⅳ期……114
５．第Ⅴ期……220

第４章　まとめ
第１節　東の丸の変遷……250
第２節　検出した石垣遺構について……251
第３節　陶磁器類について……253
第４節　瓦の分類について……255
第５節　軒平瓦の製作技法について……256

挿 図 目 次

第 1 図　遺跡位置図……1
第 2 図　調査区割図……3
第 3 図　既往の調査地位置図……7
第 4 図　Ⅳ区南壁土層断面図……13
第 5 図　Ⅲ区北壁土層断面図……14
第 6 図　西壁土層断面図(1)……15
第 7 図　西壁土層断面図(2)……16
第 8 図　SK 01平・断面図……17
第 9 図　SK 02平・断面図……17
第10図　SK 02出土遺物実測図……18
第11図　ST 01平・断面図……18
第12図　ST 02平面図……19
第13図　ST 02出土遺物実測図……19
第14図　SX 01平・断面図……19
第15図　SX 01出土遺物実測図(1)……20
第16図　SX 01出土遺物実測図(2)……20
第17図　SX 02平・断面図……20
第18図　SX 02出土遺物実測図……21
第19図　SX 03平面図……21
第20図　SX 03出土遺物実測図……21
第21図　SX 04平・断面図……22
第22図　SX 04出土遺物実測図……22
第23図　SX 05平・断面図……22
第24図　SX 05出土遺物実測図……22
第25図　SX 06平・断面図……23
第26図　SX 06出土遺物実測図……23
第27図　SX 07平・断面図……23
第28図　SX 08平・断面図……25
第29図　SX 08出土遺物実測図(1)……24
第30図　SX 08出土遺物実測図(2)……25
第31図　SX 09平面図……25
第32図　SX 10平面図……26
第33図　SX 10出土遺物実測図……26
第34図　SA 01・SA 02平・断面図……27
第35図　SA 01出土遺物実測図……28
第36図　SA 02出土遺物実測図(1)……29
第37図　SA 02出土遺物実測図(2)……30
第38図　SA 02出土遺物実測図(3)……31
第39図　SB 01平面図……32
第40図　SB 01出土遺物実測図……32
第41図　SB 02平面図……33
第42図　SD 01土層断面図……33
第43図　SD 01出土遺物実測図(1)……34
第44図　SD 01出土遺物実測図(2)……35
第45図　SD 02断面図……36
第46図　SD 03土層断面図……36
第47図　SD 03出土遺物実測図(1)……37
第48図　SD 03出土遺物実測図(2)……38
第49図　SD 03出土遺物実測図(3)……39
第50図　SD 03出土遺物実測図(4)……40
第51図　SD 03出土遺物実測図(5)……41
第52図　SD 03出土遺物実測図(6)……42
第53図　SE 01平・断面図……43
第54図　SE 02平・断面図……43
第55図　SE 02出土遺物実測図……44
第56図　SE 03平・断面図……44
第57図　SE 03出土遺物実測図……44
第58図　SE 04平面図……45
第59図　SE 05平・断面図……45
第60図　SE 05出土遺物実測図(1)……46
第61図　SE 05出土遺物実測図(2)……46
第62図　SE 06・SX 12平・断面図……47
第63図　SE 06出土遺物実測図(1)……48
第64図　SE 06出土遺物実測図(2)……49
第65図　SK 03平・断面図……49
第66図　SK 04出土遺物実測図……49
第67図　SK 05・SK 06平・断面図……50
第68図　SK 07平・断面図……50
第69図　SK 08平・断面図……50
第70図　SK 08出土遺物実測図……50

第 71 図　SK 09平・断面図 ……51
第 72 図　SK 10平・断面図 ……51
第 73 図　SK 12出土遺物実測図 ……51
第 74 図　SK 13平・断面図 ……52
第 75 図　SK 14平・断面図 ……52
第 76 図　SX 11平・断面図 ……52
第 77 図　SX 11出土遺物実測図 ……53
第 78 図　SX 12出土遺物実測図 ……54
第 79 図　SX 13平・断面図 ……55
第 80 図　SX 13出土遺物実測図 ……56
第 81 図　SX 14平・断面図 ……57
第 82 図　SX 14出土遺物実測図 ……58
第 83 図　SX 15出土遺物実測図(1) ……58
第 84 図　SX 15出土遺物実測図(2) ……59
第 85 図　SX 15出土遺物実測図(3) ……60
第 86 図　SX 15出土遺物実測図(4) ……61
第 87 図　SX 15出土遺物実測図(5) ……62
第 88 図　SX 15出土遺物実測図(6) ……63
第 89 図　SX 15出土遺物実測図(7) ……64
第 90 図　SX 15出土遺物実測図(8) ……65
第 91 図　SX 15出土遺物実測図(9) ……66
第 92 図　SX 15出土遺物実測図(10) ……67
第 93 図　SX 15出土遺物実測図(11) ……68
第 94 図　SX 15出土遺物実測図(12) ……69
第 95 図　SX 15出土遺物実測図(13) ……70
第 96 図　SX 15出土遺物実測図(14) ……71
第 97 図　SX 15出土遺物実測図(15) ……72
第 98 図　SX 15出土遺物実測図(16) ……73
第 99 図　SX 15出土遺物実測図(17) ……74
第100図　SX 15出土遺物実測図(18) ……75
第101図　SX 16出土遺物実測図(1) ……77
第102図　SX 16出土遺物実測図(2) ……78
第103図　第 4 遺構面上層出土遺物実測図(1)……80
第104図　第 4 遺構面上層出土遺物実測図(2)……81
第105図　第 4 遺構面上層出土遺物実測図(3)……82
第106図　第 4 遺構面上層出土遺物実測図(4)……83
第107図　第 4 遺構面上層出土遺物実測図(5)……84
第108図　第 4 遺構面上層出土遺物実測図(6)……85
第109図　第 4 遺構面上層出土遺物実測図(7)……86
第110図　第 4 遺構面上層出土遺物実測図(8)……87
第111図　第 4 遺構面上層出土遺物実測図(9)……88
第112図　第 4 遺構面上層出土遺物実測図(10)……89
第113図　第 4 遺構面上層出土遺物実測図(11)……90
第114図　第 4 遺構面上層出土遺物実測図(12)……91
第115図　第 4 遺構面上層出土遺物実測図(13)……92
第116図　第 4 遺構面上層出土遺物実測図(14)……93
第117図　SP 01出土遺物実測図 ……94
第118図　SP 02出土遺物実測図 ……94
第119図　SP 03出土遺物実測図 ……95
第120図　SK 15平・断面図 ……95
第121図　SK 15出土遺物実測図 ……95
第122図　SK 16平・断面図 ……96
第123図　SK 17平・断面図 ……96
第124図　SK 18平・断面図 ……96
第125図　SK 18出土遺物実測図 ……97
第126図　SK 19出土遺物実測図 ……97
第127図　SX 17平・断面図 ……98
第128図　SX 17出土遺物実測図(1) ……99
第129図　SX 17出土遺物実測図(2) ……100
第130図　SX 18平・断面図 ……100
第131図　SX 18出土遺物実測図(1) ……101
第132図　SX 18出土遺物実測図(2) ……102
第133図　SX 18出土遺物実測図(3) ……103
第134図　SX 19出土遺物実測図 ……103
第135図　SX 20遺物出土状況図 ……104
第136図　SX 20出土遺物実測図(1) ……105
第137図　SX 20出土遺物実測図(2) ……106
第138図　石垣内裏込土中出土遺物実測図(1) …107
第139図　石垣内裏込土中出土遺物実測図(2) …108
第140図　第 3 遺構面上層出土遺物実測図(1) …109
第141図　第 3 遺構面上層出土遺物実測図(2) …110
第142図　第 3 遺構面上層出土遺物実測図(3) …111
第143図　第 3 遺構面上層出土遺物実測図(4) …112
第144図　第 3 遺構面上層出土遺物実測図(5) …113
第145図　SD 04出土遺物実測図 ……114
第146図　SD 05断面図 ……114

第147図　SD 06断面図 ……114
第148図　SD 06出土遺物実測図 ……115
第149図　SD 07断面図 ……115
第150図　SD 07出土遺物実測図 ……115
第151図　SE 07平・断面図 ……116
第152図　SE 07出土遺物実測図 ……116
第153図　SE 08平・断面図 ……116
第154図　SE 08出土遺物実測図 ……117
第155図　SE 09平面図 ……117
第156図　SE 09出土遺物実測図 ……117
第157図　SP 04出土遺物実測図 ……118
第158図　SK 20平・断面図 ……118
第159図　SK 21平・断面図 ……118
第160図　SK 22平・断面図 ……118
第161図　SK 23平・断面図 ……119
第162図　SK 23出土遺物実測図 ……120
第163図　SK 24平・断面図 ……119
第164図　SK 24出土遺物実測図(1) ……121
第165図　SK 24出土遺物実測図(2) ……122
第166図　SK 25平・断面図 ……122
第167図　SK 25出土遺物実測図 ……122
第168図　SK 26平・断面図 ……123
第169図　SK 27出土遺物実測図 ……123
第170図　SK 28出土遺物実測図(1) ……124
第171図　SK 28出土遺物実測図(2) ……125
第172図　SK 29出土遺物実測図 ……126
第173図　SK 30平・断面図 ……127
第174図　SK 31平・断面図 ……127
第175図　SK 31出土遺物実測図(1) ……128
第176図　SK 31出土遺物実測図(2) ……129
第177図　SK 31出土遺物実測図(3) ……130
第178図　SK 31出土遺物実測図(4) ……131
第179図　SK 31出土遺物実測図(5) ……132
第180図　SK 32出土遺物実測図 ……133
第181図　SX 21出土遺物実測図 ……134
第182図　SX 22平面図 ……135
第183図　SX 24出土遺物実測図(1) ……135
第184図　SX 24出土遺物実測図(2) ……136
第185図　SX 24出土遺物実測図(3) ……137
第186図　SX 24出土遺物実測図(4) ……138
第187図　SX 24平・断面図 ……138
第188図　SX 24出土遺物実測図(5) ……139
第189図　SX 24出土遺物実測図(6) ……140
第190図　SX 24出土遺物実測図(7) ……141
第191図　SX 24出土遺物実測図(8) ……142
第192図　SX 24出土遺物実測図(9) ……143
第193図　SX 24出土遺物実測図(10) ……144
第194図　SX 24出土遺物実測図(11) ……145
第195図　SX 24出土遺物実測図(12) ……146
第196図　SX 24出土遺物実測図(13) ……147
第197図　SX 25平・断面図 ……148
第198図　SX 25出土遺物実測図 ……148
第199図　SX 26平面図 ……148
第200図　SX 26出土遺物実測図 ……149
第201図　SX 27平・断面図 ……150
第202図　SX 27出土遺物実測図(1) ……151
第203図　SX 27出土遺物実測図(2) ……152
第204図　SX 27出土遺物実測図(3) ……153
第205図　SX 27出土遺物実測図(4) ……154
第206図　SX 27出土遺物実測図(5) ……155
第207図　SX 27出土遺物実測図(6) ……156
第208図　SX 27出土遺物実測図(7) ……157
第209図　SX 27出土遺物実測図(8) ……158
第210図　SX 27出土遺物実測図(9) ……159
第211図　SX 28平・断面図 ……160
第212図　SX 28出土遺物実測図(1) ……160
第213図　SX 28出土遺物実測図(2) ……161
第214図　SX 28出土遺物実測図(3) ……162
第215図　SX 28出土遺物実測図(4) ……163
第216図　SX 28出土遺物実測図(5) ……164
第217図　SX 28出土遺物実測図(6) ……165
第218図　SX 28出土遺物実測図(7) ……166
第219図　SX 28出土遺物実測図(8) ……167
第220図　SX 28出土遺物実測図(9) ……168
第221図　SX 28出土遺物実測図(10) ……169
第222図　SX 28出土遺物実測図(11) ……170

第223図　SX 28出土遺物実測図(12) ……171
第224図　SX 28出土遺物実測図(13) ……172
第225図　SX 28出土遺物実測図(14) ……173
第226図　SX 28出土遺物実測図(15) ……174
第227図　SX 28出土遺物実測図(16) ……175
第228図　SX 28出土遺物実測図(17) ……176
第229図　SX 28出土遺物実測図(18) ……177
第230図　SX 28出土遺物実測図(19) ……178
第231図　SX 28出土遺物実測図(20) ……179
第232図　SX 29平・断面図 ……180
第233図　SX 29出土遺物実測図(1) ……181
第234図　SX 29出土遺物実測図(2) ……182
第235図　SX 29出土遺物実測図(3) ……183
第236図　SX 29出土遺物実測図(4) ……184
第237図　SX 29出土遺物実測図(5) ……185
第238図　SX 29出土遺物実測図(6) ……186
第239図　SX 29出土遺物実測図(7) ……187
第240図　SX 29出土遺物実測図(8) ……188
第241図　SX 29出土遺物実測図(9) ……189
第242図　SX 29出土遺物実測図(10) ……190
第243図　SX 29出土遺物実測図(11) ……191
第244図　SX 29出土遺物実測図(12) ……192
第245図　SX 29出土遺物実測図(13) ……193
第246図　SX 29出土遺物実測図(14) ……194
第247図　SX 29出土遺物実測図(15) ……195
第248図　SX 29出土遺物実測図(16) ……196
第249図　SX 29出土遺物実測図(17) ……197
第250図　SX 29出土遺物実測図(18) ……198
第251図　SX 29出土遺物実測図(19) ……199
第252図　SX 29出土遺物実測図(20) ……200
第253図　SX 29出土遺物実測図(21) ……201
第254図　SX 29出土遺物実測図(22) ……202
第255図　SX 29出土遺物実測図(23) ……203
第256図　SX 29出土遺物実測図(24) ……204
第257図　SX 29出土遺物実測図(25) ……205
第258図　SX 29出土遺物実測図(26) ……206
第259図　SX 30平面図 ……207
第260図　SX 31平・断面図 ……207
第261図　SX 31出土遺物実測図(1) ……208
第262図　SX 31出土遺物実測図(2) ……209
第263図　SX 31出土遺物実測図(3) ……210
第264図　SX 32出土遺物実測図 ……211
第265図　第 2 遺構面上層出土遺物実測図(1) …212
第266図　第 2 遺構面上層出土遺物実測図(2) …213
第267図　第 2 遺構面上層出土遺物実測図(3) …214
第268図　第 2 遺構面上層出土遺物実測図(4) …215
第269図　第 2 遺構面上層出土遺物実測図(5) …216
第270図　第 2 遺構面上層出土遺物実測図(6) …217
第271図　第 2 遺構面上層出土遺物実測図(7) …218
第272図　第 2 遺構面上層出土遺物実測図(8) …219
第273図　SA 04平・断面図 ……220
第274図　SA 04出土遺物実測図 ……221
第275図　SD 08平・断面図 ……222
第276図　SD 08出土遺物実測図(1) ……223
第277図　SD 08出土遺物実測図(2) ……223
第278図　SD 09出土遺物実測図(1) ……224
第279図　SD 09出土遺物実測図(2) ……225
第280図　SD 09出土遺物実測図(3) ……226
第281図　SD 09出土遺物実測図(4) ……227
第282図　SD 09出土遺物実測図(5) ……228
第283図　SK 33出土遺物実測図 ……224
第284図　SK 39出土遺物実測図 ……224
第285図　SK 43出土遺物実測図 ……229
第286図　SK 44出土遺物実測図 ……229
第287図　SK 45出土遺物実測図 ……229
第288図　SK 46出土遺物実測図 ……229
第289図　SK 50出土遺物実測図 ……230
第290図　SK 51出土遺物実測図 ……230
第291図　SK 52出土遺物実測図 ……231
第292図　SK 53出土遺物実測図 ……232
第293図　SK 54出土遺物実測図 ……232
第294図　SK 55出土遺物実測図 ……232
第295図　SK 58出土遺物実測図 ……233
第296図　SK 59出土遺物実測図 ……234
第297図　SK 60出土遺物実測図(1) ……235
第298図　SK 60出土遺物実測図(2) ……236

第299図　SK 62出土遺物実測図 ……235
第300図　SK 63出土遺物実測図 ……237
第301図　SK 64出土遺物実測図 ……237
第302図　SK 66出土遺物実測図 ……238
第303図　SK 67出土遺物実測図 ……238
第304図　SK 68出土遺物実測図 ……239
第305図　SK 70出土遺物実測図 ……239
第306図　堀埋土中出土遺物実測図(1) ……240
第307図　堀埋土中出土遺物実測図(2) ……241
第308図　SK 94出土遺物実測図 ……242
第309図　第１遺構面上層出土遺物実測図(1) …243
第310図　第１遺構面上層出土遺物実測図(2) …244
第311図　その他の出土遺物実測図(1) ……245
第312図　その他の出土遺物実測図(2) ……246
第313図　その他の出土遺物実測図(3) ……247

図 版 目 次

図版１ (1) 調査前風景
(2) 調査風景（機械掘削）
図版２ (1) 南壁土層断面（北より）
(2) 南壁土層断面（北より）
図版３ (1) 西壁土層断面（東より）
(2) 西壁土層断面（東より）
図版４ (1) 西壁土層断面（東より）
(2) 北壁土層断面（東より）
図版５ (1) 北壁土層断面（南より）
(2) 北壁土層断面（南より）
図版６ (1) 北壁土層断面（南より）
(2) 第４遺構面全景
図版７ (1) 第４遺構面全景（北より）
(2) 第４遺構面全景
図版８ (1) 第４遺構面全景（北より）
(2) 第４遺構面全景（東より）
図版９ (1) 第４遺構面全景（西より）
(2) 石垣内第４遺構面全景（南より）
図版10 (1) 石垣内第４遺構面北半部（北より）
(2) 石垣内第４遺構面全景（北より）
図版11 (1) 第４遺構面石臼出土状況（北より）
(2) SK 01土層断面（西より）
図版12 (1) SK 01（南より）
(2) SK 02土層断面（東より）
図版13 (1) SK 02（東より）
(2) ST 01（南より）
図版14 (1) ST 02（北より）
(2) SX 04検出状況（南より）
図版15 (1) SX 04（南より）
(2) SX 05遺物出土状況（北西より）
図版16 (1) SX 05土層断面（西より）
(2) SX 05（南より）
図版17 (1) SX 06・SX 07（北より）
(2) SX 07土層断面（南より）
図版18 (1) SX 07（南より）
(2) SX 07（南より）
図版19 (1) SX 08（西より）
(2) SA 01（北より）
図版20 (1) SA 01・SA 02・SD 01（南より）
(2) SA 01・SA 02・SD 01（南より）
図版21 (1) SA 01・SA 02・SD 01（北より）
(2) SB 01（北より）
図版22 (1) SB 02（北より）
(2) SD 01土層断面（東より）
図版23 (1) SD 02（北より）
(2) SD 03（南より）
図版24 (1) SD 03石臼出土状況（西より）
(2) SE 01検出状況（北より）
図版25 (1) SE 01土層断面（西より）
(2) SE 01（西より）
図版26 (1) SE 01（西より）
(2) SE 02（北より）
図版27 (1) 礎石列とSE 03（北より）
(2) SE 03（北より）
図版28 (1) SE 05 土層断面（南より）
(2) SE 05 組物検出状況（西より）
図版29 (1) SE 05 組物検出状況
(2) SE 06・SX 12（北より）
図版30 (1) SE 06断割状況（北より）
(2) SE 06曲物検出状況
図版31 (1) SK 03遺物出土状況（北より）
(2) SK 03土層断面（南より）
図版32 (1) SK 03（南より）
(2) SX 11土層断面（南より）
図版33 (1) SX 13（北西より）
(2) SX 13（北より）
図版34 (1) 第３遺構面北半部全景
(2) 第３遺構面南半部全景
図版35 (1) 第３遺構面全景（北より）
(2) 第３遺構面礎石列（南より）

図版36 (1) 第3遺構面礎石列検出状況（西より）
(2) 石垣内第3遺構面全景（南より）
図版37 (1) 石垣内第3遺構面（東より）
(2) 第3遺構面五輪塔出土状況
図版38 (1) SX 17完掘状況（南より）
(2) SX 18（南より）
図版39 (1) SX 18遺物出土状況（西より）
(2) SX 18土層断面（南より）
図版40 (1) SX 20遺物出土状況
(2) SX 20遺物出土状況（北より）
図版41 (1) 第2遺構面全景（南より）
(2) 第2遺構面軒丸瓦出土状況（西より）
図版42 (1) 第2遺構面軒丸瓦出土状況（西より）
(2) SD 06（北より）
図版43 (1) SE 07・SX 21（南より）
(2) SE 07検出状況（西より）
図版44 (1) SE 07土層断面（南より）
(2) SE 07断割状況（南西より）
図版45 (1) SE 08検出状況（南より）
(2) SE 08土層断面（南より）
図版46 (1) SE 08断割状況（南より）
(2) SE 08断割状況細部（南より）
図版47 (1) SE 09検出状況（北より）
(2) SX 24検出状況（南より）
図版48 (1) SX 24土層断面（南より）
(2) SX 24・SX 17土層断面（南より）
図版49 (1) SX 24完掘状況（南より）
(2) SX 26（南より）
図版50 (1) SX 28土層断面（北より）
(2) SX 28（西より）
図版51 (1) SX 28（北より）
(2) SX 29土層断面（北より）
図版52 (1) SX 29（北より）
(2) SX 29（北より）
図版53 (1) SX 30（北より）
(2) SX 30（北より）
図版54 (1) SX 31（北より）
(2) 第1遺構面全景
図版55 (1) 第1遺構面全景
(2) 第1遺構面全景（東より）
図版56 (1) 第1遺構面全景（北より）
(2) 第1遺構面全景（西より）
図版57 (1) 第1遺構面全景（東より）
(2) 第1遺構面全景
図版58 (1) 石垣・第1遺構面全景（東より）
(2) 第1遺構面礎石列検出状況（南より）
図版59 (1) 第1遺構面全景（東より）
(2) SA 03全景（東より）
図版60 (1) SA 04（東より）
(2) SD 08全景（南より）
図版61 (1) SD 08水溜部分（南より）
(2) SD 08蓋石除去後（南より）
図版62 (1) SD 09土層断面（南より）
(2) SK 72及び南壁土層断面（北より）
図版63 (1) 北端部石垣検出状況（東より）
(2) 北端部石垣検出状況（東より）
図版64 (1) 石垣全景（南東より）
(2) 石垣全景（北東より）
図版65 (1) 石垣・堀全景（南より）
(2) 堀中桟橋跡検出状況（南より）
図版66 (1) 石垣北端部全景（東より）
(2) 石垣北半部全景（東より）
図版67 (1) 石垣中央部全景（東より）
(2) 石垣南半部全景（東より）
図版68 (1) 石垣検出作業風景（東より）
(2) 石垣検出作業（南より）
図版69 (1) 石垣細部写真(北端より5m,東より)
(2) 石垣細部写真(北端より10m,東より)
図版70 (1) 石垣細部写真(北端より15m,東より)
(2) 石垣細部写真(北端より20m,東より)
図版71 (1) 石垣細部写真(北端より25m,東より)
(2) 石垣細部写真(北端より30m,東より)
図版72 (1) 石垣細部写真(北端より35m,東より)
(2) 石垣細部写真(北端より40m,東より)
図版73 (1) 石垣細部写真(北端より45m,東より)
(2) 石垣細部写真(北端より50m,東より)

図版74 (1) 石垣細部写真(北端より55m,東より)
(2) 石垣細部写真(北端より60m,東より)
図版75 (1) 石垣細部写真(北端より65m,東より)
(2) 石垣解体状況（南より）
図版76 (1) 石垣土層断面（南より）
(2) 石垣土層断面（南より）
図版77 (1) 石垣構築時の法線杭（南より）
(2) 石垣の現状保存部分（南より）
図版78 (1) 石垣の現状保存部分（北より）
(2) 石垣根石検出状況（東より）
図版79 (1) 石垣根石列検出状況（南東より）
(2) 石垣内調査風景（北より）
図版80 (1) 石垣内調査風景（南より）
(2) 石垣解体作業
図版81 (1) 海砂による石垣の埋め戻し状況
(2) 埋め戻し終了後の石垣（南より）
図版82 (1) 解体石材仮置状況
(2) 木製樋管出土状況
図版83 (1) 木製樋管全景（北より）
(2) 木製樋管出土状況（東より）
図版84 (1) 木製樋管検出状況（北より）
(2) 木製樋管分岐枡形
図版85 (1) 木製樋管分岐部分
(2) 木製樋管継手部分墨書
図版86 (1) 鋼矢板引抜作業
(2) 埋め戻し終了後全景（南より）
図版87 (1) SK 02出土遺物
(2) SX 01出土遺物
(3) SX 02出土遺物
図版88 (1) SX 04出土遺物
(2) SX 05出土遺物
(3) SX 08出土遺物①
図版89 (1) SX 08出土遺物②
(2) SA 02出土遺物
図版90 (1) SD 01出土遺物
(2) SD 03出土遺物①
図版91 SD 03出土遺物②
図版92 (1) SD 03出土遺物③
(2) SE 05出土遺物①
図版93 (1) SE 05出土遺物②
(2) SE 06出土遺物
図版94 (1) SX 02出土遺物
(2) SX 08出土遺物
(3) SA 01出土遺物
(4) SA 02出土遺物
図版95 SD 01出土遺物
図版96 (1) SE 03出土遺物
(2) SE 05出土遺物
(3) SE 06出土遺物
図版97 (1) SX 11出土遺物
(2) SX 12出土遺物
図版98 (1) SX 13出土遺物
(2) SX 14出土遺物
図版99 SX 15出土遺物①
図版100 SX 15出土遺物②
図版101 SX 15出土遺物③
図版102 SX 15出土遺物④
図版103 SX 16出土遺物
図版104 (1) SK 12出土遺物
(2) SX 13出土遺物①
図版105 (1) SX 13出土遺物②
(2) SX 14出土遺物
(3) SX 15出土遺物
図版106 第4遺構面上層出土遺物①
図版107 第4遺構面上層出土遺物②
図版108 第4遺構面上層出土遺物③
図版109 第4遺構面上層出土遺物①
図版110 第4遺構面上層出土遺物②
図版111 第4遺構面上層出土遺物③
図版112 (1) SP 03出土遺物
(2) SK 15出土遺物
(3) SX 17出土遺物
(4) SX 18出土遺物①
図版113 SX 18出土遺物②
図版114 SX 20出土遺物
図版115 (1) 石垣内裏込土中出土遺物

(2) 第3遺構面上層出土遺物①
図版116 第3遺構面上層出土遺物②
図版117 第3遺構面上層出土遺物③
図版118 (1) SP 03出土遺物
(2) SK 15出土遺物
(3) SK 18出土遺物
(4) SX 18出土遺物
(5) SX 20出土遺物
(6) 石垣内裏込土中出土遺物
(7) 第3遺構面上層出土遺物
図版119 (1) SE 07出土遺物
(2) SE 08出土遺物
(3) SK 23出土遺物
(4) SK 24出土遺物①
図版120 (1) SK 24出土遺物②
(2) SK 27出土遺物
(3) SK 28出土遺物
図版121 SK 31出土遺物
図版122 (1) SE 08出土遺物
(2) SK 24出土遺物
(3) SK 28出土遺物
(4) SK 31出土遺物
図版123 (1) SK 32出土遺物
(2) SX 21出土遺物
(3) SX 24出土遺物①
図版124 SX 24出土遺物②
図版125 SX 24出土遺物③
図版126 (1) SX 25出土遺物
(2) SX 26出土遺物
(3) SX 27出土遺物①
図版127 SX 27出土遺物②
図版128 SX 28出土遺物①
図版129 SX 28出土遺物②
図版130 SX 28出土遺物③
図版131 SX 28出土遺物④
図版132 (1) SX 28出土遺物⑤
(2) SX 29出土遺物①
図版133 SX 29出土遺物②
図版134 SX 29出土遺物③
図版135 SX 29出土遺物④
図版136 SX 29出土遺物⑤
図版137 SX 29出土遺物⑥
図版138 SX 31出土遺物①
図版139 (1) SX 31出土遺物②
(2) 第2遺構面上層出土遺物①
図版140 第2遺構面上層出土遺物②
図版141 第2遺構面上層出土遺物③
図版142 (1) SX 24出土遺物
(2) SX 27出土遺物
(3) SX 29出土遺物
図版143 (1) SD 04出土遺物
(2) SD 06出土遺物
(3) SX 31出土遺物
(4) 第2遺構面上層出土遺物①
図版144 第2遺構面上層出土遺物②
図版145 (1) SA 04出土遺物
(2) SD 09出土遺物
(3) SK 39出土遺物
(4) SK 43出土遺物
(5) SK 44出土遺物
図版146 (1) SK 50出土遺物
(2) SK 51出土遺物
(3) SK 55出土遺物
(4) SK 58出土遺物
(5) その他の墨書土器
図版147 (1) SK 59出土遺物
(2) SK 60出土遺物
図版148 堀埋土中出土遺物
図版149 (1) 第1遺構面上層出土遺物
(2) SK 72出土遺物①
図版150 (1) SK 72出土遺物②
(2) その他の出土遺物
図版151 (1) SK 52出土遺物
(2) SK 64出土遺物
(3) 堀埋土中出土遺物
図版152 (1) 第1遺構面上層出土遺物

(2)　その他の出土遺物

表　目　次

表１　整理作業工程表 …… 2
表２　土器・石器観察表……259
表３　軒丸瓦観察表……294
表４　軒平瓦観察表……302
表５　丸瓦観察表……307
表６　平瓦観察表……315
表７　小菊瓦観察表……318
表８　滴水瓦観察表……318
表９　軒桟瓦観察表……318
表10　掛瓦観察表……318
表11　垂木瓦観察表……319
表12　鬼瓦観察表……319
表13　鳥衾観察表……319
表14　陶器製丸瓦観察表……319
表15　陶器製鬼瓦観察表……320
表16　陶器製鳥衾観察表……320
表17　鯱観察表……320
表18　不明瓦観察表……320
表19　銭観察表……321
表20　金属器観察表……322
表21　木器観察表……323

付　図　目　次

付図１　第Ⅰ・Ⅱ期遺構配置図
付図２　第Ⅲ期遺構配置図
付図３　第Ⅳ期遺構配置図
付図４　第Ⅴ期以降遺構配置図
付図５　東ノ丸東側石垣立面図（東面）
付図６　東ノ丸東側石垣立面図（西面）

第１章　調査に至る経緯と経過

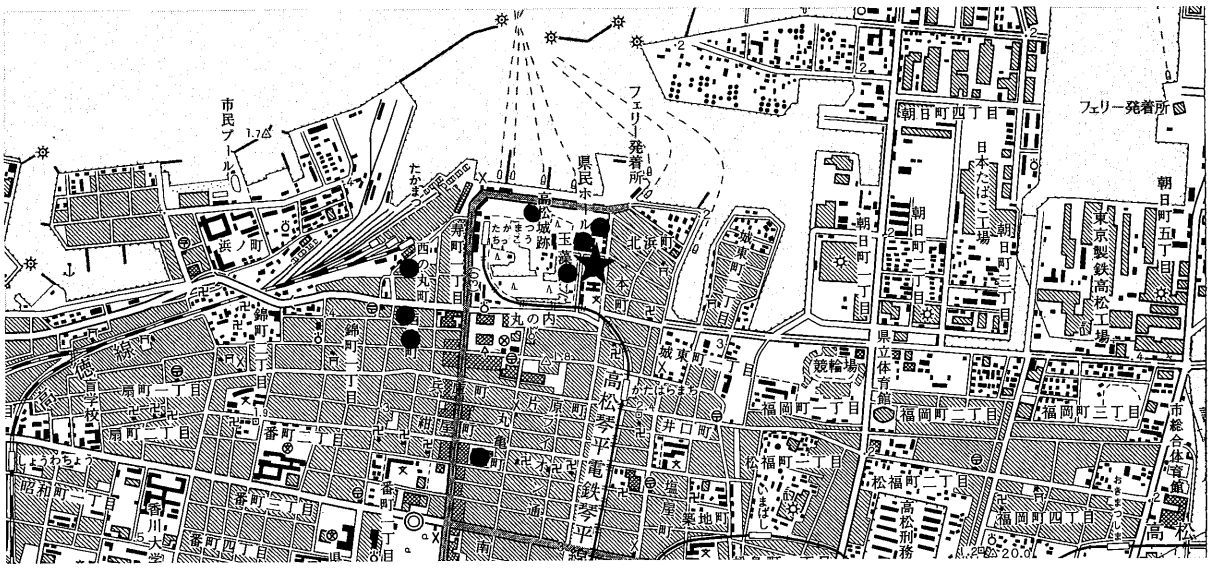
第１節　調査に至る経緯

香川県教育委員会では平成４年度より香川県歴史博物館の建設に向けて準備を開始した。香川県は交通の利便性の高い場所でしかも歴史的環境に恵まれた場所である県民ホール南側の約5,000m²の土地を香川県歴史博物館の用地として取得した。

この土地は江戸時代から現在に伝わる絵図により旧高松城東の丸の南半部にあたる場所と推定され，昭和60年度の北側に隣接する県民ホールの建設に先立つ発掘調査においても東の丸の北半部であろう遺構を検出している。そこで県教育委員会では平成５年度に試掘調査を実施した。試掘調査において礎石と考えられる石や県民ホール東側の石垣（史跡指定）の延長と考えられる石垣を検出したため，県教育委員会文化行政課と歴史博物館建設準備室とで協議をした結果，旧高松城東の丸にあたる部分は記録保存を前提とした発掘調査を実施し，石垣部分は発掘調査をした上で一度解体し，その後建設工事と平行して復元し，露出展示として来館者の利用に供することとなった。

財団法人香川県埋蔵文化財調査センターでは県教育委員会からの委託を受け，平成６年度から歴史博物館建設用地の発掘調査を実施することとした。平成６年度は用地全体の予備調査と一部本調査を実施した。予備調査の結果，旧高松城東の丸にあたる部分には少なくとも４時期の遺構面の所在が確認され，石垣部分では石垣が少なくとも４ｍ以上残存していることが明らかとなった。本調査を実施した個所は用地の北側の約1,000m²であり，最上面の遺構面の本調査のみ実施した。

平成７年度には前年度の調査結果を受けて，残りの本調査を県教育委員会から委託を受け，実施した。調査面積は5,000m²であるが，複数の遺構面が所在したため，実質的な調査面積は約18,000m²である。 調査は，掘削深度が深いこと，石垣および堀の掘削は海水面より低い部分の調査になるために鋼矢板を打設しなければならないことなどから工事請負方式を採用した。工事は（株）淺沼組に委託した。発掘調査は平成７年４月26日に開始し，準備工を経て５月より本格的に調査を進め，平成８年３月29日をもって終了した。



第１図　遺跡位置図（１／25,000）

第２節　調査の経過

１．発掘調査

発掘調査は，排土置場等の関係上，一度に全域を対象として行えなかったため，調査対象地をいくつかのブロックに分けてできるだけ効率よく調査ができるように調査区を設定した（第２図参照)。すなわち，Ⅰ～Ⅳ区は旧高松城東の丸に相当する部分であり，Ⅴ・Ⅵ区は東の丸東側の堀にあたる部分である。石垣部分は特にⅠ～Ⅳ－②区として区別した。

Ⅰ～Ⅳ区においては通常の発掘調査と同様の方法で調査を進めたが，堀の部分であるⅤ・Ⅵ区においては掘削する前に14mの鋼矢板を石垣を囲むように「コ」の字に打設して海水の侵入を防いだ。石垣は全面露出したあと，水洗し，様々な記録を執った後に後日復元できるように１石ごとに番号を付して，解体した。当初は検出した石垣すべてを解体する予定であったが，北側の史跡石垣の延長にあたるため，文化庁より一部分でも現状保存を図るべきであるとの指導を受け，根石およびその１列上の比較的築造当初の様相を示す部分については解体せずに，海砂で埋め戻した。なお，解体した石材は高松市朝日新町の県有地に仮置きされ，平成10年，復元工事が実施された。

２．整理作業

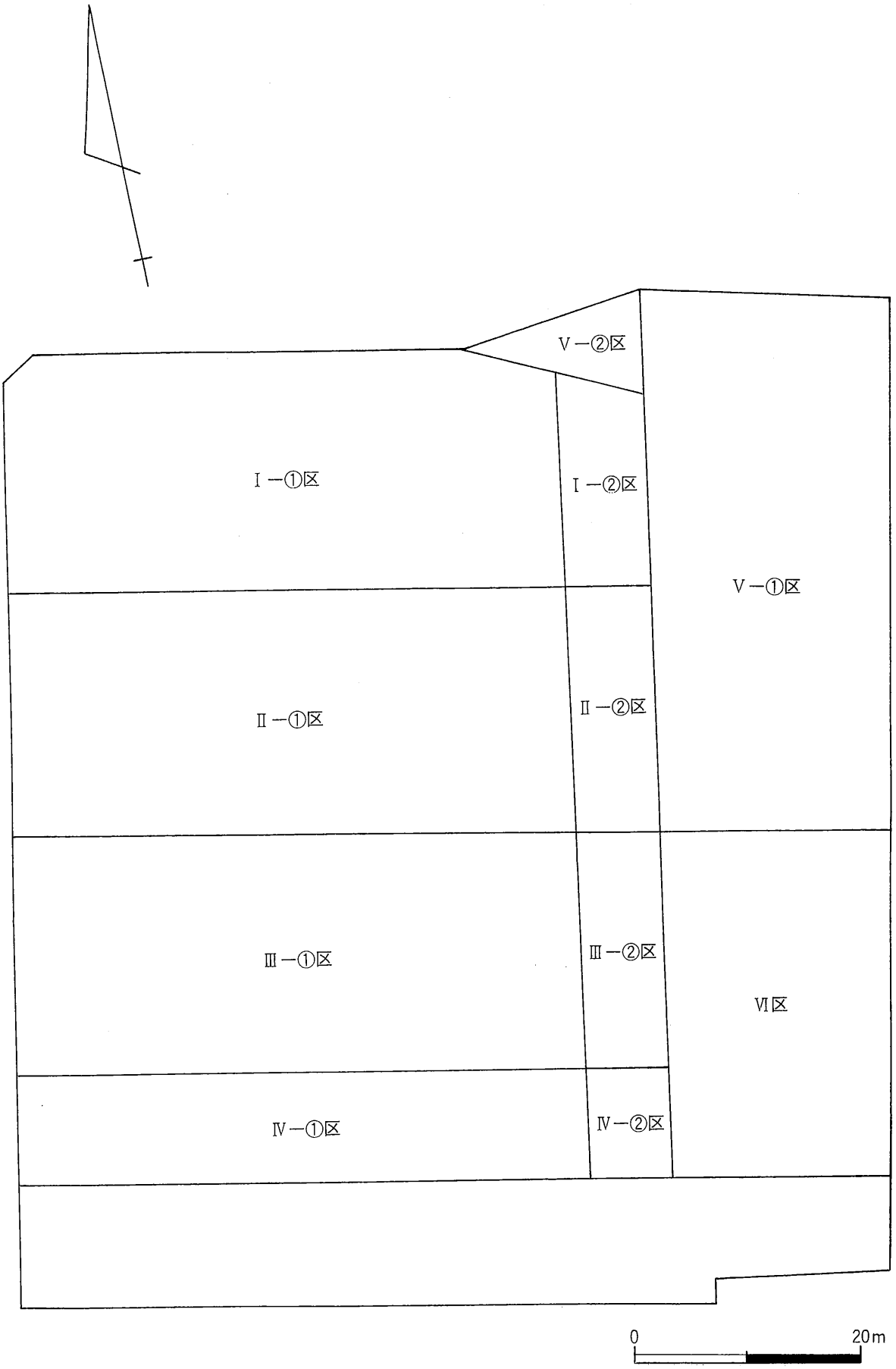
整理作業は平成10年度に実施した。出土した遺物の総数は28リットル入りコンテナに換算して約1,500箱で大部分は瓦であり，その他は陶磁器と若干の金属器，木器である。

整理作業は香川県埋蔵文化財センターで実施し，平成10年４月１日に開始し，平成11年３月31日をもって終了した。

整理作業は以下の工程で実施した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
注記・接合	―	―	―									
実　測			―	―	―	―	―	―	―			
復元・写真			―	―				―	―	―	―	
遺構レイアウト							―	―	―			
遺構トレース										―	―	
遺物レイアウト								―	―	―		
遺物トレース										―	―	
編　集											―	―
遺物収納												―
台帳作成	―	―							―			―

表Ⅰ　整理作業工程表



第２図　調査区割図

3．調査体制

発掘調査および整理作業に関わる調査体制は以下のとおりである。

試掘調査

・平成５年度

香川県教育委員会事務局文化行政課

総務	課長	中村　仁
	主幹	菅原良弘
	主幹	小原克己
	係長	源田和幸
	主任主事	櫻木新士
	主事	石川恵美子（～５．31）
	主事	藤原和子　（６．１～）
埋蔵文化財	係長	藤好史郎
	主任技師	國木健司
	主任技師	森下英治（試掘調査担当）

発掘調査

・平成６年度

香川県教育委員会事務局文化行政課

総務	課長	高木　尚
	主幹	小原克己
	係長	源田和幸
	主任主事	櫻木新士（～５．31）
	主任主事	星加宏明（６．１～）
	主事	藤原和子（～５．31）
	主事	高倉秀子（６．１～）
埋蔵文化財	係長	藤好史郎
	主任技師	國木健司
	主任技師	森下英治

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総務	所長	松本豊胤
	次長	真鍋隆幸
	係長	土井茂樹（～５．31）
	係長	前田和也（６．１～）
	係長	今田　修
	主査	大西健司
調査	参事	糸目末夫
	文化財専門員	西村尋文
	文化財専門員	中西　昇
	調査技術員	森澤千尋

・平成７年度

香川県教育委員会事務局文化行政課

総務	課長	高木　尚（～10．23）
	課長	藤原章夫（10．24～）

	主　　幹	小原克己
	課長補佐	高木一義
	係　　長	源田和幸（～5．31）
	係　　長	山崎　隆（6．1～）
	主　　査	星加宏明
	主　　事	高倉秀子
埋蔵文化財	副主幹	渡部明夫
	主任技師	森下英治
	技　　師	塩崎誠司

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総　務	所　　長	大森忠彦
	次　　長	真鍋隆幸
	参　　事	別枝義昭
	係　　長	前田和也
	主　　査	大西健司（～5．31）
	主任主事	西川　大（6．1～）
調　査	参　　事	糸目末夫
	係　　長	大山真充
	文化財専門員	西村尋文
	文化財専門員	北山健一郎
	主任技師	山田秀樹
	調査技術員	陶山仁美

整理作業

・平成10年度

香川県教育委員会事務局文化行政課

総　務	課　　長	小原克己
	課長補佐	北原和利
	副主幹	西村隆史
	係　　長	中村禎伸
	主　　査	三宅陽子
	主　　査	松村崇史
埋蔵文化財	副主幹	渡部明夫
	係　　長	西村尋文
	主任技師	塩崎誠司

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総　務	所　　長	菅原良弘
	次　　長	小野善範
	参　　事	別枝義昭
	副主幹	田中秀文
	主　　事	細川信哉
調　査	主任文化財専門員	廣瀬常雄
	文化財専門員	北山健一郎

なお，報告書の作成に携わった職員は以下のとおりである。

整　理　員	岡崎江伊子
整理補助員	合田和子
	吉田育代
整理作業員	鈴木奈穂子
	近藤恭子
	堀口知子
	藤川洋代
	植松朋子

4．高松城跡の発掘調査について

本書に収録した調査は旧東の丸の南半部にあたる部分であるが，高松城跡の本格的な発掘調査は，昭和60年度の県民ホール建設に伴う香川県教育委員会に始まる。

以下に高松城跡の既往の発掘調査についてその概要を簡単に述べる（第３図参照)。

この調査では旧東の丸北半部にあたる部分から米蔵と考えられる建物遺構を検出した。また，東の丸の北側の現存する石垣の内側にこれより以前の石垣（下層石垣）が存在することも判明した。下層石垣は16世紀末に築かれたもので築城時のものと考えて問題ないであろう。ただし，構築方法に技術的なばらつきが見られ，一度にではなく，数度にわたって補修，改修がなされたことも指摘されている。(①)

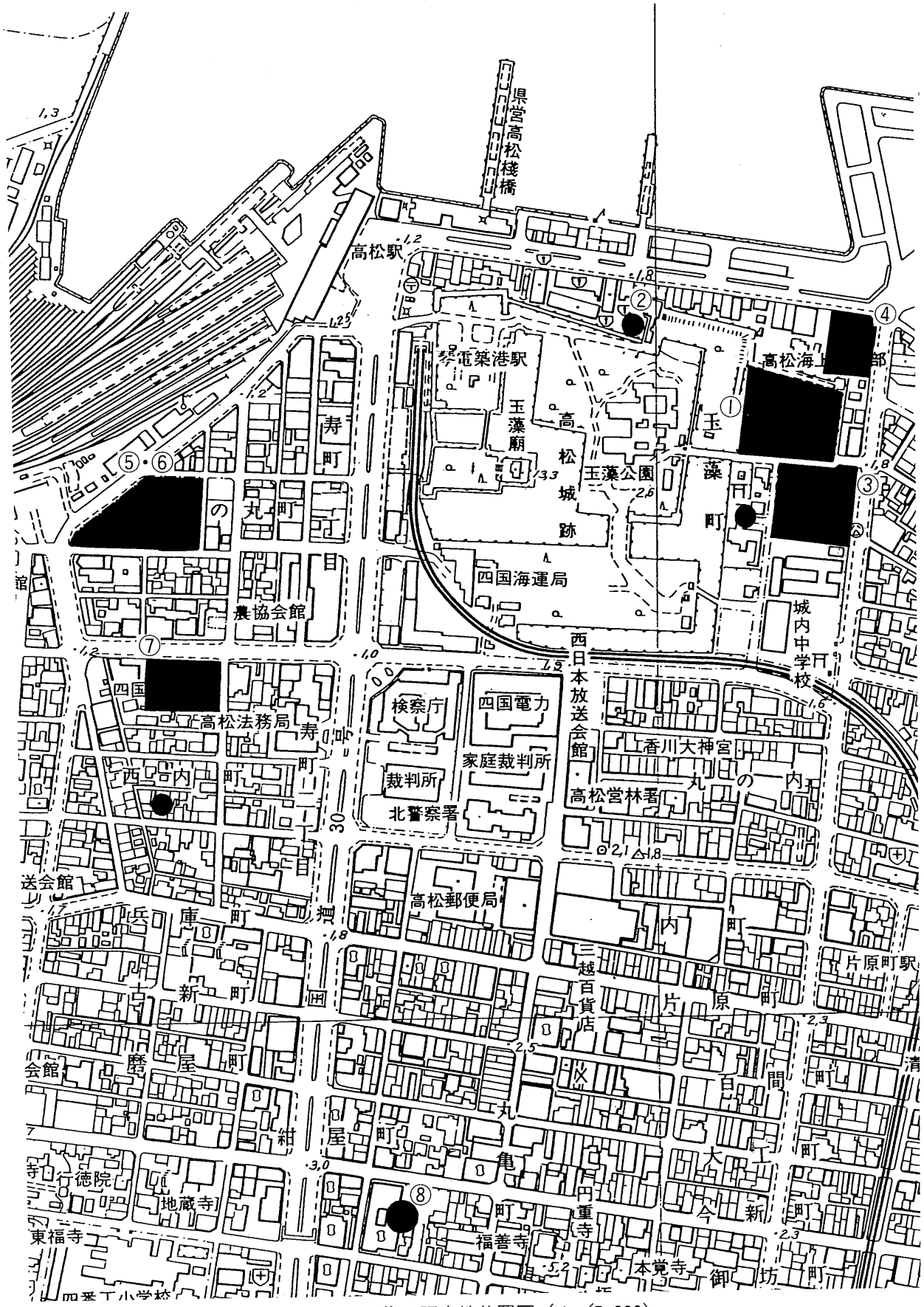
平成２年度には高松市教育委員会による水手御門周辺の発掘調査が実施されている。これは公園緑地課の玉藻公園整備事業に伴うもので水手御門の前面と北側石垣の裾部の調査である。水手御門から海へ通じる階段が検出され，近世の海水面の推定に貴重な資料を提供している。(②)

平成５年度には歴史博物館建設に伴う試掘調査が行われたが，(③)平成６年度には県民ホール小ホール（現アクトホール）建設に伴う調査が香川県教育委員会によって行われている。これは，県民ホール東側に当たる部分で艮櫓の櫓台から海へ延びる突堤を検出している。突堤は艮櫓築造から間もないころに築かれたものと推定されている。 また,「高松城下図屏風」記載の後の艮櫓付近の短い突堤は確認されていない。(④)

平成７年度からは高松港頭土地区画整理事業に伴い，ＪＲ高松駅周辺の調査が実施されている。調査は現在も継続的に実施され，屋敷跡や道路遺構，井戸や便所遺構を検出している。このあたりは旧西の丸にあたる地区で代々家老職にある士族の屋敷が絵図などで読みとれる地域であった。平成７・８年度の調査では高松藩国家老大久保飛驒守の屋敷の推定地において大規模な屋敷跡や道路跡などの遺構を検出し，また，包含層からは大久保家の家紋瓦が出土している。(⑤)平成９年度の調査では小規模な面積ながら近世の石組の井戸を検出している。(⑥)

平成10年度には高松北警察署の移転に伴う発掘調査が実施されている。調査地点は平成７・８年度の調査地の南東部であるが，道路跡や井戸跡などを検出している。(⑦)

また，高松城主要郭部分以外においては，昭和60年度の紺屋町遺跡の調査があげられる。これは高松市立美術館建設に伴う発掘調査で高松市教育委員会が主体となって実施している。調査地は高松市紺屋町に属し，調査の結果，陶磁器類が大量に出土し，江戸時代の町屋遺構が検出されている。(⑧)



第３図　既往の調査地位置図（１／5,000）

5．調査日誌（抄）

平成７年

４月25日　㈱浅沼組と工事請負契約締結。

26日　発掘調査開始。現況調査等実施。

５月１日　現場事務所設置。

16日　航空測量，（株）国際航業に落札。

18日　II－①区から機械掘削開始。

22日　昨年度調査区から続く石組みの溝状遺構（SD 9401）を検出。

23日　石垣上面検出。

６月５日　香川県文化財保護審議委員会視察。幕末頃の遺構と石垣についての説明。

８日　東西に延びる石列を検出。米蔵丸と作事丸との境界か？

16日　第１回航空測量。（II－①区，第１遺構面）

７月上旬　連日の雨で作業ができない。

10日　Ⅰ－①区の石材を大型クレーン車で撤去。

13日　石列下層より鯱片出土。

20日　第２遺構面調査開始。

８月１日　全景写真撮影。（Ⅰ・II－①区，第２遺構面）

８日　第３遺構面調査開始。猛暑続く。

25日　第３回航空測量。（Ⅰ・II－①区，第３遺構面）

26日　矢板設置開始。（長さ14.5m）

29日　SE 9501断割，断面・立面実測。

９月４日　織豊期城郭研究会，現場見学。

28日　第３回航空測量。（Ⅰ・II－①区，第４遺構面）

10月11日　Ⅰ・II－①区第４遺構面下層より木製樋管検出，明治から大正の上水道と考えられる。

24日　雨の中，高松高校体験学習会。約50名の参加。

30日　石垣解体についての協議。

31日　第４回航空測量。（III・IV－①区，第１遺構面）

11月２日　第４回航空測量再撮影。（10月31日撮影分が機材不良のため）

30日　第５回航空測量。（III・IV－①区第２遺構面，石垣立面撮影）

高松市教育委員会文化振興課藤井係長，現場見学。

12月１日　丸亀市教育委員会文化課東主事，現場見学。

23日　現地説明会。（14:00～，約150名の参加）

１月６日　石垣解体準備。

９日　石垣解体始める。解体した石材は仮置き場まで運搬。

10日　北山調査員，奈文研研修。（～25日）

第2章　立地と環境

第1節　地理的環境

高松城跡は，瀬戸内海に北面した香川県の中央やや東側に位置する高松平野の先端に位置する。高松平野は県内の平野のうち最も広大な面積を有し，東西約20km，南北約16kmの範囲に及んでいる。現在の高松市街は，西に石清尾山塊，東に屋島を望み，香東川・御坊川・詰田川・春日川・新川などによって形成され，近世以後高松城の城下町として発展してきた。

ただし，これらの河川および海浜部は近世初頭の大規模な治水・干拓事業によるもので，必ずしも古くからの景観ではない。この大規模な治水・干拓事業は近世初頭の生駒藩家老西嶋八兵衛の主導によるもので最も大規模なものは香東川の治水事業であろう。西嶋八兵衛は旧浅野村（現香川郡香川町浅野）あたりから紫雲山の東裾，つまり栗林公園のあたりに向かって流れていた香東川を北流させ，現在の石清尾山の西側へ付け替えたのである。この治水を記念して立てられた石碑（大禹莫）は今でも香川町浅野に鎮座している。さらに西嶋八兵衛は高松城の東側に広がる「塩焼浜」に目を付け，三の丸東側の町人町，「いほのたな町」「東かこ町」の東側の護岸工事を行い，屋島と高松城との間に広がっていた湾を干拓した。これが現在の屋島東町にあたる部分である。この工事は残念ながら西嶋八兵衛の在任中には完成しなかったが，松平氏の治世になり，ようやく完成することとなる。

高松城を取り巻く地理的環境の人為的改変はおおむね以上のとおりであるが，高松城を築城する際にはこれら以上の努力が払われたことであろう。『南海通記』のうちの『讃州高松府記』によると高松城が築城される以前は香東川の河口の中州にあたり，野原と称され，付近には漁村が点在していたことがうかがえる。香東郡野原は中世の荘園で東・北は海に面し，西南に石清尾山が天然の要害をなし，南方が高松平野に開けた海浜であった。このような立地は，いったん城郭が築かれれば攻防ともに備わった堅城となるが，軟弱な砂地の上の築城や類例の少ない水城の縄張りには特殊な知識と経験が必要だったであろう。

調査対象地は旧高松城東の丸の南半部に相当する部分で生駒親正が高松城を築城したころは侍屋敷と町人町が所在していた。高松藩になってから初代松平頼重が町人町に堀を掘削し，侍屋敷を城内に東の丸として取り込み，以来明治時代になるまで東の丸として米蔵および作事丸として機能し，その後明治から様々な改変が加えられて現在に至っている。

第2節　歴史的環境（第3図参照）

高松城は高松平野の先端に位置し，調査開始時の対象地の標高は約2mであった。したがって，周辺に中世以前の遺跡が所在していた可能性は低い。がしかし，南東方向の石清尾山山麓には積石塚古墳で有名な石清尾山古墳群（国指定史跡）があり，特異な様相を示している。また東方向の屋島山麓にも前方後円墳である長崎鼻古墳をはじめいくつかの前期古墳が集中する。

少し時代が下がると，石清尾山よりさらに南西の勝賀山麓に古墳時代前期の前方後円墳である今岡古墳（県指定史跡）が所在する。今岡古墳の南西部には神高池を中心とする地域に後期古墳が広く分布す

る。中には県内屈指の横穴式石室を持つ古宮古墳（高松市指定史跡）や平木１号墳をはじめとする後期古墳が数十基分布している。

古代から中世にかけては高松城周辺は野原荘と呼ばれる荘園であったとされているが，詳細は不明である。古代末期，都を追われた平家軍は，屋島でいったん軍勢を整え，反撃を試みるが源氏の軍勢の前に敗れ去った。世にいう屋島の合戦である。屋島には７世紀にいわゆる朝鮮式山城が築かれていたと「日本書紀」には見えるが，確実な城郭の遺構は見つかっていない。近年，高松市教育委員会の分布調査によって古代山城の石塁らしき石積みが見つかっているが，確証は得られていない。

古代末から中世にかけては高松城周辺よりも石清尾山西側の現在の香西南町や鬼無町周辺に広く村落が分布していたようである。港頭地区再開発事業に伴い，発掘調査の実施された香西南町・鬼無町の西打遺跡では12世紀代の村落が良好な形で見つかり，当該期の農村社会を考える上で貴重な資料を提供している。その他には西打遺跡の周辺の勝賀山を中心とする地域に中世から戦国期にかけてこのあたりを支配していた香西氏関連の城館跡が分布している。なかでも勝賀山頂上の勝賀城跡（高松市指定史跡）は香西氏の詰城であったとされており，現在も土塁や食い違い虎口などが残っており，典型的な中世山城の形態を今にとどめている。

応仁の乱後のいわゆる戦国時代の嵐は高松平野にもやってくる。当時讃岐は守護細川氏の元で東部を支配していた寒川・安富氏，高松平野南部を支配していた十河氏，高松平野北西部を支配していた香西氏，中・西讃地域を支配していた香川氏などの勢力が均衡していたが，土佐の長宗我部氏の侵攻に耐えることはできなかった。その後，豊臣秀吉の四国征伐により長宗我部氏が滅びると，豊臣秀吉は側近の生駒親正に讃岐国の支配を任せる。生駒親正は天正15年（1587），讃岐の東端部の引田城に入封するが，その後宇多津聖通寺城に入城する。しかし，翌年香東郡野原荘に築城を決意し，高松城を築城する。親正は天正16年(1588)，高松城に入城しているが，城全体が完成していたとは考えにくく，その後数年間をかけて高松城が完成したものと考えられる。なお，親正は合わせて慶長２年（1597）からは丸亀城の普請も行っている。ただし，丸亀城は元和の一国一城令により山崎家治が入府するまで廃城となる。

関ヶ原の合戦では生駒親正は石田三成率いる西軍に，嫡男の一正は徳川家康率いる東軍に与したため，合戦後の沙汰では親正の所領は安堵され，一正が讃岐国17万石余を治めることとなる。その後，生駒家は一正，正俊，高俊と続くが，高俊の代になっていわゆる生駒騒動が起こり，生駒家は改易となってしまう。一説によると，生駒高俊は藩主になったのがわずか11歳で，父正俊の正室の父である伊勢の藤堂高虎の家臣である前野・石崎西嶋八兵衛らが国政を専断していたが，これに反対する生駒家譜代の家臣生駒帯刀らとの対立を生んでしまう。その結果，生駒らが幕府へ直訴するところとなり，寛永17年(1640)，ついに高俊は改易されて出羽国矢島へ転封となる。讃岐はその後寛永19年(1642)，常陸下館から水戸藩主徳川光圀の実兄である松平頼重を迎え，ここに親藩高松藩が成立したのである。頼重は東讃岐12万石を領地とし，西讃岐は山崎家治が入府し，丸亀藩が成立することとなる。山崎氏はその後，嗣子問題で改易となり，播磨龍野から京極高和が丸亀藩主として入府することとなる。

さて，讃岐に入府した松平頼重は入府３年目の正保元年（1644）から高松城の修築に着手した。正保３年には二の丸・三の丸の石垣の修築を，寛文２年（1662）には本丸の石垣の修築，同四年には城壁の修築，同７年には城壁の修造が行われ，同10年８月，天守閣が完成した。そして翌11年，中堀東側の武家屋敷ならびに町人町に新たに堀を築き，東の丸を新造するに至った。その後も普請は続き，延宝四年（1676）３月には月見櫓が完成し，同５年５月に丑寅櫓が完成し，一応の全工事が完了したのである。

東の丸は寛文11年よりその新造が始まったが，その具体的な工事の内容は不明な点が多い。出来上がった東の丸は米蔵丸と作事丸が所在していたとのことであるが，江戸時代を通じて絵図等は残っているが，そのいずれも城郭内部は白紙の状態である。かろうじて幕末（一説には慶応３年の銘があるとされる）に描かれたとされる絵図には長大な倉庫群と作事舎の記述が見て取れる。

さて，当該地は生駒藩時代から武家屋敷と町人町が所在していた場所であった。頼重はこの場所に東の丸を新造することを決め，町人町のうち魚の棚町を強制的に撤去させ，堀を築いたのである。

第3章　調査の成果

第1節　土層序（第4～7図参照）

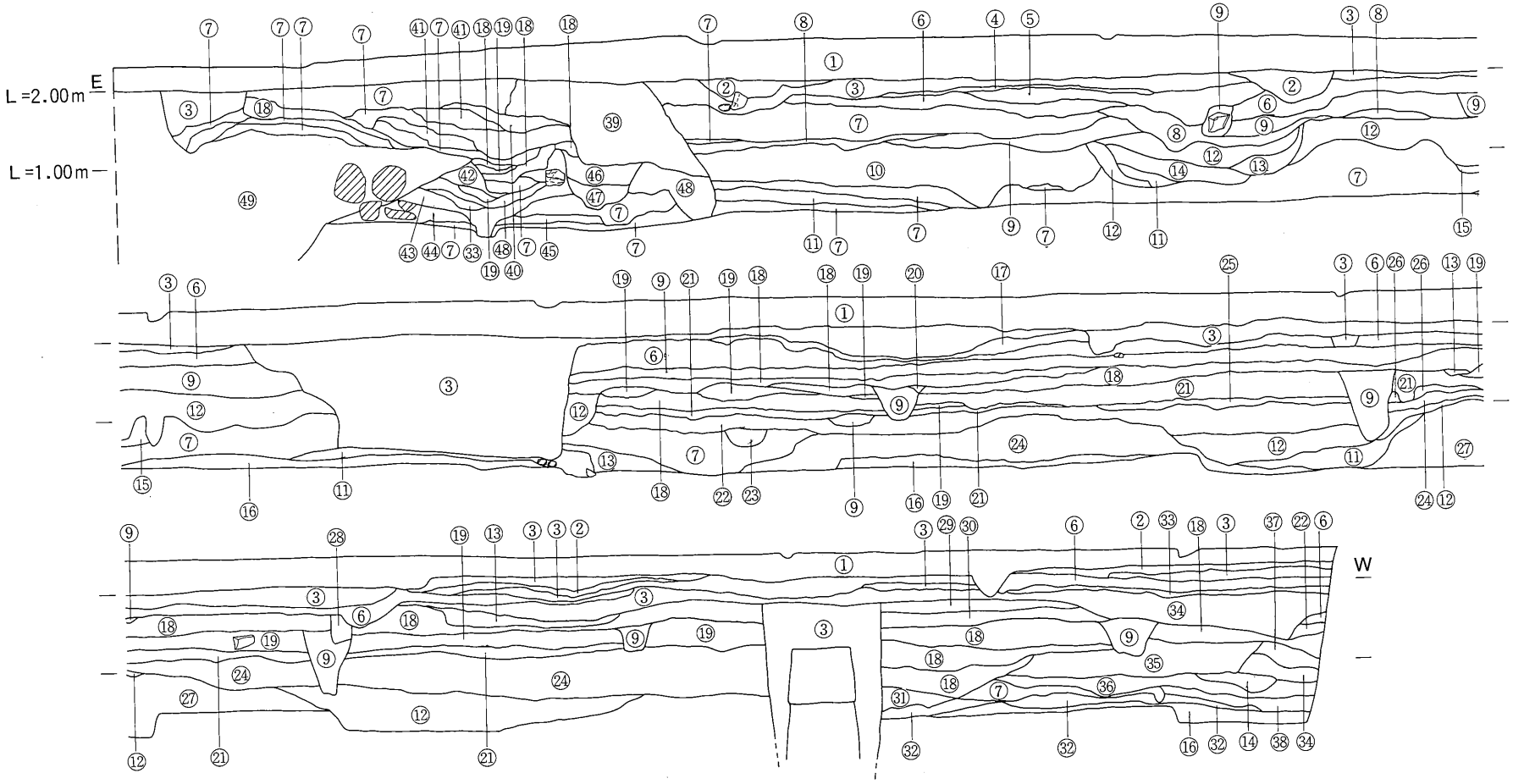
周知のごとく，高松城跡は戦国時代末期の築城以来，現在に至っているが，城郭の主要な郭は近世以降あまり変化していない。もちろん，天守閣が破却され，城内は玉藻公園として整備されていたりしているが，基本的な縄張りは変化していない。しかしながら，調査対象地である旧東の丸は明治4年の廃藩置県以後兵部省の所管となり，大阪鎮台・広島鎮台の分営が設置され，後に陸軍省の所管となった。その後明治23年に旧藩主である松平家に払い下げられた。第二次世界大戦後には一部が国鉄の所有になり，県民ホール建設以前には駐車場やテニスコートが所在していた。このように東の丸跡は様々な改変を受け，その度に地面を掘削し，構造物を建築する繰り返しであった。さらに，江戸時代においても調査対象地内では様々な普請が行われていたらしく，通常の平地の遺跡のような水平堆積の土層は望むべくもなかった。したがって，土層から遺構面を判別することは非常な困難を伴った。かろうじて，瓦溜や建物跡の礎石と考えられる石材が出土したレベルを仮に遺構面と考え，それに合わせて調査を進めた。

よって，基本土層と呼べる堆積は皆無であるが，一応の整地層と遺構面との関係を以下に述べる。

まず，調査前の現況のレベルは標高約3mでそれまでの建物を撤去したあとに埋められた花崗土を除去した。花崗土を除去すると，整地面と思われる土層があらわれる。これは近代以後に整地されたものと考えられる。この整地層は一度に整地されたものではなく，したがって同一の土層が調査区全面に見られるわけではない。最も広く分布する土層は黄褐色砂質土である。この整地層は平均して約30cmの厚さで，その下層に第1遺構面が存在する。

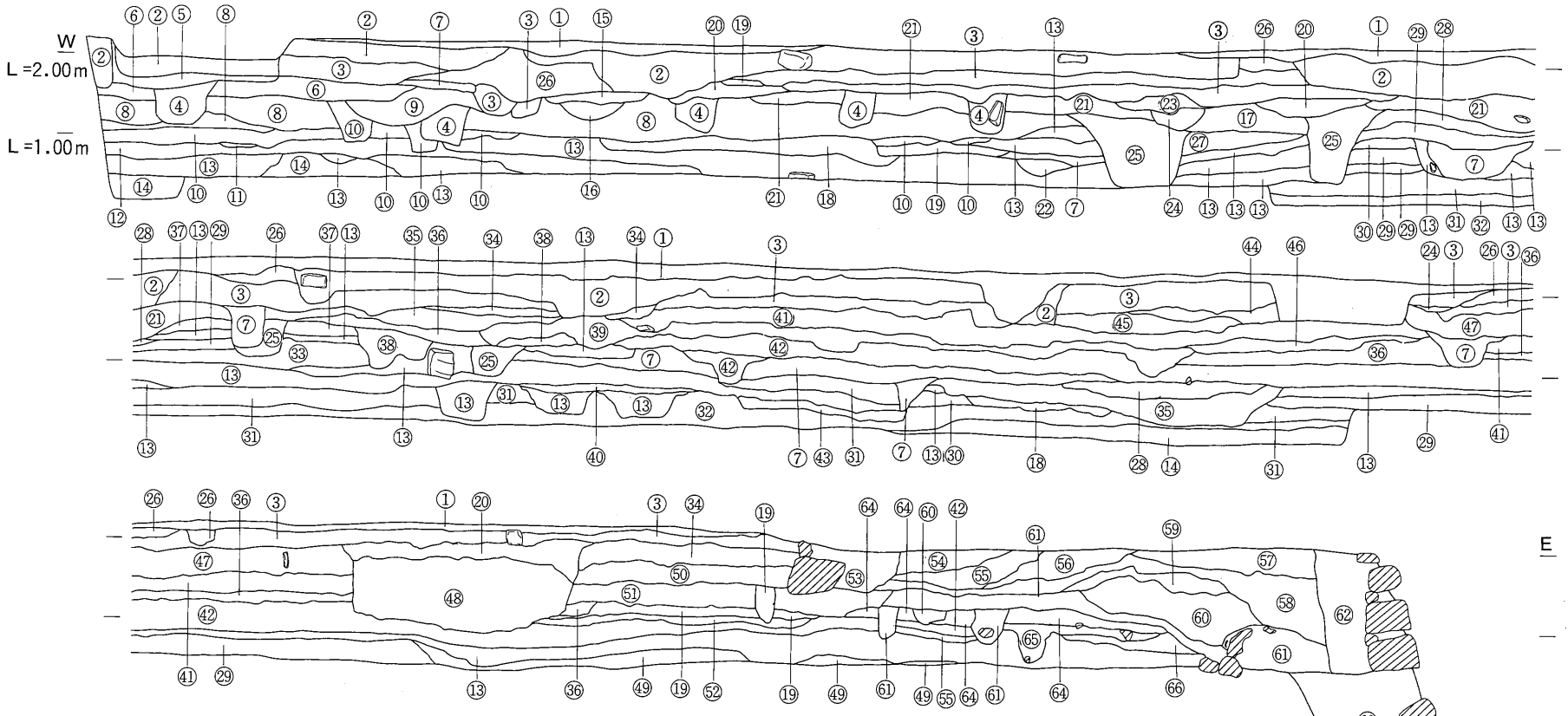
第1遺構面は第2遺構面廃絶以降に整地された土層の上面にあたる。検出した遺構や出土した遺物などからみて幕末から明治期にかけての遺構面であると考えられる。また，この時期には東側の石垣も機能しており，堀の中からは河舟の底部および桟橋ではないかと考えられる杭列を検出している。

第2遺構面は第3遺構面廃絶以降に整地された土層の上面にあたる。検出した遺構や出土した遺物などからみておおむね江戸時代後期頃にあたる遺構面であると考えられる。ただし，出土遺物の中には江戸時代前半頃に属すると思われるものも混入しており，遺物から与えられる年代観が必ずしも遺構の年代観と一致するとは限らない。



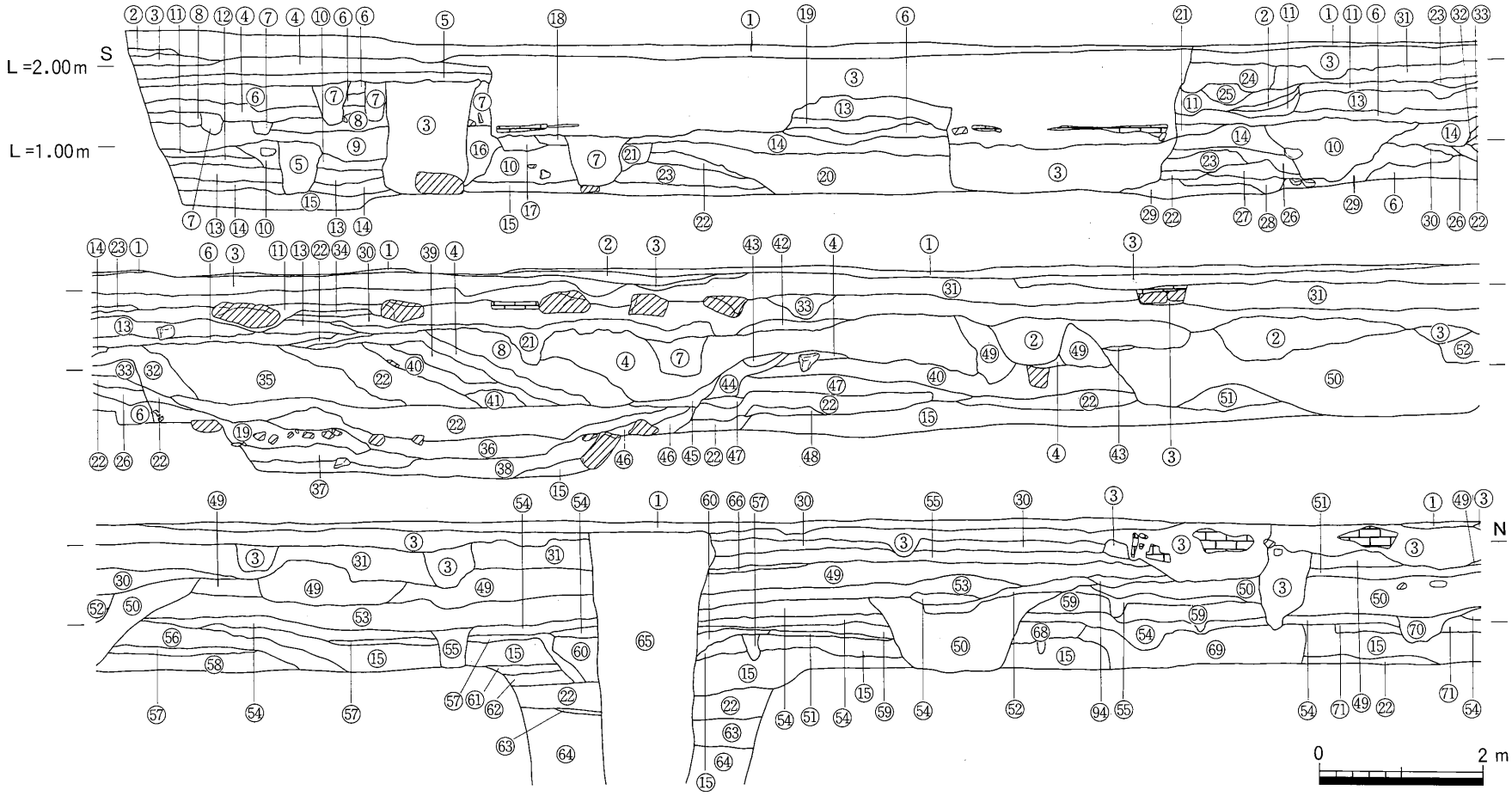
① 花崗岩
② 焼土層
③ 攪乱
④ 暗黄灰色粘土
⑤ 暗緑灰白色粘質土
⑥ 暗黄褐色砂質土
⑦ 粗砂層
⑧ 茶色粗砂層
⑨ 褐色砂質土(粗砂含む)
⑩ 暗褐色粗砂混砂質土
⑪ 炭化物層
⑫ 暗褐色砂質土
⑬ 黄白色粘土
⑭ 礫層
⑮ 緑白色砂層
⑯ 暗青灰色砂層
⑰ 黄灰色砂質土
⑱ 淡褐灰色粘質土
⑲ 暗褐色粘土
⑳ 淡褐色砂質土
㉑ 粘土混瓦層
㉒ 黄褐色砂質土
㉓ 暗褐色砂質土混粗砂層
㉔ 暗茶色砂質土
㉕ 褐色粘土
㉖ 橙色粘土
㉗ ラミナ層
㉘ 粘土ブロック混褐色砂質土
㉙ 淡茶褐色砂質土
㉚ 明茶褐色砂質土
㉛ 褐色粗砂層
㉜ 青緑灰色砂層
㉝ 暗褐色粘質土
㉞ 茶褐色砂質土
㉟ 黄色礫混粘質土
㊱ 黄橙色砂質土
㊲ 暗茶褐色砂質土
㊳ 暗黄橙色砂質土
㊴ 栗石層
㊵ 褐色粘質土
㊶ 粘土混粗砂層
㊷ 褐灰色粘質土
㊸ 暗褐色砂層
㊹ 礫混粗砂層
㊺ 緑灰色砂層
㊻ 茶灰色粘質土
㊼ 暗茶灰色粘質土
㊽ 暗褐色粗砂層
㊾ 礫混粗砂層(礫は栗石)

第4図　Ⅳ区南壁土層断面図

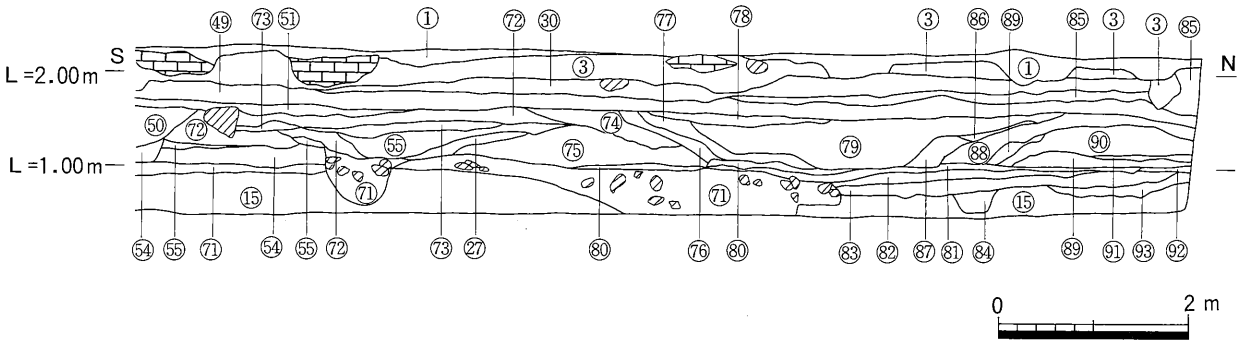


① 花崗岩
② 攪乱
③ 暗黄褐色粘質土
④ 黒色砂質土
⑤ 緑褐色砂質土
⑥ 炭化物層
⑦ 褐色砂質土
⑧ 黄灰色砂質土
⑨ 暗黄灰色砂質土
⑩ 明黄色粘土層
⑪ 粘土層
⑫ 茶橙色砂質土
⑬ 茶褐色粗砂層
⑭ 暗青灰色砂層
⑮ 礫層
⑯ 黄色粘土混礫層
⑰ 暗黄褐色砂質土
⑱ 暗褐色粘質土(炭化物含む)
⑲ 黄色粘土層
⑳ 焼土層(瓦含む)
㉑ 暗黄褐色砂質土
㉒ 黄褐色粘質土
㉓ 礫混暗黄褐色砂質土
㉔ 白色粘土
㉕ 褐色粘質土
㉖ 黄橙色粘土層
㉗ 礫混粗砂層
㉘ 黄褐色砂質土
㉙ ラミナ層
㉚ 黄色粘質土
㉛ 粗砂と橙色砂質土のラミナ層
㉜ 暗青緑色砂層
㉝ 粗砂と砂層のラミナ層
㉞ 瓦層
㉟ 暗褐色砂質土
㊱ 黄白色砂質土
㊲ 黄白色砂層
㊳ 暗茶白色砂質土
㊴ 明黄褐色粘質土
㊵ 橙色粘質土
㊶ 茶褐色砂質土
㊷ 淡褐色砂質土
㊸ 黒色粘質土
㊹ 明黄茶色粘質土
㊺ 茶褐色粘質土(瓦溜)
㊻ 暗黄色粘質土
㊼ 瓦溜
㊽ 瓦溜
㊾ 暗緑灰白色砂質土
㊿ 黄色粗砂層
51 茶褐色砂混粘質土層
52 黄色砂混粘土層
53 礫層(西側の裏込)
54 灰色砂層
55 礫混粗砂層
56 礫混砂層
57 裏込Ⅰ(小礫層)
58 裏込Ⅱ(砂多い，炭化物含む)
59 裏込Ⅲ
60 裏込Ⅳ(礫多い)
61 暗茶褐色砂混粘質土層(黄色粘土のブロック含む)
62 裏込栗石層
63 裏込栗石層
64 緑黄色粘土ブロック層
65 黄色砂混粘土層
66 橙色粘質土

第5図　Ⅲ区北壁土層断面図



第６図　西壁土層断面図(I)



① 花崗岩
② 焼土層
③ 撹乱
④ 暗黄褐色砂質土
⑤ 暗褐色粘質土
⑥ 茶褐色粘質土
⑦ 褐色砂質土
⑧ 黄褐色砂質土
⑨ 淡褐色砂質土
⑩ 礫層
⑪ 暗茶褐色砂質土
⑫ 茶褐色砂質土
⑬ 黄橙色砂質土
⑭ 暗黄橙色砂質土
⑮ 暗青灰色砂層
⑯ 淡緑色砂質土
⑰ 黒灰色砂質土
⑱ 粘土層
⑲ 暗褐色砂質土
⑳ 茶褐色砂層(ブロック含む)
㉑ 緑褐色砂質土
㉒ 粗砂層
㉓ ラミナ層
㉔ 暗褐色砂層
㉕ 暗黄色砂層
㉖ 粗砂混茶褐色粘質土
㉗ 明黄褐色砂質土
㉘ 赤褐色砂質土
㉙ 黒色砂層
㉚ 炭化物層
㉛ 褐色粘質土
㉜ 淡黒色砂質土
㉝ 茶白色粘質土
㉞ 暗灰色粘土層
㉟ 瓦溜
㊱ 中粒砂層
㊲ 暗褐色シルト
㊳ 暗灰色シルト
㊴ 淡緑褐色砂質土
㊵ 暗緑灰色暗砂質土
㊶ 灰褐色粘質土
㊷ 緑灰色砂層
㊸ 白色粘土
㊹ 礫混粗砂層
㊺ 茶色粘土層
㊻ 褐色砂層
㊼ ラミナ層
㊽ 暗緑褐色粘質土
㊾ 暗灰黄褐色砂質土
㊿ 緑黄灰色砂質土
(51) 明橙黄色粘土
(52) 明緑黄灰色砂質土
(53) 淡茶黄色砂質土
(54) 黄橙色粘土
(55) 暗褐色砂質土
(56) 灰色礫混砂層
(57) 明橙黄色粘土
(58) 暗褐色粗砂層
(59) 砂層と粘土層のラミナ層
(60) 灰色粘質土
(61) 黄褐色砂層
(62) 暗褐色砂層
(63) 白色粗砂層
(64) 礫層
(65) 撹乱(上水道取水口)
(66) 灰白色粘土
(67) 橙緑色砂質土
(68) 暗黄橙色粘土
(69) 橙褐色砂質土
(70) 明灰色砂層
(71) 暗灰色砂層
(72) 茶白色砂層
(73) 黄白色粘土
(74) 礫混灰茶白色砂質土
(75) 黄茶白色粘土
(76) 淡灰茶白色砂層
(77) 灰茶白色砂層
(78) 礫混暗灰黄褐色砂質土
(79) 灰茶白色砂質土
(80) 茶白色粘土
(81) 緑灰色粘土
(82) 黄色粘土
(83) 灰茶色砂層
(84) 淡灰茶色砂層
(85) 灰白色粘土
(86) 明灰茶白色砂質土
(87) 淡灰茶白色砂質土
(88) 暗茶褐色粘質土
(89) 黄白灰色砂層
(90) 黄茶灰白色砂質土
(91) 暗黄白灰色砂層
(92) 茶褐色粘質土
(93) 暗灰茶色砂層
(94) 茶色砂質土

第7図　西壁土層断面図(2)

第2節　主な遺構と遺物

第2章で述べたとおり，今回の調査ではおおむね5時期の遺構を検出している。ここでは，下層の遺構面から順に主な遺構と出土した遺物について述べてみたい。

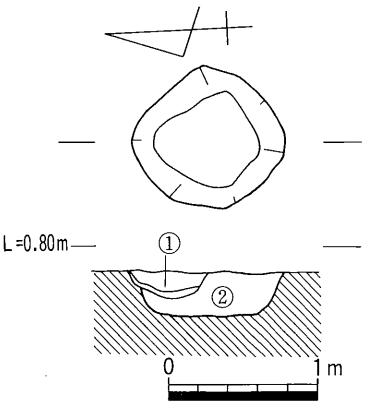
1．第Ⅰ期（1588年以前，付図1参照）

この遺構面は今回の調査区の最下層の遺構面にあたり，標高はおおむね0.5m前後を計る。後の生駒期の遺構を重複して検出したが，この時期には遺構は少なく，墓と考えられる遺構を数基検出したにとどまる。この状況は，北側の県民ホールの調査時と基本的には同様である。遺構は北半部に集中してみられ，県民ホールの調査時には南側に集中して検出されていること，また，調査区の中ではこの遺構面の標高は北へ向かって若干高くなっていることなどを考えあわせると，県民ホールの調査区の南側から今回の調査区の北半部にかけての部分は東西に延びる帯状の砂堆であったと考えられる。

以下に検出した遺構と遺物について述べる。

SK 01（第8図，図版11(2)・12(1)）

調査区北東部で検出した土坑である。東西・南北方向ともに約1mを測るが東側へやや広がるいびつな方形を呈する。埋土は2層に大別できるが，1層と2層の間に砂層の間層をもつ。遺物は細片ばかりで図化できるものは出土していないが，陶器の破片が数点出土している。したがって時期の決定は困難であるがここでは生駒時代初期のものであると考えておきたい。



①黒灰色砂層
②灰色砂層(暗灰褐色粘質土をブロック状に含む)

第8図　SK01平・断面図

SK 02（第9図，図版12(2)・13(1)）

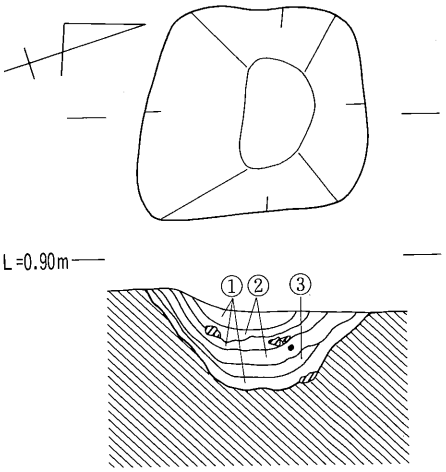
調査区中央やや東よりの部分で検出した土坑である。一辺が約1.2m，深さ80cmの方形を呈する。埋土は粗砂と炭化物の互層状の堆積をしており，5層に分けられる。

第10図はSK 02から出土した遺物の実測図である。

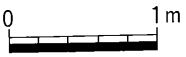
1は土師質の擂鉢の底部である。内面に卸し目が認められる。

2は土師質の大型の土鍋である。口縁部を肥厚させた後，約40ヶ所に穿孔し，吊るせるようになっている。

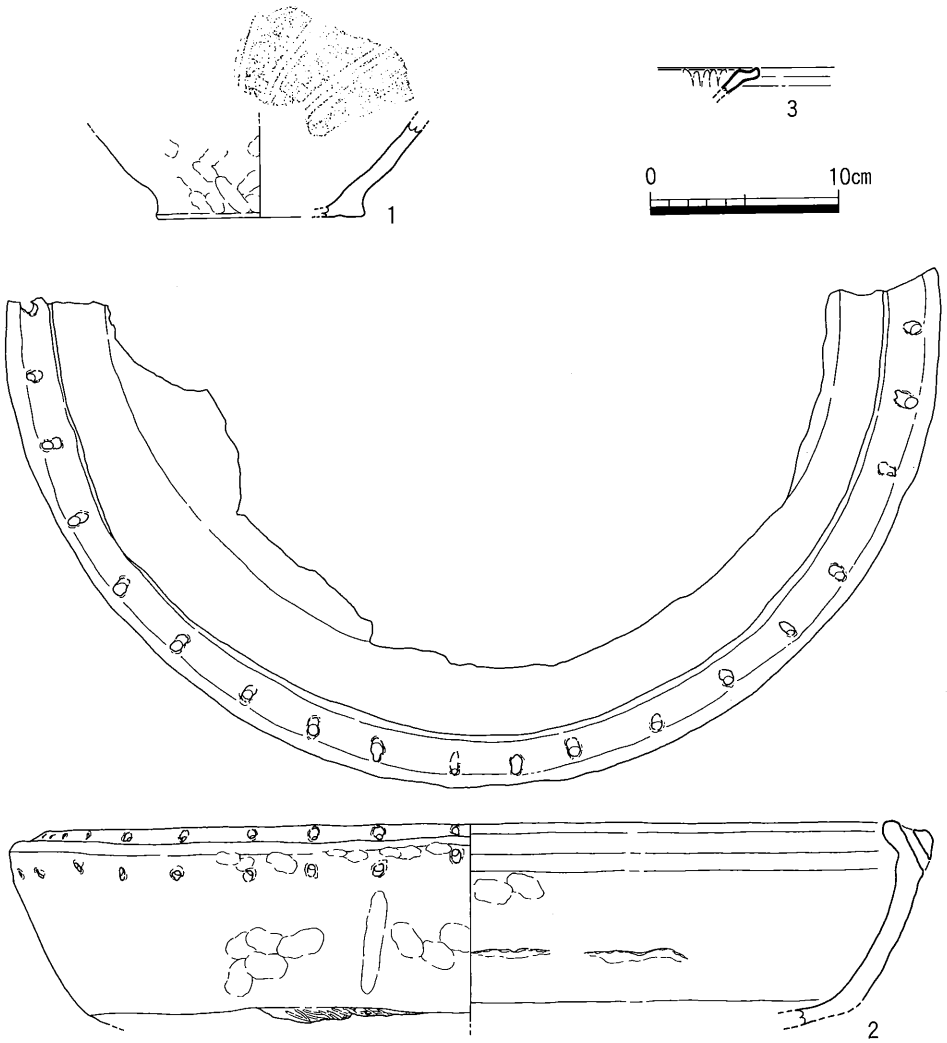
3は瀬戸・美濃の皿の口縁部である。いわゆる折縁皿と呼ばれるもので内面には菊花文が認められる。



①炭化物層
②灰褐色砂層
③暗褐色砂層



第9図　SK02平・断面図

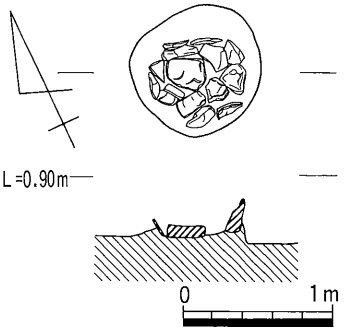


第10図　SK02出土遺物実測図

ST 01（第11図，図版13(2)）

調査区北西隅で検出した遺構である。直径60cmで，板状の石を４石敷き，さらに鯨骨１片を敷いた周辺に板状の石を立てたものである。石の代わりに陶器の甕の破片も使用している。内部からは図示できる遺物は出土していないが，陶器の甕の破片や鯨骨などが出土している。

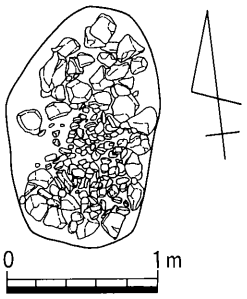
同様の遺構は北側の県民ホールの調査時にも検出しており，石組みの墓であると考えられる。ただし，県民ホールの調査時に検出したものは大部分が火葬墓であるが，今回の調査区には火葬墓は１基も検出されなかった。出土遺物は少なく時期の特定は困難であるが，北側のものと同様に16世紀末期の高松城築城以前の遺構であるとしておく。



第11図　ST01平・断面図

ST 02（第12図，図版14(1)）

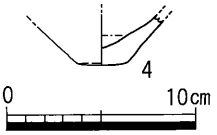
調査区中央やや西よりの部分で検出した石組の遺構である。長径1.2m，短径1mのややいびつな楕円形を呈する。周囲には径10cm程度の角礫を巡らし，底の部分には径10cm程度の円礫を平らに敷き詰めている。形状から見てST 01と同様の石組の墓であると考えられる。遺物は，埋土中から弥生土器が1点出土したのみである。これは遺構面が廃絶した後に堆積した土に混入していたものが遺構中に埋没したものと考えられ，したがってST 02もST 01と同様に時期の特定は困難であるが，周辺の同様の遺構のあり方から見て16世紀末期の高松城築城以前の遺構であると考えられる。



第12図　ST02平面図

第13図はST 02から出土した遺物の実測図である。

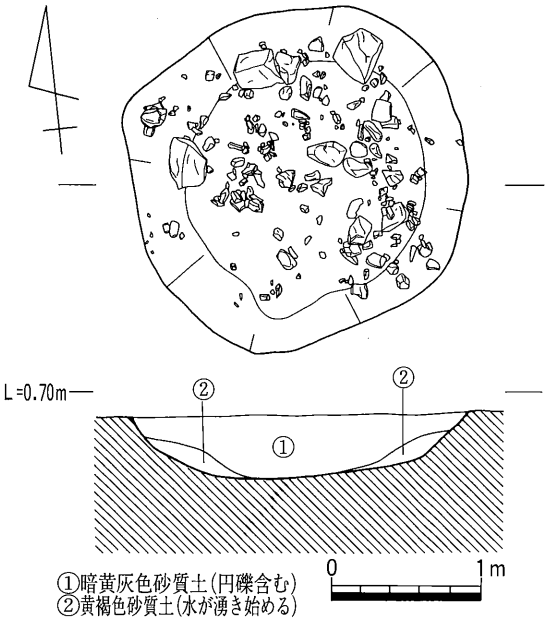
4は弥生土器の底部である。平底の甕の底部であると思われる。外面のケズリが顕著に認められることなどから弥生時代後期頃のものであると考えられる。この土器は下層の包含層に含まれていたものが巻き上げられてST 02の埋土中に堆積したものと思われ，ST 02が弥生時代の遺構であるというものではない。



第13図　ST02出土遺物実測図

SX 01（第14図）

調査区北西部で検出した石組みの遺構である。直径約2mのほぼ円形を呈する。石材は一部に約40cmのものが認められるほかはおおむね20cm前後の小礫が散乱している状態である。一見するとST 01等と同様の遺構とも見て取れるが，石材が散乱していること，出土遺物中に陶磁器や瓦片が認められることからここでは性格の不明な遺構であるとしておく。



第14図　SX01平・断面図

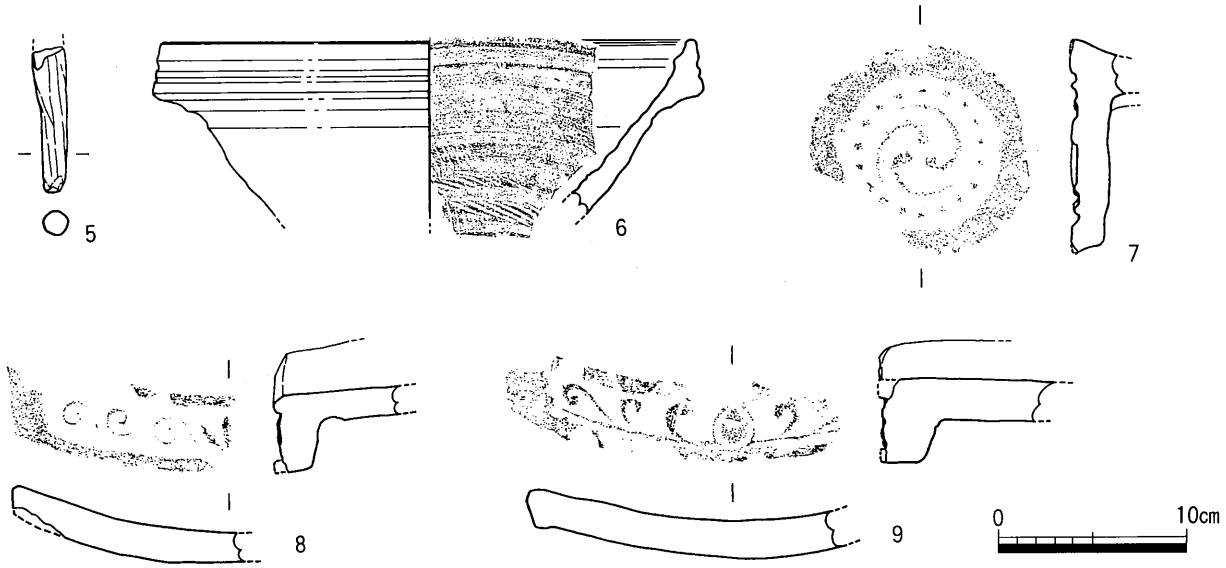
第15図はSX 01から出土した遺物の実測図である。

5は土師質の三足付土釜の足の部分である。

6は擂鉢である。胎土・焼成からみて備前産の擂鉢であると考えられる。

7～9は瓦類である。7は三巴文の軒丸瓦である。三巴の周囲には珠文を18個配している。三巴の尾は比較的長く，また肉も厚い。珠文も数が多く，やや古い様相を示している。8・9は軒平瓦である。8は中心飾りが三葉で葉脈がはっきりしている。唐草は左右とも3回転回させている。巻き込みは大きく，全体的に細い印象を与える。瓦当と平瓦部との屈曲部に強いナデの痕跡が認められる。9は中心飾りが団栗状を呈するもので唐草は3回転回する。巻き込みはほとんどなく，半円を描く程度である。

第16図10は瓦を転用した土製品である。平瓦の周囲を削りとってほぼ円形に仕上げている。いわゆる泥面子に形態は似ているが，何の目的で作られたかについては不明である。



第15図　SX01出土遺物実測図(1)

SX 02（第17図）

SX 01のすぐ南東で検出した石組みの遺構である。東西２m，南北1.4mのいびつな楕円形を呈する。石材は径30cm程度の円礫が1.6m×80cmの範囲に集中してみられる。ST 01やST 02のように積極的に石組みの墓であるとは言い難いのでここでは性格の不明な遺構であるとしておく。

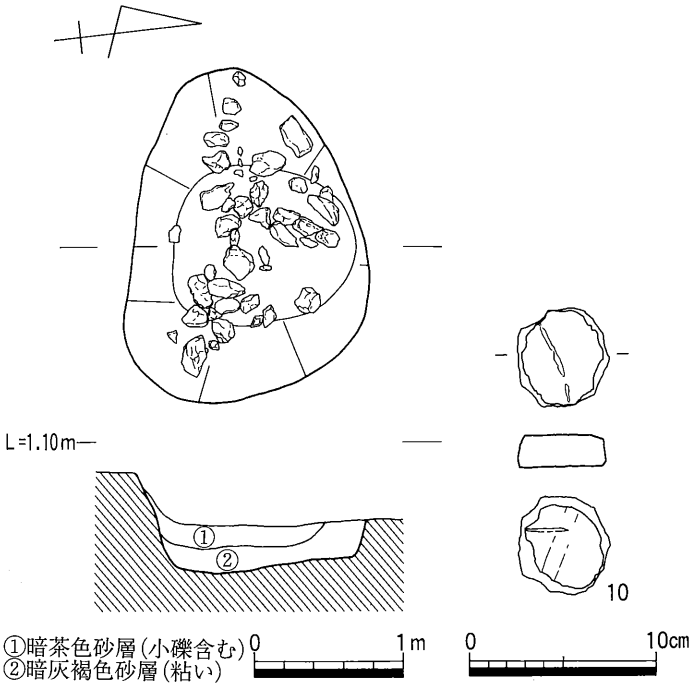
第18図はSX 02から出土した遺物の実測図である。

11は土師器の杯である。

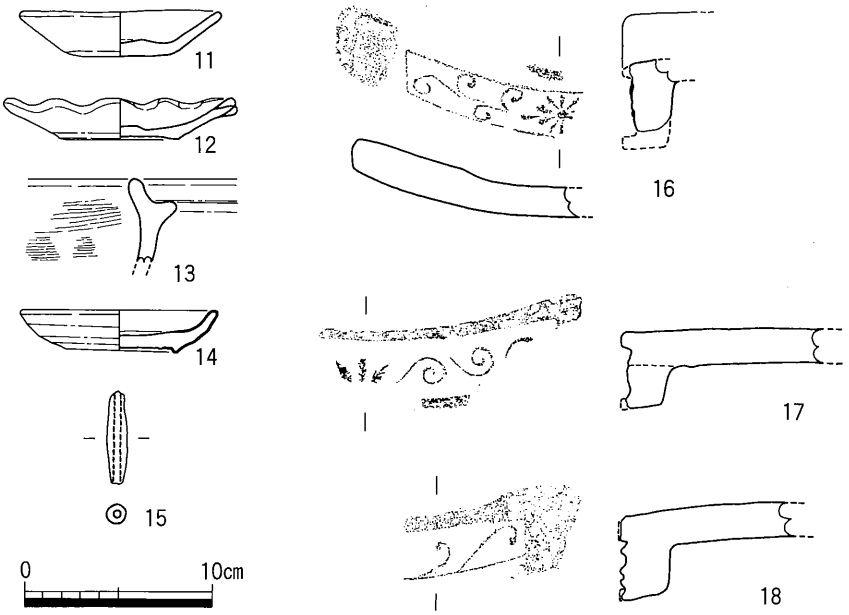
12は瀬戸・美濃の菊花皿である。茶褐色の鉄釉が施釉されている。13は土師質の土釜の口縁部である。内面に若干のハケ目調整が認められる。14は瀬戸・美濃の小型の丸皿である。施釉により淡緑色を呈している。

15は土師質の管状土錘である。

16～18は軒平瓦である。16は中心飾りが十一葉で唐草は上下二段でそれぞれ２回転回している。17は中心飾りが三葉でSX 01出土の８と同文のものである。断面を観察すると平瓦の先端に瓦当部の下半部を接合したもので近世の瓦の製作技法としては普遍的なものである。18は中心飾りは不明だが，唐草は細いものが２回転回する。



第17図　SX02平・断面図　　第16図　SX01出土遺物実測図(2)



第18図　SX02出土遺物実測図

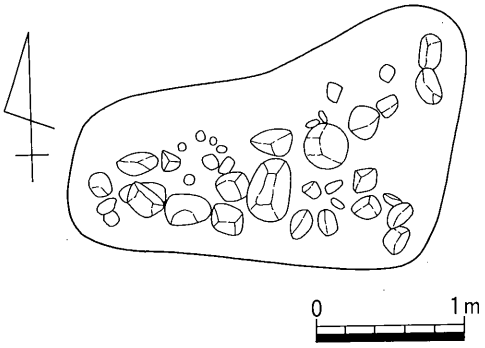
SX 03（第19図）

SX 02の約５m南東で検出した石組みの遺構である。東西2.2m，東端部南北1.5m，西端部南北１mのいびつな形状を呈している。石材は径30cm程度の円礫がほぼ全域に散在している状況である。当初は墓であると考えていたが，整理の結果，SX 02と同様に積極的に墓とする根拠に乏しいため性格の不明な遺構であるとしておく。

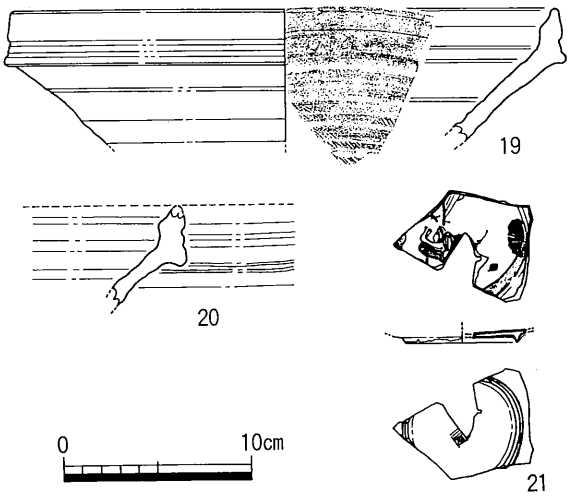
第20図はSX 03から出土した遺物の実測図である。

19・20は擂鉢である。胎土・焼成等からみて備前産のものであろう。

21は染付の皿である。内面の見込には草花の文様が，高台内部の中心には四角形の銘が認められるが，判読はできない。



第19図　SX03平面図



第20図　SX03出土遺物実測図

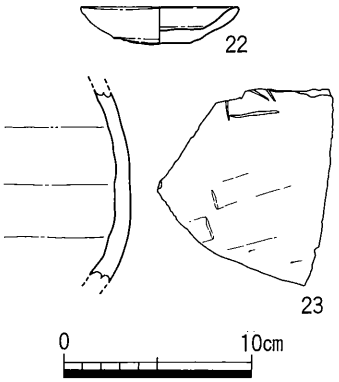
SX 04（第21図，図版14(2)・15(1)）

調査区中央北端部で検出した遺構である。東西１m，南北2.6mの隅丸長方形を呈する。北端部に径30cm程度の円礫が散在している。形状からすると墓である可能性もあるが，積極的に墓とする根拠に乏しいのでここでは性格の不明な遺構であるとしておく。

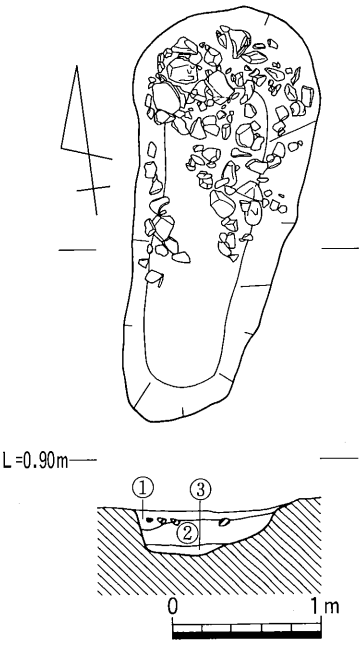
第22図はSX 04から出土した遺物の実測図である。

22は土師器の小皿である。

23は須恵質の壺と考えられる体部の破片である。焼成が不十分で黄橙色を呈する。上部にヘラ描きの刻印が認められるが判読はできない。



第22図　SX04出土遺物実測図



①黄色砂層
②暗褐色粘質土(円礫含む)
③暗褐色砂層(地山)

第21図　SX04平・断面図

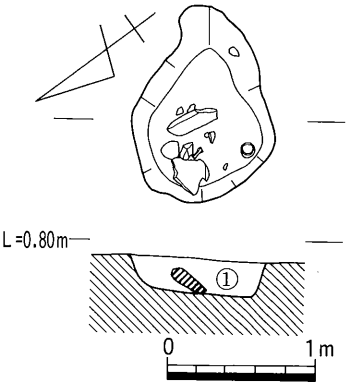
SX 05（第23図，図版16(1)(2)）

調査区北東隅で検出した土坑状の遺構である。直径約１mのほぼ円形を呈する。径30cmの円礫が数個埋土中に含まれていた。形態からみてST 01と同様，墓である可能性もあるが，ここでは性格の不明な遺構であるとしておく。

第24図はSX 05から出土した遺物の実測図である。

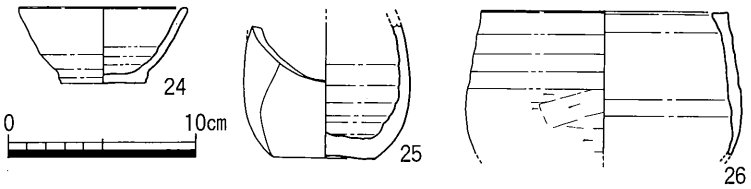
24は土師器の杯である。円盤状高台を持ち，斜め上方へ直線的に立ち上がる。

25は備前の小型の花入である。下半部しか残存していない。26はやはり備前の鉢の口縁部である。端部は平坦に仕上げている。



①灰色砂層(暗灰褐色粘質土のブロックを含む)

第23図　SX05平・断面図

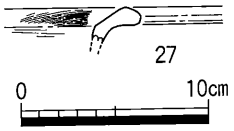


第24図　SX05出土遺物実測図

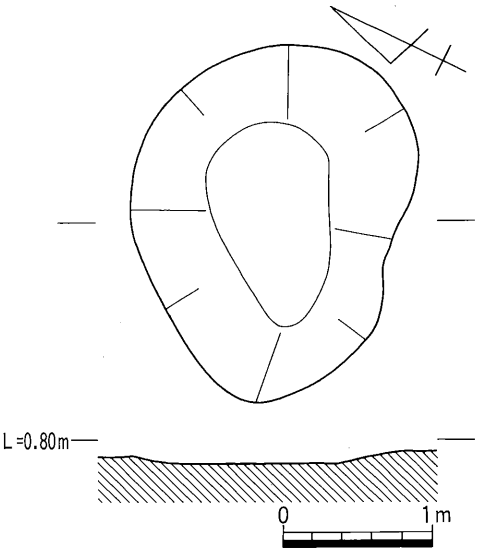
SX 06（第25図，図版17(1)）

調査区北東隅で検出した浅い土坑状の遺構である。長径2.3m，短径1.7mのややいびつな楕円形を呈する。周辺には数個の礫が散在していた。形態からみてST 01と同様に墓である可能性もあるが，ここでは性格の不明な遺構であるとしておく。

第26図はSX 06から出土した遺物の実測図である。27は土師質の土鍋の口縁部である。端部は丸く肥厚させている。内面にわずかながらナデの痕跡が認められる。



第26図　SX06出土遺物実測図

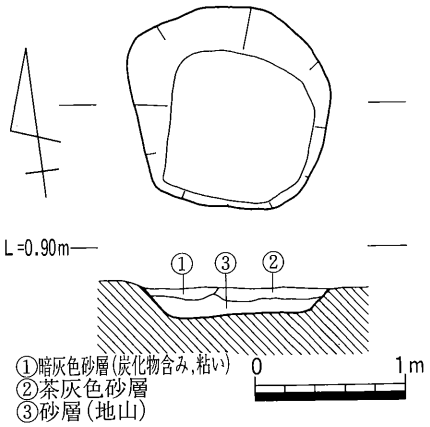


第25図　SX06平・断面図

SX 07（第27図，図版17(1)(2)・18(1)(2)）

SX 06に隣接して検出した土坑状の遺構である。1辺1.5mの方形を呈する。深さは約20cmで埋土は3つに大別される。形状からみてST 01と同様に墓である可能性もあるが，ここでは性格の不明な遺構であるとしておく。

遺物は，図示できるものはなく，土師質土器の細片ばかりである。



第27図　SX07平・断面図

SX 08（第28図，図版19(1)）

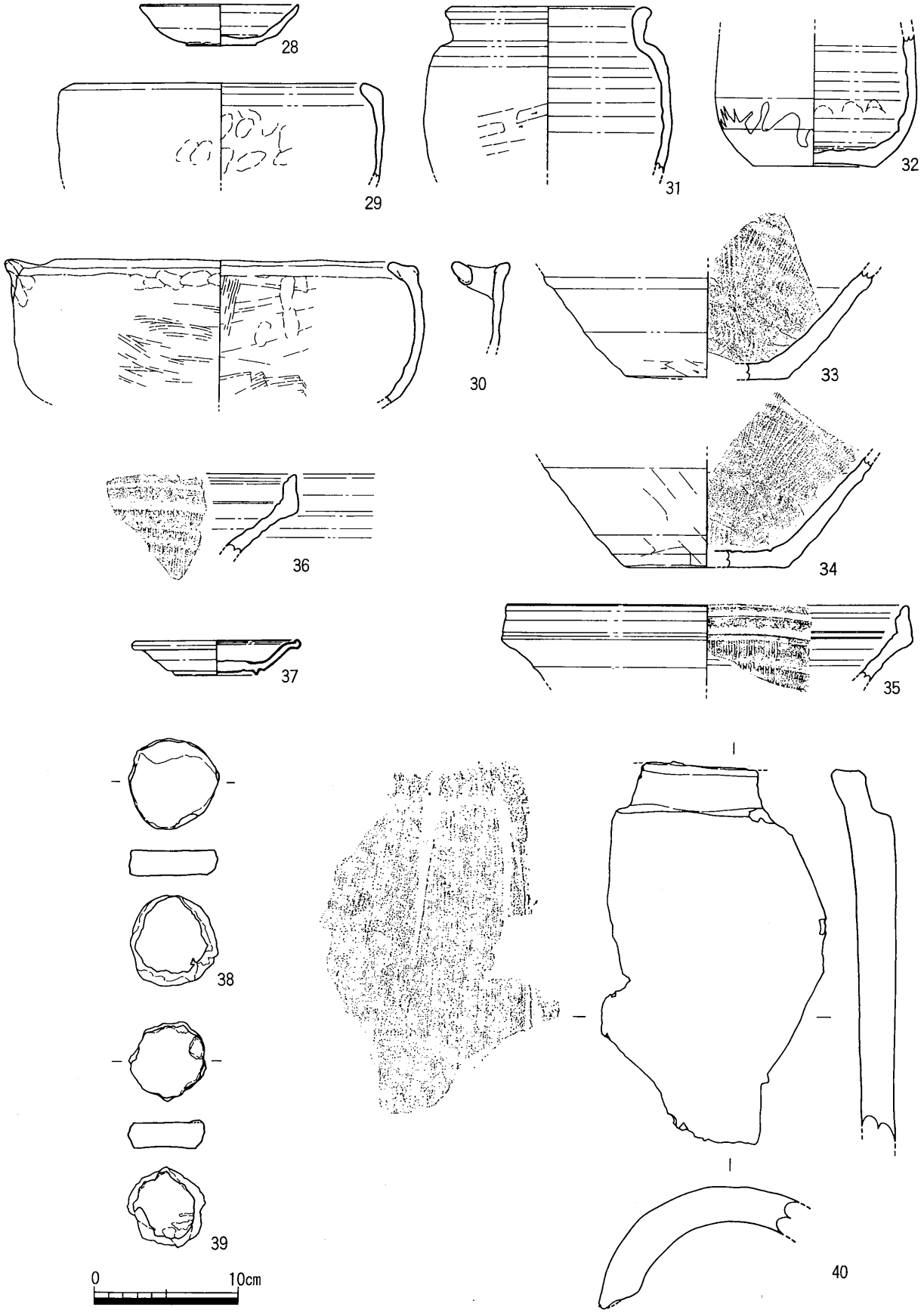
調査区で検出した遺構である。東西3m，南北1.2mの長楕円形を呈する。東半分に小礫が散在していた。深さは約20cmで埋土は主に緑灰色砂層で埋土中から多量の遺物が出土した。

第29・30図はSX 08から出土した遺物の実測図である。

28は土師器の杯である。29は土師質の土鍋の口縁部の破片である。端部は内側に少し折り曲げ，若干肥厚させている。30は土師質の土鍋である。体部から口縁部にかけて内湾し，口縁端部はやや外反する。2ヵ所に内耳を作り，吊るして使用できるようになっている。

31～36は備前産の陶器である。31は壺の口縁部から体部にかけてである。32は壺もしくは鉢の底部である。33・34は擂鉢の底部である。35・36は擂鉢の口縁部である。

37は瀬戸・美濃産の陶器の折縁皿である。淡緑黄色に施釉され，見込の部分は蛇の目状に釉薬を剝いでいる。

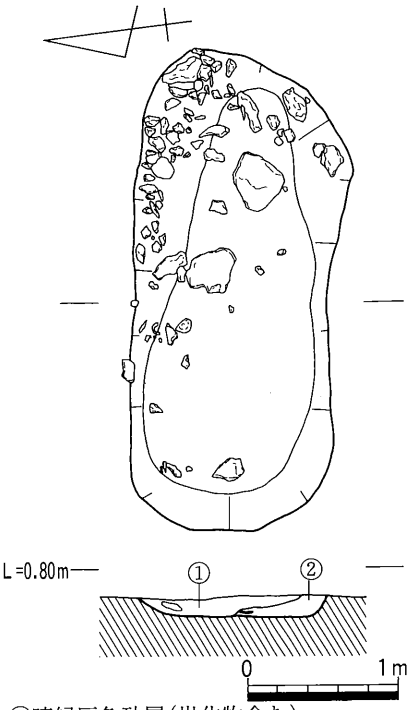


第29図　SX08出土遺物実測図(1)

38・39は転用土製品である。いずれも瓦を円形に加工している。加工は粗く，打ち欠いたのみである。

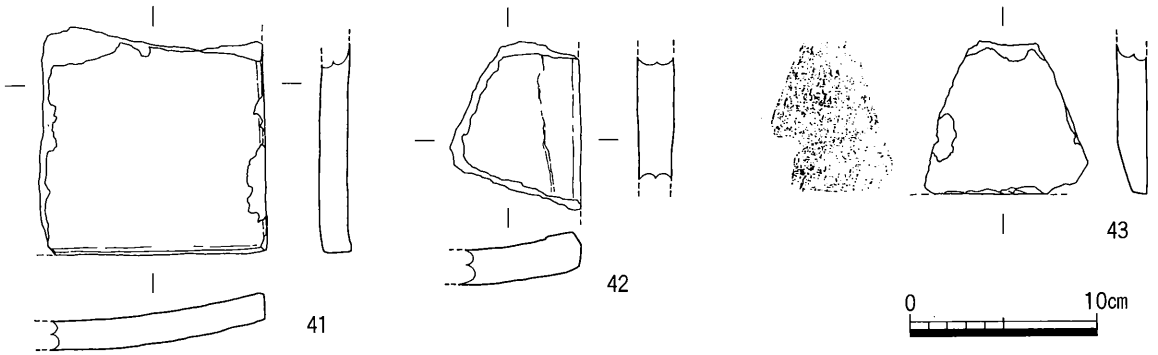
40は丸瓦である。断面がほぼ半円形を呈する。凹面にはわずかながら布目痕および紐状の痕跡が認められる。

41・42は平瓦である。42には側面にタタラから切り取った際の痕跡が認められる。43は丸瓦である。



①暗緑灰色砂層(炭化物含む)
②緑灰色砂層(土器含む)南側黄味強い

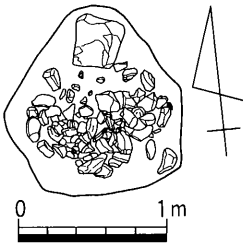
第28図　SX08平・断面図



第30図　SX08出土遺物実測図(2)

SX 09（第31図）

調査区中央部やや東側で検出した遺構である。小礫が集中して検出され，形態からみてST 01と同様に墓である可能性もあるが，それを示す遺物等は出土しておらず，ここでは性格の不明な遺構であるとしておく。

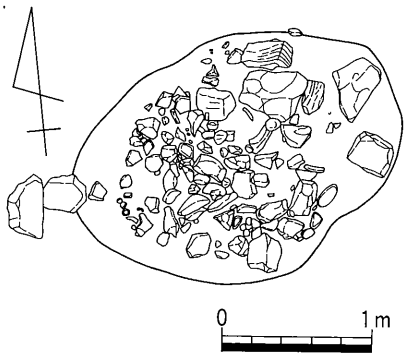


第31図　SX09平面図

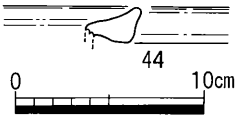
SX 10（第32図）

調査区東側中央部で検出した土坑状の遺構である。小礫が集中して検出され，形態からみてST 01と同様に墓の可能性もあるが，瓦質土器の土鍋の口縁部が出土しているのみであるため，ここでは性格の不明な遺構であるとしておく。

第33図44はSX 10から出土した遺物の実測図である。44は瓦質の土鍋の口縁部である。端部は大きく外に折り曲げて肥厚させ，わずかにつまみあげている。ナデ調整を施している。



第32図　SX10平面図



第33図　SX10出土遺物実測図

2．第II期（1588～1671年，付図1参照）

この時期の遺構面は第1期の遺構面とレベル的には同一であり，遺構も重複している。時代的には生駒氏の築城から東の丸造成までにあたると考えている。この時期には土地利用を如実に示すような建物跡や溝等はあまり検出できなかったが，石垣下層から大規模な柵列を検出しており，地割復元に役立つ資料となるであろう。その他，井戸や水溜遺構を検出している。

以下に検出した遺構と遺物について述べる。

SA 01・SA 02（第34図，図版19(2)・20(1)(2)・21(1)）

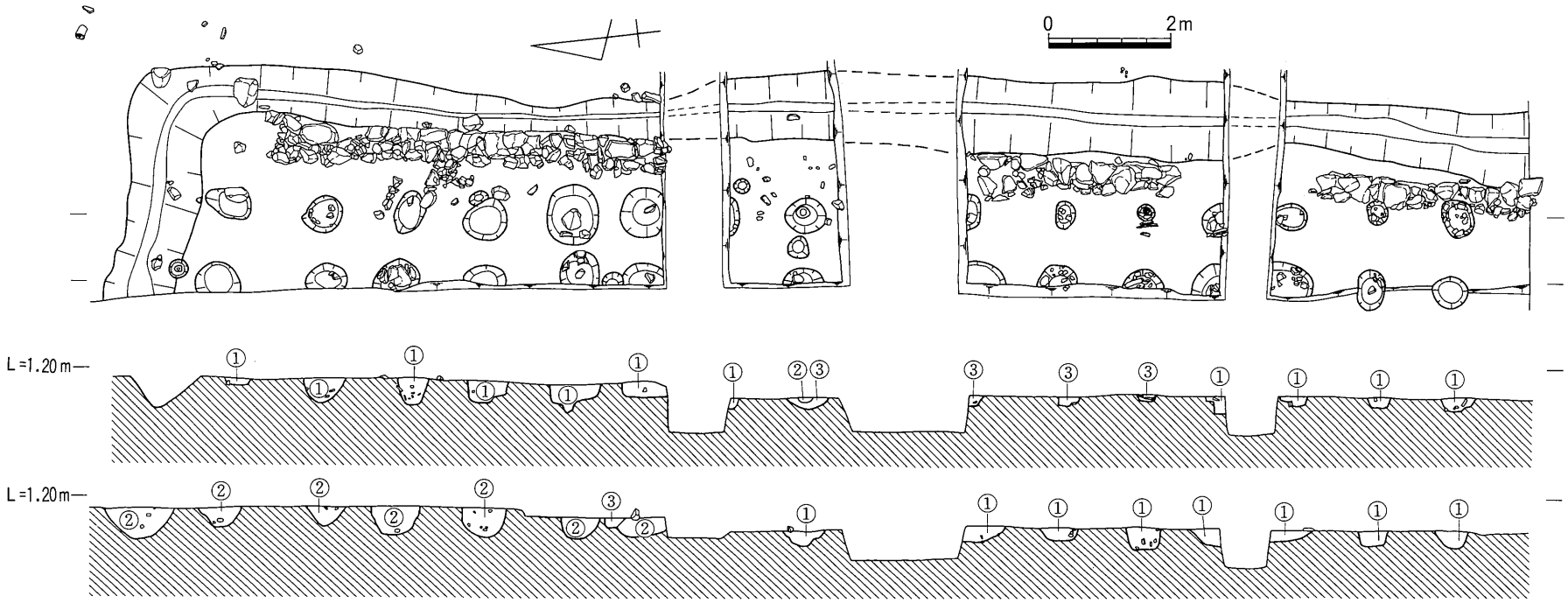
調査区東側，石垣下層で検出した南北方向に並ぶ2条の柵列状の遺構である。東側をSA 01，西側をSA 02と呼ぶことにする。2条の柵列の間隔は約1mで，柱穴の並びはSA 01，SA 02ともほぼ同じ，柱穴間の距離もほぼ同じで約1.2mである。これはこの2条の柵列が同時期に併存していたことを示している。柱穴は，SA 01・SA 02ともに南北に16個検出したが，これで全てではなく，南側に継続するものと考えられる。また，東側と北側を巡るSD 01も検出している。SD 01と柵列との間には石列状の遺構も検出しており，この場所に土地を区画する施設が存在していたことを示している。また，この柵列の方位は現存する石垣（県民ホール東側の石垣）の方位と同一であり，後述する礎石建物跡や道路状の遺構の主軸方位よりも西偏している。さらに，「高松城下図屏風」に見られる土地区画は生駒時代のものを踏襲したものと考えられることから，この柵列および石列状遺構，溝状遺構は「屏風」が製作されてから東の丸造成の直前までの間に設置されたものであると考えられる。

第35～38図はSA 01・SA 02から出土した遺物の実測図である。

45・46は備前産の陶器である。

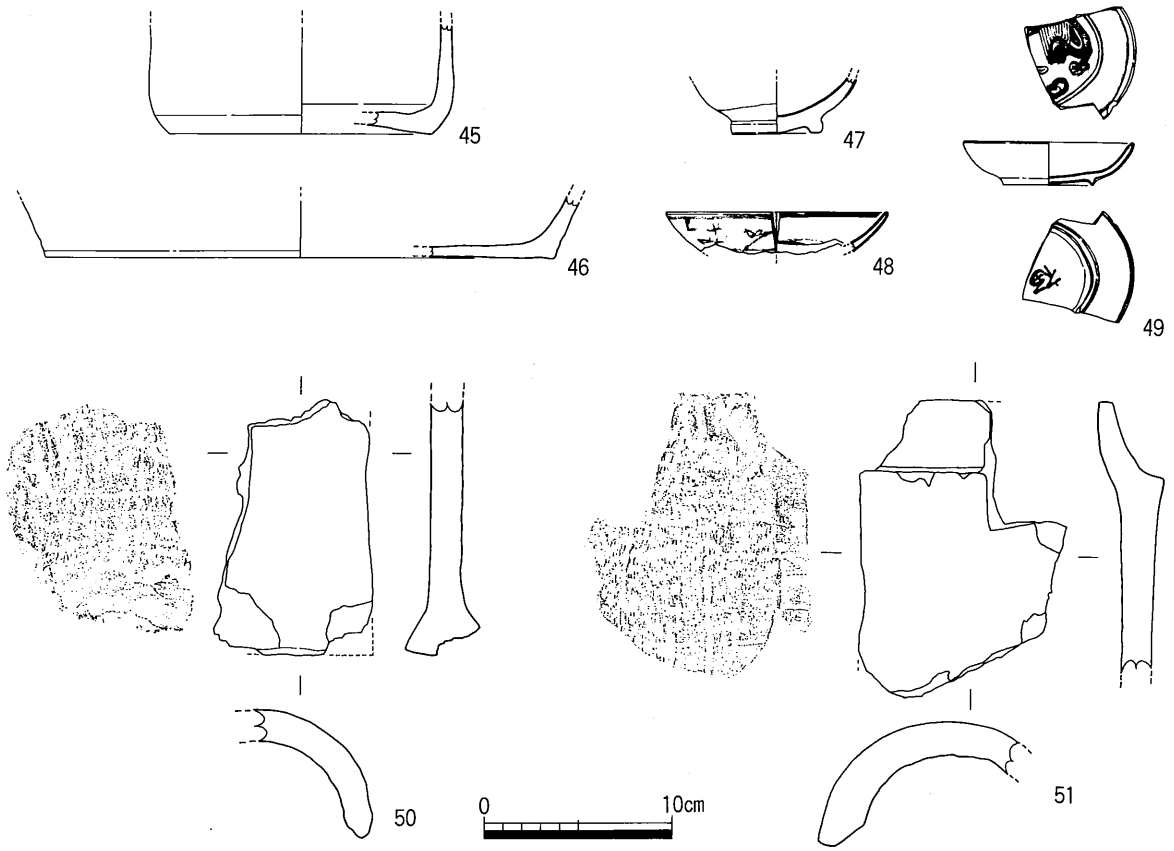
47は陶器の碗である。

48・49は染付である。48は皿の口縁部で外面に草木文が描かれている。49は皿である。見込には玉取獅子が描かれている。高台内部には「福」字が描かれている。中国から輸入されたもので，16世紀後半



①暗緑灰色砂質土　②暗褐色粘質土(黄色粘土ブロック含む)　③暗褐色砂質土

第34図　SA01・SA02平・断面図



第35図　SA01出土遺物実測図

ごろに景徳鎮で製作されたものであろう。

50は軒丸瓦である。瓦当面は欠損している。凹面には粗い布目（あるいはむしろ目）と思われる痕跡が認められる。51は丸瓦である。

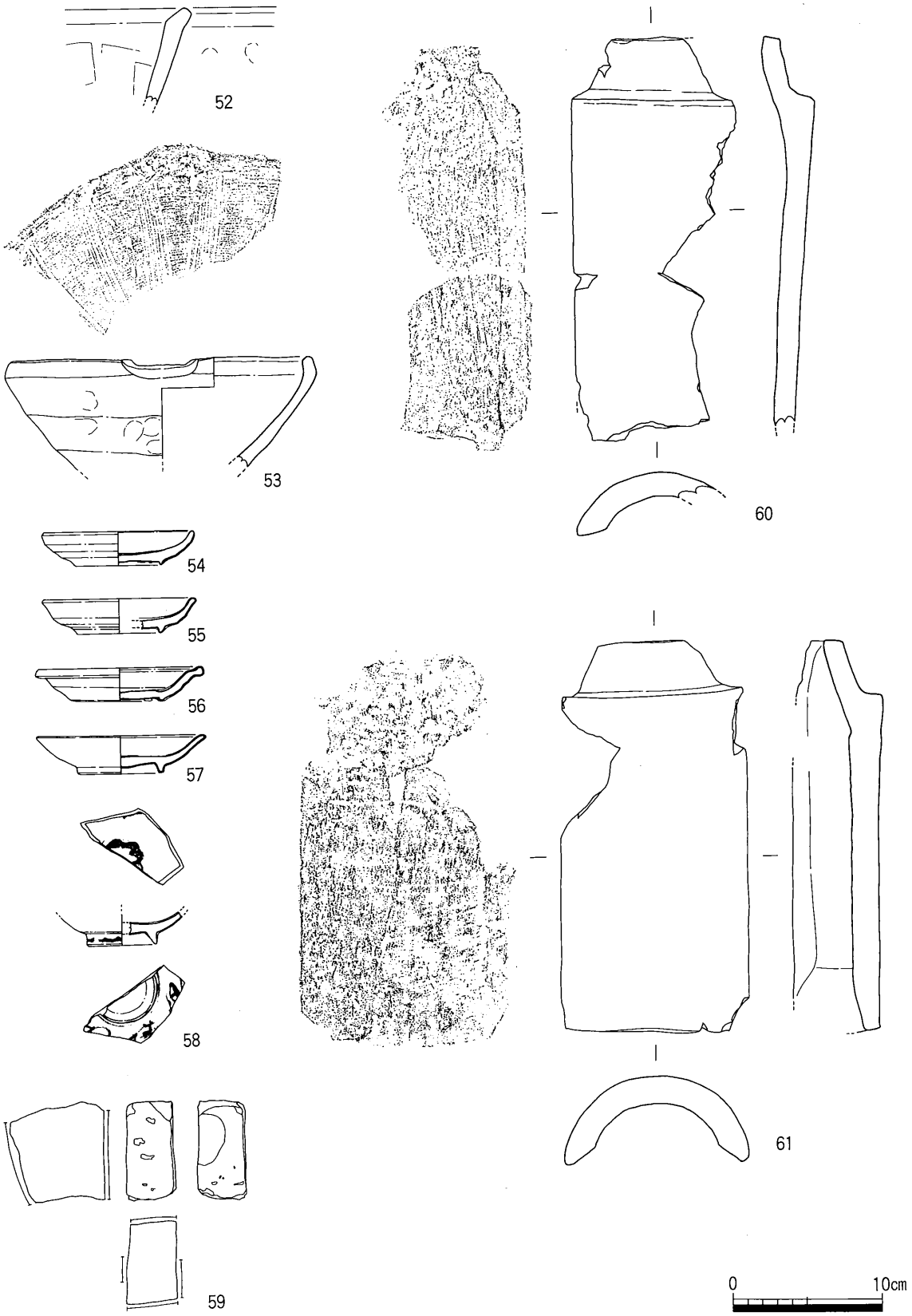
52は土師質の鉢と思われる破片である。口縁端部の内面を斜めに仕上げている。53は土師質の片口の擂鉢である。内面には卸し目が認められる。

54～56は瀬戸・美濃産の陶器である。54・55は丸皿である。56は折縁皿である。

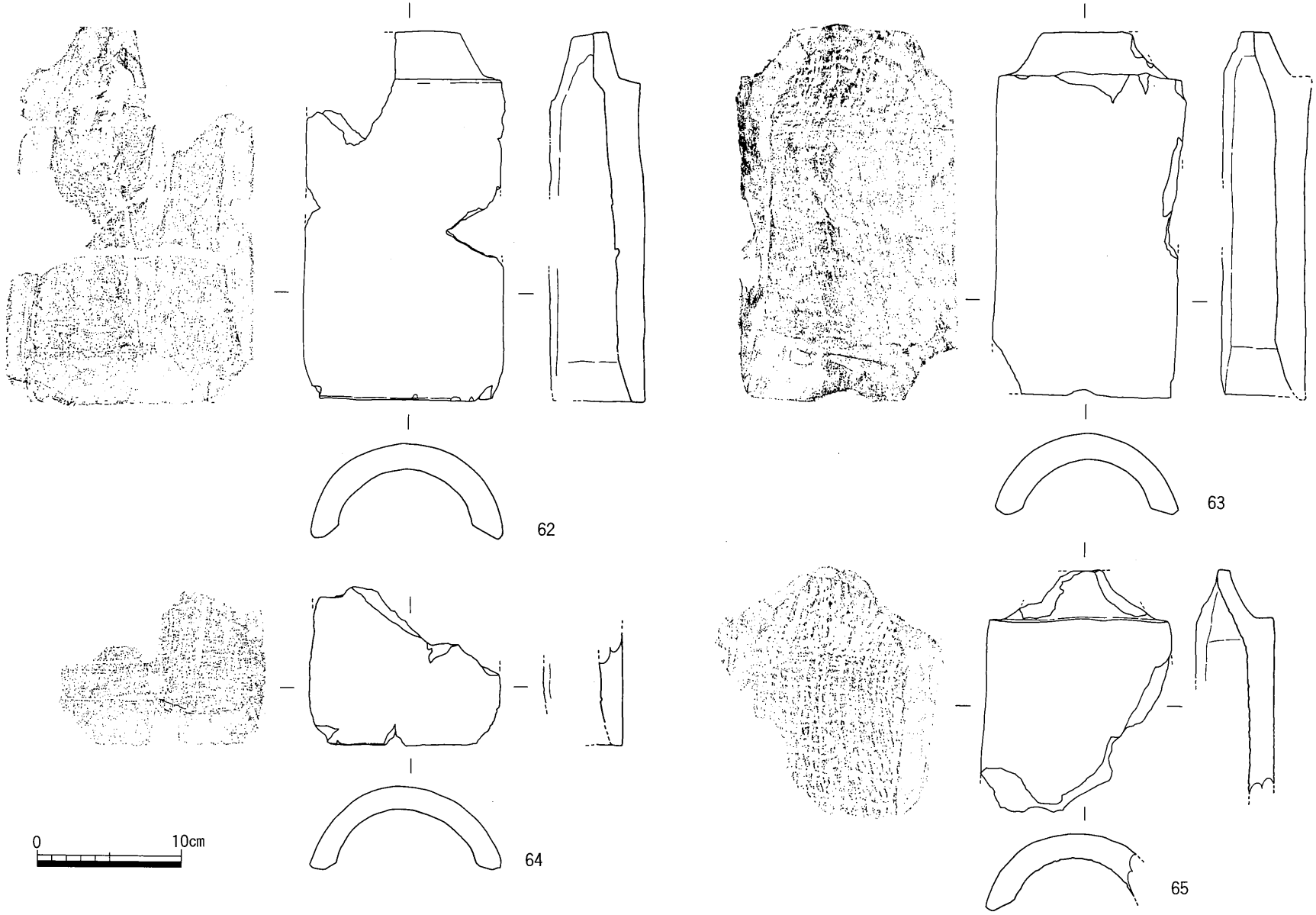
57は白磁の皿である。58は染付の碗と考えられる。見込および外面に草木文が描かれている。

59は砥石である。４面に使用痕が認められる。

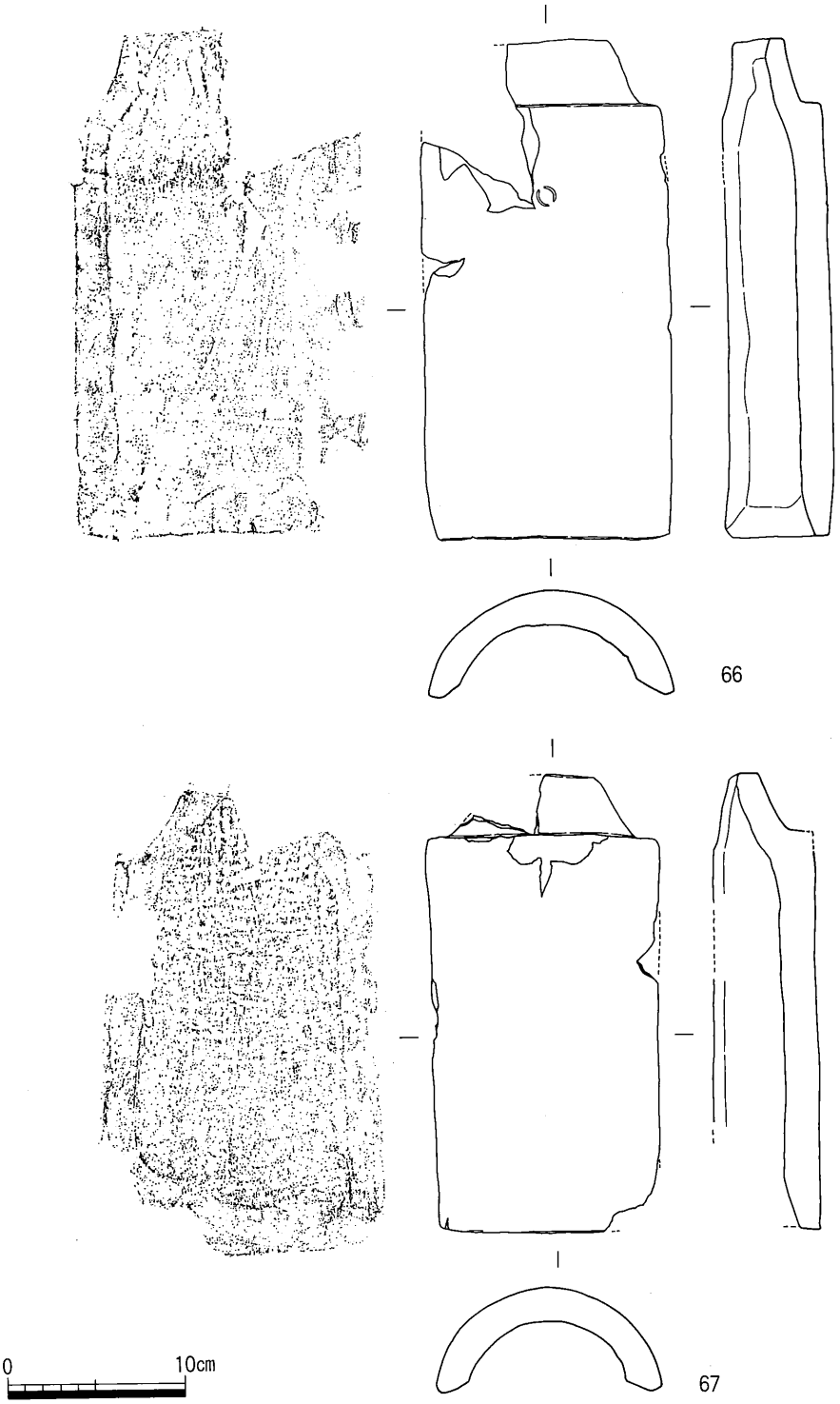
60～67は丸瓦である。60・62・66には凹面に布目痕が認められる。61・63・65には布目あるいはむしろ目の痕跡が認められる。いずれも断面はほぼ半円形を呈する。



第36図　SA02出土遺物実測図(1)



第37図　SA02出土遺物実測図(2)



第38図　SA02出土遺物実測図(3)

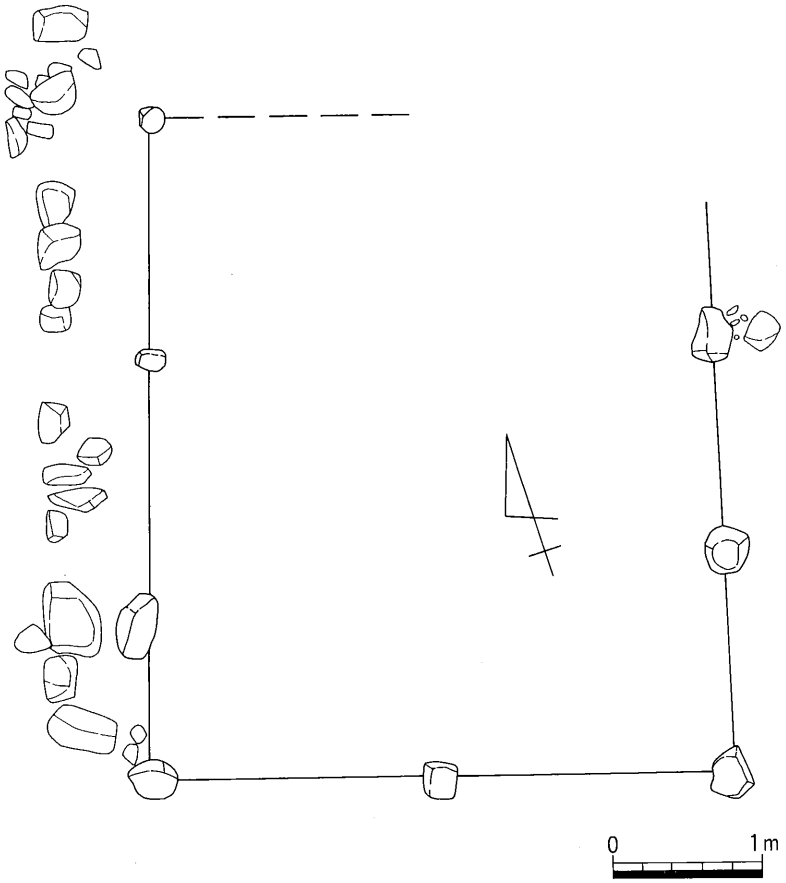
SB 01（第39図，図版21(2)）

調査区中央やや南よりの部分で検出した礎石建物跡である。北辺の一部は礎石が欠損しているため，全容ははっきりしないが，恐らく2×3間の規模であろう。主軸方位はN4°EでSB 02と同一である。梁行の心心間の距離は約1.8m，桁行の心心間の距離は約1.5mである。

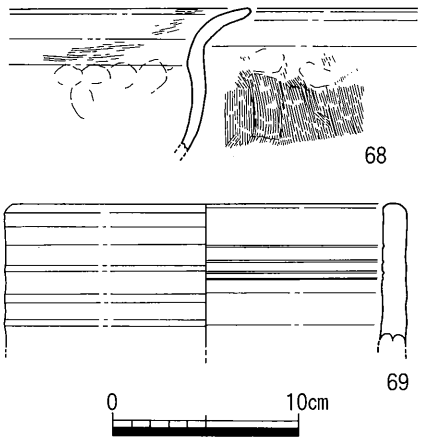
第40図はSB 01の礎石周辺より出土した遺物の実測図である。

68は土師質の土鍋の口縁部である。口縁部はやや内湾気味の体部から大きく外反する。

69は陶器の直口の鉢である。ほぼ円筒形を呈する。備前産であると考えられる。



第39図　SB01平面図

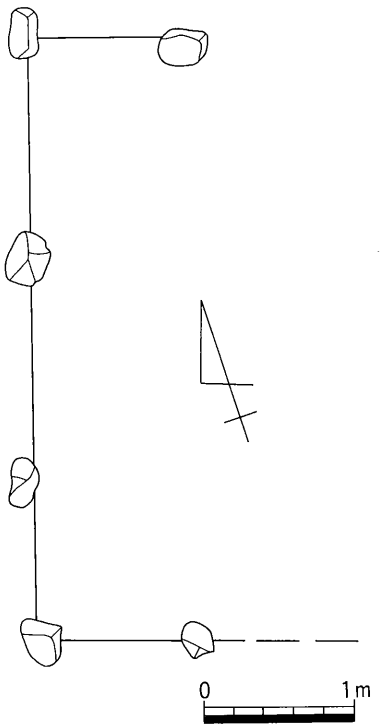


第40図　SB01出土遺物実測図

SB 02（第41図，図版22(1)）

調査区中央やや南より，SB 01の北東で検出した礎石建物跡である。東半分の礎石が欠損しているため，全容ははっきりしないが，恐らくSB 01と同様，2間×3間の規模を推測できるであろう。主軸方位はSB 01と同じで，礎石の心心間の距離もほぼ同じである。

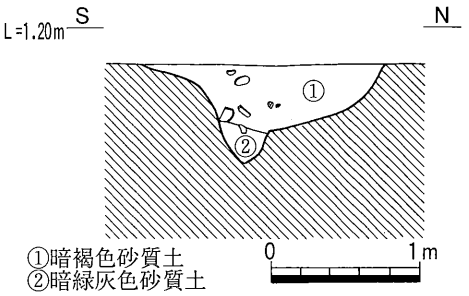
SB 02はSB 01と同一時期に併存していた小規模の建物跡であるといえよう。



第41図　SB02平面図

SD 01（第42図，図版20(1)(2)・21(1)・22(2)）

SA 01とSA 02の東側と北側を巡るように検出した溝状遺構である。南側は調査区外へ延びる。SA 01の東側ではSA 01と同じ方位で流れ，北側ではほぼ直角に西側へ方向を変える。検出時の幅は約1.2m，深さは約60cmを測る。断面形は第1層は幅広のU字状の堆積をしているが，第2層はV字形を呈する。埋土中からは多量の遺物が出土している。



第42図　SD01土層断面図

第43・44図はSD 01から出土した遺物の実測図である。

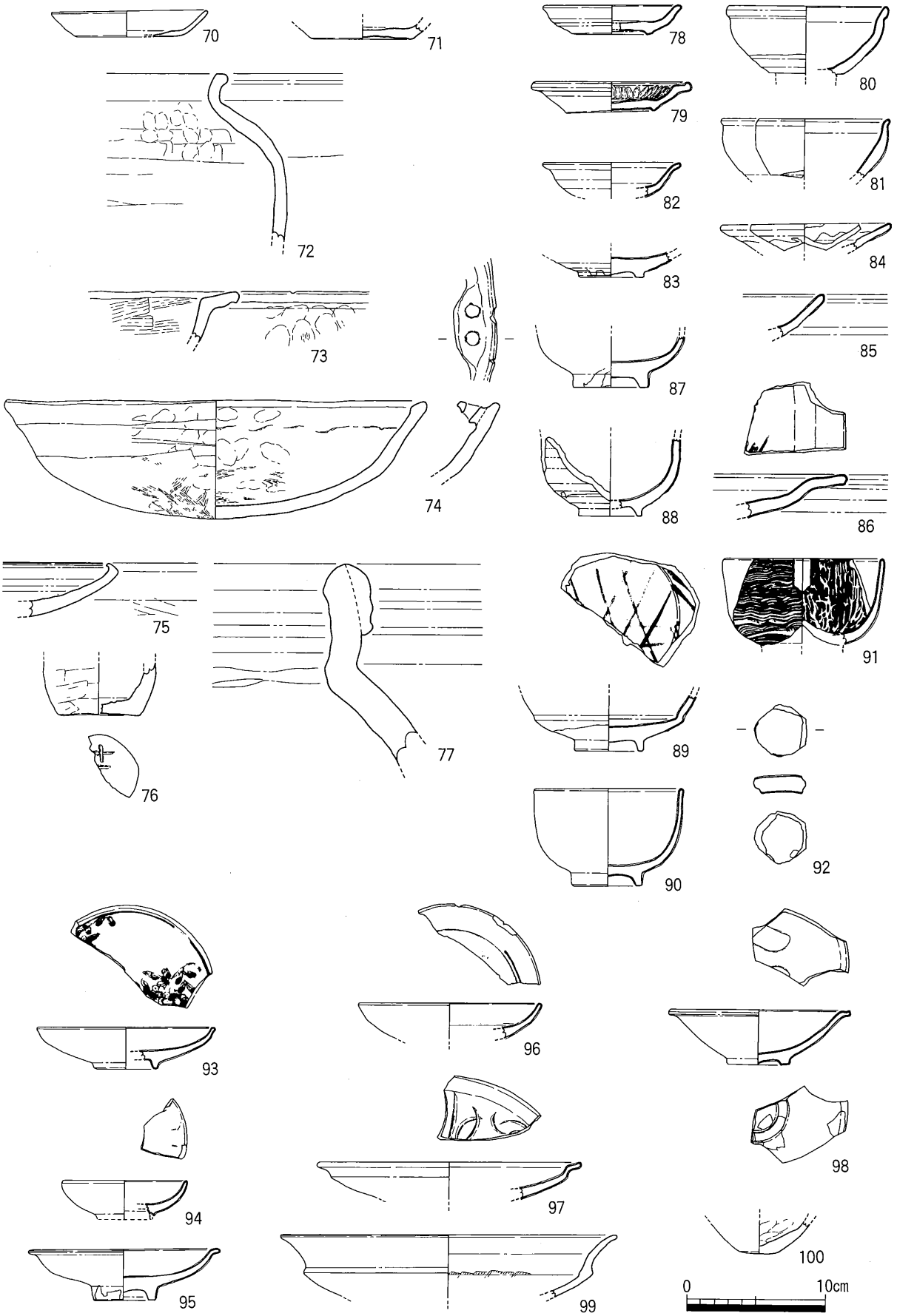
70・71は土師器の小皿である。72～74は土師質の土鍋である。72は大きく内湾する体部からほぼ垂直に立ち上がる口縁部を持つ。内面には指頭圧痕が顕著に認められる。73・74は全体に扁平な形を呈し，内面2ヵ所に内耳を持つ。型を用いて成形したもので，備後や安芸に類例が認められる。

75～77は備前産の陶器である。75は大皿の口縁部である。口縁端部を内湾気味に仕上げている。76は小型の壺の底部である。底部外面に「十」「一」のようなヘラ描きの刻印が認められる。

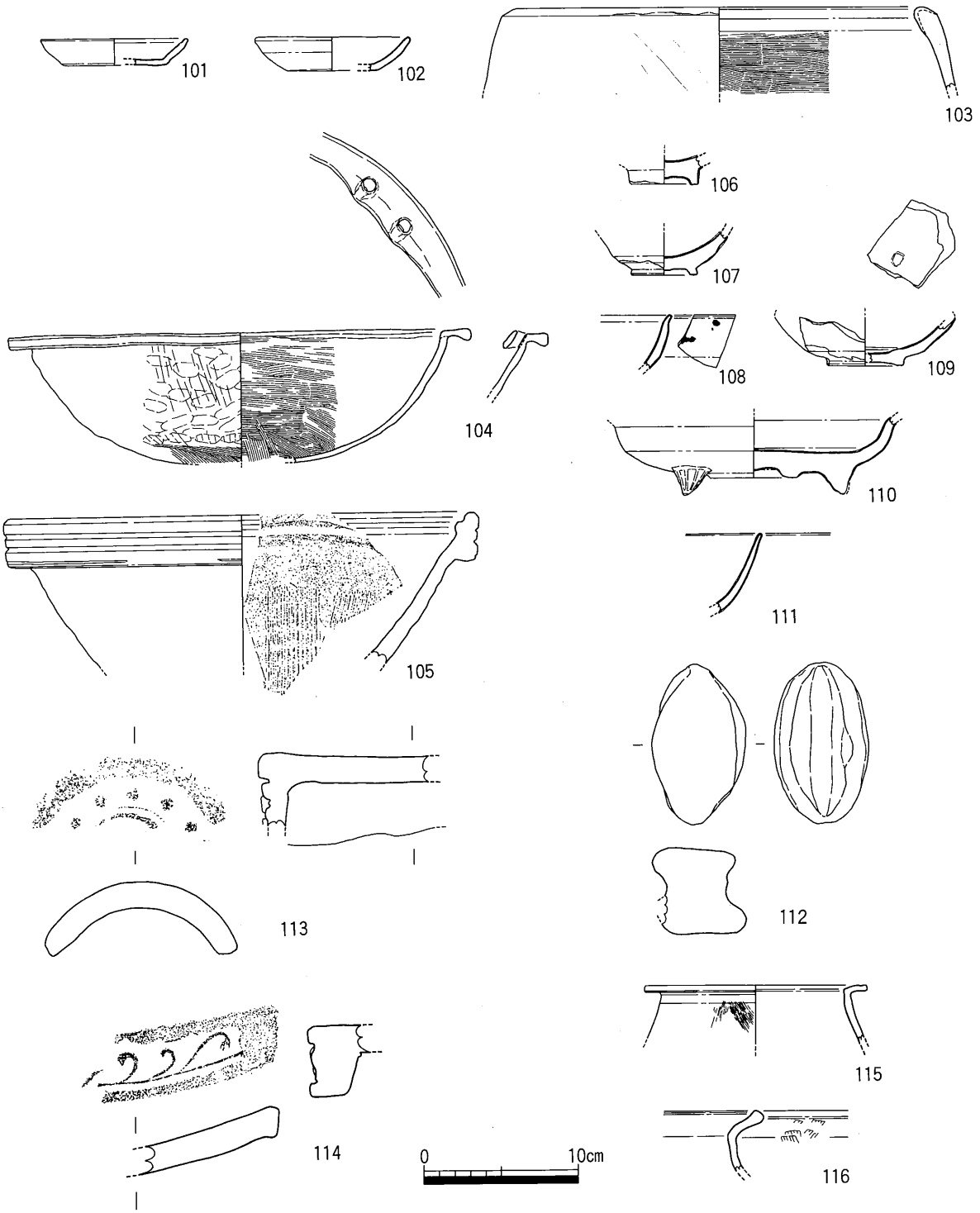
78～81は瀬戸・美濃産の陶器である。78は丸皿，79は折縁皿である。79は内面がいわゆる菊花文である。80・81は天目茶碗である。黒褐色に施釉されている。いずれも口縁端部を小さく外反させる。

82～92は唐津産の陶器である。82～85は皿である。86は大皿の口縁部である。87～91は碗である。89には内面に斜格子状の文様が描かれている。90はいわゆる京焼風陶器と呼ばれているものである。91は刷毛目唐津と呼ばれているものである。

92は転用土製品である。底部を打ち欠いて成形したものである。



第43図　SD01出土遺物実測図(1)



第44図　SD01出土遺物実測図(2)

93は染付の皿である。内面には花文が描かれている。94は磁器の小皿で内面は菊花状を呈する。

95・97は青磁の皿である。97の内面に草木文が片彫りされている。96は染付の皿である。98は白磁のやや深手の皿である。

99・100は弥生土器である。99は高杯の杯部，100は壺の底部であると思われる。恐らく下層の砂層より巻き上げられたものでSD 01とは直接関連のないものと思われる。

101・102は土師器の小皿である。103は土師質の土釜の口縁部である。104は瓦質の土鍋である。内面

2ヶ所に小さく内耳を持ち，吊るすための穿孔を施している。105は備前産の擂鉢である。内面には卸し目を持つ。

106～111は陶磁器類である。110は三足付の鉢の底部である。

112は有溝土錘である。

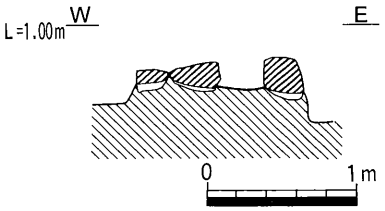
113は三巴文軒丸瓦である。摩滅が著しく調整は不明である。

114は軒平瓦である。中心飾りは欠損しているが，3回転回する唐草が認められ，他の例からみて中心飾りは団栗状のものであると推測される。

115・116は弥生土器の甕の口縁部である。99・100と同様SD 01とは直接関連のないものと思われる。

SD 02（第45図，図版23(1)）

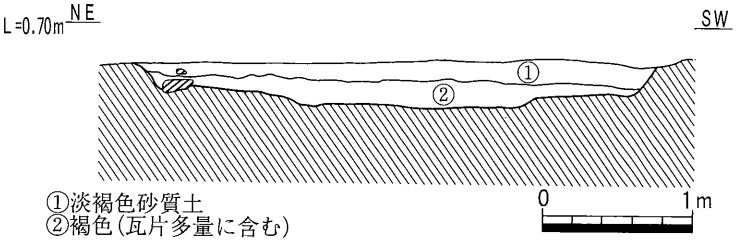
調査区中央やや南よりの部分で検出した石組みの溝状遺構である。SB 01・02のすぐ西側をSB 01と同一の方向に流れている。石材は約15cm程度の角礫を使用しており，平坦な面を内側に向けている。水が流れる部分の幅は約30cmである。この溝状遺構の西側約5mの部分にも同様の溝状遺構を検出した。やはり石組みの溝状遺構で規模もSD 02とほとんど同じである。遺存状況はSD 02ほど良くはない。付図を見ればわかるようにこのSD 02と西側の溝状遺構とに挟まれた約5mの部分には遺構や礫，遺構を構成するような石材等はほとんど認められず，したがって，この空間は道路状の遺構ではないかと考えられる。これを道路と考えるならば，SB 01・02やSD 02等は「屏風」に現れない詳細な部分の遺構を示しているものと考えられる。



第45図　SD02断面図

SD 03（第46図，図版23(2)）

調査区南西隅で検出した溝状遺構である。幅は約1.8m，深さは約30cmで浅いものである。北西から南東へ向かって流れる様相を呈する。調査区南端の部分で南から流れる溝状遺構と合流する。埋土は褐色の砂質土で色調の濃いものと淡いものとに分けられる。埋土中からは多量の遺物が出土している。



第46図　SD03土層断面図

第47～52図はSD 03から出土した遺物の実測図である。

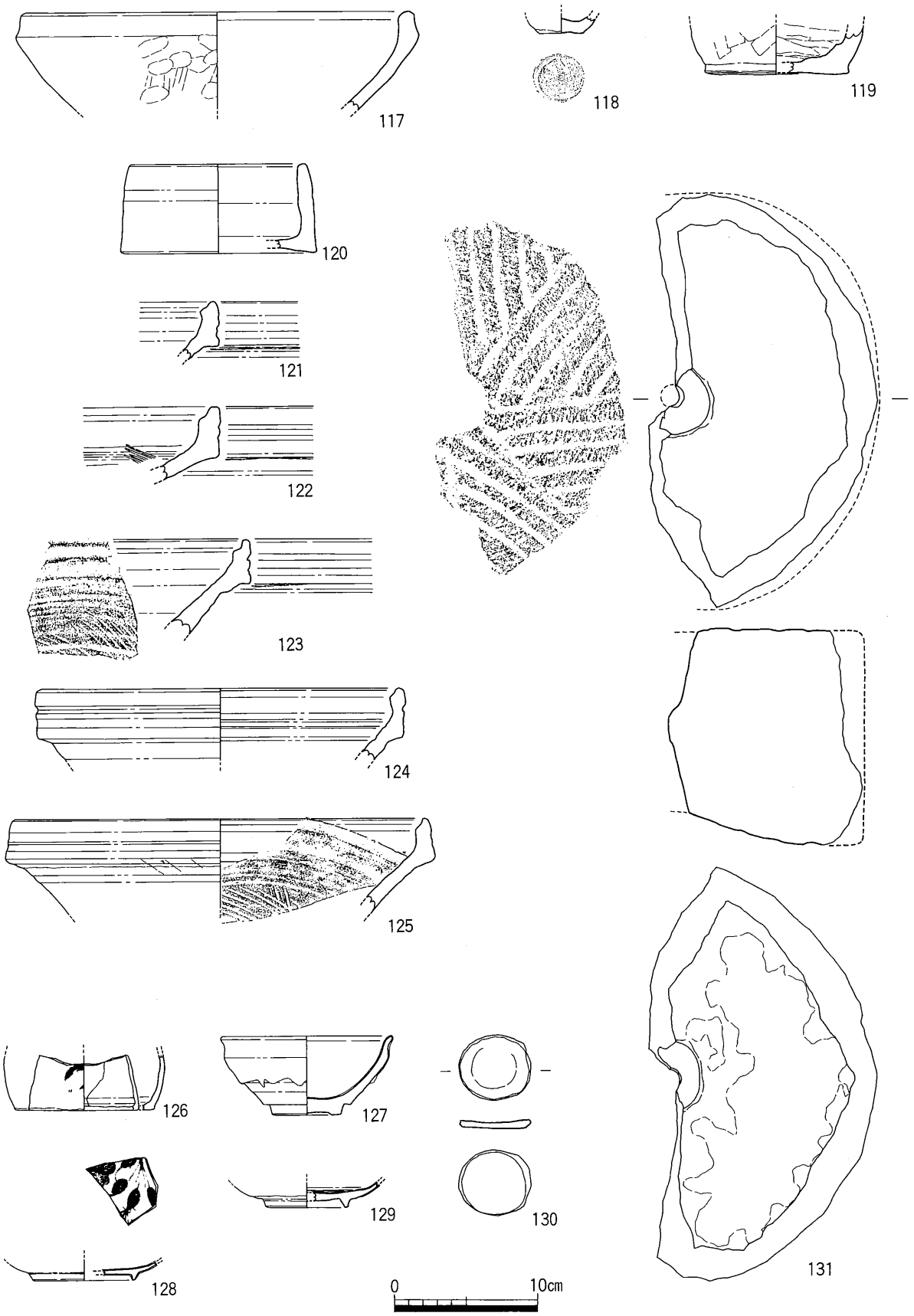
117は土師質のこね鉢である。118～125は備前産の陶器である。118は小型の壺の底部である。底部外面には明瞭に糸きり痕が認められる。120は直口の小型の鉢である。121～125は擂鉢である。いずれも口縁部外面が平坦な帯状を呈する。

126は陶器である。外面に文様が描かれているが，内容は不明である。127は天目茶碗である。口縁端部をやや外側に屈曲させる。128・129は磁器の皿である。128の内面には花文が描かれている。

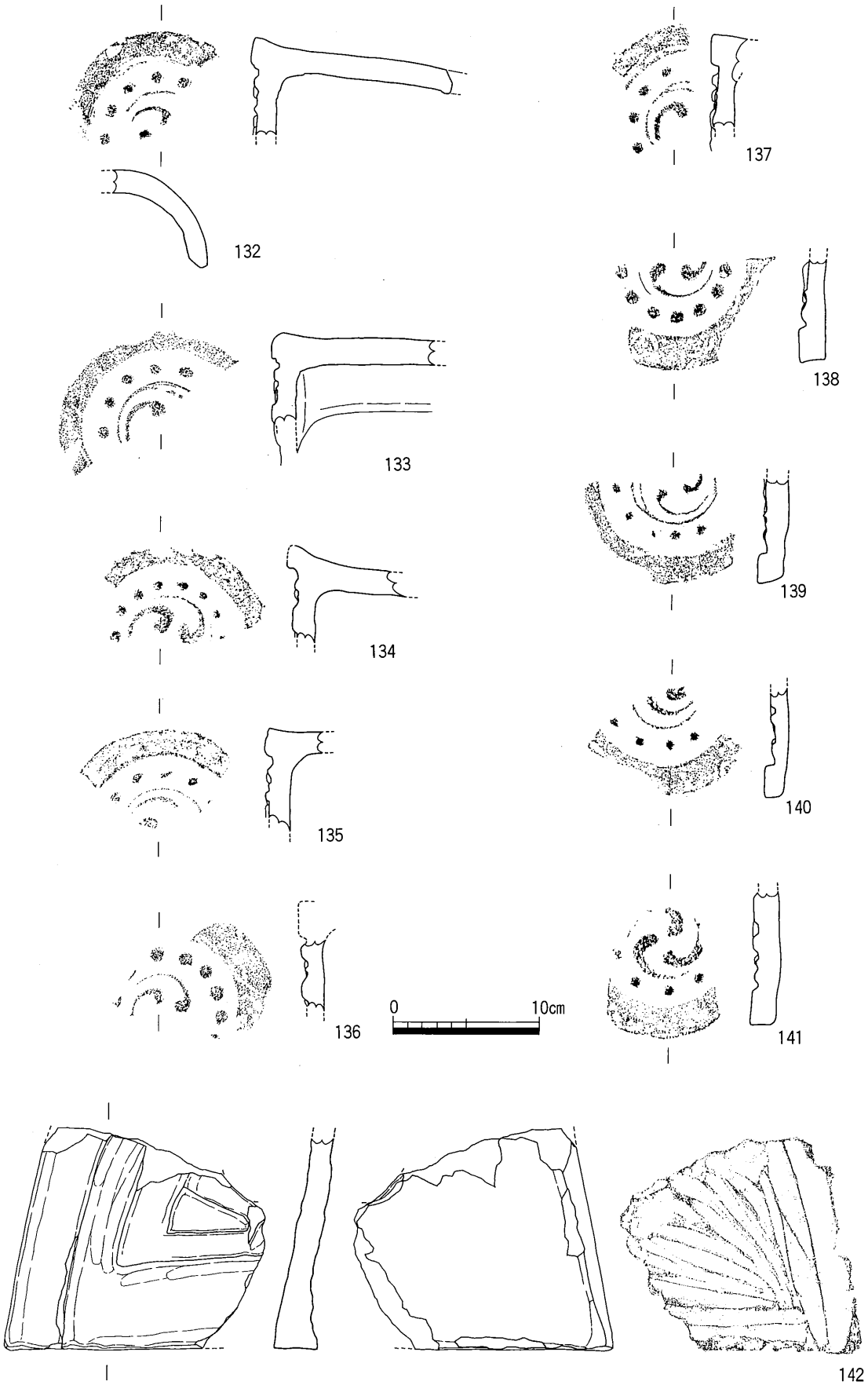
130は転用土製品である。備前産の陶器の底部を打ち欠いて加工したものである。

131は石臼である。上段に使用される石で裏面に粉を誘導する溝状の筋が認められる。

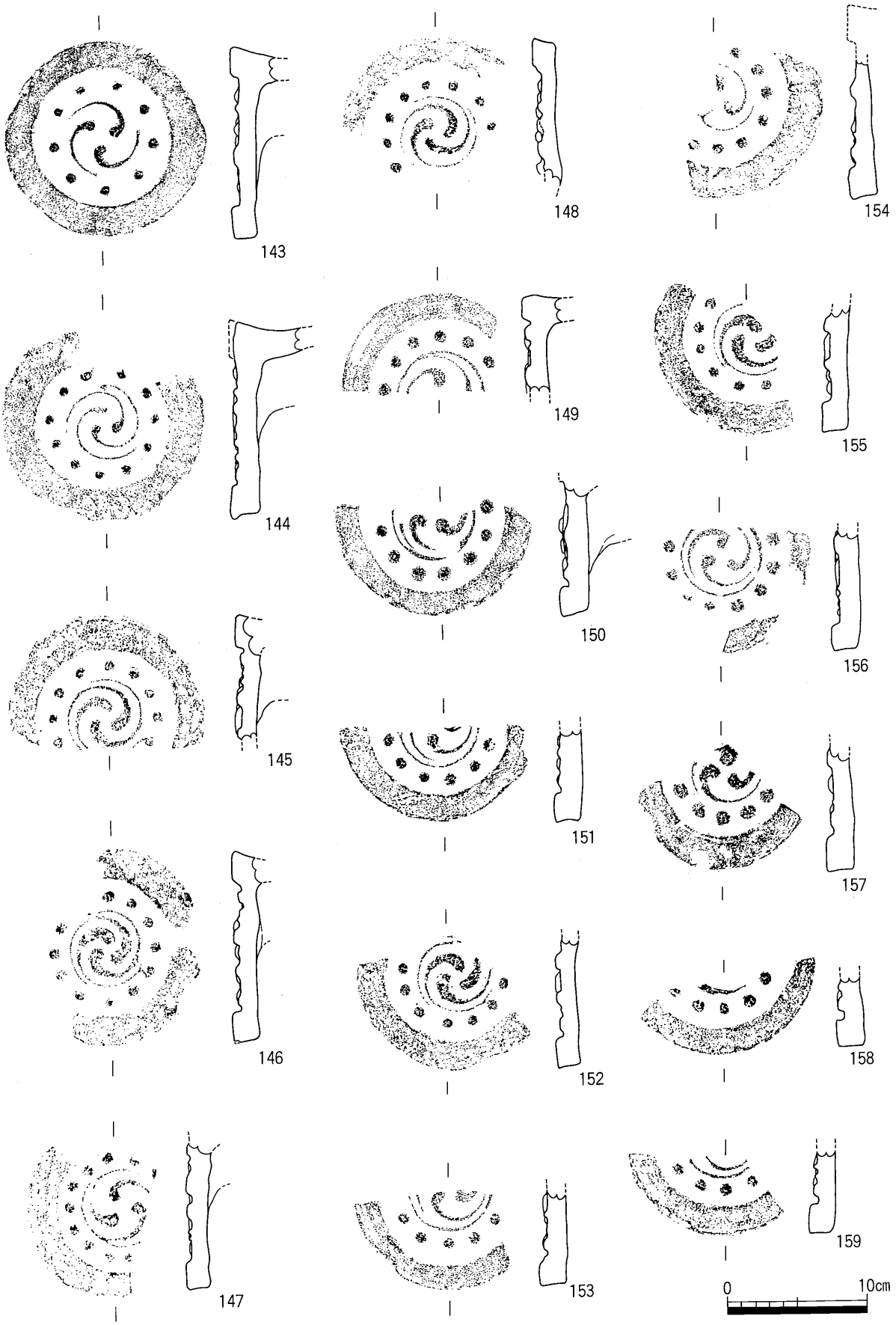
132～141・143～159は軒丸瓦である。142は鬼瓦の一部であると思われる。軒丸瓦には135・139・150・



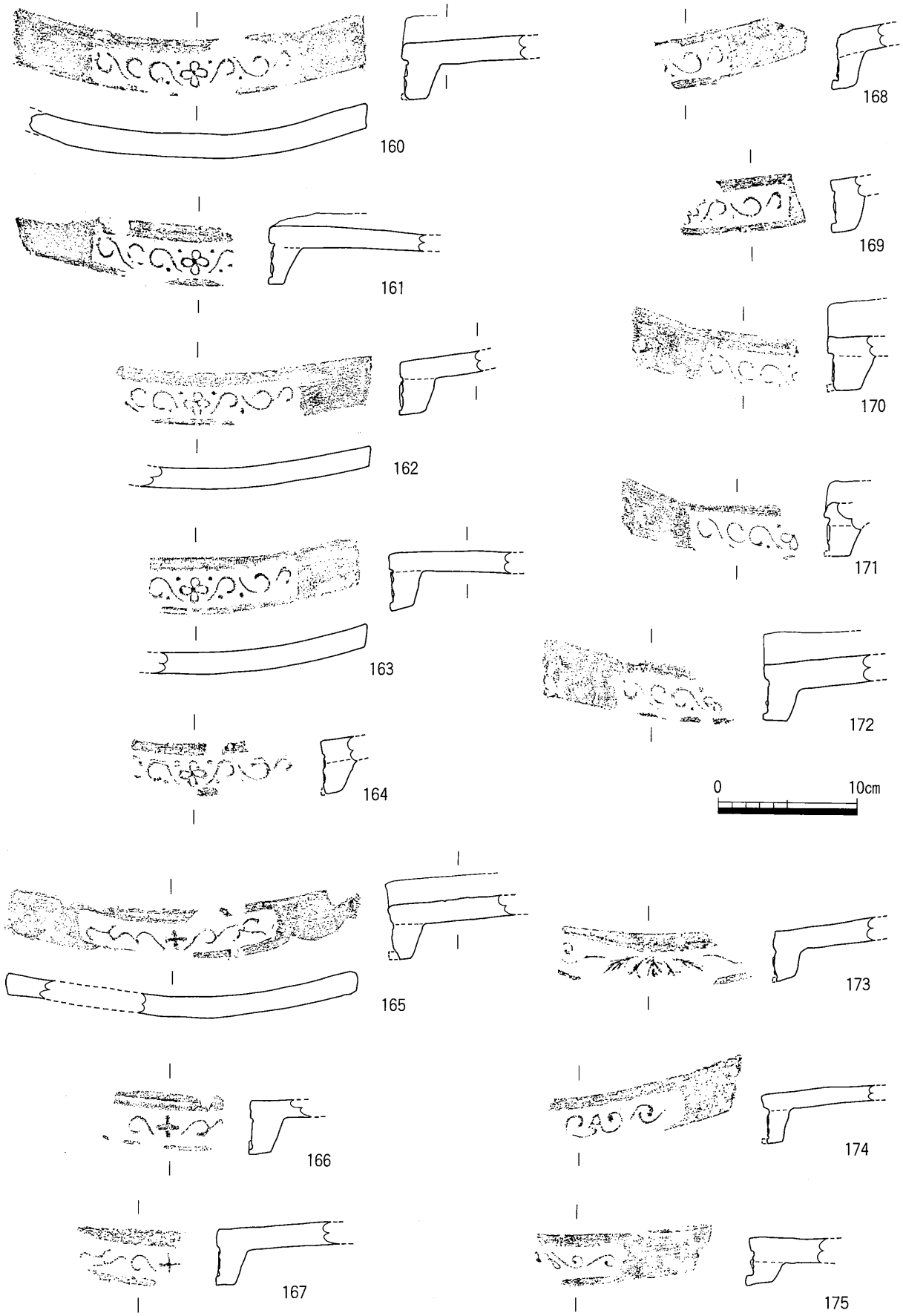
第47図　SD03出土遺物実測図(1)



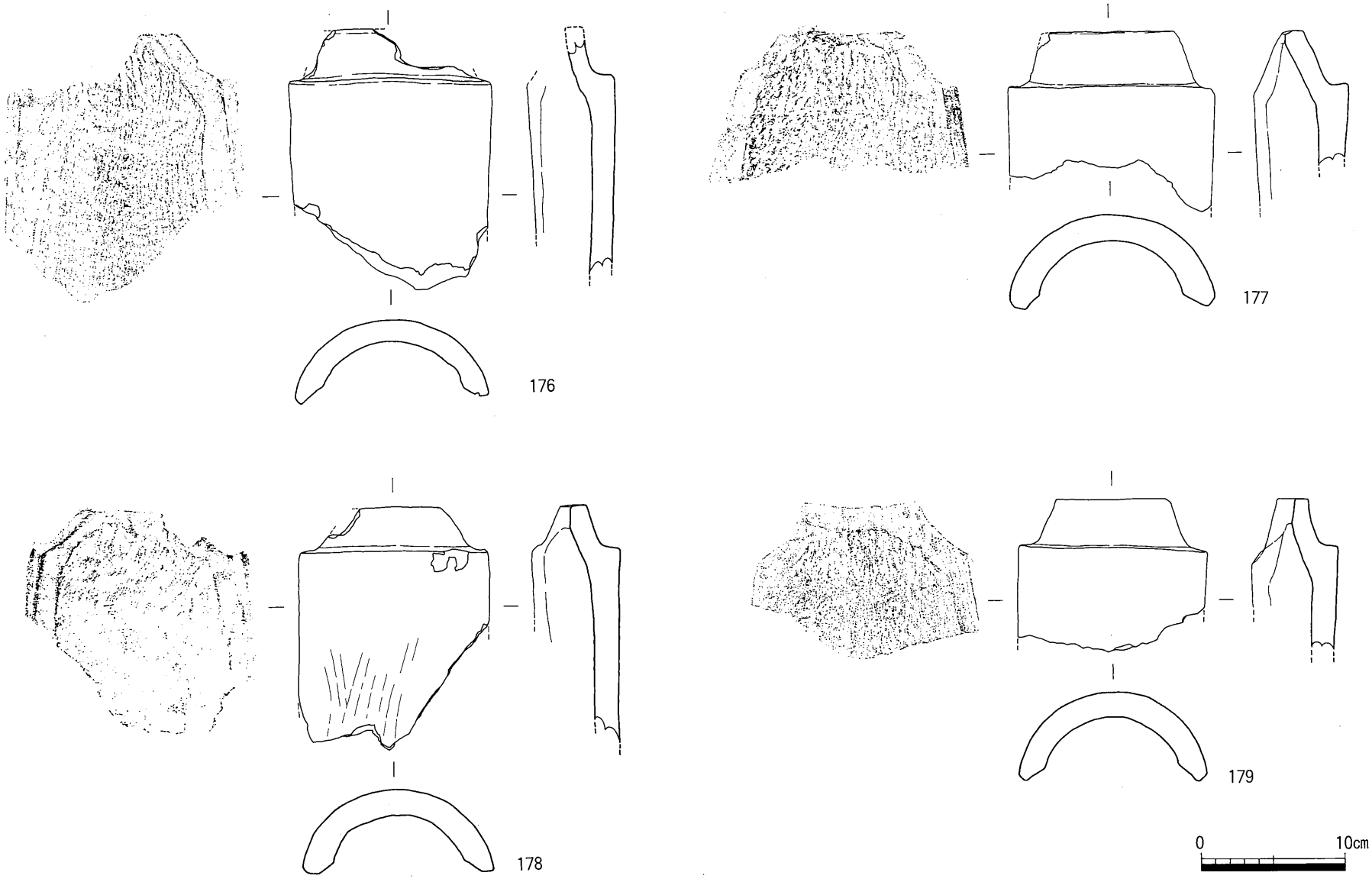
第48図　SD03出土遺物実測図(2)



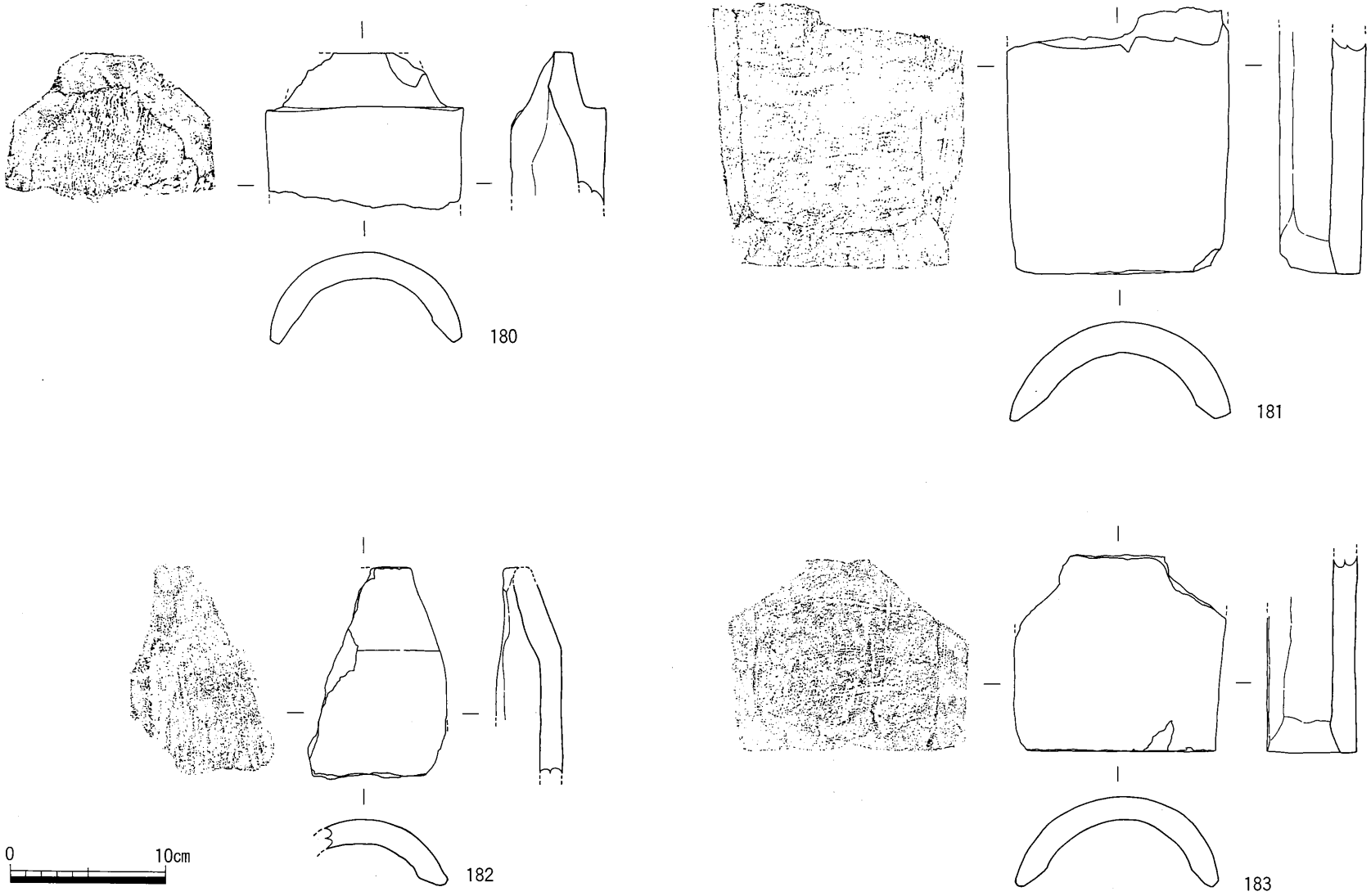
第49図　SD03出土遺物実測図(3)



第50図　SD03出土遺物実測図(4)



第51図　SD03出土遺物実測図(5)



第52図　SD03出土遺物実測図(6)

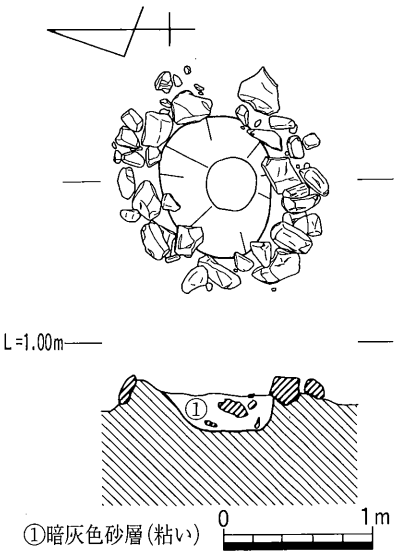
151・153・156・159のように三巴文の周囲に圏線の巡るもの，133・134・137・140・147・149・152・155のように三巴文の尾が重なり圏線状を呈するもの，138・144・145・146・148のように尾の巻き込みの著しいもの等に分類される。

160～175は軒平瓦である。160～164，168～172は同范もしくは同文関係にあるものである。中心飾りは四葉状を呈し，唐草が3回転回する。中心飾り上部の左右と第一子葉の下部，第一子葉と第二子葉との間の下部に珠文が施されている。165～167も同范もしくは同文関係にある軒平瓦である。中心飾りは十字文様，子葉は3回転回する。173は中心飾りが下向きの五葉の軒平瓦である。

176～183は丸瓦である。いずれも凹面に布目痕が認められる。182はいわゆる行基葺きと呼ばれる丸瓦である。

SE 01（第53図，図版24(2)・25(1)(2)・26(1)）

調査区北西隅で検出した井戸跡と考えられる石組みの遺構である。検出時には，内部に石材がかなり落ち込んでいたため，墓の可能性も考えて調査を行ったが，石材を取り除いた結果，円形に石材が巡らされていることが判明したため，井戸跡であるとの結論に至った。直径は約1mのややいびつな楕円形を呈する。遺存状況は悪く，深さも約40cmで底面を検出した。埋土中からは遺物はほとんど出土しなかった。



第53図　SE01平・断面図

SE 02（第54図，図版26(2)）

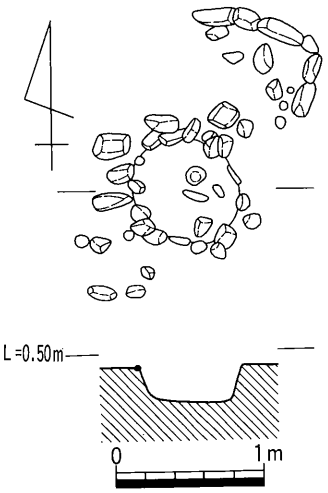
調査区北東部SX 07の東側で検出した井戸跡と考えられる石組みの遺構である。直径15cm程度の円礫を円形に配した状態で検出した。遺存状況は悪く，深さも約40cmで底面を検出した。

第55図はSE 02から出土した遺物の実測図である。

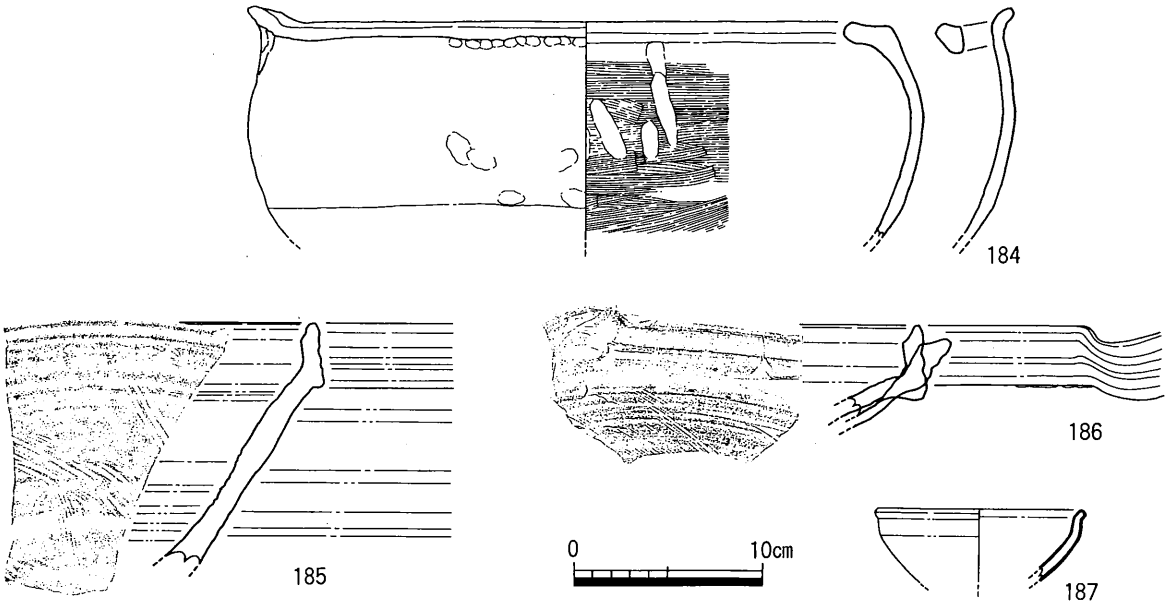
184は土師質の土鍋である。内湾する体部からやや外反する口縁部を持つ。2ヶ所に内耳を持ち，1個の穿孔を施している。

185・186は備前産の擂鉢である。185の内面には渦巻き状の卸し目が認められる。

187は瀬戸・美濃産の天目茶碗である。口縁端部はやや折り返して外反する。



第54図　SE02平・断面図



第55図　SE02出土遺物実測図

SE 03（第56図，図版27(1)(2)）

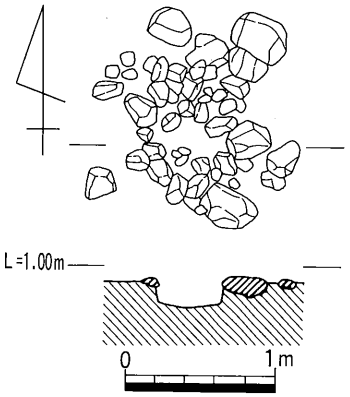
調査区中央やや北西よりの部分で検出した井戸跡と考えられる石組みの遺構である。規則的に並んだ石列群の内部で検出された。円礫を円状に配したもので，遺存状況は悪く，深さわずか20cmで底面を検出した。

第57図はSE 03から出土した遺物の実測図である。

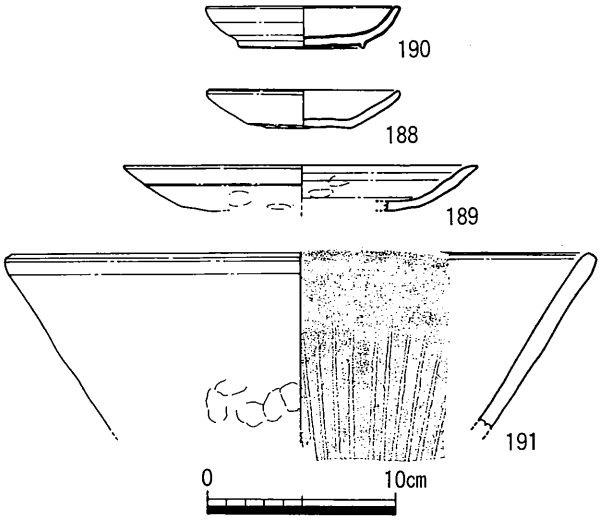
188は土師器の杯，189は土師器の皿である。

190は瀬戸・美濃産の丸皿である。淡黄緑色に施釉されている。

191は鉢の破片である。



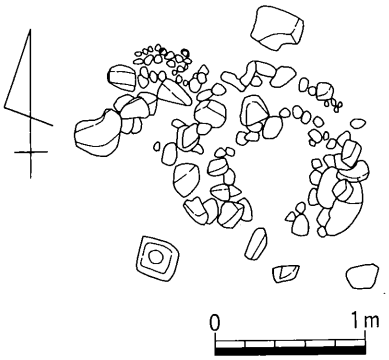
第56図　SE03平・断面図



第57図　SE03出土遺物実測図

SE 04（第58図）

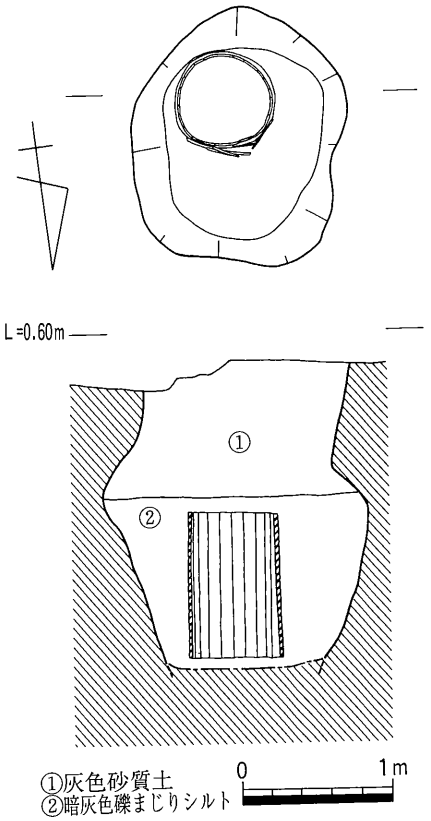
調査区西辺中央部で検出した井戸跡と考えられる石組みの遺構である。すぐ東側には規則的に並んだ石列が認められた。この石列の一番西側の石は一辺15cmの方形に加工した石材で中央部に直径７cm程度の円形のくぼみが認められる。これは扉の軸受けに利用されたものではないかと考えられる。したがってこの井戸跡には上屋が存在していたものと考えられる。また，この石列は先述したSB 01等の主軸方位と直交する方位を示しており，これらの遺構と同一時期に所在したものと考えられる。



第58図　SE04平面図

SE 05（第59図，図版28(1)）

調査区南東部で検出した井戸跡と考えられる遺構である。長径約２m，短径約1.5mの楕円形を呈し，深さは２m以上を測る。埋土は灰色砂質土と礫混じりのシルトの２層に大別される。２層目から袋状に掘方が拡張する。SE 05は他の井戸跡とは違い，素掘である。掘方南よりの部分には，高さ1.2mの組物の井戸枠が設置されていた。厚さ約７mm，幅10cm程度の板材を組み合わせて竹製のタガで止めていた。埋土中からは瓦や陶磁器類が出土した。



第59図　SE05平・断面図

第60・61図はSE 05から出土した遺物の実測図である。

192・193は土師器の杯である。

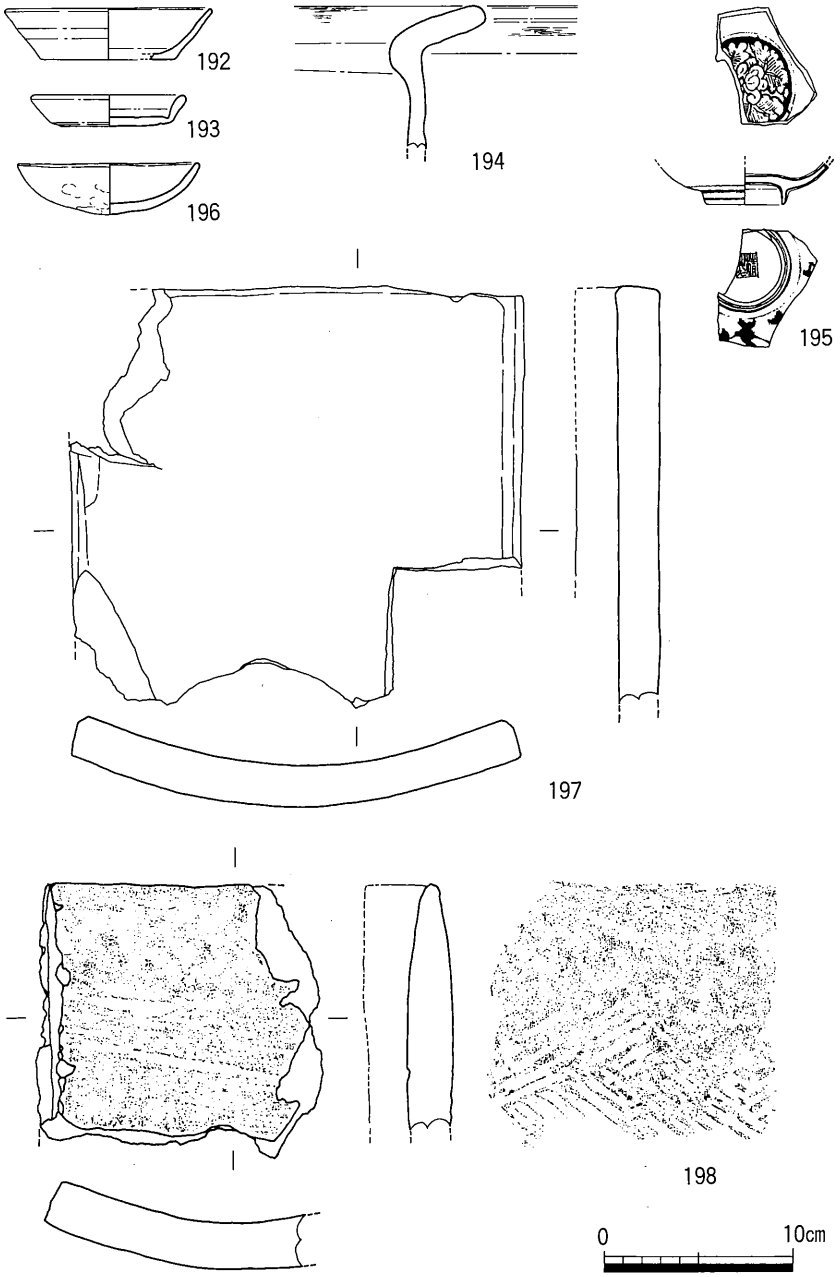
194は瓦質の土鍋の口縁部である。端部は外側に大きく折り曲げ，肥厚させている。

195は染付の碗である。見込および外面には草花文が描かれている。高台内部には四角の銘が描かれているが判読できない。見込はいわゆる亀腹と呼ばれる中央部がやや盛り上がった状態のものである。16世紀末ごろに中国の景徳鎮で製作されたものであろう。

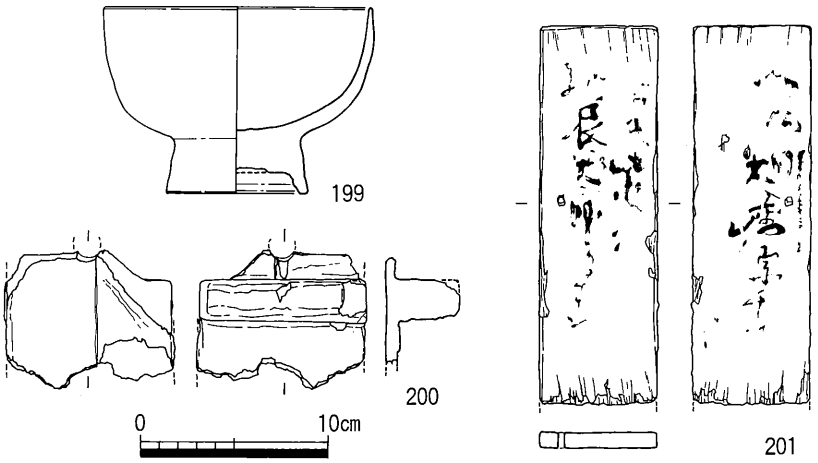
196は弥生土器の鉢である。下層の砂層からの混入と考えられる。

197・198は平瓦である。197は側面にも丁寧にヘラ状の工具で調整をした痕跡が認められる。198は凹面に布目，凸面には斜格子状のタタキ調整の痕跡が認められる。いずれも丁寧な作りをしている。

199は木製の椀である。内外面ともに漆を塗布していたものと考えられるが，遺存状況は悪い。200は木製の下駄の一部である。上部に鼻緒を通す穴が１個あいている。201は不明木製品である。板状を呈し，表裏いずれにも墨書が認められる。中央左側には１ヶ所に穿孔が認められ，紐状のものを通すためのものではないかと考えられる。墨痕は薄く，判読はほとんどできないが「辰太郎」と読める部分があることからどちらかが差出人で，どちらかが受取人，という荷物に付いていた荷札ではないかと考えられる。



第60図　SE05出土遺物実測図(1)



第61図　SE05出土遺物実測図(2)

SE 06（第62図，図版29(2)・30(1)）

調査区南東隅で検出した石組みの井戸跡と考えられる遺構である。掘方の直径は約３m，井戸の部分の内径は約80cmである。深さは1.5m以上ですべて礫を積み上げて構築している。埋土はシルトと砂層の２層に大別できる。埋土中からは瓦や陶磁器類が出土している。

第63・64図はSE 06から出土した遺物の実測図である。

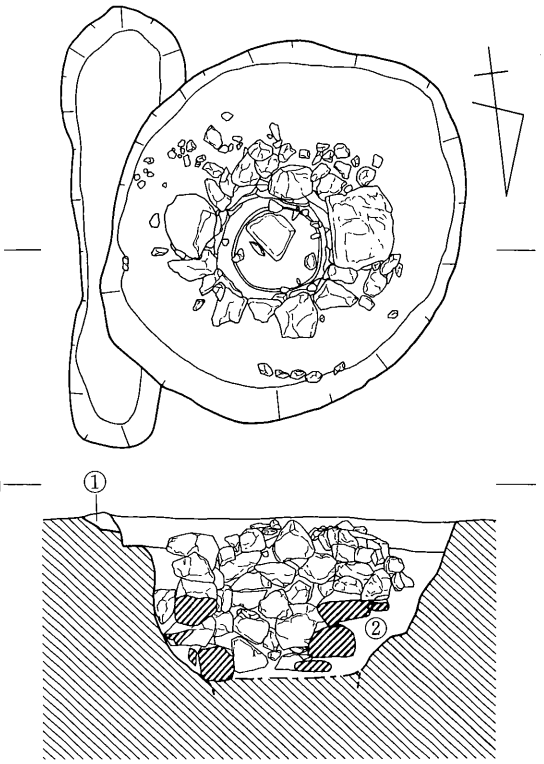
202は土師質の大型の鉢の口縁部である。203は土師器の杯である。

204は土師器の椀である。205は瓦器である。

206・207は瓦質の土鍋である。口縁部は端部を外側に大きく折り曲げ，肥厚させている。２ヶ所に内耳を持ち，吊り手用の穴を２個あけている。内面には縦方向のやや粗いハケ目，外面には細かいハケ目調整の痕跡が認められる。

208～213は唐津産の陶器である。212は見込にトチンの痕跡が４ヶ所に認められる。

214～216は瀬戸・美濃産の陶器である。214は天目茶碗である。



第62図　SE06・SX12平・断面図

217は陶器の大型の鉢である。高台付近は無釉でそれ以外には白色の釉が施釉されている。

218は備前産の大型の皿である。口縁端部は内側にわずかに折り曲げておさめている。

219・220は染付である。口縁部内面に帯状に花文が描かれている。221は青磁の碗である。

222は転用土製品である。

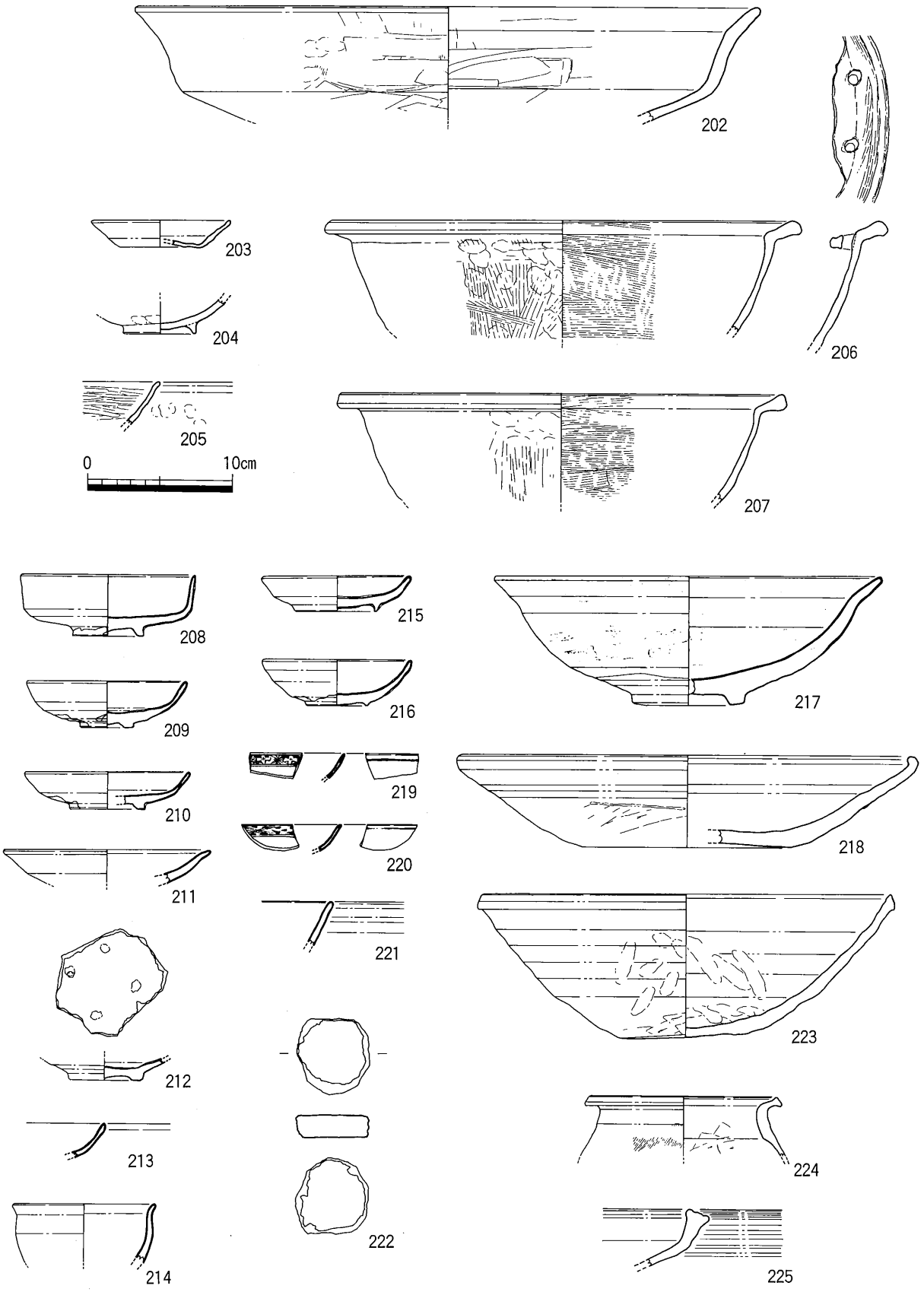
223は須恵器のこね鉢である。いわゆる東播系須恵器と呼ばれる東播磨一帯で作られていたものである。内面には使用した痕跡が全く認められず，未使用のまま何らかの事情で埋没したのであろう。形態等からみて13世紀ごろのものと考えられる。下層の砂層からの混入で直接SE 06とは関連はないものと考えられる。

224は弥生土器の甕の口縁部，225は弥生土器の高杯の口縁部である。弥生時代後期前半のものと考えられ，いずれも下層よりの混入であると考えられる。

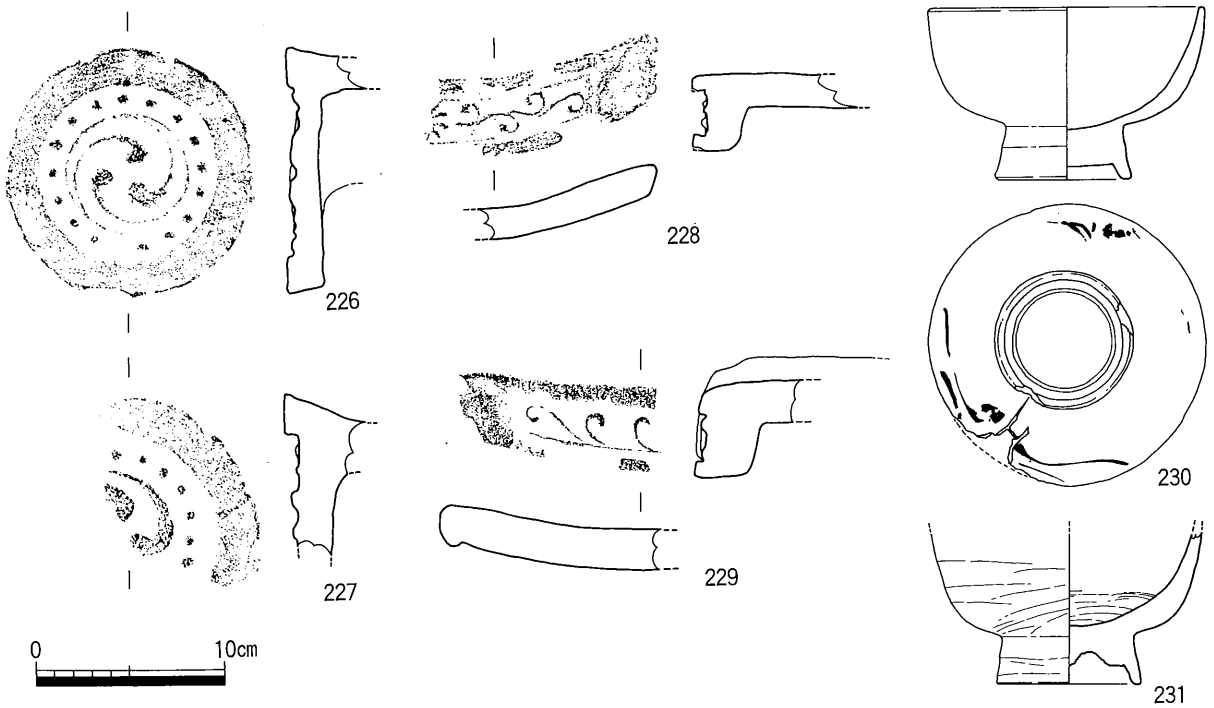
226・227は三巴文軒丸瓦である。226は尾の巻き込みが大きく圏線状を呈する。珠文は，16個と多く，大きさは小さい。これらは古い様相を示している。

228・229は軒平瓦である。228は中心飾りが花弁状を呈するもので唐草が上下２段で２回転回する。229は中心飾りは欠損しているが，唐草が３回転回するもので中心飾りは団栗状を呈するものであると推測される。

230・231は木製の椀である。いずれも表面に漆を塗布している。特に230は外面に黒漆を塗布した後に赤漆で草木文を描いている。



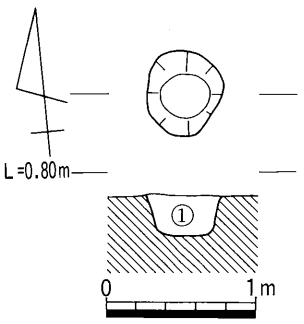
第63図　SE06出土遺物実測図(1)



第64図　SE06出土遺物実測図(2)

SK 03（第65図，図版31(2)・32(1)）

調査区北東部 SX 07の南側で検出した土坑である。直径50cm，深さ30cmを測る。埋土は暗茶色砂層の単一層で，若干の遺物が出土しているが図示できるものはなかった。



①暗茶色砂層（粘い）

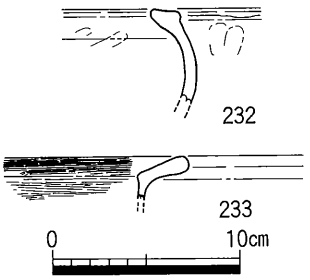
第65図　SK03平・断面図

SK 04

第66図は SK 04から出土した遺物の実測図である。

232は土師質の土鍋の口縁部である。内湾する体部を持ち，口縁端部は肥厚させ，上部に平坦面を持つ。

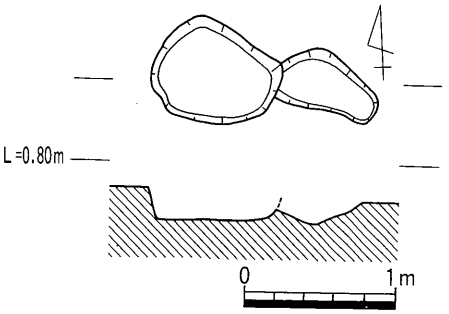
233は瓦質の土鍋の口縁部である。口縁端部は大きく折り曲げている。内面に細かいハケ調整が認められる。



第66図　SK04出土遺物実測図

SK 05・SK 06（第67図）

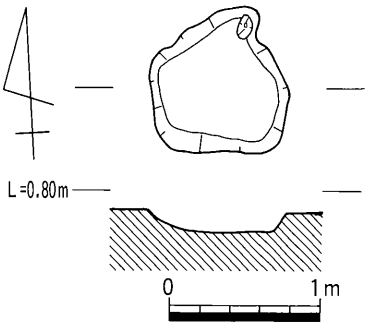
調査区中央東より，石垣の下層で検出した土坑である。切り合い関係からSK 05の方が先行する。SK 05はSK 06に切られているため，長径は不明であるが，短径は40cmを測る。SK 06は直径80cmのややいびつな円形を呈する。いずれも深さは20cm程度である。埋土中からはほとんど遺物は出土しなかった。



第67図　SK05・SK06平・断面図

SK 07（第68図）

同じく石垣の下層から検出した土坑である。いびつな五角形を呈する。南北方向約1m，東西方向約80cmを測り，深さは約20cmを測る。埋土中からはほとんど遺物は出土しなかった。



第68図　SK07平・断面図

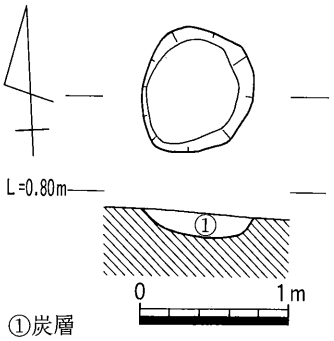
SK 08（第69図）

これまでの土坑と同様，石垣の下層で検出した土坑である。直径80cmのほぼ円形を呈する。深さは約20cmを測る。中からは炭化物が詰まった状態で検出された。

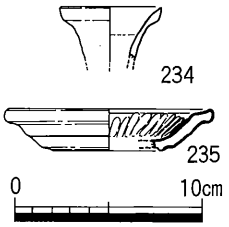
第70図はSK 08から出土した遺物の実測図である。

234は備前産の細頸の壺の口縁部である。花入の可能性もある。

235は瀬戸・美濃産の折縁皿である。体部内面は菊花状を呈している。



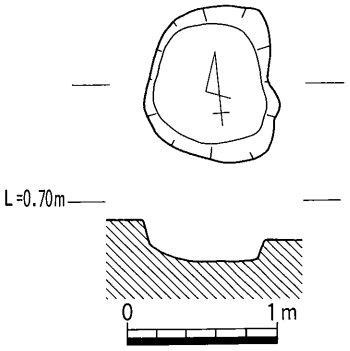
第69図　SK08平・断面図



第70図　SK08出土遺物実測図

SK 09（第71図）

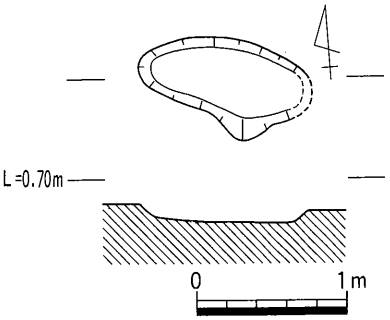
やはり，石垣の下層から検出した土坑である。南北１m，東西80cmの楕円形を呈する。深さは約30cmであったが，埋土中からはほとんど遺物は出土しなかった。



第71図　SK09平・断面図

SK 10（第72図）

やはり，石垣の下層から検出した土坑である。南北60cm，東西１mの楕円形を呈する。深さは10cmと非常に浅く，埋土中からはほとんど遺物は出土しなかった。



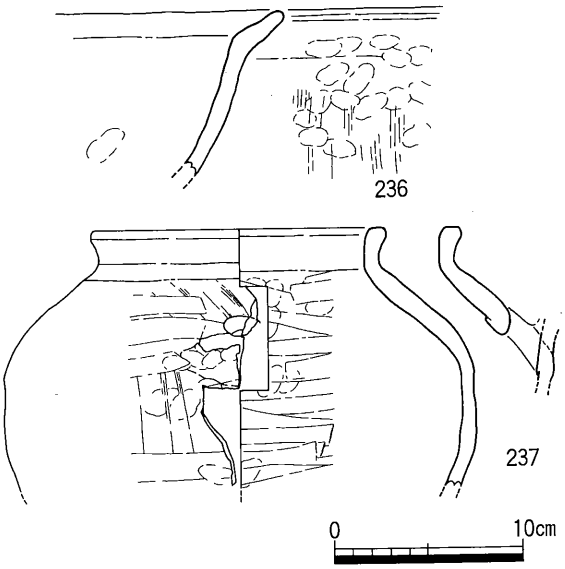
第72図　SK10平・断面図

SK 12

調査区中央部やや西よりの部分で検出した大型の土坑である。北側が広がるややいびつな三角形を呈している。東西３m，南北４m，深さ80cmを測る。埋土は砂質土と砂層の２層に大別できる。

第73図はSK 12から出土した遺物の実測図である。

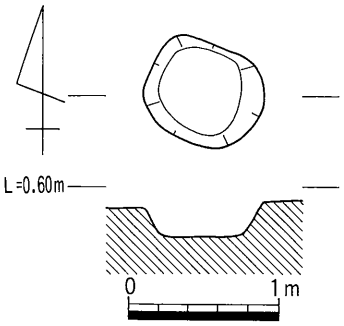
236は土師質の土鍋の口縁部である。237は土師質の土釜である。２ヶ所に把手を持ち，穿孔を施している。



第73図　SK12出土遺物実測図

SK 13（第74図）

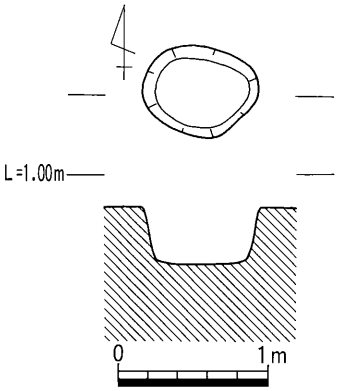
調査区南西隅で検出した土坑である。直径60cmの円形を呈する。深さは約20cmを測る。埋土中からはほとんど遺物は出土しなかった。



第74図　SKI3平・断面図

SK 14（第75図）

調査区南端で検出した土坑である。直径50cmの円形を呈する。深さは約40cmを測る。埋土中からはほとんど遺物は出土しなかった。



第75図　SKI4平・断面図

SX 11（第76図，図版32(2)）

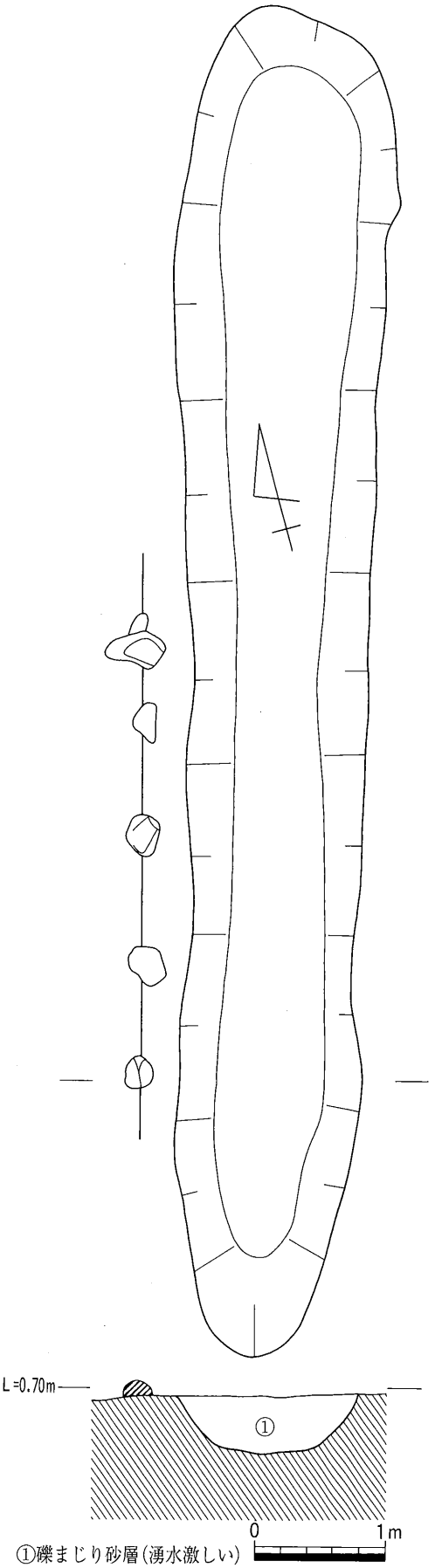
調査区中央北よりの部分で検出した遺構である。東西1m，南北10.3mの長楕円形を呈する。断面形はU字形を呈し，深さは70cmを測る。埋土は小礫を多量に含む砂層であり，瓦をはじめ，土器類が出土している。

第77図はSX 11から出土した遺物の実測図である。

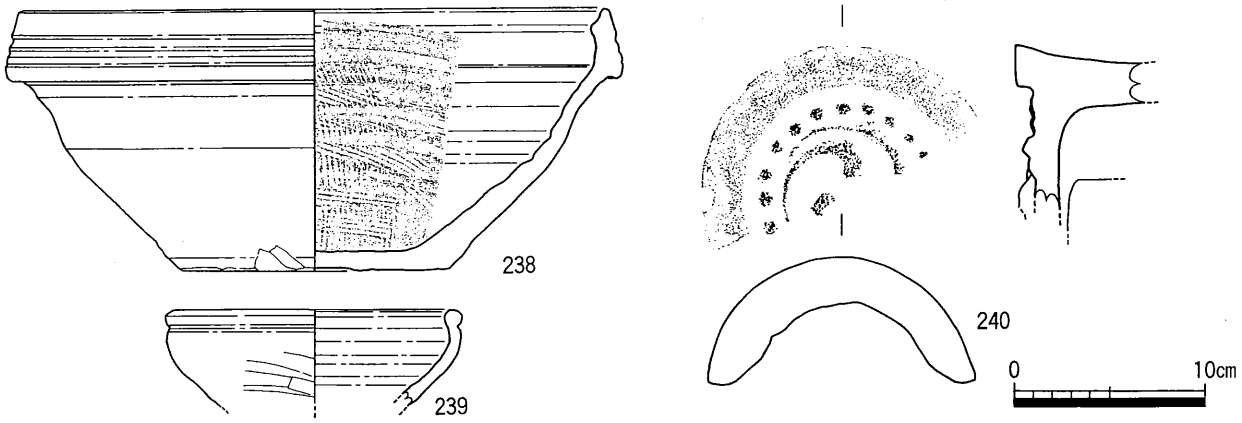
238は備前産の擂鉢である。大きく肥厚させた口縁部を持つ。

239は備前焼の鉢である。

240は三巴文軒丸瓦である。尾の巻き込みが大きく，珠文の数も多く，小さい。丸瓦部の厚みも厚く，これらは古い様相を示している。



第76図　SXII平・断面図



第77図　SXII出土遺物実測図

SX 12（図版29(2)）

調査区で検出した遺構である。

第78図はSX 12から出土した遺物の実測図である。

241は土師器の小皿である。242は土師器の杯である。

243～247は瀬戸・美濃産の陶器である。243は丸皿で成形後，花文を印刻したのちに施釉している。印刻はラフだがのびのびとした作風で16世紀後半ごろのものと考えられる。244・245は折縁皿で，244は内面が菊花状を呈している。246・247は天目茶碗である。体部の下方から高台にかけては無釉である。口縁端部はわずかに外側に折り曲げている。

248は備前産の擂鉢の底部である。

249～252は瓦質の土鍋である。いずれも同じ形態を持ち，大きく外側に折り曲げて肥厚させた口縁端部を持ち，内耳を2ヶ所持つ。内耳には2個穿孔されており，吊るせるようになっている。

253は坩堝である。浅い逆円錐形を呈し，一方に溶解した金属を流す口が付いている。全体に溶解した金属が付着している。

SX 13（第79図，図版33(1)(2)）

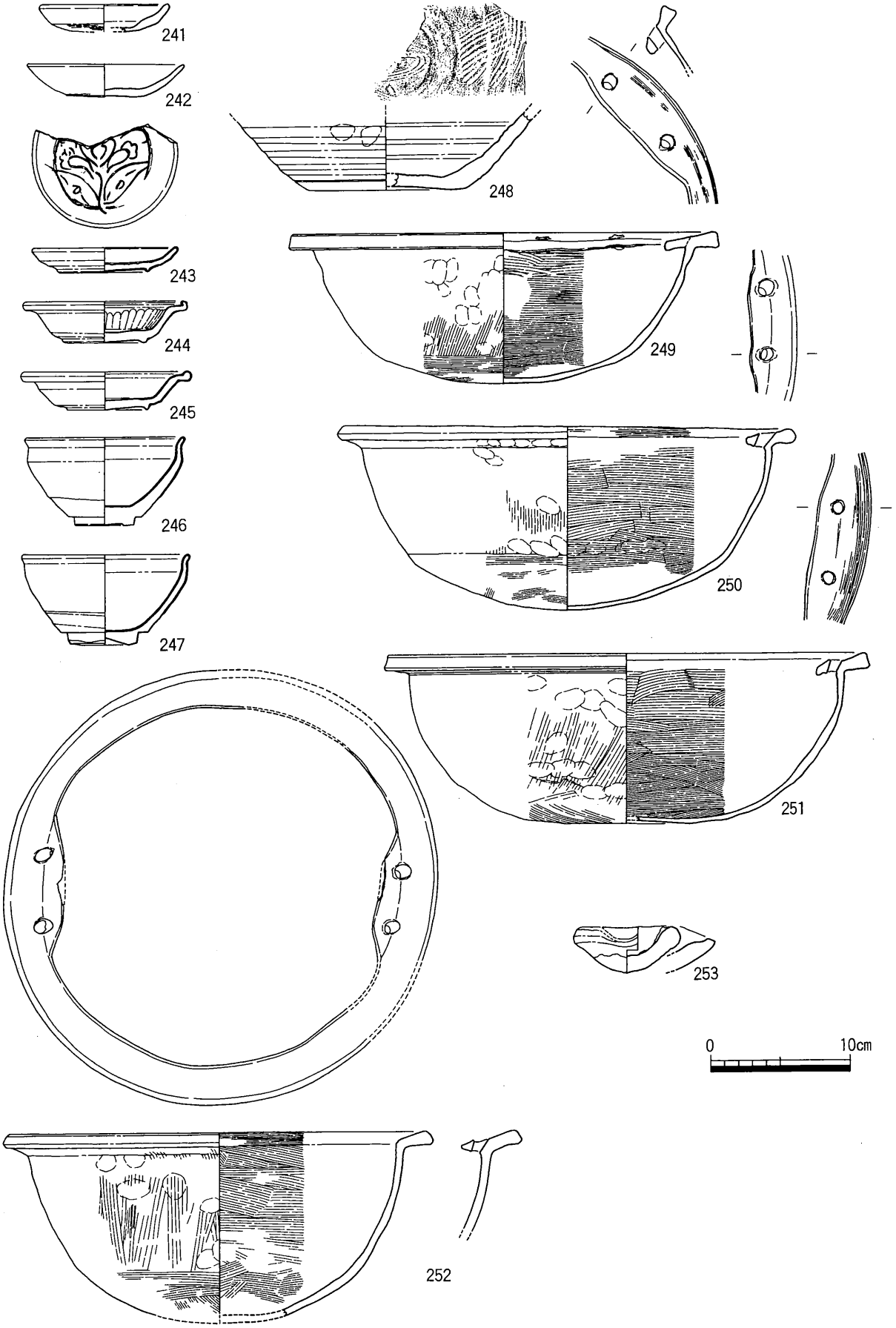
調査区西端で検出した石組みの遺構である。検出時の平面形は方形であるが，北側は円弧を描いている。全体の規模は，南北方向で約8m，東西方向は西端が調査区外へ延びているため，正確には把握し難いが，約2.8mと推測される。深さは約1mを測る。石組みは約40cm四方の花崗岩を加工して使用しており，2段もしくは3段ほど積んでいる。北半分は比較的似通った大きさの石材を規則的に積んでいるが，南半分は最下段の石材は北半分の石材とほぼ同規模であるが，上部には小礫を敷き詰めている。
また，南端の部分には一辺20cm，長さ1.5mの方柱状の石材を階段として使用している。

この遺構は南側に昇降用の施設を持つことや石組みの緻密さなどから考えて水溜用の施設ではないかと考えられる。同様の遺構は滋賀県の安土城跡で確認されている。安土城跡でも水溜用の施設ではないかと推測している。

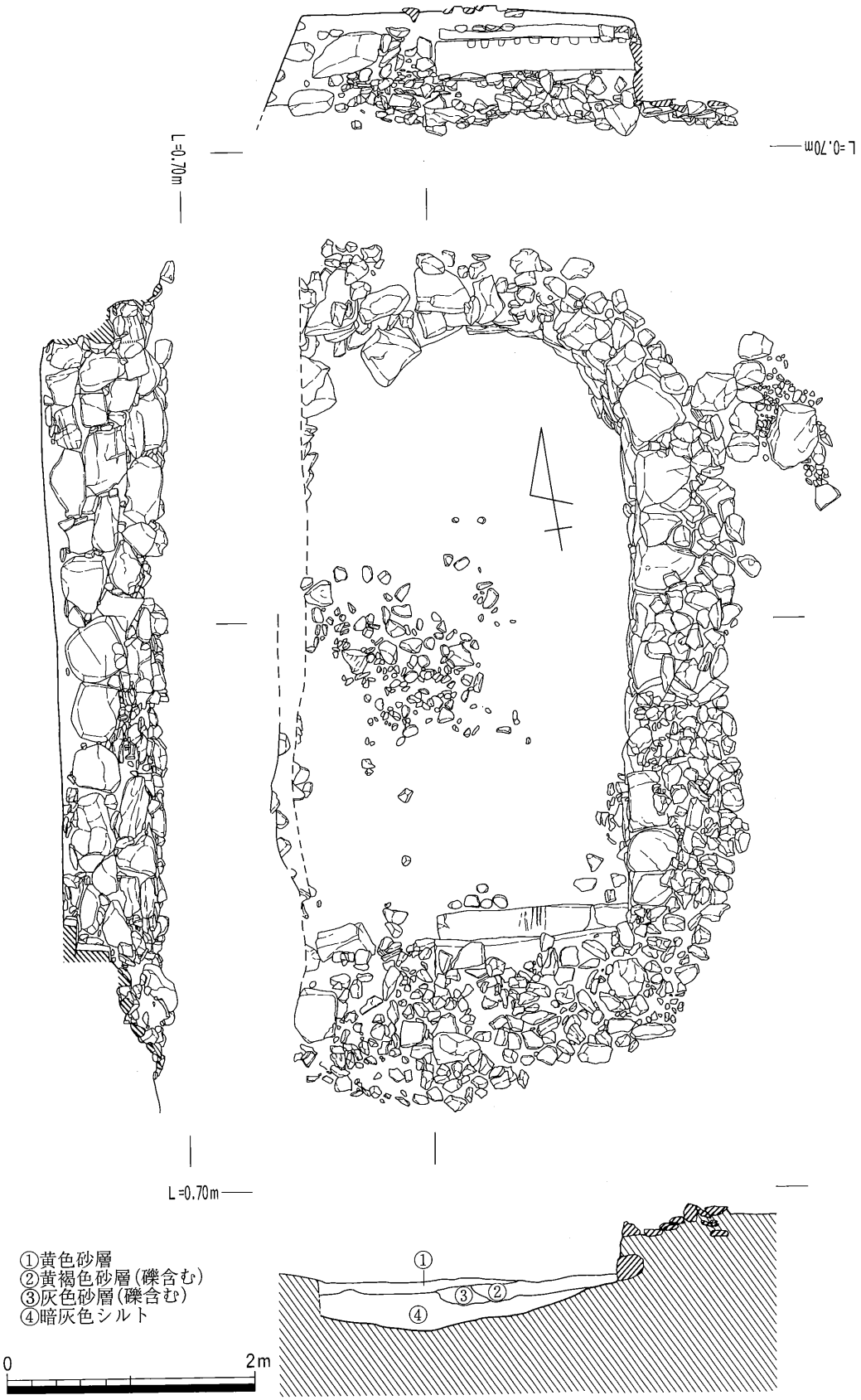
第80図はSX 13の埋土中および裏込め土から出土した遺物の実測図である。

254は土師器の小皿である。255は土師質の土鍋である。

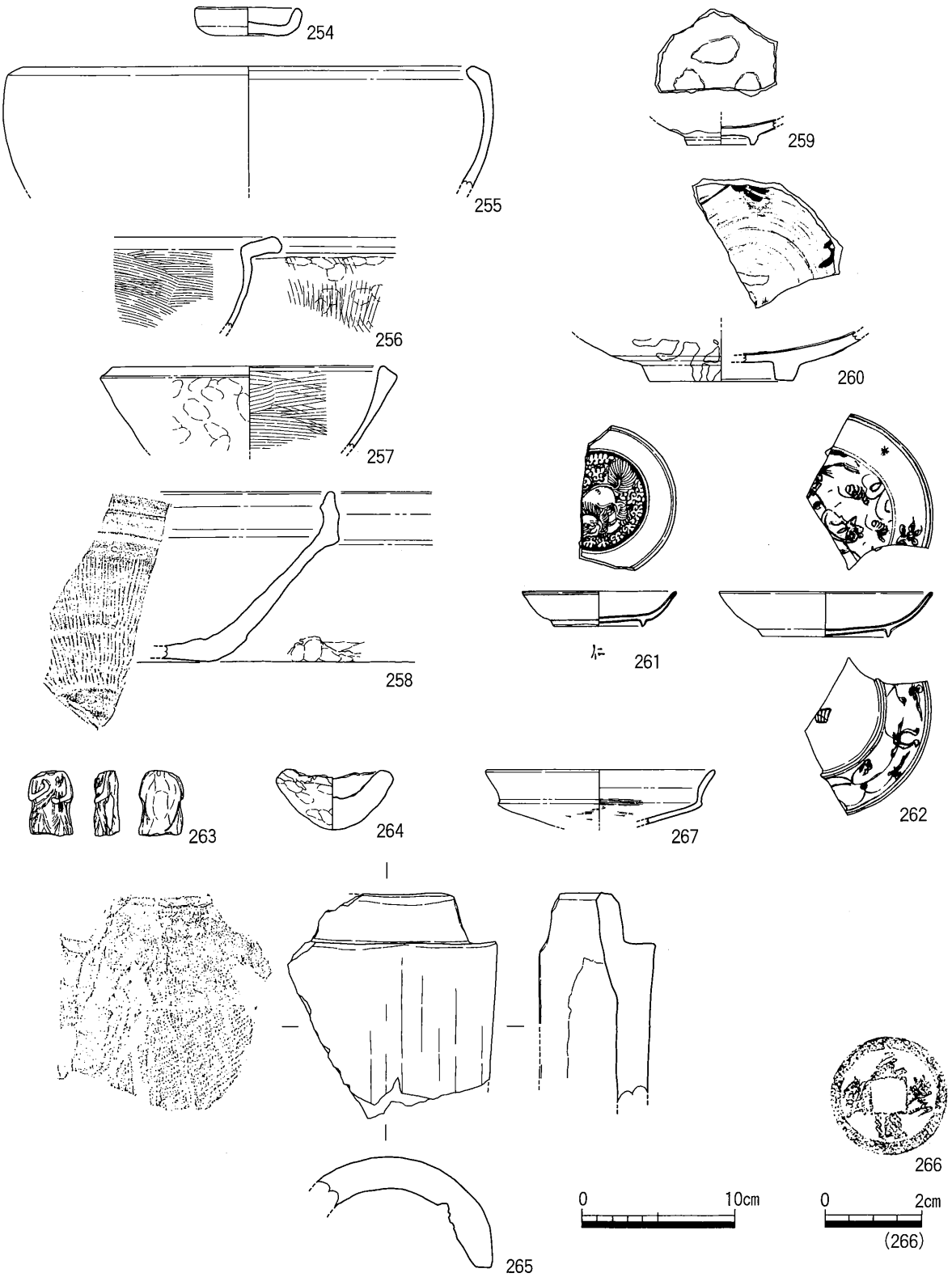
256は瓦質の土鍋である。257は土師質の鉢である。



第78図　SX12出土遺物実測図



第79図　SX13平・断面図



第80図　SXI3出土遺物実測図

258は備前産の擂鉢である。

259は唐津産の陶器の皿の底部である。砂目積の痕跡が3ヶ所に認められる。260は唐津産の大皿の底部である。

261・262は染付の皿である。261は見込に玉取獅子が描かれている。また，高台内部には「仁」の一字が描かれている。262は中型の皿である。見込と外面に草木文が描かれている。高台内部には判読できないが，銘が一字描かれている。

263は土人形である。頭部は欠損しているが，着衣や両手の位置などからみて仏像をイメージしたものでないかと考えられる。わずかに赤色顔料の付着が認められる。

264は坩堝である。253と同様に片口を持つ。全体に溶解した金属が付着している。

265は丸瓦である。凸面にはヘラ状の工具で削ったような痕跡がわずかながら認められる。凹面にはコビキ痕が顕著に認められる。斜め方向に同心円を描くように糸が動いているのでコビキA手法である。

266は古銭である。「元豊通宝」で初鋳年は1078年である。

267は弥生土器の高杯の杯部である。

SX 14（第81図）

調査区北東部，石垣の下層で検出した東西に長い楕円形を呈した遺構である。西側は石垣構築の際に壊されたものと思われる。規模は検出長で東西約5m，南北約2mで深さは40cmを測る。埋土は炭化物の層や砂層，粘質土がレンズ状に堆積していた。埋土中から陶磁器類が出土している。

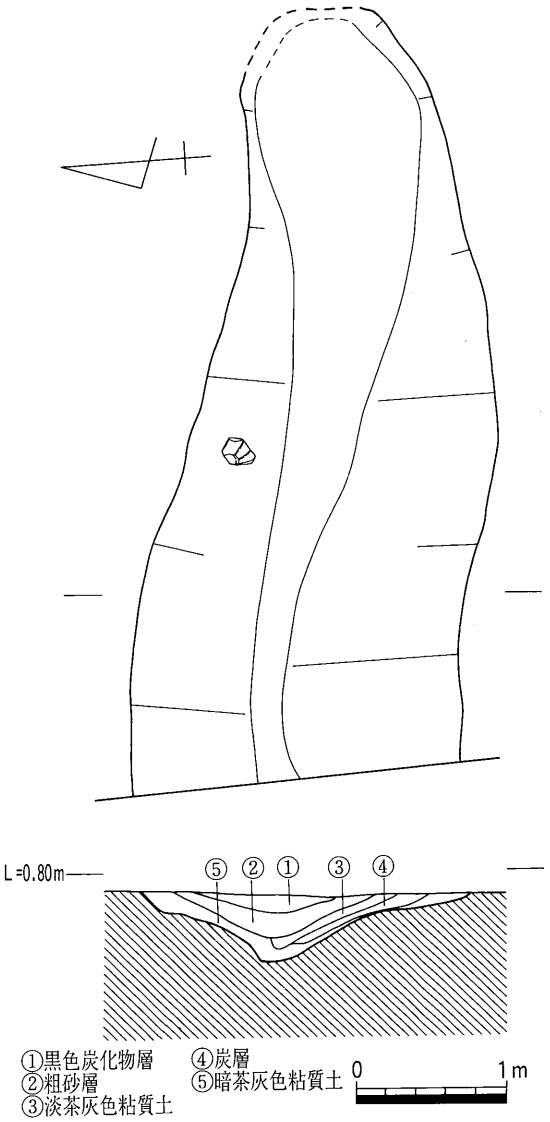
第82図はSX 14から出土した遺物の実測図である。

268・269は土師質の土鍋である。268は大きく外側に折り曲げた口縁を持つ。269はSK 12出土の237と同様の形態を持つ。2ヶ所に把手を持ち，穿孔している。270は瓦質の土釜である。形態的にはいわゆる茶釜に似ている。内湾する体部から屈曲して口縁部に至る。端部は肥厚して平坦面を作っている。

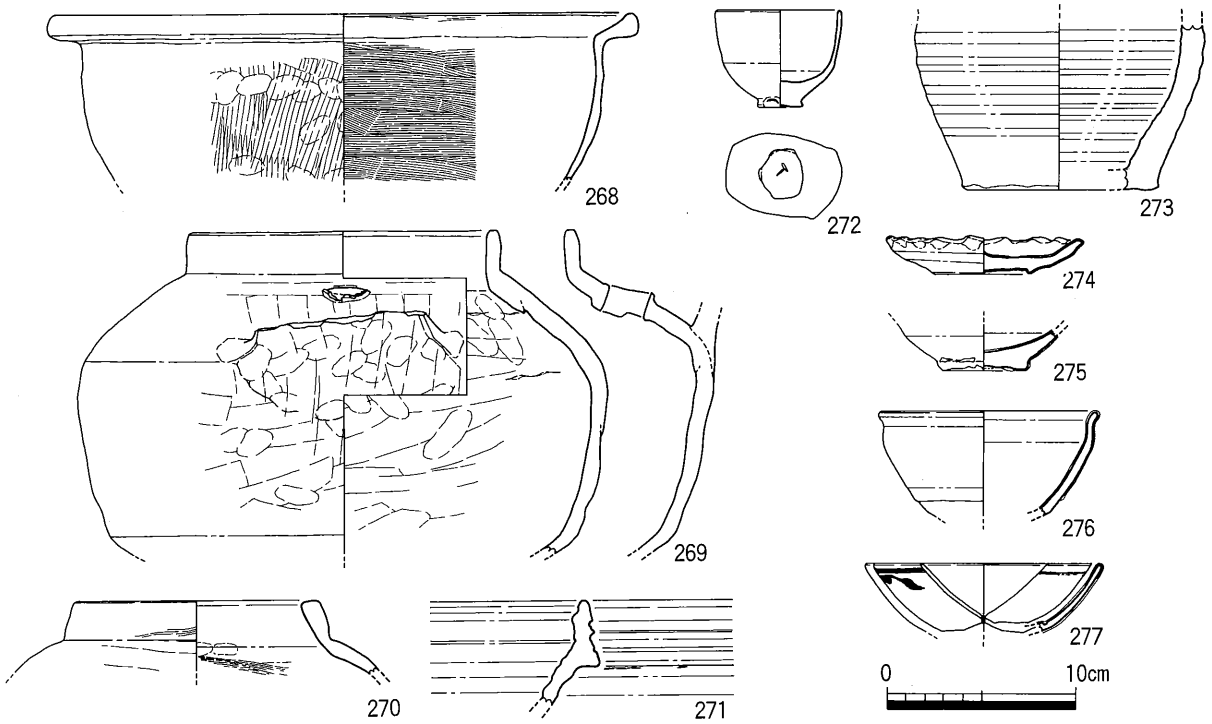
271は備前産の擂鉢の口縁部である。272は備前産の小型の杯である。酒盃と考えられる。底部に刻印が認められる。273も備前産の壺の底部である。

274は志野焼の皿である。口縁部は波形を象っている。275は瀬戸・美濃産の碗である。276は瀬戸・美濃産の天目茶碗である。口縁端部は外側にわずかに折り曲げる。

277は伊万里産の染付である。



第81図　SX14平・断面図



第82図　SX14出土遺物実測図

SX 15

調査区北東隅で検出した瓦溜である。第II期の遺構面を整地する際に一括して廃棄されたものと思われ，明確な平面プラン等は検出できなかった。埋土中からは若干の陶磁器類のほか多量の瓦類が出土した。その量は28ℓ入コンテナに換算して約80箱にのぼる。

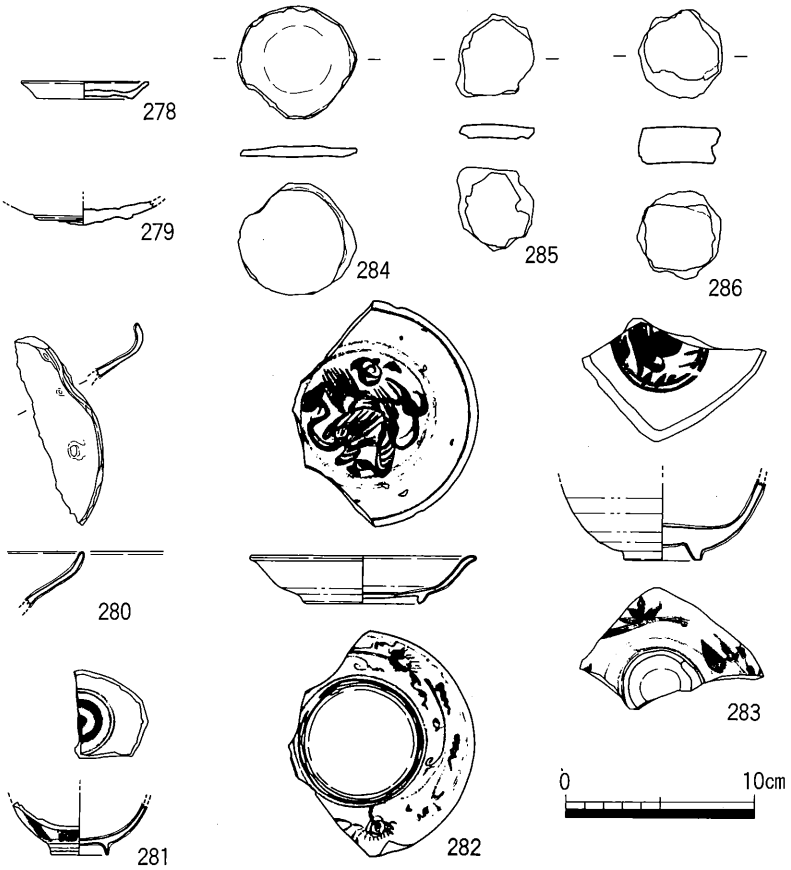
第83図～第100図はSX 15から出土した遺物の実測図である。

278は土師器の小皿である。279は須恵質の小皿である。

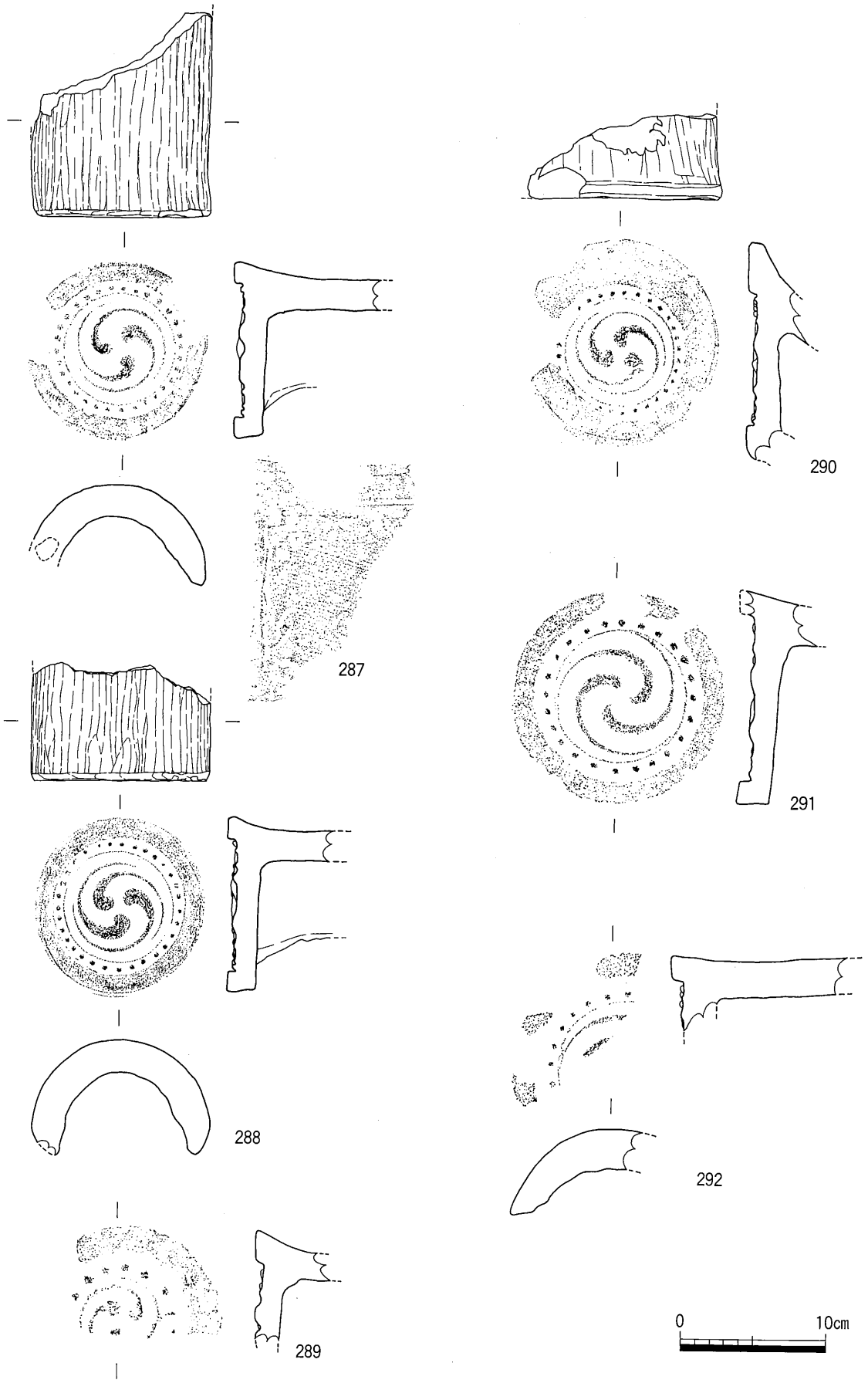
280は施釉陶器である。白色の釉薬を施している。口縁部は波形を象っている。

281は伊万里産の酒盃と思われる小型の杯である。内面には二重丸，外面には放射状の文様帯が描かれている。

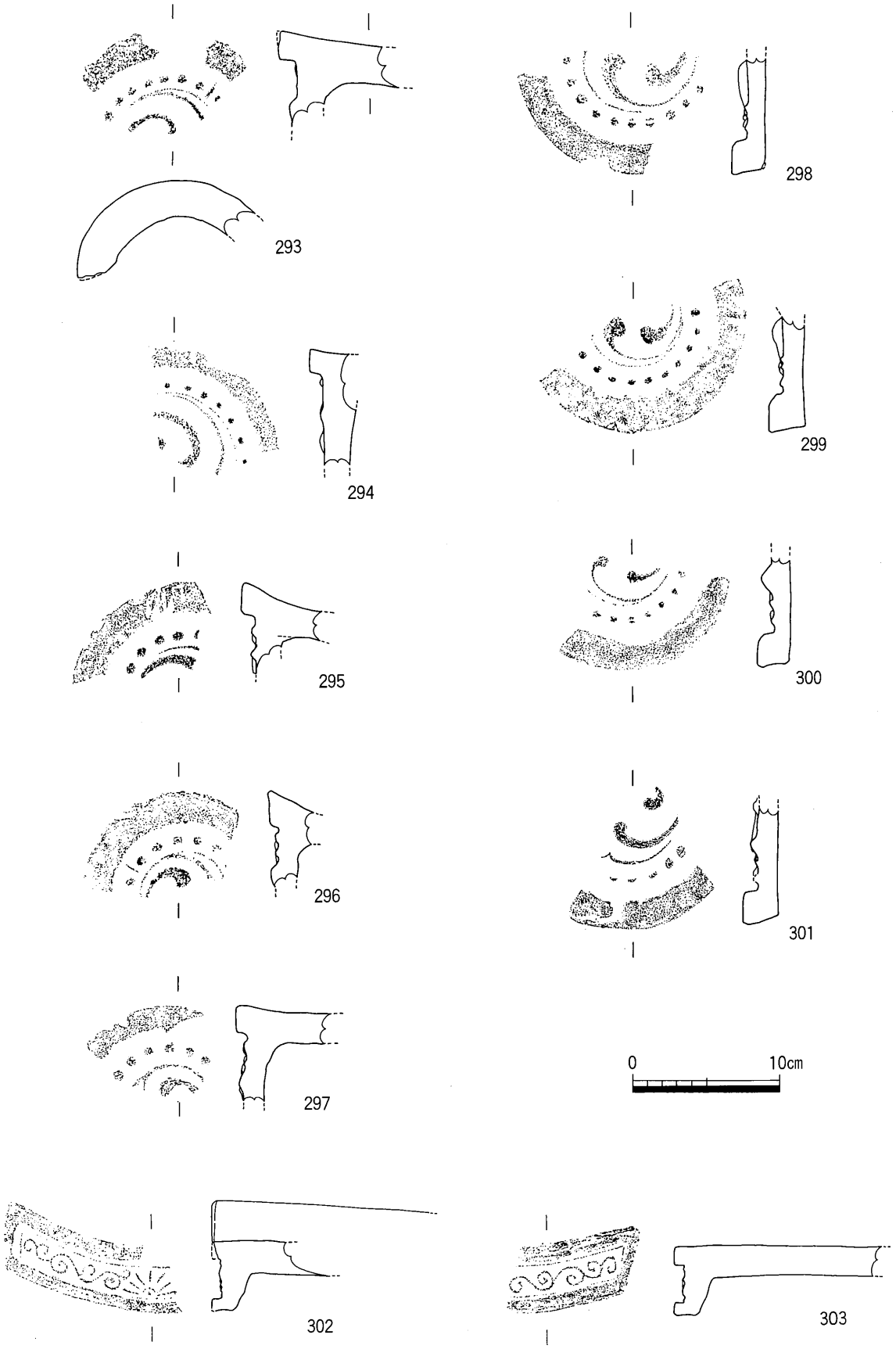
282は染付の皿である。見込には



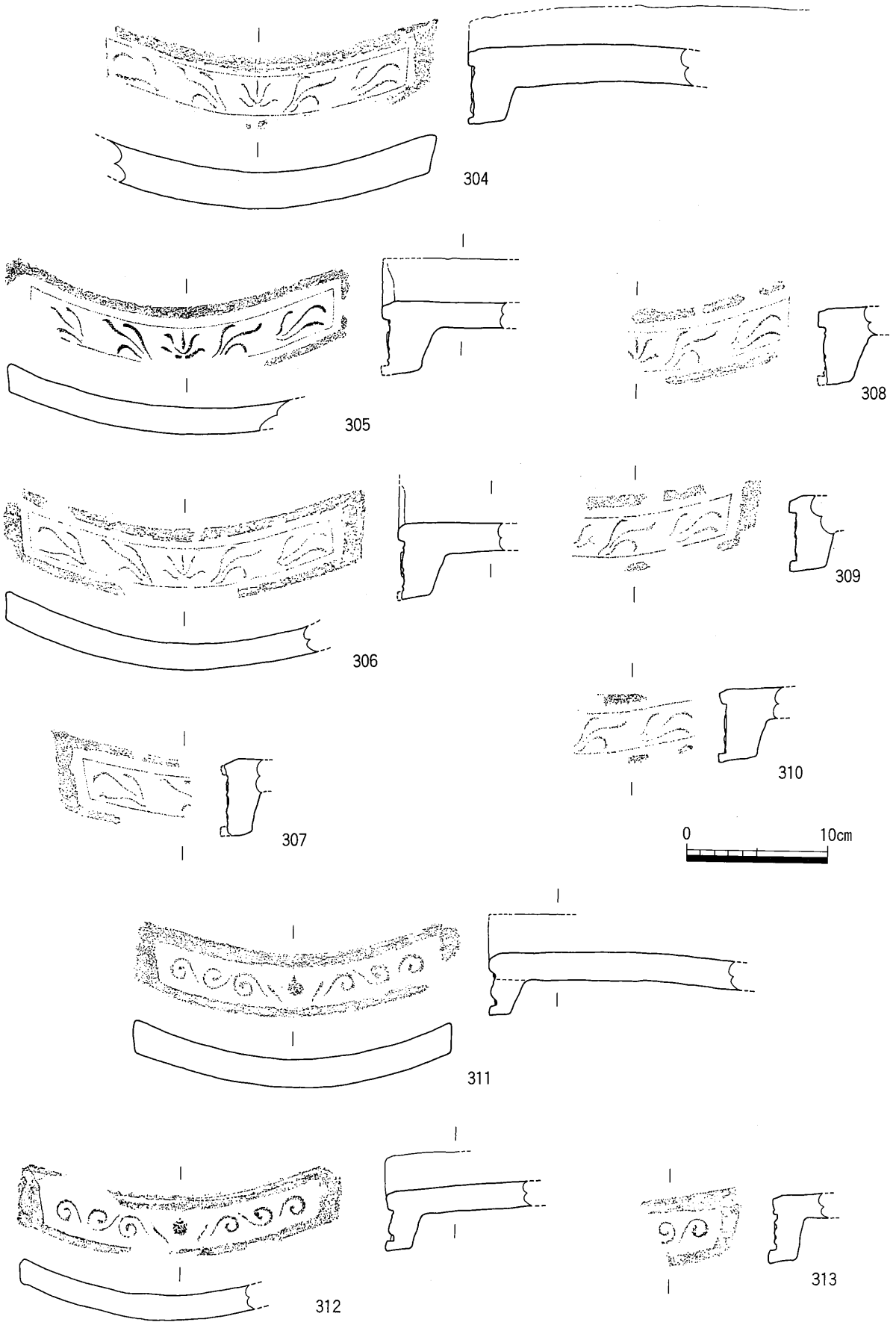
第83図　SX15出土遺物実測図(1)



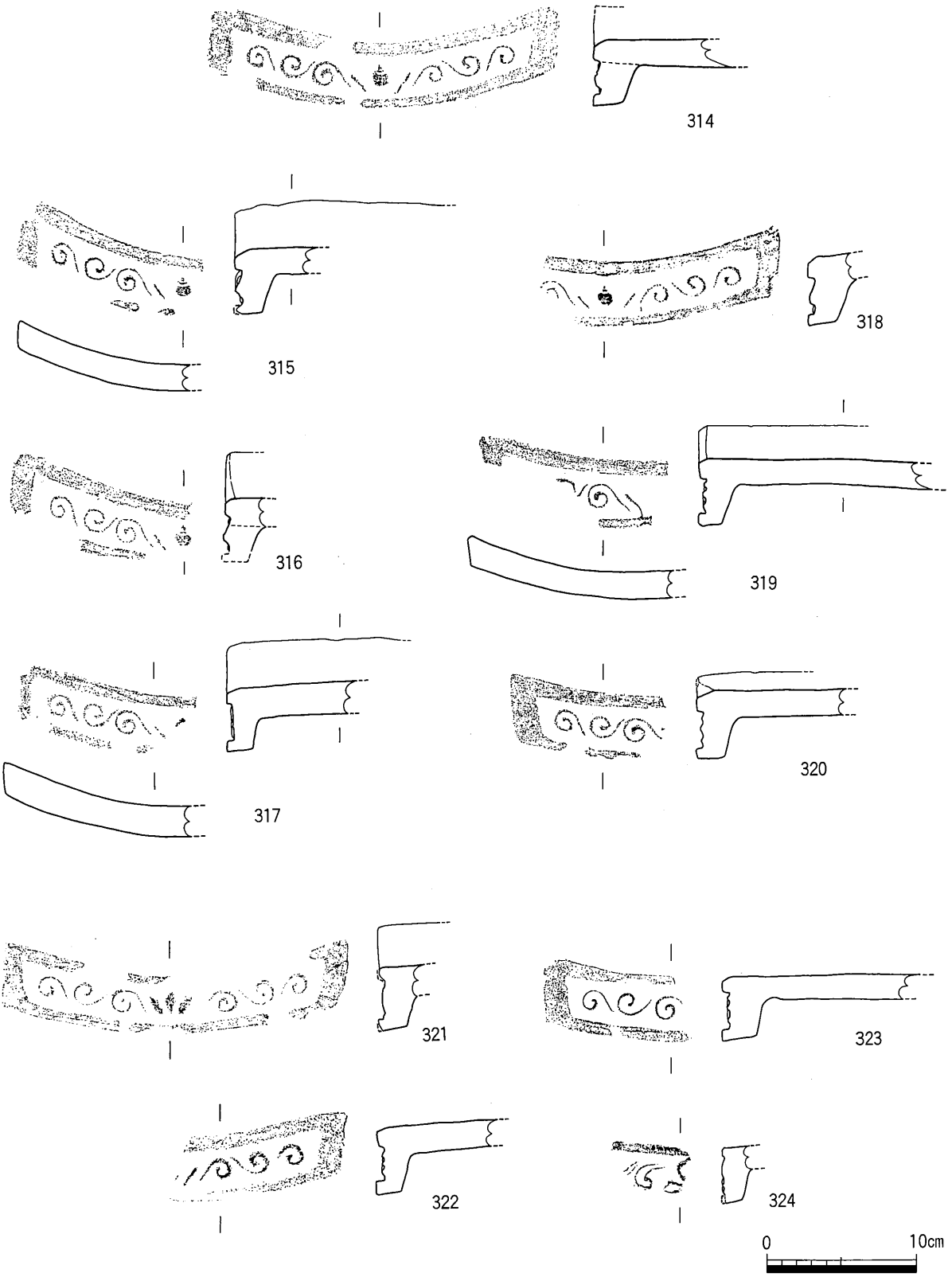
第84図　SX15出土遺物実測図(2)



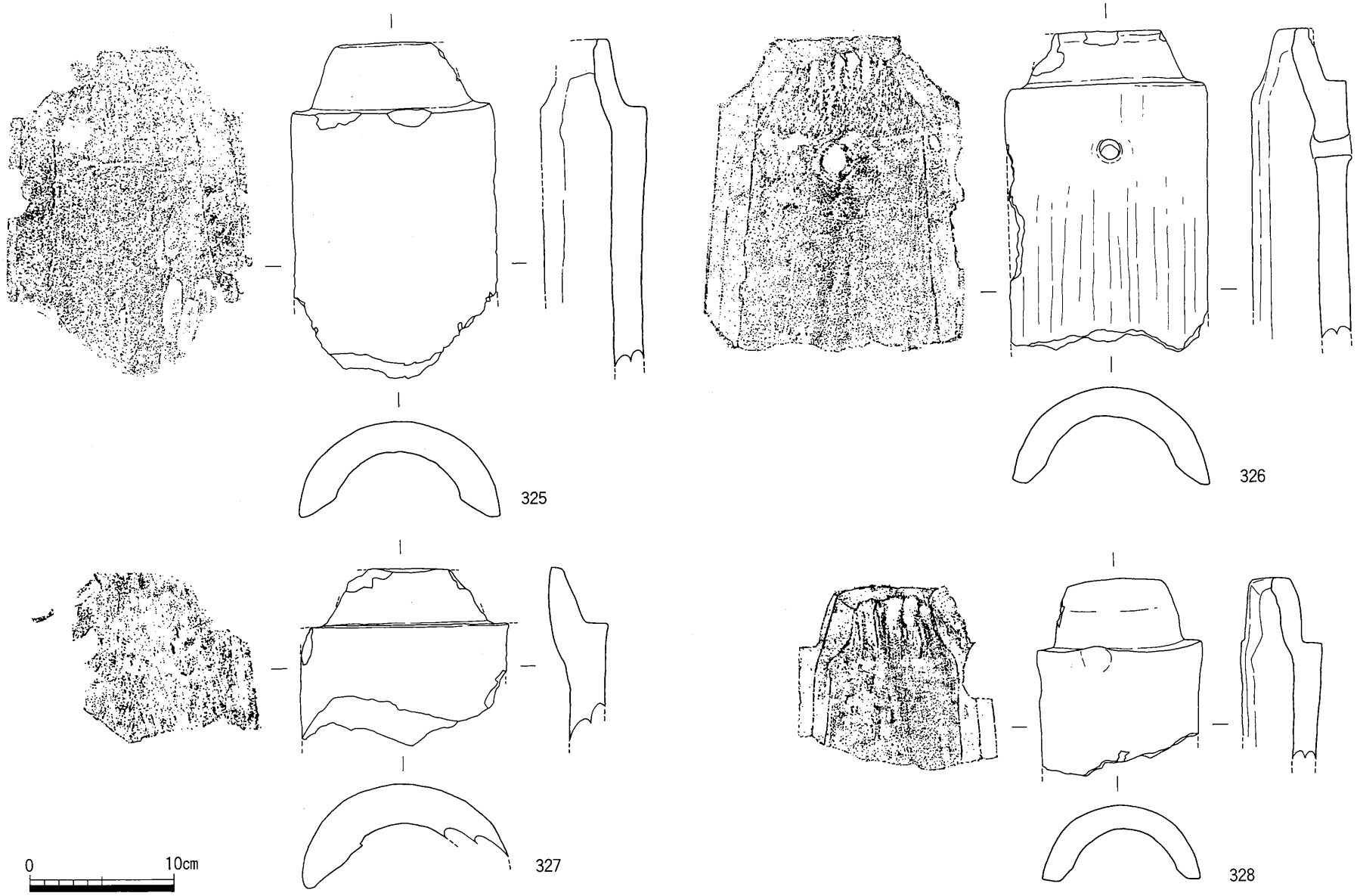
第85図　SX15出土遺物実測図(3)



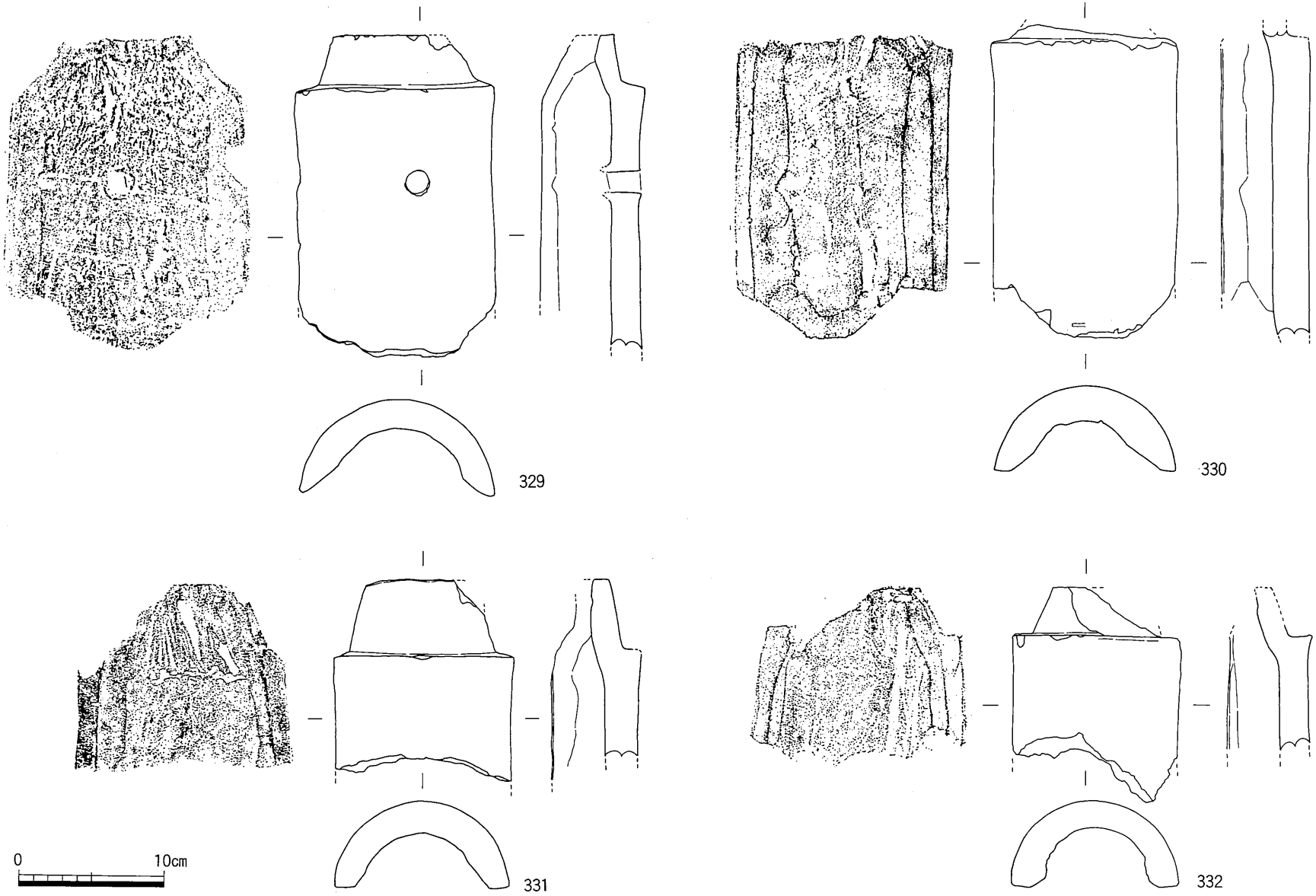
第86図　SX15出土遺物実測図(4)



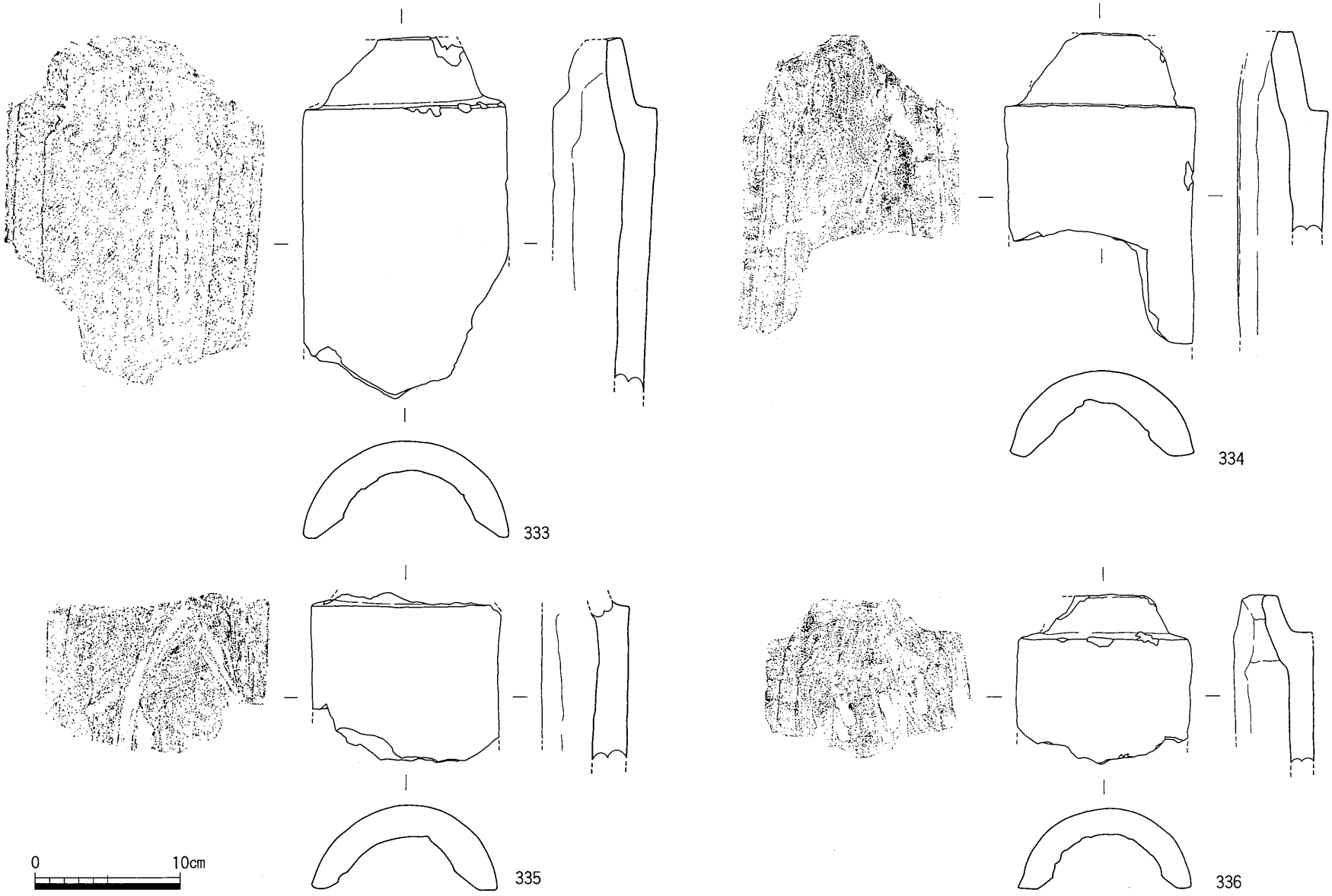
第87図　SX15出土遺物実測図(5)



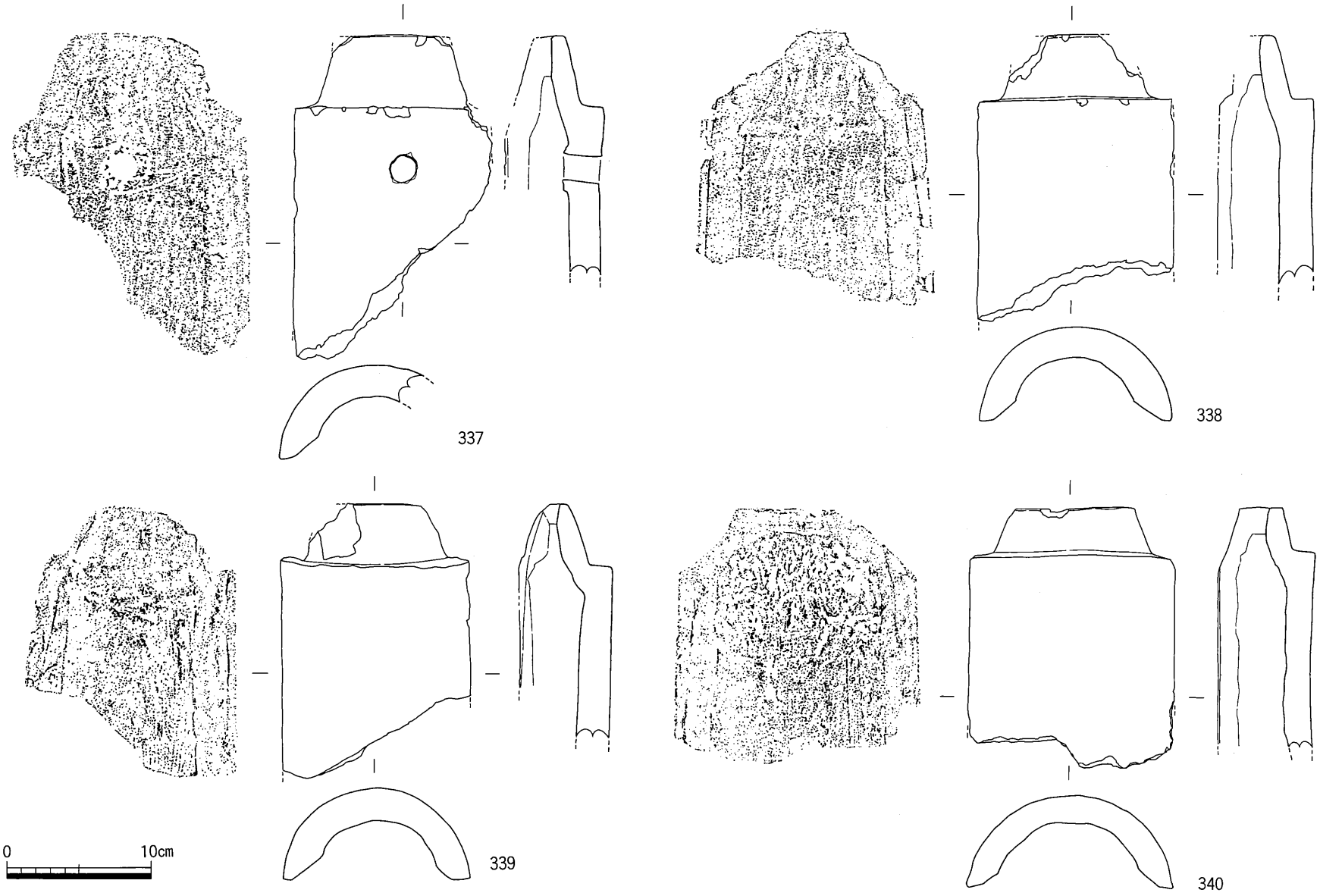
第88図　SX15出土遺物実測図(6)



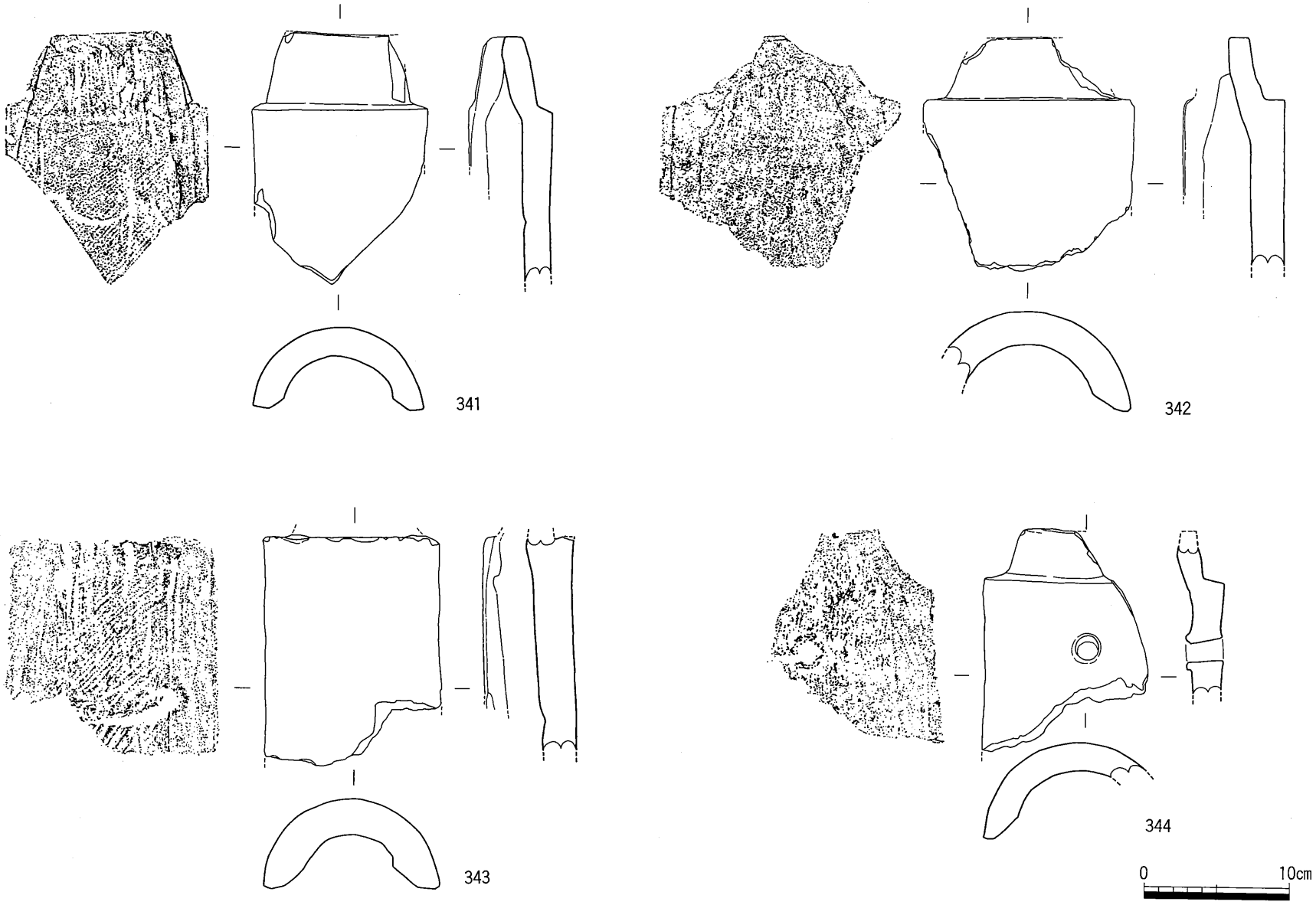
第89図　SX15出土遺物実測図(7)



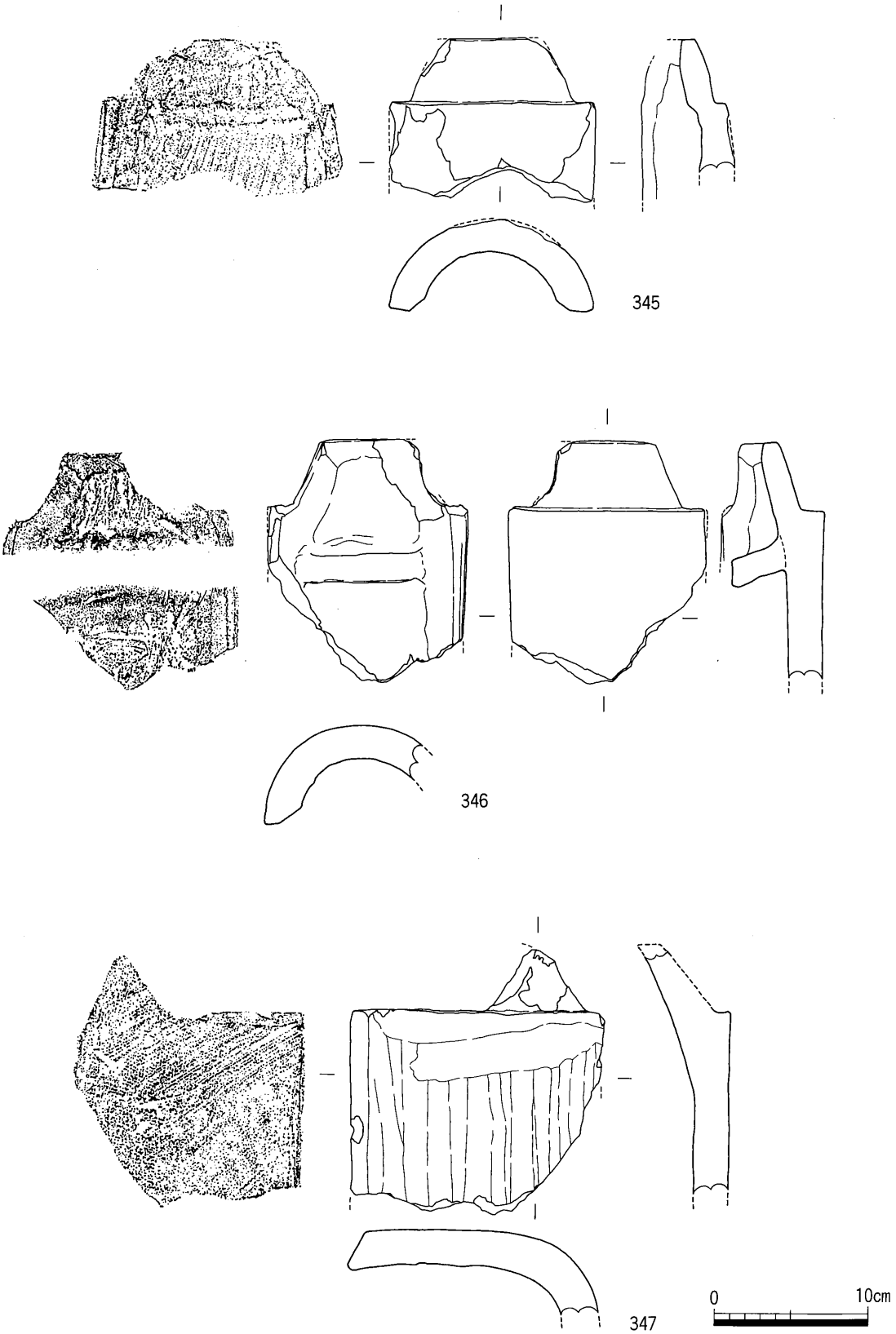
第90図　SX15出土遺物実測図(8)



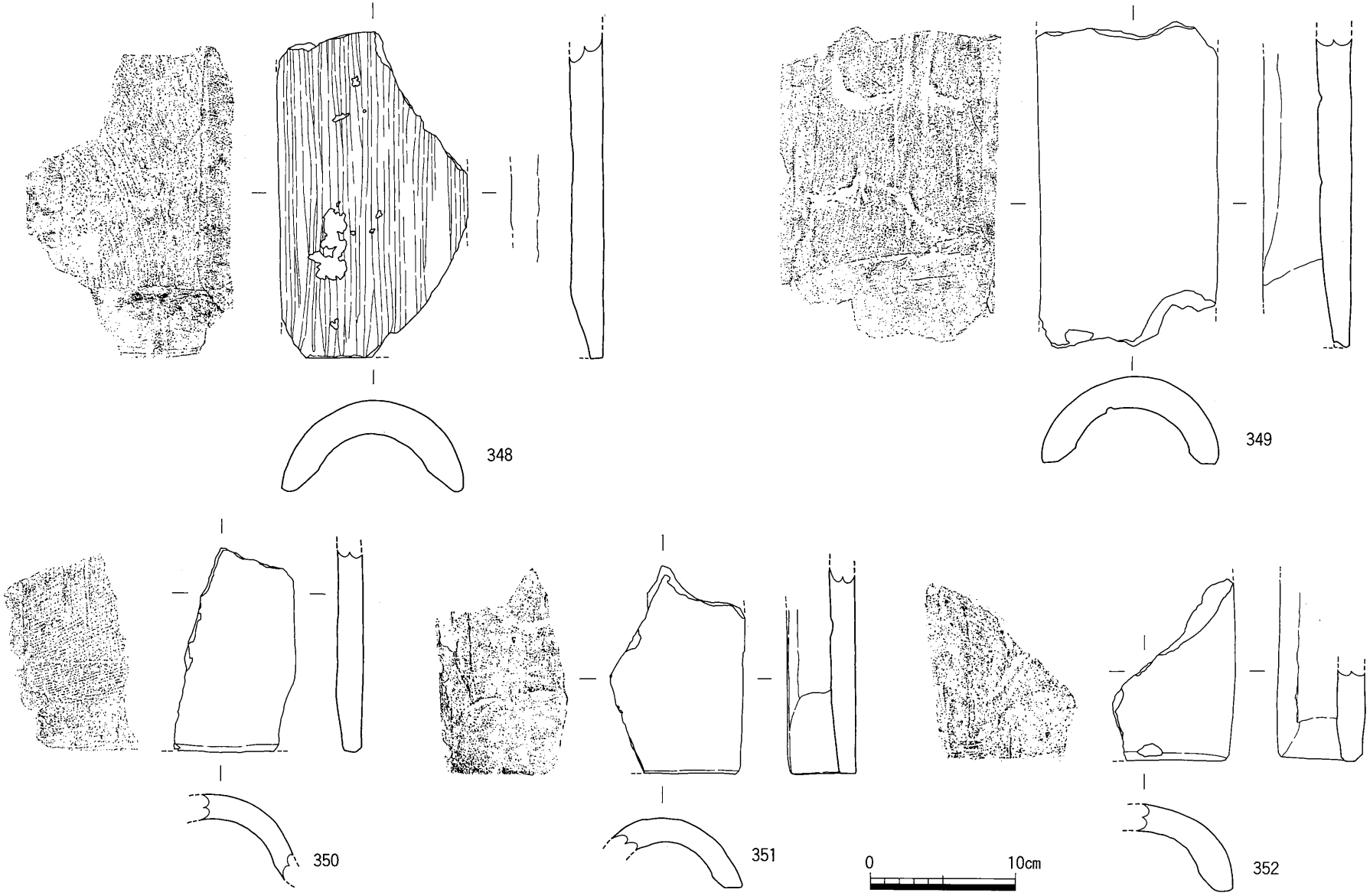
第91図　SX15出土遺物実測図(9)



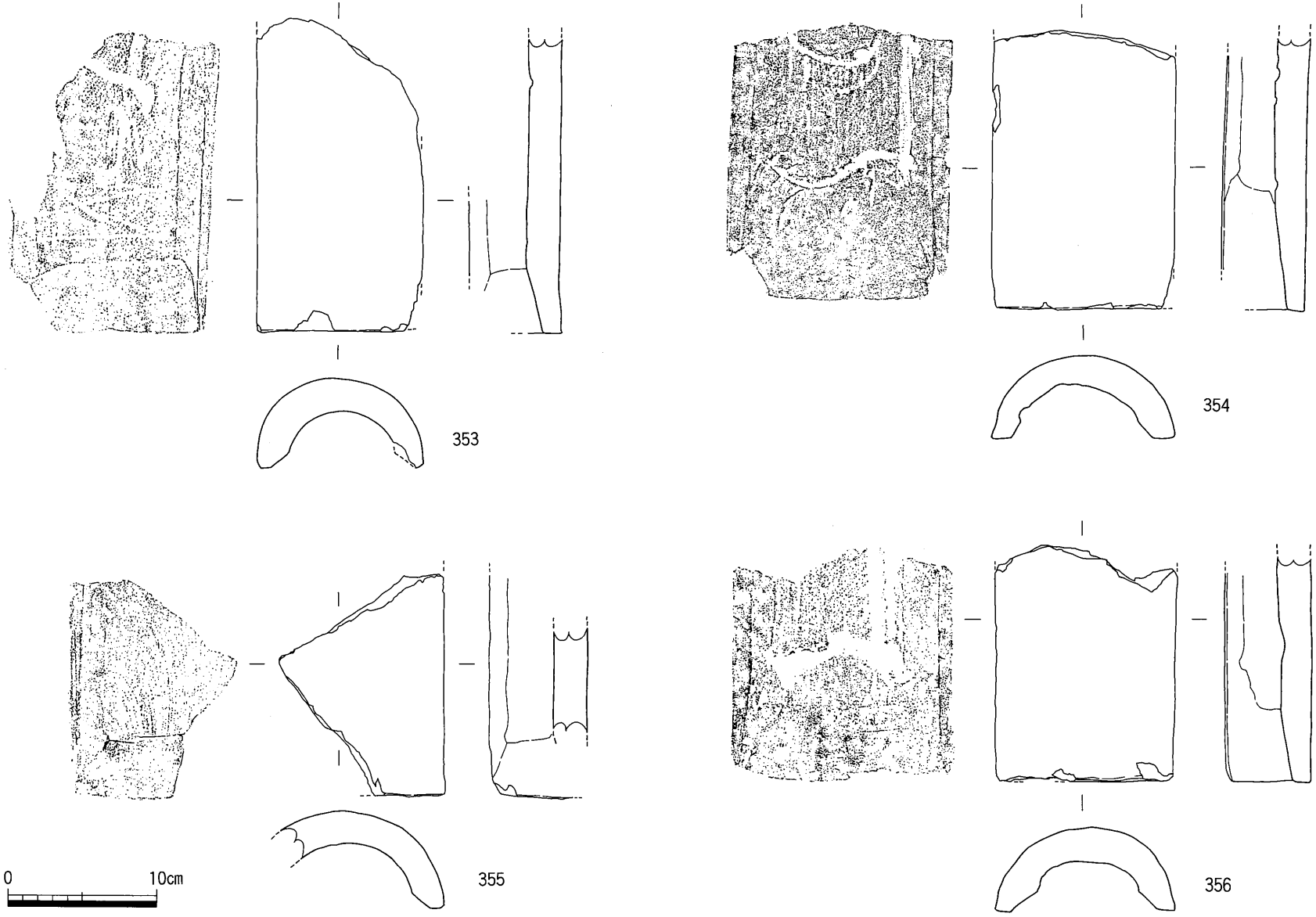
第92図　SX15出土遺物実測図(10)



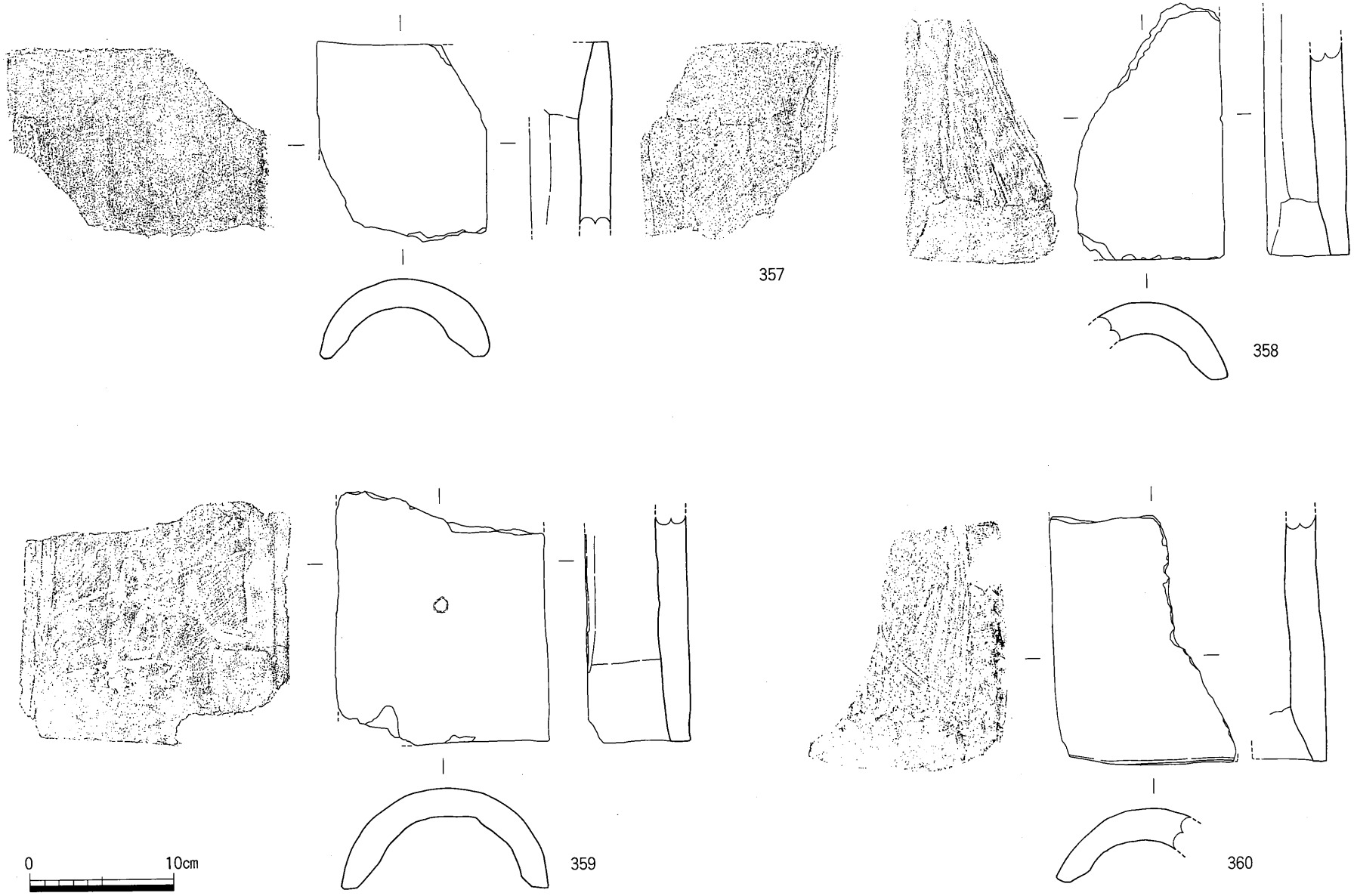
第93図　SX15出土遺物実測図(II)



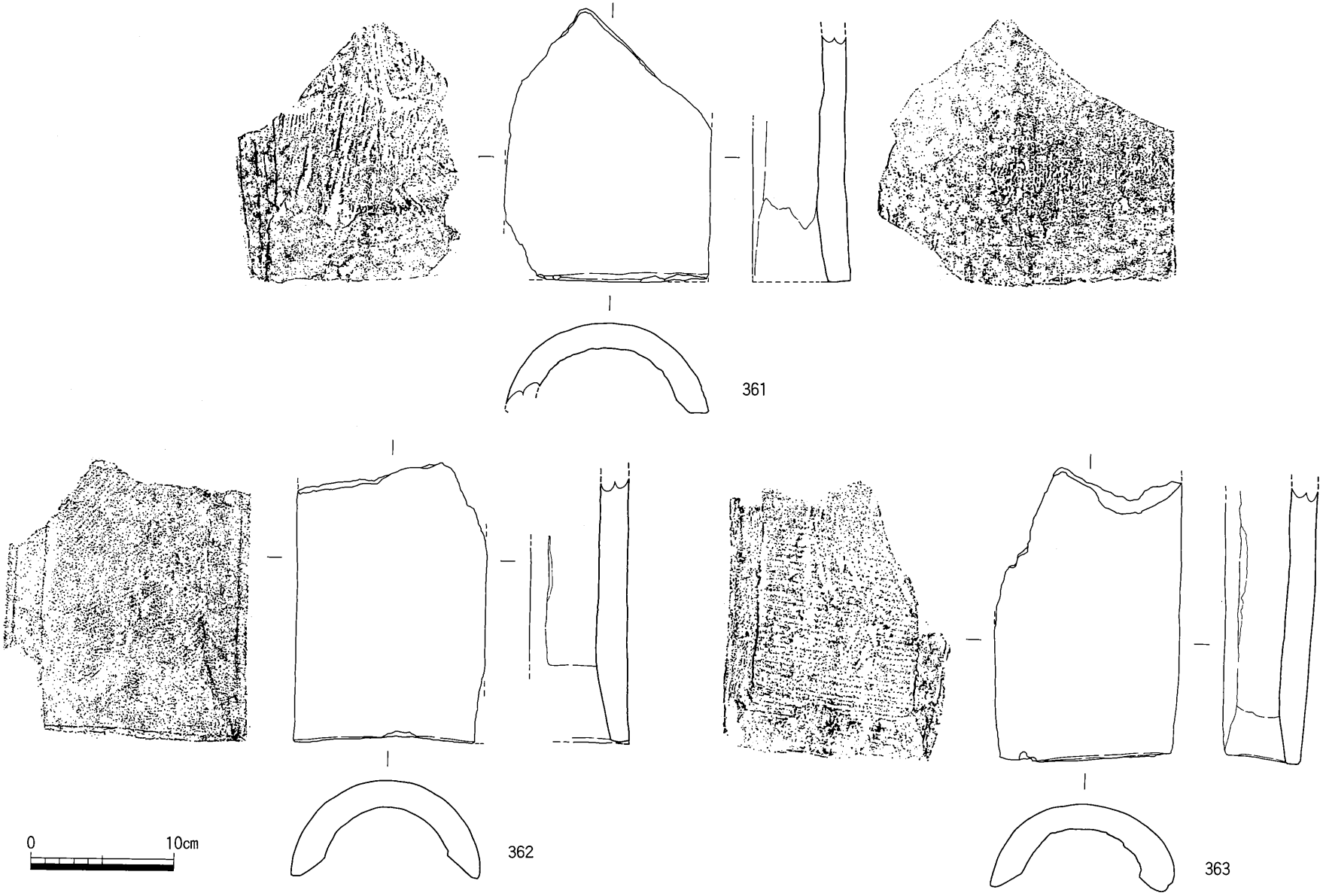
第94図　SX15出土遺物実測図(12)



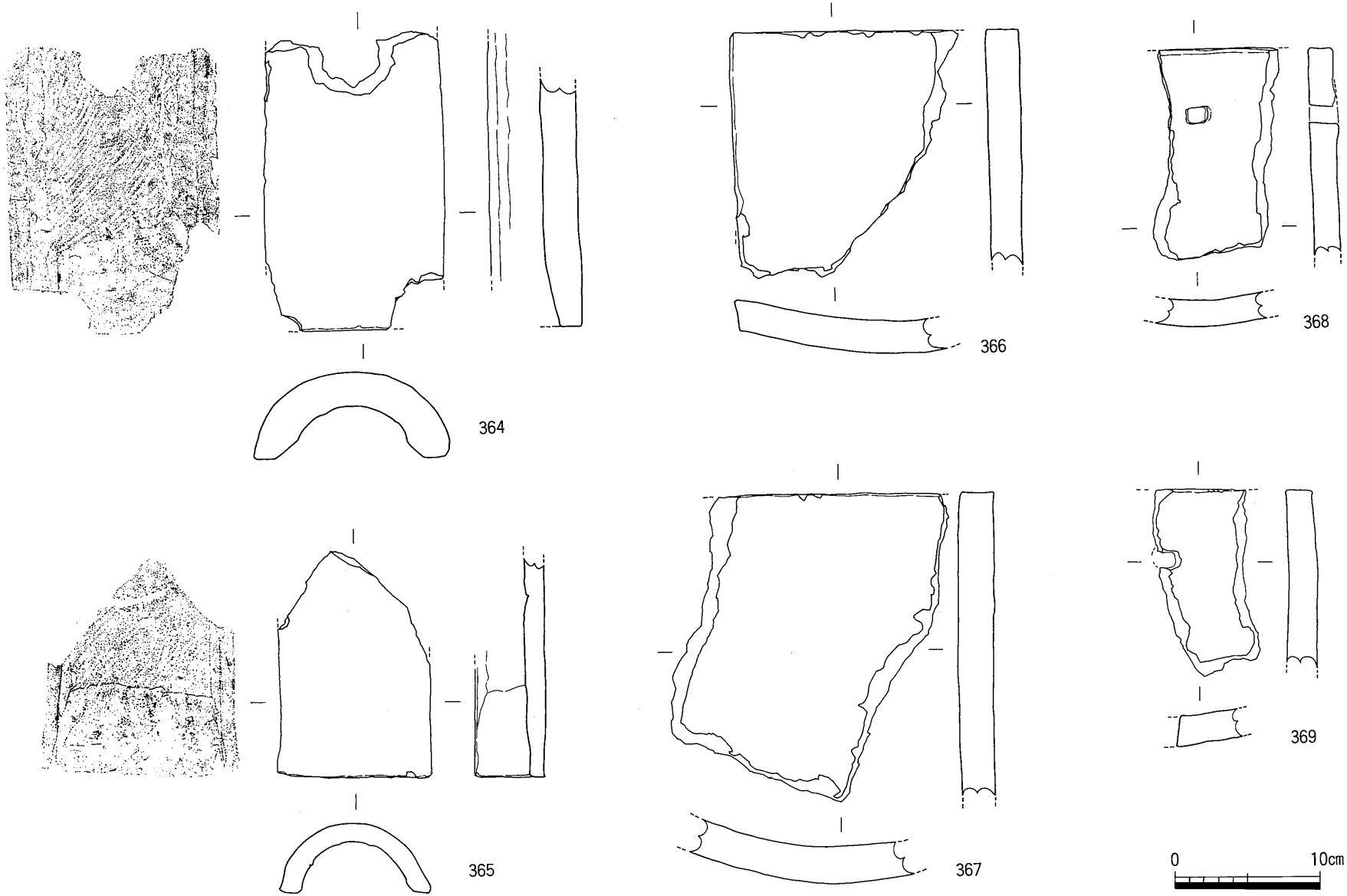
第95図　SX15出土遺物実測図(13)



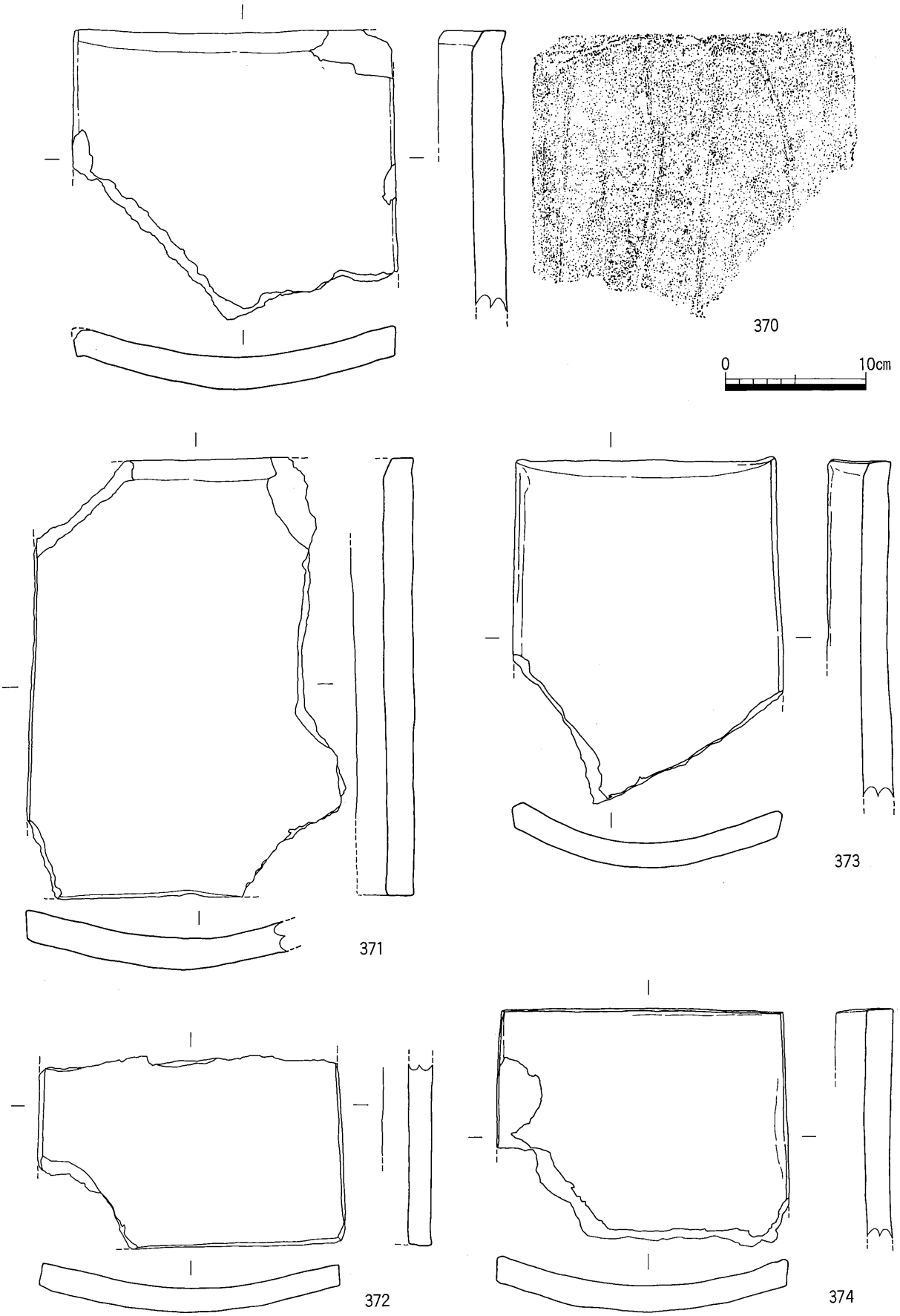
第96図　SX15出土遺物実測図(14)



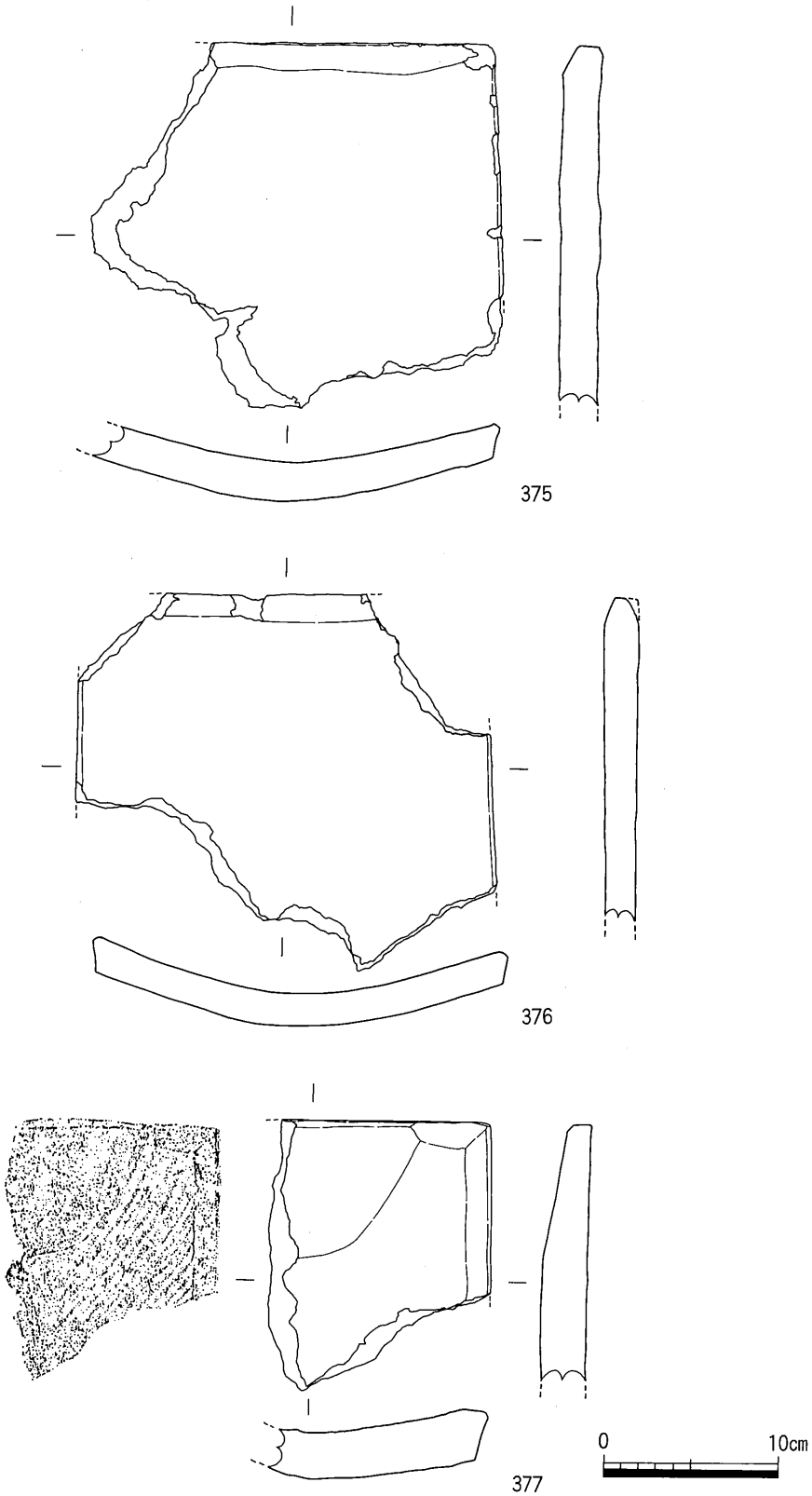
第97図　SX15出土遺物実測図(15)



第98図　SX15出土遺物実測図(16)



第99図　SX15出土遺物実測図(17)



第100図　SX15出土遺物実測図(18)

扶桑手文様が描かれ，外面には草木文が描かれている。胎土が不良で淡黄色を呈する。焼成もやや不良で全体的にくすんだ感じを受ける。皿G類と呼ばれている中国南部で生産されて輸入された一群に属するものと考えられる。

283は染付の碗である。見込と外面に文様が描かれている。伊万里産であると考えられる。

284～286は転用土製品である。284と285は土器の底部を利用したもので，286は瓦を利用した土製品である。

287～301は三巴文軒丸瓦である。287と288は三巴の周囲に圏線が巡り，尾の巻き込みが長い。また，巴部の肉も厚く，しっかりとした作りになっている。珠文は小さく数が多い。丸瓦部の凸面にはヘラ状工具による痕跡が顕著に認められる。凹面はわずかではあるがコビキA手法によるコビキ痕が認められる。291もこれらと同様の特徴を持つ。290も同様の特徴を持つが，これは断面形からもわかるように鳥衾である。16世紀後半のもので軒丸瓦の中では最も古い一群であると考えている。

302～324は軒平瓦である。これらは七つの花弁を中心飾りに持つもの（302・303），中心飾りが五葉，子葉が三葉の細い唐草のもの（304～310），中心飾りが団栗状を呈し，子葉が3回転回するもの（311～320），中心飾りが三葉，唐草が311等に酷似するもの（321～323），その他（324）に分けられる。これらの分類は時期的なものではなく，バリエーションの中で考えるべきであろう。

325～365は丸瓦である。325～347は玉縁の部分である。348～365は広端部の破片である。

形態的な面からみると，釘穴の空いているもの（326，329，337，344）とそうでないものとがある。また，346には凹面にすべり止めの桟が施されている。347は雁振瓦である。

調整にはコビキA手法が多くのものに認められる。328，330，333，335，336，341，343，345，347（雁振瓦）～350，352，355，358～365がコビキA手法が認められるものである。コビキA手法が認められないものには布目の痕跡が認められるものが多く，コビキB手法は認められない。

366～377は平瓦である。368・369には四角形の釘穴が認められる。また，ほとんどの平瓦は，端面に丁寧な面取りを施している。特に377は狭端面を大きく面取りしている。また377は調整にコビキA手法を使っていることも顕著に認められる。

SX 16

調査区の西端で検出した瓦溜である。SX 15と同様の遺構と考えられるが，大部分は調査区外にあたるため，全体の規模等は不明である。主として，瓦類が出土している。

第101・102図はSX 16から出土した遺物の実測図である。

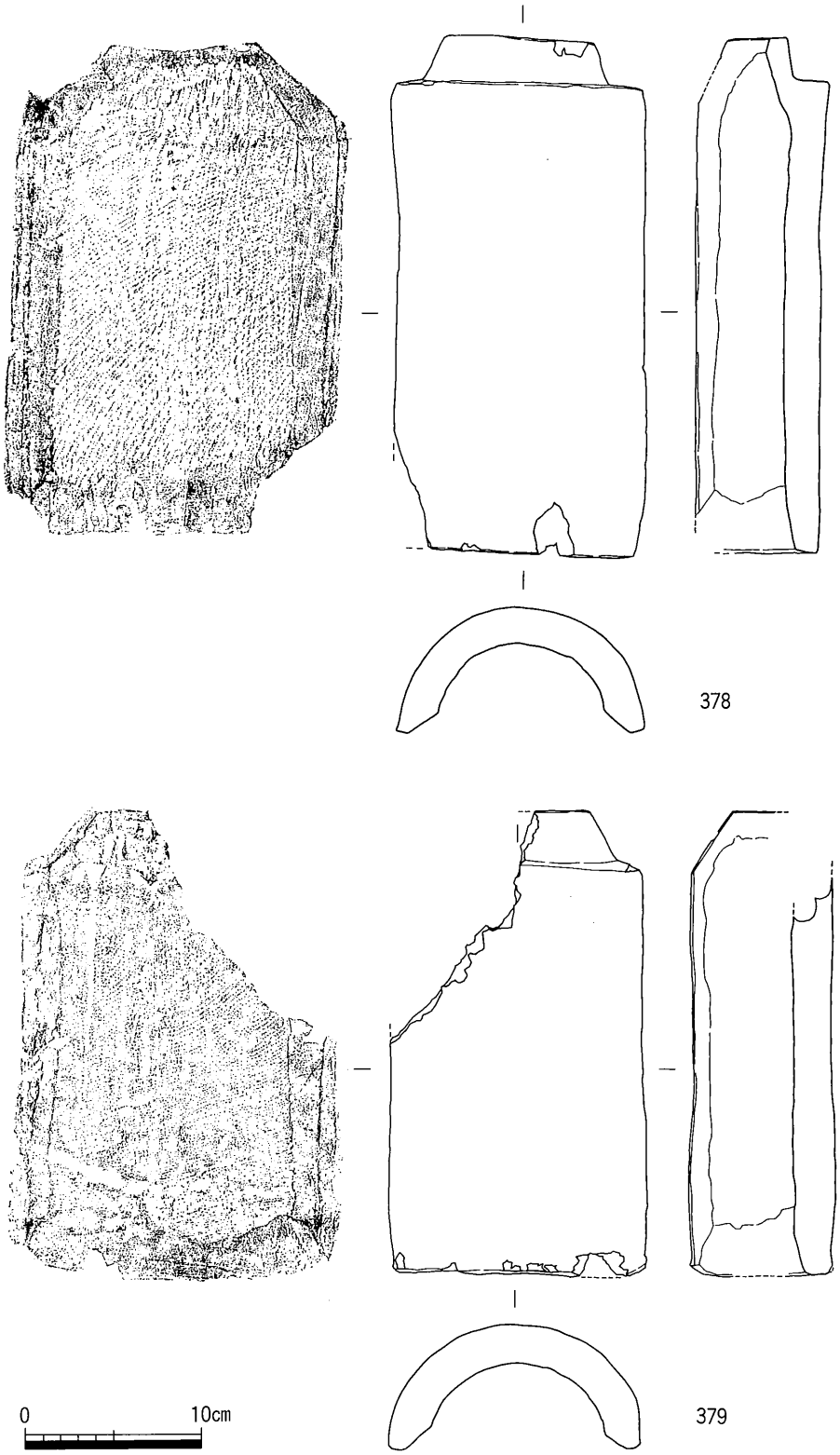
378・379は丸瓦である。いずれも凹面に顕著にコビキA手法が認められる。378は調整の際の布目の痕跡も顕著に認められ，玉縁の凹面には布を抜き取った際の痕跡も認められる。

380～382は平瓦である。380と382には狭端面を面取りしていることが伺える。

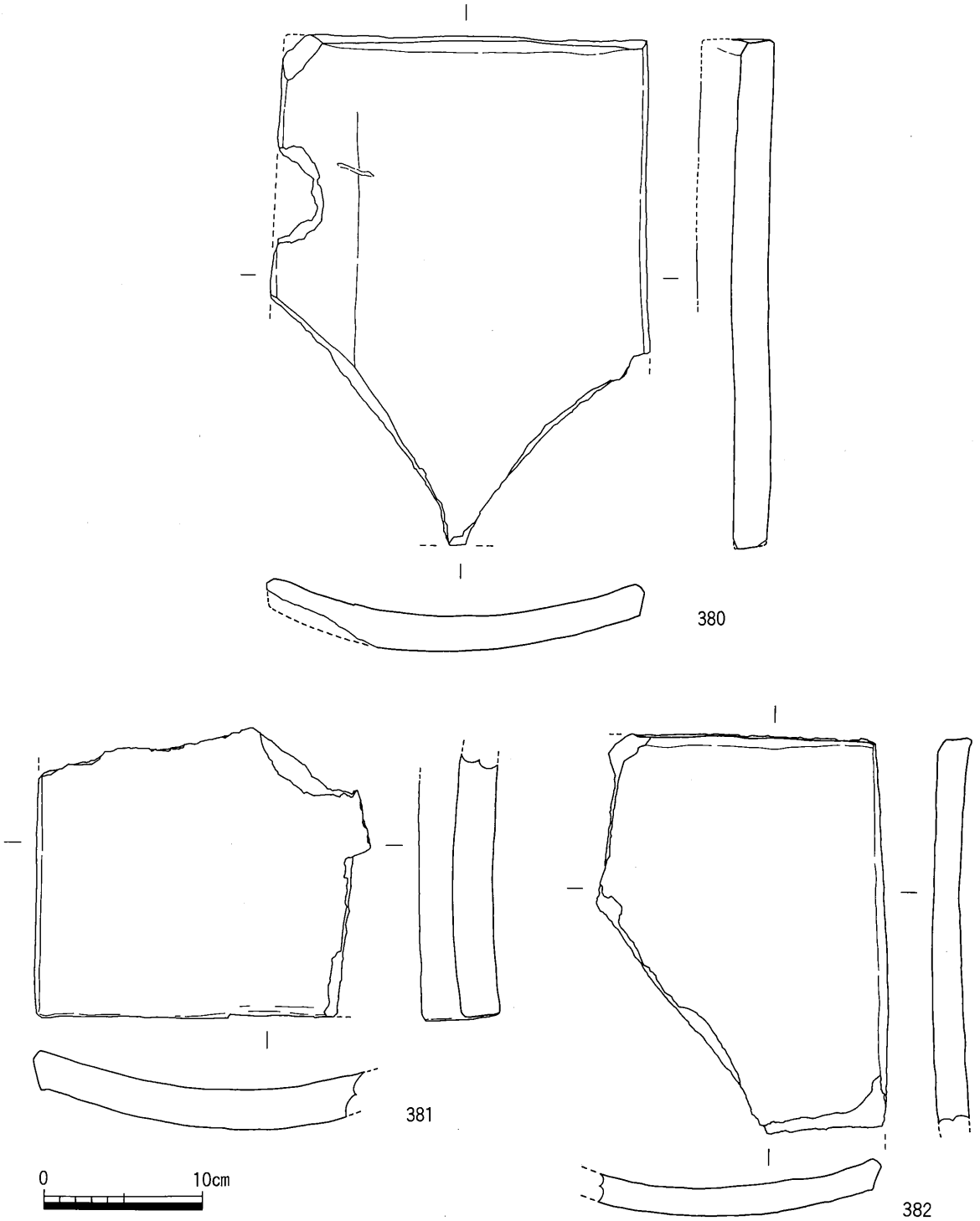
第4遺構面上層の包含層について

第4遺構面上層の包含層は先述のとおり，第II期の遺構面を整地するにあたって形成されたもので，その時期は16世紀末から17世紀初頭にあたる。包含層は様々な土層から形成されるが，これらの土層中からは大量の陶磁器類や瓦類が出土した。

第103図～第116図は第4遺構面上層の包含層から出土した遺物の実測図である。



第101図　SX16出土遺物実測図(1)



第102図　SX16出土遺物実測図(2)

383～406は土師器の小皿である。出土した位置が石垣の下層にあたり，SX 20に近接することからSX 20に伴うと考えてもよいと考えられる。

407・408は土師器の杯である。409は土師質の火鉢である。三足を有し，外面底部に煤が付着している。

410は土師質の片口の擂鉢である。放射状に三条の卸し目が認められる。

411～431は備前産の陶器である。411～413は擂鉢である。411は内面全体に放射状に卸し目が認められる。見込には二つの十字を直交するような卸し目が認められる。412と413には体部を回転させながら付けた卸し目とその後に放射状に施した卸し目とが認められる。414～417は大皿である。いずれも口縁端部をわずかに内側に折り曲げておさめる。414の底部外面にはヘラ状工具による刻印が認められる。418は器種は不明だが底部外面に刻印がある。419・420は皿である。いずれも底部外面に「ニ」のような刻印が認められる。421～428は徳利状の壺である。421～423は大型のもの，424～428は小型のものである。428は肩部が外側に張り出す形態を持つ。421には「○」，422には「１」，425には「ill」，426には「キ」，428には「日」のような刻印が認められる。429は小型の甕である。「キ」のような刻印が認められる。430は注口付の鉢である。431は把手付の小型の壺である。

432～456は瀬戸・美濃産の陶器である。432～434は天目茶碗である。435は高台を持たない皿である。436～445は丸皿である。436には重ね焼きの痕跡が顕著に認められる。446～451は折縁皿である。446は菊花皿である。450と451には見込に花文が印刻されている。447は波状口縁を持つ。452・453は菊花皿である。454・455は志野焼である。454は波状口縁を持つ。455は菊花皿で白色を呈し，透明な長石釉を施釉している。456は織部の向付である。

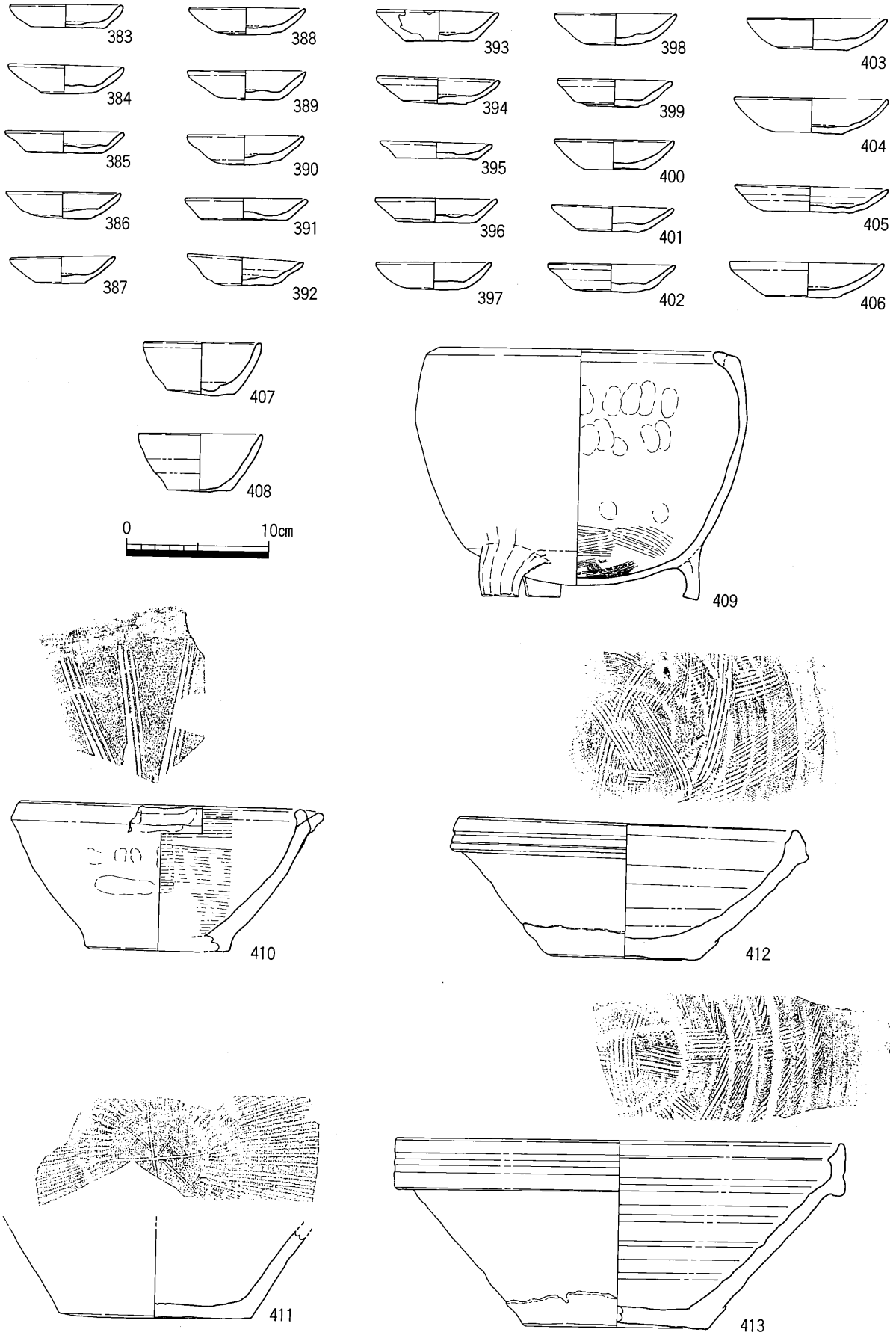
457～468は唐津産と考えられる陶器である。457は天目茶碗である。口縁端部を外側に少し折り曲げている。口縁内面に鉄絵がわずかに認められる。458はいわゆる京焼風陶器である。459～467は皿である。463には砂目積の痕跡が３ヶ所，464には胎土目積の痕跡が４ヶ所に認められる。464から467には鉄絵が認められる。468は鉢である。

469・470は青磁である。469は外面に帯状の文様を型紙刷りしている。470は外面が蓮弁状を呈し，見込には草木文を型紙刷りしている。471～492は磁器である。471は酒盃であろう。472～477は碗である。472，473には草木文が，474は亀腹(饅頭心)の見込に玉取獅子が，高台内部に銘文が描かれている。475も亀腹を持ち，見込には「官人図」が描かれている。外面にも文様が描かれている。高台内部には「余造□□」の銘がある。476はやはり亀腹で見込に扶桑手の文様が描かれている。477は見込に「福」字が描かれている。478～492は皿である。478は内側のみ削りこんだ高台を持つ皿である。見込に草木文が描かれている。479は見込に龍が描かれており，高台内部に「大明年造」の銘が認められる。480は見込に風景画が描かれている。481は折縁皿で見込に菊花文，外面に草木文が描かれている。484は菊花皿で高台内部に「天下太平」の銘が認められる。472～484は中国の景徳鎮付近で16世紀末から17世紀に生産されたものと考えられる。485～489はいわゆる皿G類と呼ばれるものである。486～489には扶桑手の文様が描かれている。中国南部で生産されたものであろう。491と492は大皿である。492には風景画が描かれている。

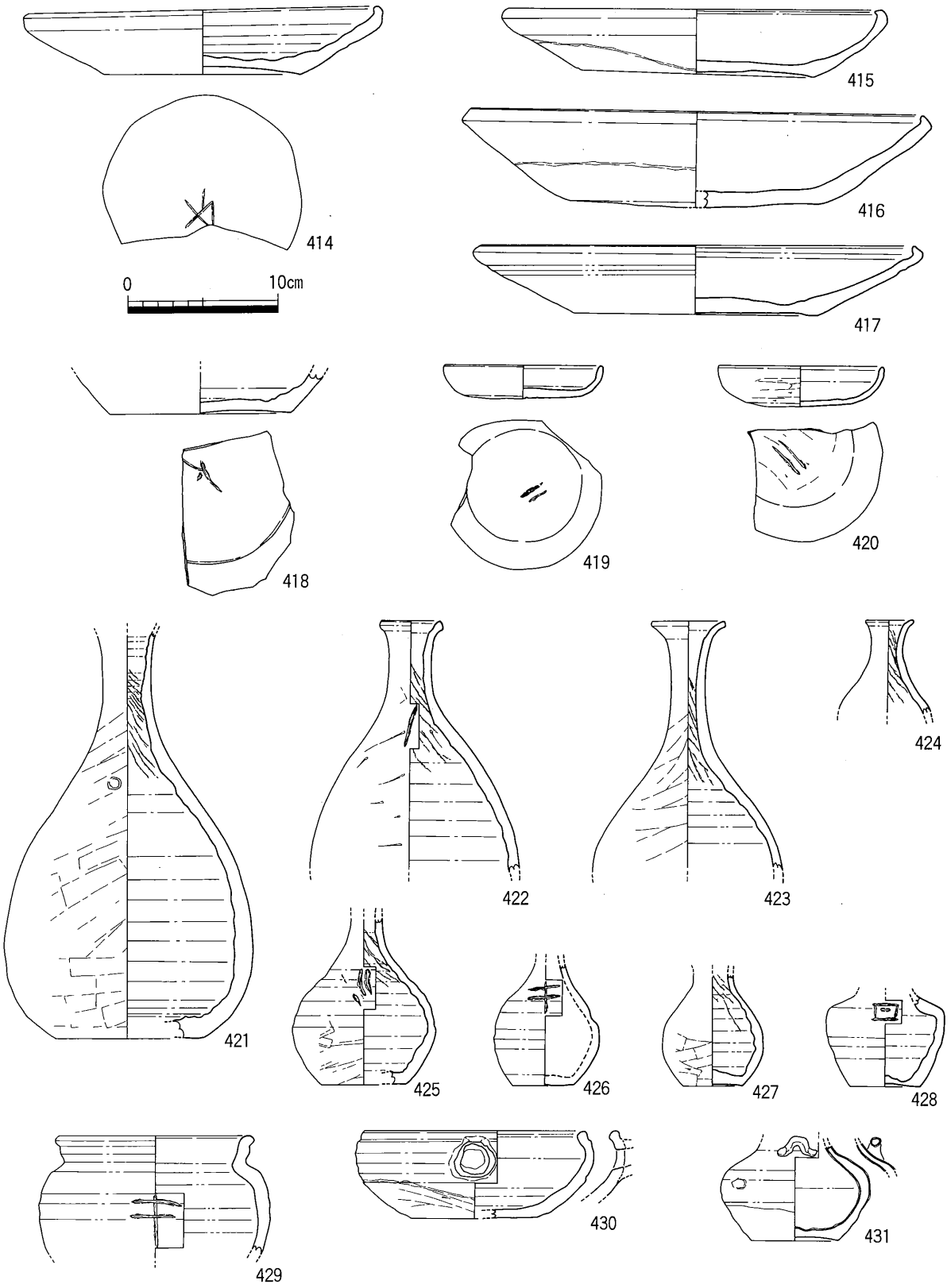
493～500は白磁である。いずれも薄い器壁を持ち白色に施釉している。景徳鎮付近で生産されたものであろう。

503は瓦質の三足付の香炉である。外面に帯状に雷文を巡らせている。

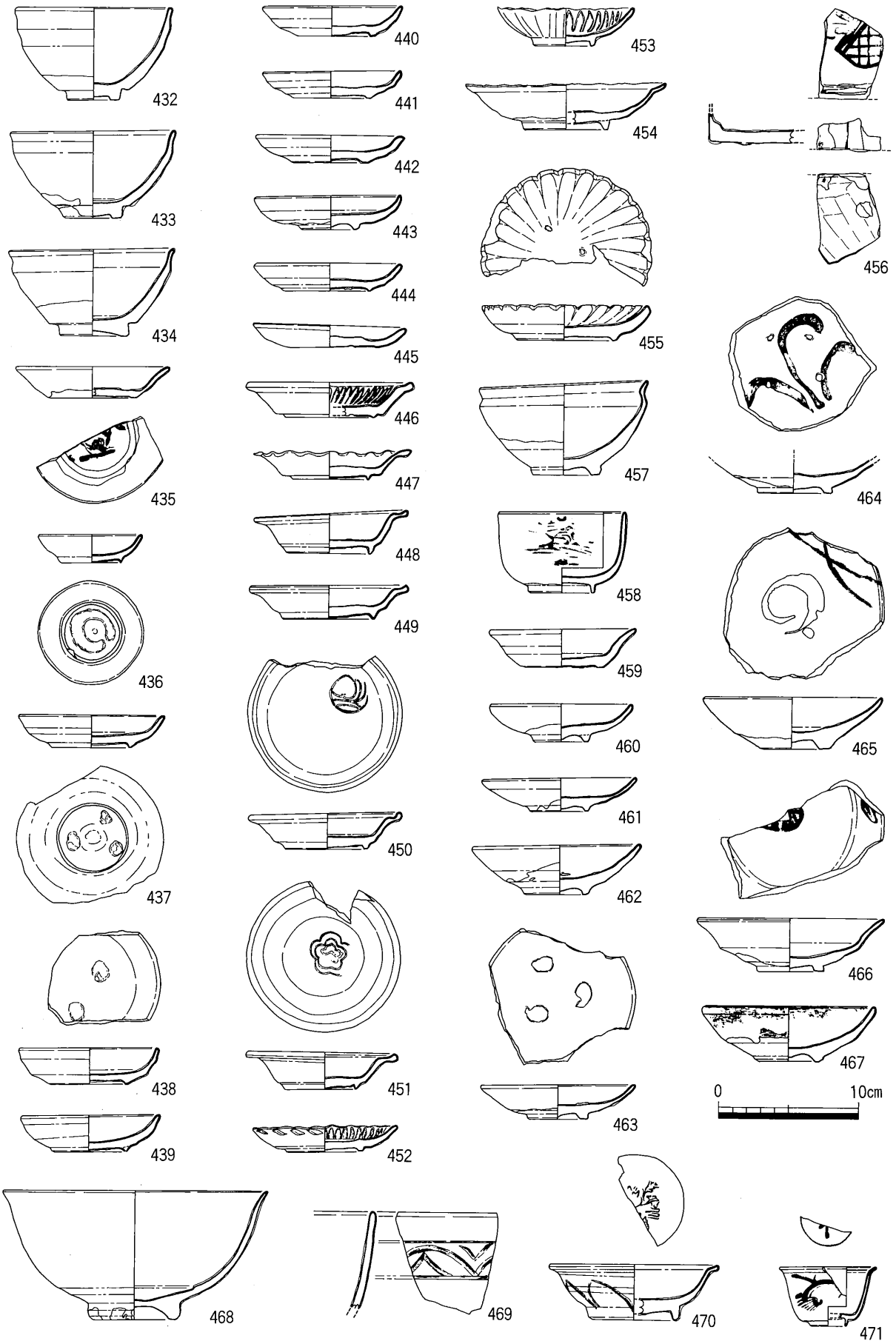
504～509は朝鮮半島産の白磁である。口縁端部は薄く仕上げている。白色の釉薬をかけ，見込およ



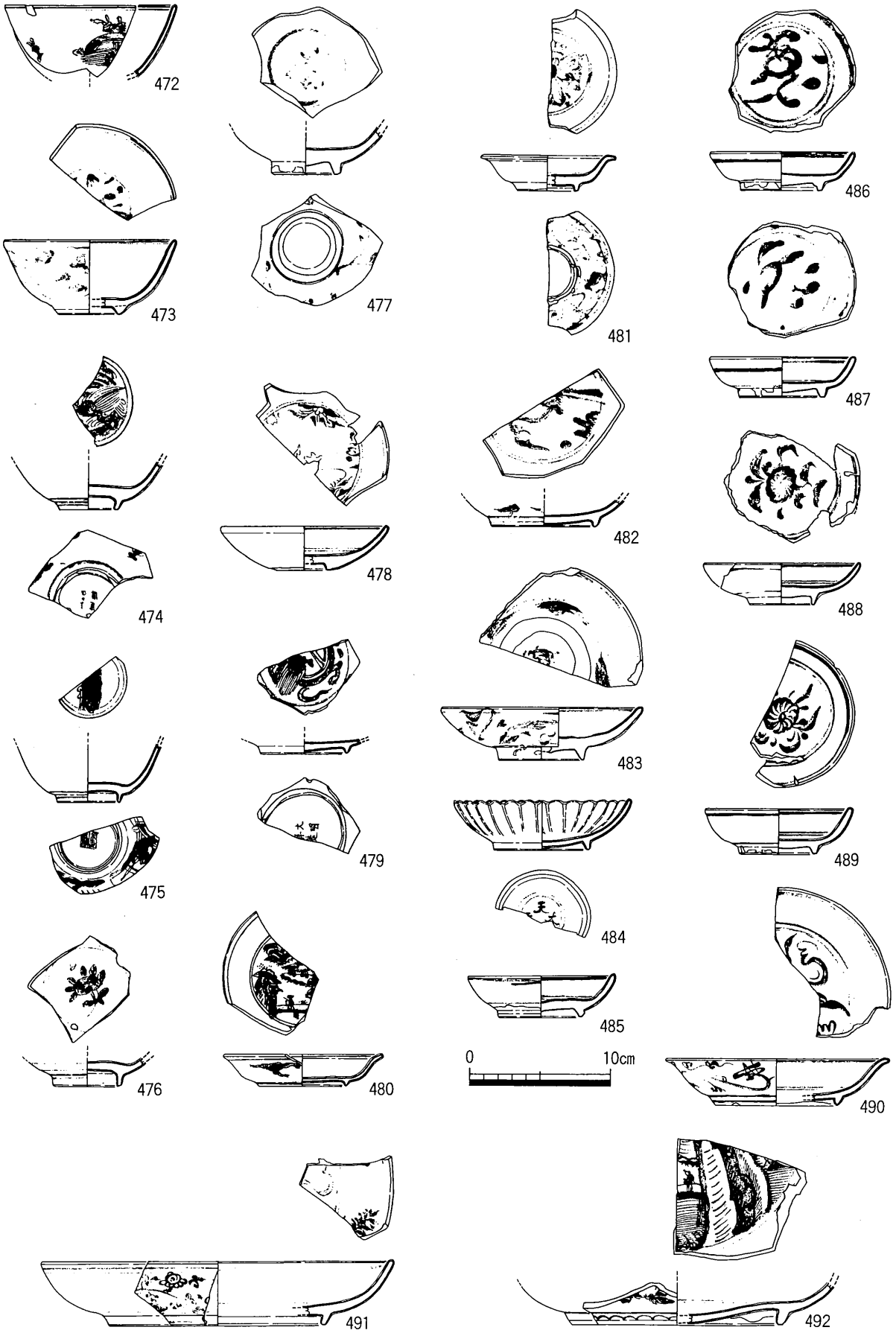
第103図　第４遺構面上層出土遺物実測図(1)



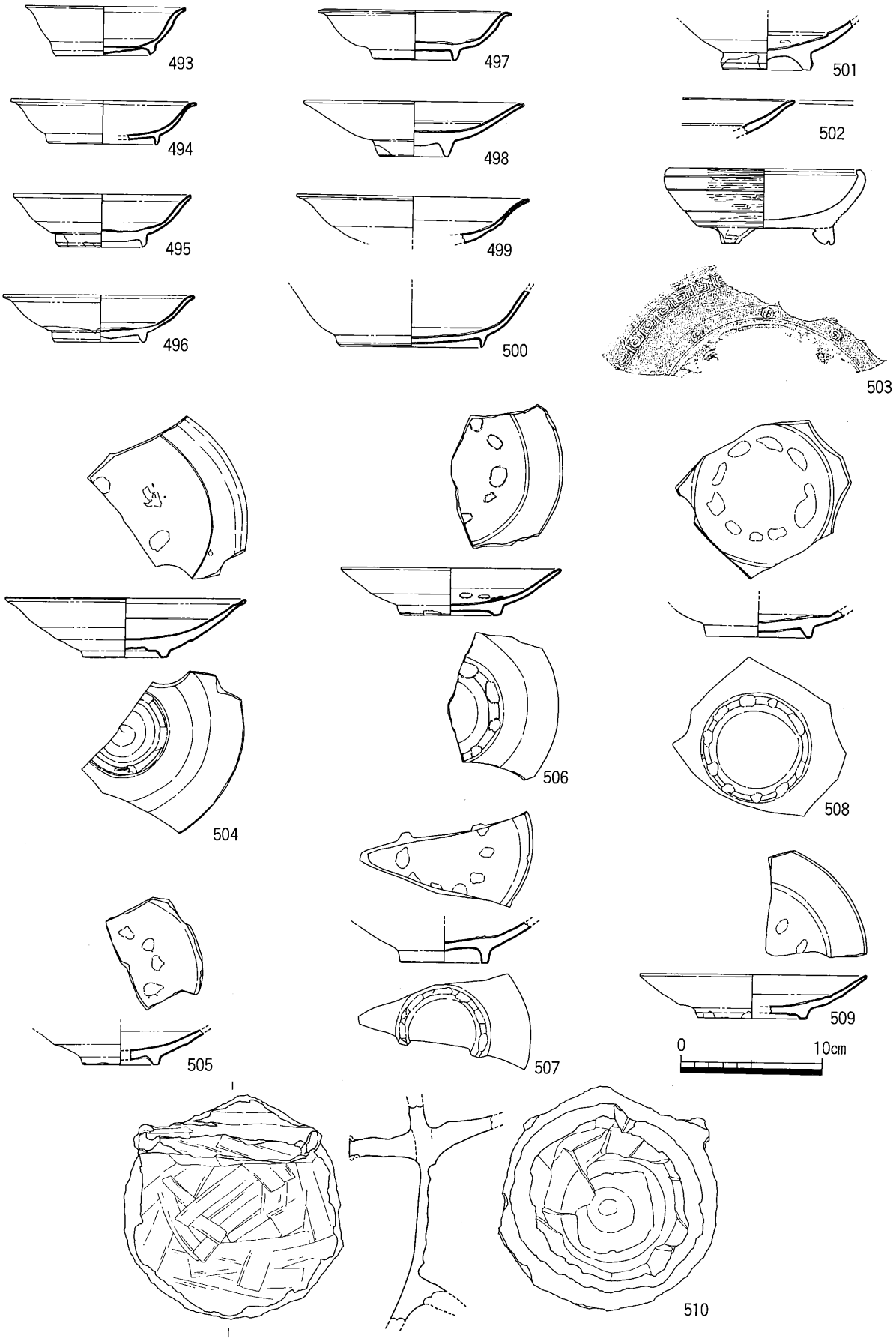
第104図　第４遺構面上層出土遺物実測図(2)



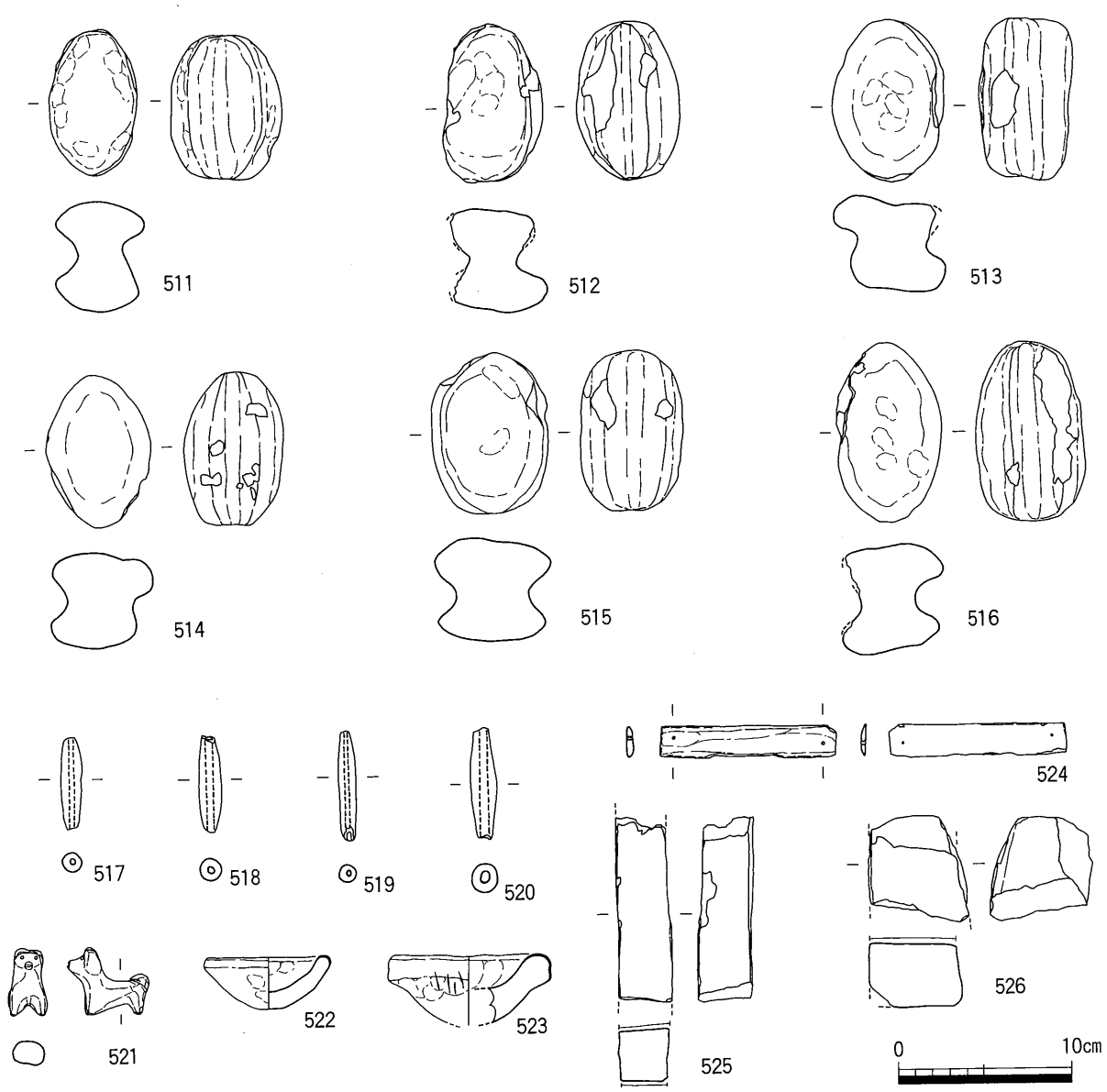
第105図　第４遺構面上層出土遺物実測図(3)



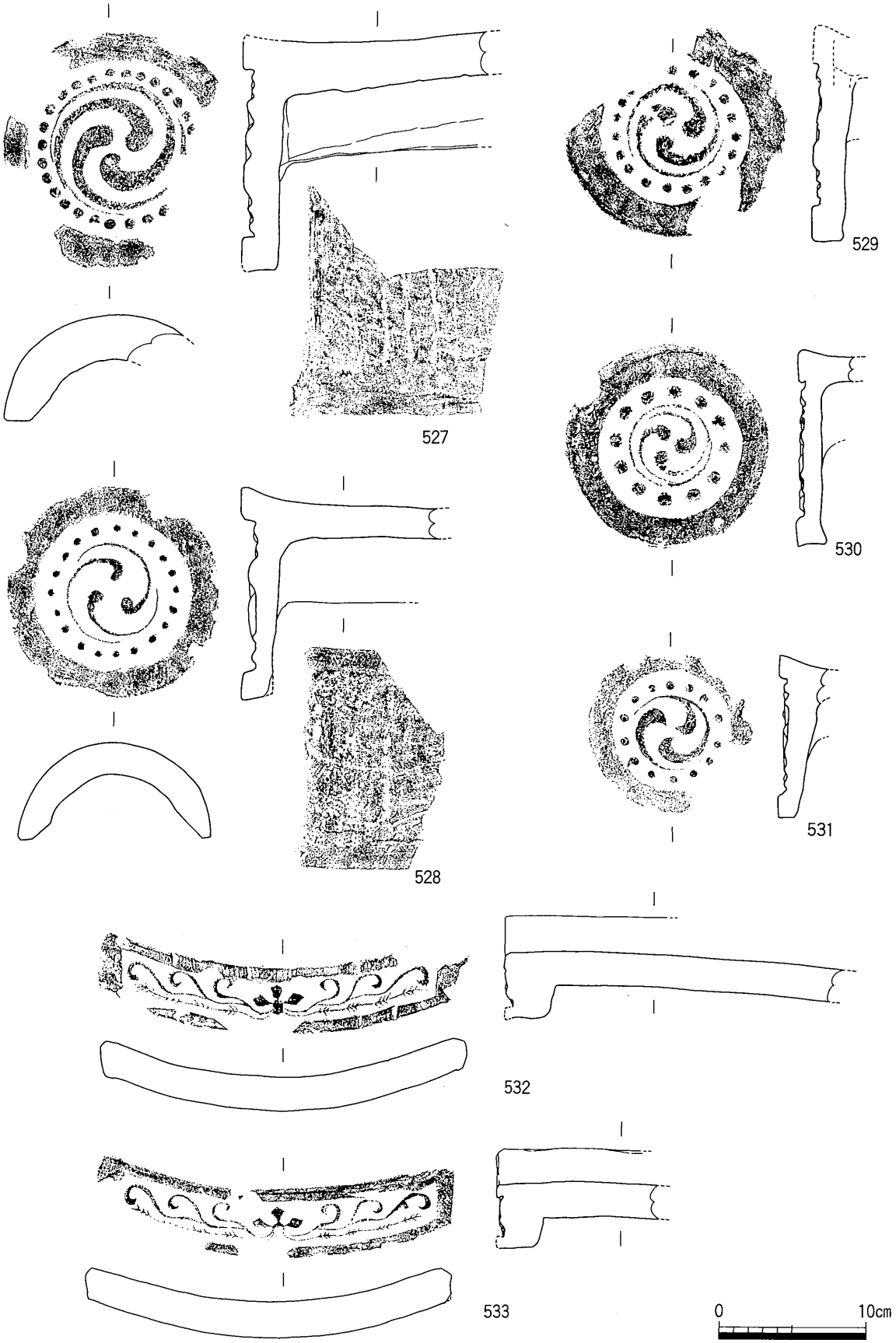
第106図　第４遺構面上層出土遺物実測図(4)



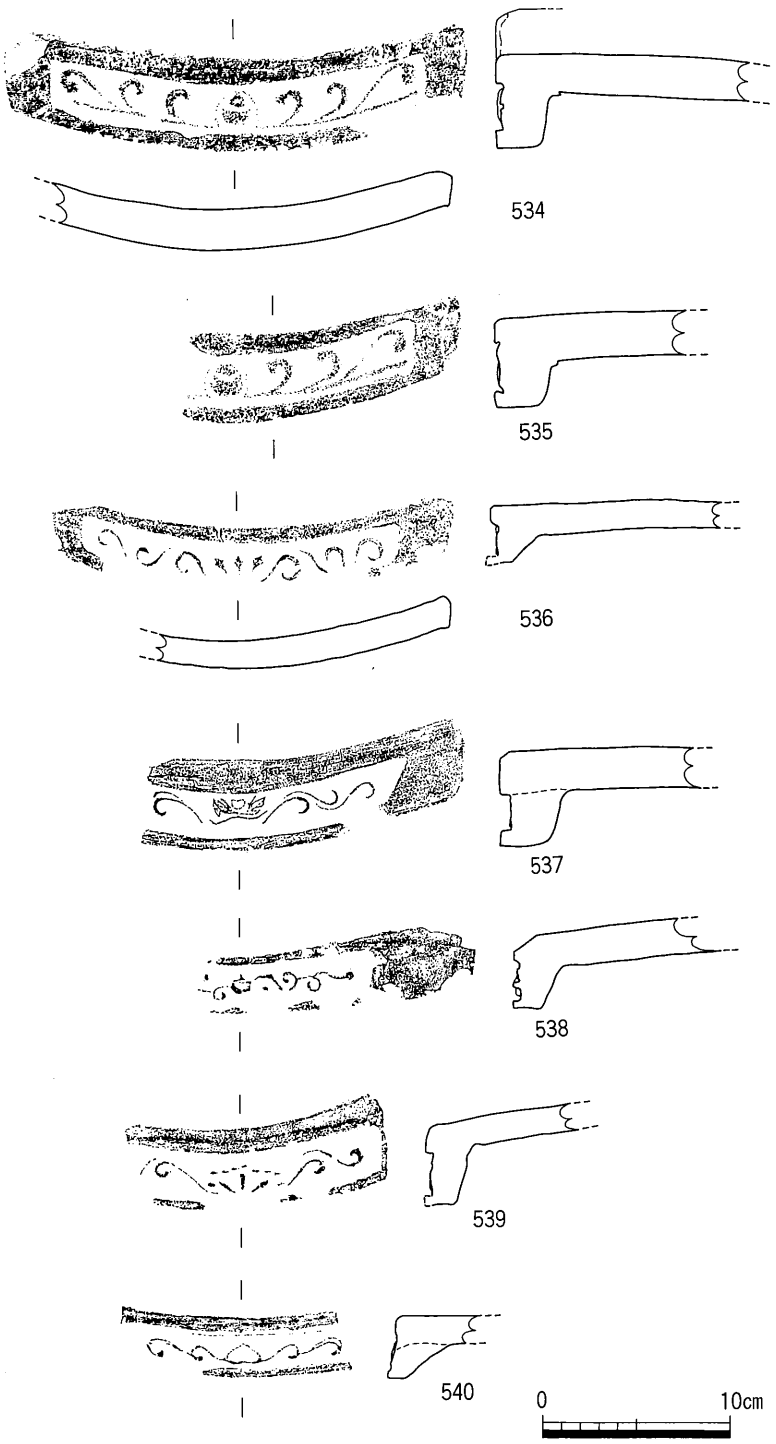
第107図　第４遺構面上層出土遺物実測図(5)



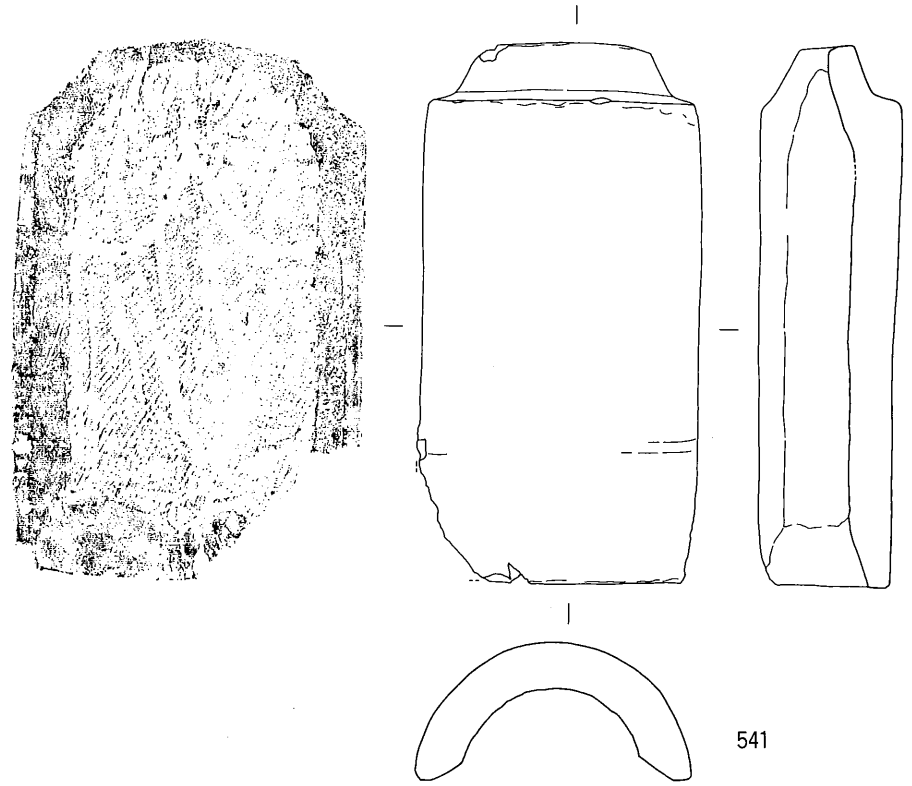
第108図　第４遺構面上層出土遺物実測図(6)

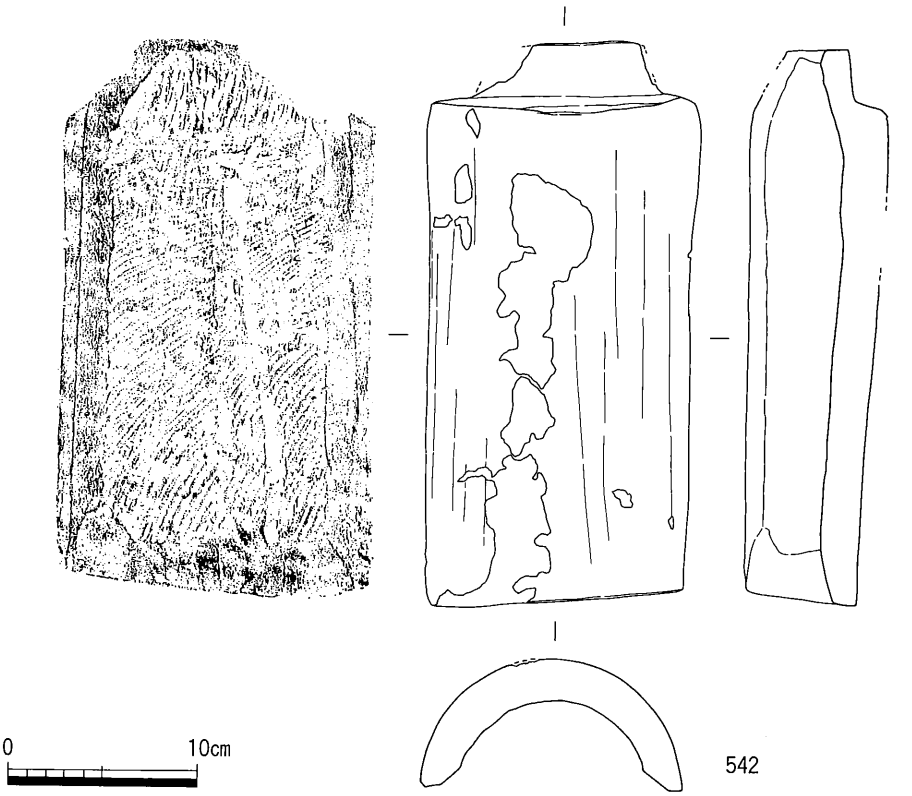


第109図　第４遺構面上層出土遺物実測図(7)

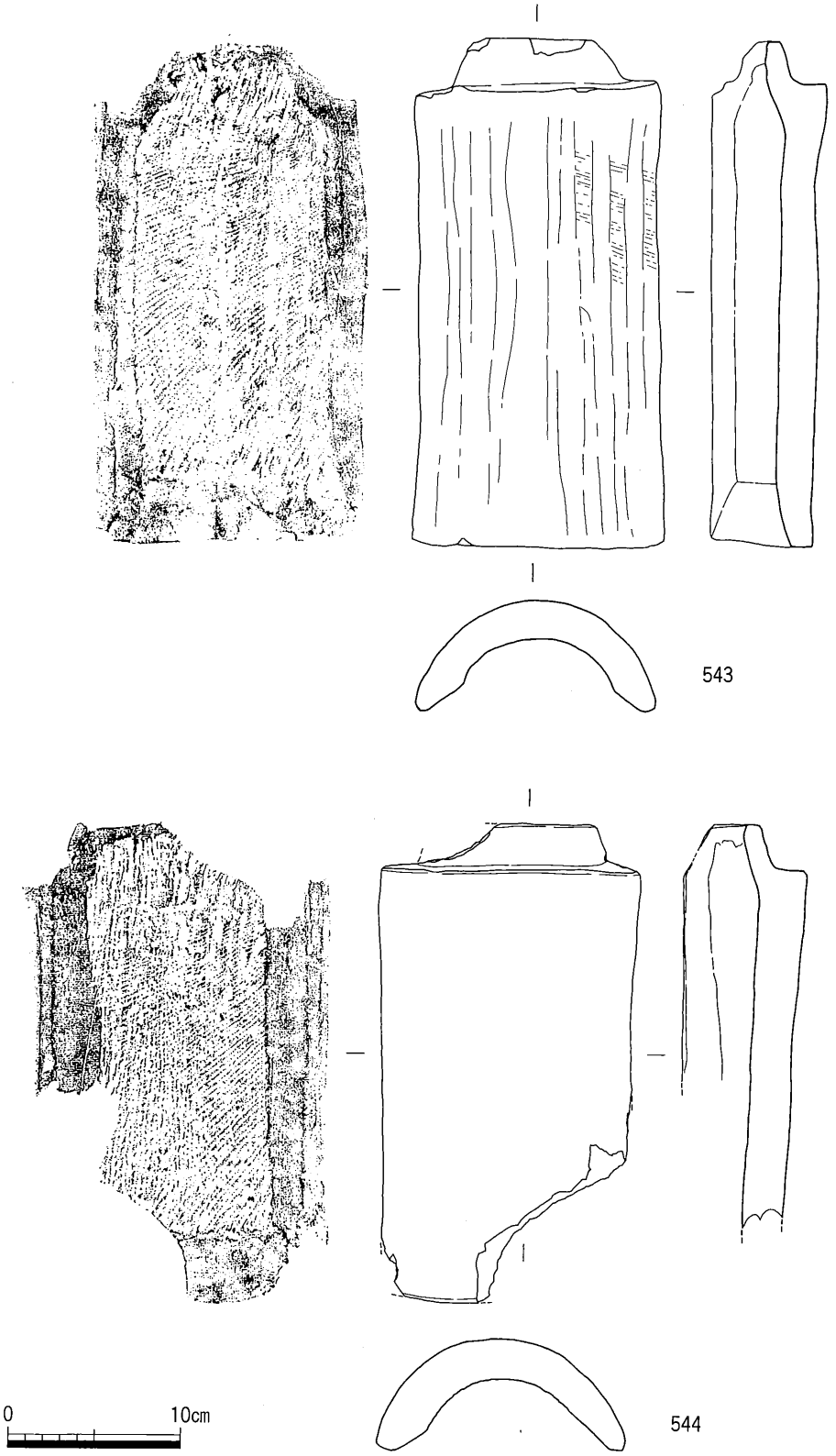


第110図　第４遺構面上層出土遺物実測図(8)

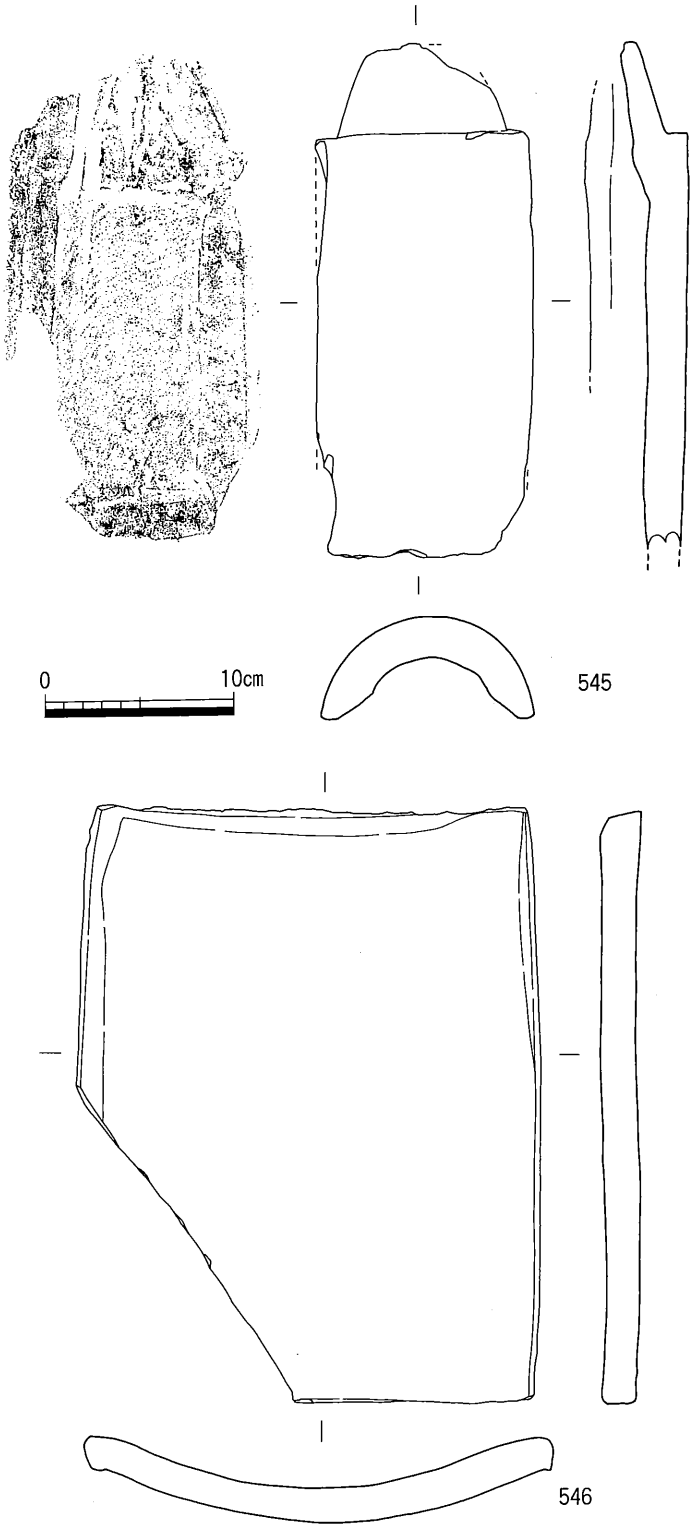




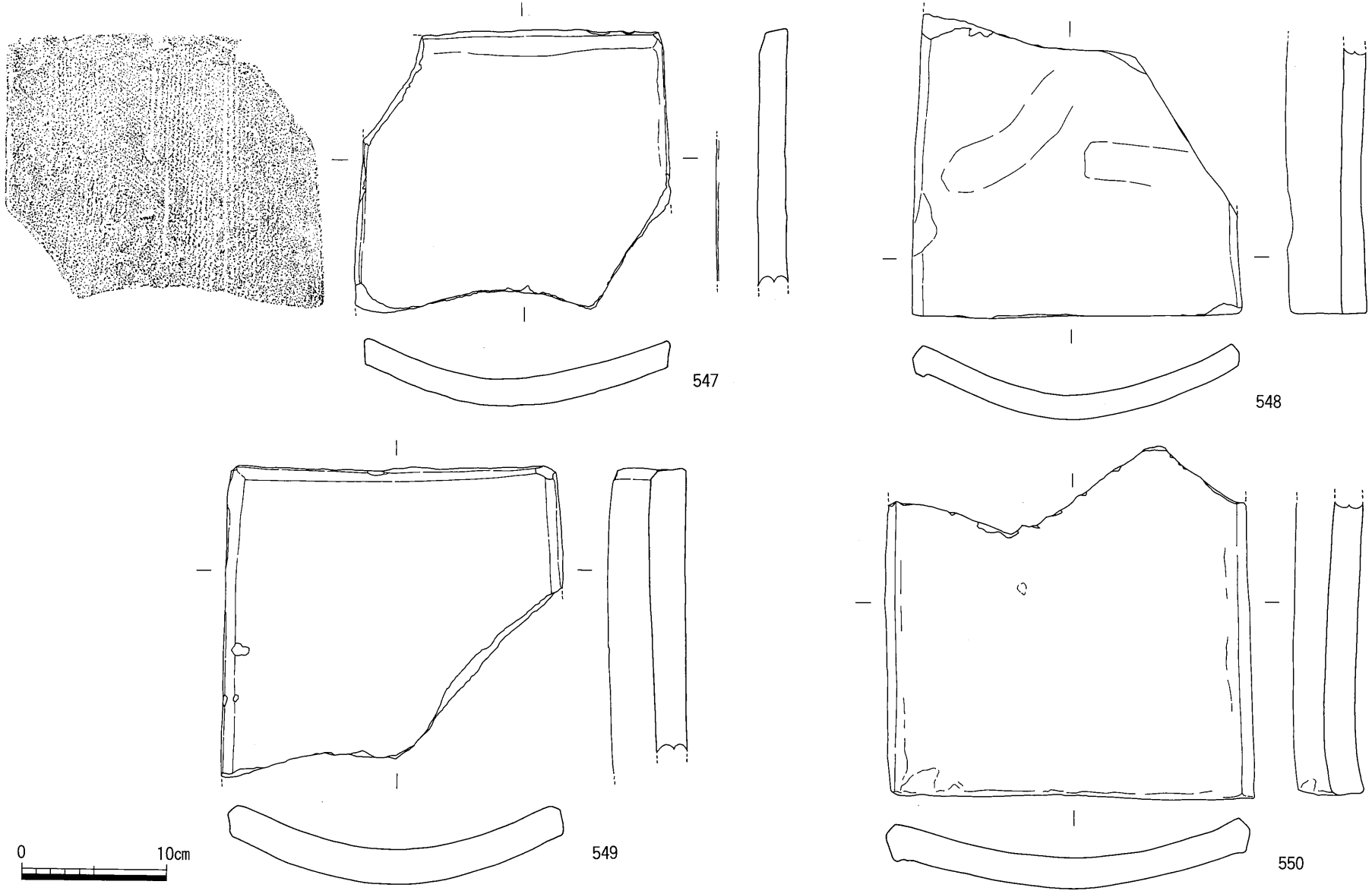
第111図　第4遺構面上層出土遺物実測図(9)



第112図　第4遺構面上層出土遺物実測図(10)



第113図　第４遺構面上層出土遺物実測図(11)



第114図　第４遺構面上層出土遺物実測図(12)

び高台畳付に砂目積の痕跡が10個程度認められる。この砂目積の痕跡の多いのは朝鮮半島産の特徴である。

511～516は有溝土錘である。517～520は管状土錘である。

521は土人形である。犬を象っている。丁寧な作りをしており，耳の垂れているところなどに愛玩の意図が伺える。

522・523は坩堝である。いずれも溶解した金属が全面に付着している。

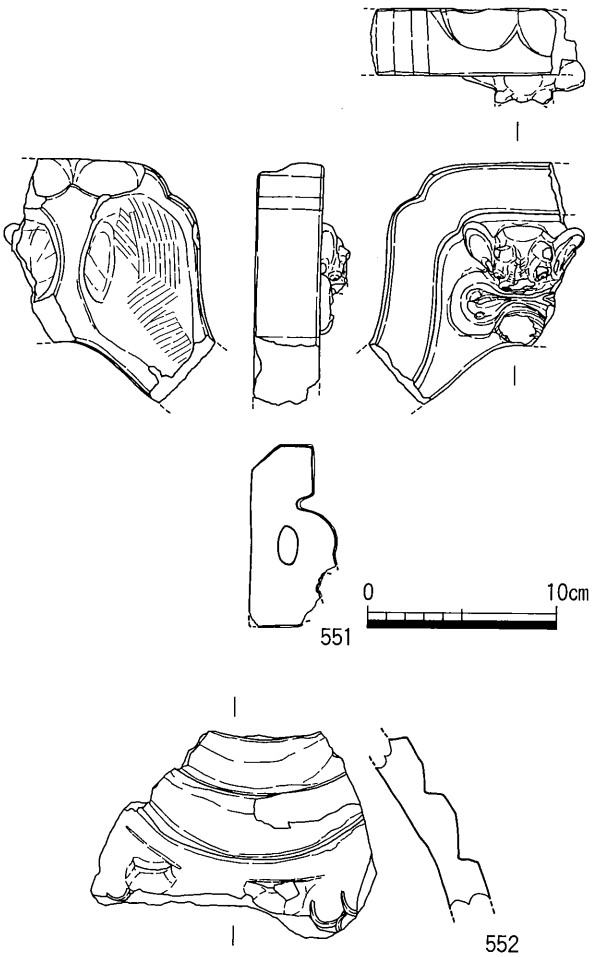
524は骨角器である。円筒状の骨を薄く削り，両側に１つずつ穿孔している。用途は不明である。

525・526は砥石である。

527～531は三巴文軒丸瓦である。527～529は全体に大ぶりで巴文の尾の巻き方が大きく，珠文の数も多い。これに対して，530は巴文の占める割合が小さく，珠文も大きくなっている。531は全体に小ぶりになり巴の巻きが緩い。新しい要素が伺える。

532～540は軒平瓦である。532・533は中心飾りが三菱形を呈し，左右に唐草が３回転回している。534・535は中心飾りが団栗状を呈するものである。536は三葉の中心飾りを持ち，子葉が３回転回するものである。537はハート形の両側に小さな葉を持つ中心飾りを持つものである。538は小さな円形を呈する中心飾りを持つものである。539は三葉の上部に７つの列点文を持つ中心飾りの左右に子葉が２回転回するものである。540は円形が３個重なった竹をイメージしたような中心飾りを持つものである。

541～545は丸瓦である。いずれもコビキＡ手法が顕著に認められる。541には布袋を綴じた際の紐の痕跡が顕著に認められる。コビキ痕のありかたからみてこれらの丸瓦は16世紀後半ごろの古いタイプの丸



第115図　第４遺構面上層出土遺物実測図(13)

瓦であるといえよう。

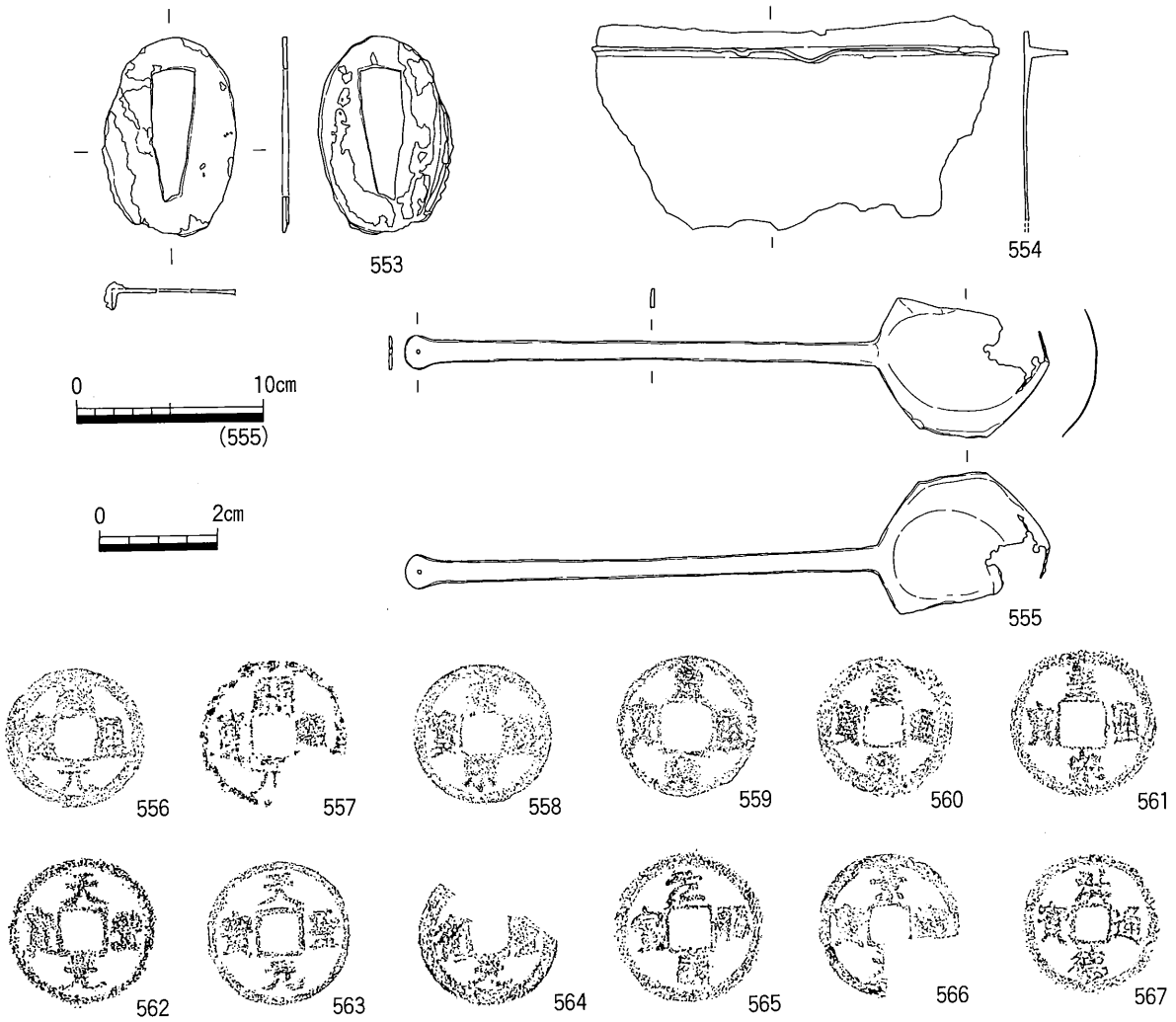
546～550は平瓦である。狭端部を面取りして丁寧に作ったものが多い。547にはコビキA手法とその後の細い縄目のタタキ調整の痕跡が顕著に認められる。

551は小型の鬼瓦である。瓦質ではなく，陶器である。胎土や焼成，長石釉が施釉されていることなどから瀬戸・美濃産のものではないかと思われる。モチーフは鍾馗である。裏面の龍頭も丁寧に作り出している。陶器製であること，小型であることなどから屋外に使用したとは考えがたく，建物の内部にある別の小規模の建物（たとえば廟や厨子のようなもの）に葺かれていた可能性が考えられる。

552は鯱の一部である。おそらく尾に近い部分であると考えられる。

553～555は金属器である。553は刀身に鍔を装着するための金具，切羽である。裏側には漆のようなものが付着しており，恐らく接着用のものであると考えられる。555は勺状の金属器である。勺の部分は六角形を呈する。把手の先端は丸く仕上げており，小さく穿孔されている。

556～567は古銭である。556・557は開元通宝（初鋳年621年），558～561は皇宋通宝（初鋳年1039年），562～564は天聖元宝（初鋳年1023年），565は元豊通宝（初鋳年1078年），566は景徳元宝（初鋳年1004年），567は洪徳通宝（鋳造年1470～1497年）である。洪徳通宝は越南（現在のベトナム）で流通した貨幣である。



第116図　第4遺構面上層出土遺物実測図(14)

3．第Ⅲ期（1671～19世紀，付図２参照）

この時期の遺構面は明確ではなく，遺構も多くない。井戸や瓦溜遺構を検出したにとどまる。

以下に検出した遺構と遺物について述べる。

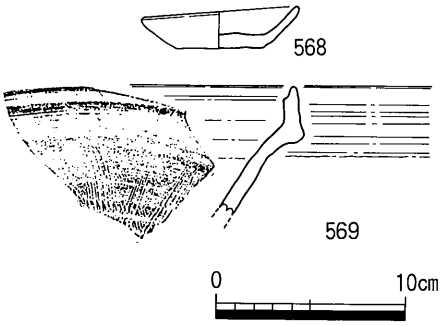
SP 01

調査区中央やや南西よりの部分で検出した遺構である。直径30cm，深さ約20cmの柱穴と考えられる遺構である。

第117図はSP 01から出土した遺物の実測図である。

568は土師器の小皿である。

569は備前産の擂鉢の口縁部である。



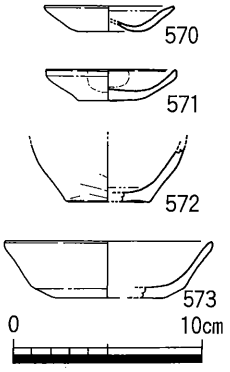
第117図　SP01出土遺物実測図

SP 02

石垣の下層中央部で検出した柱穴と考えられる遺構である。直径30cm，深さ30cmを測る。

第118図はSP 02から出土した遺物の実測図である。

570・571は土師器の小皿である。572・573は杯である。572は器高が高いものである。



第118図　SP02出土遺物実測図

SP 03

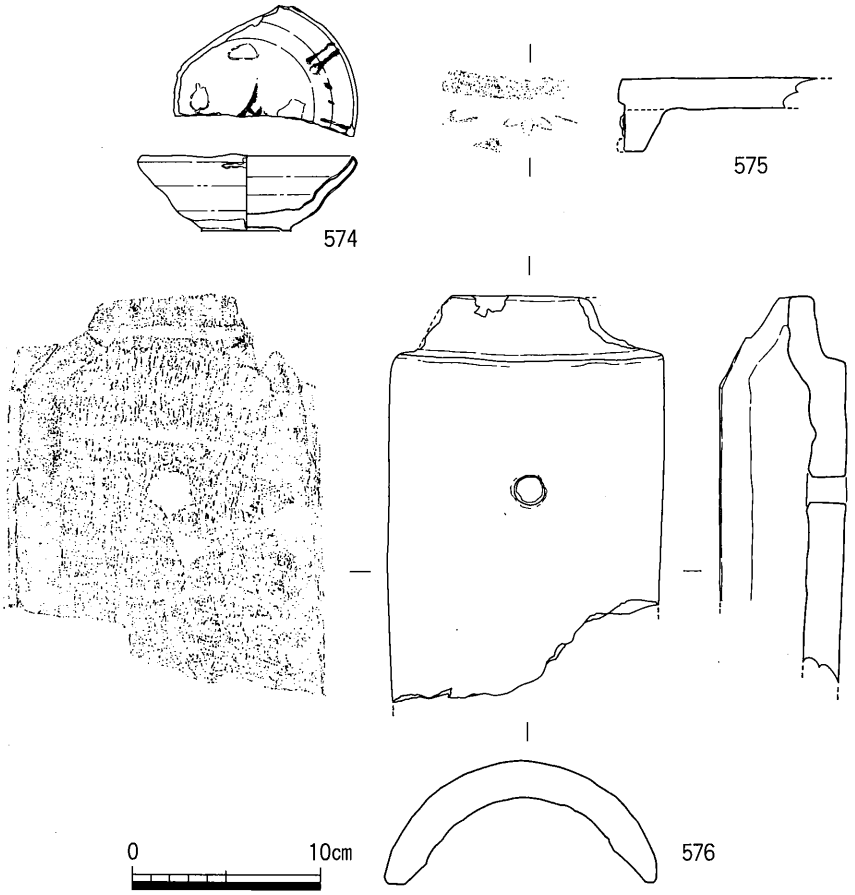
SP 02の南側で検出したやはり，柱穴と考えられる遺構である。直径50cm，深さ30cmを測る。

第119図はSP 03から出土した遺物の実測図である。

574は唐津産の皿である。砂目積の痕跡が３個認められる。内面には鉄絵が描かれている。

575は軒平瓦である。中心飾りは下向きの三葉である。

576は丸瓦である。凹面には布目の痕跡が認められ，中央には釘穴が１個穿孔されている。



第119図　SP03出土遺物実測図

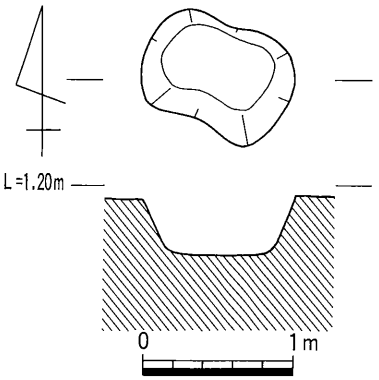
SK 15（第120図）

石垣の下層北端部で検出した土坑である。中央部がややくびれている長方形を呈している。長径約１m，短径約70cm，深さ50cmを測る。埋土中から多くの土師質土器が出土した。

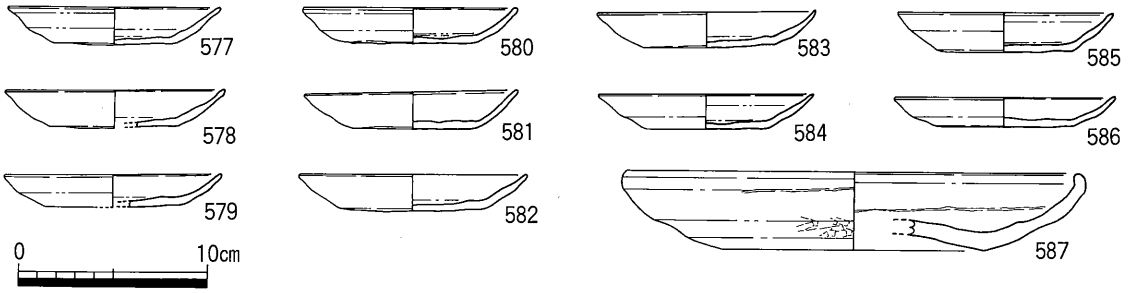
第121図はSK 15から出土した遺物の実測図である。

577～586は土師器の小皿である。

587は備前産の皿である。底部はやや上げ底気味になっている。



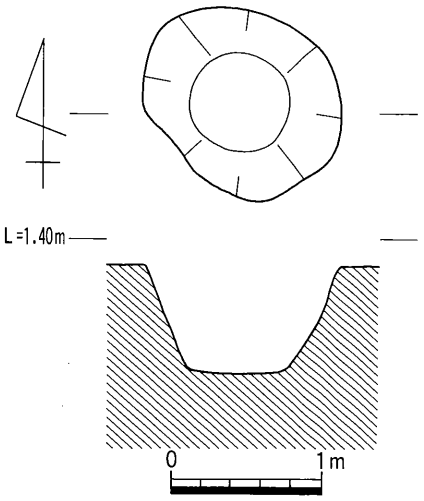
第120図　SK15平・断面図



第121図　SK15出土遺物実測図

SK 16（第122図）

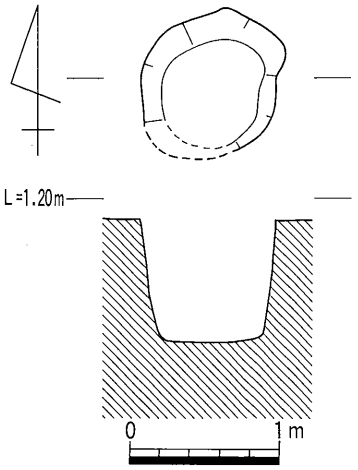
SK 15の南側で検出した土坑である。直径1.2m，深さ約１mのほぼ円形を呈する。遺物が出土していないため，性格は不明である。



第122図　SK16平・断面図

SK 17（第123図）

SK 16の７mほど南側で検出した土坑である。直径約１m，深さ約1.2mのほぼ円形を呈する。遺物が出土していないため，性格は不明である。



第123図　SK17平・断面図

SK 18（第124図）

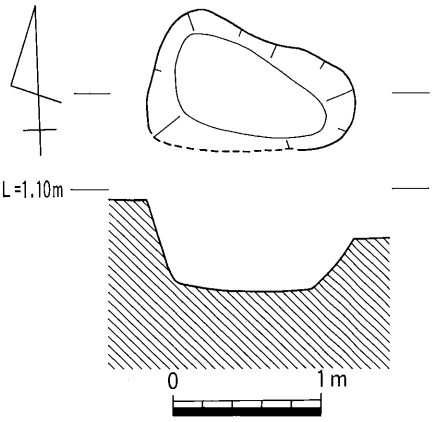
石垣の下層中央やや南よりの部分で検出した土坑である。東西1.4m，南北80cm，深さ約60cmを測る。

第125図はSK 18から出土した遺物の実測図である。

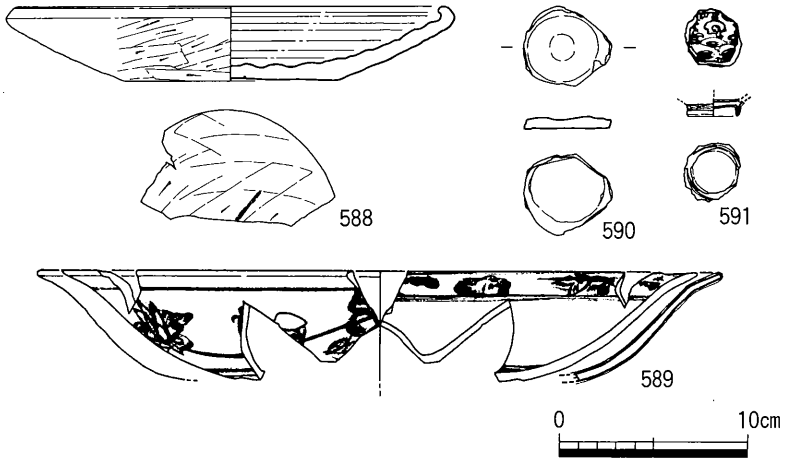
588は備前産の皿である。口縁端部は内側にわずかに折り曲げている。底部外面に刻印が一部認められる。

589は肥前産の大皿である。外面および口縁部の内面に草花文が描かれている。

590・591は転用土製品である。591は染付の酒盃の底部を転用したものである。



第124図　SK18平・断面図



第125図　SK18出土遺物実測図

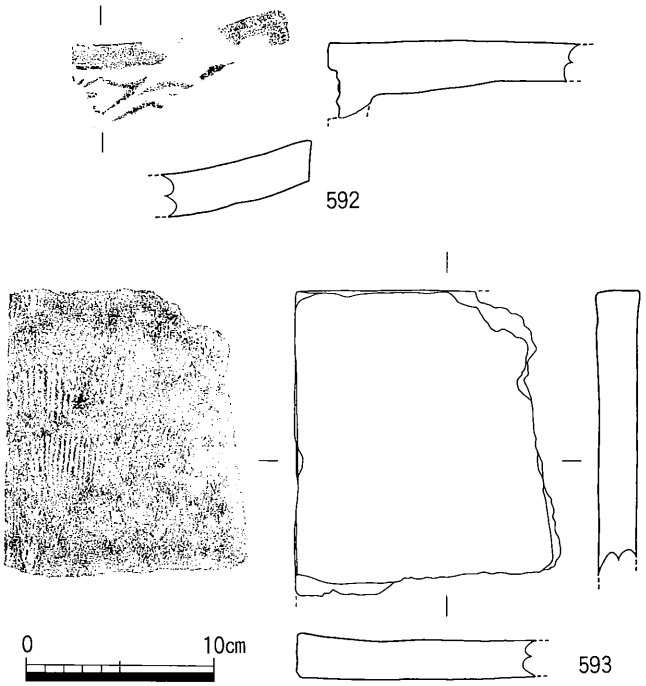
SK 19

SK 18に切られた状況で検出した土坑である。直径約１m程度であったと思われる。埋土中から瓦類が出土した。

第126図はSK 19から出土した遺物の実測図である。

592は軒平瓦である。

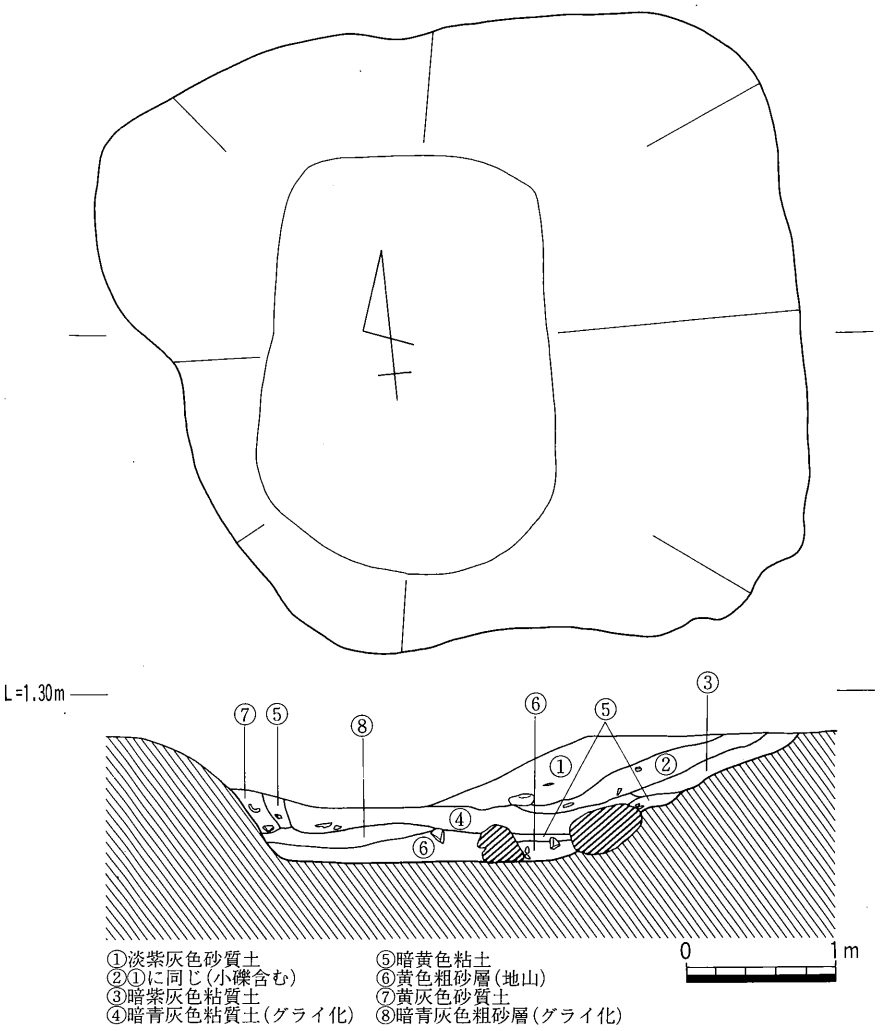
593は平瓦である。凸面に調整時のタタキ痕がわずかに認められる。



第126図　SK19出土遺物実測図

SX 17（第127図，図版38(1)・48(2)）

調査区ほぼ中央で検出した大型の土坑状の遺構である。東西4.5m，南北４ｍを測り，南西隅が少しへこんだ四角形を呈する。深さ約80cmで，埋土中からは陶磁器類のほか，瓦類が出土している。



第127図　SX17平・断面図

第128・129図はSX 17から出土した遺物の実測図である。

594は土師質の三足付土釜の足の部分である。

595は備前産の擂鉢である。

596は瀬戸・美濃産の丸皿である。

597は唐津産の皿の口縁部である。

598～600は肥前産の染付である。598は碗で口縁部内面に帯状に文様が描かれている。599も碗である。600は深手の皿で見込に五弁花文のコンニャク印判が見られる。

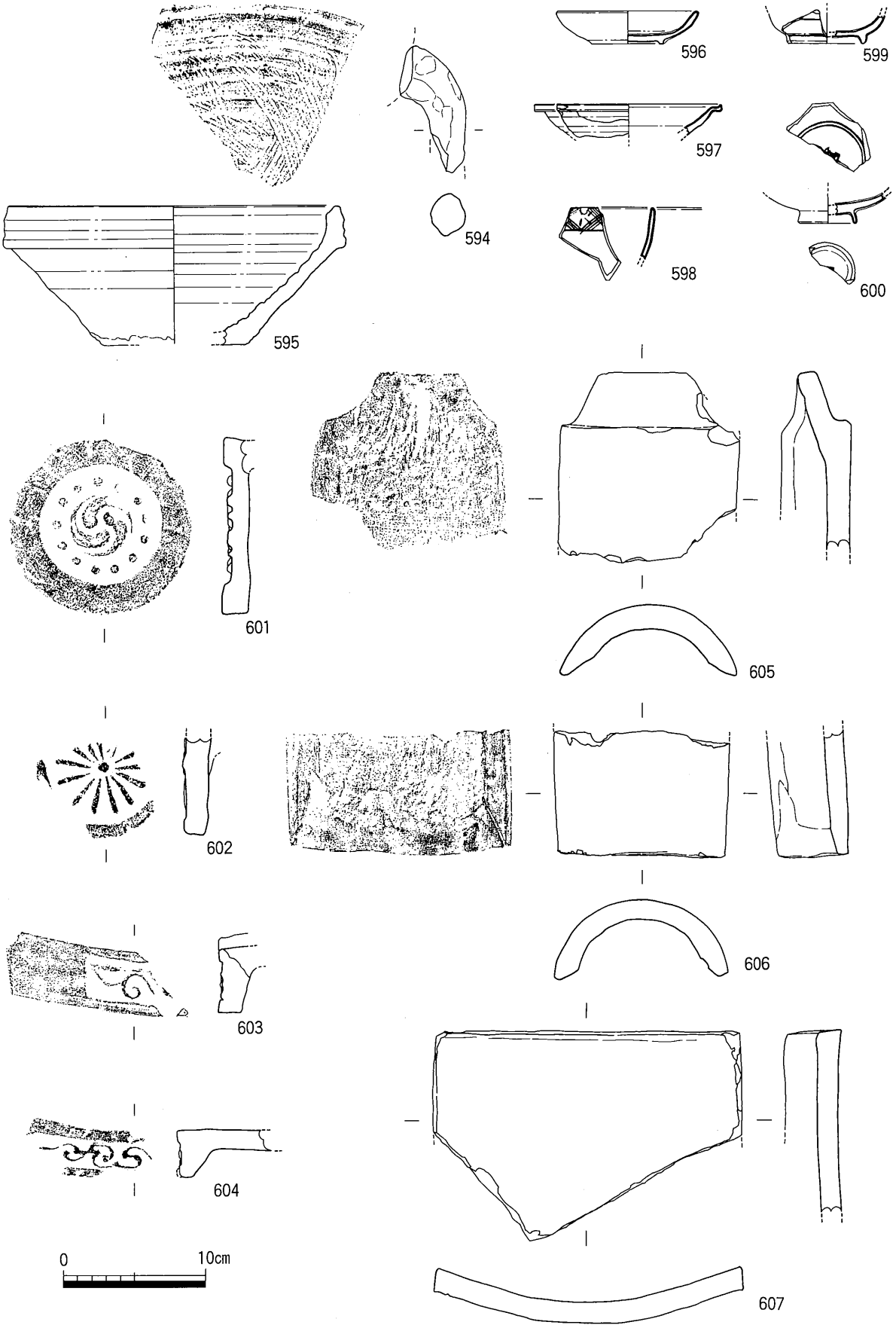
601は三巴文軒丸瓦である。全体的に小ぶりで厚みも薄くなり，巴文の尾の巻き込みが緩くなってきている。

602は小菊文の瓦である。棟瓦の一つで棟を高くした部分の両側に並べたものである。

603・604は軒平瓦である。

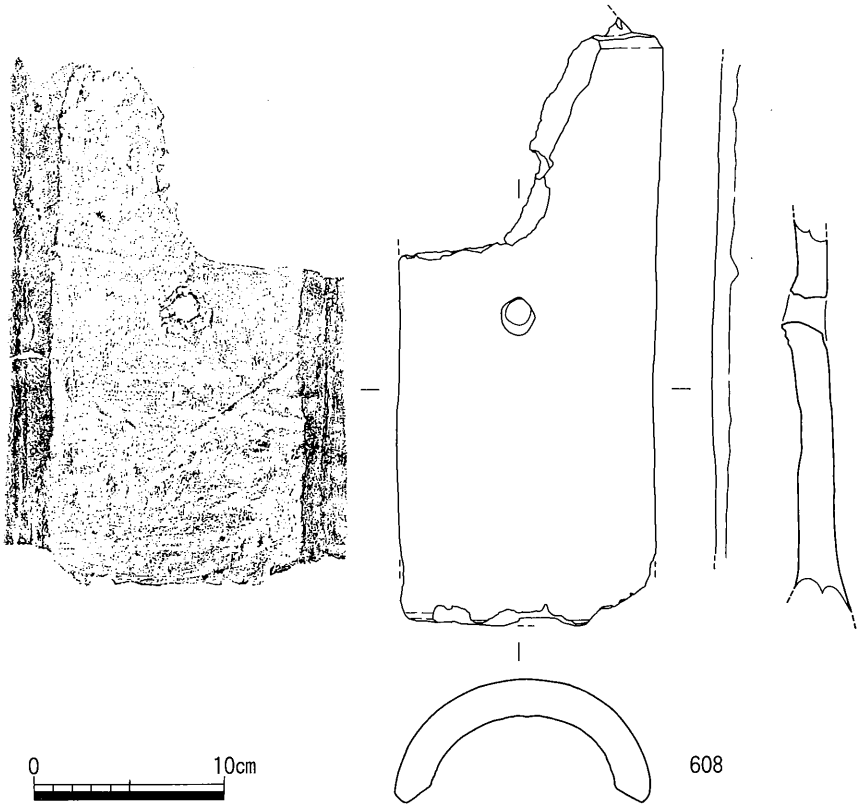
605・606は丸瓦である。丸瓦も全体的に薄くなっている。

607は平瓦である。



第128図　SX17出土遺物実測図(1)

608は長尺の軒丸瓦である。軒先部は欠損している。釘穴は2個あいている。



第129図　SX17出土遺物実測図(2)

SX 18（第130図，図版38(2)・39(2)）

調査区北西隅で検出した南北に長い土坑状の遺構である。南北4m，東西約80cm，深さ20cmを測る。埋土は暗灰色の砂質土と粘質土の2層に大別できる。埋土中からは土師質土器や陶磁器，瓦類が出土している。

第131～133図はSX18から出土した遺物の実測図である。

609は土師器の杯である。610・611は土師器の小皿である。612は土師質の土鍋の口縁部である。

613は須恵質の鉢の口縁部である。

614は備前産の小型の土釜である。

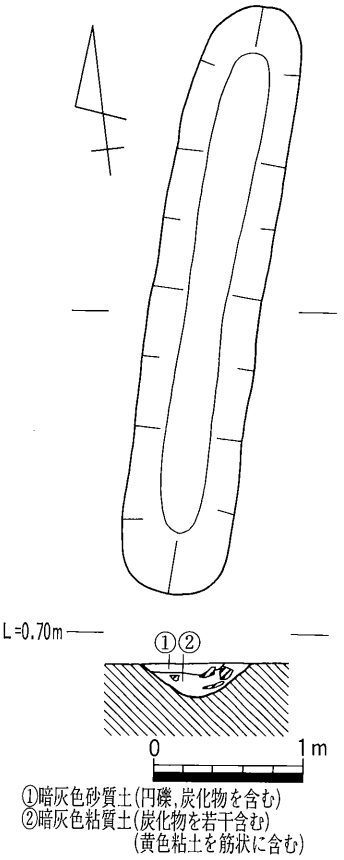
615～618は唐津産の陶器である。615は見込に窯道具の痕跡が3ヶ所認められる。

619は肥前産の染付である。器種は合子の蓋である。鶴に梅，三葉葵の松平家の家紋が描かれている。

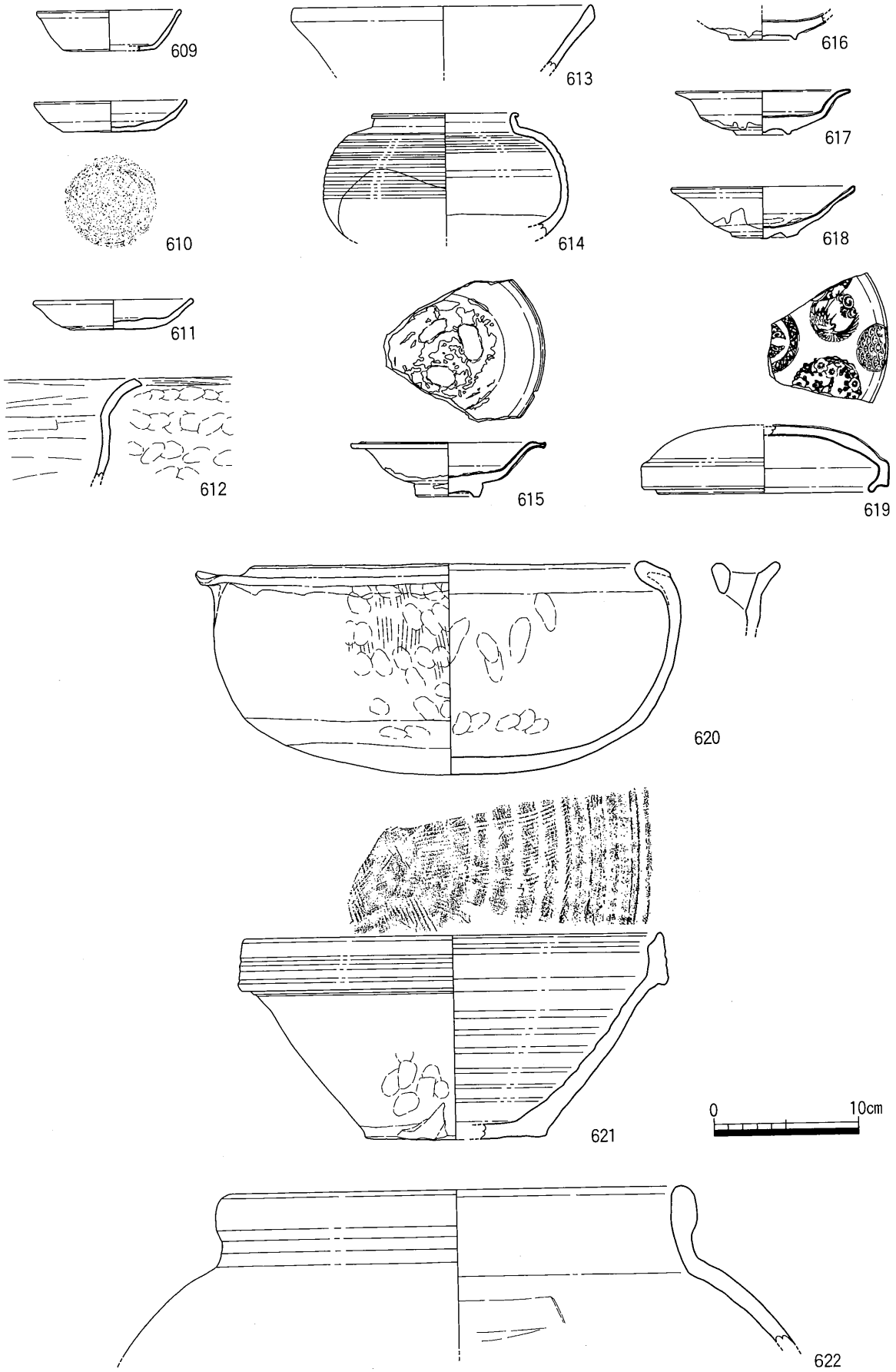
620は土師質の土鍋である。内面2ヶ所に内耳を持ち，吊るせるように穿孔されている。

621は備前産の擂鉢である。

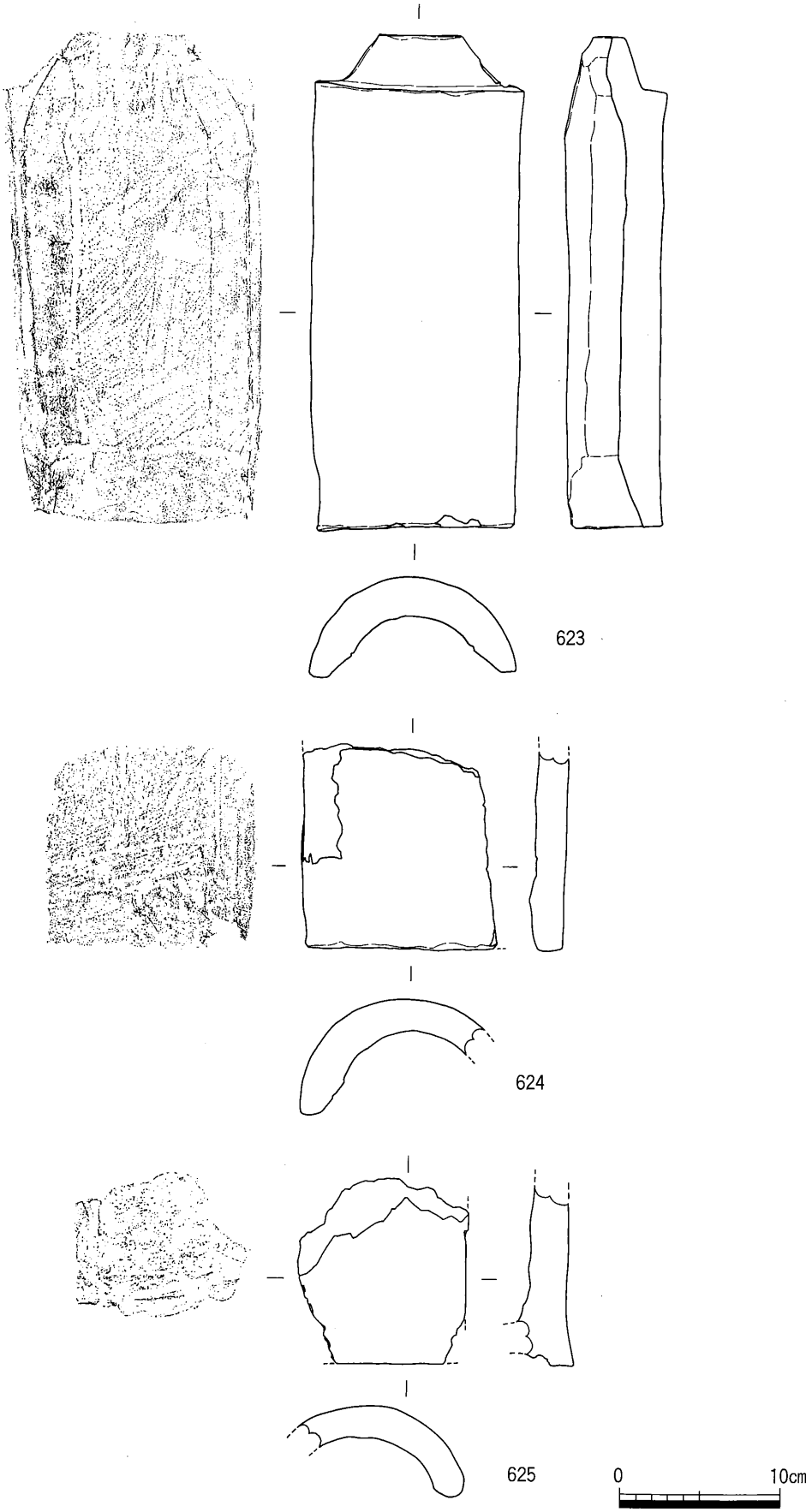
623・624は丸瓦，625は軒丸瓦である。623には凹面にコビキA手法が認められる。



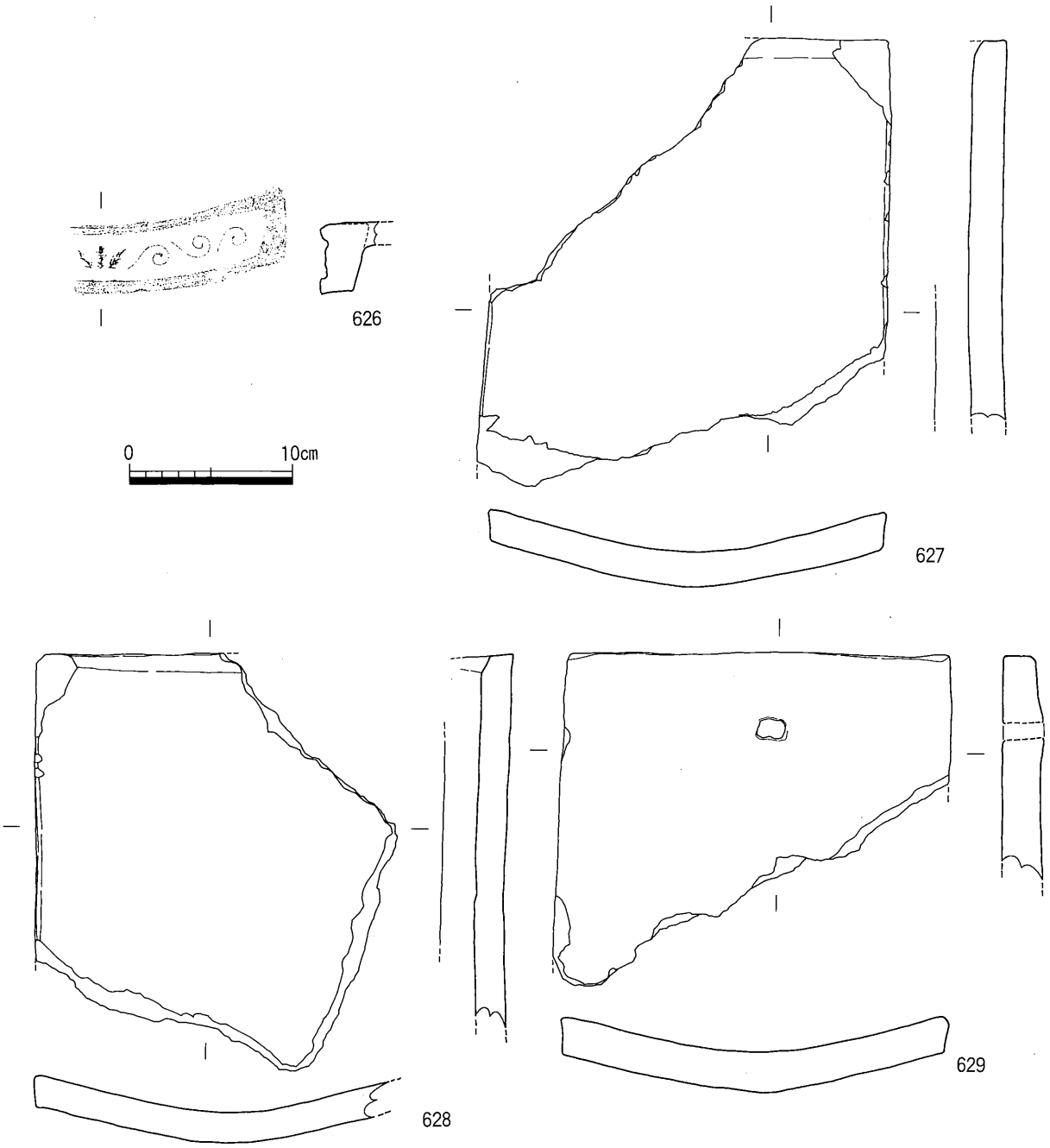
第130図　SX18平・断面図



第131図　SX18出土遺物実測図(1)



第132図　SX18出土遺物実測図(2)



第133図　SX18出土遺物実測図(3)

626は軒平瓦である。中心飾りは三葉で子葉は3回転回する。

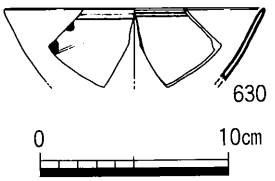
627～629は平瓦である。629には釘穴が1個穿孔されている。

SX 19

SX 17の約7m東で検出した円形の土坑状の遺構である。直径約50cmを測る。埋土中から少量の陶磁器片が出土している。

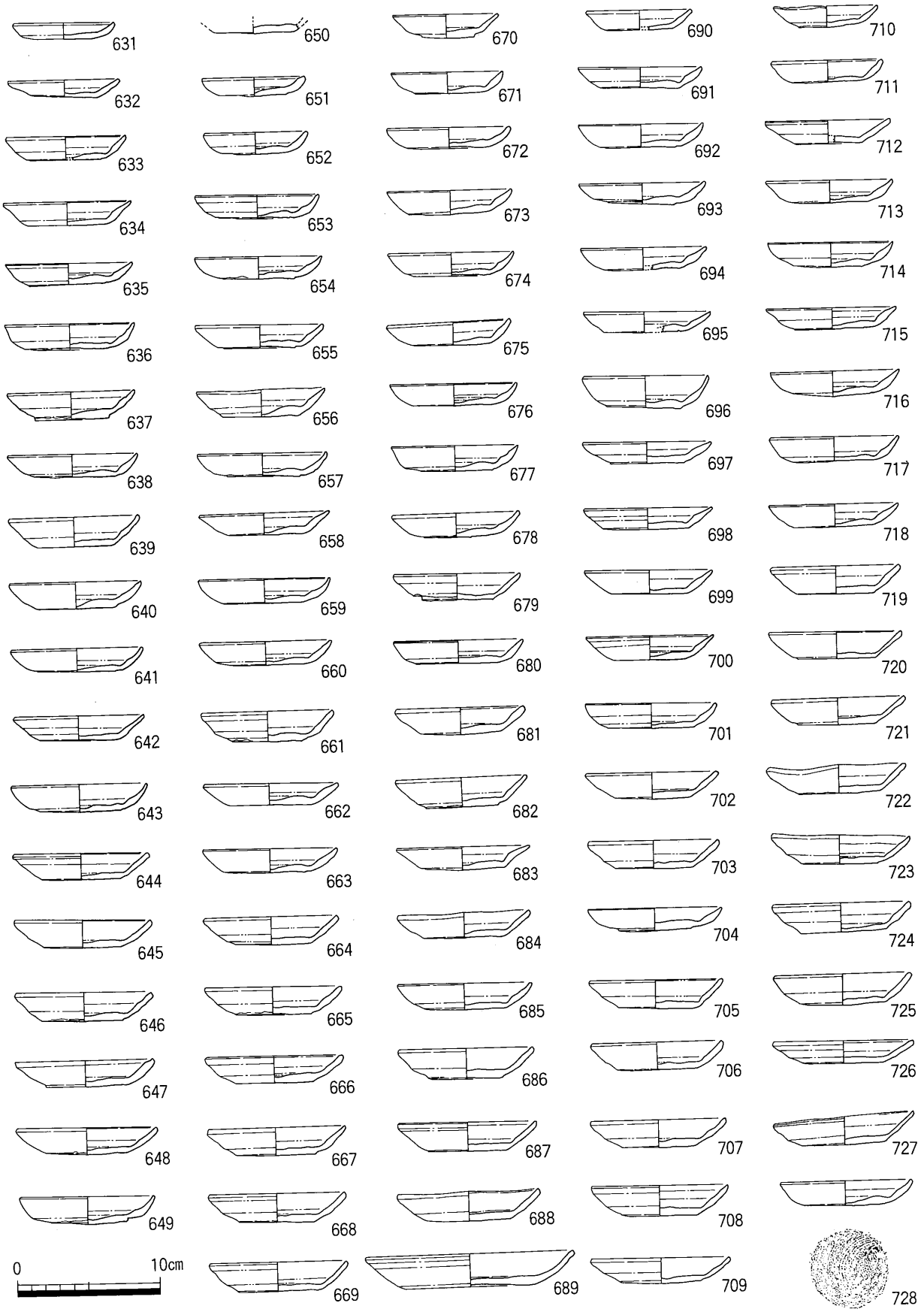
第134図はSX 19から出土した遺物の実測図である。

630は肥前産の染付の碗である。



第134図　SX19出土遺物実測図

第135図　SX20遺物出土状況図



第136図　SX20出土遺物実測図(1)

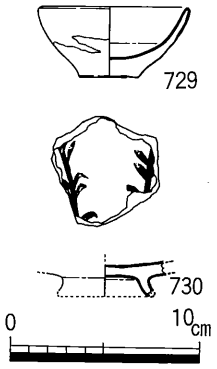
SX 20（第135図，図版40(2)）

SK 17の南西で検出した土器溜である。直径約１mのほぼ円形を呈しており，埋土中からは大量の土師質土器の皿が出土した。これらはほとんどが伏せた状態で検出され，また，完形品が多いことから何らかの祭祀に使われた可能性が高いと考えられる。検出した位置が石垣の下層であることから，石垣を構築する際に地鎮め等を実施したのではないかと考えられる。

第136・137図はSX 20から出土した遺物の実測図である。

631～728は土師器の小皿である。すべて底部の切り離し技法は糸切りである（728参照）。689のみが大きい皿であるが，その他はほとんど同じ大きさである。

729と730はその他の出土遺物である。



第137図　SX20出土遺物実測図(2)

石垣について

第Ⅲ期には調査区の東側に南北に石垣が築かれる。これは1671年（寛文11年）の高松藩初代藩主松平頼重による東の丸造成に伴うもので，従来武家屋敷および「つるや町」「うほのたな町」と呼ばれていた商人の町に，新たに堀を掘削し，新郭を造成したものである。

検出した石垣は南北に調査区を縦断するように検出され，総延長は約70mに及ぶ。北側の県民ホールの東側にもこの石垣の延長部分が現存しており，南側は高松市立城内中学校の敷地内までおよぶものと考えられる。検出した石垣の高さは約4.5mであり，現存する石垣を勘案すると，元来は約６m程度の高さはあったものと推測される。

使用されている石材は大きさは平均して約１m程度であるが，その形状は長方形のもの，正方形に近いもの，円形に近いもの等様々である。また，最下段の根石およびその上段の石列とそれよりも上部の石列との間に目地が通っており，石材の積み方に明確に差があることが確認される。これは下２段の石列が17世紀のオリジナルの石垣であることを示している。下２段の石列は石材をほぼ同じ大きさに加工して，横方向に規則的に積み上げた布目積み技法によるものであり，この技法は近世初頭の城郭に普遍的に認められる技法である。上部の石列には石材を斜めに積み上げた「落とし積み」や大きな石材の周辺に円形に小型の石材を配した「笑い積み」等の近世後半以降の石垣の構築技法が用いられていることから修理を重ねてきたことが伺われる。

以上より，この石垣は17世紀後半に松平頼重の東の丸造成に際し，構築されたものであり，その名残は下から２段目のみに認められ，それより上部については，近世後半以降に何回か修理を受けたものであるものと考えられる。

第138・139図は石垣の下２段の裏込土中から出土した遺物の実測図である。

731は土師器の小皿である。

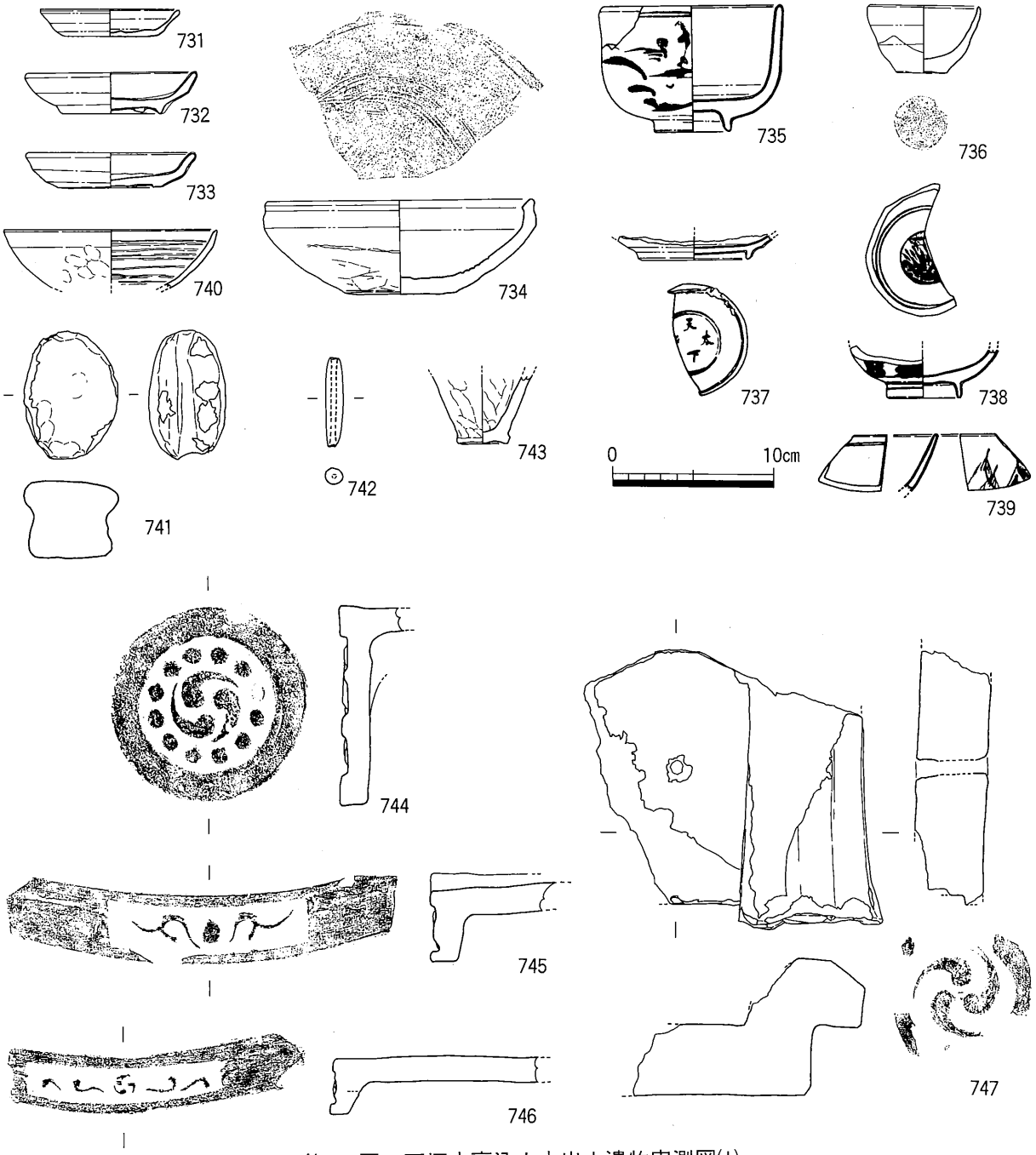
732・733は瀬戸・美濃産の丸皿である。

734は備前産の浅手の擂鉢である。内面に卸し目が認められる。

735はいわゆる京焼風陶器碗である。

736は陶器の小型の杯である。酒盃であろうか。

737～739は肥前産の染付である。737は底部外面に「天下太平」の銘が認められる。738は碗の底部である。739は碗の口縁部である。



第138図　石垣内裏込土中出土遺物実測図(1)

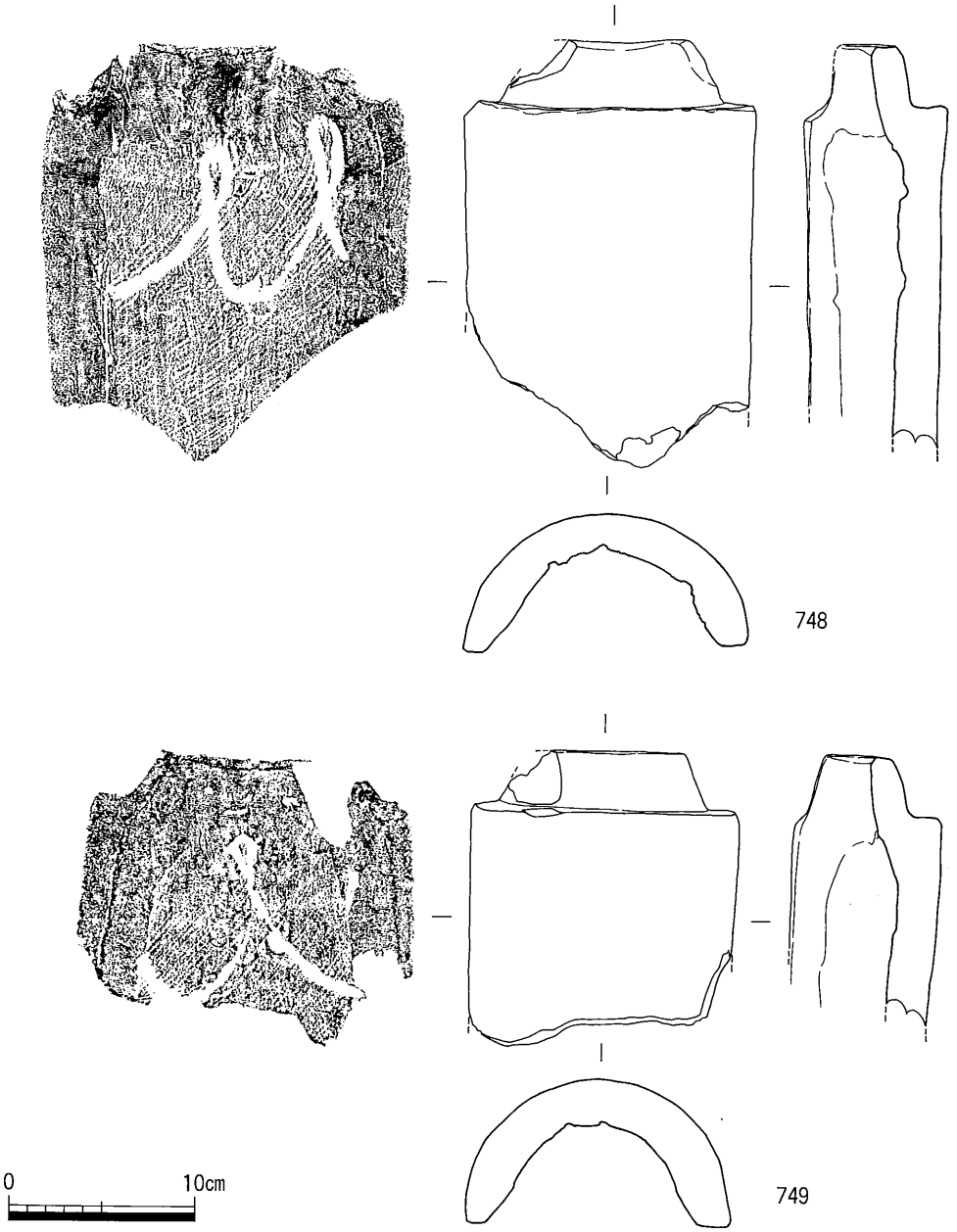
740は瓦器である。下層よりの混入であると思われる。

741は有溝土錘である。742は管状土錘である。

744は三巴文軒丸瓦である。

745・746は軒平瓦である。745は中心飾りが退化した団栗状を呈し，子葉も１回半転回するのみである。746は三巴文を中心飾りに持つものである。

748・749は丸瓦である。いずれもコビキＡ手法が認められる。また，調整の際に使用した布を綴じていた紐の痕跡が顕著に認められる。



第139図　石垣内裏込土中出土遺物実測図(2)

第3遺構面上層の包含層出土の遺物について

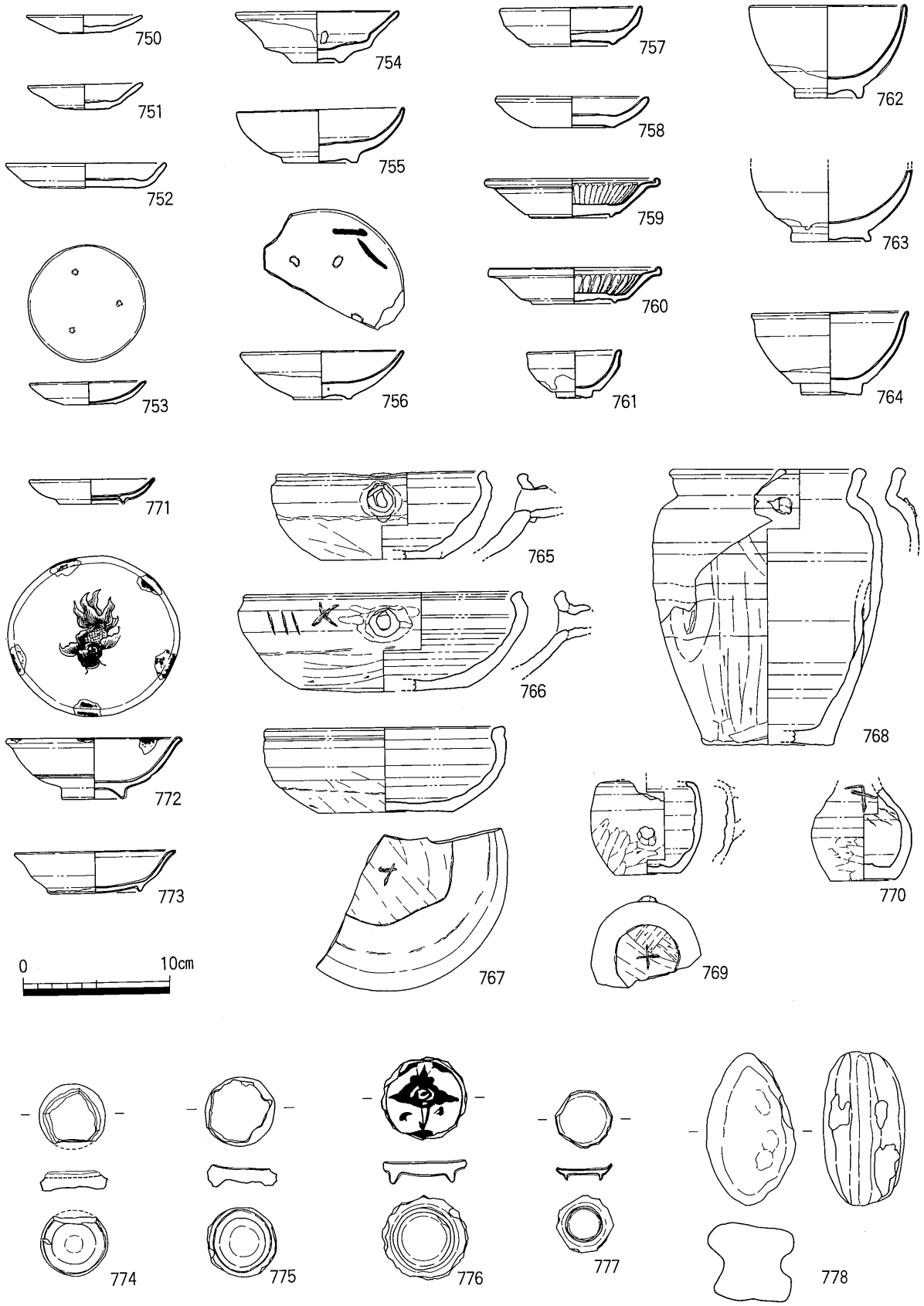
第140～144図は第3遺構面上層の包含層から出土した遺物の実測図である。

750～752は土師器の小皿である。

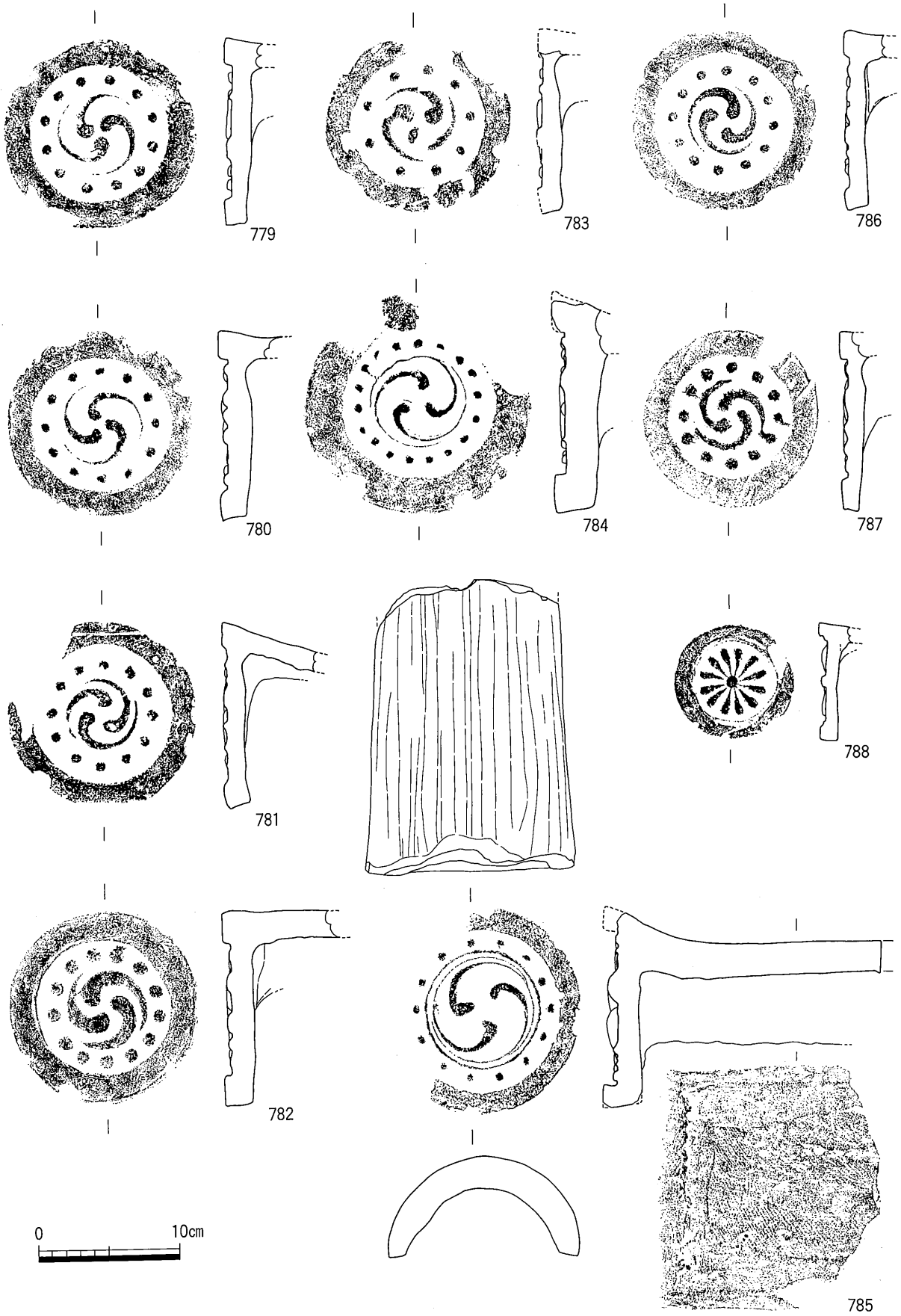
753～756は唐津産の陶器の皿である。

757～764は瀬戸・美濃産の陶器である。757・758は丸皿，759・760は折縁皿である。内面は菊花状を呈する。761は小型の天目茶碗である。ミニチュア製品であると考えられる。762・763は碗，764は天目茶碗である。口縁部の屈曲部の度合いが緩やかになっている。

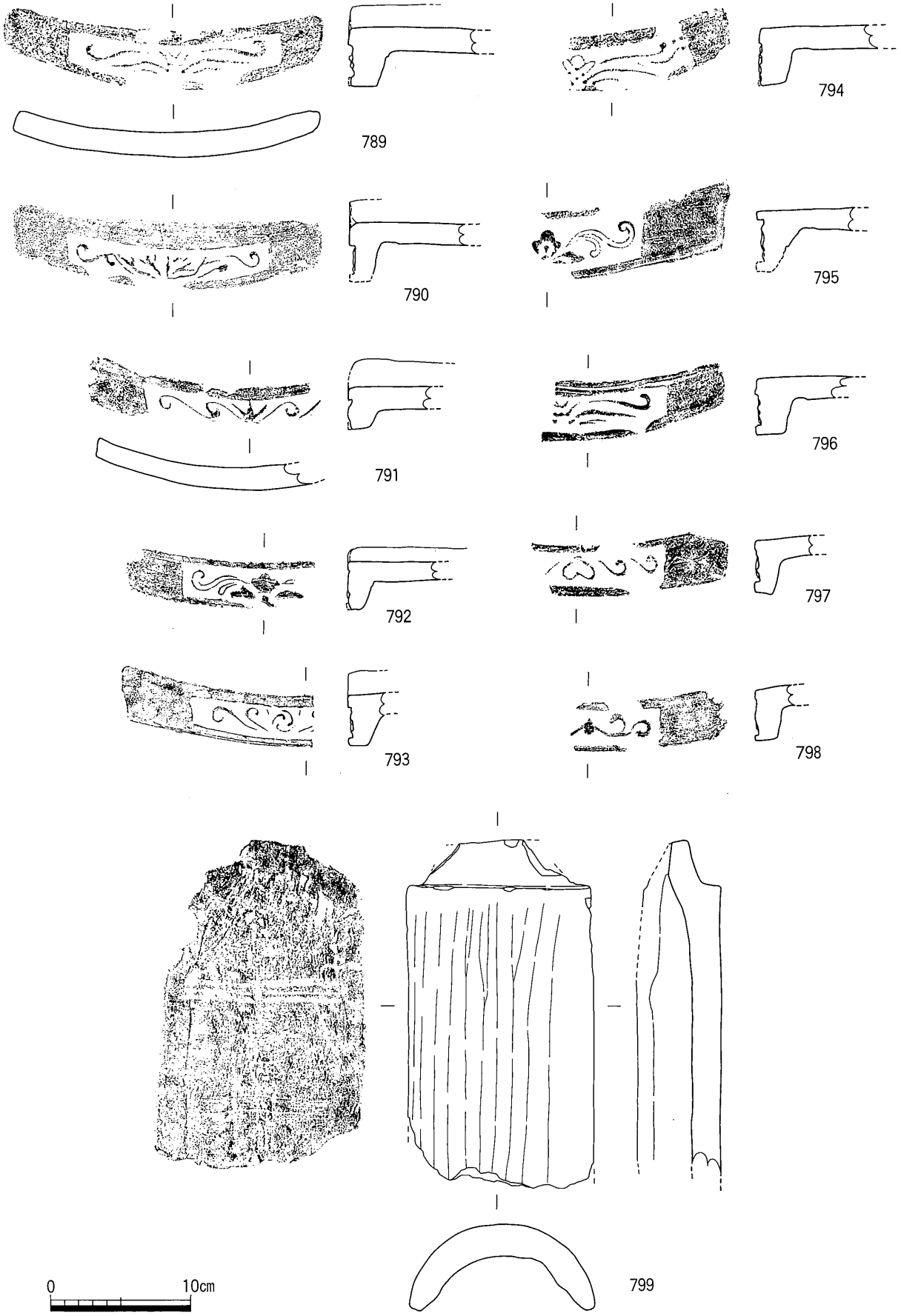
765～770は備前産の陶器である。765･766は注口付鉢である。766には縦に3本と×印のヘラ記号が認められる。767の底部外面にも×印のヘラ記号が認められる。768は甕である。くびれ部に把手の痕跡が認められる。769は小型の壺であると思われる。体部に半円状の把手の痕跡が認められる。底部外面に十字の



第140図　第3遺構面上層出土遺物実測図(1)



第141図　第３遺構面上層出土遺物実測図(2)



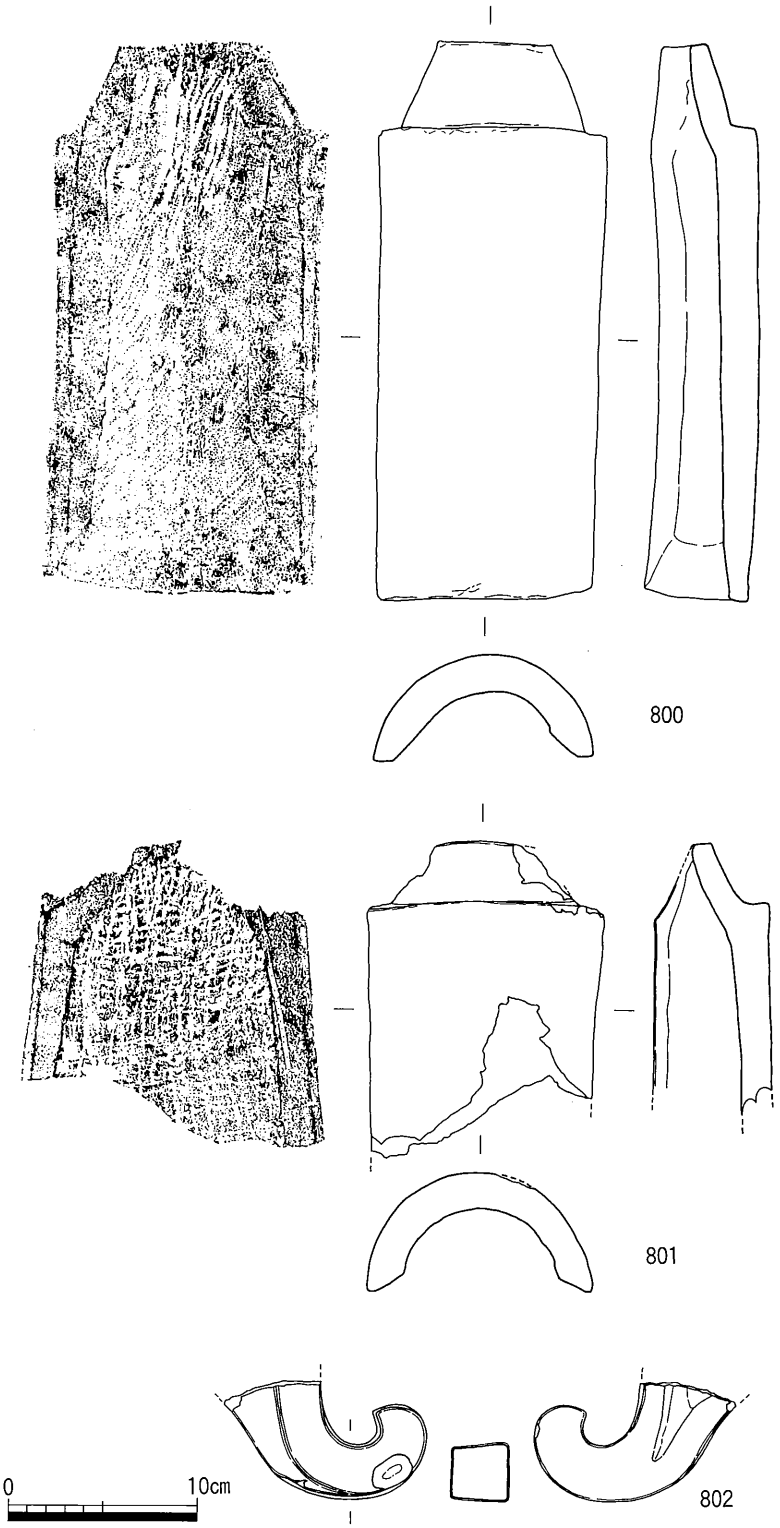
第142図　第3遺構面上層出土遺物実測図(3)

ヘラ記号が認められる。770は小型の徳利状の壺である。頸の部分に十字のようなヘラ記号が認められる。

771・772は磁器である。772は見込に金魚図が描かれている。

773は白磁の皿である。

774～777は転用土製品である。774・775は瀬戸・美濃産の陶器の底部を，776・777は伊万里産の染付



第143図　第３遺構面上層出土遺物実測図(4)

の底部を加工している。

778は有溝土錘である。

779～787は三巴文軒丸瓦である。巴文の細いもの（779・780，784・785）や太いもの（782）がある。785は巴文の周囲に圏線が巡り，凹面にコビキＡ手法が認められる。凸面はヘラ状の工具で削った痕跡が顕著に認められる。

788は小菊瓦である。いわゆる燻し瓦で表面の光沢が著しい。

789～798は軒平瓦である。全体的に扁平になっている。中心飾りにかなりのバリエーションが認められるようになっている。

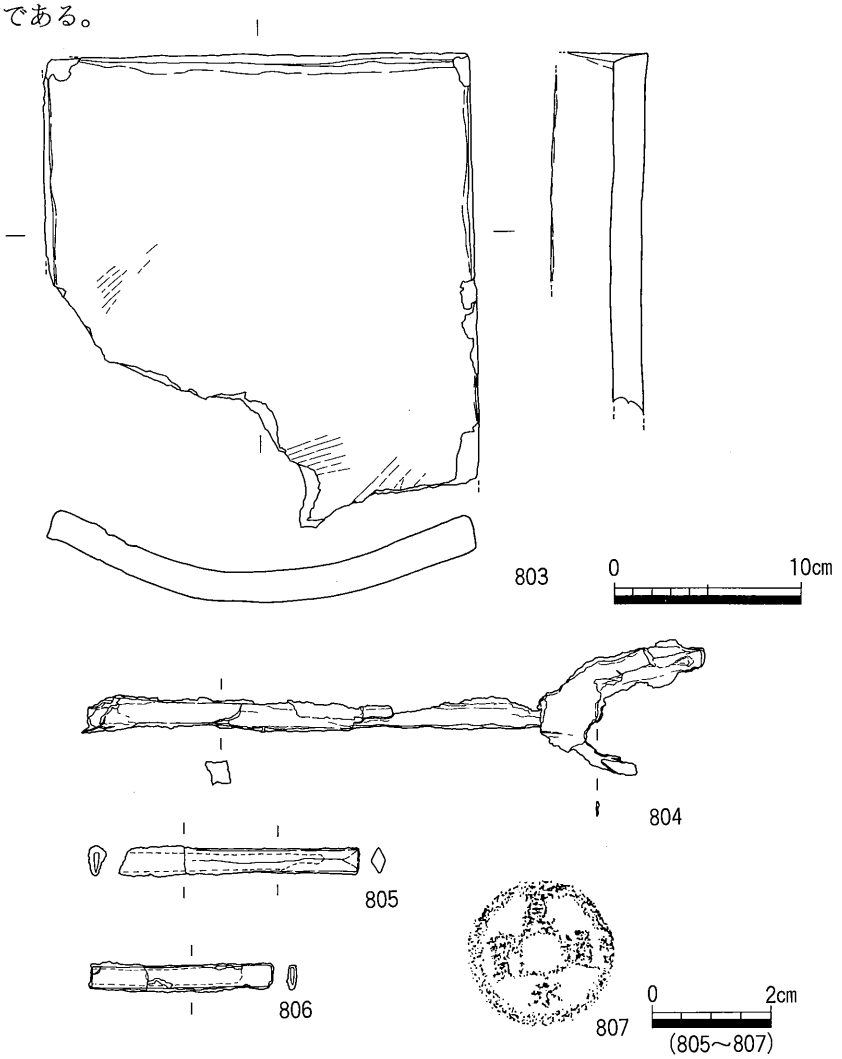
799～801は丸瓦である。799は凹面にコビキＢ手法が認められるものである。コビキしたあとの布目の痕跡も顕著に認められる。800は凹面にコビキＡ手法が認められる。801は布目よりも粗いむしろ目の痕跡が顕著に認められる。

802は小型の鬼瓦の端部の破片である。551と同様に瀬戸・美濃産のものと思われる。透明な長石釉が施釉されている。

803は平瓦である。部分的にハケ目のような痕跡も認められる。

804～806は金属器である。804は先端が二股になった棒状の金属器である。805は小刀の束である。草木文が印刻されている。806は小刀の鞘である。刀身が入ったままの状態で出土した。

807は寛永通宝である。



第144図　第３遺構面上層出土遺物実測図(5)

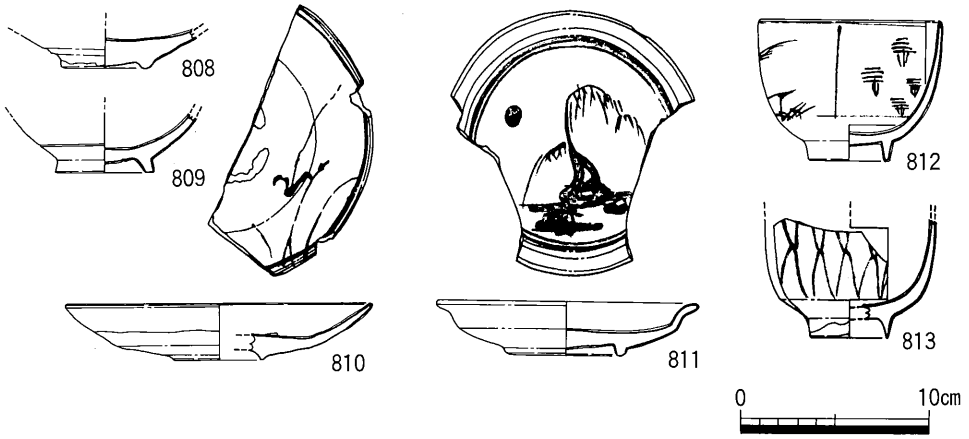
4．第Ⅳ期（19世紀後半，付図３参照）

SD 04（第２遺構面石組溝）

調査区北半部中央で検出した石組の溝状遺構である。30～40cm程度の石材を南北方向に２列並べて構築している。２列の間隔は約60cmである。検出した延長は約６ｍであるが，南側において同様の石組の溝状遺構を２条検出している。それぞれ北側からSD 06，SD 07と遺構番号を付している。また，これらの溝状遺構と直交するような方向の石組の溝状遺構SD 05も調査区南側東部で検出している。

第145図はSD 04から出土した遺物の実測図である。

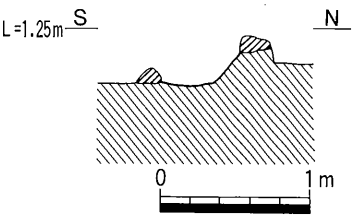
808～810は唐津産の陶器である。808・809は碗である。810は皿である。内面に菖蒲が描かれている。811～813は肥前産の染付である。811は内面に柳が描かれている。812は外面に松が描かれている。813は外面に二重網目文が描かれている。



第145図　SD04出土遺物実測図

SD 05（第146図）

調査区南半部東側で検出した石組の溝状遺構である。SD 04と同様に30～40cm程度の石材を２列並べて構築している。検出した延長は約５ｍである。先述のとおり，SD 04とほぼ直交するような方向を示している。



第146図　SD05断面図

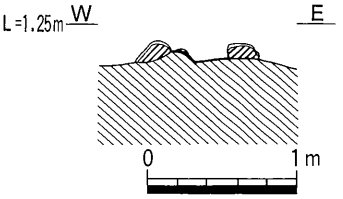
SD 06（第147図，図版42(2)）

調査区南半部中央で検出した石組の溝状遺構である。石材の大きさも幅もSD 04とほぼ同じである。また，方向も同一であり，恐らく同一遺構であったものと考えられる。検出した延長は約７ｍである。

第148図はSD 06から出土した遺物の実測図である。

814・815は土師器の小皿である。816・817は土師質の土鍋である。

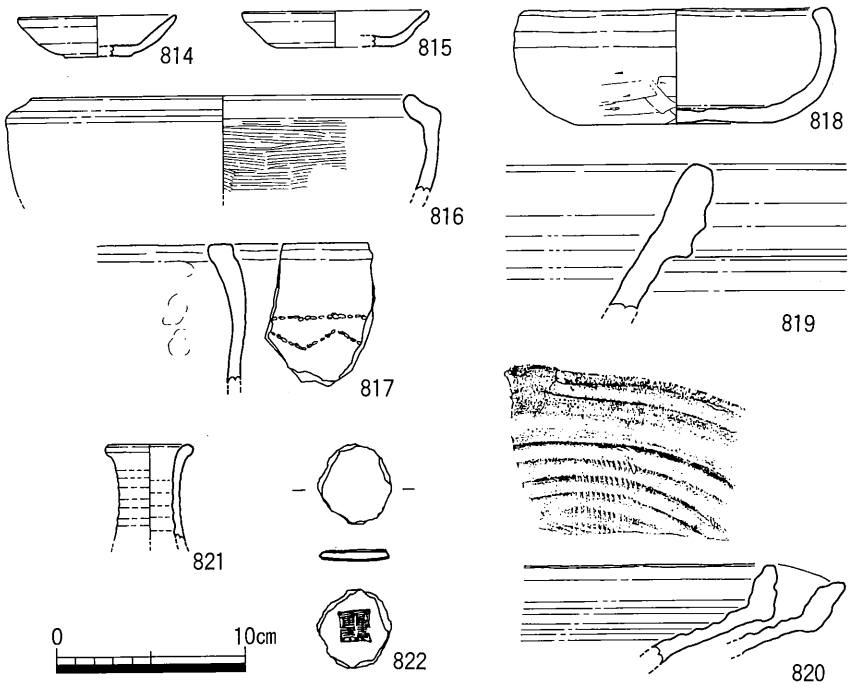
818～821は備前産の陶器である。818は鉢である。819・820は擂鉢



第147図　SD06断面図

の口縁部である。821は徳利状の壺の頸の部分である。

822は転用土製品である。染付の底部を転用したもので外面の銘が中央に認められる。

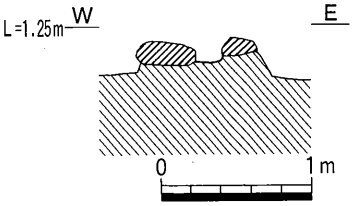


第148図　SD06出土遺物実測図

SD 07（第149図）

SD 06の南西で検出した石組の溝状遺構である。規模はSD 04・SD 06とほぼ同じである。方向もほぼ同じである。SD 04・SD 06の延長線から約5m西側に所在し，SD 04・SD 06と対をなすものであると考えられる。

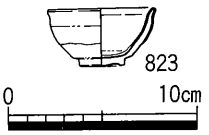
以上の溝状遺構のあり方から見て，SD 04・SD 06の延長線とSD 07の延長線の間は道路状の遺構ではないかと考えられる。



第149図　SD07断面図

第150図はSD 07から出土した遺物の実測図である。

823は瀬戸・美濃産の小型の天目茶碗である。ミニチュアであるが，普通の天目茶碗とほぼ同様の作りをしている。



第150図　SD07出土遺物実測図

SE 07（第151図，図版43(1)(2)・44(1)(2)）

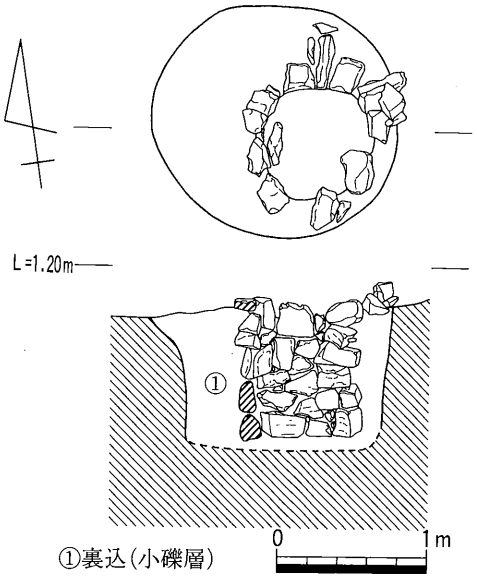
調査区中央やや北東よりの部分で検出した石組の井戸である。掘方の直径は約1.5m，石組の直径は1m，深さ約1.2mを測る。石材は直方体に近いものを利用しており，控えを長く積んでいる。裏込は小礫で構成されており，内部からは瓦類等が出土している。

第152図はSE 07から出土した遺物の実測図である。

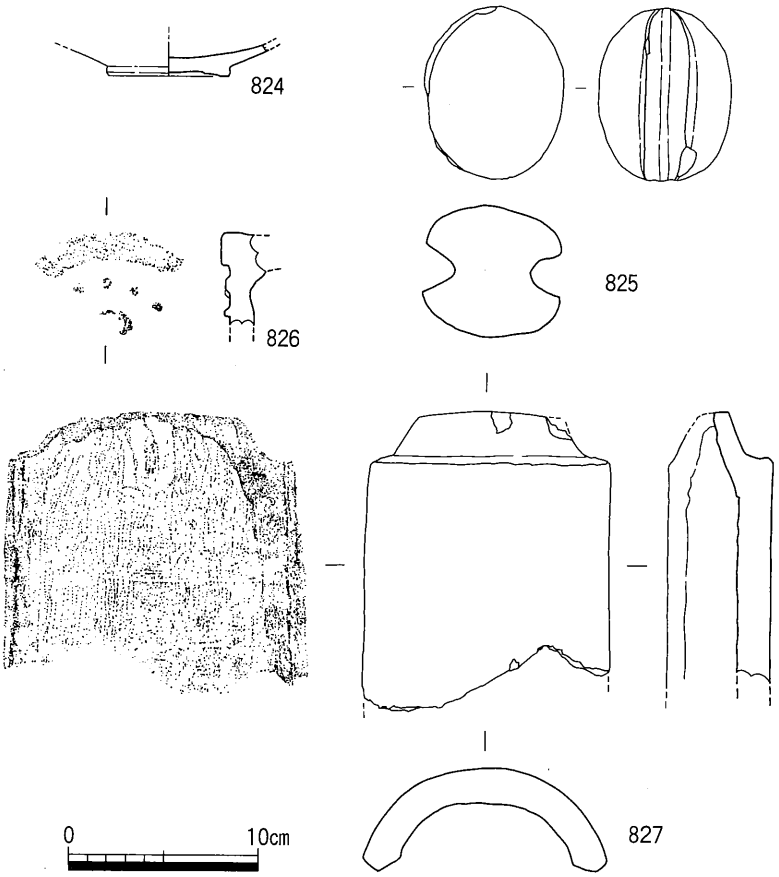
825は有溝土錘である。

826は三巴文軒丸瓦である。

827は丸瓦である。凹面に布目の痕跡が顕著に認められるが，わずかにコビキB手法も認められる。



第151図　SE07平・断面図



第152図　SE07出土遺物実測図

SE 08（第153図，図版45(1)(2)・46(1)(2)）

調査区北西隅で検出した石組の井戸である。検出時は小礫が散乱している状況を呈していた。掘方の直径は約2m，石組の直径は80cm，深さは約2mを測る。SE 07と同様，裏込は小礫で構成されており，内部からは陶磁器や瓦等が出土している。

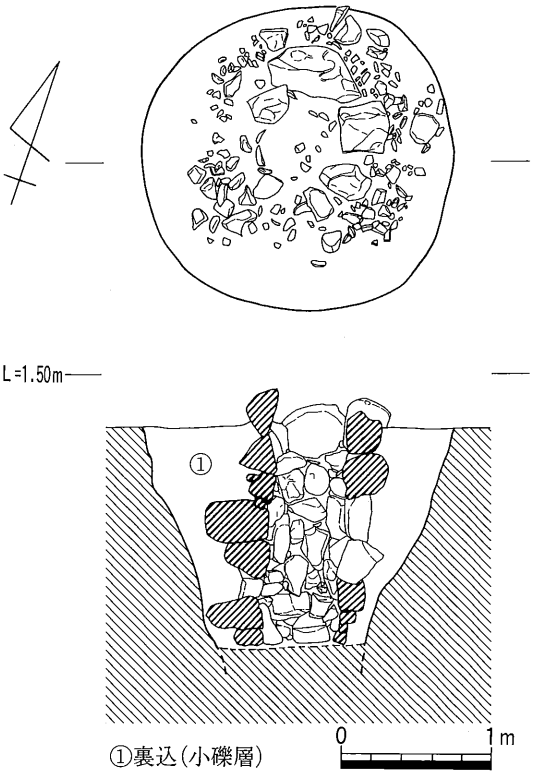
第154図はSE 08から出土した遺物の実測図である。

828～831は土師器の小皿である。833は瓦質の土鍋の口縁部である。

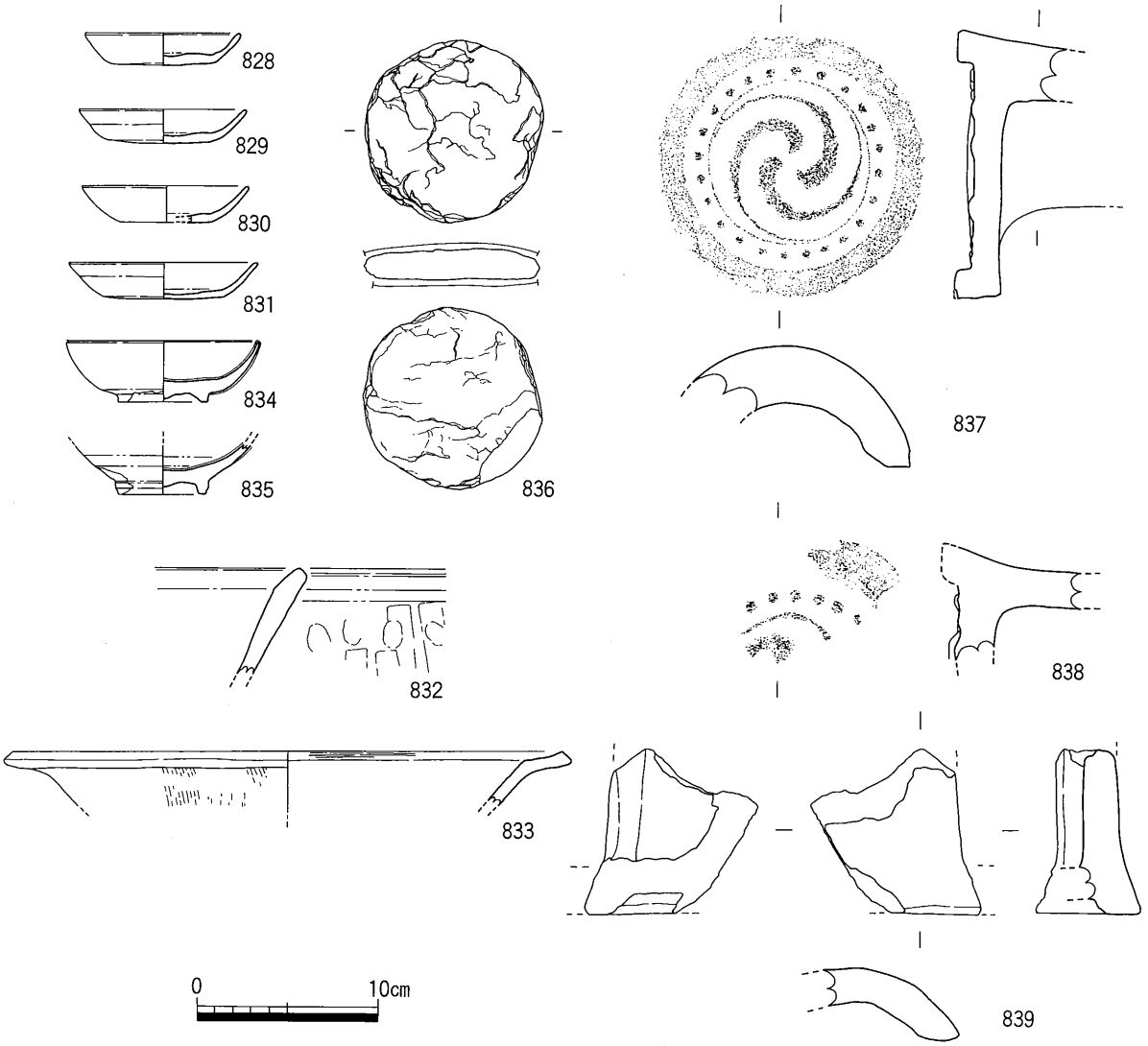
834・835は唐津産の陶器である。

836は円盤状の石製品である。片岩を円盤状に加工して表面と裏面には若干の擦痕が認められる。

837・838は三巴文軒丸瓦である。



第153図　SE08平・断面図



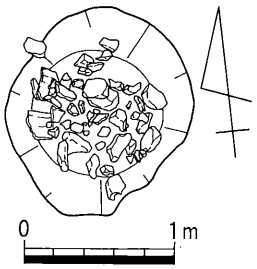
第154図　SE08出土遺物実測図

SE 09（第155図，図版47(1)）

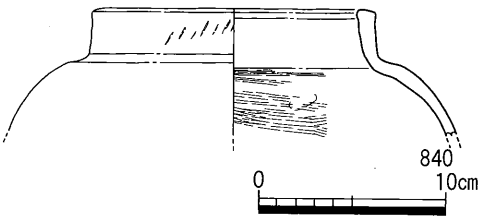
調査区南東部で検出した石組の遺構である。後世の土地造成と建築物の基礎により大部分は破壊されているが，かろうじて石組が円形に配されていることが確認できたため，井戸であると考えた。検出した掘方の直径は約1.1mを測る。

第156図はSE 09から出土した遺物の実測図である。

840は瓦質の土釜である。形態的には茶釜に酷似する。



第155図　SE09平面図



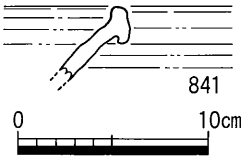
第156図　SE09出土遺物実測図

SP 04

調査区北西隅，SE 08の東側で検出した柱穴である。直径20cmを測る。周辺には他に柱穴は所在せず，したがって建物を構成していたかどうかは不明である。

第157図はSP 04から出土した遺物の実測図である。

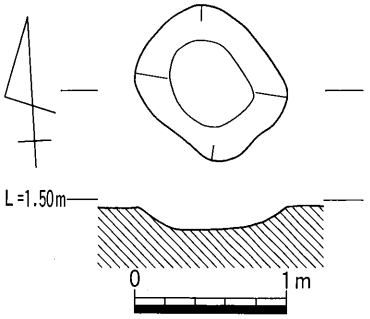
841はこね鉢の口縁部である。



第157図　SP04出土遺物実測図

SK 20（第158図）

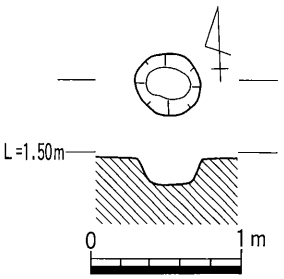
調査区北西隅，SE 08の南側で検出した土坑である。直径約１mの円形を呈する。深さは，約20cmと浅く，遺物は出土しなかった。



第158図　SK20平・断面図

SK 21（第159図）

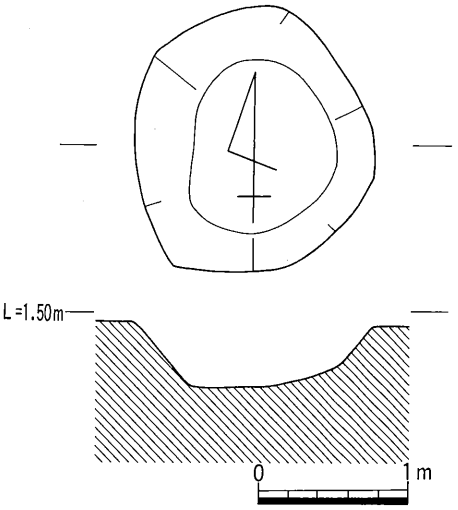
調査区北西隅，SP 04の東側で検出した土坑である。直径約30cm，深さ20cmを測る。遺物は出土しなかった。



第159図　SK21平・断面図

SK 22（第160図）

調査区北西部，SK 20の南側で検出した土坑である。直径約1.5m，深さ60cmを測るが，遺物は出土しなかった。



第160図　SK22平・断面図

SK 23（第161図）

調査区北西部，SK 22の南側で検出した土坑である。直径約１m，深さ20cmの円形を呈する。内部から陶磁器や瓦等の遺物が出土した。

第162図はSK 23から出土した遺物の実測図である。

842～844は土師器の小皿である。844は大ぶりで，判読できないが内面にわずかに墨書の痕跡が認められる。

845は土師質土器である。846は備前産の壺底部である。

847～852は唐津産の陶器である。847・848は碗，849～852は皿である。

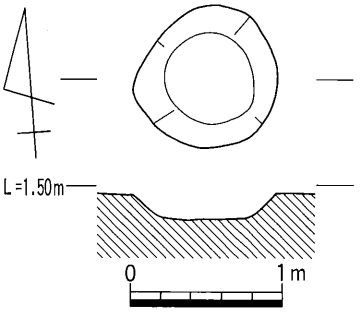
853は転用土製品である。

854は金属器である。鉄製で環状を呈する。

855は三巴文軒丸瓦，856は軒平瓦である。

857・858は丸瓦である。いずれも布目の痕跡が顕著に認められる。

859は平瓦である。



第161図　SK23平・断面図

SK 24（第163図）

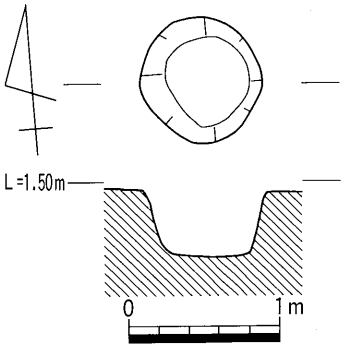
調査区中央やや北東寄りの部分で検出した土坑である。直径80cm，深さ60cmの円形を呈する。内部から陶磁器等の多量の遺物が出土した。

第164・165図はSK 24から出土した遺物の実測図である。

861～863は土師器の小皿である。

864～869は陶器である。864・865は蓋で864は869と，865は868とセット関係になる。867は急須の把手である。869は急須である。

870～874は土師質土器である。870・873は同様の形態を持つものでおそらく涼炉であると思われる。内面の中央やや下よりの部分に突帯がめぐり，炭をのせる架(874)を置くようになっているものと思われる。871と872は底部中央に穿孔があることより，植木鉢であると考えられる。



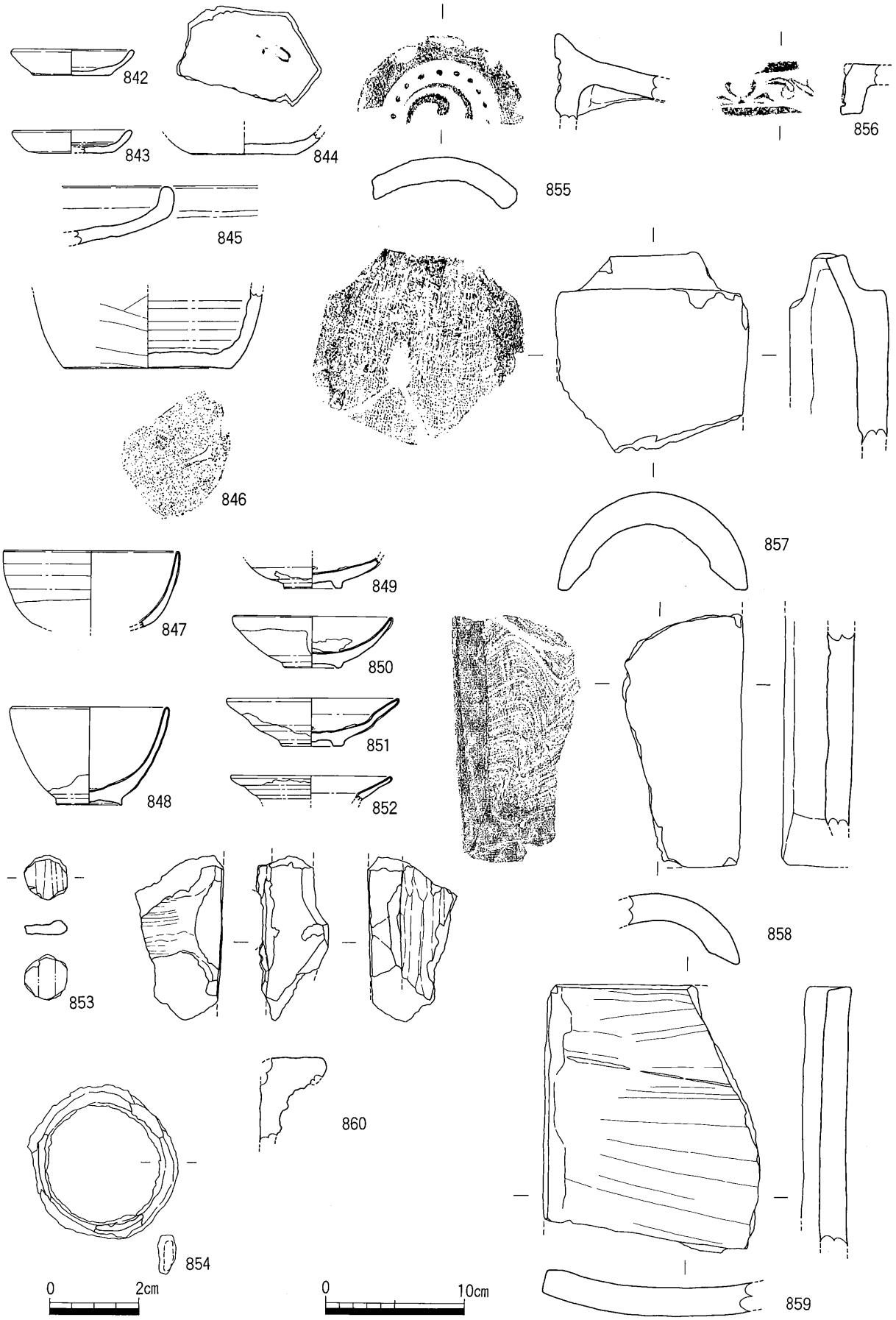
第163図　SK24平・断面図

875は備前産の擂鉢である。内面に放射状に卸し目が施されている。

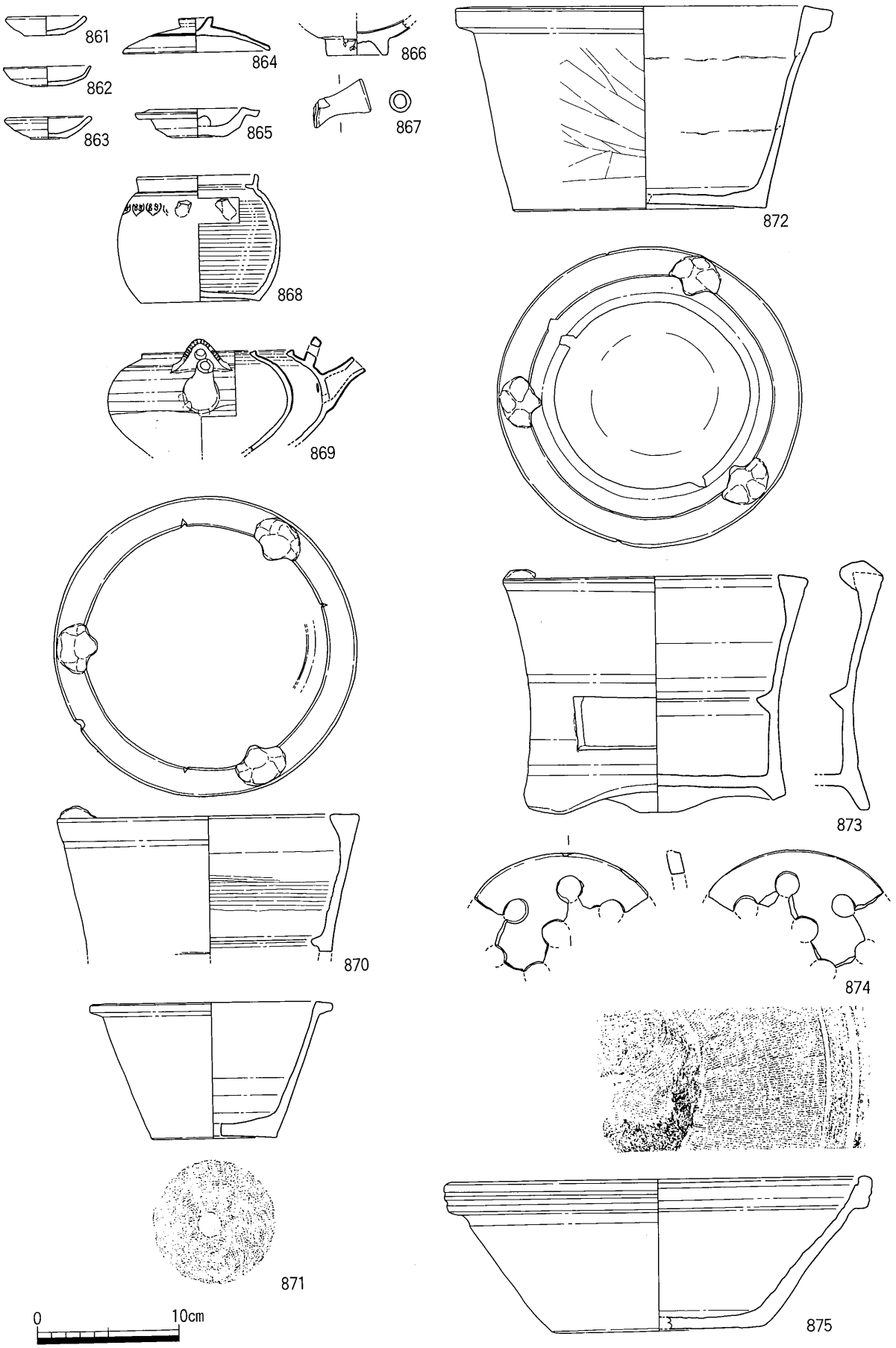
876と877はセットになる。877には注口がついている。878と879は植木鉢であると考えられる。880は陶器の大型の鉢である。

881～883は磁器である。883は二重網目文が描かれている。884は陶器である。

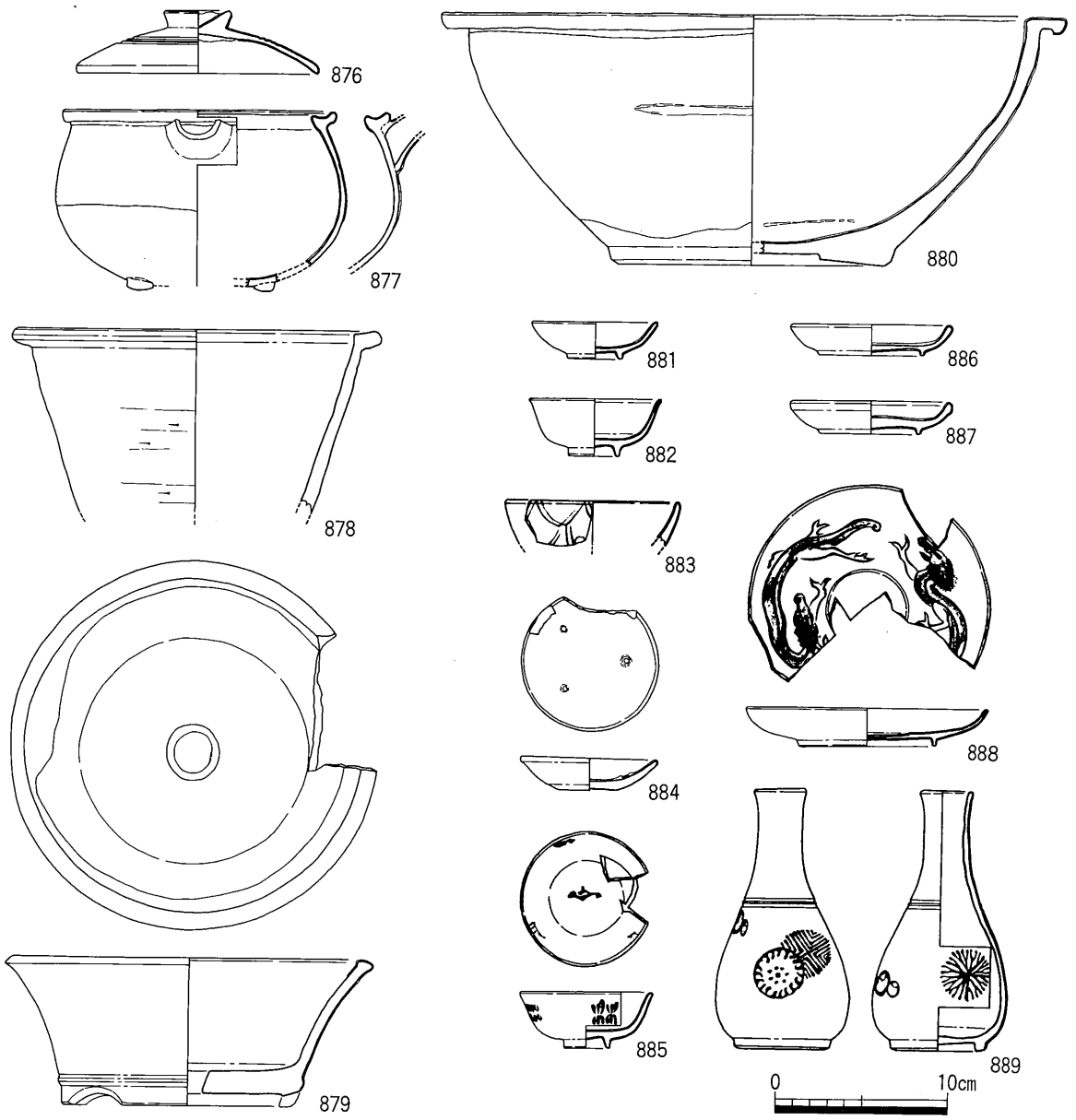
889は徳利である。



第162図　SK23出土遺物実測図



第164図　SK24出土遺物実測図(1)



第165図　SK24出土遺物実測図(2)

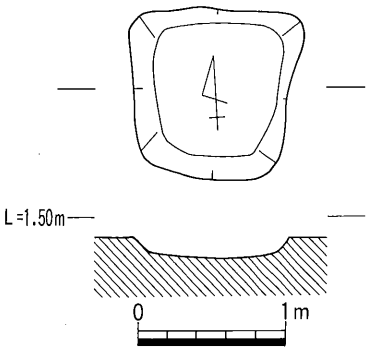
SK 25（第166図）

SK 24の東側で検出した土坑である。一辺約１ｍのややいびつな方形を呈する。深さは約20cmと非常に浅い。内部より若干の遺物が出土した。

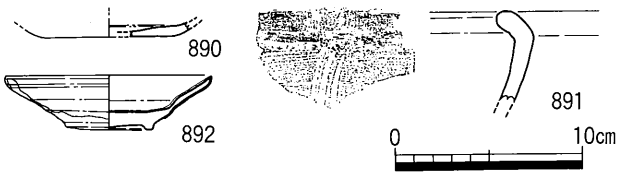
第167図はSK 25から出土した遺物の実測図である。

890は土師器の小皿である。891は土師質の擂鉢である。

892は唐津産の皿である。



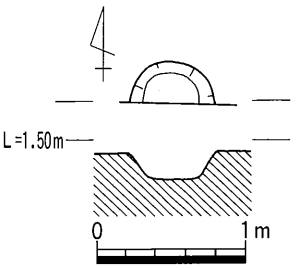
第166図　SK25平・断面図



第167図　SK25出土遺物実測図

SK 26（第168図）

SK 24・25の南側で検出した円形の土坑である。直径約60cmを測るが，南半分は後世の攪乱によって壊されている。遺物は出土しなかった。



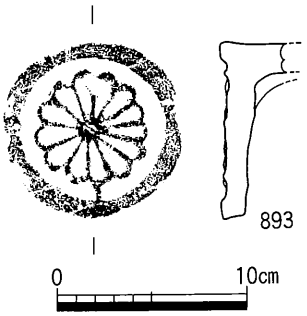
第168図　SK26平・断面図

SK 27

SX 24の東側でSX 24に半分切られた状態で検出した土坑である。直径約60cmであったと考えられる。遺物はわずかに瓦が出土しているのみである。

第169図はSK 27から出土した遺物の実測図である。

893は小菊瓦である。いわゆる燻し瓦で表面に光沢が見られる。



第169図　SK27出土遺物実測図

SK 28

調査区南半部東寄りの部分で検出した土坑である。直径40cm程度の円形を呈する。内部から瓦・陶磁器・土師質土器等が出土している。

第170・171図はSK 28から出土した遺物の実測図である。

894は土師質の大型の甕である。895は土師質の土鍋である。896・897は土師器の小皿である。

899～902は備前産の陶器である。899は大皿である。900は注口付の浅手の鉢である。901は小型の甕である。把手の痕跡が認められる。902も壺もしくは甕の体部から底部にかけての破片である。903・904は唐津産の陶器である。904は刷毛目唐津の大鉢である。

905は瀬戸・美濃産の丸皿である。906は碗，907は天目茶碗である。

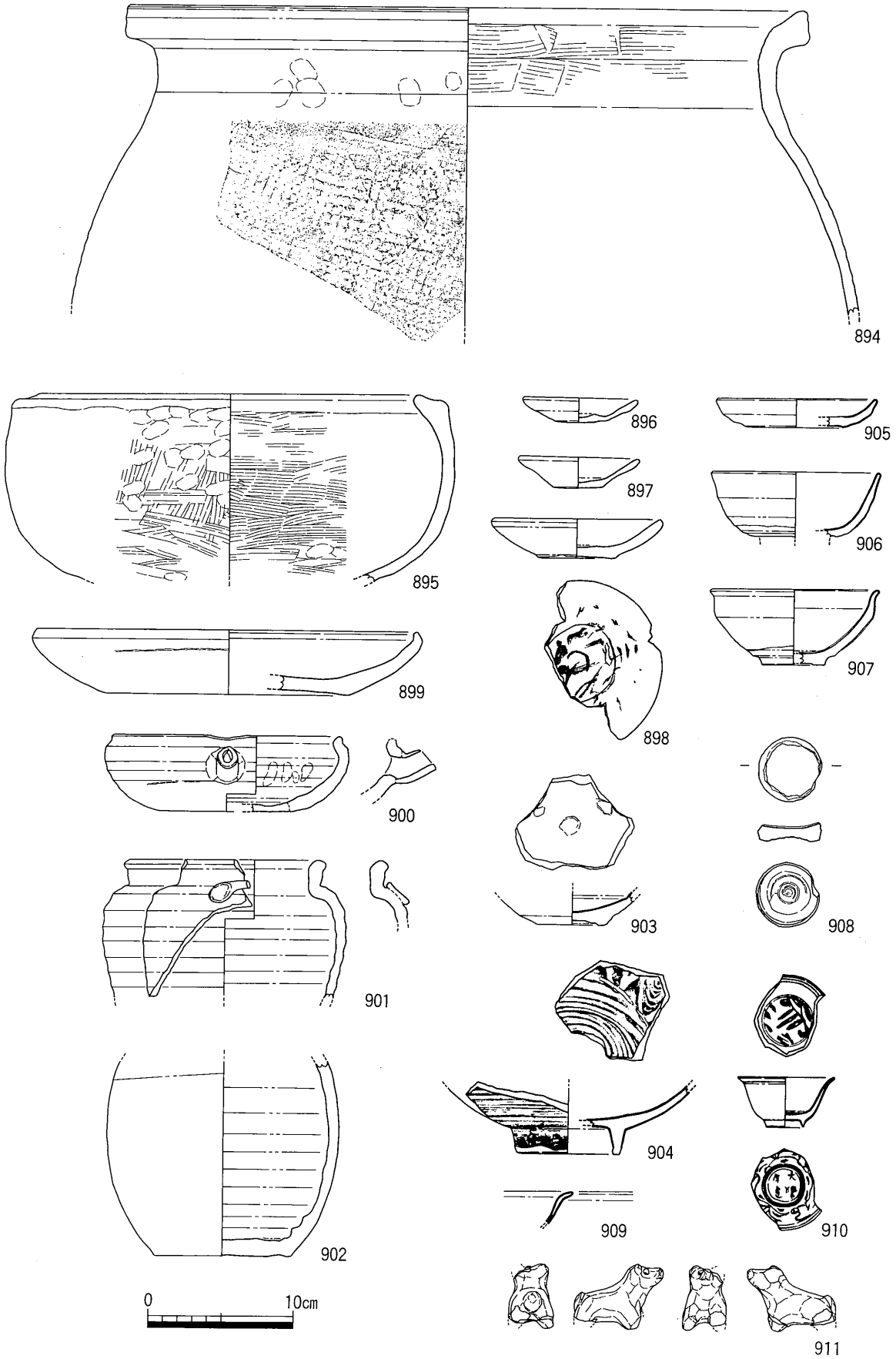
908は転用土製品である。瀬戸・美濃産の天目茶碗の底部を利用している。

910は肥前産の酒盃である。高台内部に「大明年造」の銘が認められる。

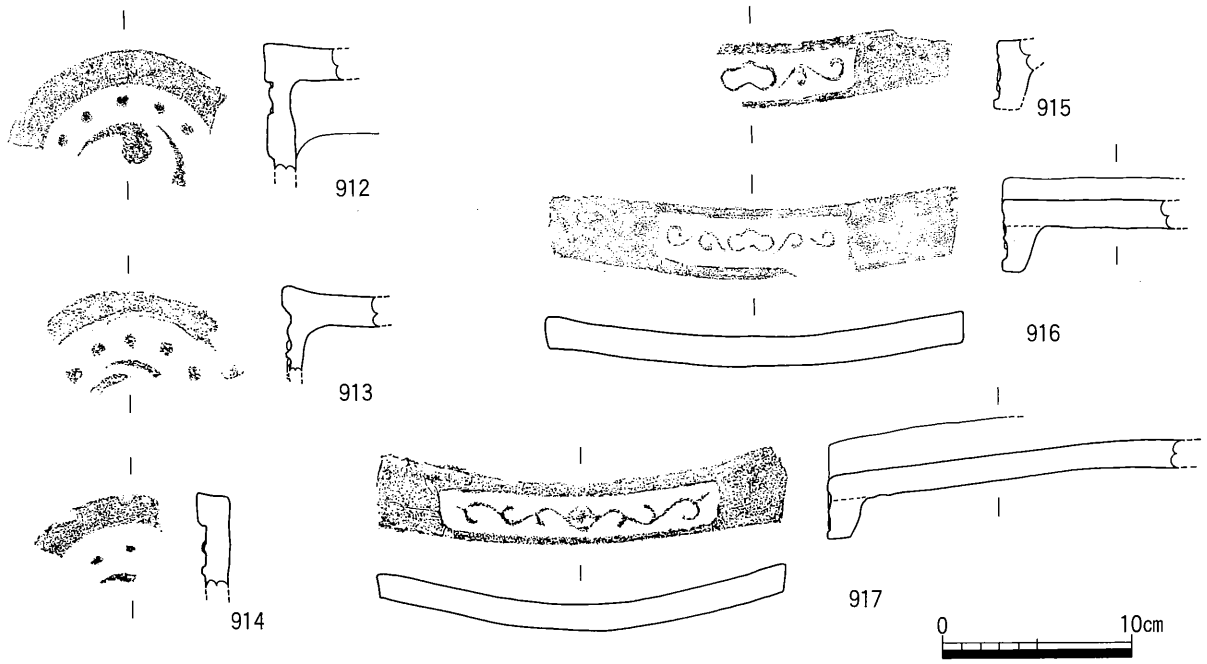
911は土製品である。玩具とおぼしき土製品で，犬を象っている。片方の耳と足が欠損しているが，表情も豊かで愛玩の意図が伺える。

912～914は三巴文軒丸瓦である。尾の巻き込みが短くなっている。

915～917は軒平瓦である。915・916は竹の葉をモチーフにしたものである。



第170図　SK28出土遺物実測図(1)



第171図　SK28出土遺物実測図(2)

SK 29

SK 28の西側で検出した土坑である。直径約80cmの円形を呈する。内部から瓦や陶磁器が出土している。

第172図はSK 29から出土した遺物の実測図である。

918は備前産の壺の底部である。底部外面にヘラ記号が認められる。

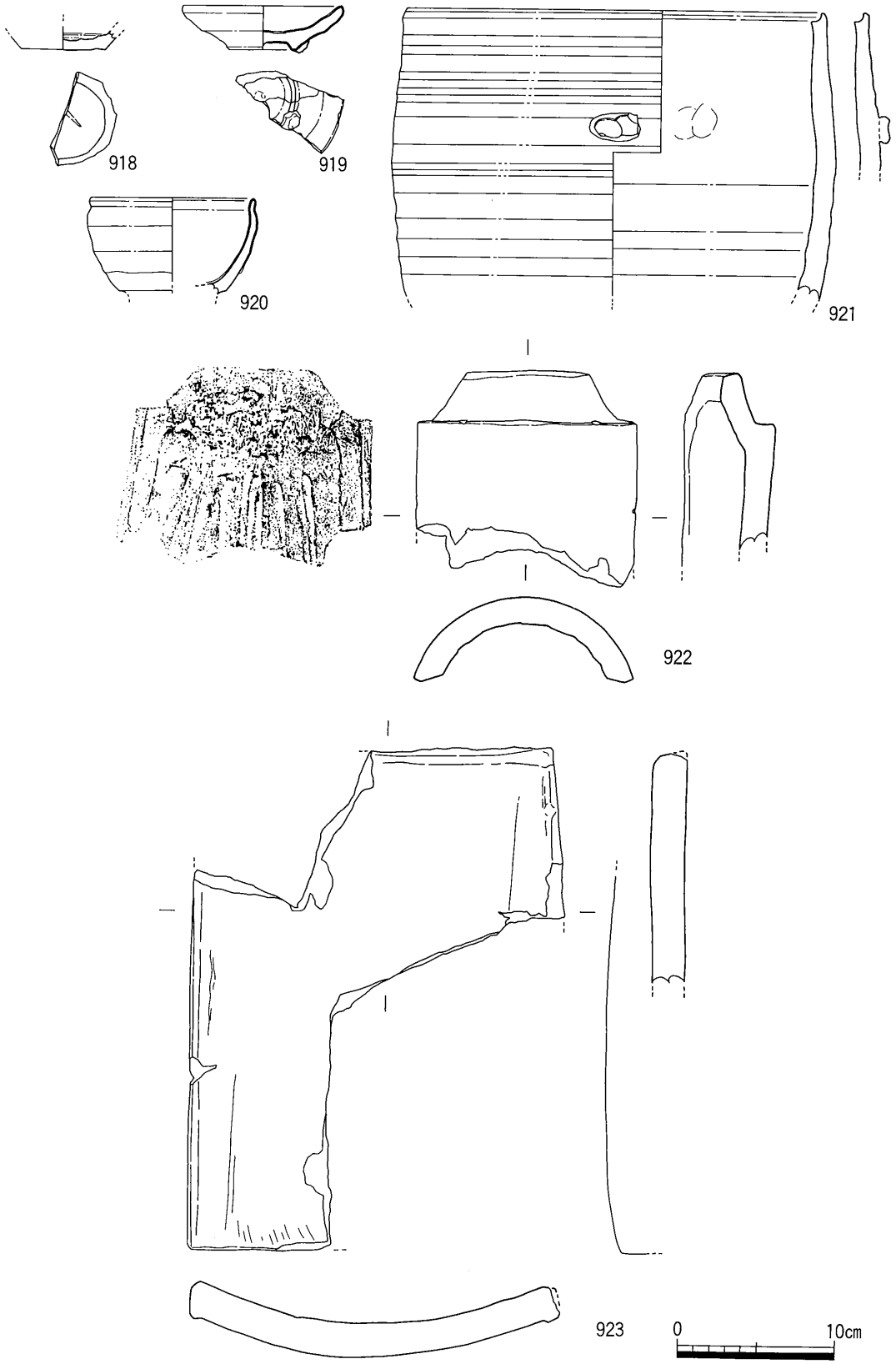
919は唐津産の陶器の皿と考えられる。

920は瀬戸・美濃産の天目茶碗である。

921は陶器の鉢である。外面に把手の痕跡が認められる。

922は丸瓦である。凹面に数条のヘラ状工具による削り痕が顕著に認められる。

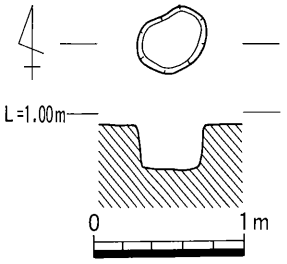
923は平瓦である。



第172図　SK29出土遺物実測図

SK 30（第173図）

調査区南西隅で検出した小型の土坑である。直径30cm，深さ30cmを測る。遺物は出土しなかった。



第173図　SK30平・断面図

SK 31（第174図）

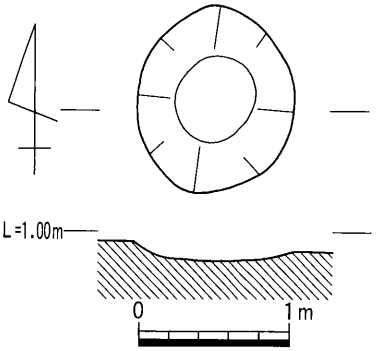
SK 30の約５m東で検出した土坑である。直径１m程度の円形を呈する。深さは約20cmと非常に浅い。

内部からは陶磁器をはじめ，大量の瓦類が出土している。

第175～179図はSK 31から出土した遺物の実測図である。

924・927は陶器である。

928～939は磁器である。929・930は端反りの盃である。933は見込に「成化年制」の銘がある。938はいわゆるくらわんか茶碗である。見込には五弁花文のスタンプ文が認められる。



第174図　SK31平・断面図

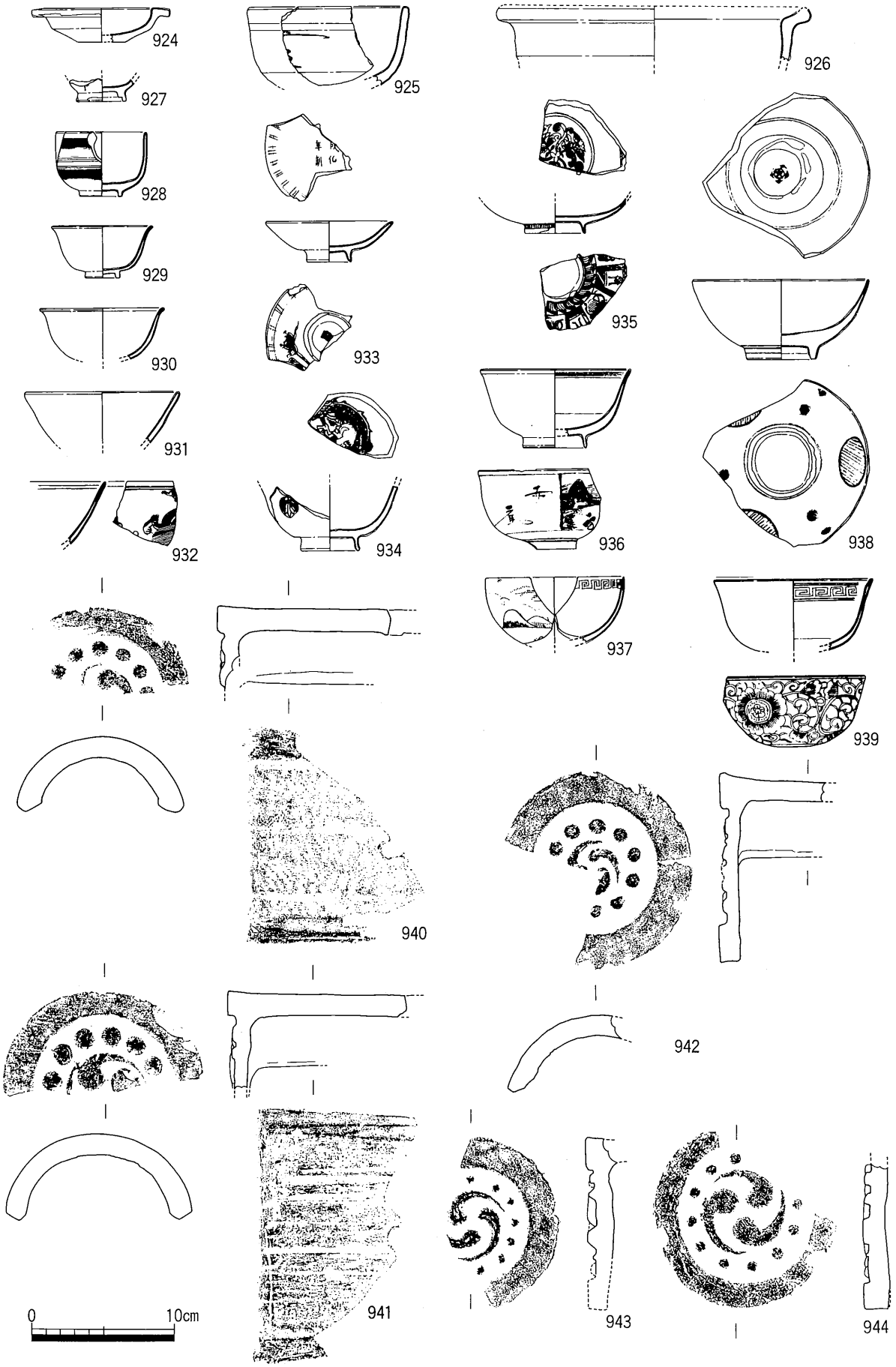
940～953は三巴文軒丸瓦である。全体的な特徴として周縁が全体に対して大きくなってきたこと，内区の巴文の直径が小さく，珠文の直径が大きく数が少なくなってきたことなどがあげられる。凹面の調整はコビキ痕が認められるものは少なく，ヘラ状工具による削り痕が顕著に認められるものが多くなっている。また，ほとんどの瓦がいわゆる燻し瓦になっており，表面の光沢が著しい。

954は小菊瓦である。表面には光沢が著しい。

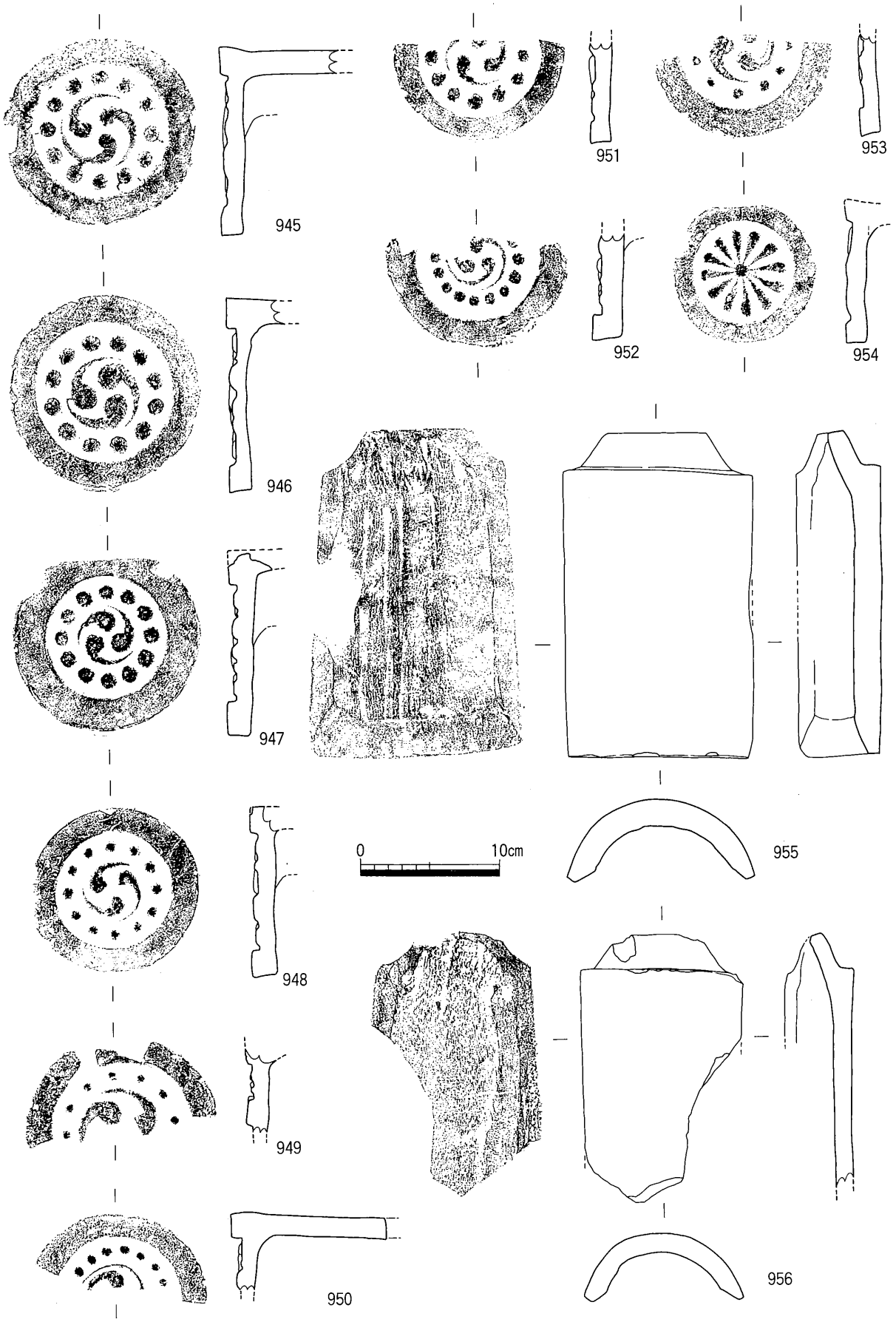
955～959，961・962は丸瓦，960は軒丸瓦である。前述のように凹面にヘラ状工具による削り痕が認められるものが多くなっている（955，959，960，961）。布目の痕跡が認められるものもある（956，957，958，959，961，962）。また，釘穴は１つのもの（957）と２つのもの（960，962）がある。

963～965は軒平瓦である。963・964は中心飾りが団栗状を呈するものである。子葉は２回転回する。

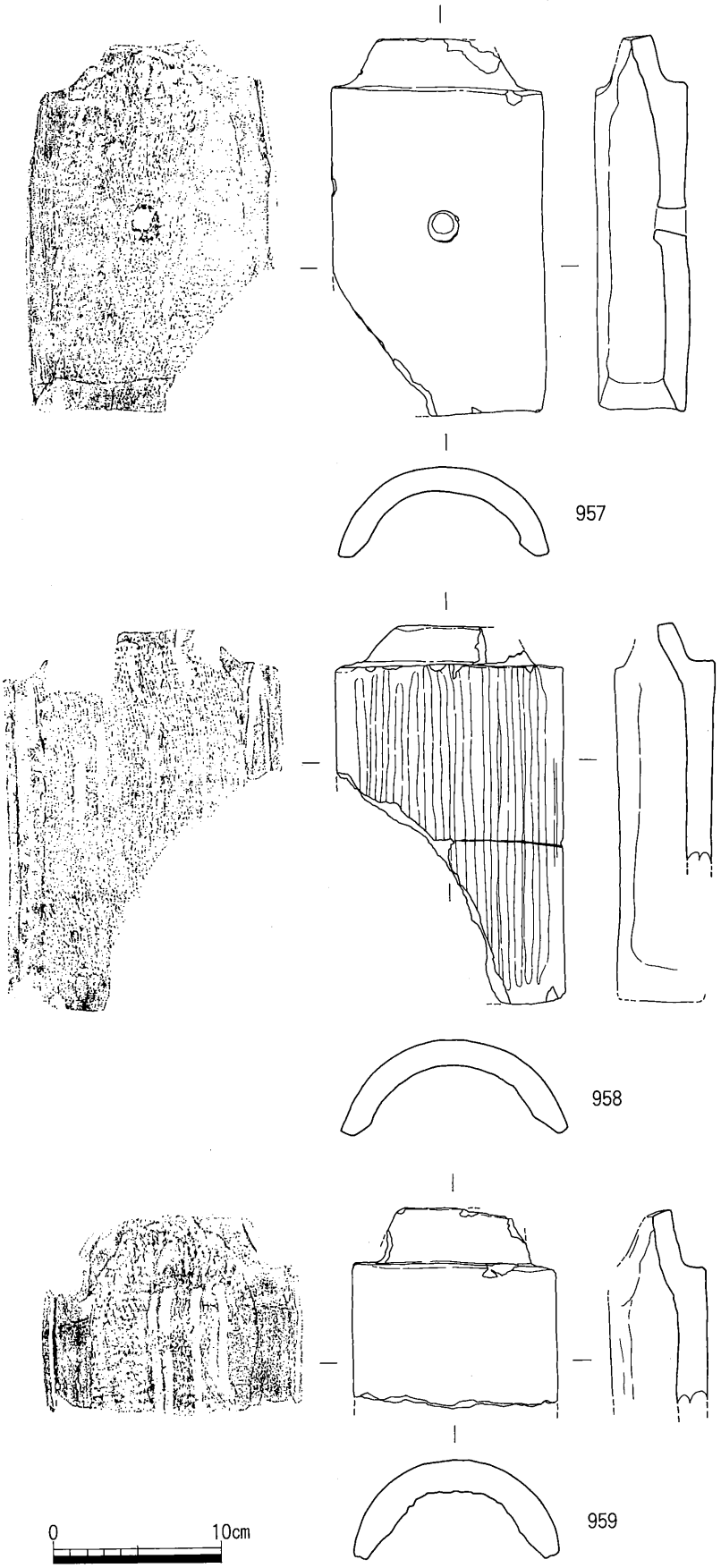
966は家紋入りの鬼瓦の一部である。三葉葵の一部分であると思われる。



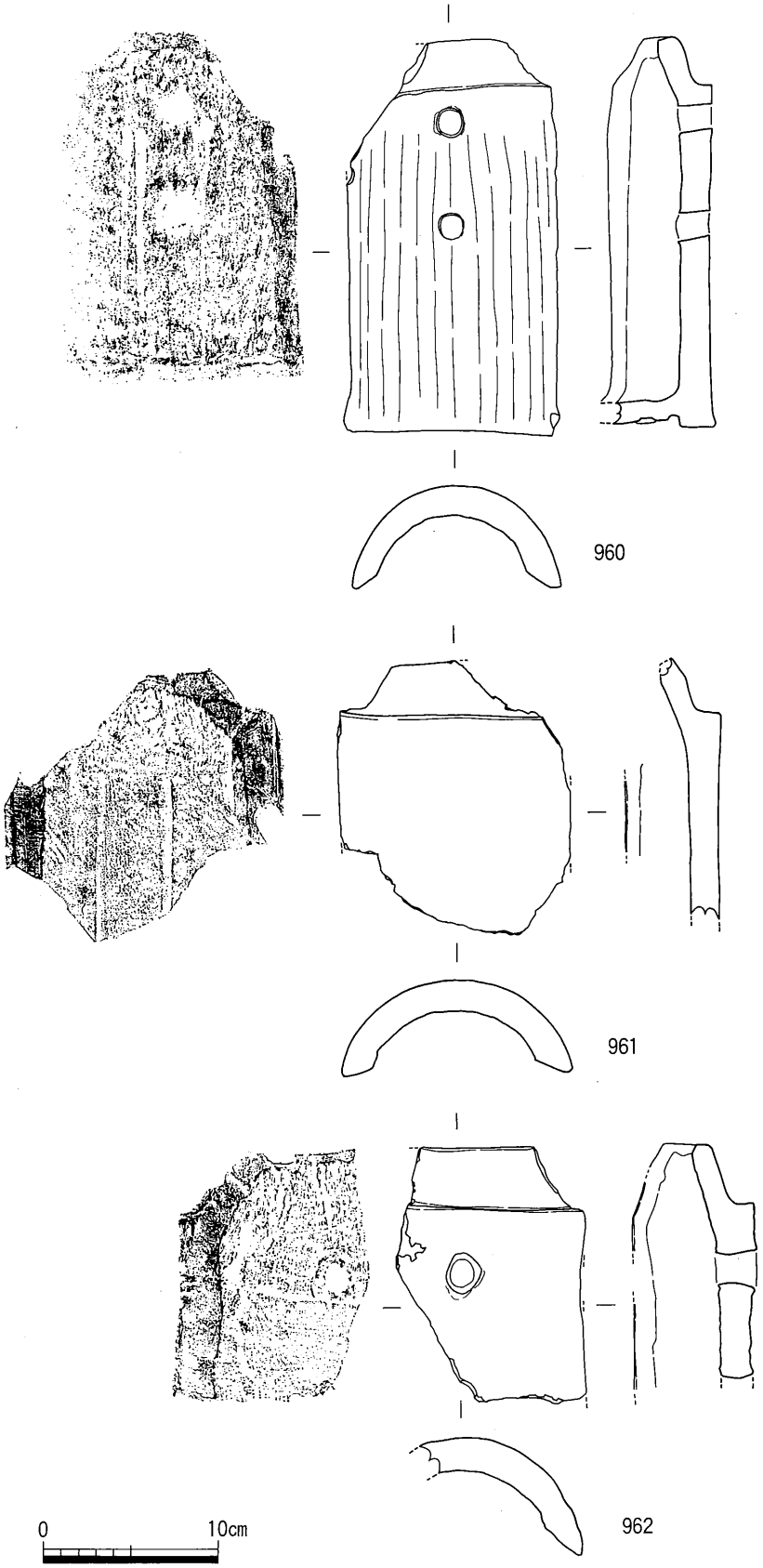
第175図　SK31出土遺物実測図(1)



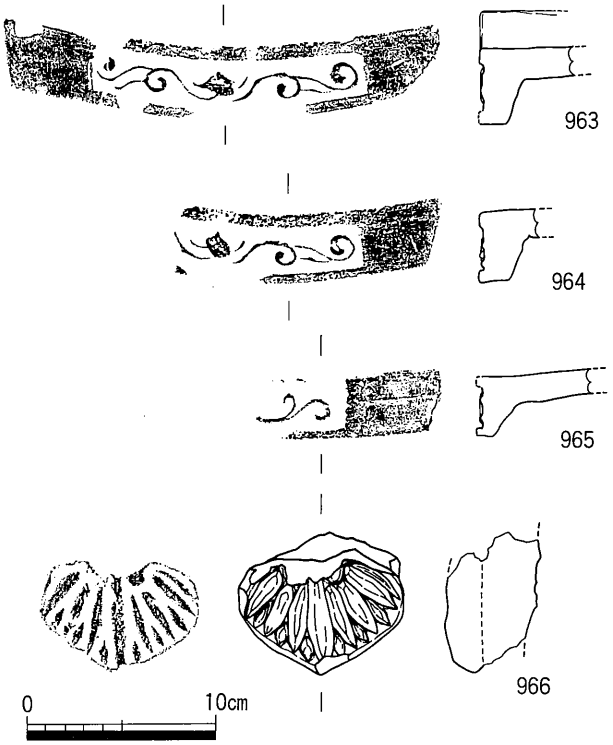
第176図　SK31出土遺物実測図(2)



第177図　SK31出土遺物実測図(3)



第178図　SK31出土遺物実測図(4)



第179図　SK31出土遺物実測図(5)

SK 32

調査区南東隅で検出した土坑である。直径50cm程度の円形を呈する。内部から瓦類が出土している。

第180図はSK 32から出土した遺物の実測図である。

967・968は丸瓦である。

969・970は鬼瓦である。家紋入りの跨ぎ鬼と呼ばれるものである。969の中心部には家紋である三葉葵が線で表現されているのが認められる。970は鬼瓦の裾の部分である。

SX 21（図版43(1)）

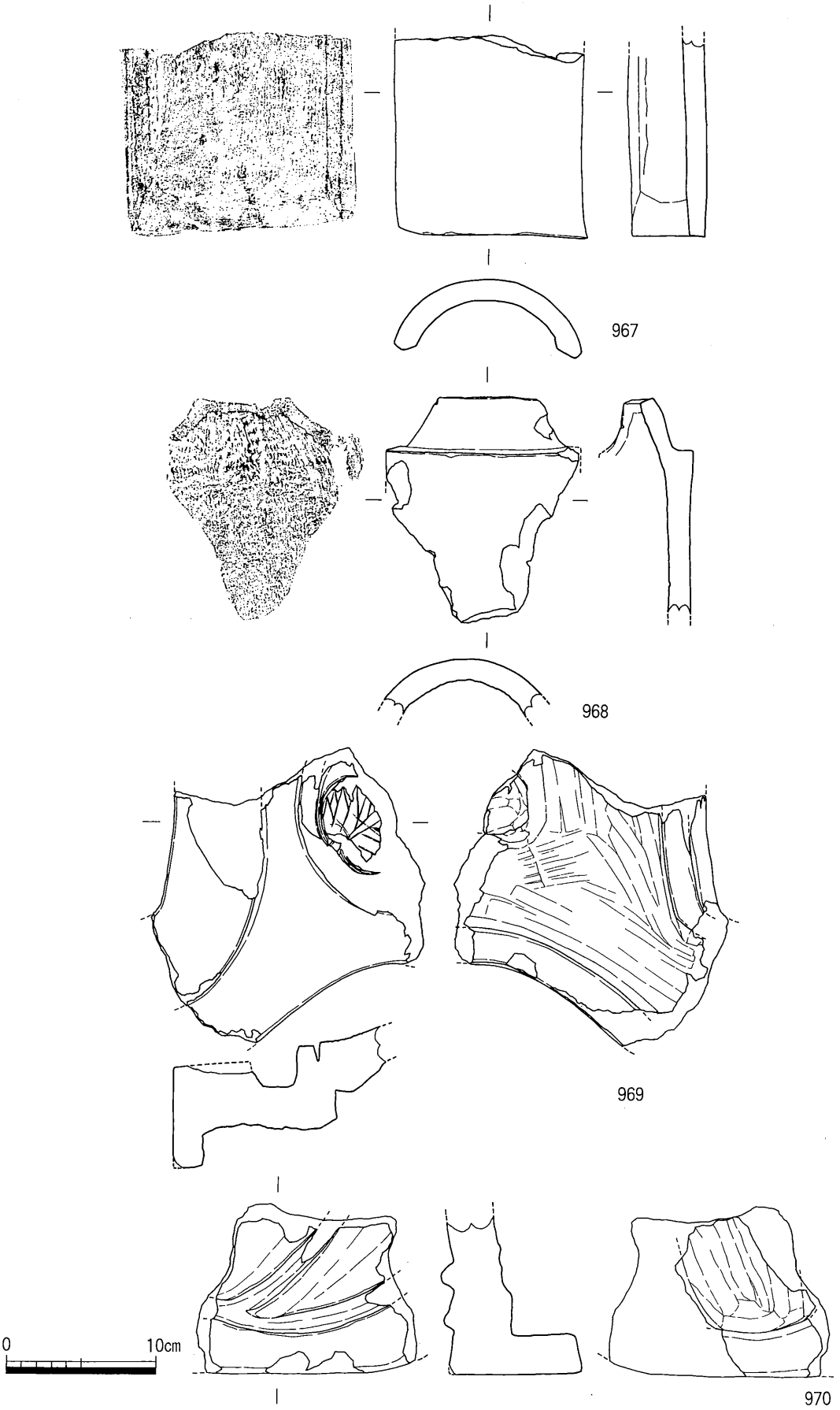
調査区北東部で検出した石列状の遺構である。小礫がSD 04と同じ方向で並んでおり，南側では小礫が敷き詰められた状態で検出した。小礫は直径3～5cm程度の小さいものである。また，南側ではほぼ90度に西側に屈曲する様相も伺える。何らかの構築物の基礎であるかも知れない。

第181図はSX 21から出土した遺物の実測図である。

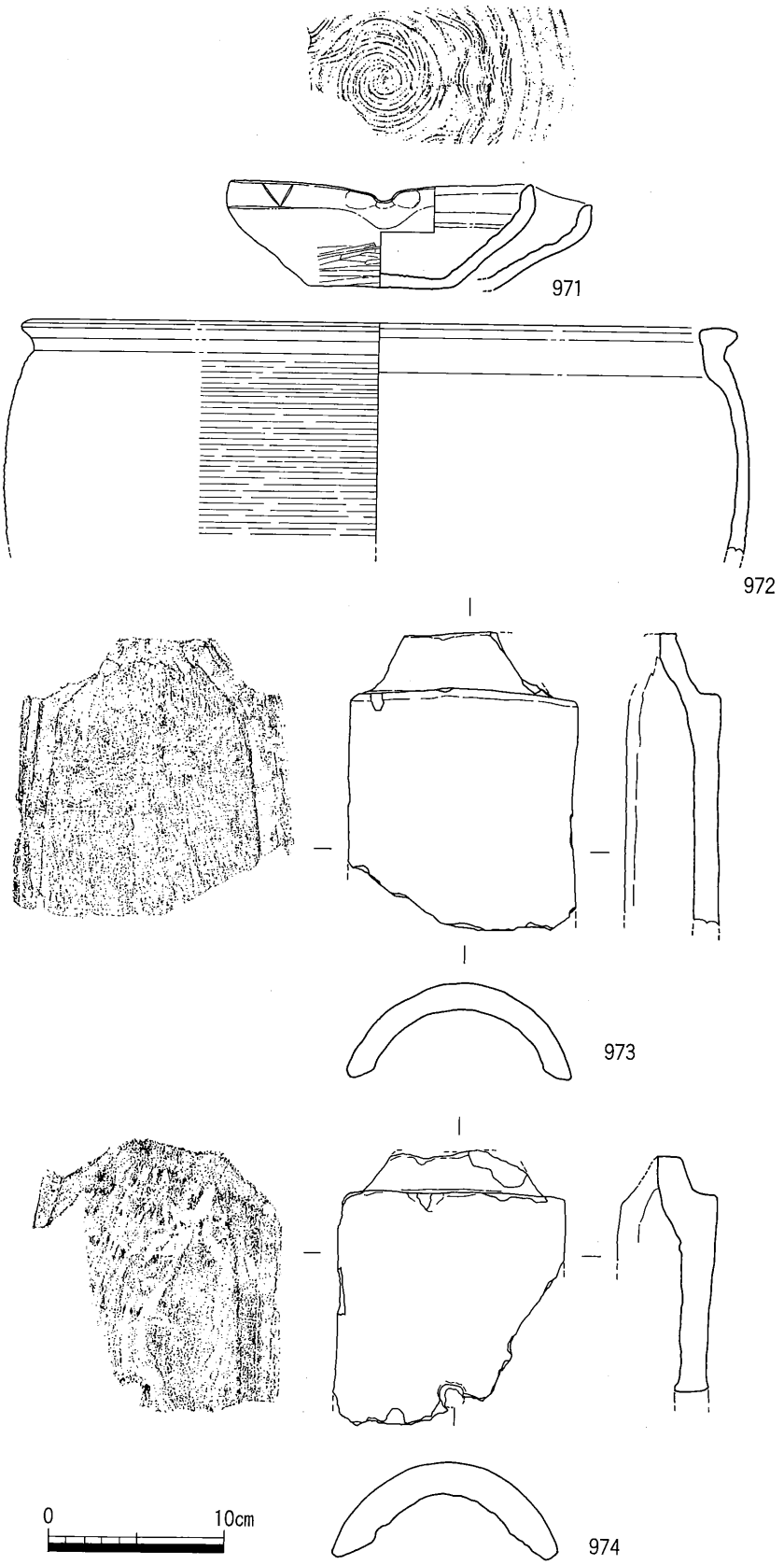
971は備前産の片口の擂鉢である。内面に波状に卸し目が巡っている。見込みには渦巻き状の卸し目が巡っている。口縁部に1ヶ所「V」のようなヘラ記号が認められる。

972は陶器の甕である。

973・974は丸瓦である。



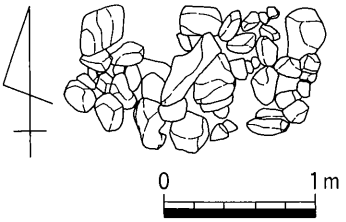
第180図　SK32出土遺物実測図



第181図　SX21出土遺物実測図

SX 22（第182図）

SE 07のすぐ南側で検出した石組の遺構である。石材は概ね30cm前後の礫である。遺物は出土しなかった。



第182図　SX22平面図

SX 23

調査区中央やや西寄りの部分で検出した石列状の遺構である。SD 04等と様相が似ているため，石組の溝状遺構であるかもしれない。遺物は出土しなかった。

SX 24（第187図，図版47(2)・48(1)(2)・49(1)）

調査区ほぼ中央で検出した大型の瓦溜である。直径約２ｍのいびつな円形を呈する。内部からは陶磁器類のほか，大量の瓦類が出土している。造成に伴う廃棄坑であると考えられる。

第183～186，188～196図はSX 24から出土した遺物の実測図である。

975は備前産の擂鉢の口縁部である。

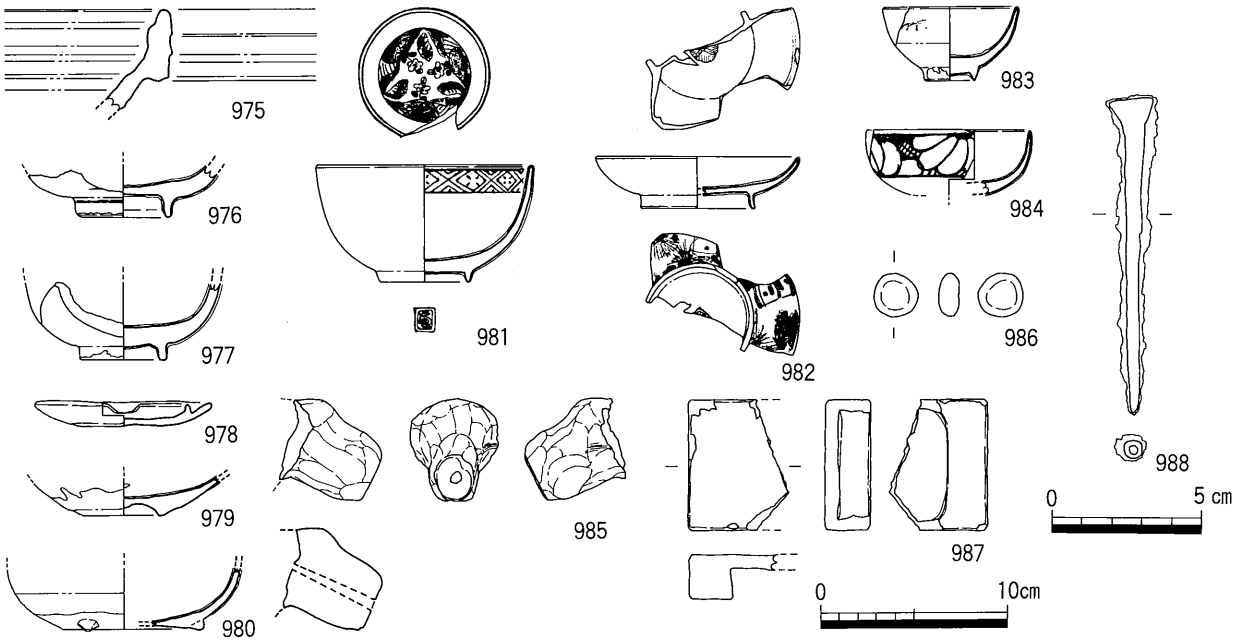
976・977は陶器の碗である。

978は陶器製の灯明皿である。内面に煤が付着している。

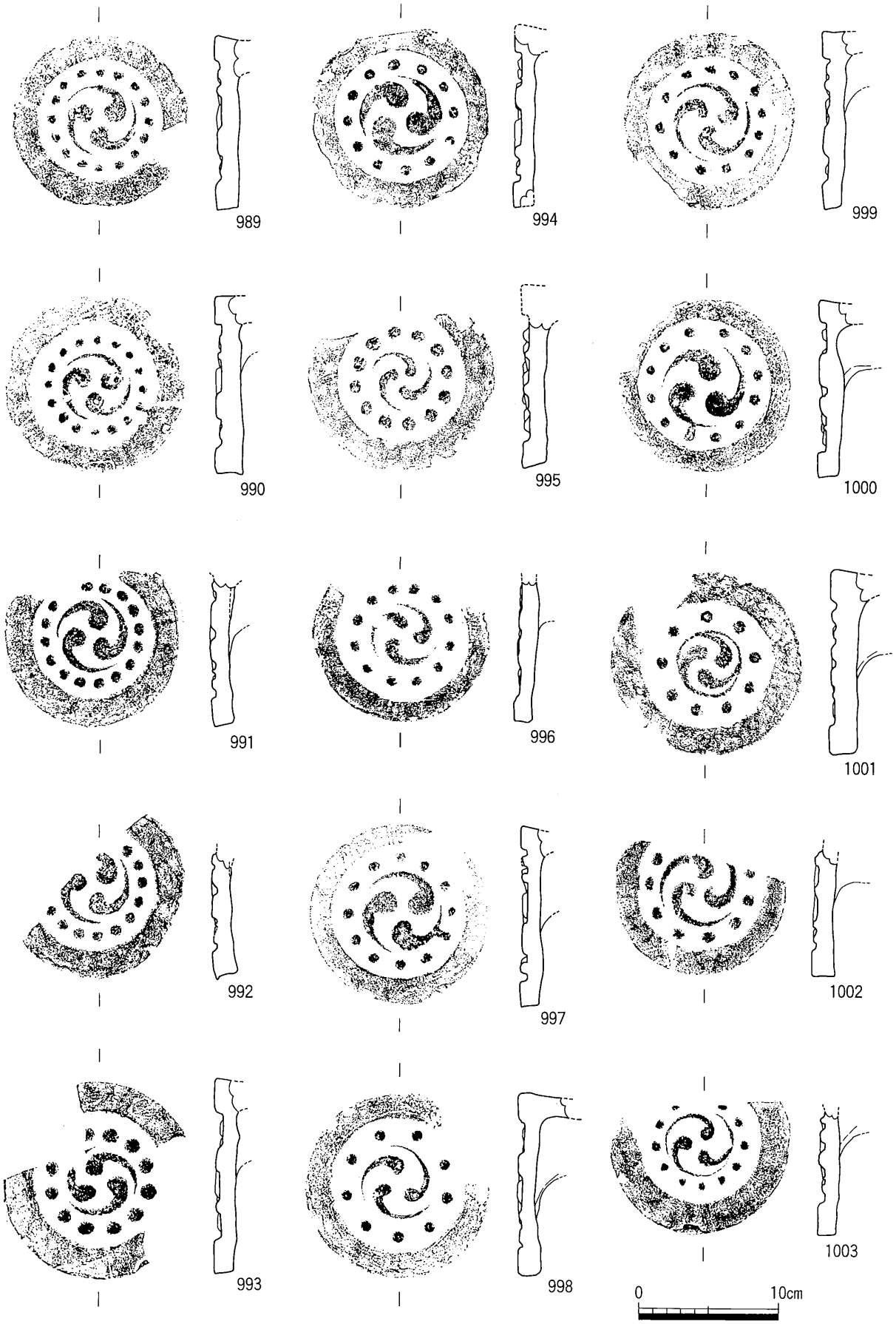
981～984は染付である。

981は肥前産の染付碗である。口縁部内面に菱形文が帯状に巡っている。見込には草木文が，高台内面には渦福文が認められる。

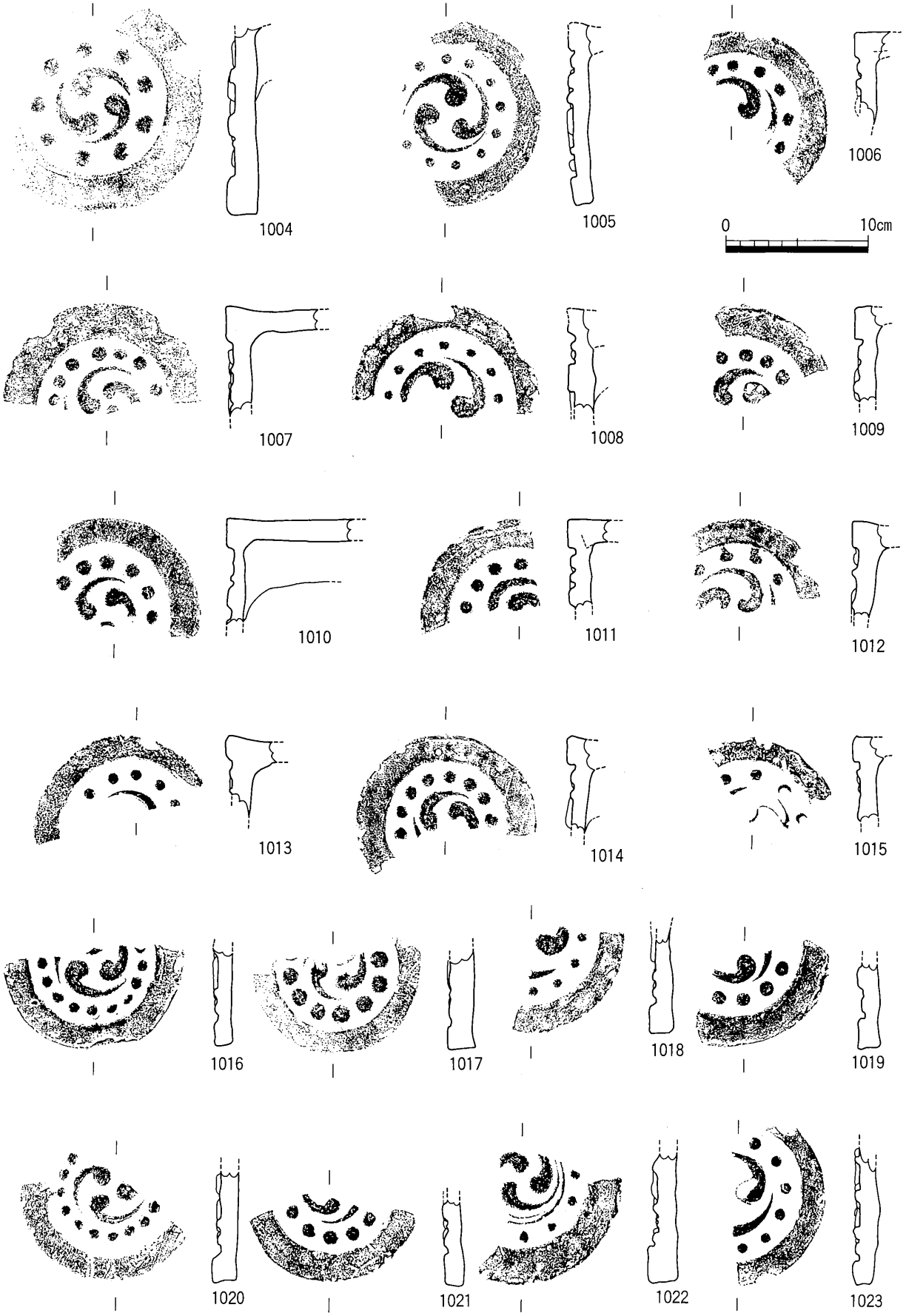
985は土馬の尾の部分であると考えられる。管状に穴があいている。



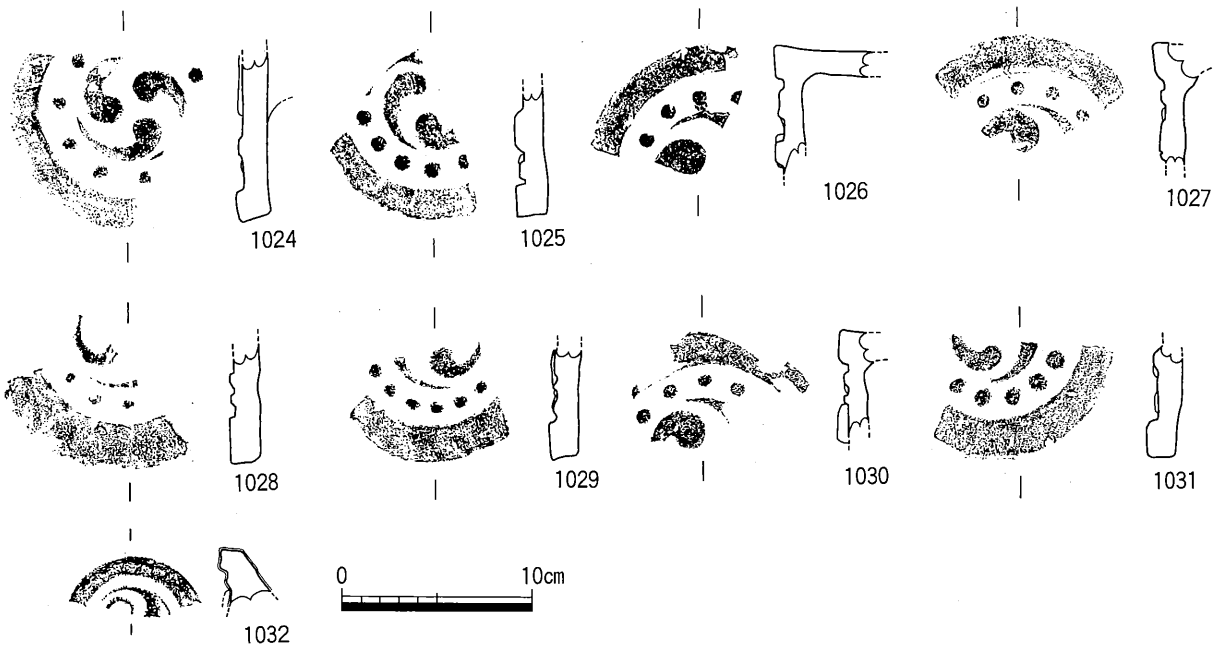
第183図　SX24出土遺物実測図(1)



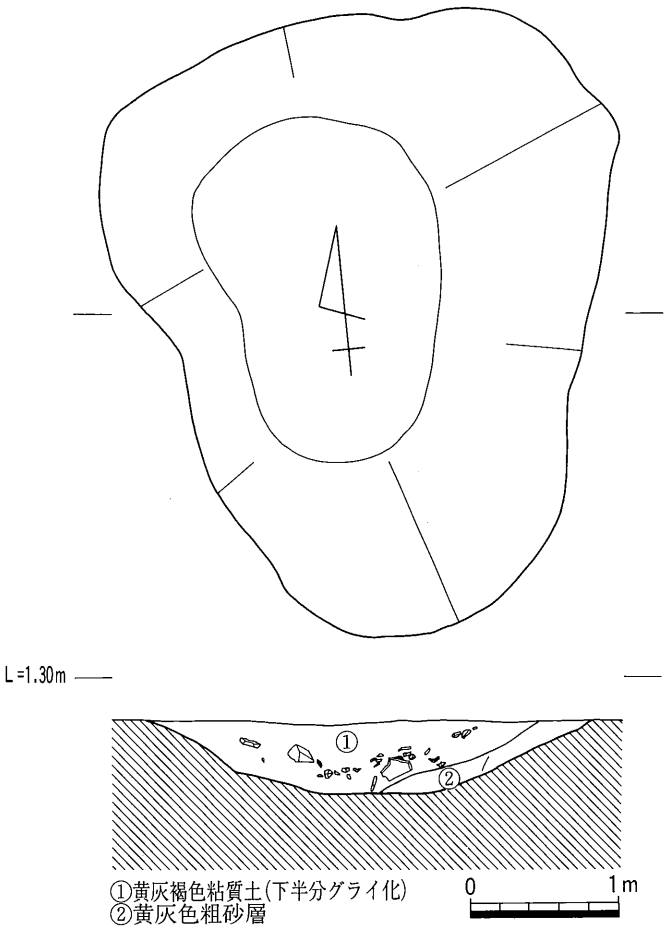
第184図　SX24出土遺物実測図(2)



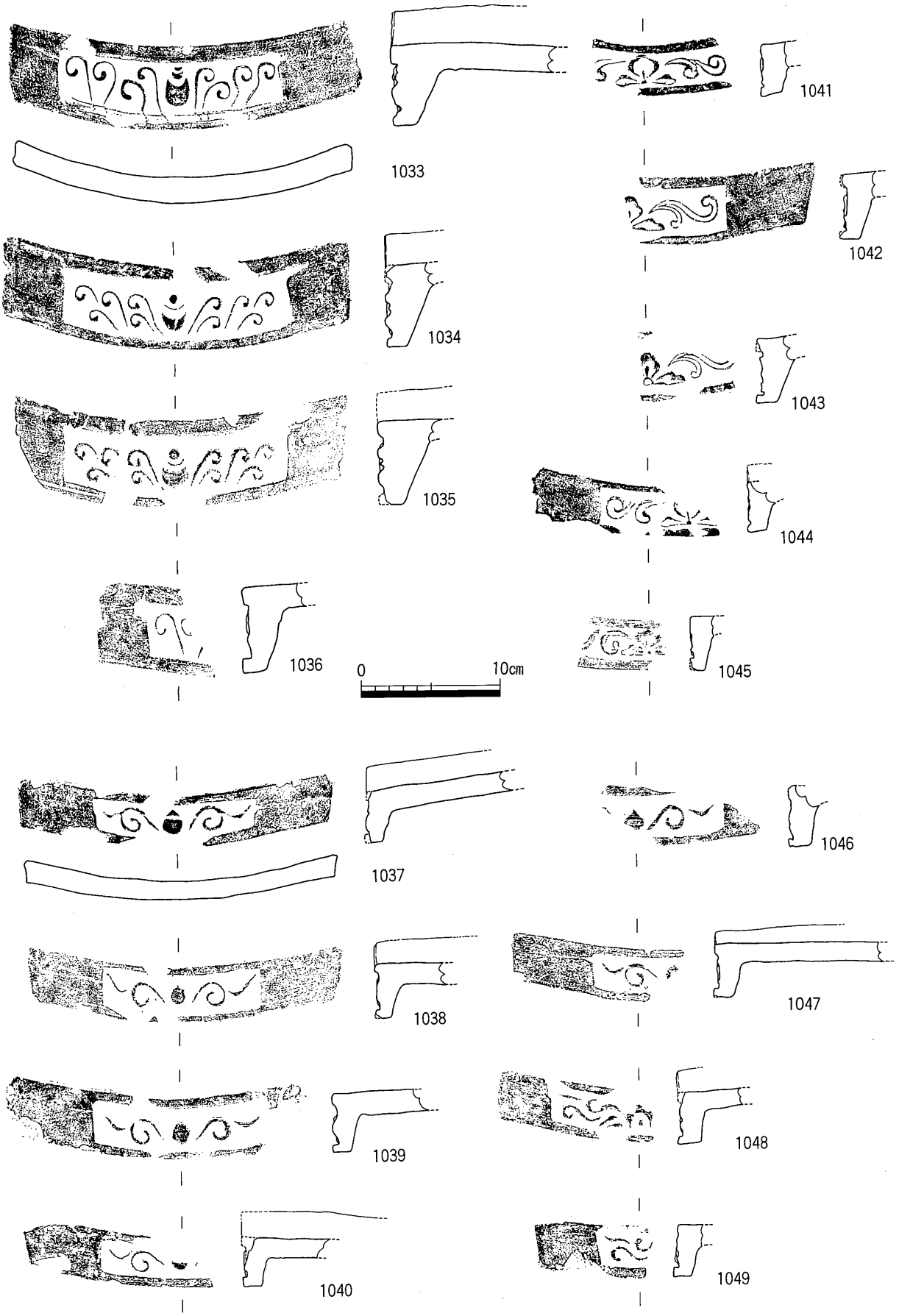
第185図　SX24出土遺物実測図(3)



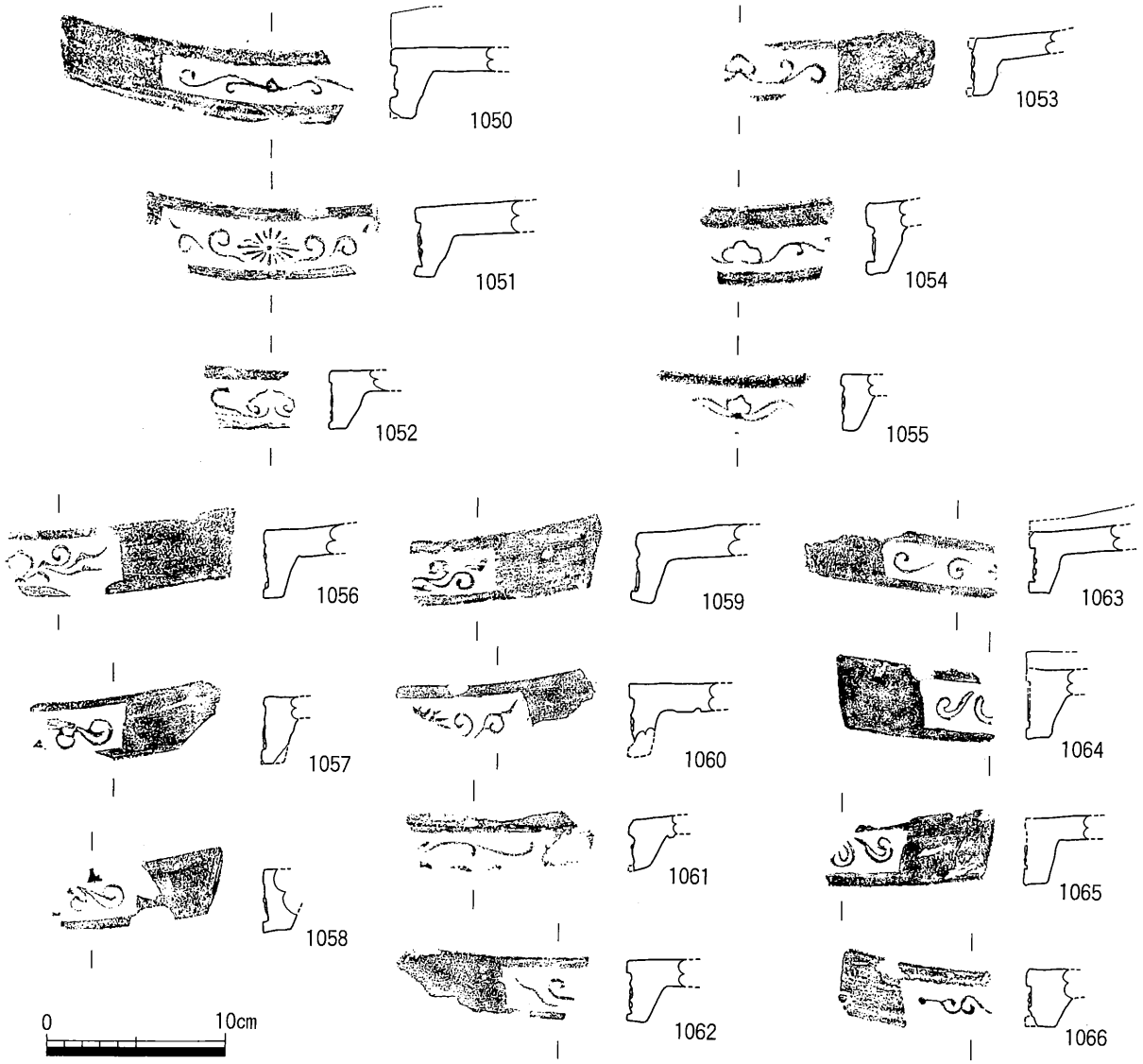
第186図　SX24出土遺物実測図(4)



第187図　SX24平・断面図



第188図　SX24出土遺物実測図(5)



第189図　SX24出土遺物実測図(6)

986・987は石製品である。986は円形に研磨しており，碁石状を呈している。987は不明石製品である。

988は金属製品である。鉄製の釘である。

989～1031は三巴文軒丸瓦である。全体的に小ぶりになっており，周縁の幅が大きくなっている。

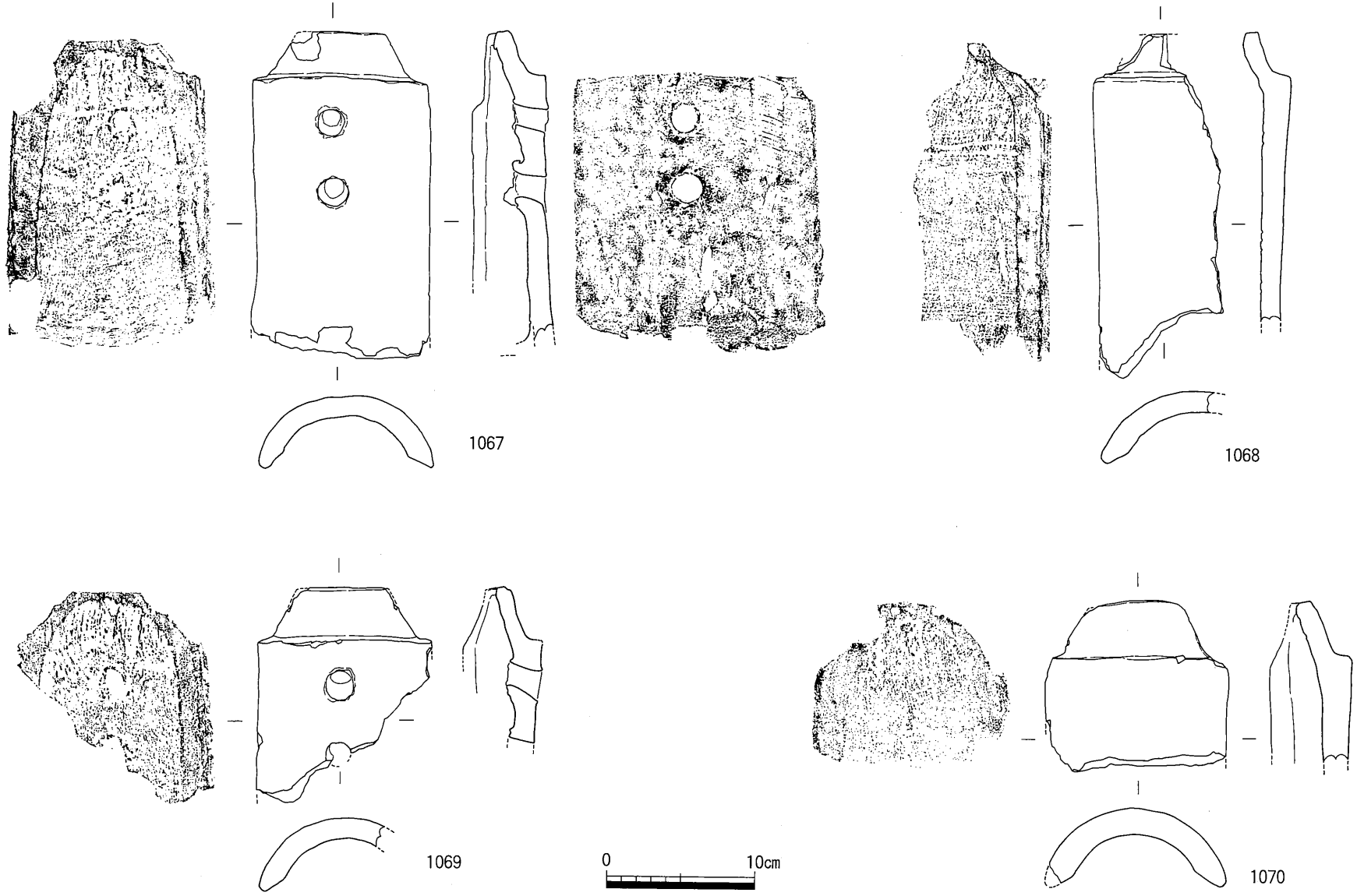
1032は鳥衾である。陶器製で，胎土や釉薬の種類から瀬戸・美濃産のものであると考えられる。何個体か出土している瀬戸・美濃産の小型の鬼瓦とセットになるものと考えられる。

1033～1066は軒平瓦である。1033～1036のように高さの高い大型のものも一部に認められるが，全体的に小ぶりになっている。中心飾りは団栗状を呈するもの(1033，1034など)や大型の三葉のもの(1041，1042など）や十六花弁文（1051）などがある。

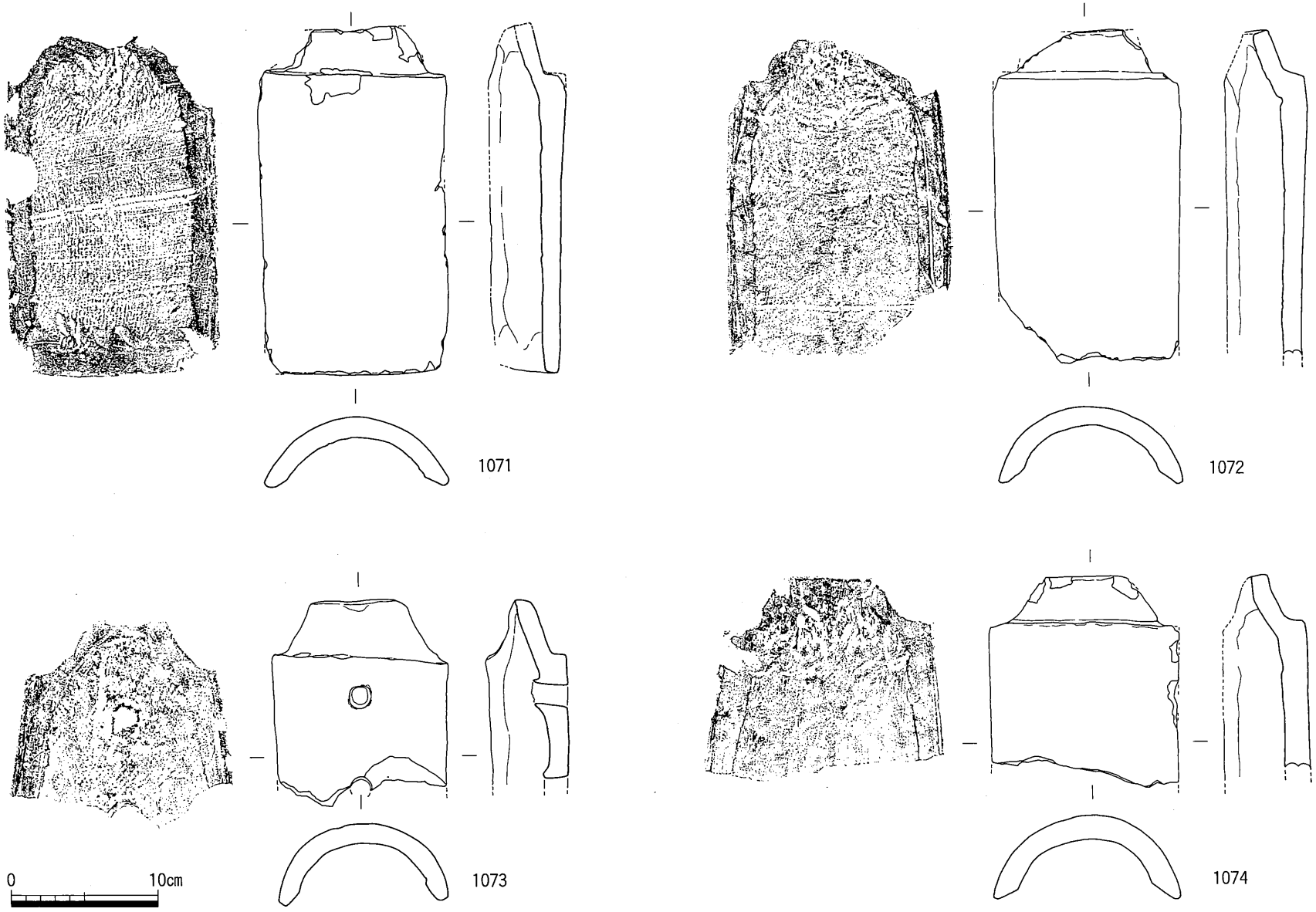
1067～1088は丸瓦である。1068や1071，1072にはコビキB手法が認められる。1067，1069，1073，1082，1087には釘穴が2ヶ所に認められる。1075はいわゆる行基葺きの丸瓦である。1077，1083，1087には凸面にヘラ状工具による削り痕が認められる。

1089～1097は平瓦である。平瓦も全体的に小ぶりになり，やや薄くなってきている。

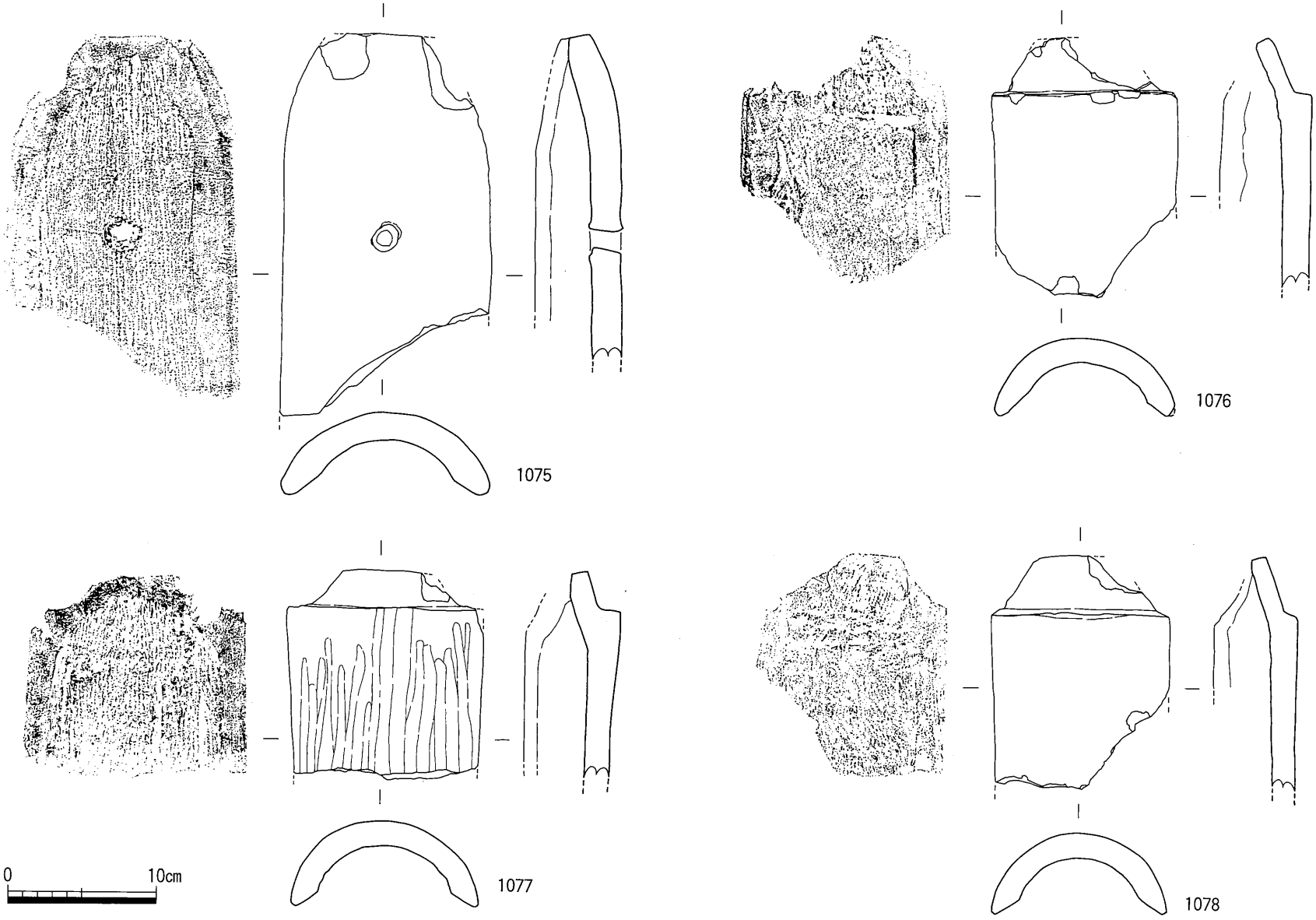
1098・1099は掛瓦である。



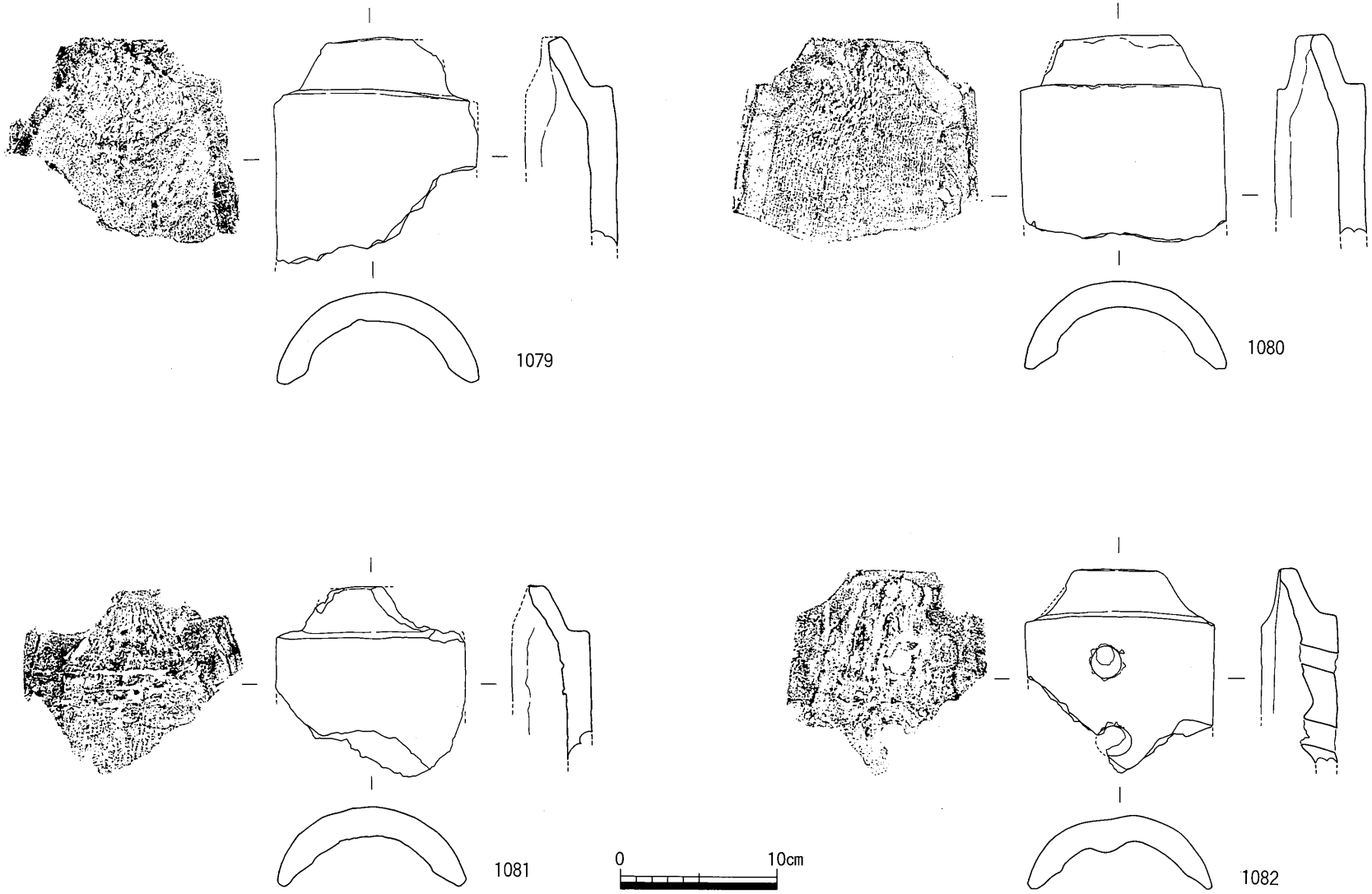
第190図　SX24出土遺物実測図(7)



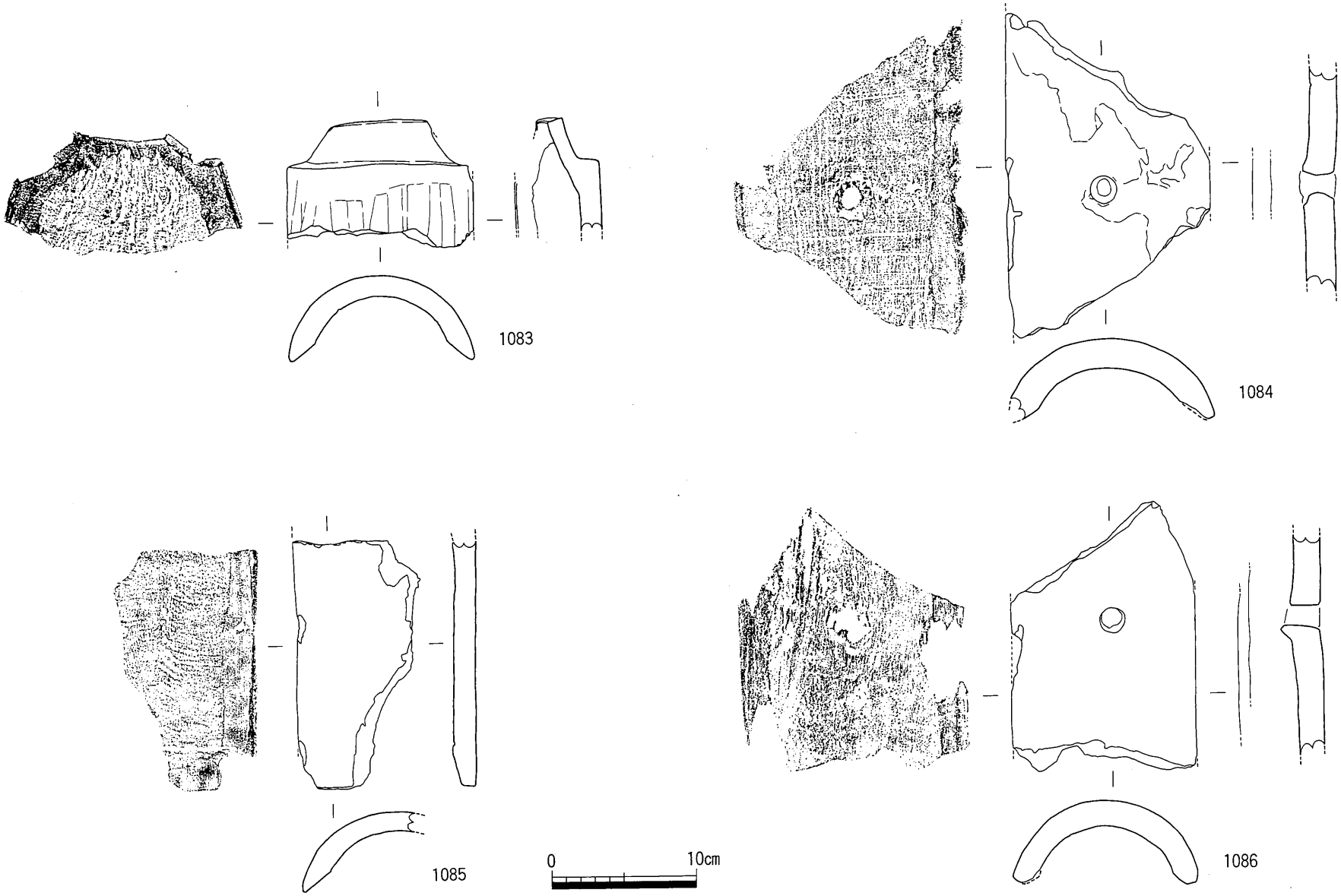
第191図　SX24出土遺物実測図(8)



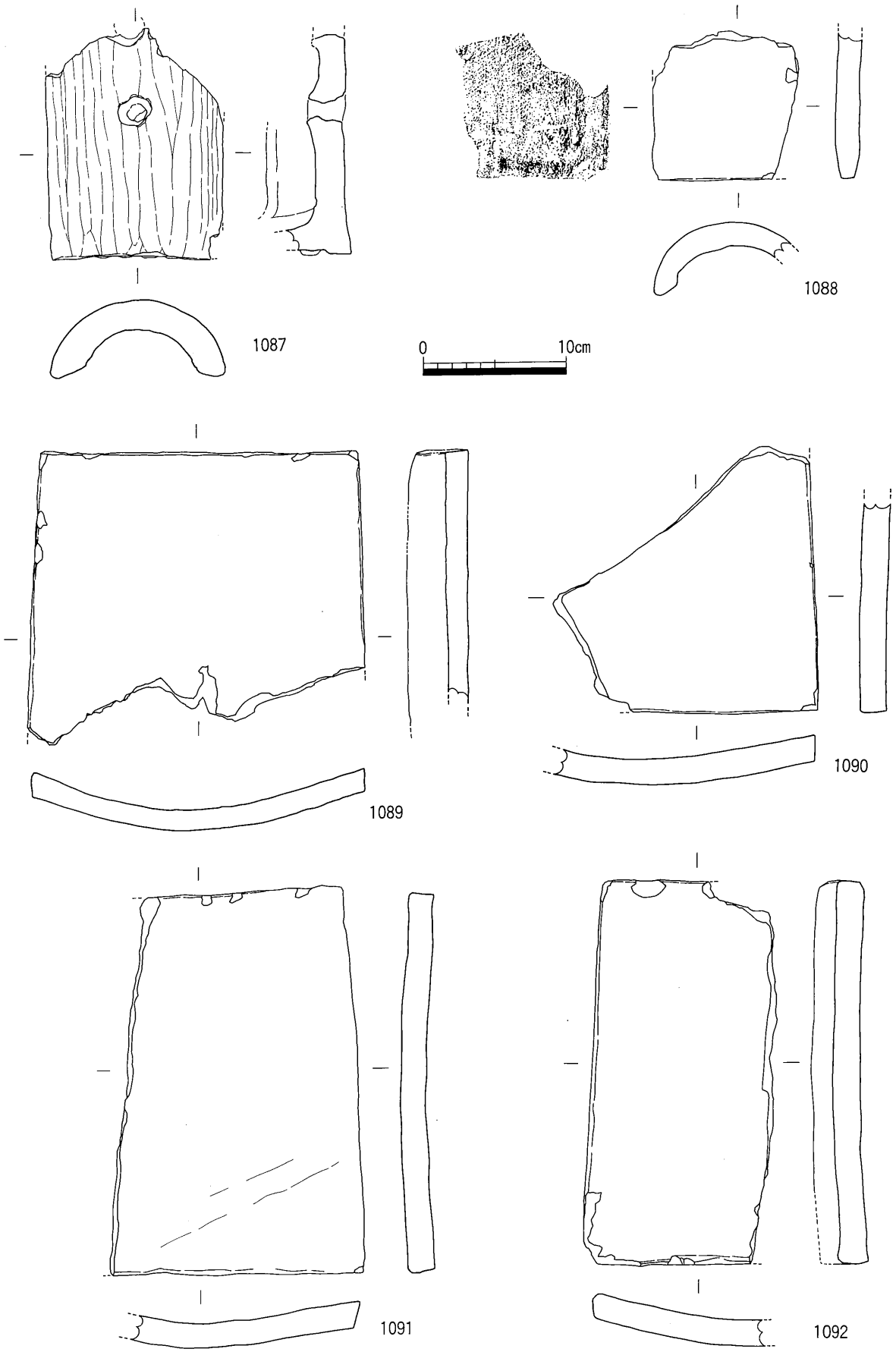
第192図　SX24出土遺物実測図(9)



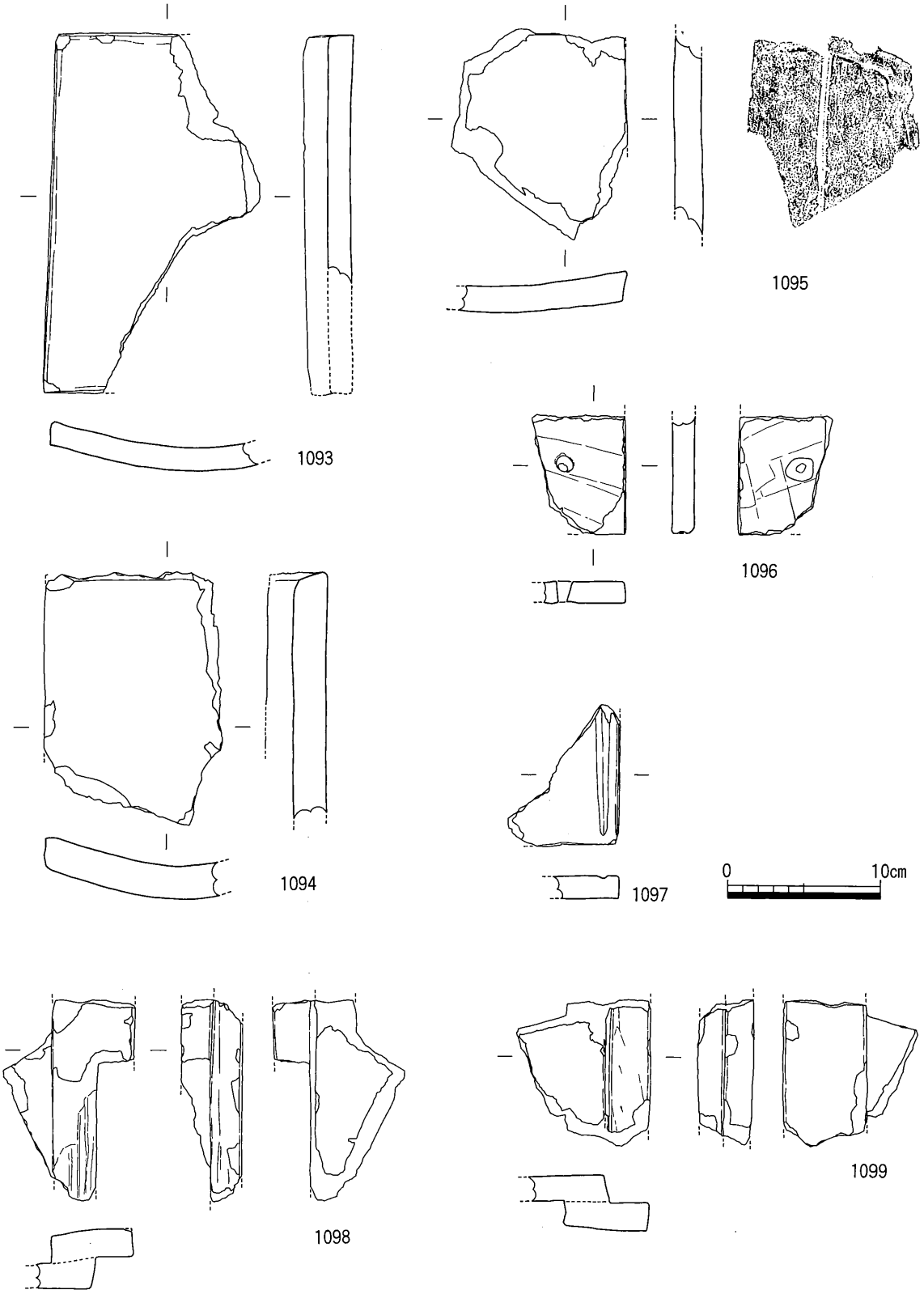
第193図　SX24出土遺物実測図(10)



第194図　SX24出土遺物実測図(II)



第195図　SX24出土遺物実測図(12)



第196図　SX24出土遺物実測図(13)

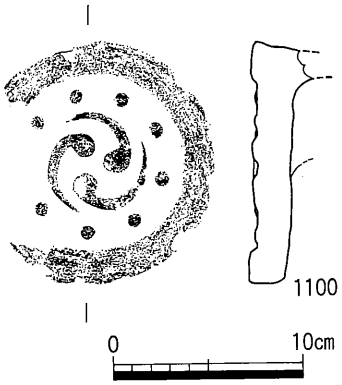
SX 25（第197図）

調査区中央西端部分で検出した遺構である。大部分は調査区外であるため，全体の規模は不明である。

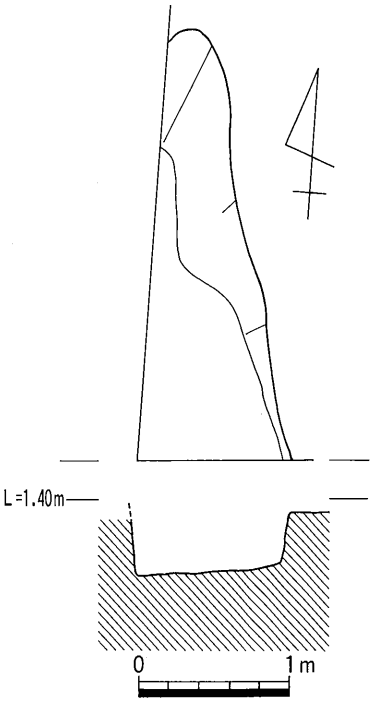
内部からは少量の瓦が出土している。

第198図はSX 25から出土した遺物の実測図である。

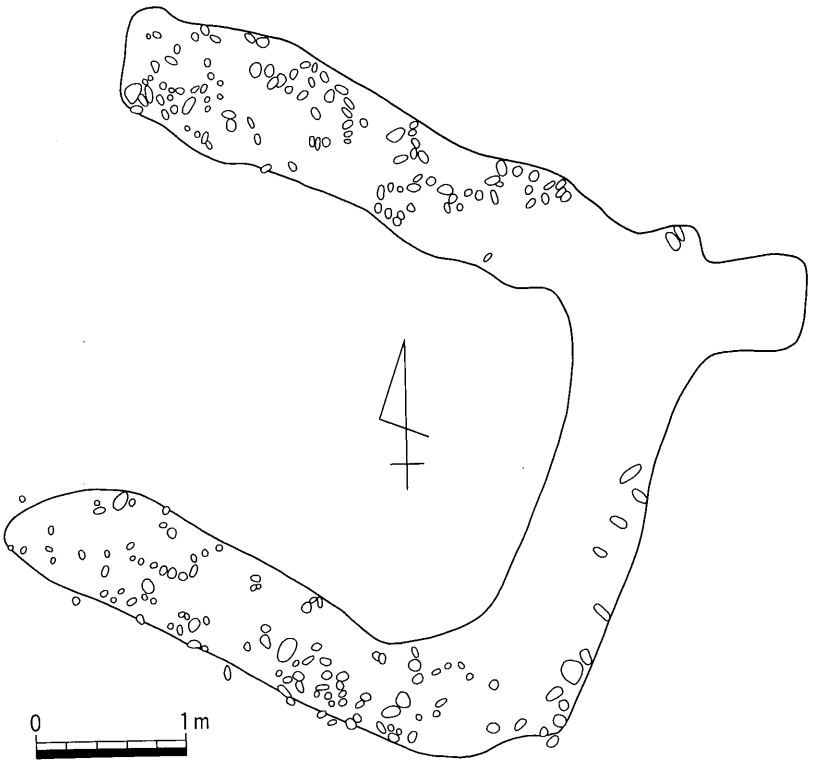
1100は三巴文軒丸瓦である。珠文が9個と少なくなってきている。



第198図　SX25出土遺物実測図



第197図　SX25平・断面図



第199図　SX26平面図

SX 26（第199図，図版49(2)）

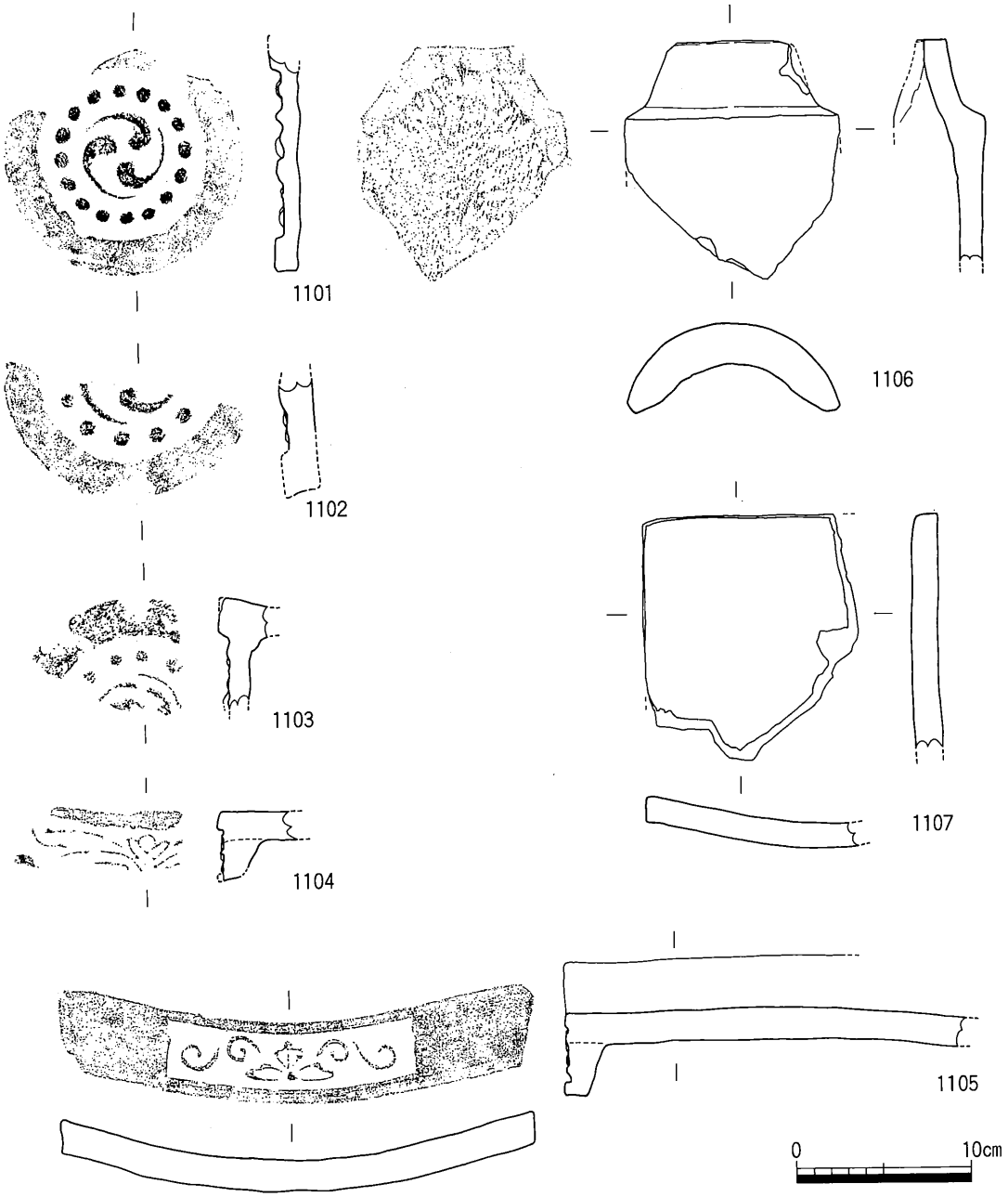
SX 24の東側で検出した逆「コ」の字状の遺構である。小礫が充填された状況を呈していた。性格は不明である。

第200図はSX 26から出土した遺物の実測図である。

1101～1103は三巴文軒丸瓦である。

1104・1105は軒平瓦である。いずれも平瓦の端面を瓦当面の一部とし，足らない部分を下部に足している。

1106は丸瓦，1107は平瓦である。



第200図　SX26出土遺物実測図

SX 27（第201図）

調査区中央東寄りの部分で検出した遺構である。南半分は検出できなかった。長さは5m以上，幅は約2.5mを測る。深さは30cmと浅い。大量の瓦が出土している。

第202～210図はSX 27から出土した遺物の実測図である。

1108～1113は三巴文軒丸瓦である。1112は尾の巻き込みが長く，周囲に圏線が巡っている。これは古い様相の軒丸瓦である。

1114は小菊瓦である。棟の飾り瓦の一つである。

1115は滴水瓦の破片である。

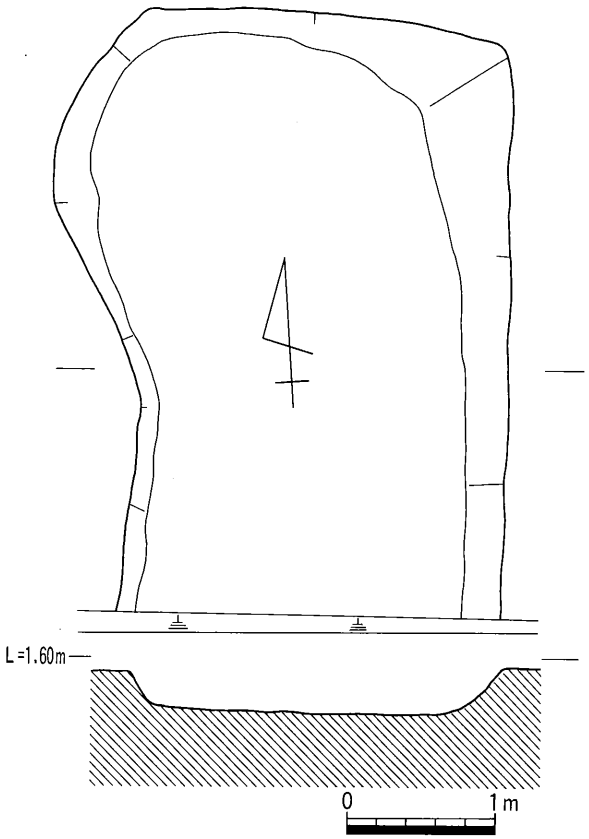
1116は軒平瓦である。竹の葉をイメージした中心飾りを持つ。

1117は瀬戸・美濃産の鬼瓦である。鍾馗をモチーフとしており，透明な長石釉が施釉されている。

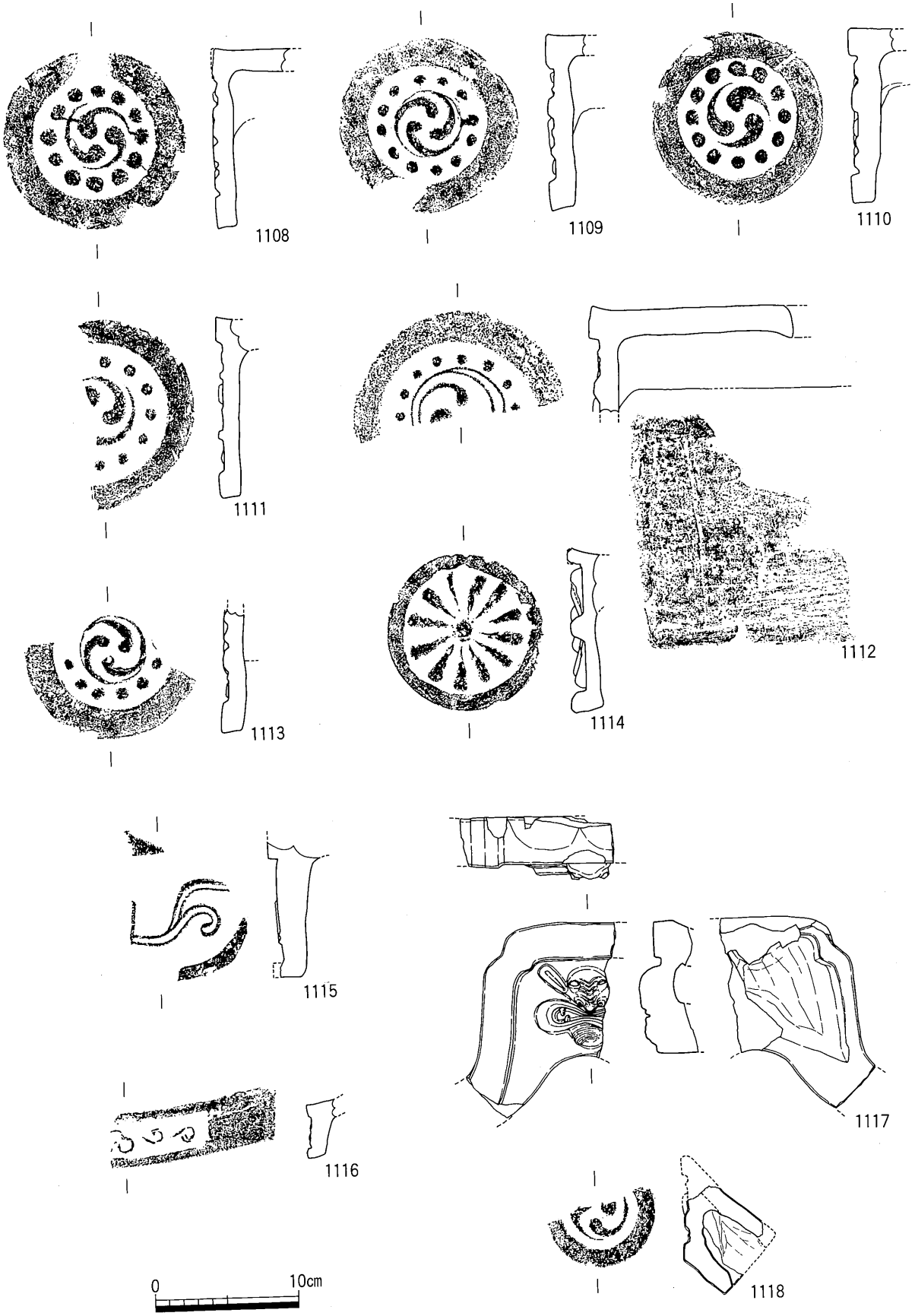
1118は瀬戸・美濃産の鳥衾である。周縁と巴文は鮮やかな群青色の釉薬が施釉されている。小型であるため，1117とセットになる可能性が高い。

1119～1147は丸瓦である。凹面にコビキB手法が認められるもの（1120など）や布目痕が認められるもの（1119や1121など）などがみられる。

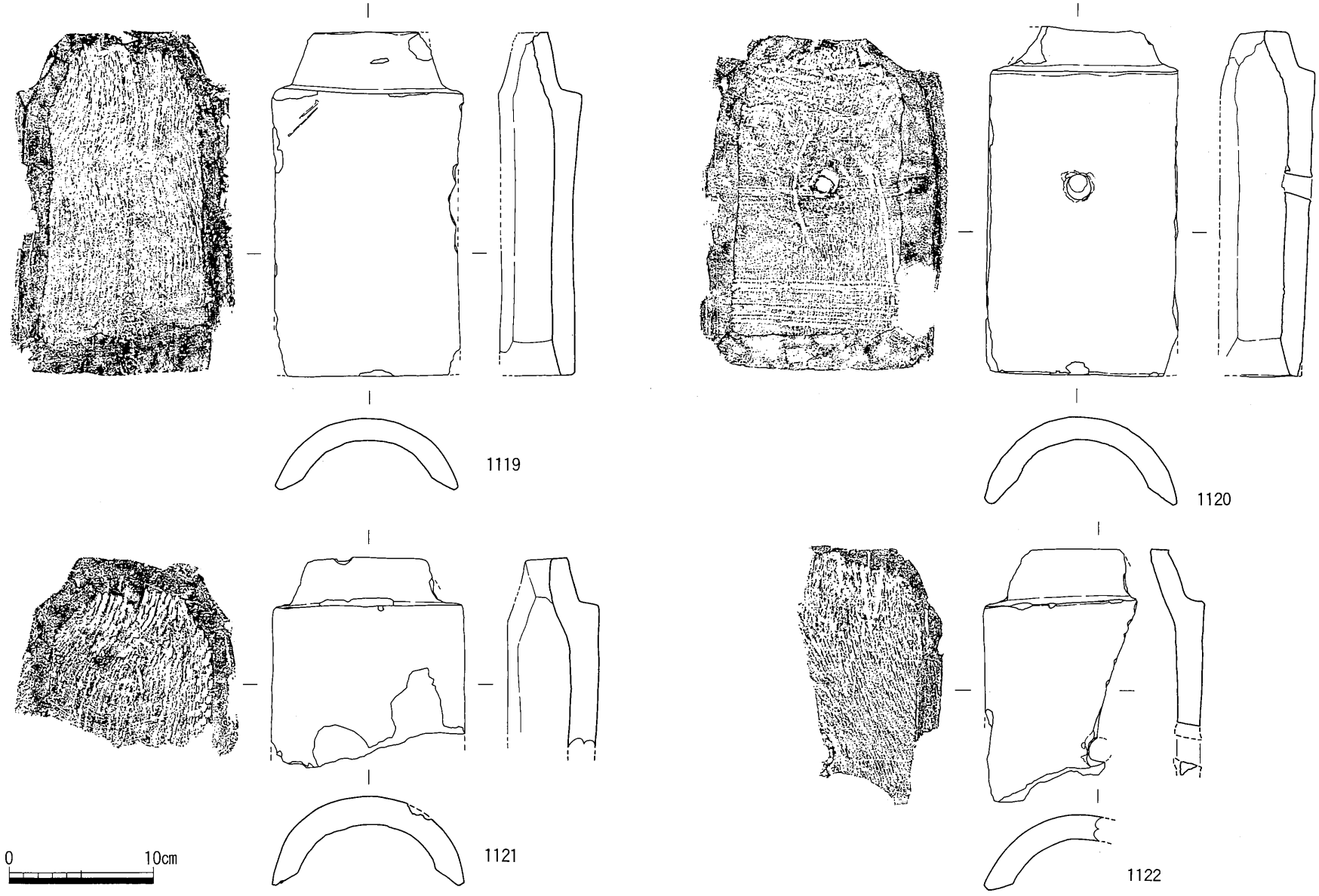
1148は平瓦である。



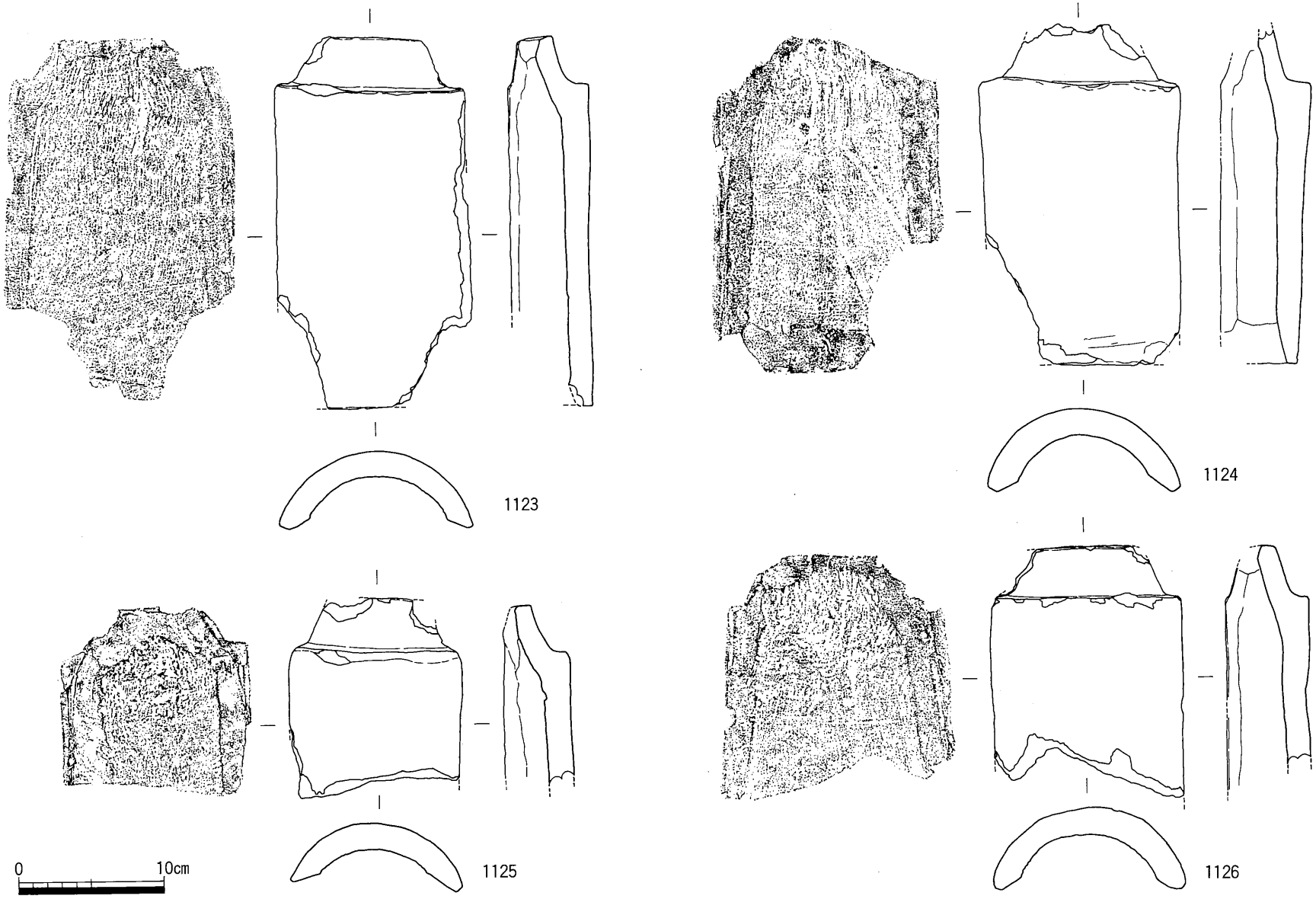
第201図　SX27平・断面図



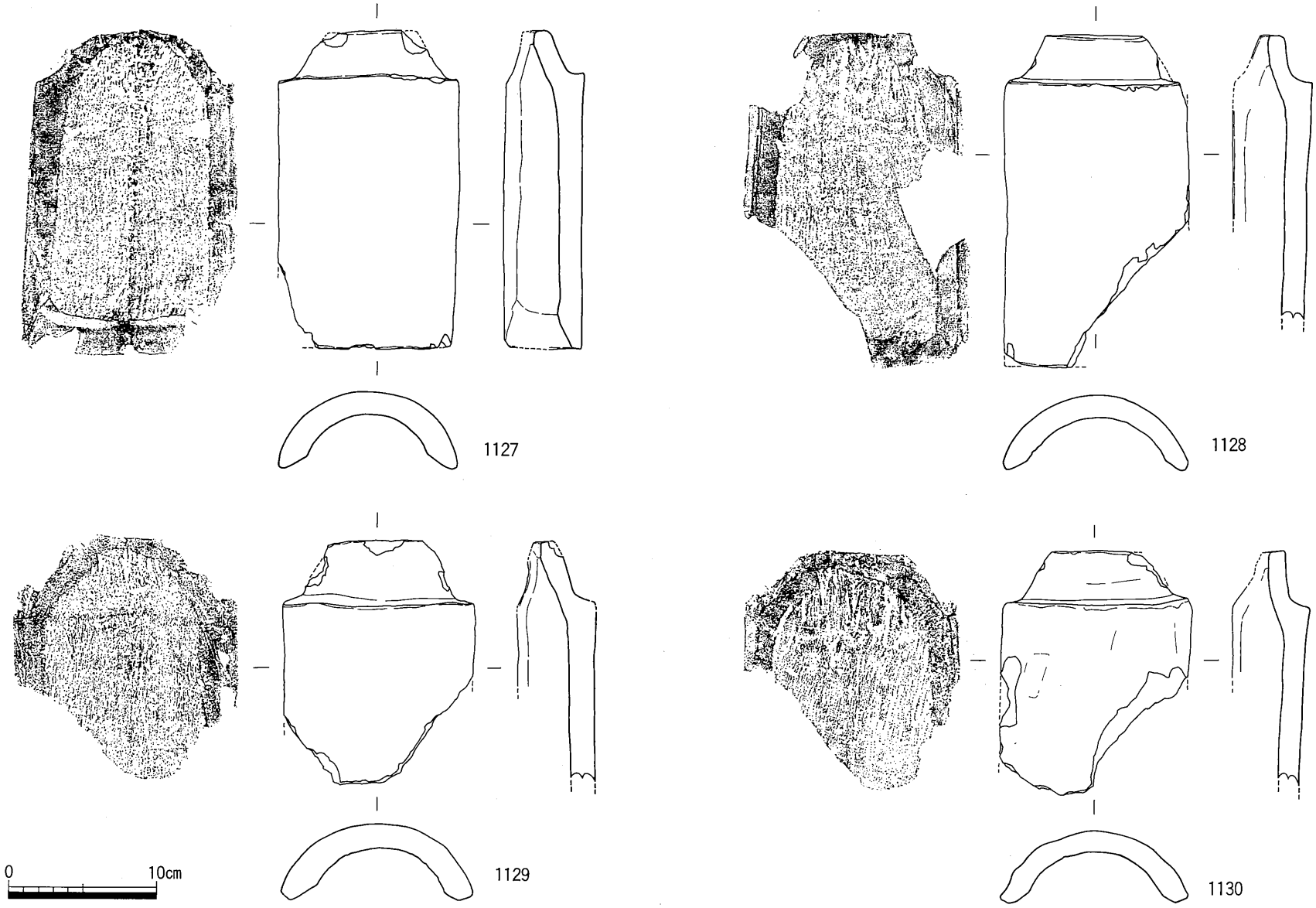
第202図　SX27出土遺物実測図(1)



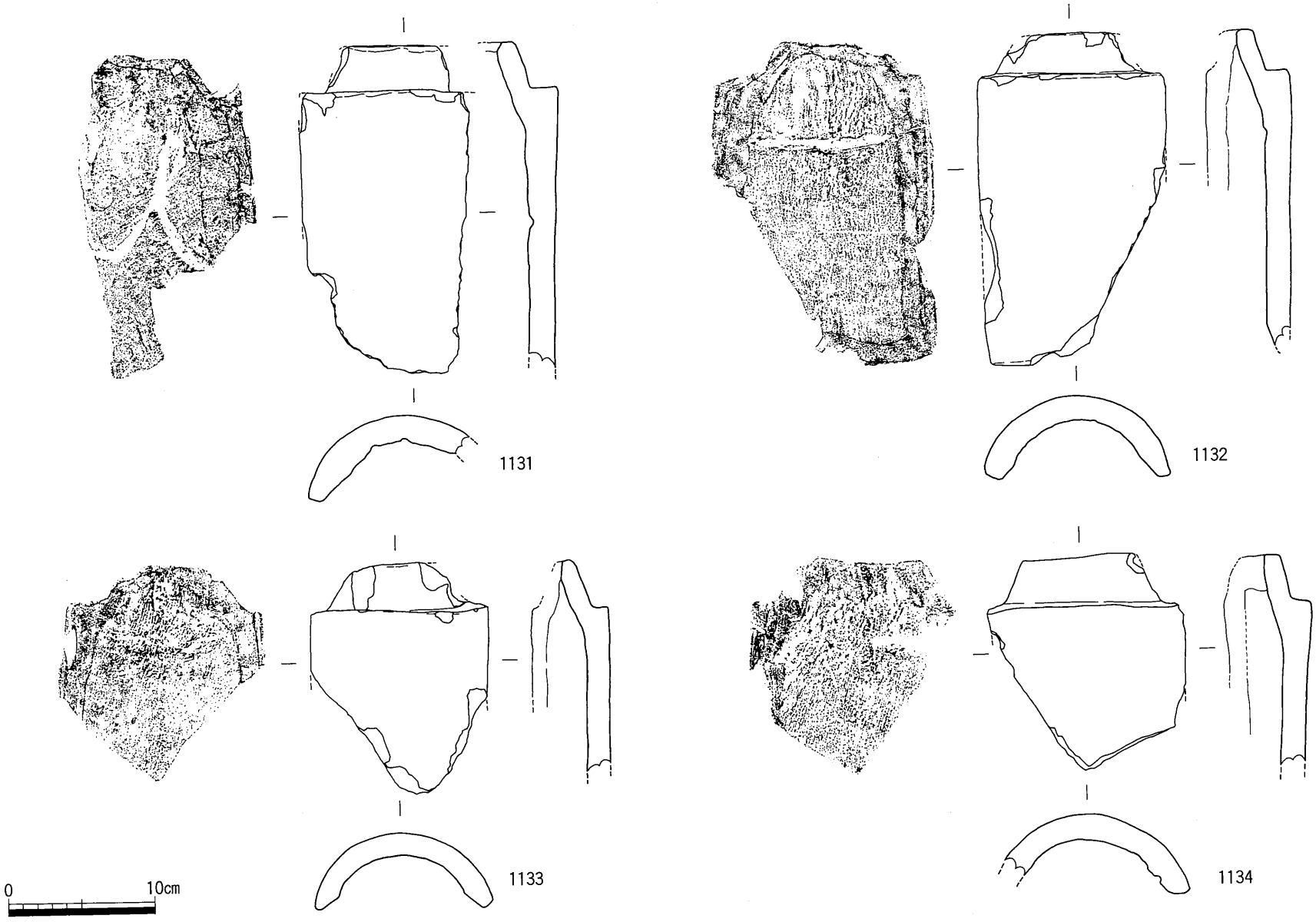
第203図　SX27出土遺物実測図(2)



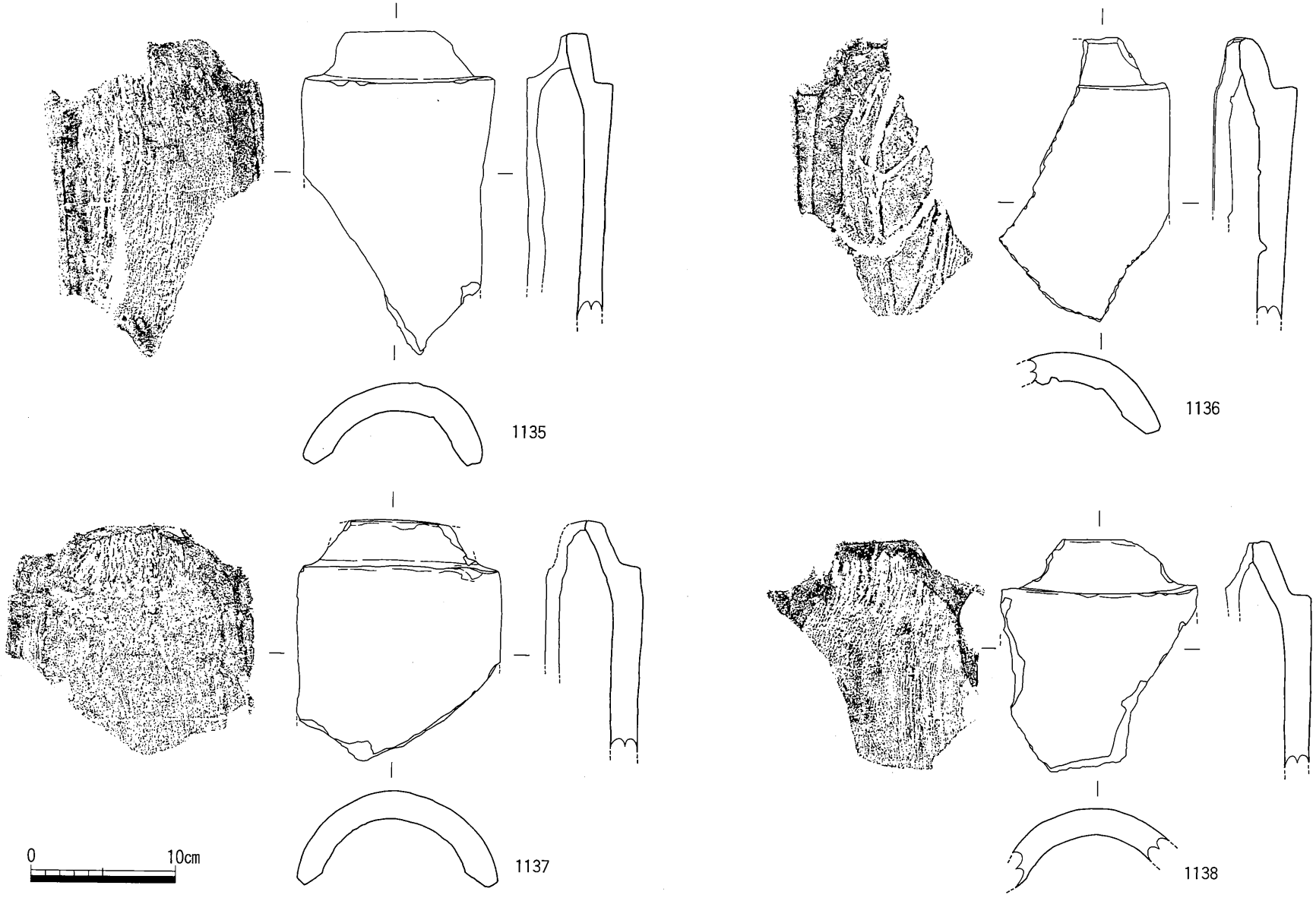
第204図　SX27出土遺物実測図(3)



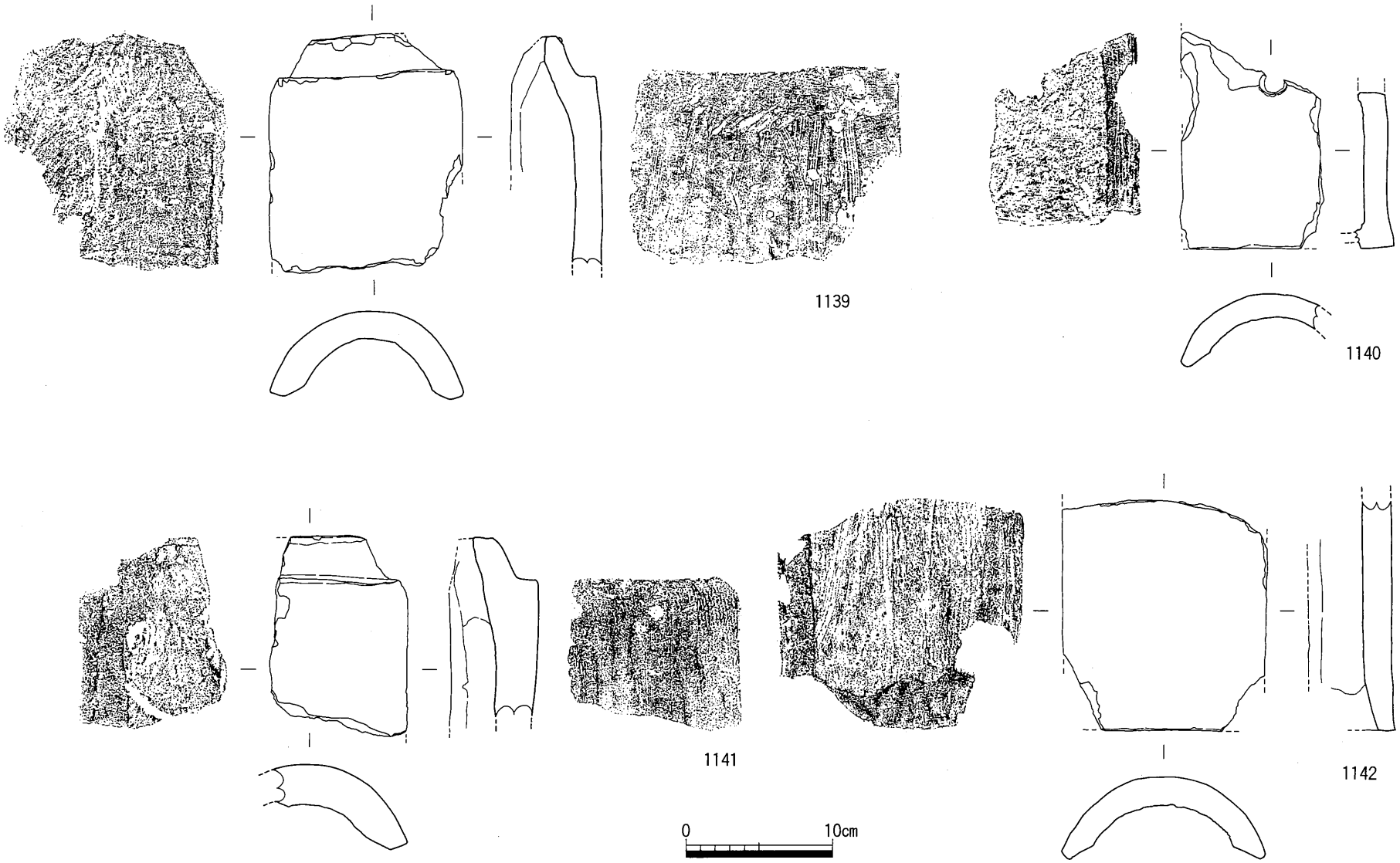
第205図　SX27出土遺物実測図(4)



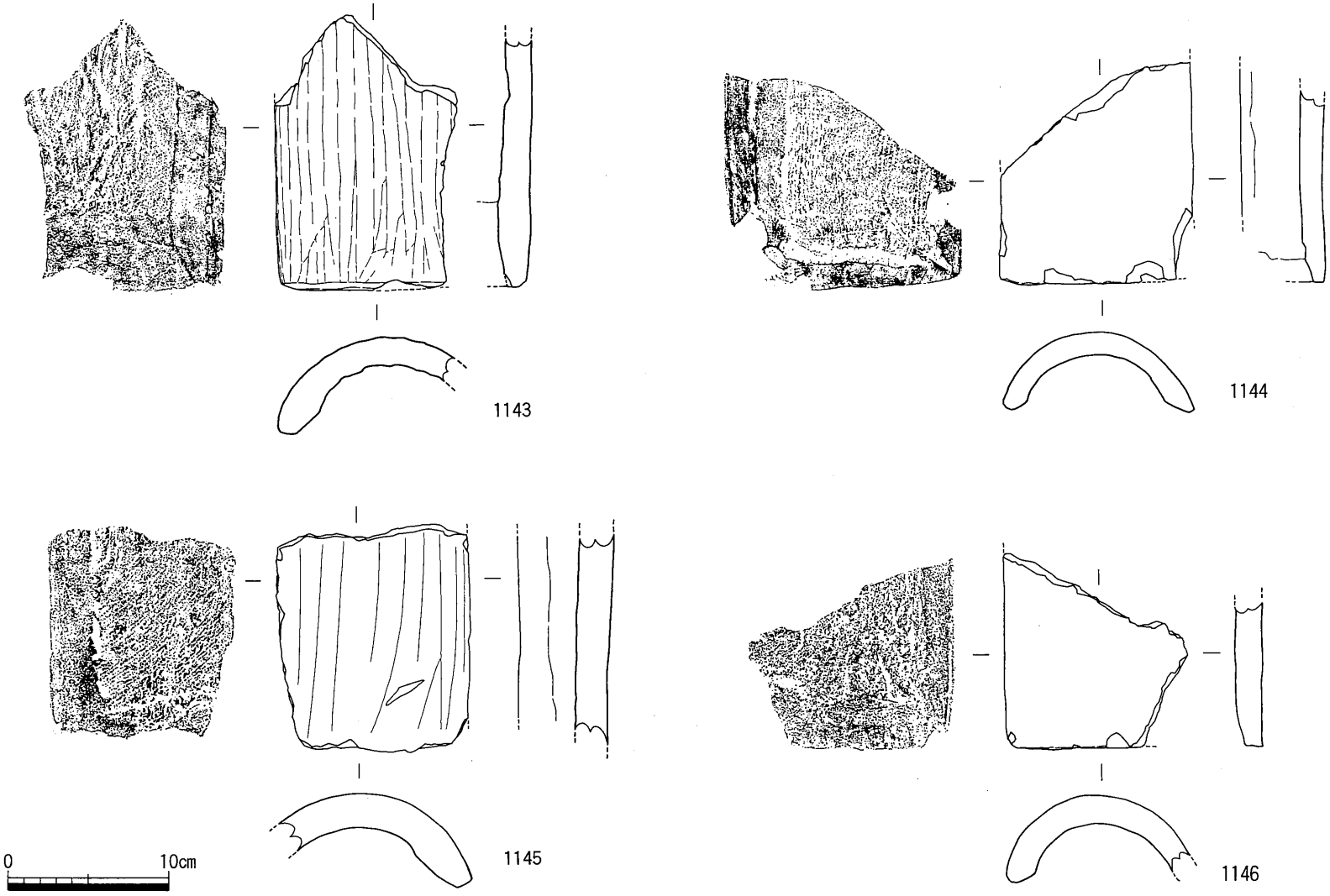
第206図　SX27出土遺物実測図(5)



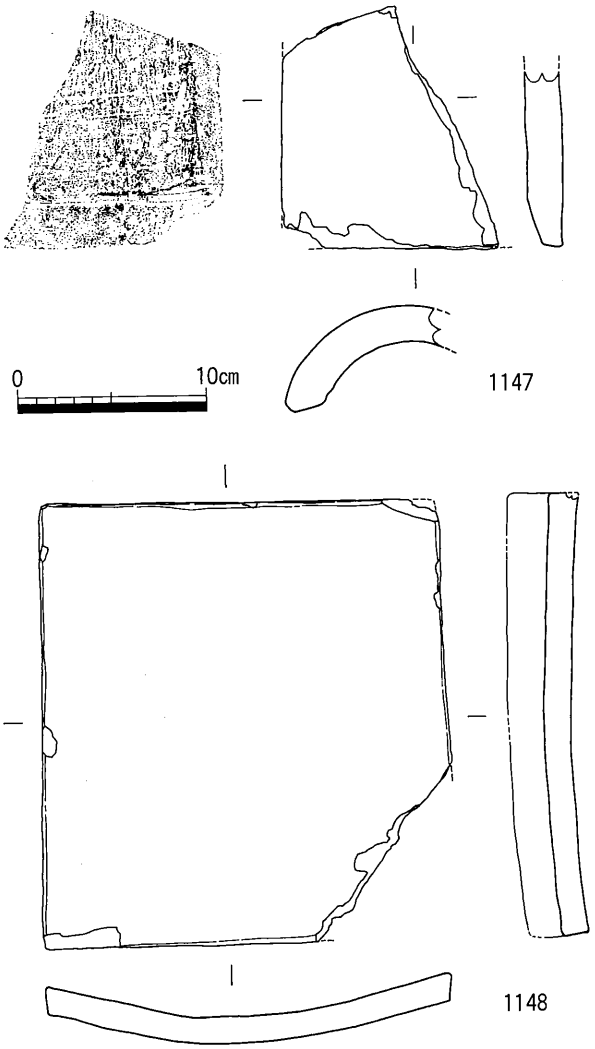
第207図　SX27出土遺物実測図(6)



第208図　SX27出土遺物実測図(7)



第209図　SX27出土遺物実測図(8)



第210図　SX27出土遺物実測図(9)

SX 28（第211図，図版50(1)(2)・51(1)）

調査区南西部で検出した大型の土坑状の遺構である。一辺約４ｍのいびつな方形を呈する。深さは約70cmで埋土は黄褐色の砂質土の単一層である。造成の際の廃棄坑であると考えられる。

第212～231図はSX 28から出土した遺物の実測図である。

1149は土師器，1150は陶器の皿である。瀬戸・美濃産と考えられる。

1151は瓦質の土鍋の口縁部である。

1152は瓦質の土鍋である。

1153～1169は三巴文軒丸瓦である。

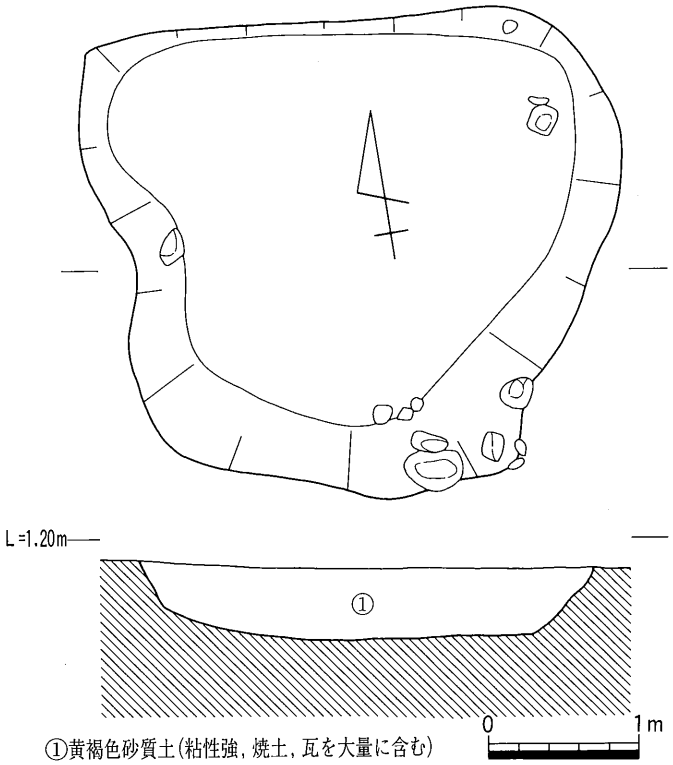
1170は小菊瓦である。

1171～1186は軒平瓦である。

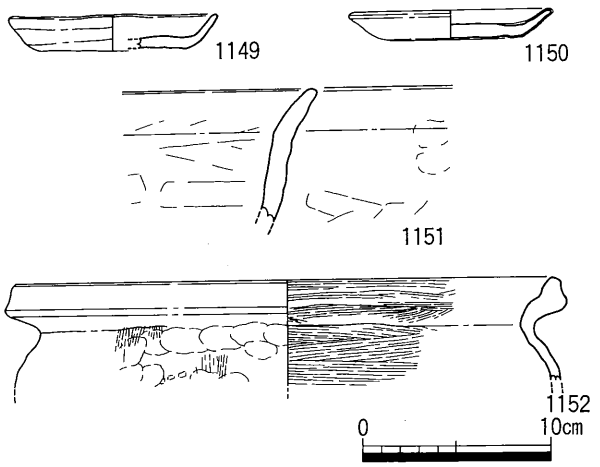
1187～1230は丸瓦である。

1231～1247は平瓦である。

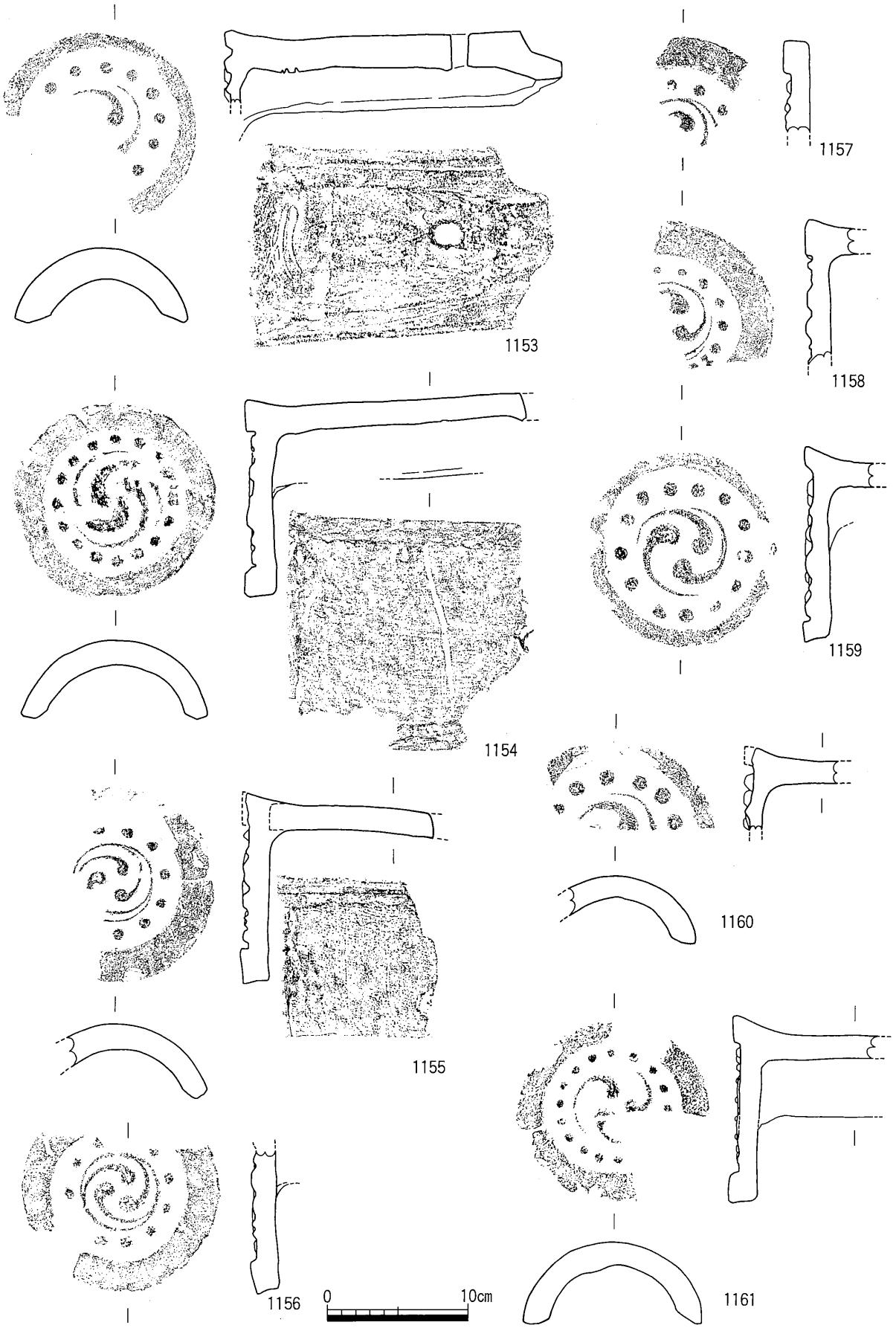
1248～1252は鬼瓦である。1248は上部の破片，1249は左上部の屈曲部の破片，1250～1252は裾部の破片である。



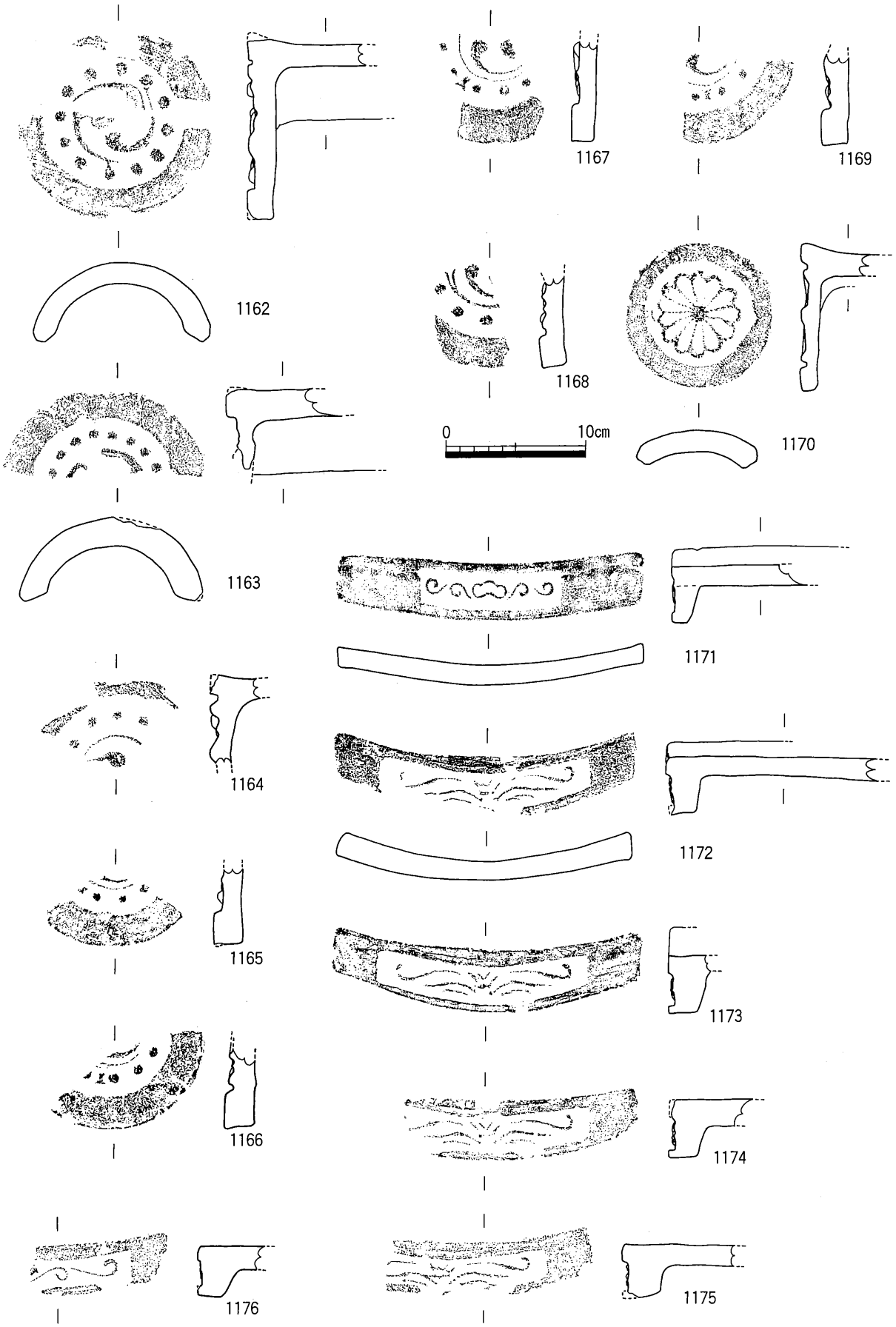
第211図　SX28平・断面図



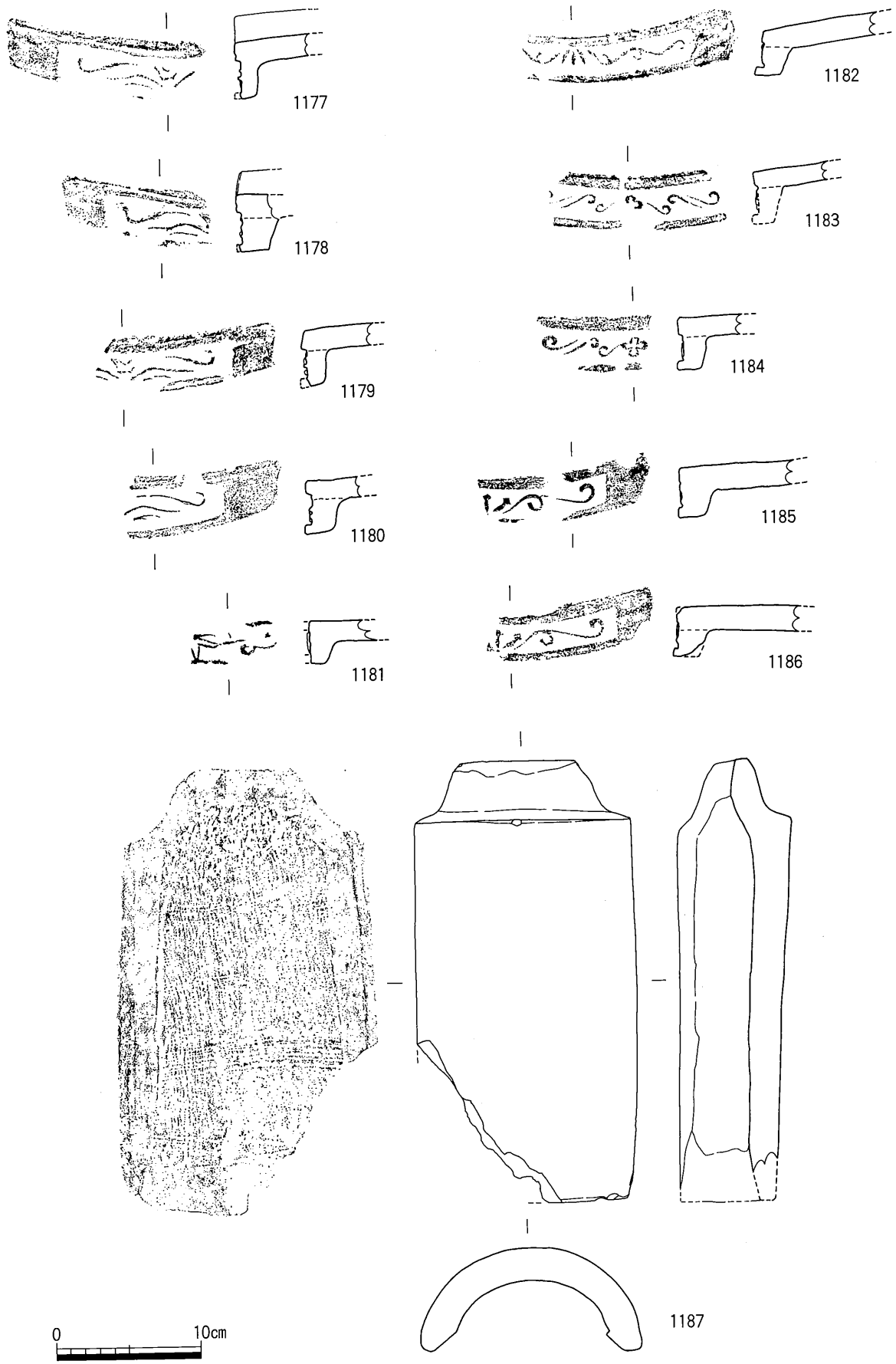
第212図　SX28出土遺物実測図(1)



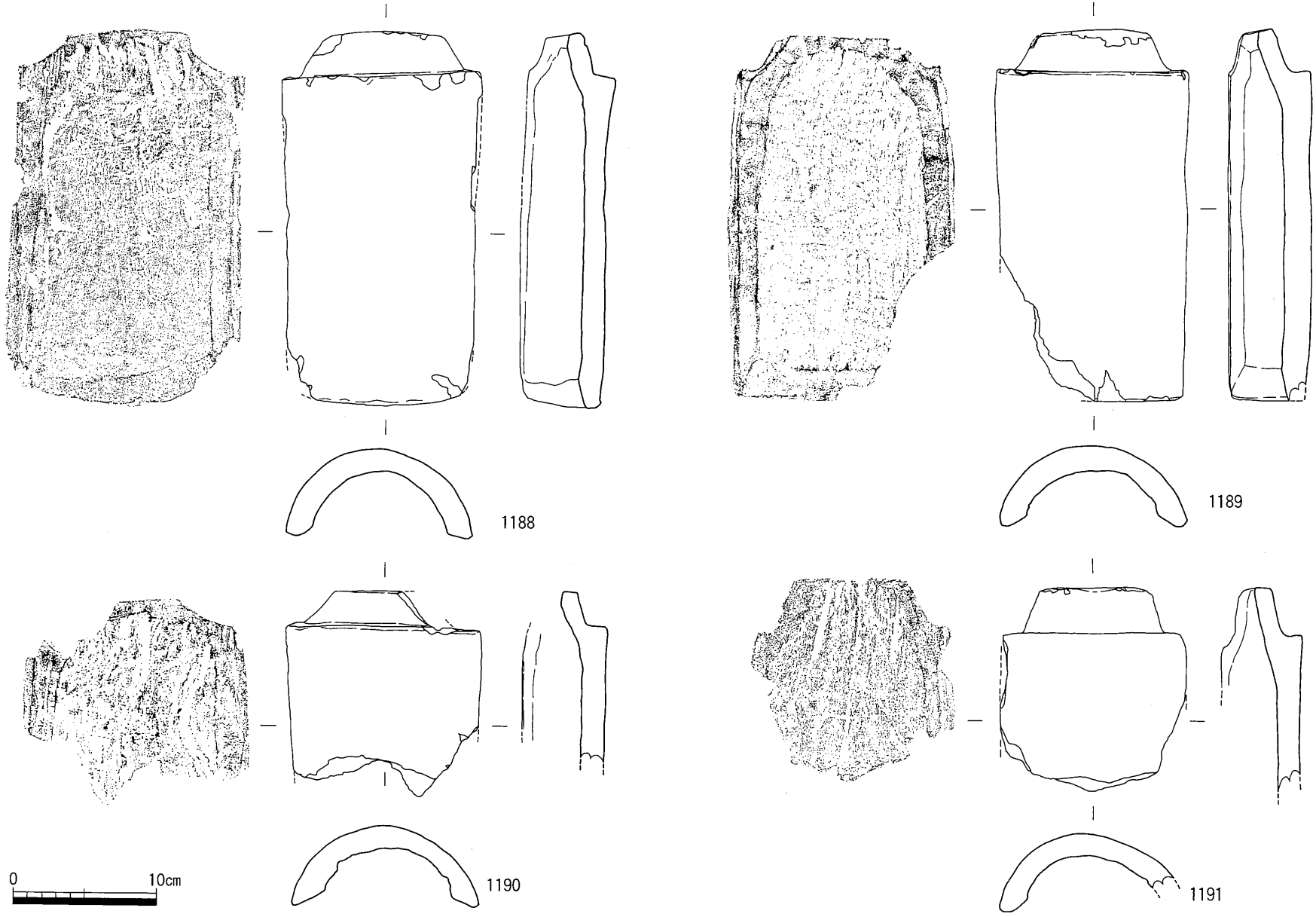
第213図　SX28出土遺物実測図(2)



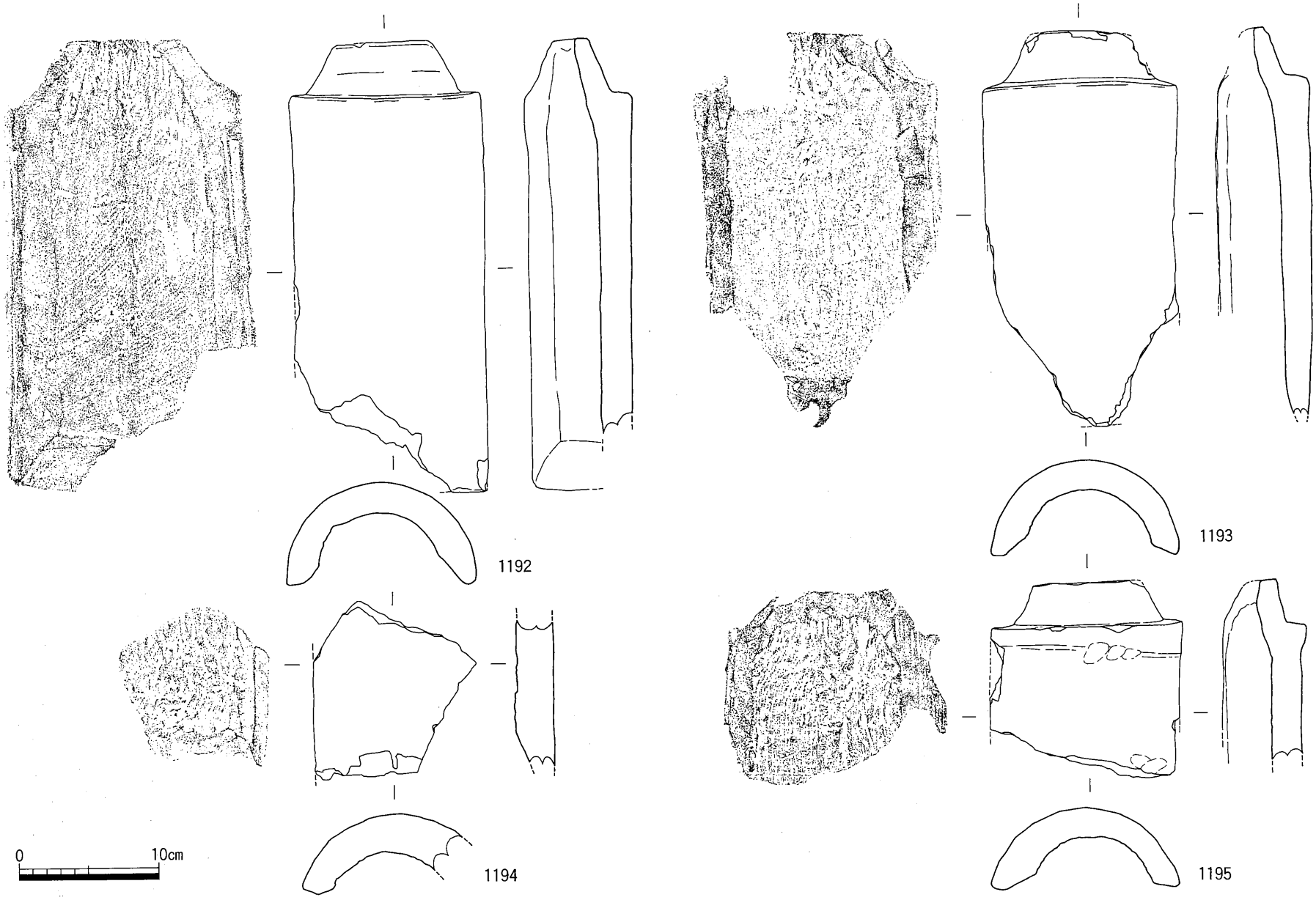
第214図　SX28出土遺物実測図(3)



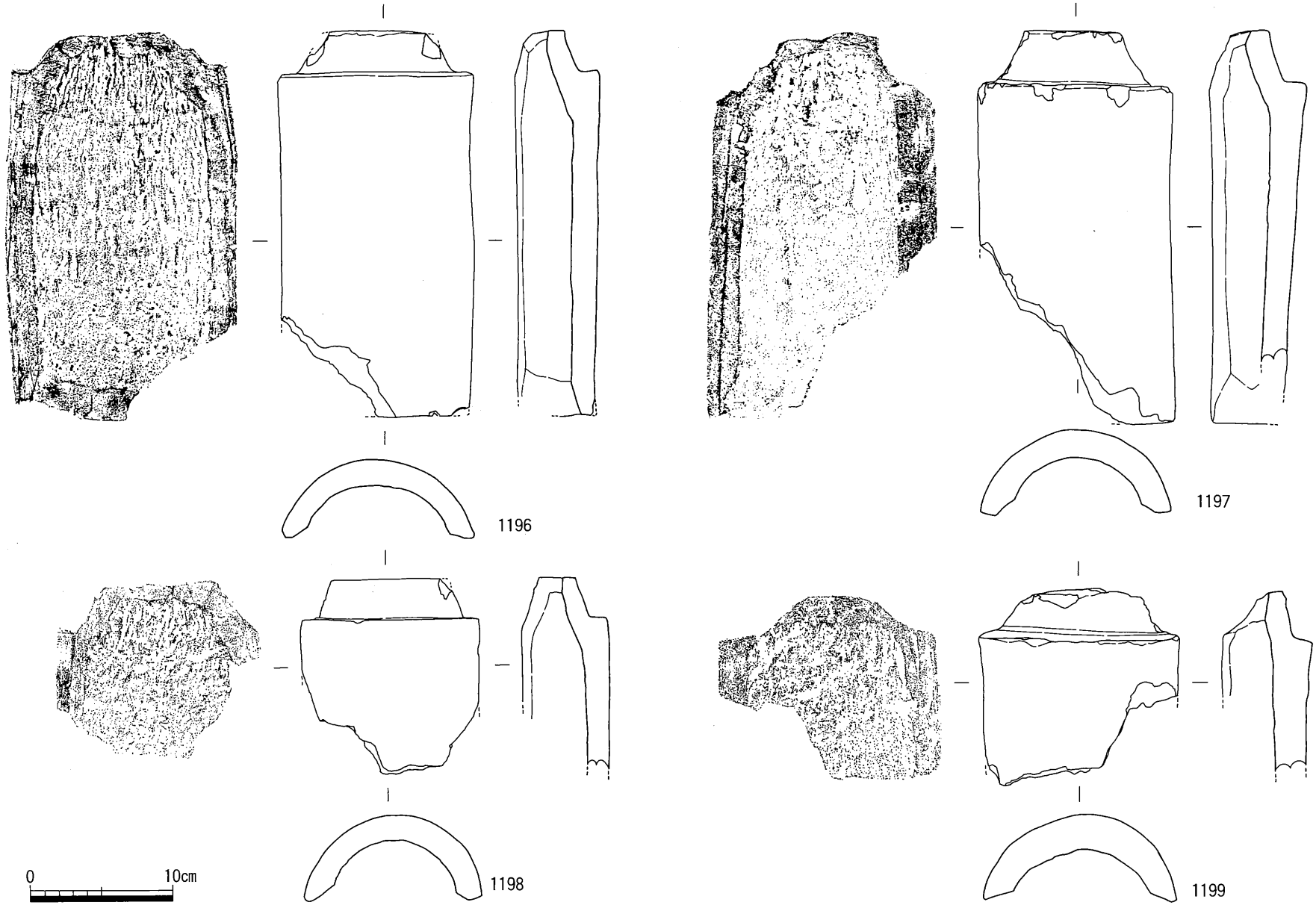
第215図　SX28出土遺物実測図(4)



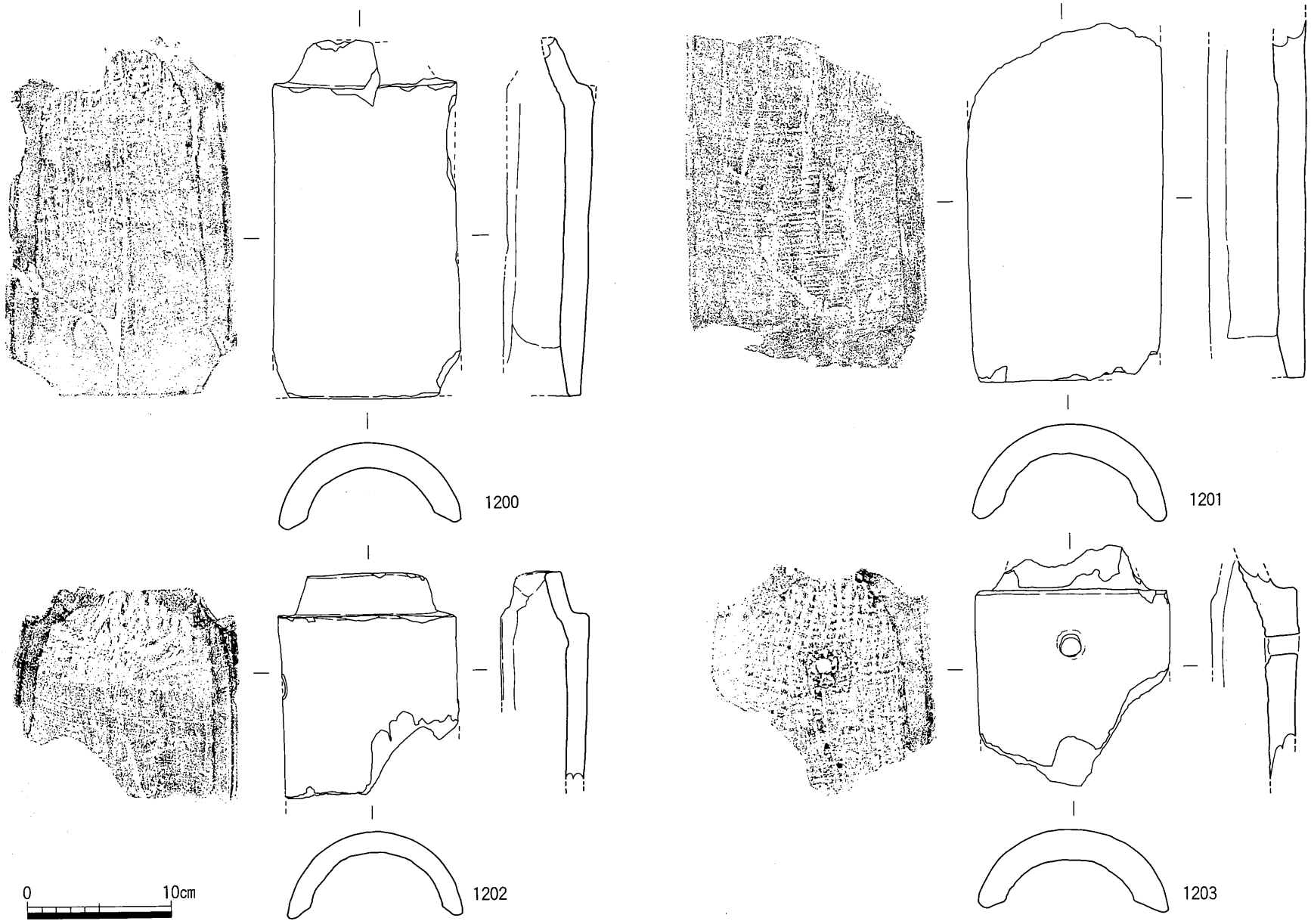
第216図　SX28出土遺物実測図(5)



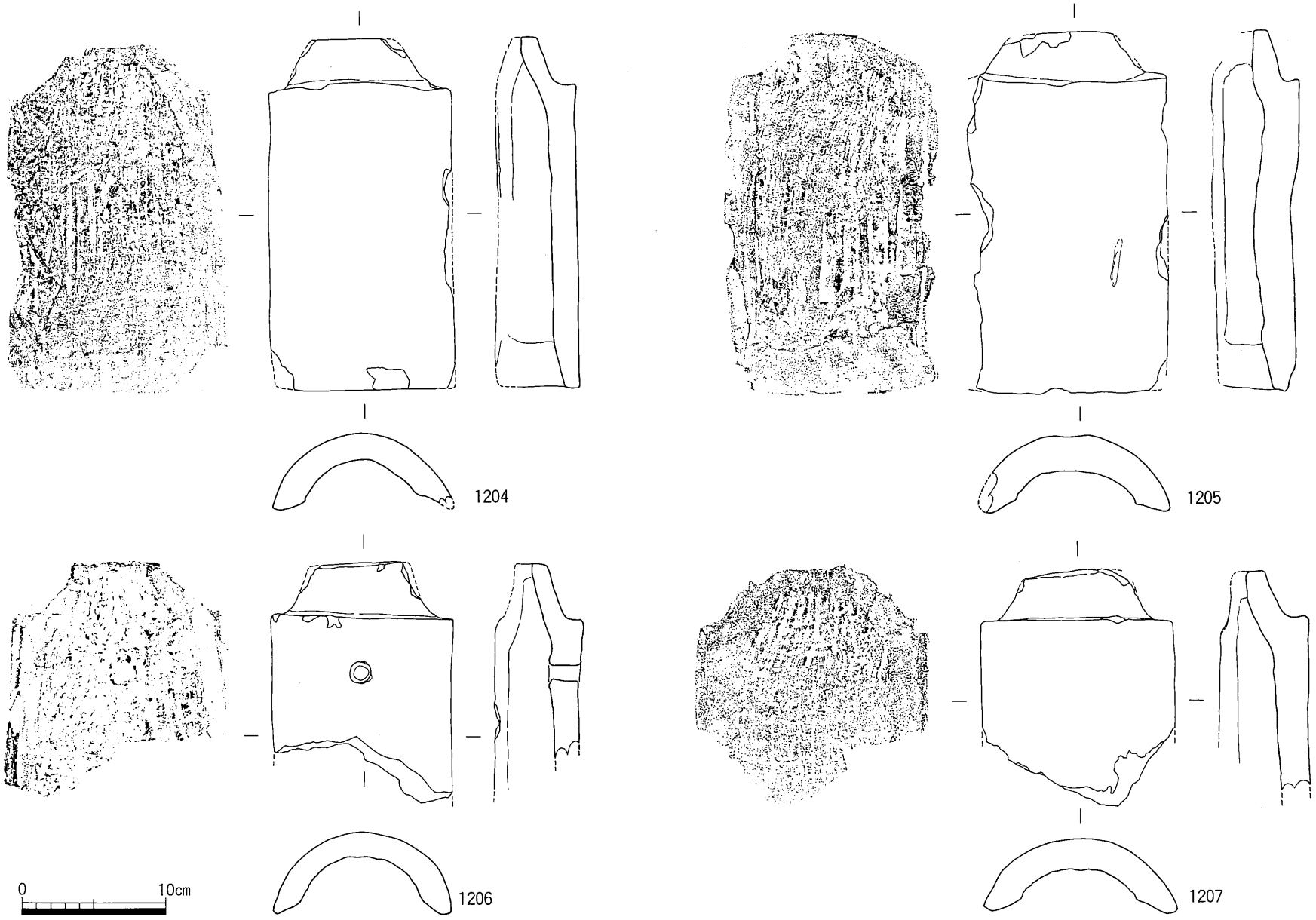
第217図　SX28出土遺物実測図(6)



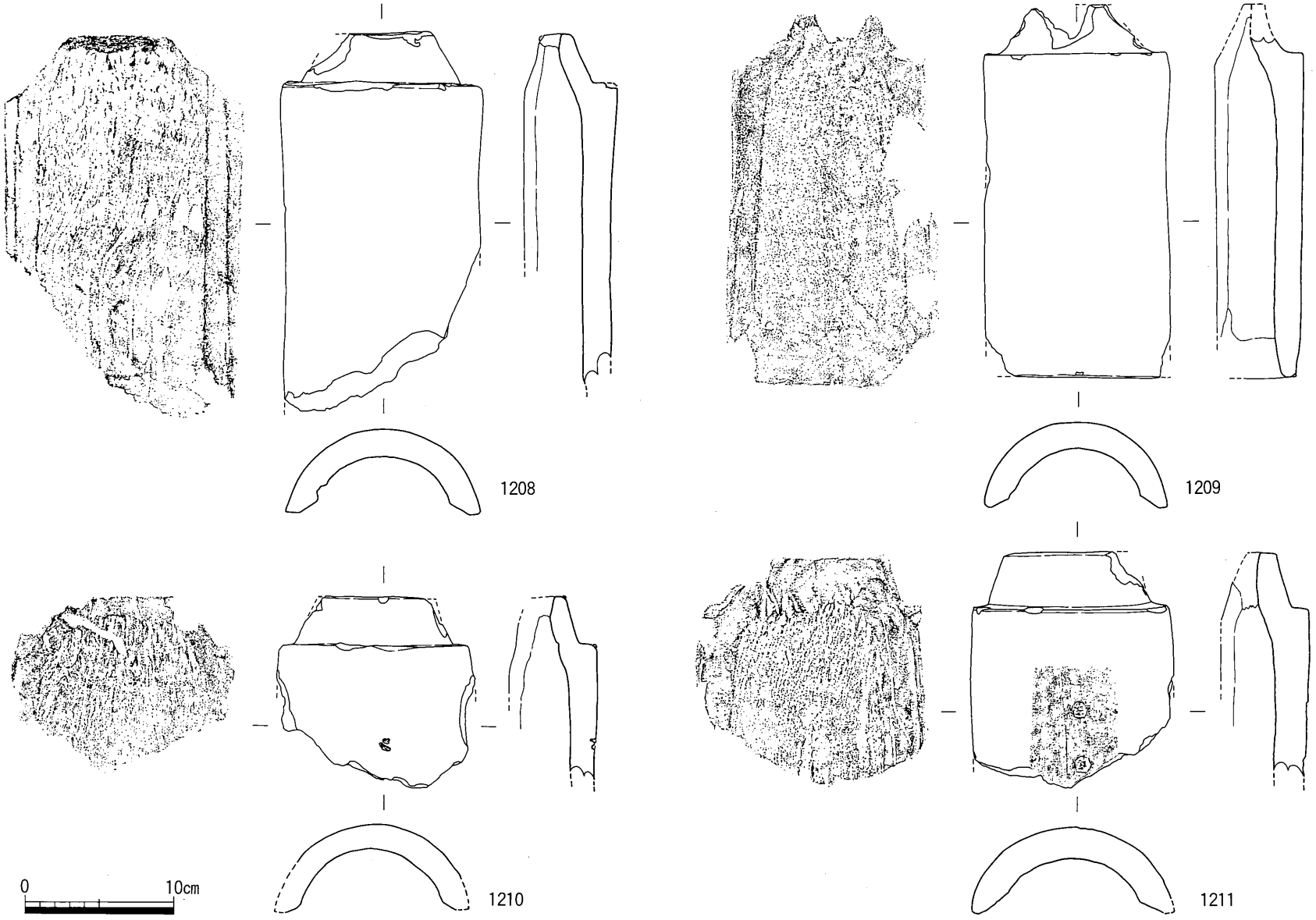
第218図　SX28出土遺物実測図(7)



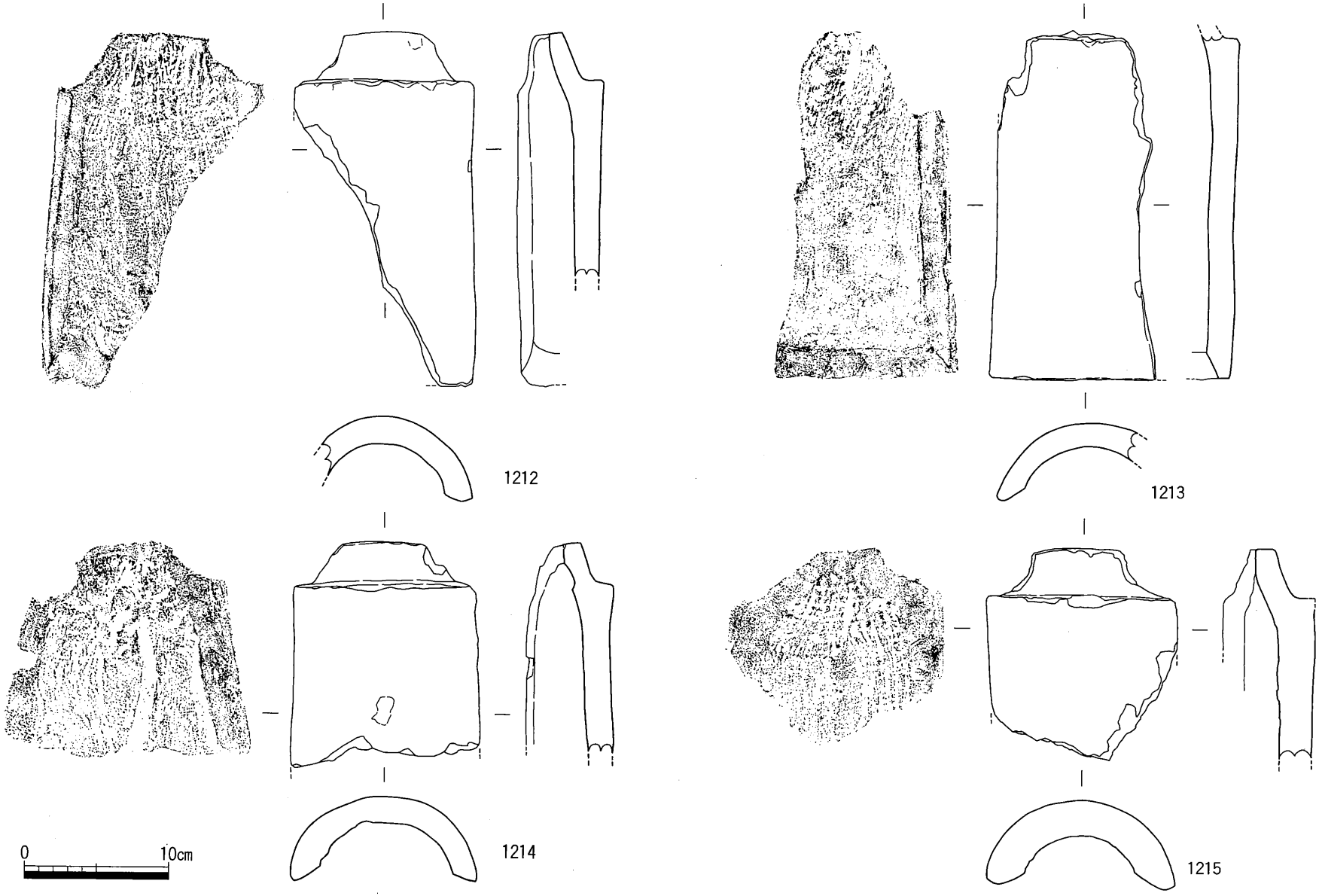
第219図　SX28出土遺物実測図(8)



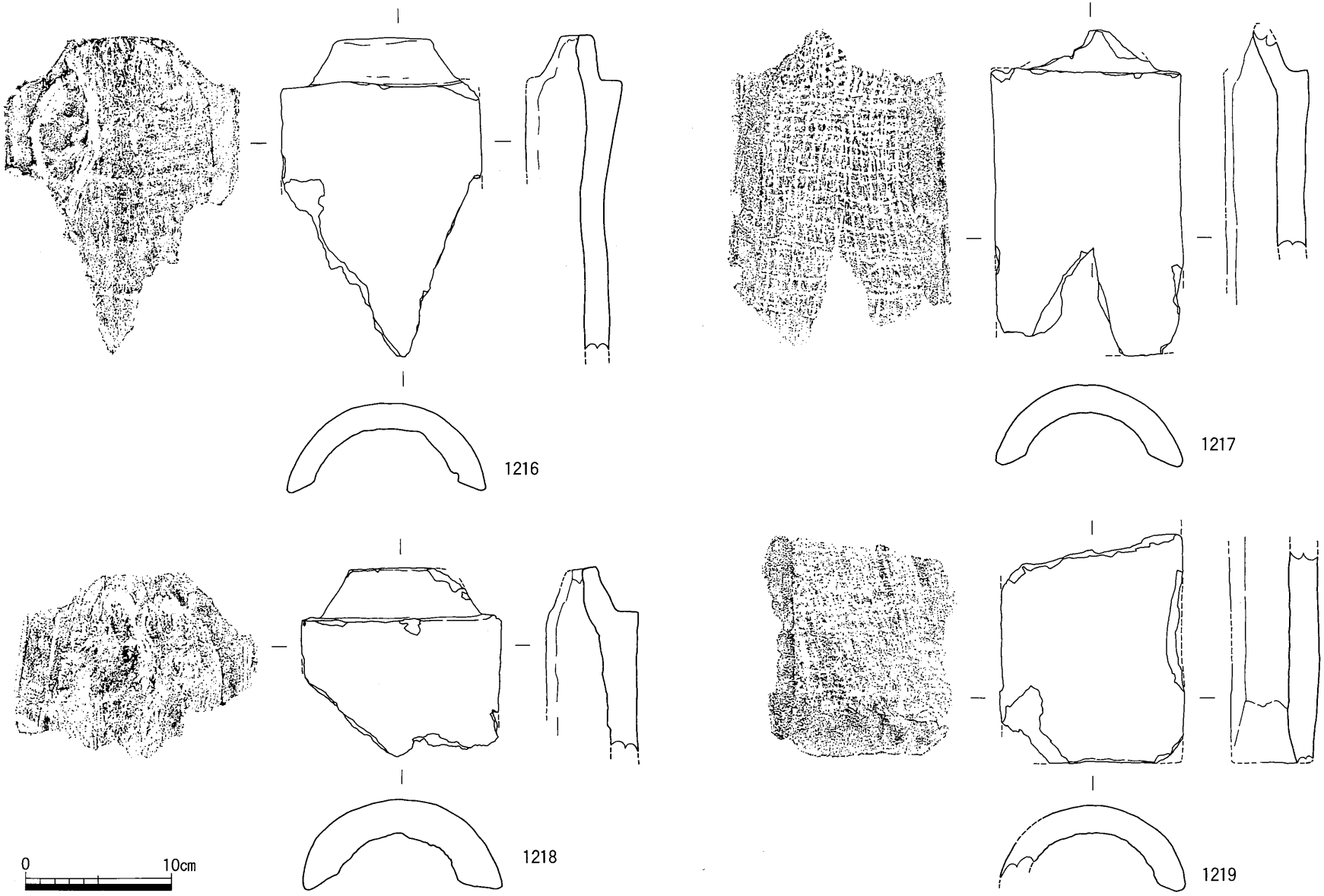
第220図　SX28出土遺物実測図(9)



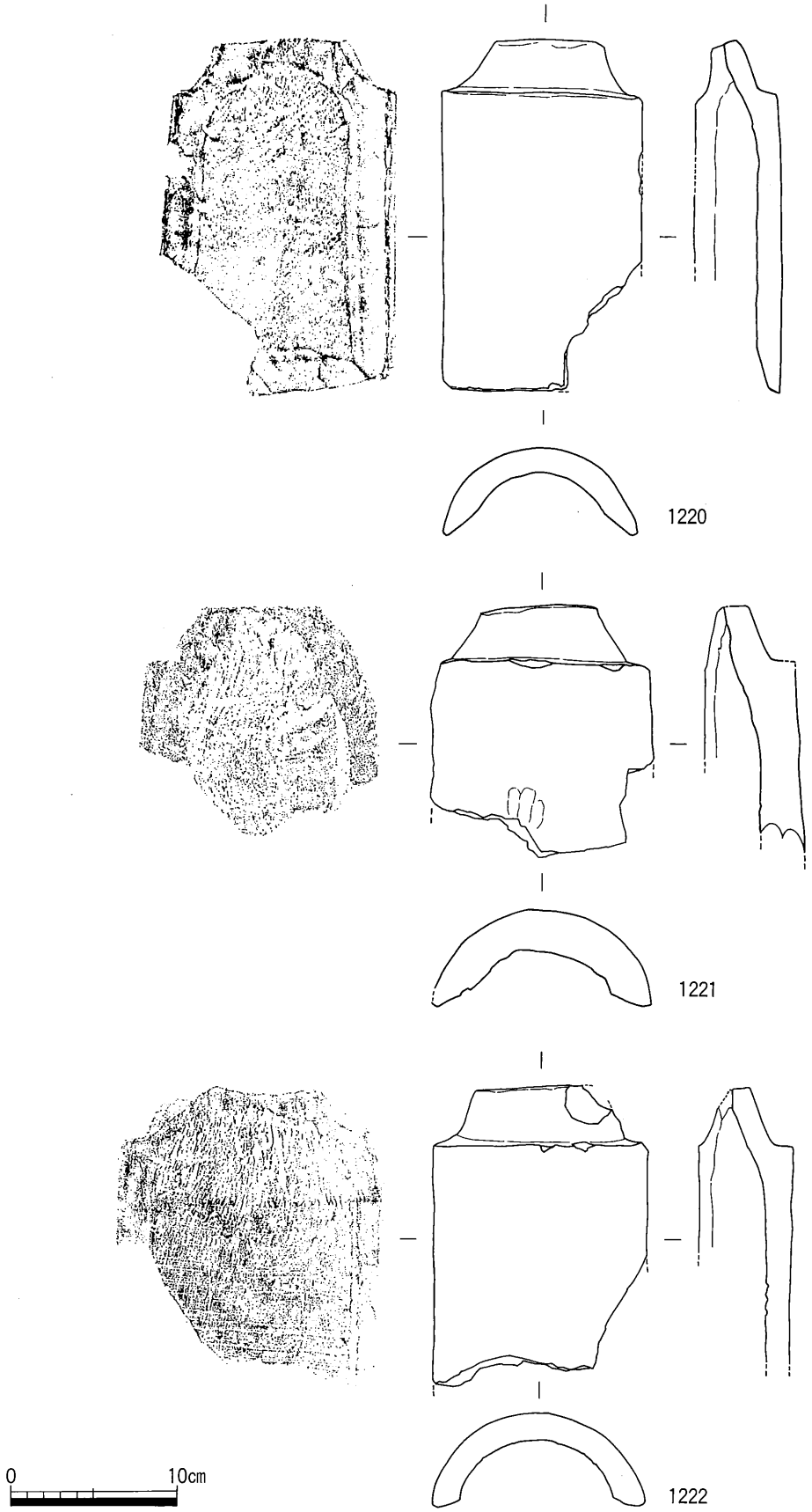
第221図　SX28出土遺物実測図(10)



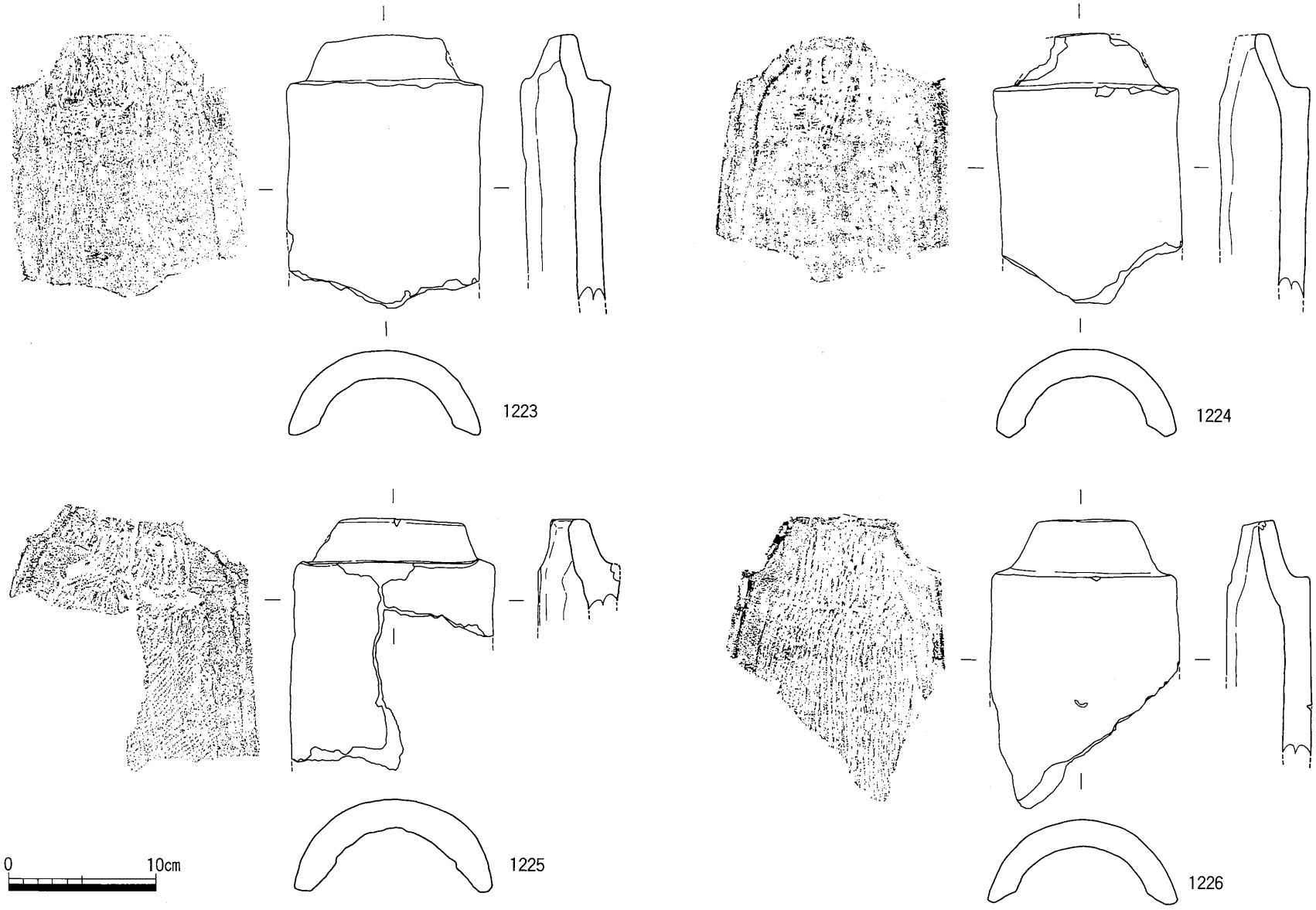
第222図　SX28出土遺物実測図(II)



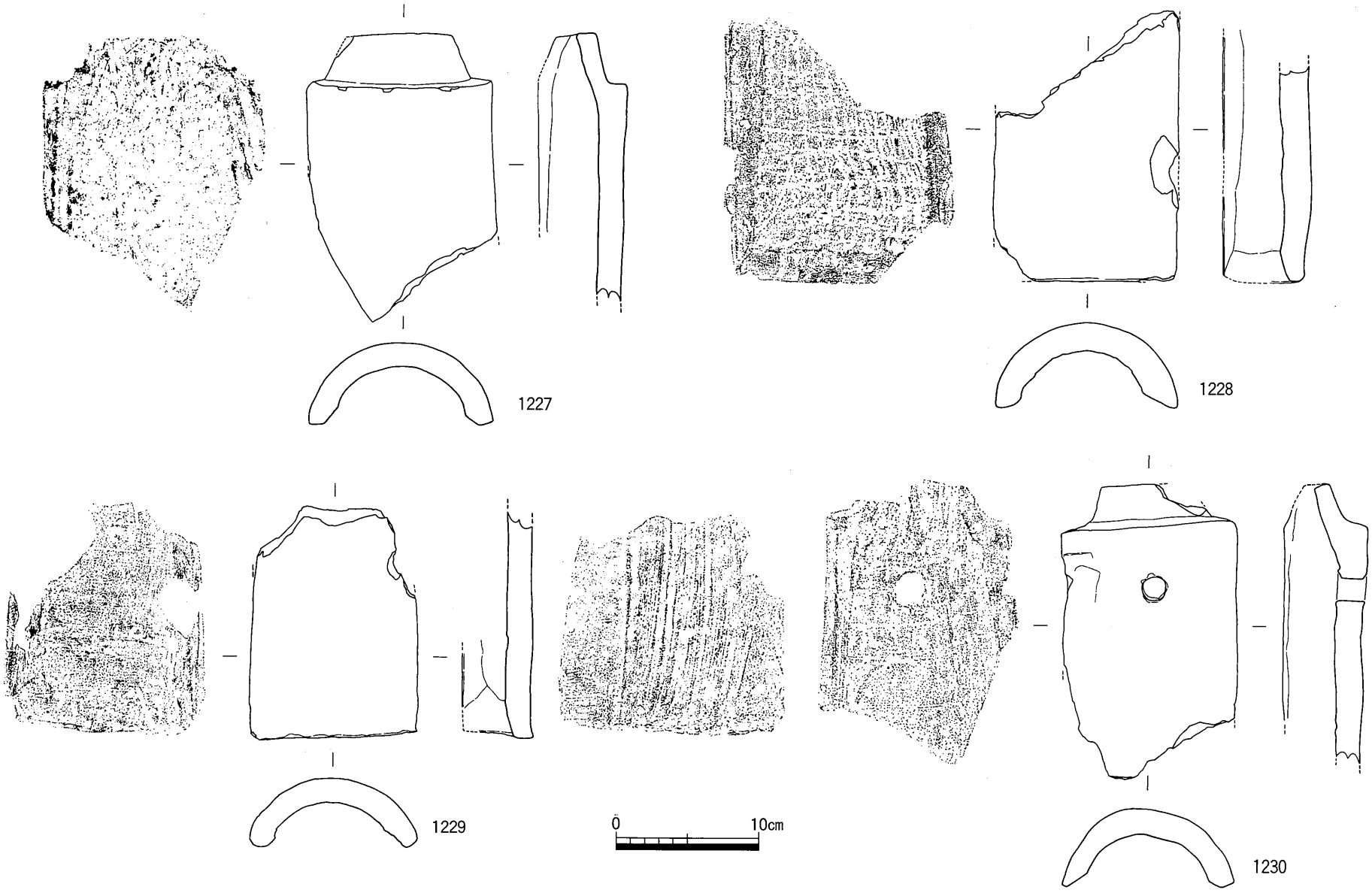
第223図　SX28出土遺物実測図(12)



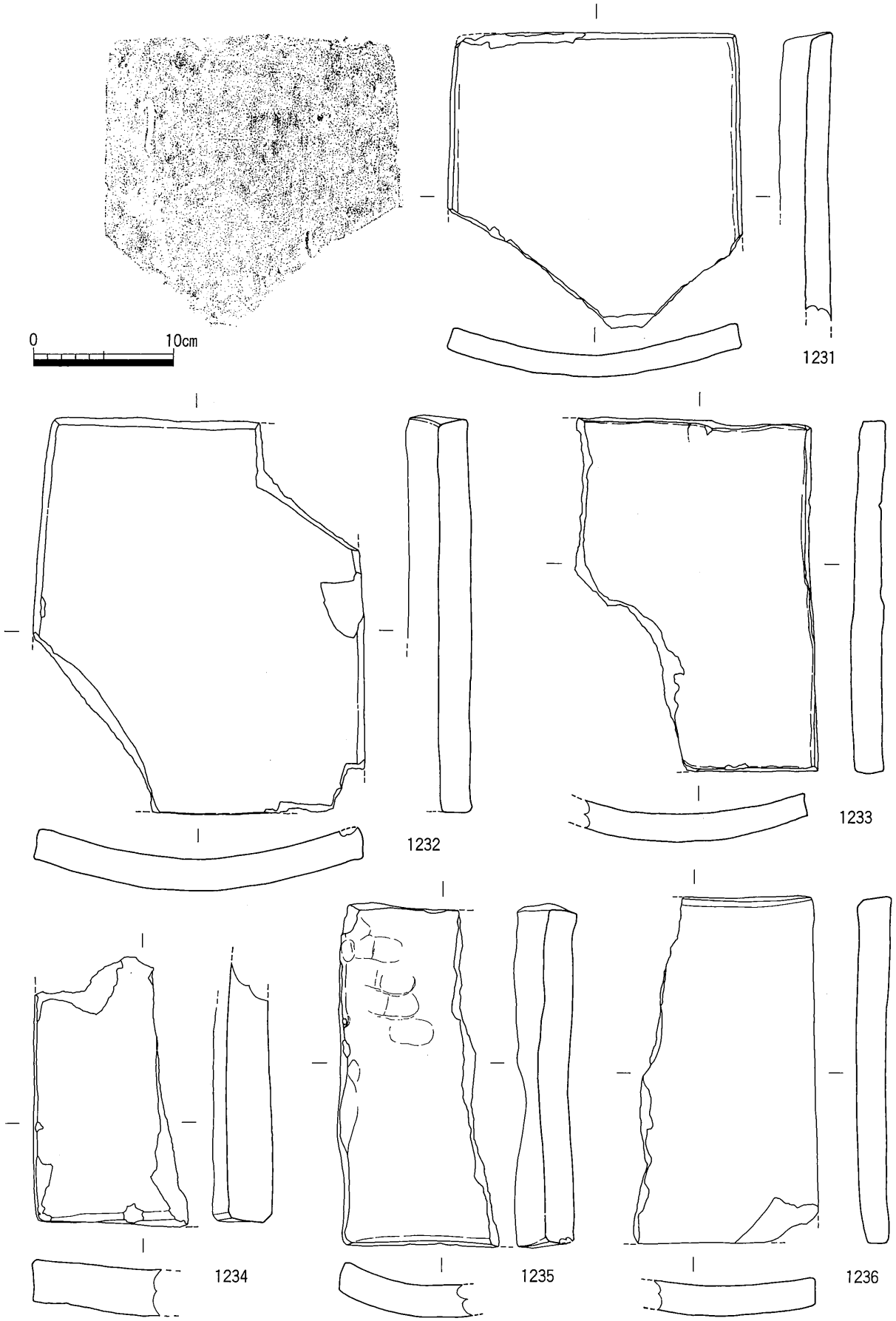
第224図　SX28出土遺物実測図(13)



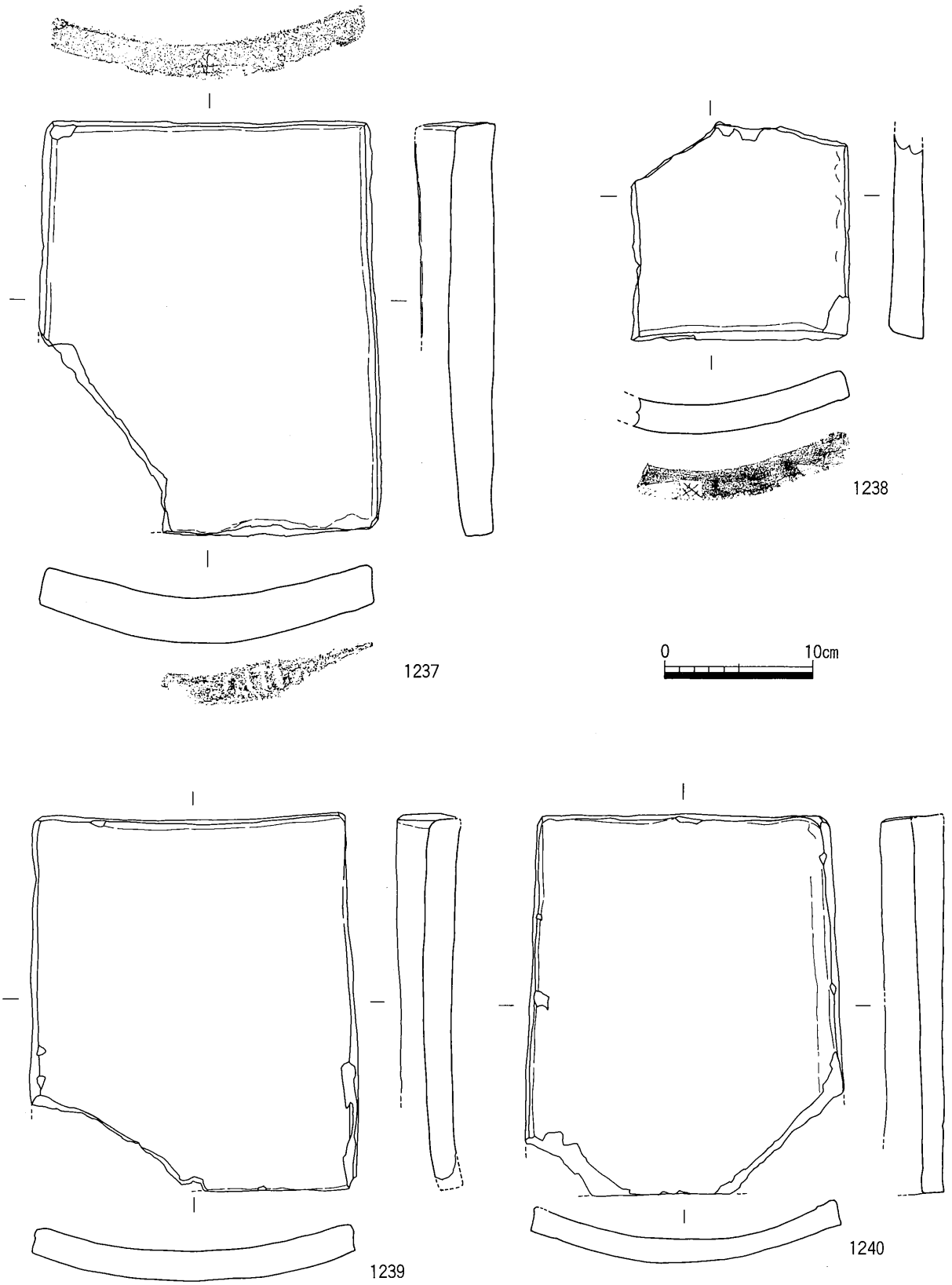
第225図　SX28出土遺物実測図(14)



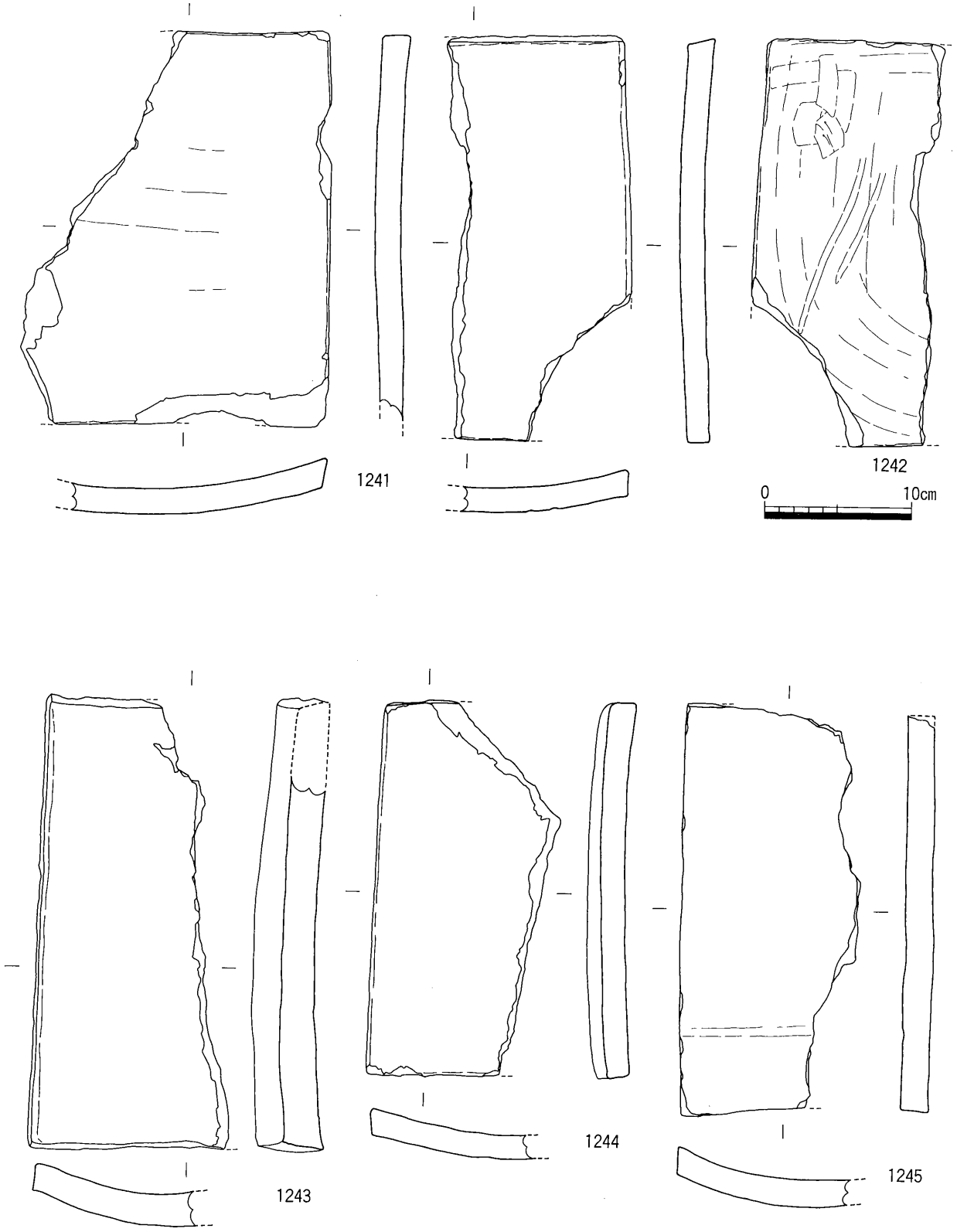
第226図　SX28出土遺物実測図(15)



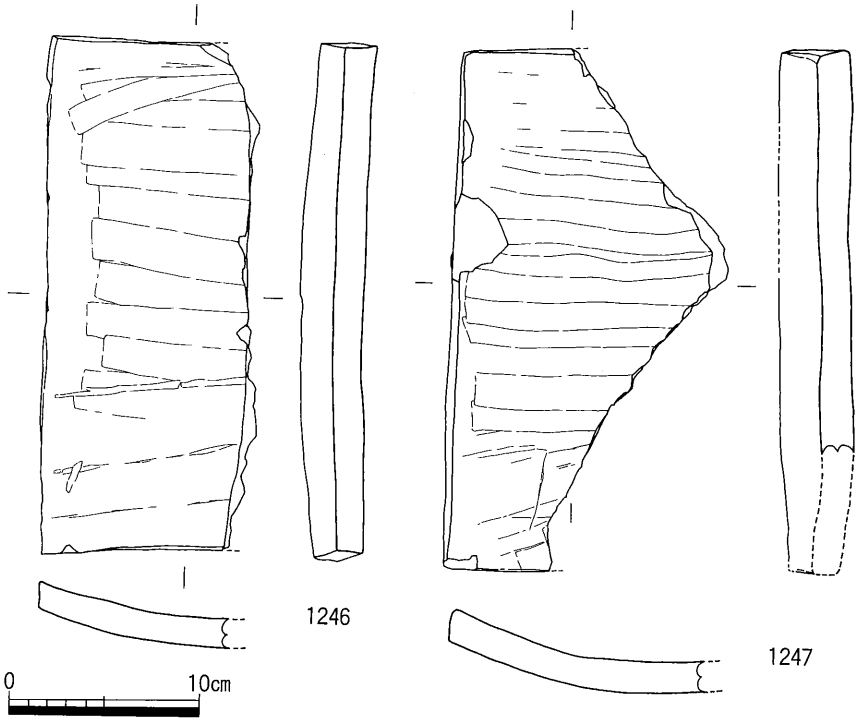
第227図　SX28出土遺物実測図(16)



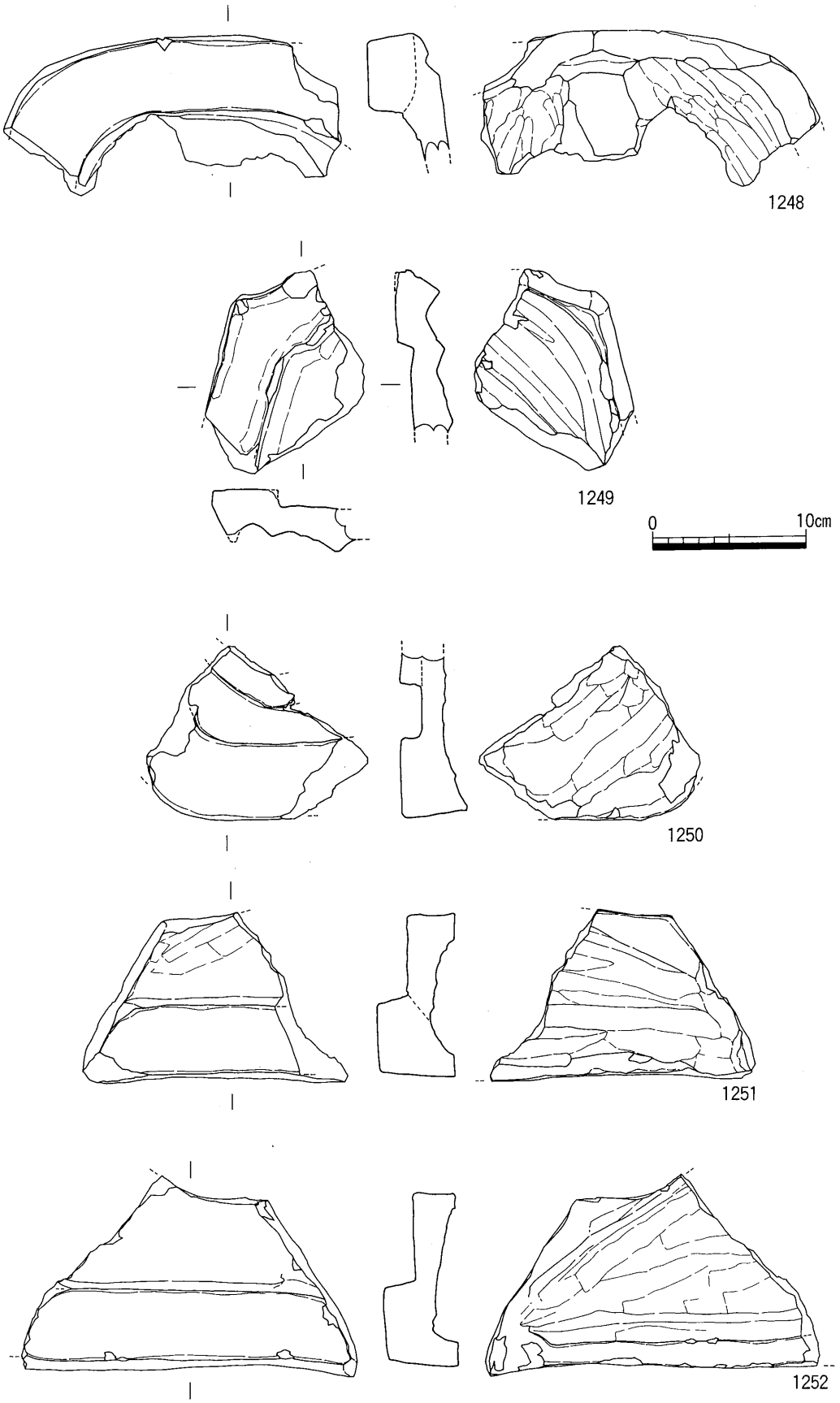
第228図　SX28出土遺物実測図(17)



第229図　SX28出土遺物実測図(18)



第230図　SX28出土遺物実測図(19)



第231図　SX28出土遺物実測図(20)

SX 29（第232図，図版51(2)・52(1)(2)）

SX 28のすぐ東側で検出した大型の土坑状の遺構である。長径約6.5m，短径約５mのいびつな楕円形を呈する。深さは約50cmで埋土は暗黄褐色の砂質土の単一層である。埋土中には大量の瓦類と陶磁器類のほか大小様々な礫が散在していた。

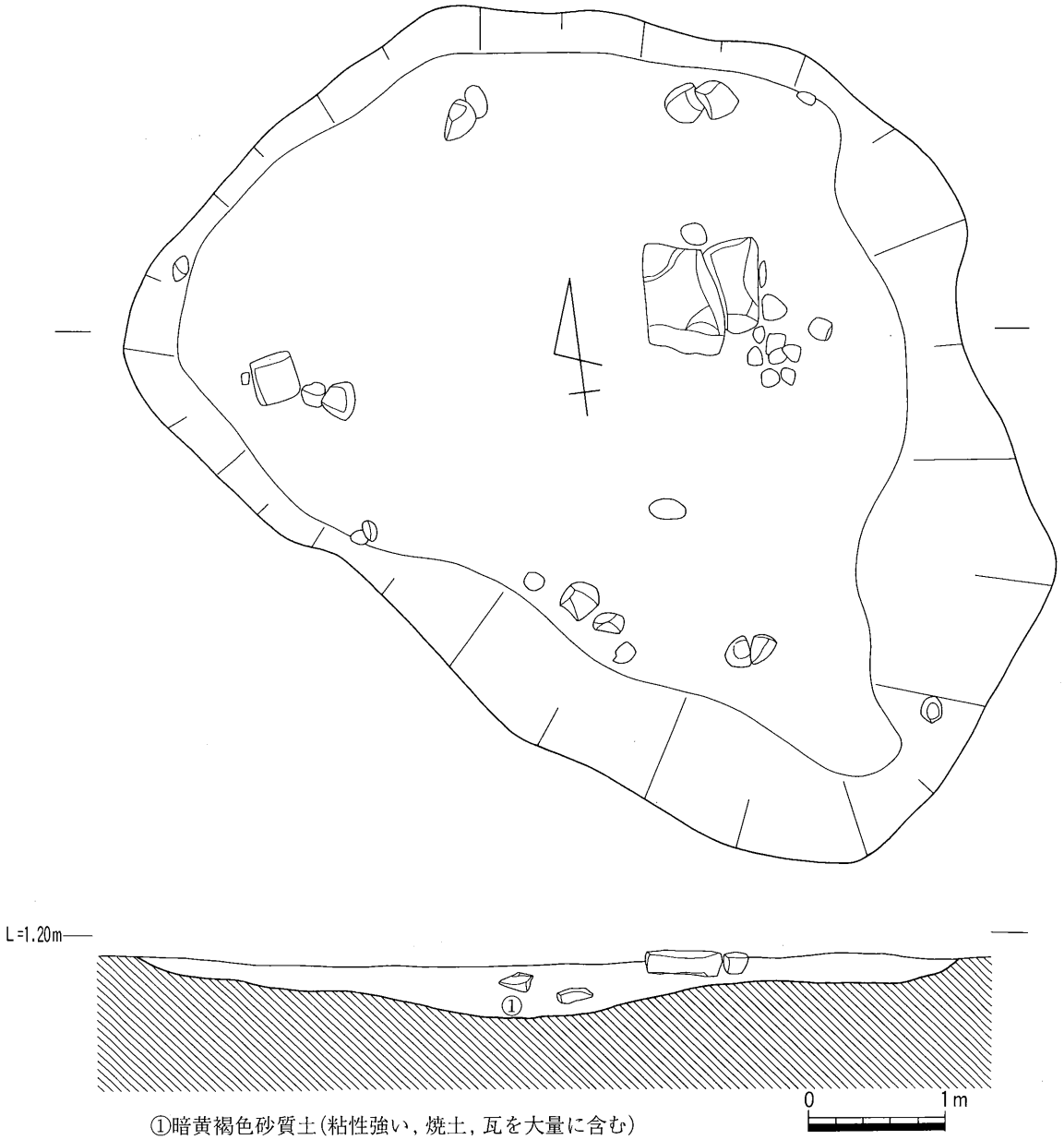
第233～258図はSX 29から出土した遺物の実測図である。

1253は土師質の土鍋である。1254は土師器の小皿である。1255は土師器の杯である。

1256は土師質の土釜の口縁部である。1257は瓦質の土鍋である。口縁端部を外側に折り曲げ，肥厚させている。1258は土師質の土鍋である。1260は陶器の鉢の底部である。底部外面に「三」のヘラ記号が認められる。備前産と考えられる。

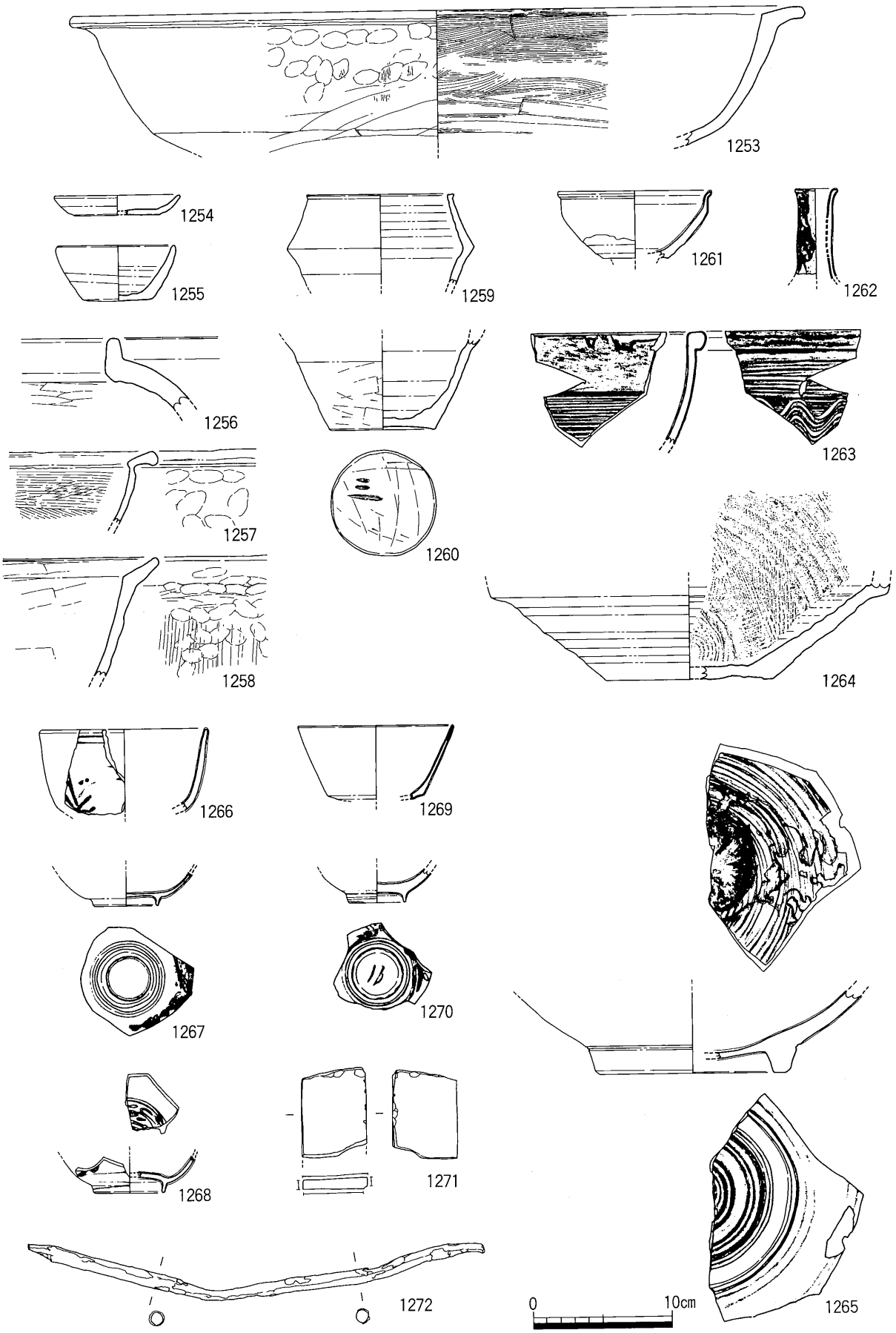
1261は瀬戸・美濃産の天目茶碗である。1262は施釉陶器の徳利状の壺の頸部である。

1263は唐津産の鉢である。

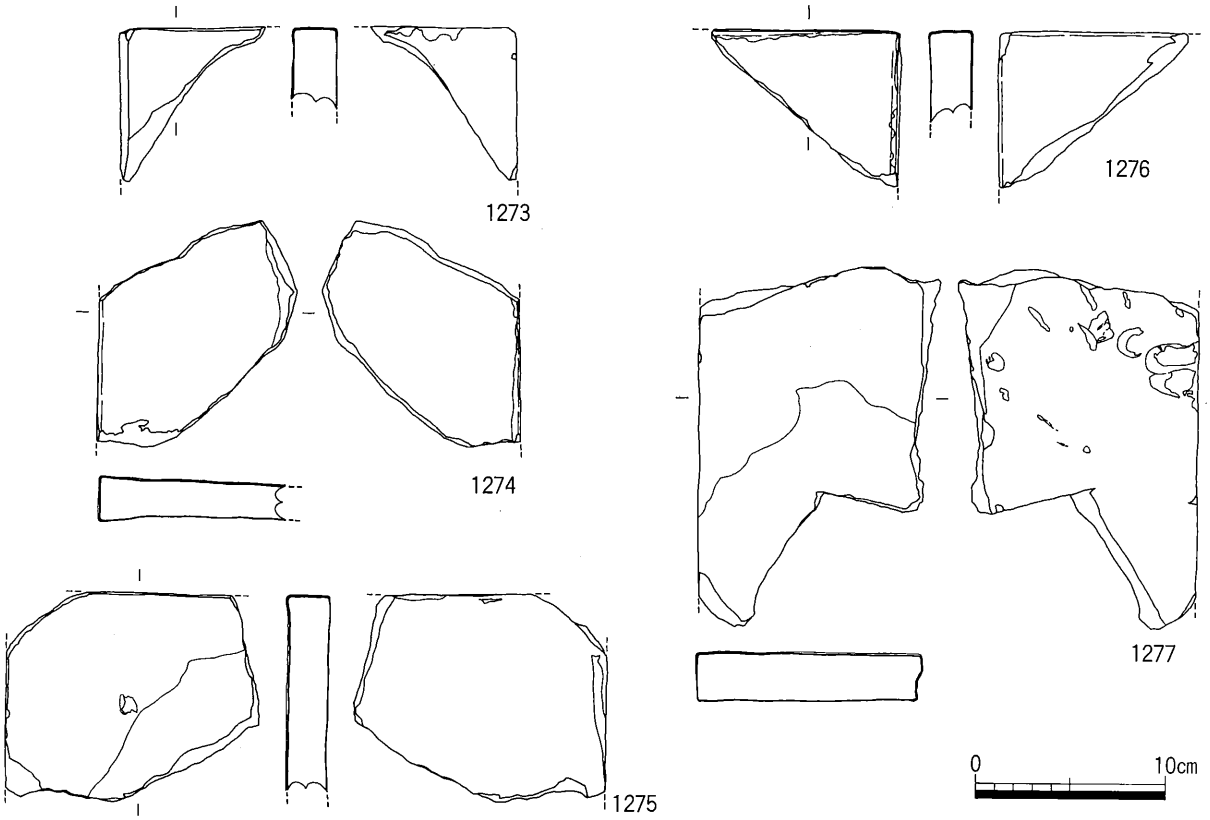


①暗黄褐色砂質土(粘性強い，焼土，瓦を大量に含む)

第232図　SX29平・断面図



第233図　SX29出土遺物実測図(1)



第234図　SX29出土遺物実測図(2)

1264は備前産の擂鉢である。内面には卸し目が認められる。

1271は砥石である。各面とも使用痕が顕著に認められる。

1272は金属器である。鉄製で棒状を呈する。

1273～1277は陶板である。片面には施釉されている。1273や1274には側面にも釉薬がかけられている。胎土や釉薬などから瀬戸・美濃産のものであると考えられる。

1278～1331は三巴文軒丸瓦である。

1332は小菊瓦である。菊花文ではなく，三巴文である。

1333～1372は軒平瓦である。竹の葉をイメージした中心飾り（1333，1334など）や大型の三葉（1345，1346など），十字形の中心飾り（1358，1359など），七弁花文の中心飾り（1371）や巴文の中心飾り（1370）などが認められる。

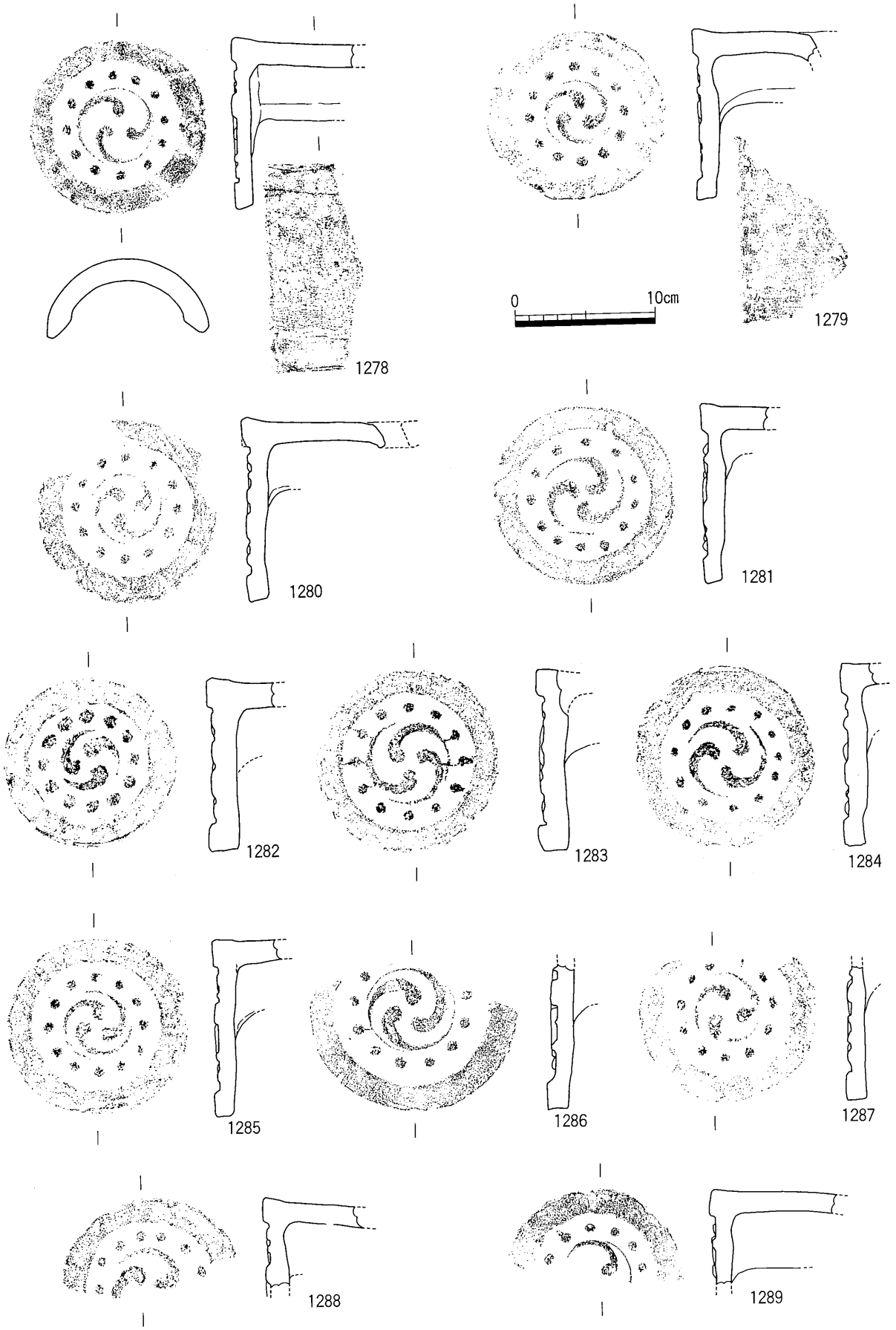
1373は滴水瓦である。

1374～1433は丸瓦である。1414には凸面に刻印が認められる。1428は施釉丸瓦である。釉薬の特徴から瀬戸・美濃産の丸瓦であると思われる。

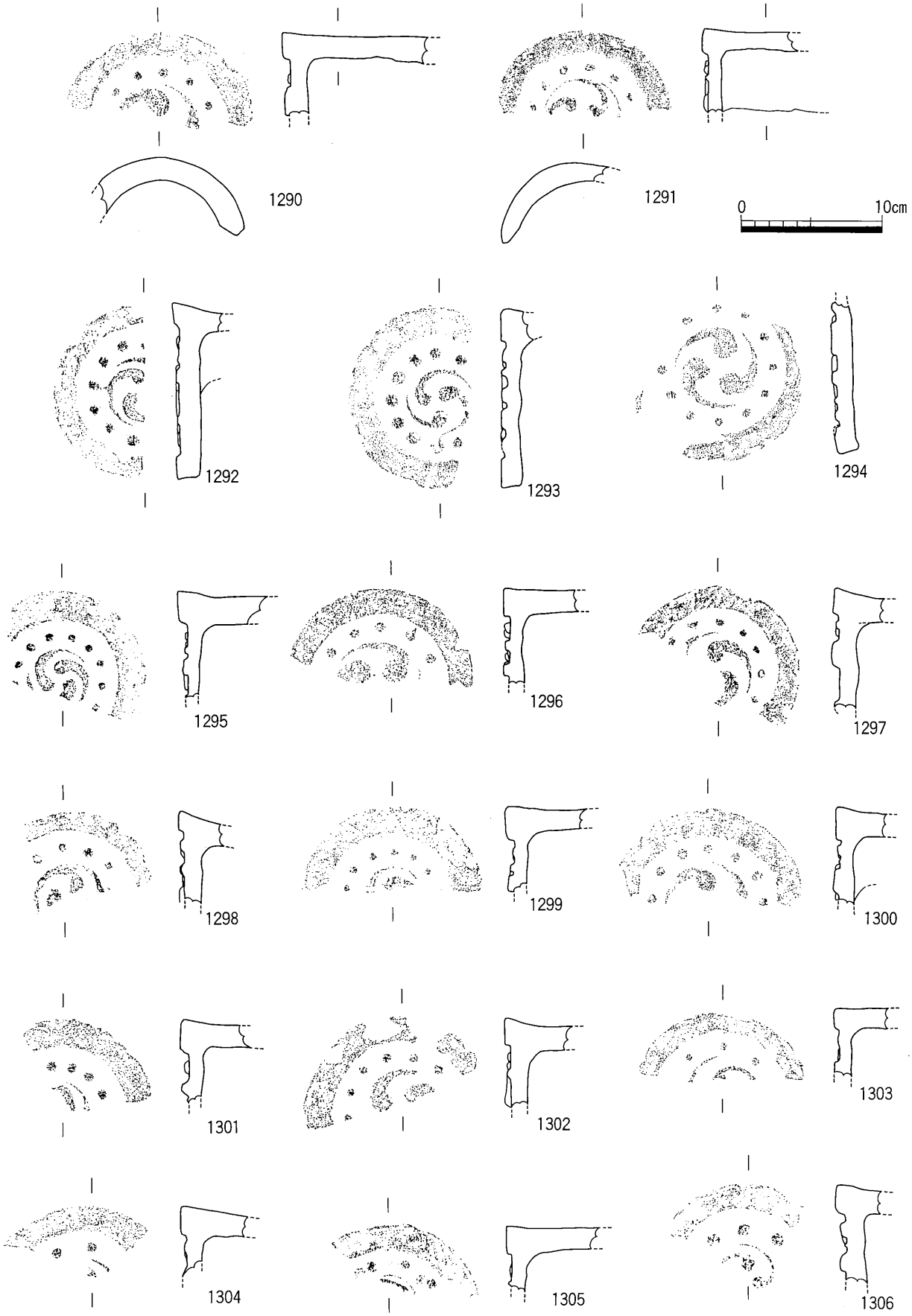
1434～1454は平瓦である。1435には凸面に，中心飾りが三巴文の軒平瓦の文様が刻まれている。1454には釘穴が１つあいている。

1456は掛瓦である。

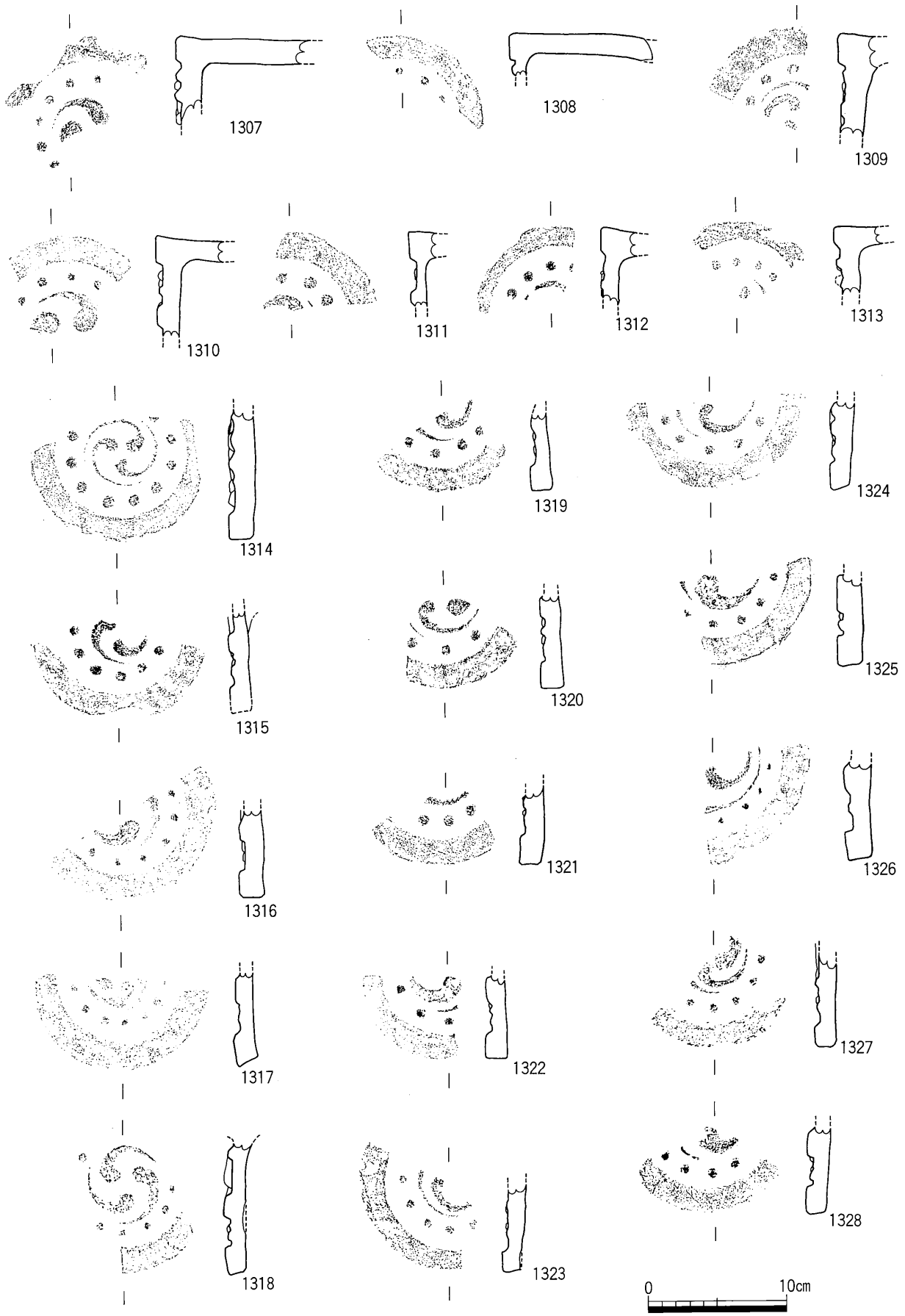
1457・1458は鬼瓦である。1457は裾の部分である。1458は跨ぎ鬼である。右上部は欠損しているが，全体像は推測できる。中心部分は円形になっており，文様は欠損しているが，恐らく家紋である三葉葵が施されていたものと思われる。



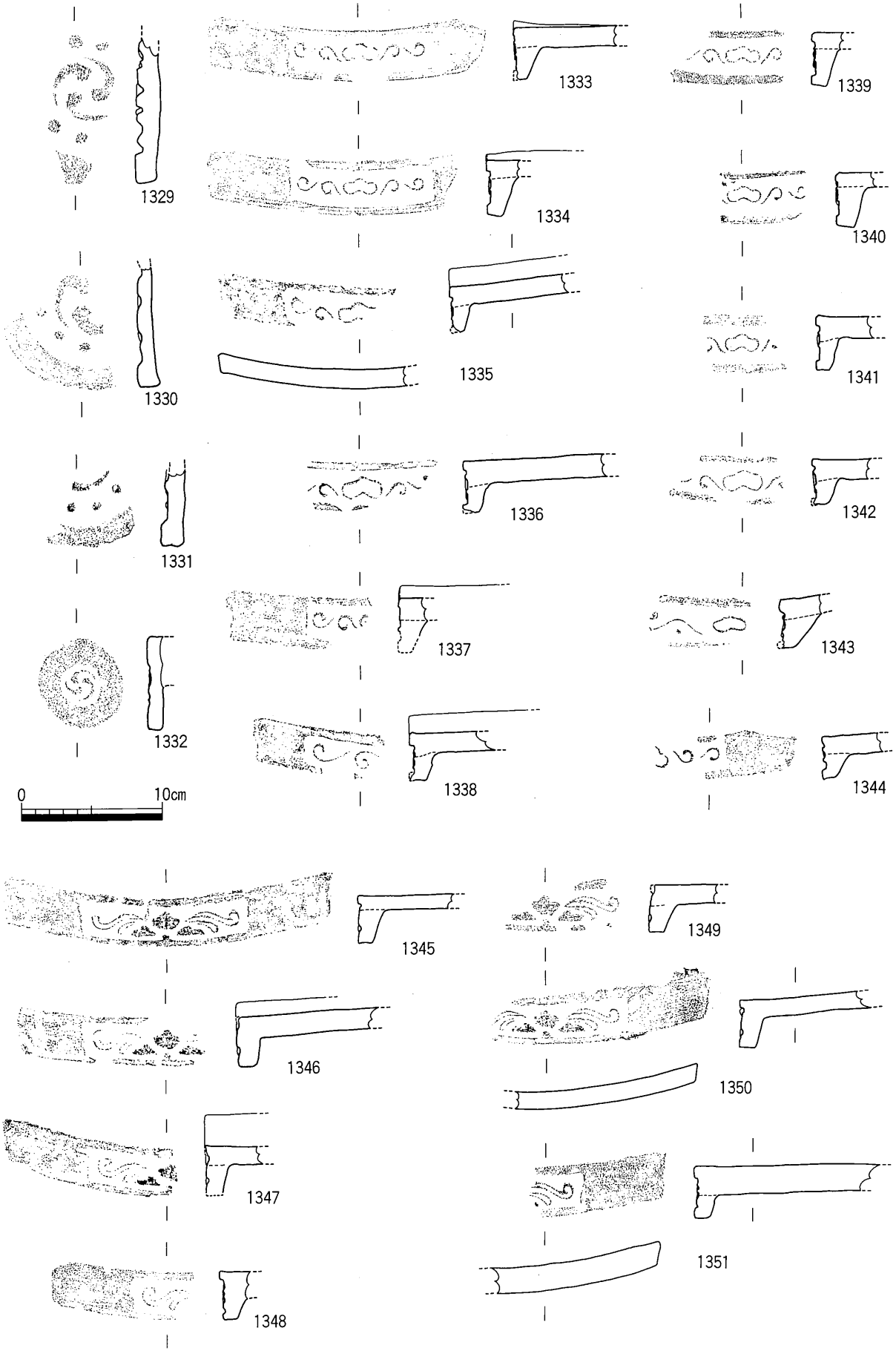
第235図　SX29出土遺物実測図(3)



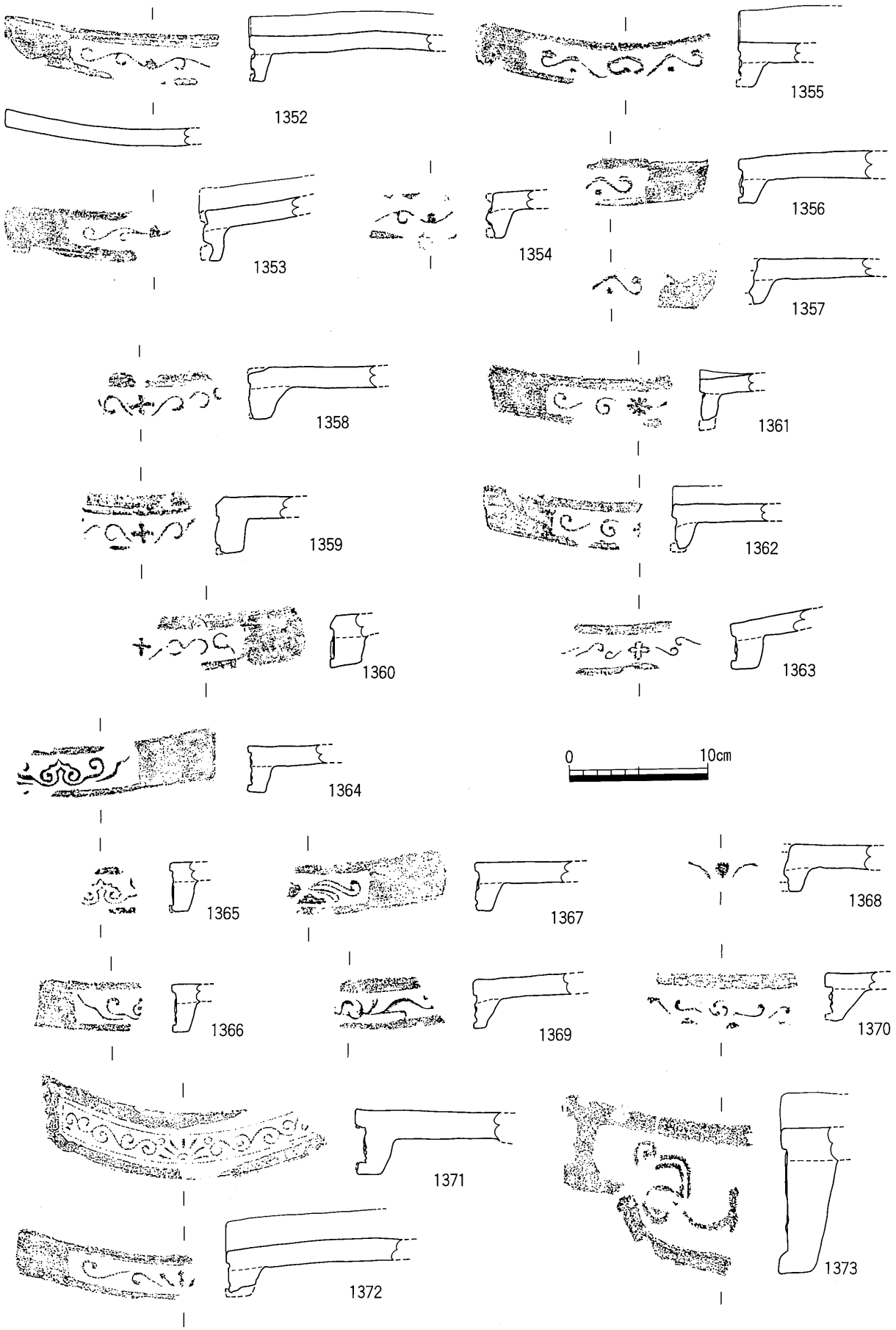
第236図　SX29出土遺物実測図(4)



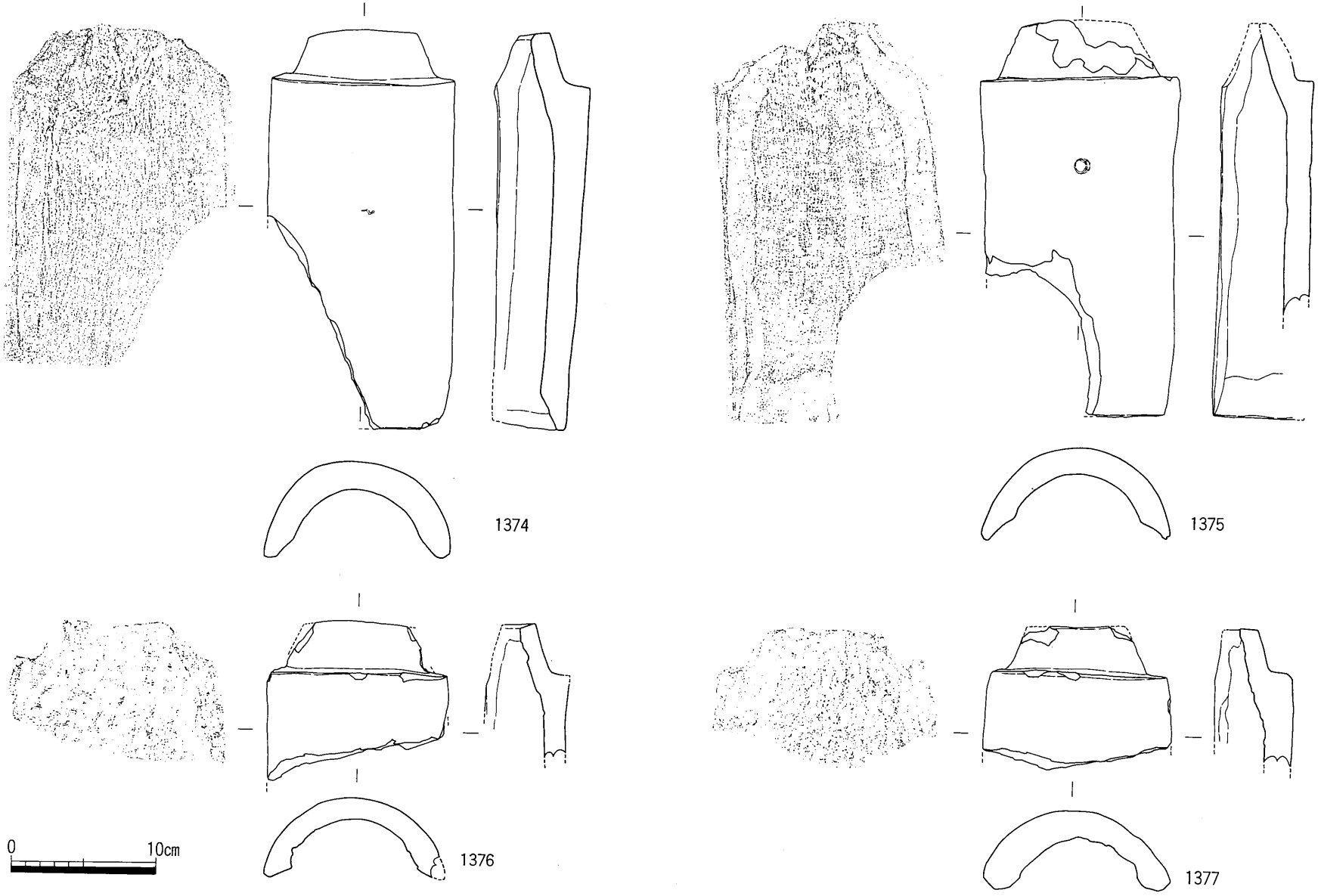
第237図　SX29出土遺物実測図(5)



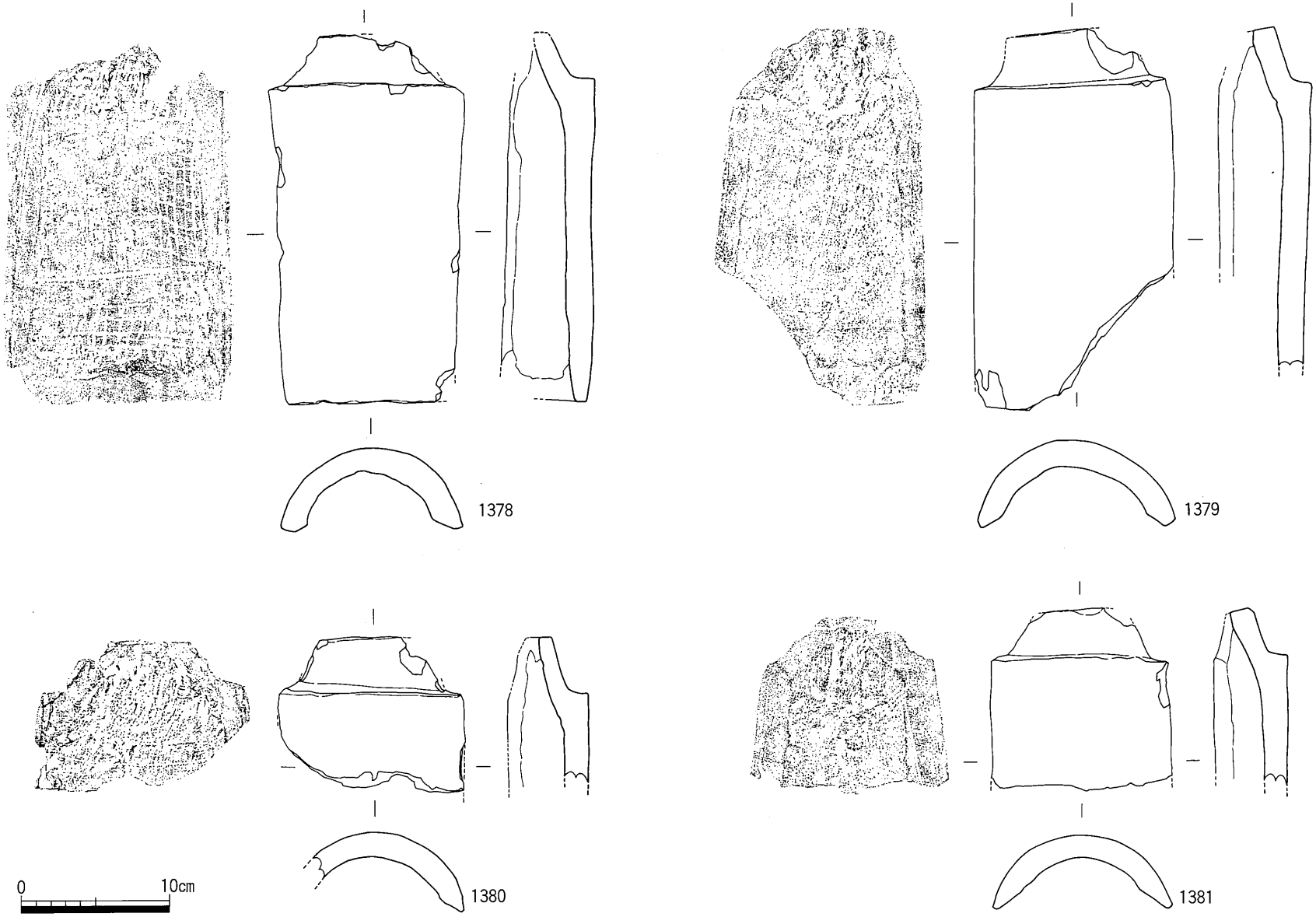
第238図　SX29出土遺物実測図(6)



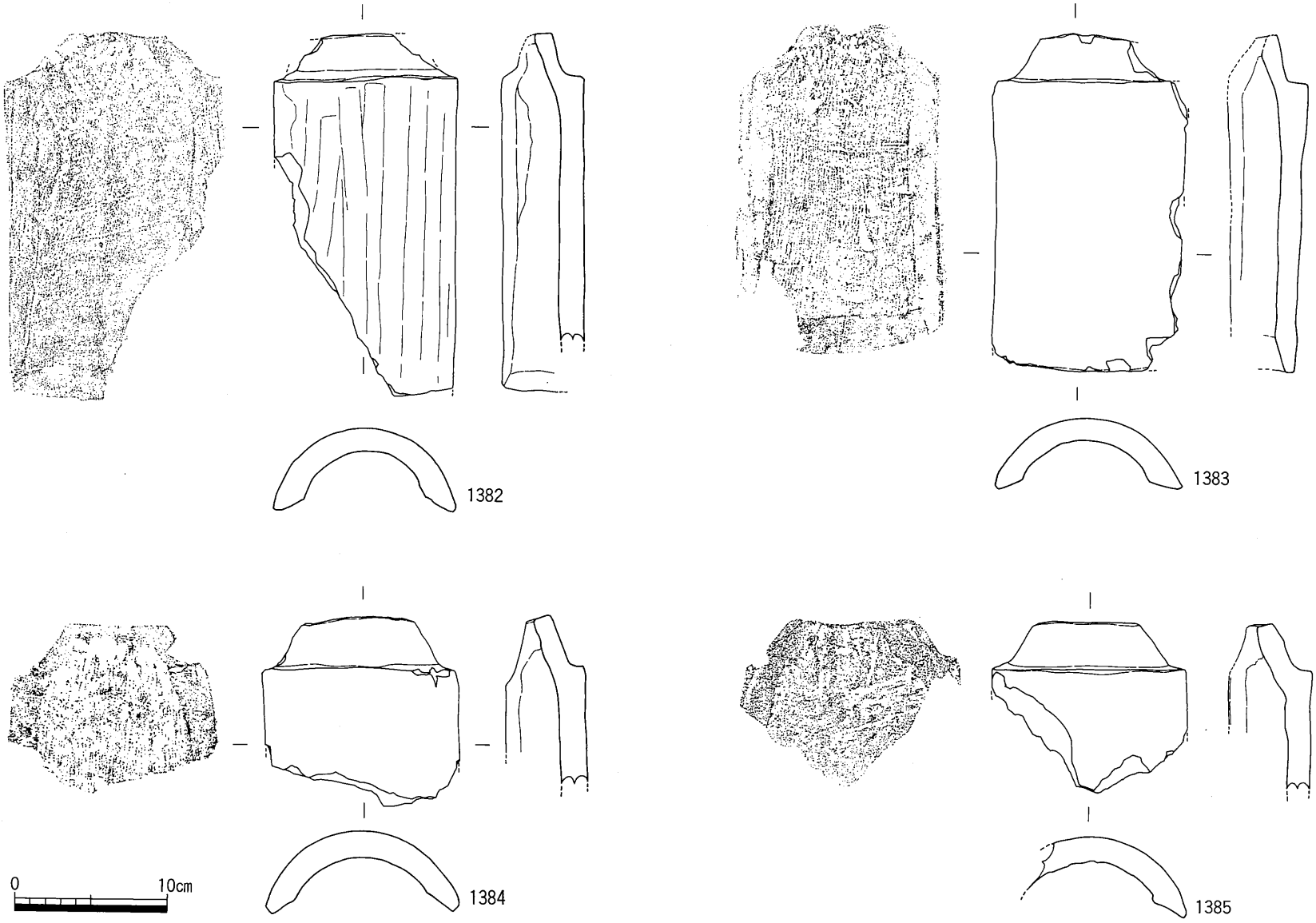
第239図　SX29出土遺物実測図(7)



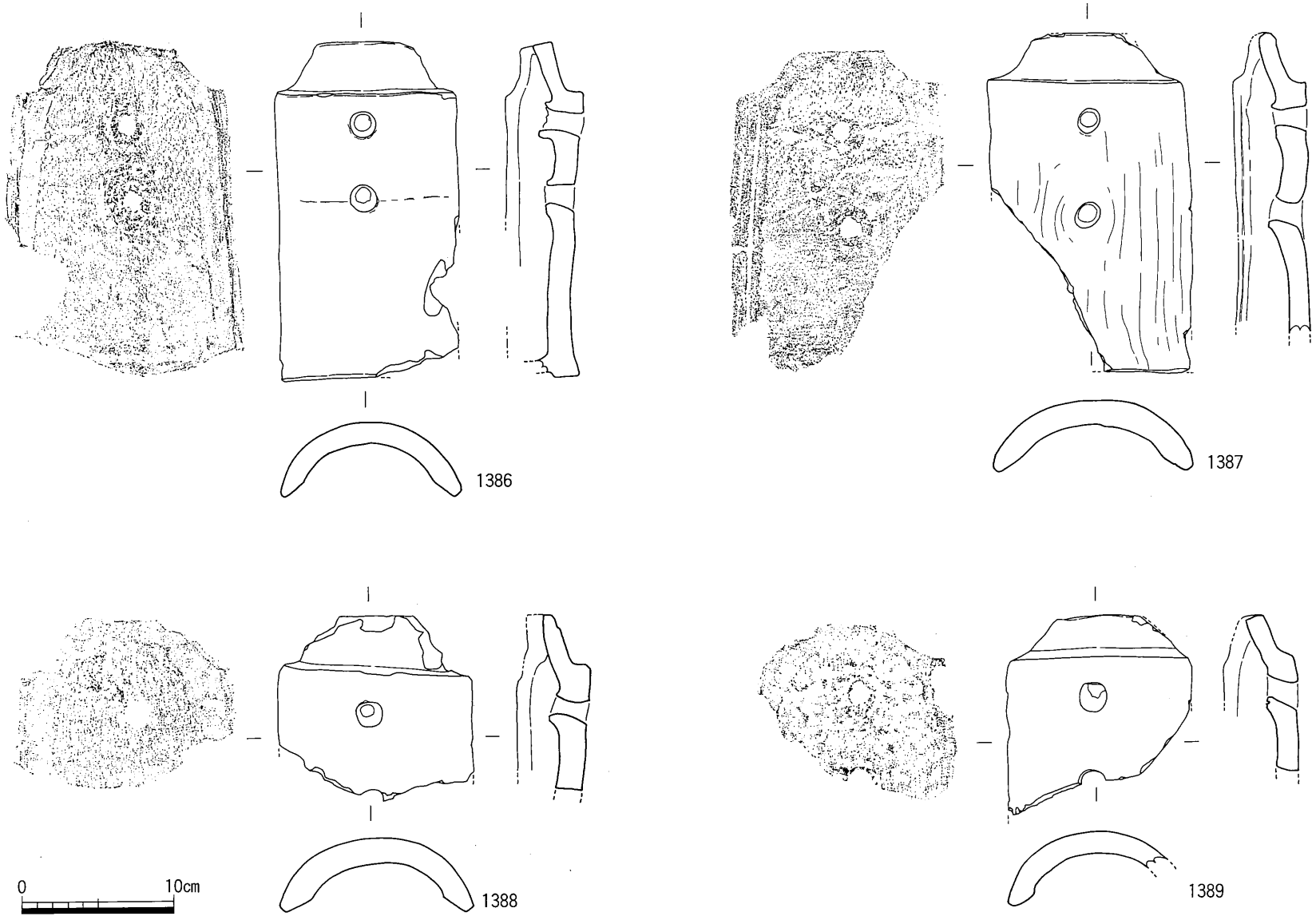
第240図　SX29出土遺物実測図(8)



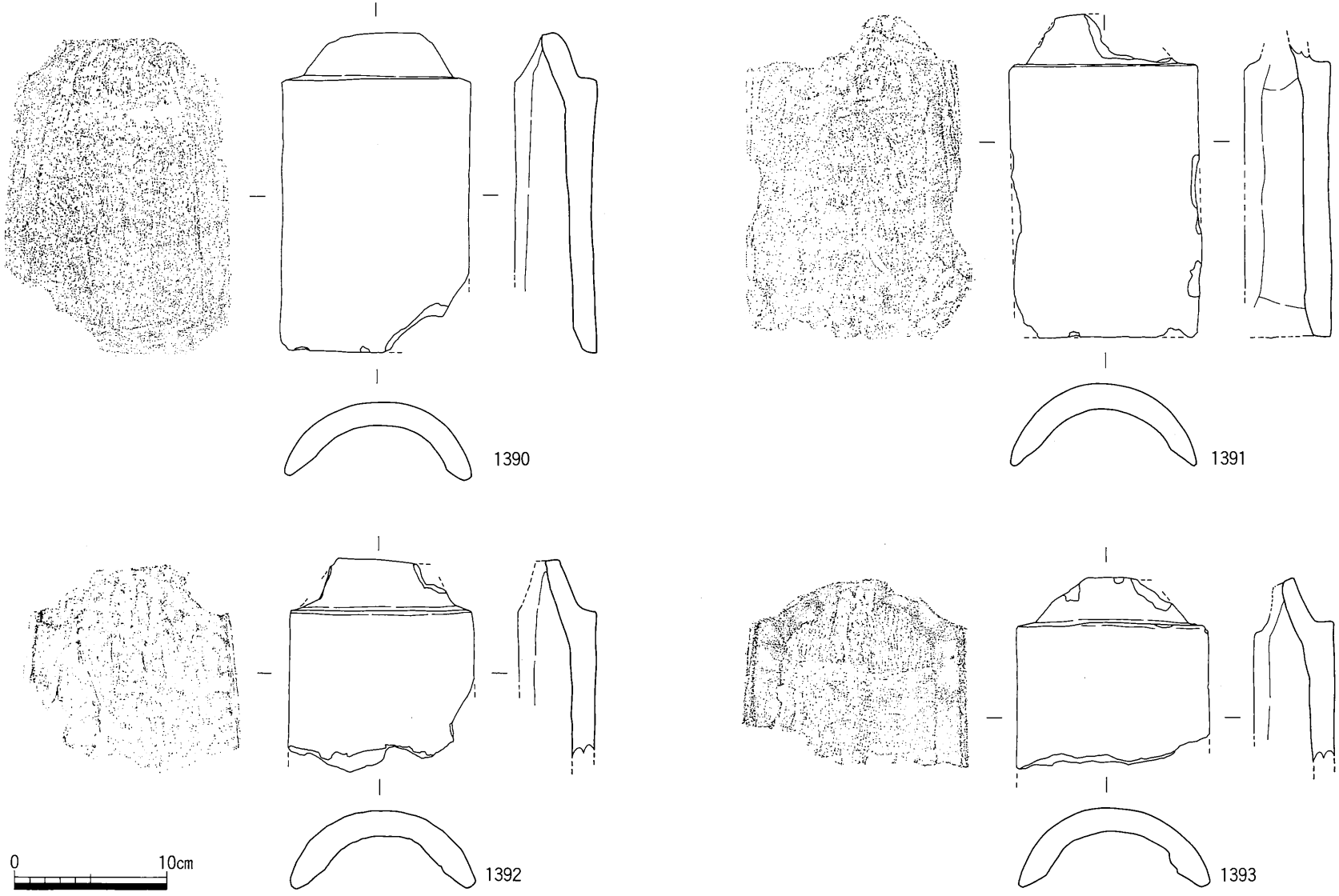
第241図　SX29出土遺物実測図(9)



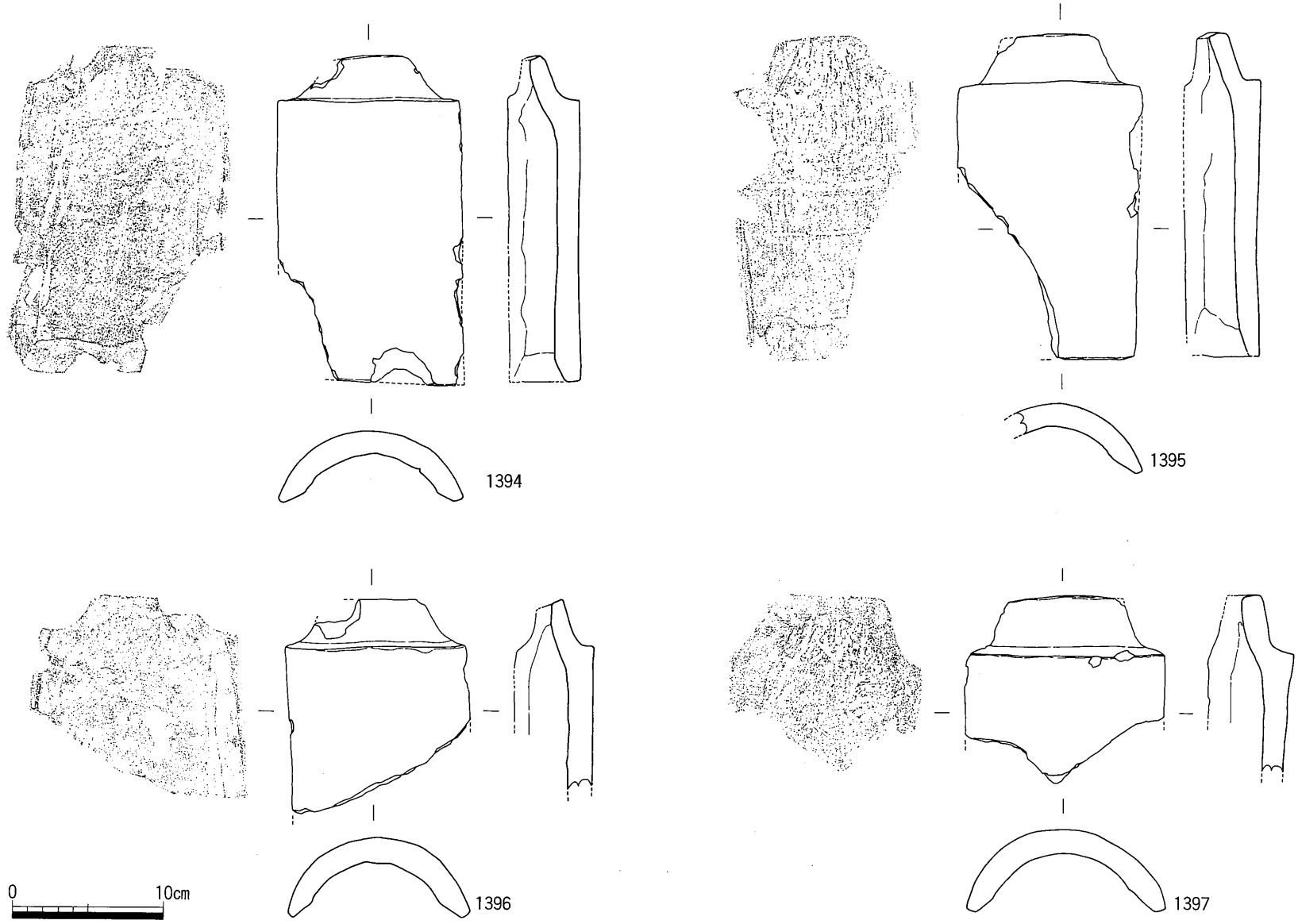
第242図　SX29出土遺物実測図(10)



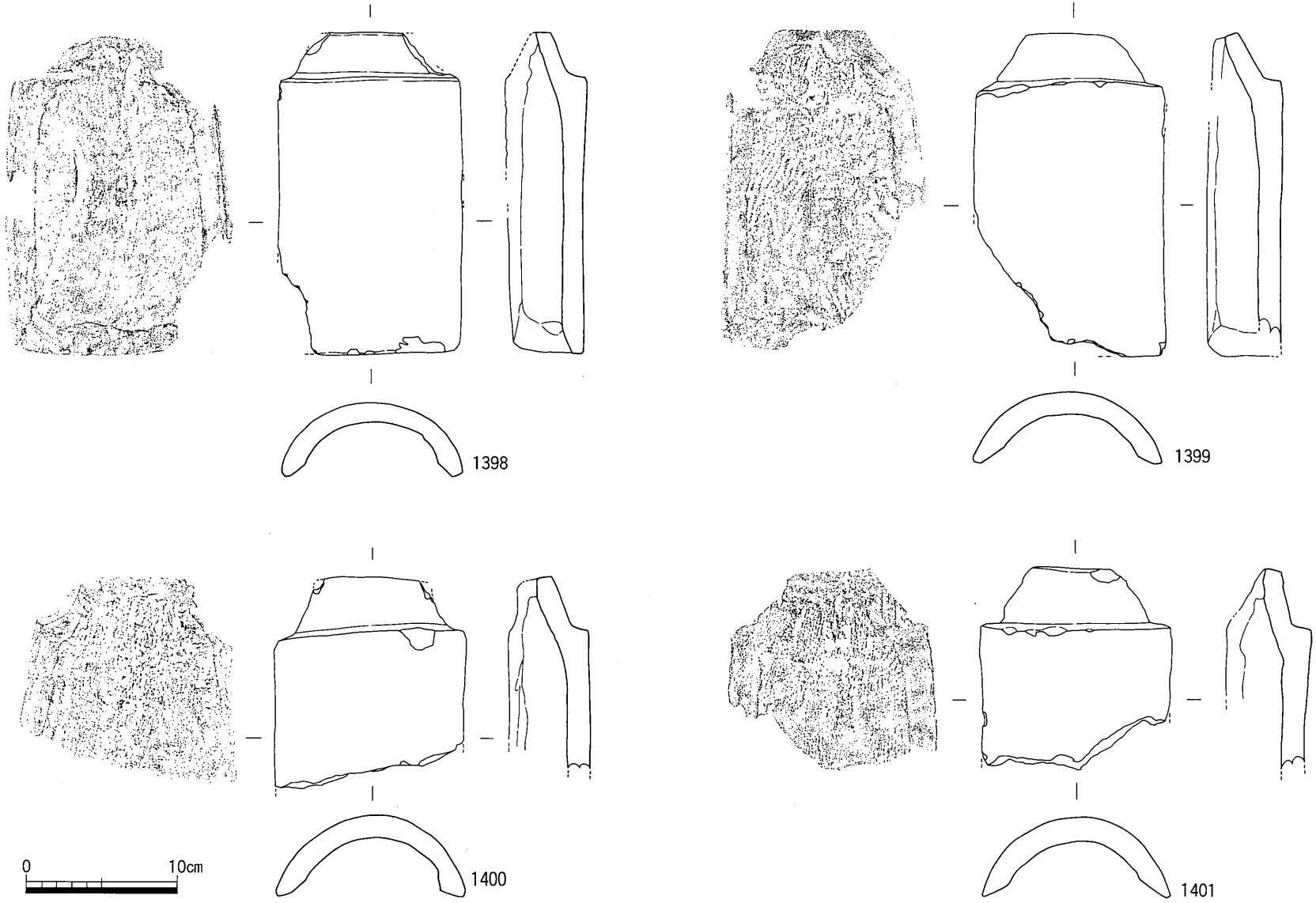
第243図　SX29出土遺物実測図(II)



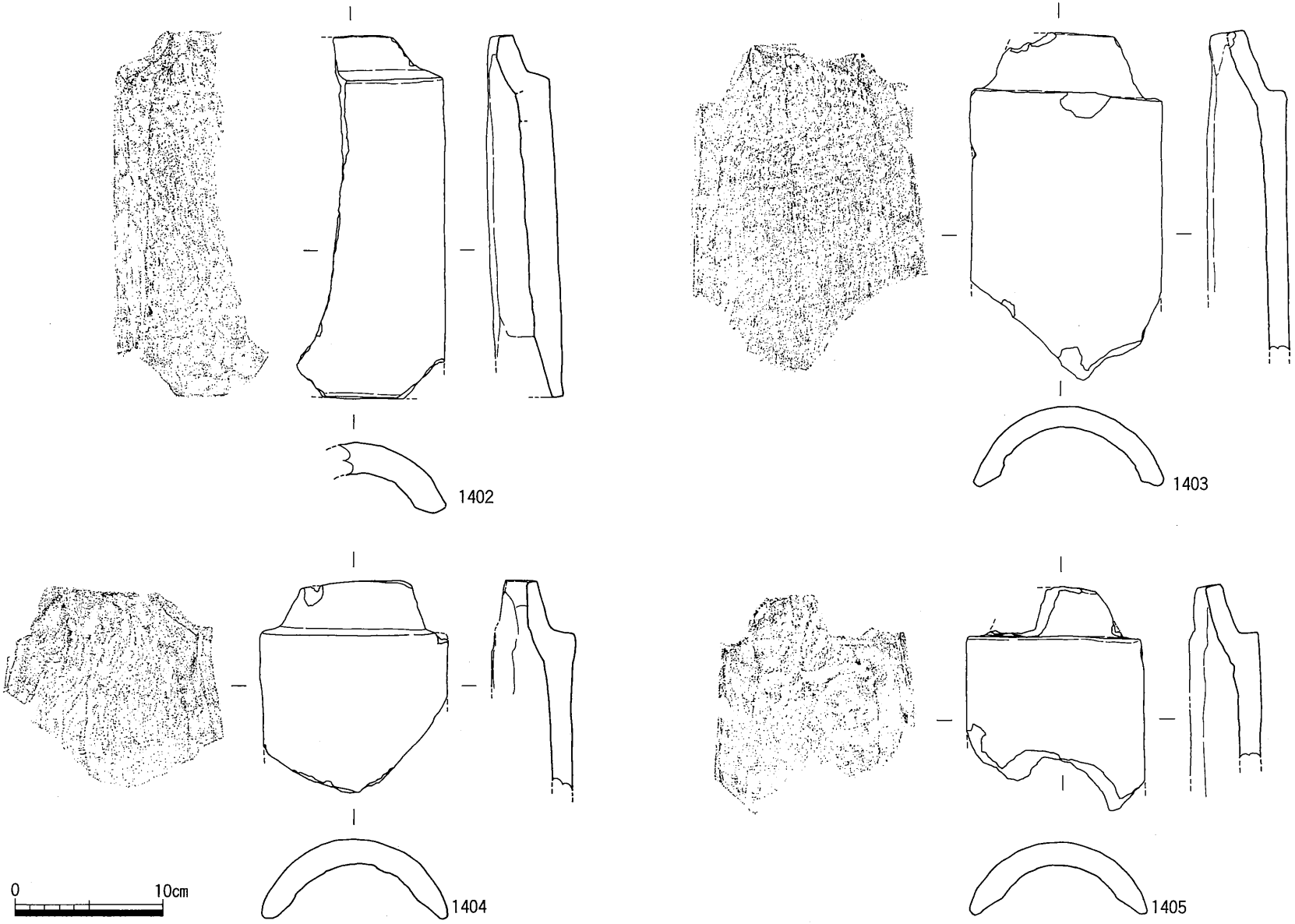
第244図　SX29出土遺物実測図(12)



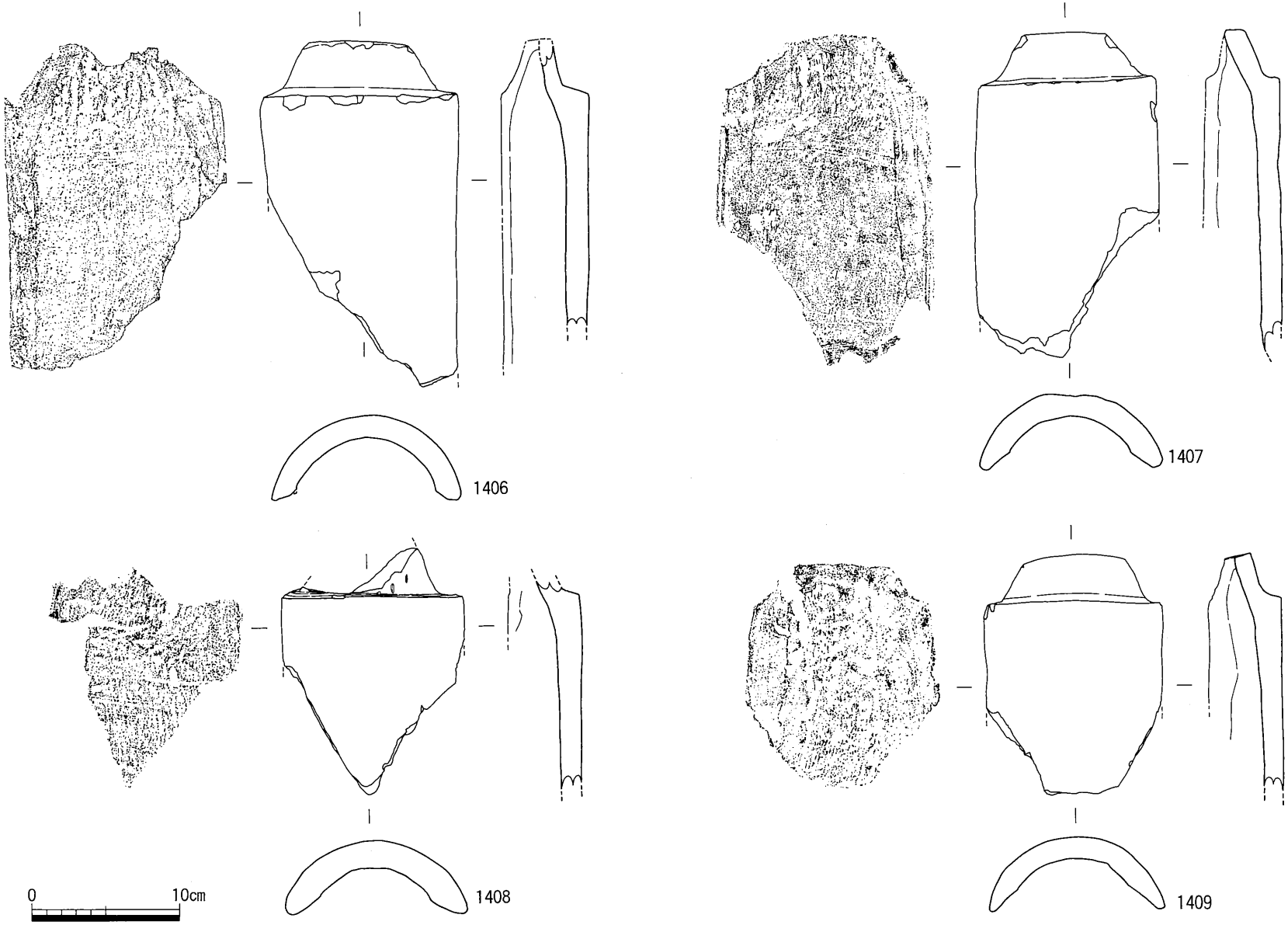
第245図　SX29出土遺物実測図(13)



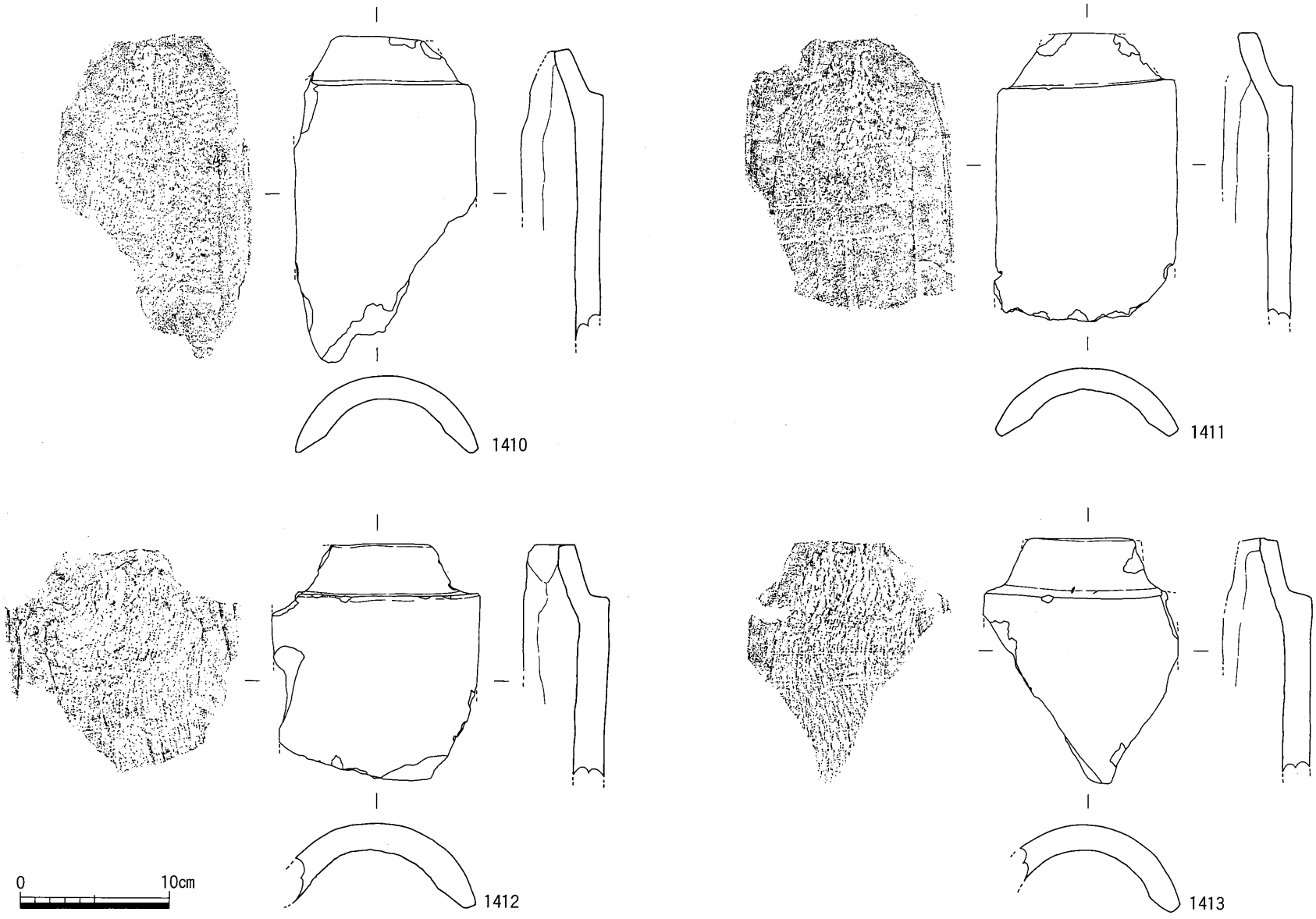
第246図　SX29出土遺物実測図(14)



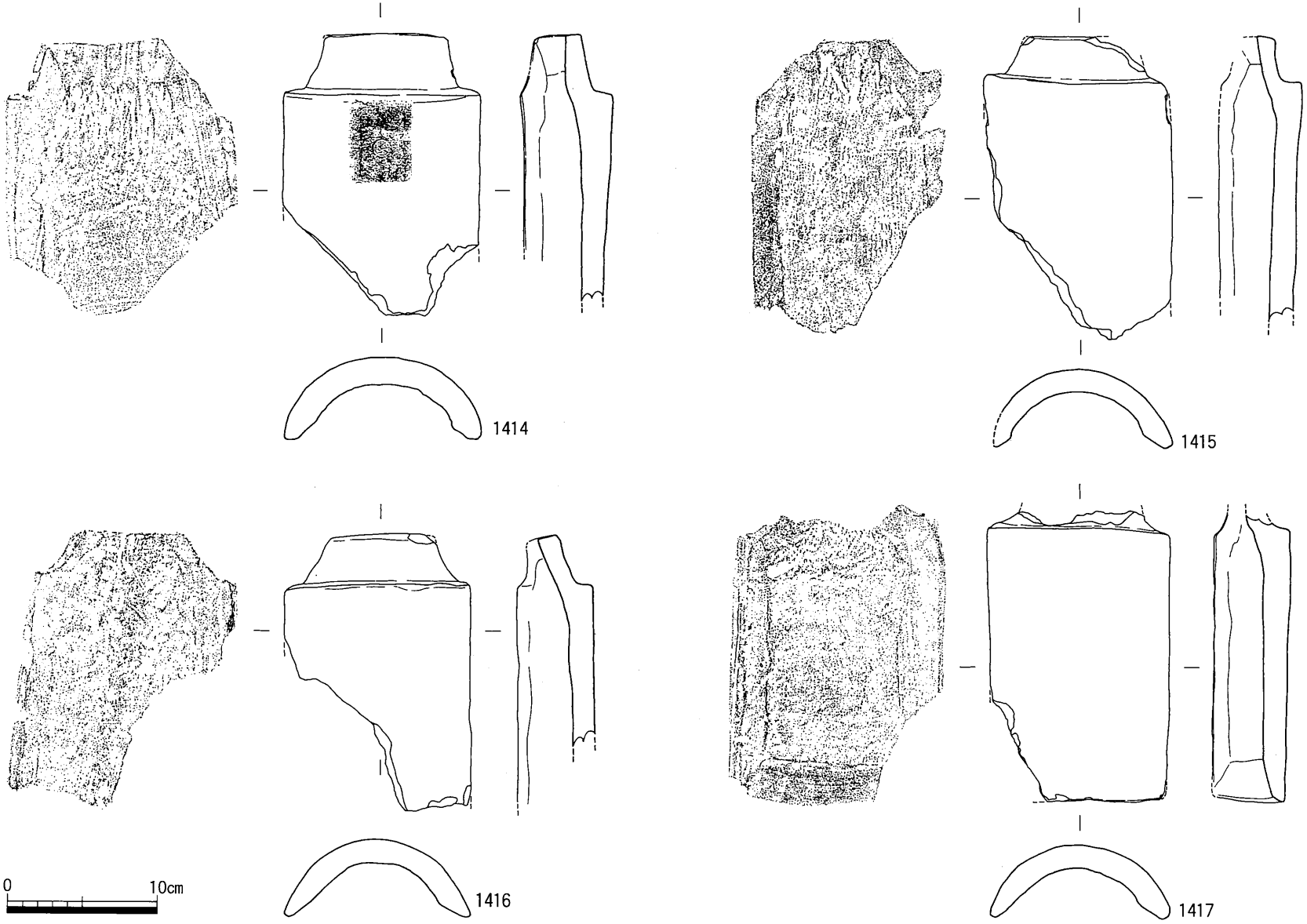
第247図　SX29出土遺物実測図(15)



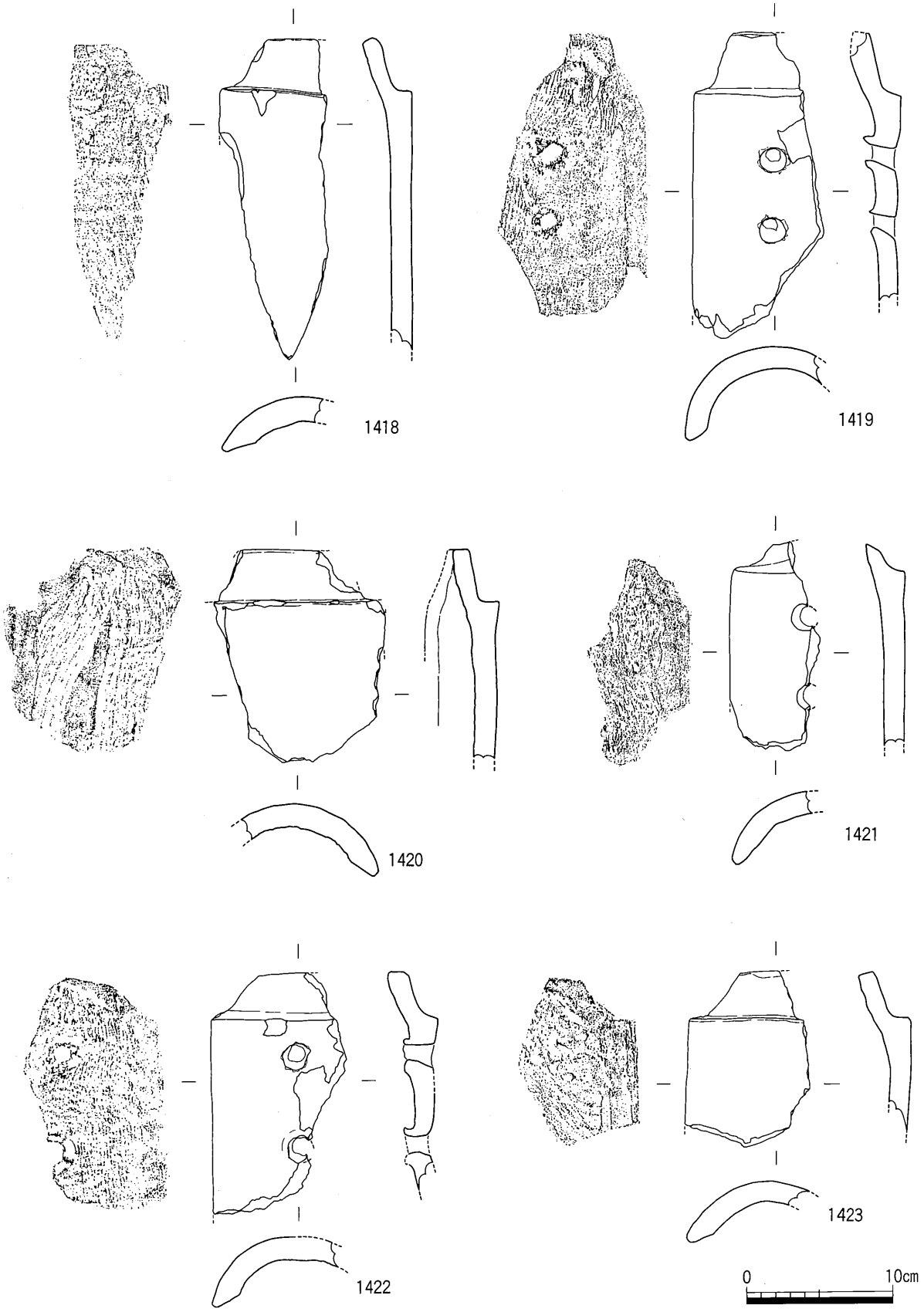
第248図　SX29出土遺物実測図(16)



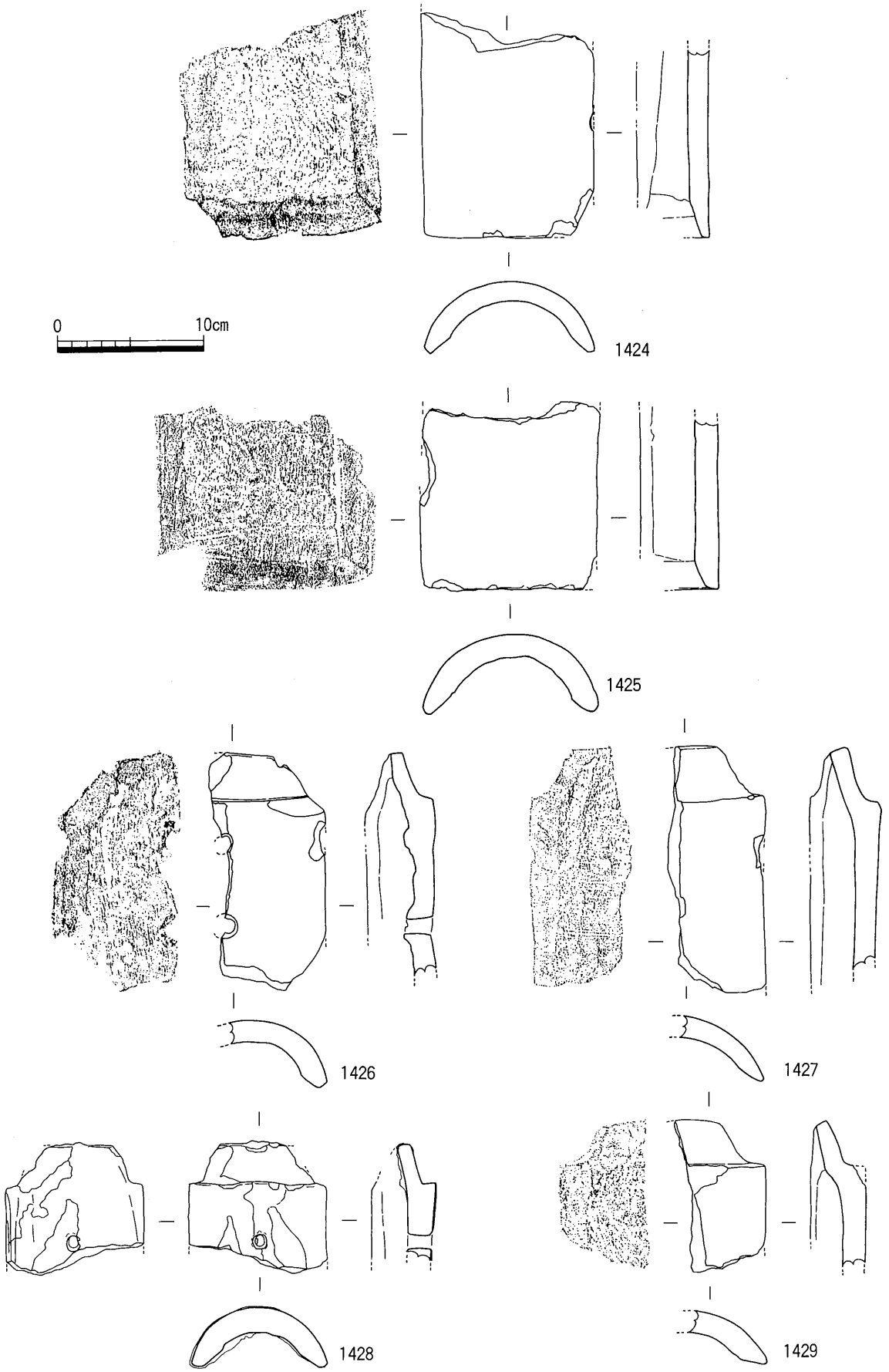
第249図　SX29出土遺物実測図(17)



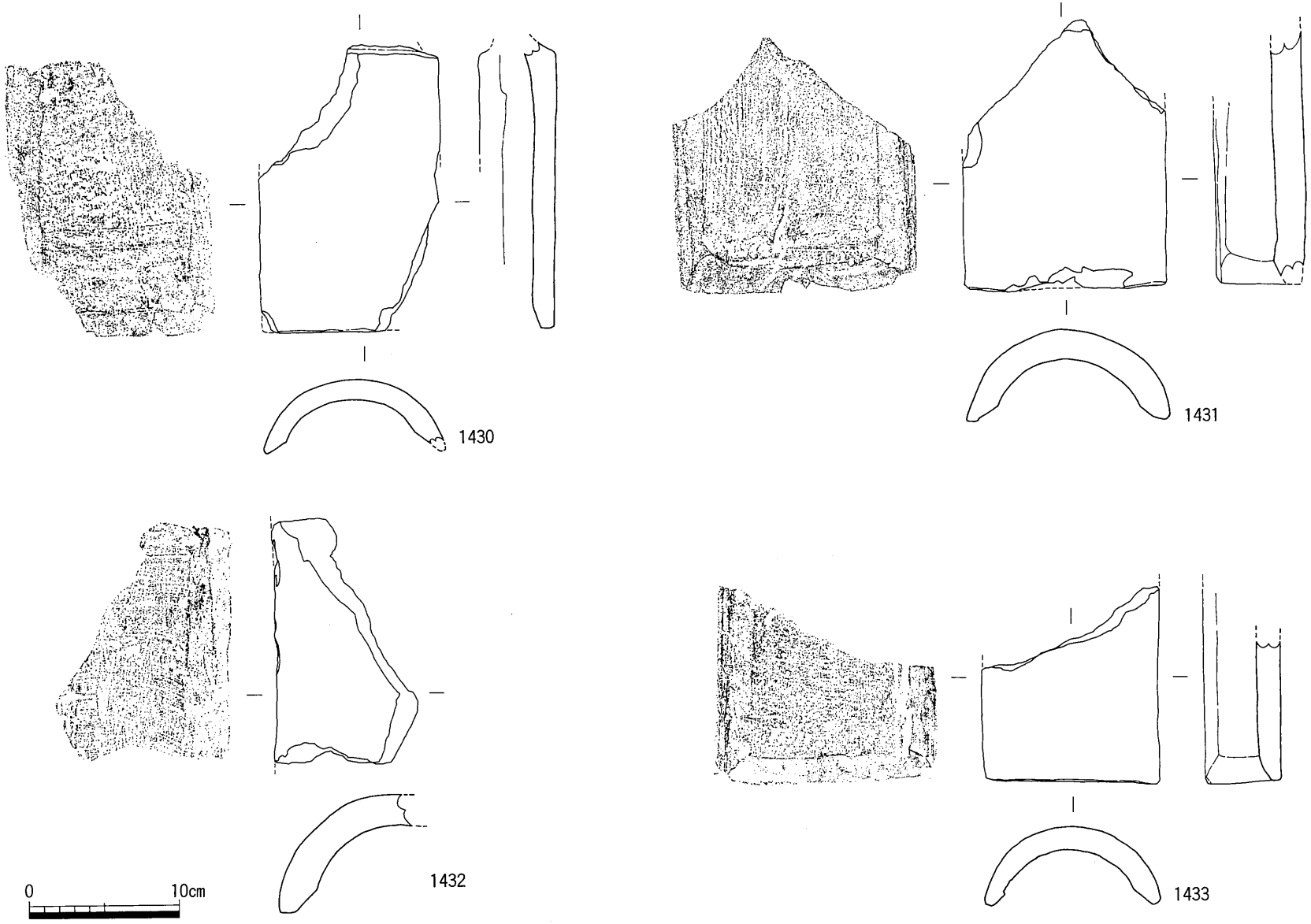
第250図　SX29出土遺物実測図(18)



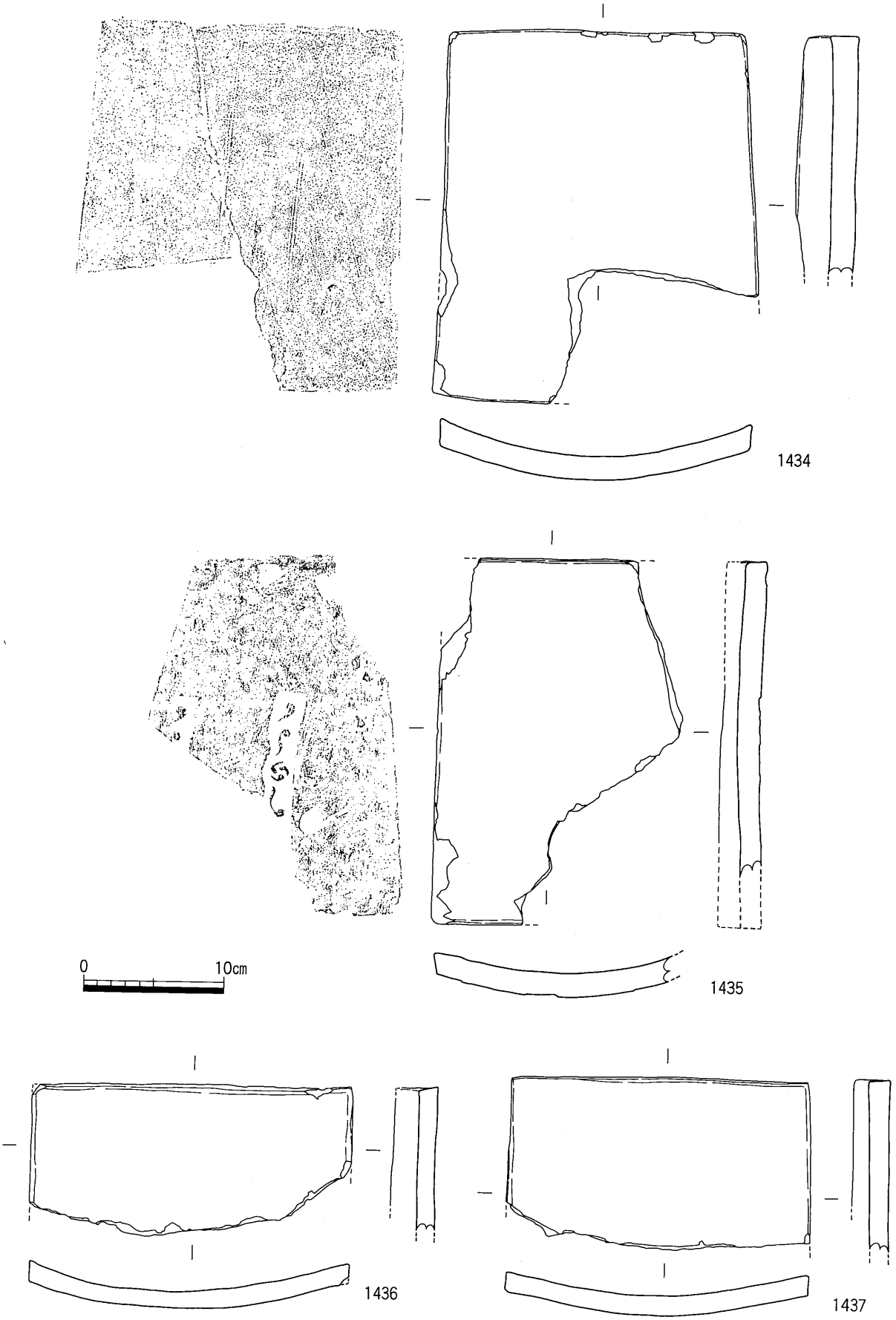
第251図　SX29出土遺物実測図(19)



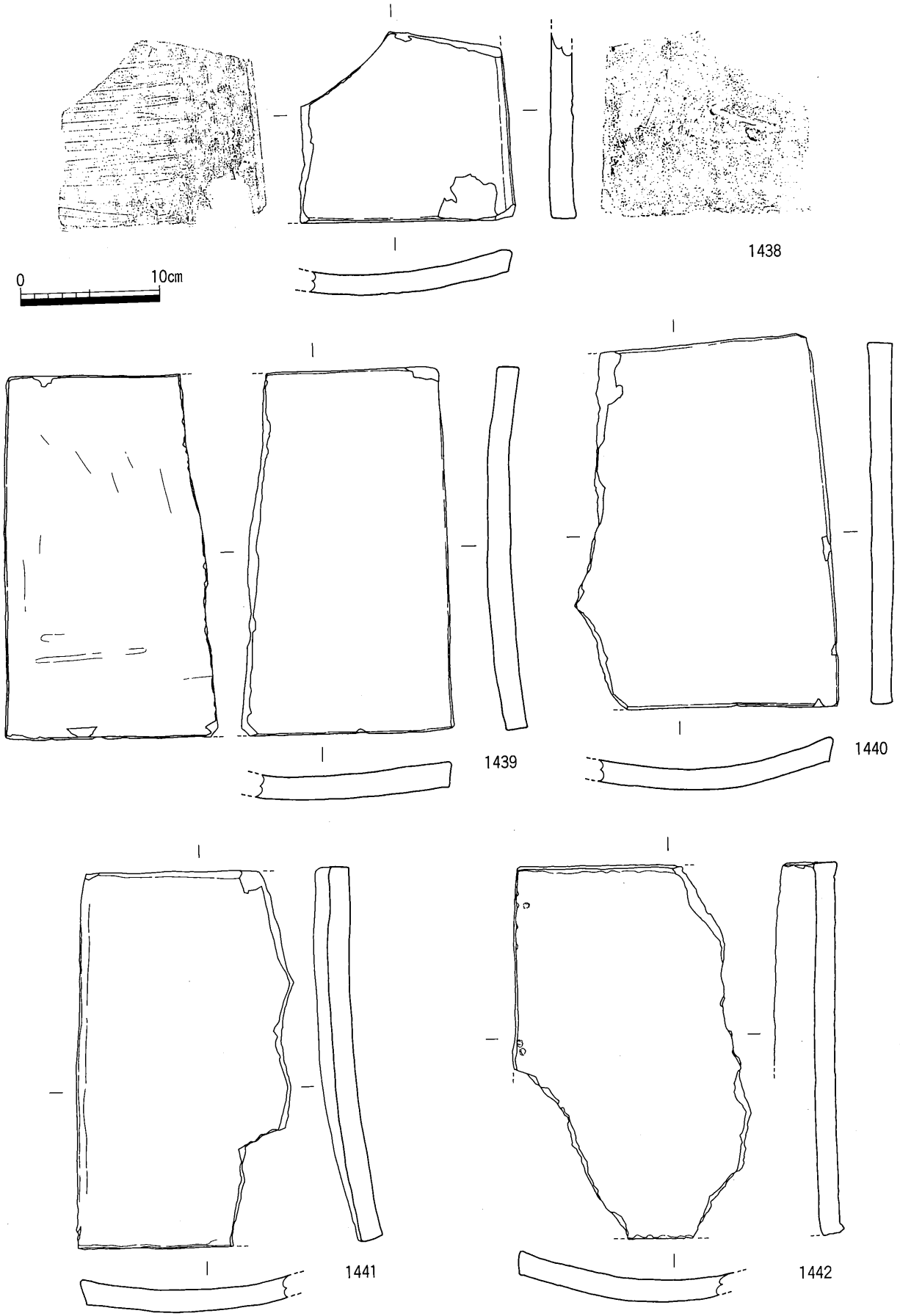
第252図　SX29出土遺物実測図(20)



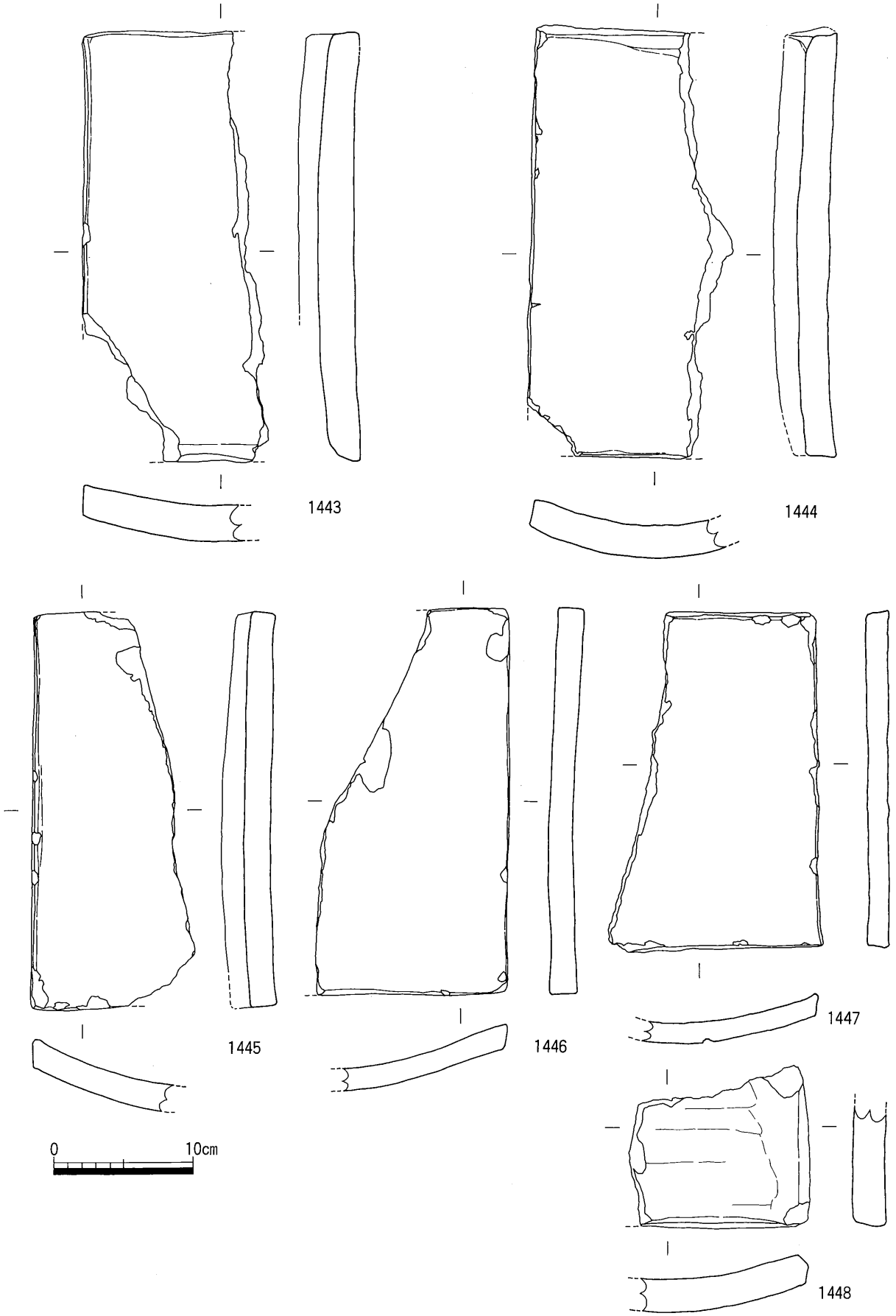
第253図　SX29出土遺物実測図(21)



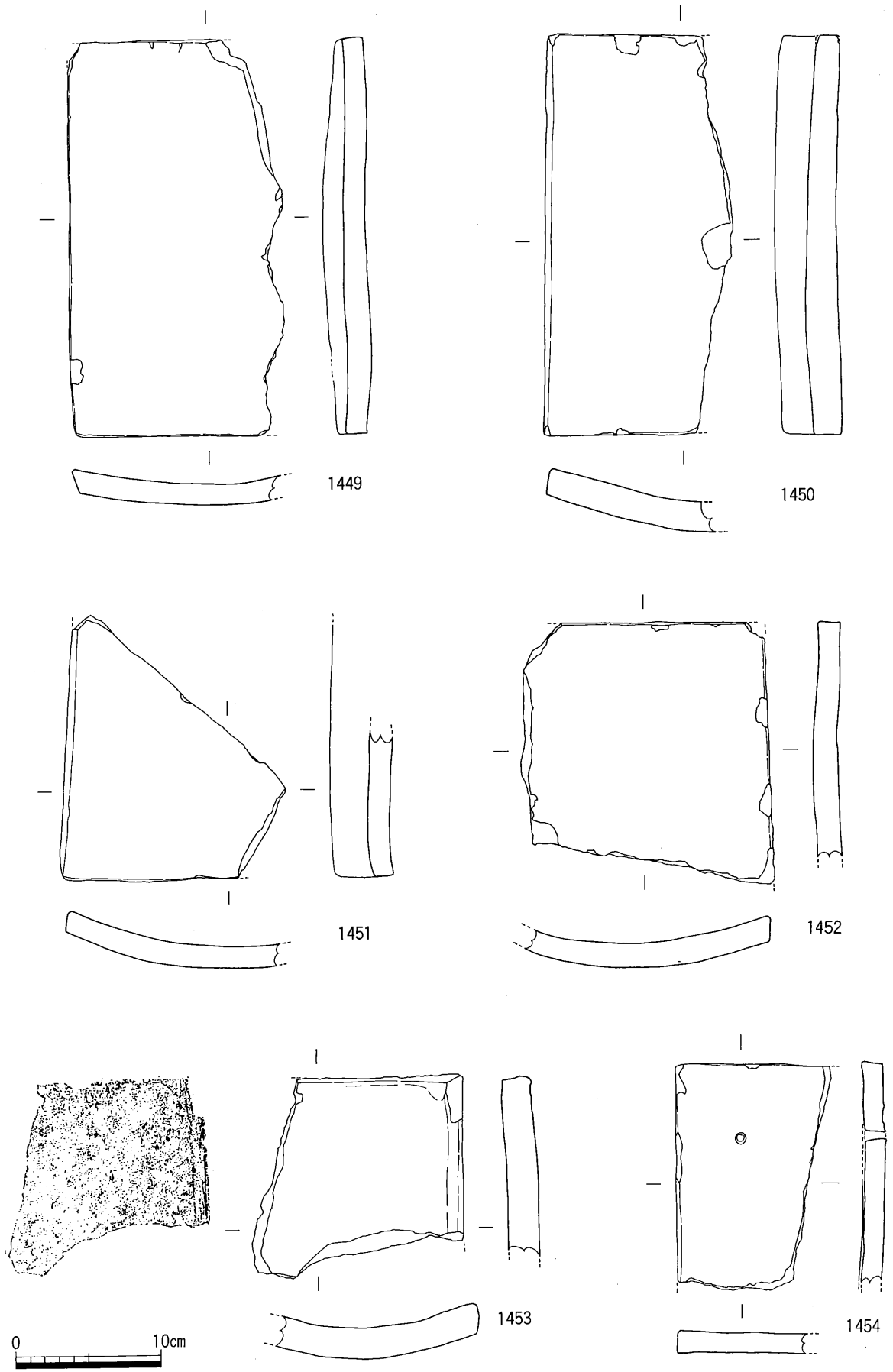
第254図　SX29出土遺物実測図(22)



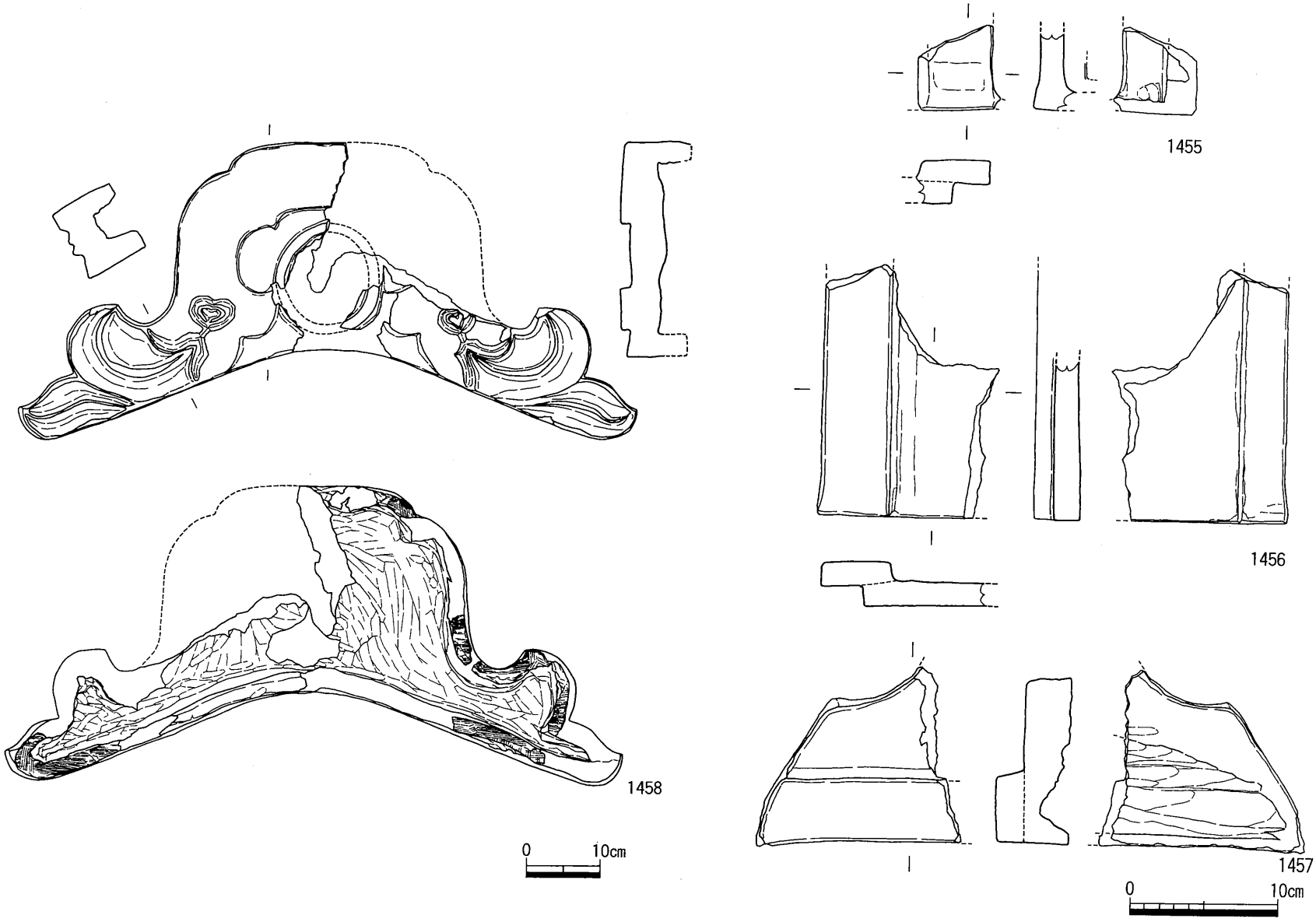
第255図　SX29出土遺物実測図(23)



第256図　SX29出土遺物実測図(24)



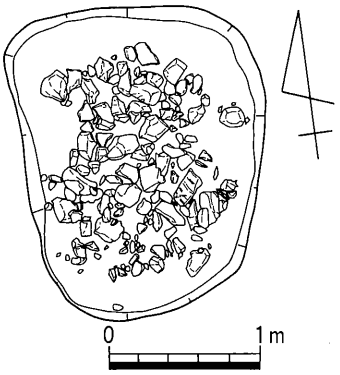
第257図　SX29出土遺物実測図(25)



第258図　SX29出土遺物実測図(26)

SX 30（第259図，図版53(1)(2)）

SX 29の南側で検出した石組の遺構である。10～15cm程度の小礫が集中して認められた。遺物は出土しなかった。



第259図　SX30平面図

SX 31（第260図，図版54(1)）

調査区南東隅で検出した遺構である。北側を後世の攪乱によって破壊されているため南北の大きさは不明である。東西は約2.5mを測る。

埋土は砂質土と砂層とに大別できる。埋土中から大量の瓦が出土している。造成の際の廃棄坑であるものと考えられる。

第261～263図はSX 31から出土した遺物の実測図である。

1459は土師器の杯である。

1460は瓦質の土鍋の口縁部である。

1461は備前産の丸皿である。

1462は備前産の擂鉢である。1463は備前産の大皿である。口縁端部をわずかに内側に折り曲げている。

1464・1465は唐津産の陶器である。

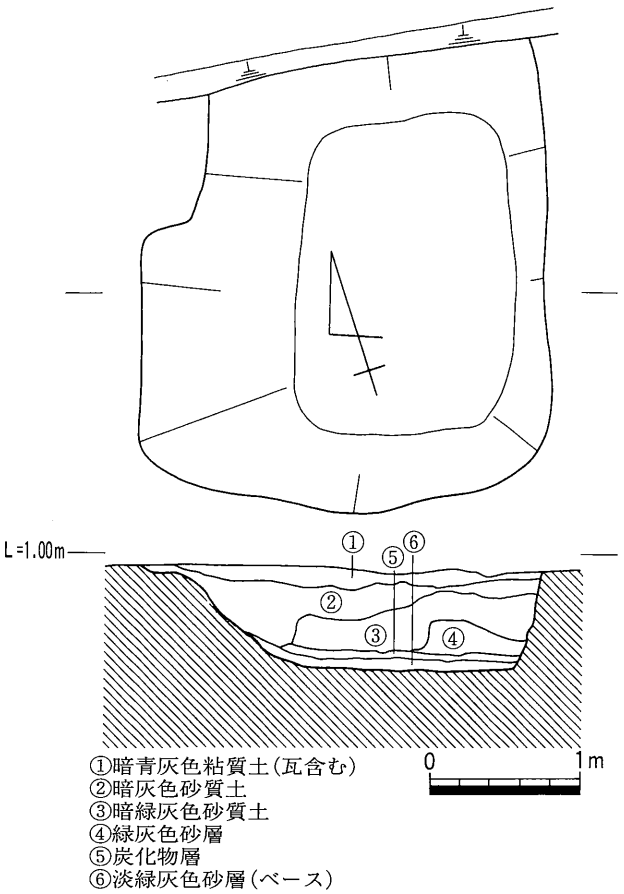
1466は施釉陶器の大型の蓋様のものである。

1467は瀬戸・美濃産の小型の鬼瓦の裾である。

1468は有溝土錘である。

1469・1470は三巴文軒丸瓦である。

1471は小菊瓦である。菊花文ではなく，三巴文である。



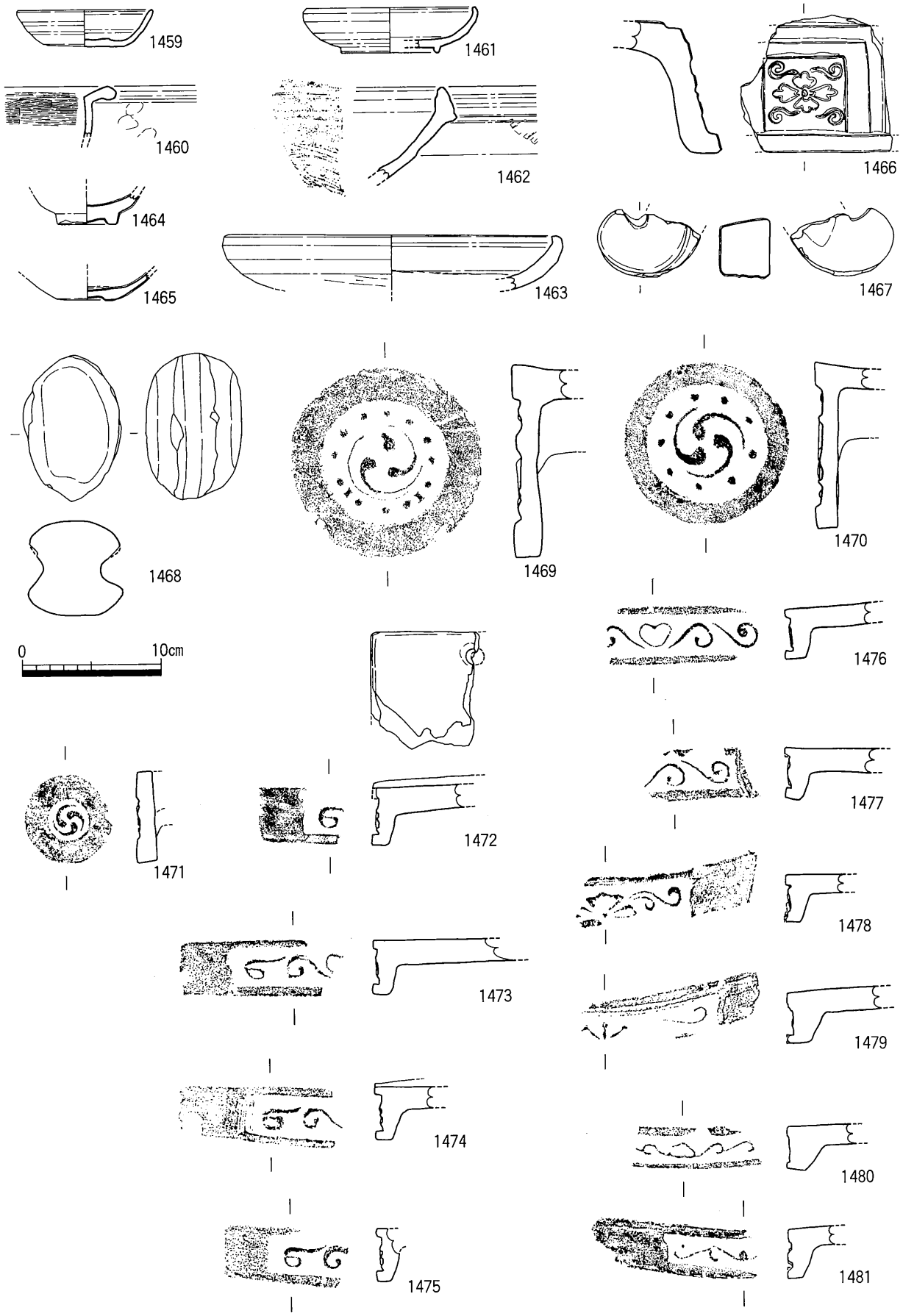
第260図　SX31平・断面図

1472～1481は軒平瓦である。1472には釘穴が1つあいている。

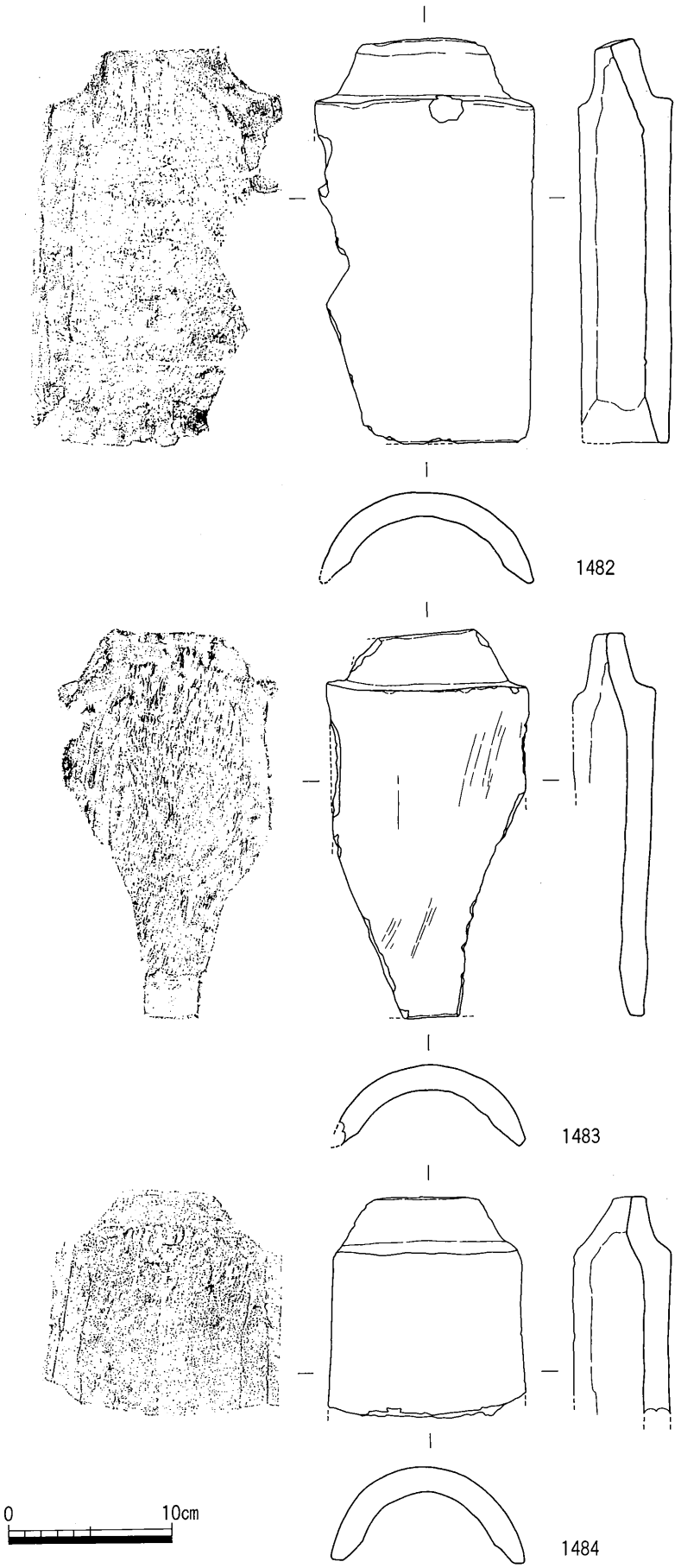
1482～1486は丸瓦である。

1487は平瓦である。釘穴が2つあいている。

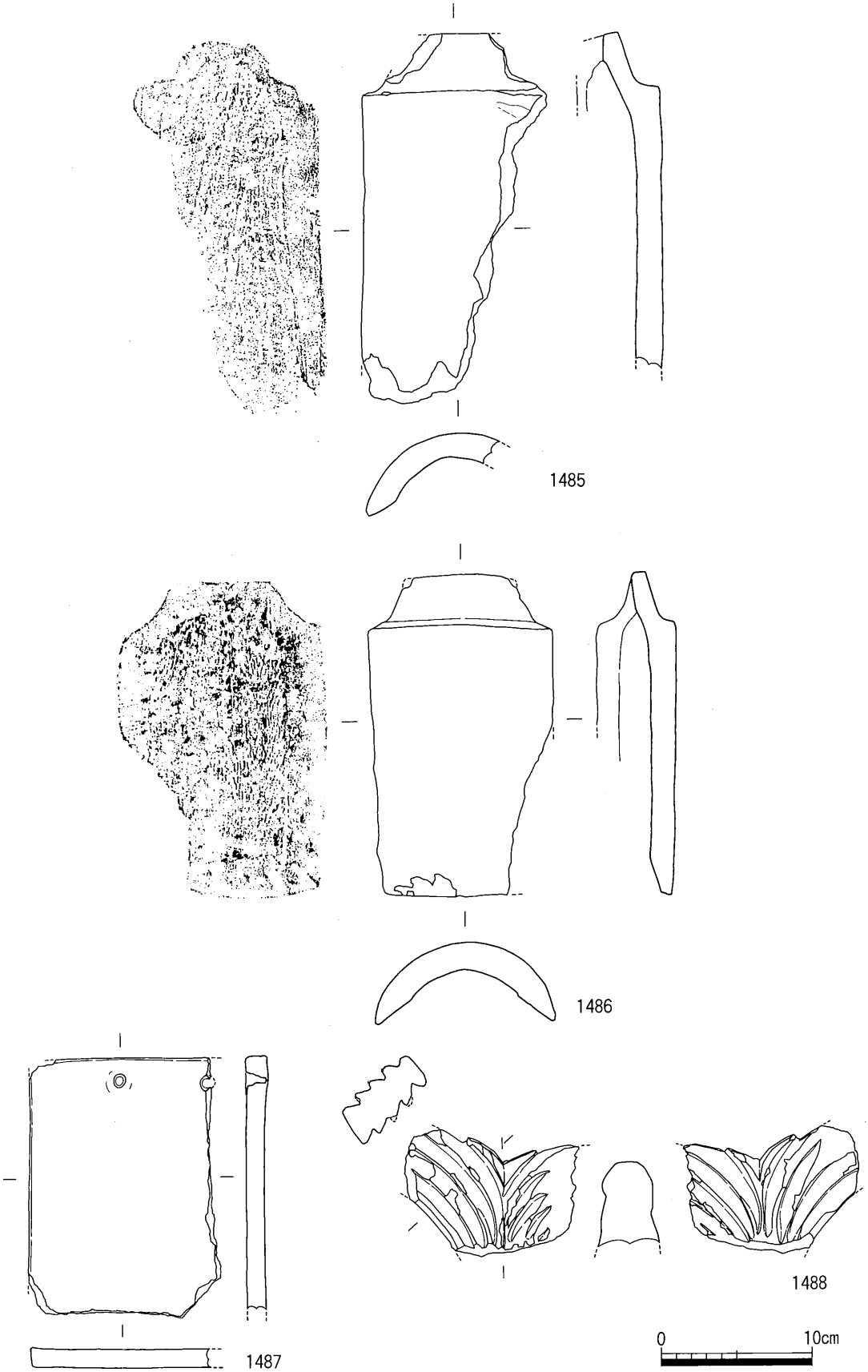
1488は鯱の尾の部分の破片である。



第261図　SX31出土遺物実測図(1)



第262図　SX31出土遺物実測図(2)



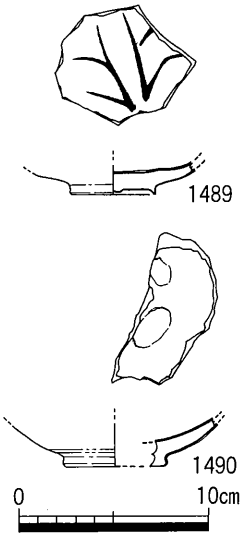
第263図　SX31出土遺物実測図(3)

SX 32

SX 28の南側で検出した円形を呈する遺構である。直径は約60cmを測る。内部から若干の陶磁器類が出土している。

第264図はSX 32から出土した遺物の実測図である。

1489・1490は施釉陶器である。1489には見込に草木文が描かれている。1490には見込に砂目積の痕跡が認められる。



第264図　SX32出土遺物実測図

第2遺構面上層の包含層出土の遺物について

第265～272図は第2遺構面上層の包含層から出土した遺物の実測図である。

1491は瀬戸・美濃産の丸皿である。

1492・1493は唐津産の陶器の皿である。

1494は京焼風陶器である。

1495は陶器の小型の壺である。把手が2ヶ所についている。底部外面に「ニ」のヘラ記号が認められる。

1496～1508は染付である。1496・1497は皿である。1497は見込に玉取獅子が描かれている。高台内部には判読できないが銘が認められる。景徳鎮付近で生産されたものである。1498～1508は碗である。1501の見込には「成化□□」の銘が認められる。

1509・1510は転用土製品である。1509は陶器の碗の底部を利用している。砂目積みの痕跡が4ヶ所に認められる。1510は備前産の陶器の底部を利用したものである。外面にヘラ記号が認められる。

1511は有溝土錘である。

1512・1513は須恵器の杯である。1512はつまみ付きの蓋，1513は身である。

1514は弥生土器である。脚付鉢の脚部である。

1515は鞴の羽口である。

1516・1517は砥石である。各面に使用痕が認められる。

1518は破片であるがおそらく石製硯の一部であろう。

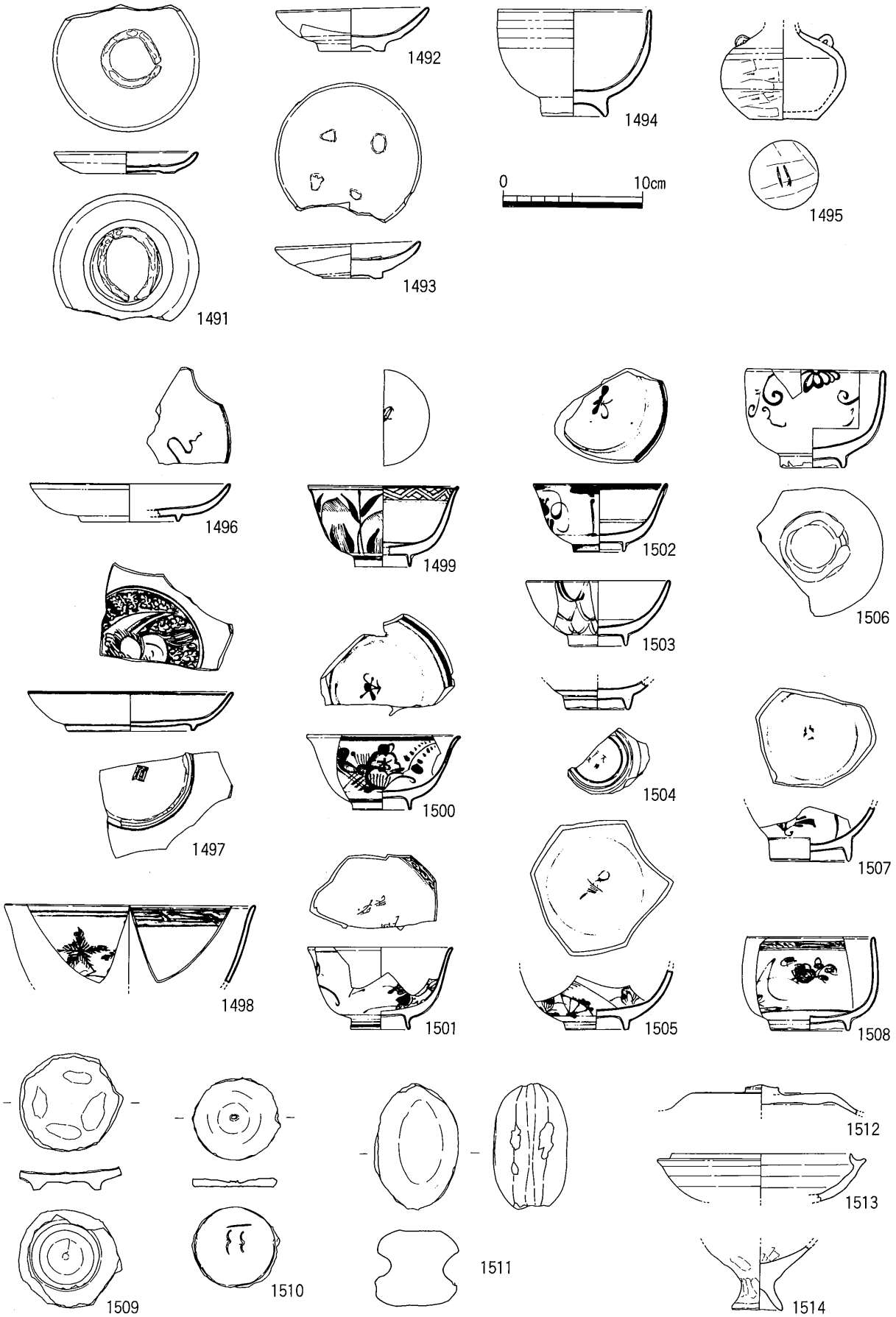
1519～1546は三巴文軒丸瓦である。

1547～1555は軒平瓦である。1556は軒桟瓦である。中心飾りはハート状を呈し，唐草文が2回転回する。

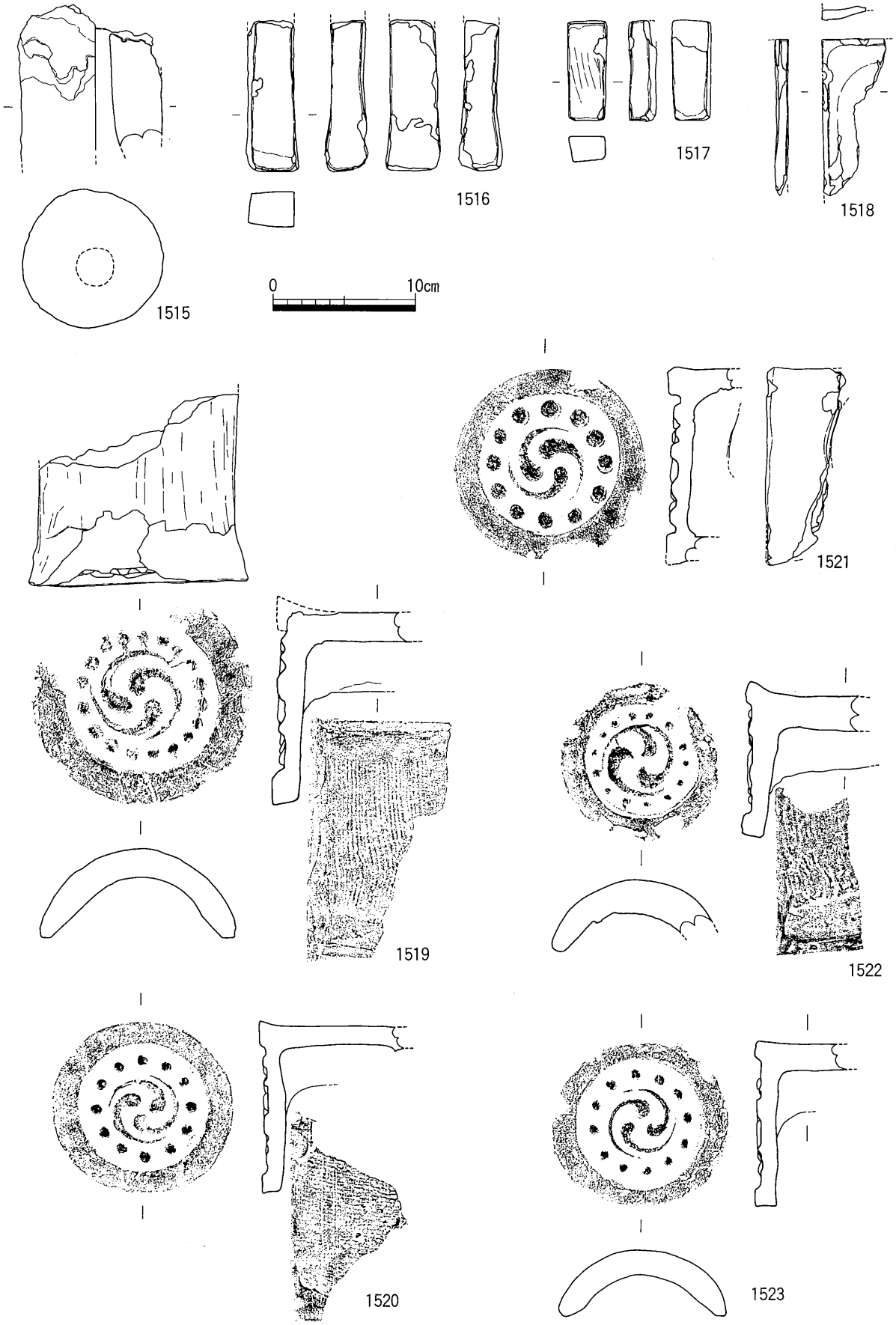
1557は滴水瓦である。三角形を呈しており，平瓦部との接合面が鈍角を呈する。

1558は軒桟瓦である。軒丸部は三巴文である。

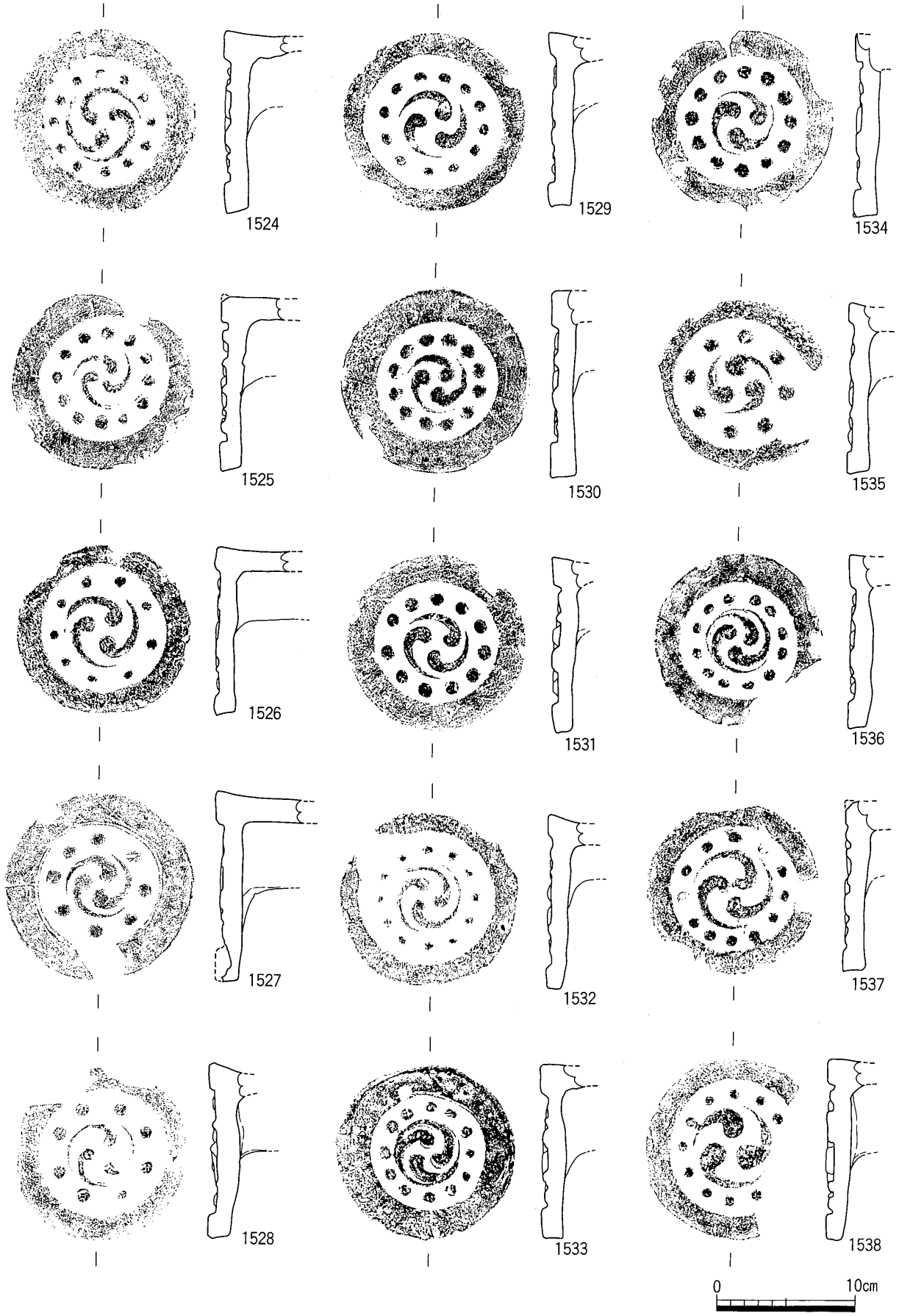
1559～1568は小菊瓦である。1559～1565は陰刻の菊花文，1566～1568は陽刻の菊花文である。1569は



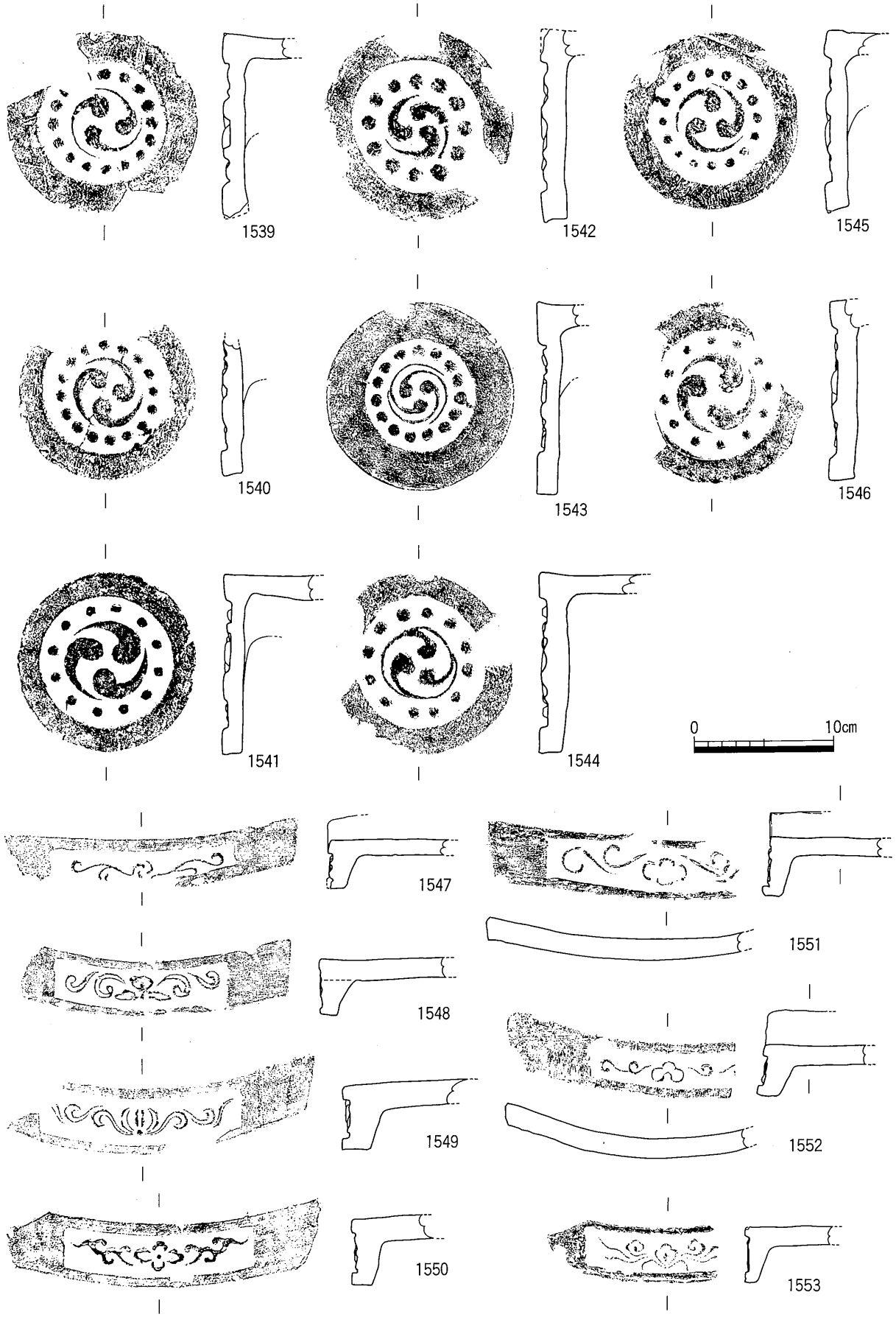
第265図　第２遺構面上層出土遺物実測図(1)



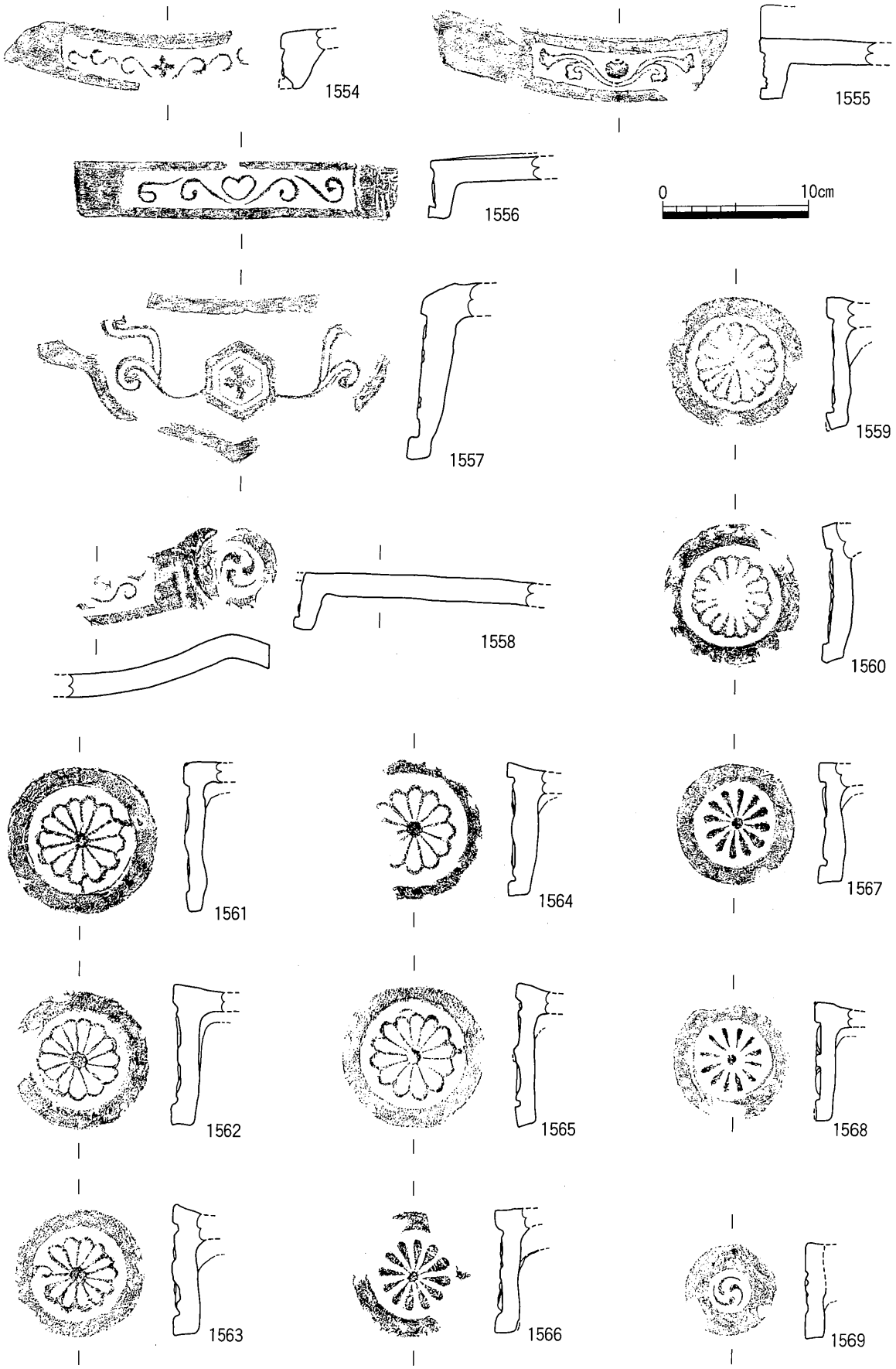
第266図　第２遺構面上層出土遺物実測図(2)



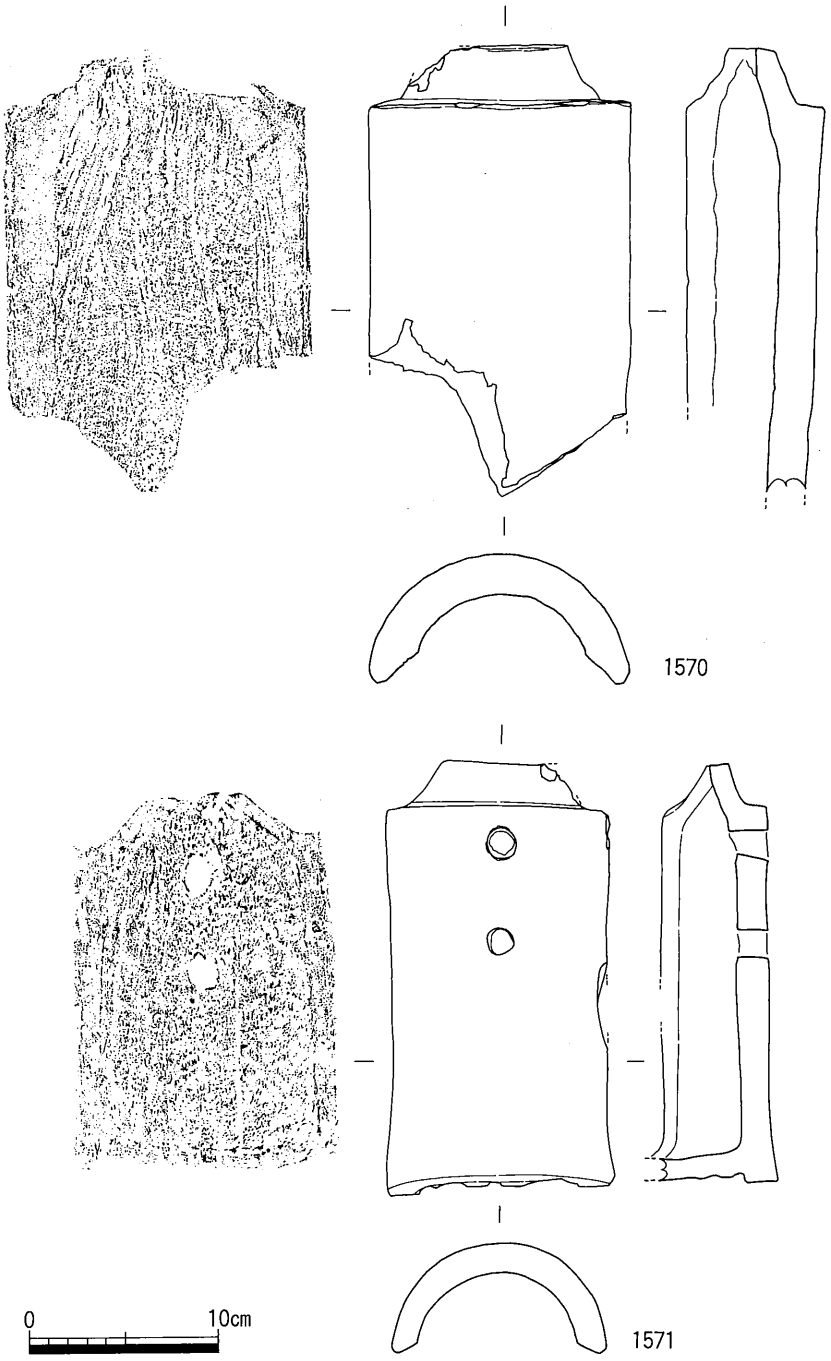
第267図　第２遺構面上層出土遺物実測図(3)



第268図　第２遺構面上層出土遺物実測図(4)



第269図　第２遺構面上層出土遺物実測図(5)

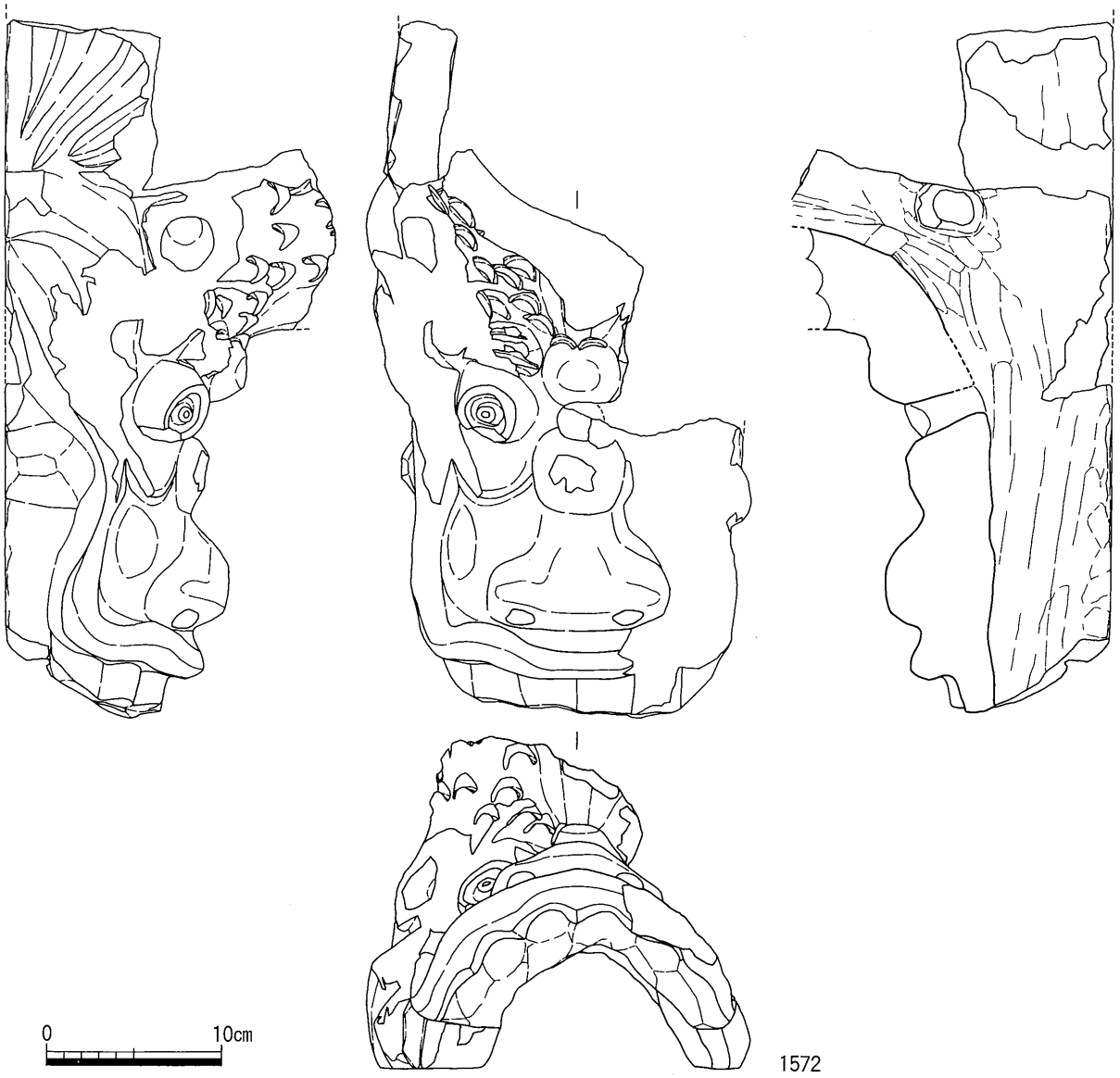


第270図　第２遺構面上層出土遺物実測図(6)

軒桟瓦の一部で三巴文である。

1570は丸瓦である。1571は軒丸瓦である。いずれも凹面に布目の痕跡が認められる。1571には釘穴が２つあいている。

1572・1573は鯱である。1572は顔から体部にかけての破片である。モチーフは龍であり，口の部分には歯も表現されている。歯の上部には髭があり，顔の側面まで表現されている。目は同心円状の粘土で表現されており，大きな鼻が特徴的である。鱗は半裁した竹管文で表現されている。尾部までは残存していないが，高さは約70cmほどと推測される。この鯱が実際に建物に葺かれていたものかどうかは定かではないが，作事丸に鯱を擁する建物があったとは考えにくいため，他の城内の建物の屋根に葺かれて



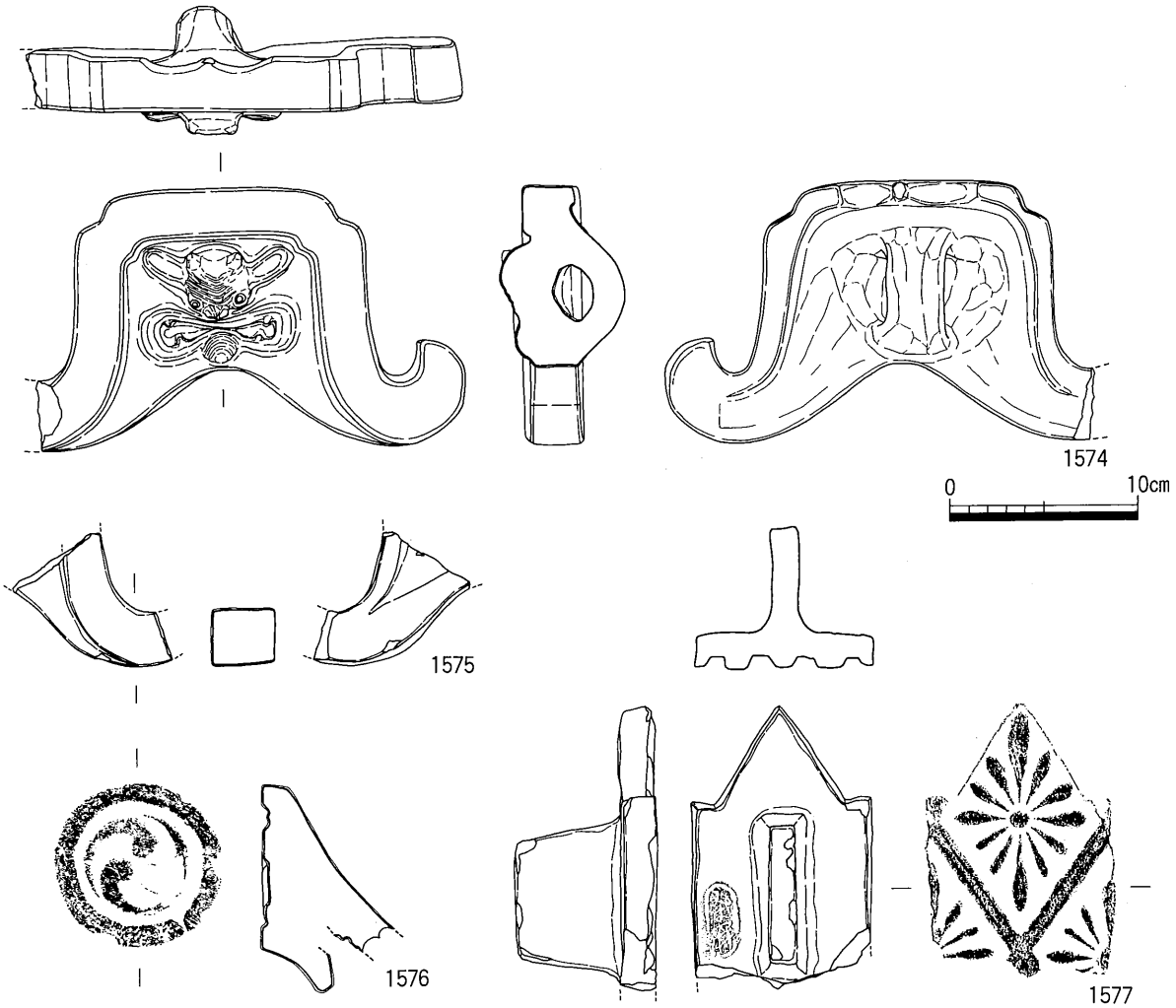
第271図　第２遺構面上層出土遺物実測図(7)

いたものの補修用の部品として作事丸に保管されたものであると考える。

1574・1575は瀬戸・美濃産の鬼瓦である。鍾馗がモチーフになっているもので，数個体出土している。

1576は瀬戸・美濃産の鳥衾である。三巴文及び周縁は鮮やかな群青色の釉薬が施釉されている。

1577は棟飾りの瓦の一つである。熨斗瓦の両側に差し込むようにして棟を飾る瓦である。裏面に「みまや村」と刻印が認められ，高松市南西部あたりで製作されたことがわかる。



第272図　第２遺構面上層出土遺物実測図(8)

5．第Ⅴ期（19世紀末，付図４参照）

この時期は幕末から明治時代の初期にかけてにあたり，建物の礎石と考えられる石材や石組の溝状遺構等を検出している。後述するように，これらの遺構は江戸時代末期および明治時代初期の絵図に示されている米蔵丸および作事丸に関係するものと考えられる。

以下に検出した遺構と遺物について述べる。

SA 04（第273図，図版60(1)）

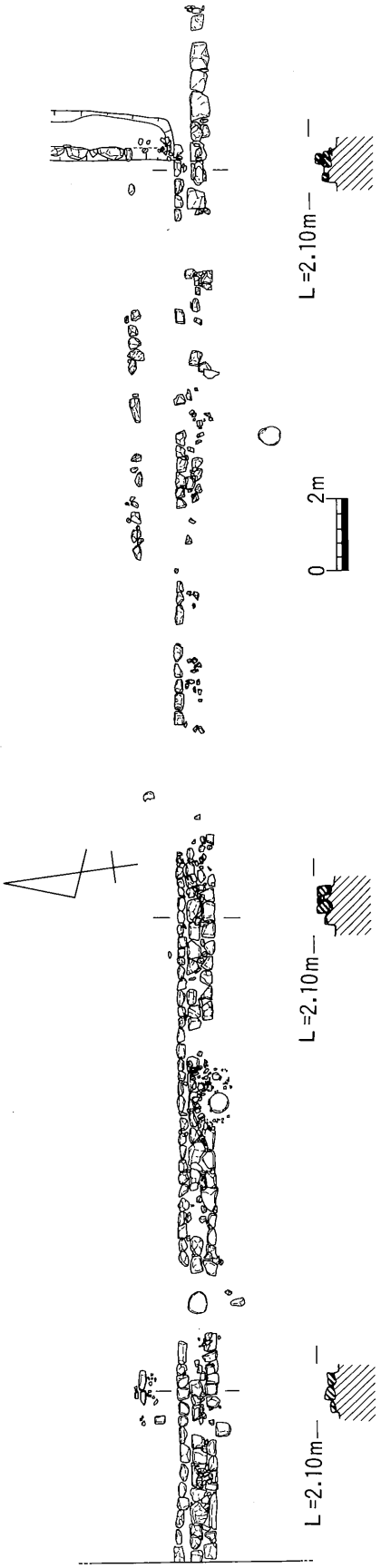
調査区中央やや北寄りの部分で調査区を東西に横切る形で検出した石列状の遺構である。東側は石垣まで続いており，西側は調査区外へ延びる。中央部は後世の攪乱によって破壊されているが，検出した総延長は約43mに及ぶ。石列は上段と下段に分けられ，上段は幅50cm，高さ30cmを測り，下段は幅70cmを測る。石列は南北両面に面を持ち，石材は花崗岩と安山岩が多い。この石列状遺構は明治10年ごろに描かれたと推定されている「舊高松御城全圖」（以下「絵図」という）に記載されている米蔵丸と作事丸との境界を区画する施設と位置的に合致する。このことから，この石列状遺構は絵図に記載されている米蔵丸と作事丸との境界である可能性が高いと考えられる。石列の隙間等から若干の遺物が出土している。

第274図はSA 04から出土したと考えられる遺物の実測図である。

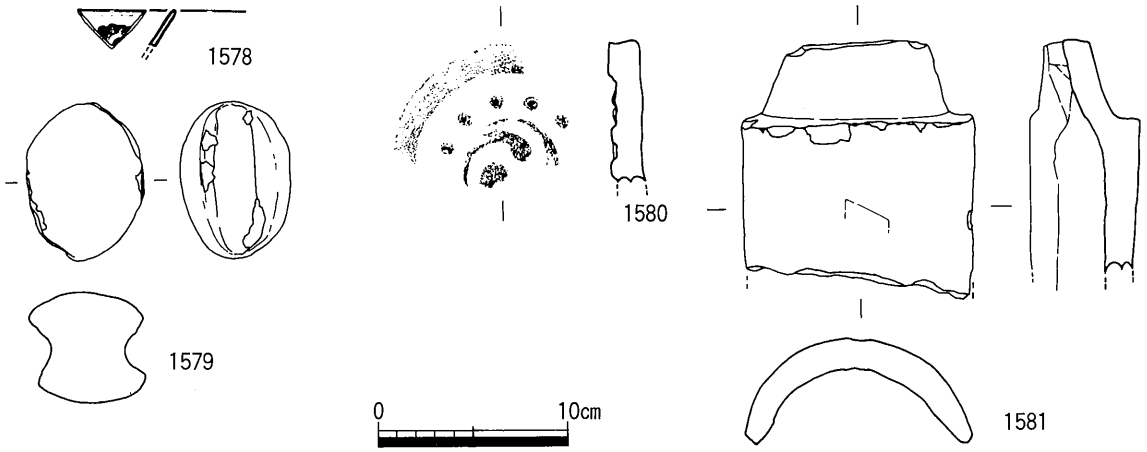
1578は染付の碗である。

1579は有溝土錘である。

1580は三巴文軒丸瓦である。1581は丸瓦の玉縁の部分である。



第273図　SA04平・断面図



第274図　SA04出土遺物実測図

SD 08（第275図，図版60(2)・61(1)(2)）

調査区中央やや東よりの部分で検出したクランク状に延びる石組の溝状遺構である。平成６年度の調査で検出したもので，幅約30cm，深さ30cmを測る。比高差からみて，北流するものと考えられ，後出するSD 09から続くものと思われる。また，その位置から考えて，北側は，市道を挟んで昭和60年度の県民ホール建設に伴う調査時に検出したSD 04に続くものと思われる。

石組は北半分は板状，南半分は塊状の自然石を多用しているが，いずれも内側に面をそろえている。２ケ所屈曲部が認められるが，南側の屈曲部には西側に開く石室状の遺構が認められる。この石室状遺構は「凸」の字を横にしたような形状を呈している。溝状遺構と同様に内側に面をそろえた石材を多用している。裏込には拳大の小塊石を利用している。

第276図はSD 08，第277図は付属する石室状遺構から出土した遺物の実測図である。

1761・1762は瀬戸・美濃の端反りの碗である。1761は褐釉が施されている。1763は肥前系の染付の皿である。見込には蝶が描かれている。1765・1767は唐津の皿である。いずれも灰釉が施されている。1766は瀬戸・美濃の丸皿である。1768は唐津の碗の底部である。わずかに削り出した高台を持つ。1769は肥前系の陶器の大皿の底部である。内面に淡い白色の釉を施している。高台は断面が四角形を呈している。

1771は土師質土器の有溝土錘である。1772は肥前系の磁器の碗の底部を再利用した円盤形土製品である。見込には蛇の目釉剝ぎが認められる。

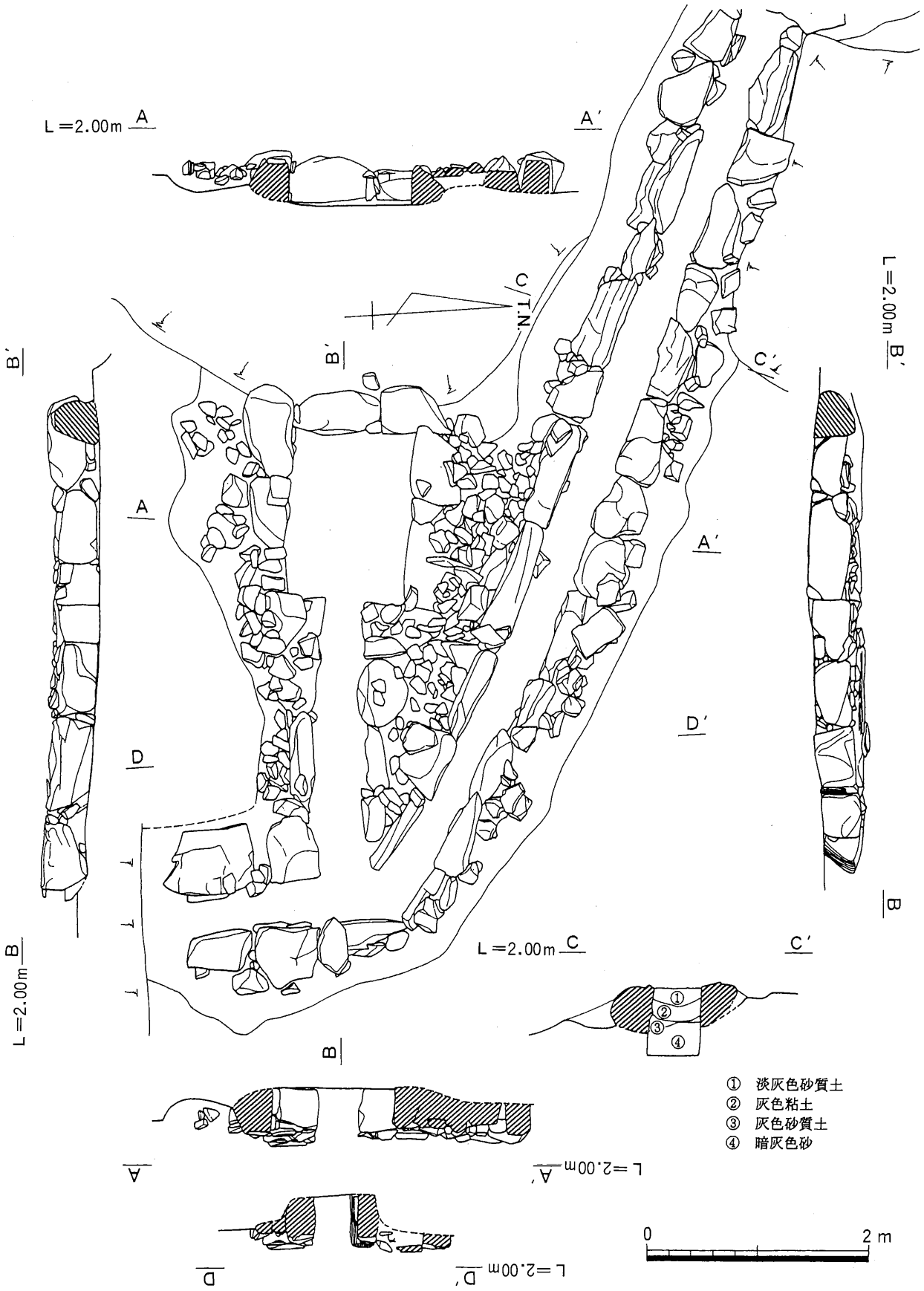
1773～1776は肥前系の碗である。1777は外面が連華状を呈する白磁の碗である。1779は備前の灯明皿である。1780は白磁の紅皿である。

1782～1786は陶器・瓦等を再利用した円盤形土製品である。各遺構面から多量に出土しているが，用途は不明である。玩具として利用されていたのであろうか。

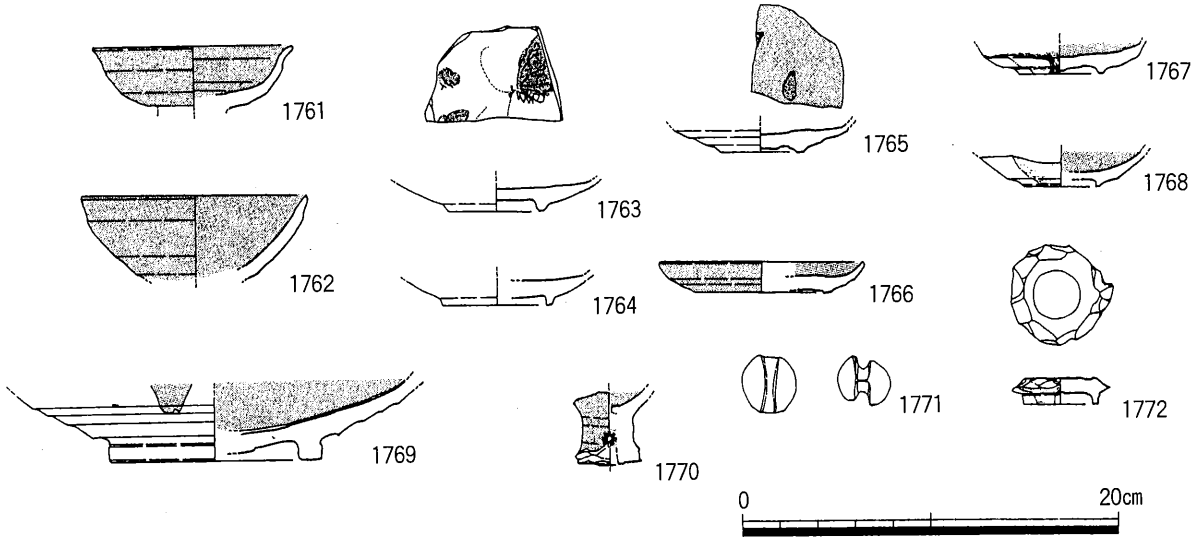
1787～1790は瓦類である。

1787は鬼瓦の文様部分である。松平家の家紋である三葉葵の一部であると考えられる。裏面には棟に取り付ける部分である龍頭が認められる。

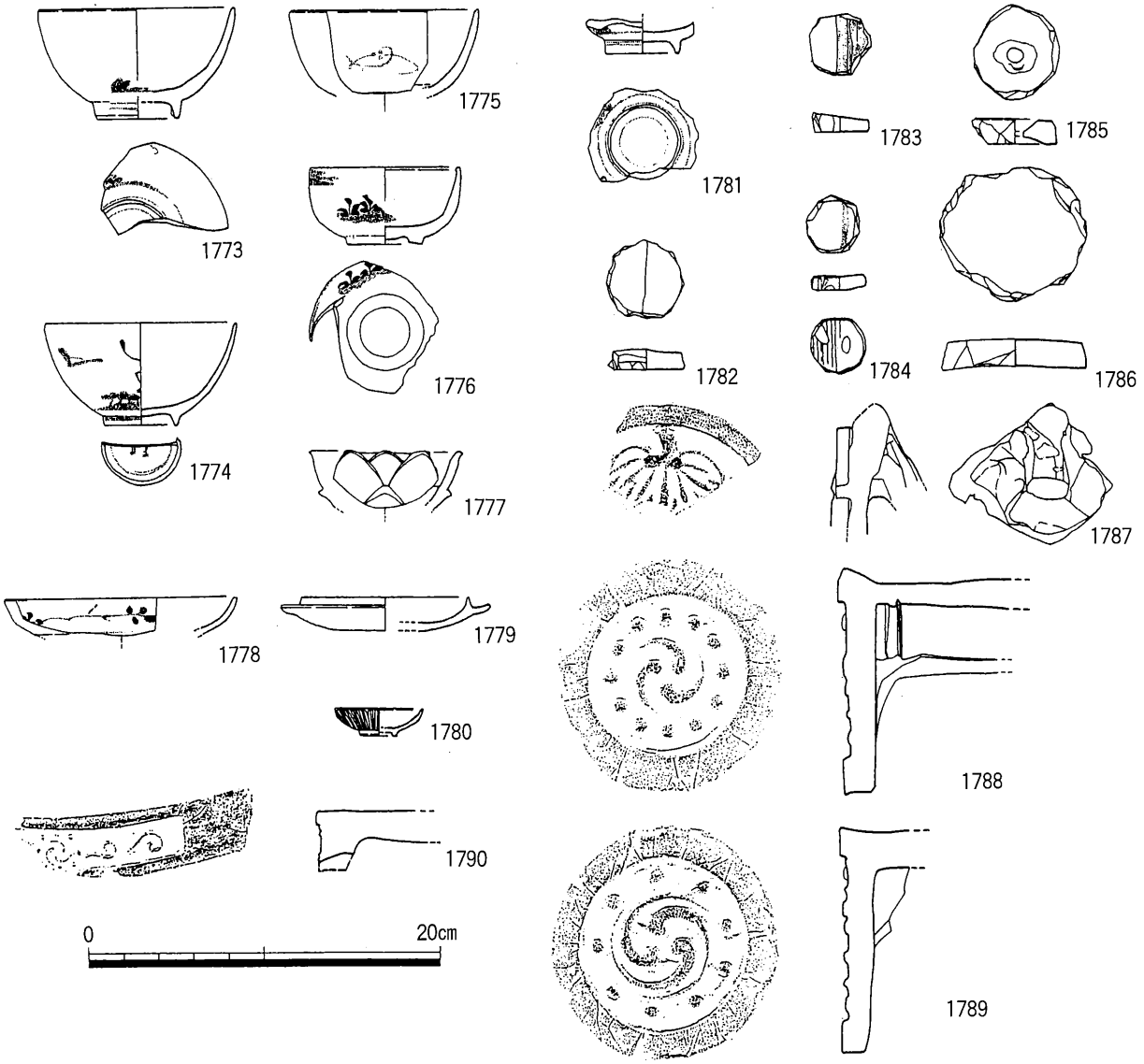
1788・1789は巴文軒丸瓦である。大きさは酷似するが，珠文の数や尾の巻き方に相違点が認められる。1790は軒平瓦である。中心飾りは巴文で周囲を珠文が巡る。左右には唐草文が２回転回する。



第275図　SD08平・断面図



第276図　SD08出土遺物実測図(1)



第277図　SD08出土遺物実測図(2)

SD 09（図版62(1)）

平成７年度調査で検出したSD 08の続きの溝状遺構である。SD 08の南側に続く溝状遺構であるが，西側のみ石材が検出され，東側は後世の攪乱によって破壊されていた。埋土中からは瓦片と少量の陶磁器片が出土した。

第278～282図はSD 09から出土した遺物の実測図である。

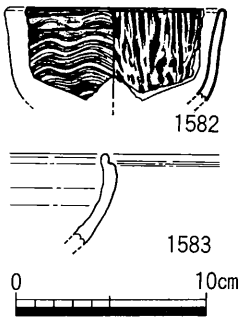
1582は唐津産の陶器である。刷毛目唐津と呼ばれるものに酷似している。

1583は陶器の鉢である。口縁部に突起状のものが認められ，蓋とセットになるものと考えられる。

1584～1600は三巴文軒丸瓦である。

1601～1610は軒平瓦である。

1611～1620は丸瓦である。1616には凸面に四弁花文の刻印が認められる。1619には釘穴が２つあいている。



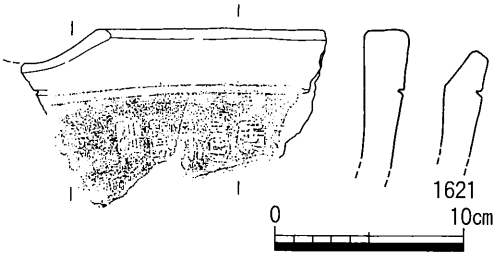
第278図　SD09出土遺物実測図(1)

SK 33

調査区北西部で検出した土坑である。すぐ南側にSK 34があり，南北方向で隣接する。直径約40cmを測る。素焼きの甕が埋設されていた。時期的には明治に入ってからのものであると考えられる。

第283図はSK 33から出土した遺物の実測図である。

1621は土師質の火鉢の口縁部である。製作者の所属を示す刻印が外面に認められる。



第283図　SK33出土遺物実測図

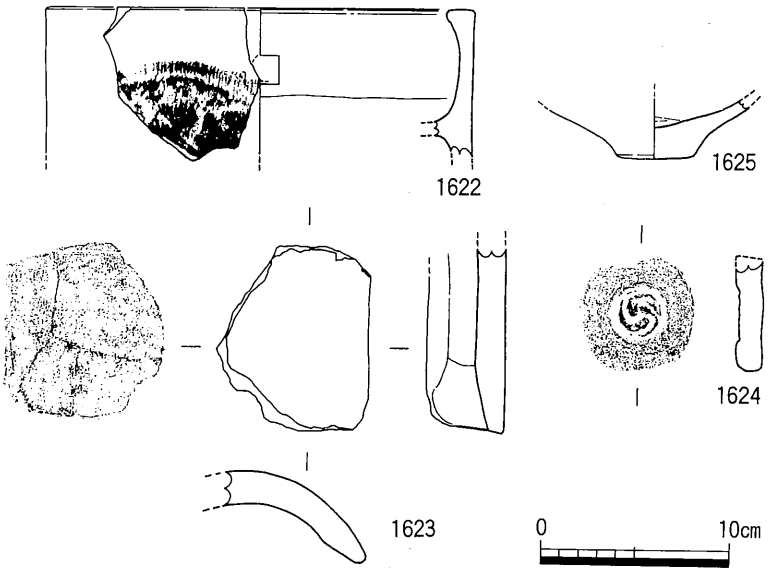
SK 39

調査区中央やや東よりの部分で検出した土坑である。SK 02と同様，素焼きの甕が埋設されていた。規模もほぼ同じである。礎石建物跡の内部に置かれていたものと考える。

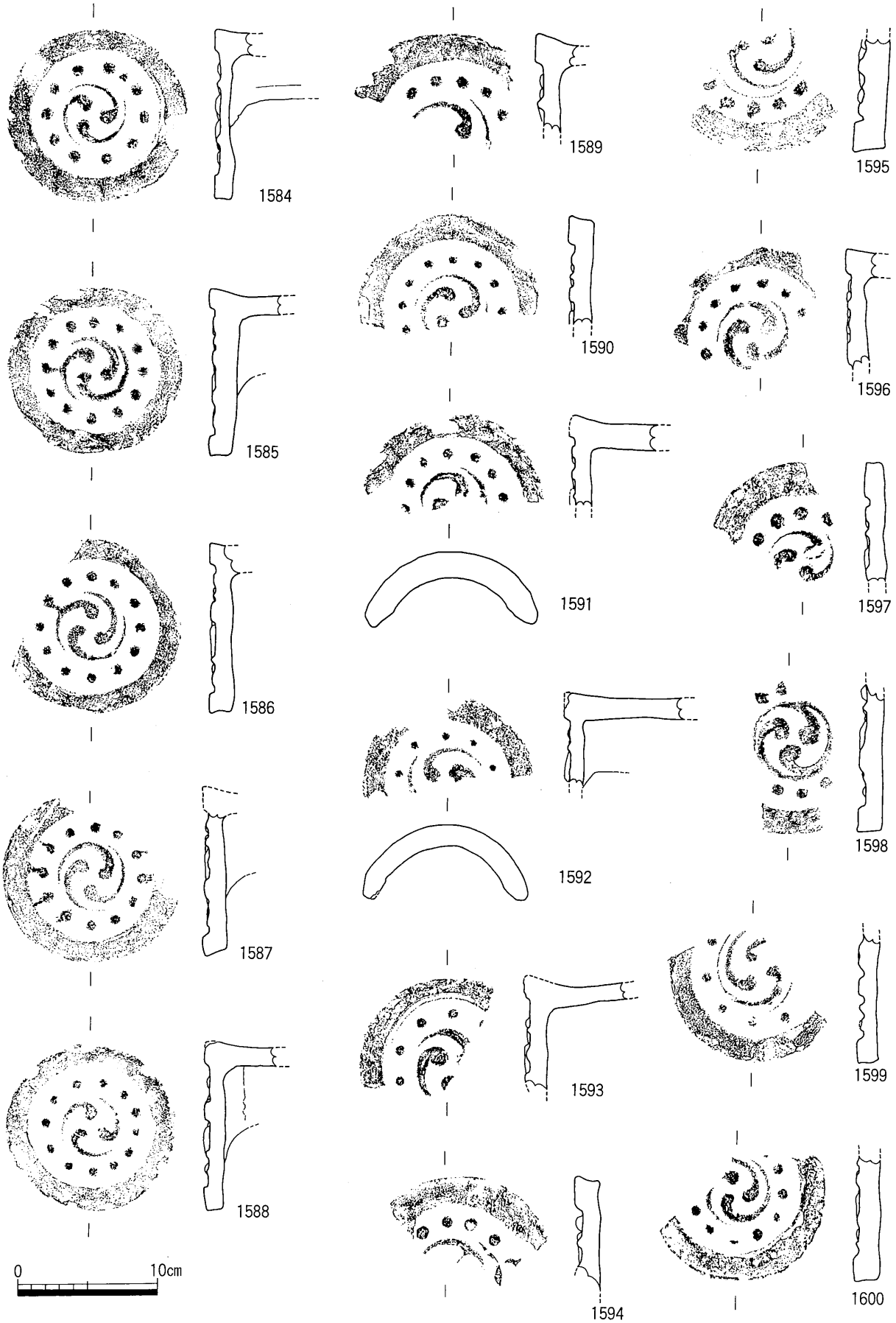
第284図はSK 39から出土した遺物の実測図である。

1622は施釉陶器の涼炉であると思われる。内面中央部に突帯状を呈する架の受けが認められる。

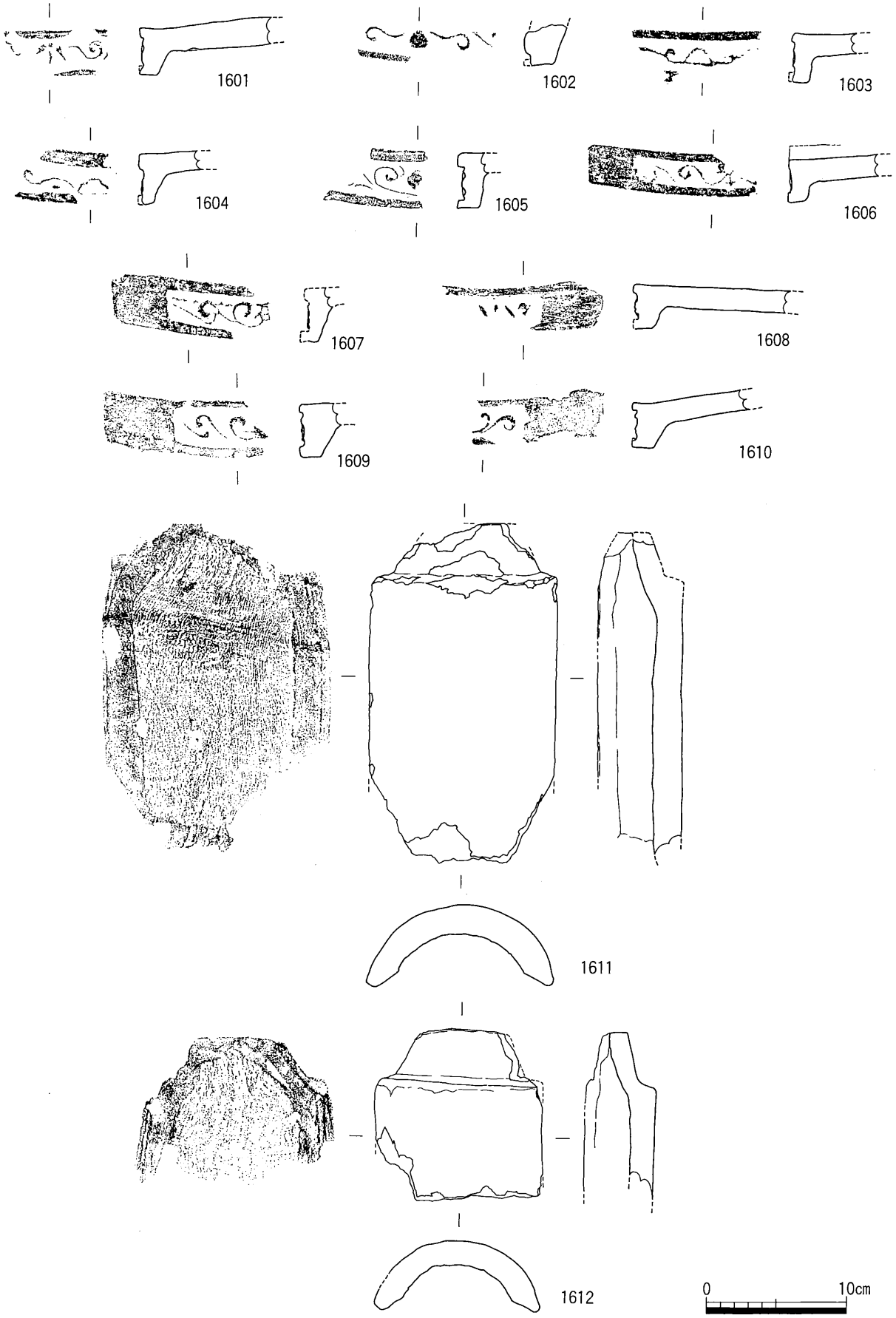
1623は丸瓦，1624は小菊瓦である。三巴文である。



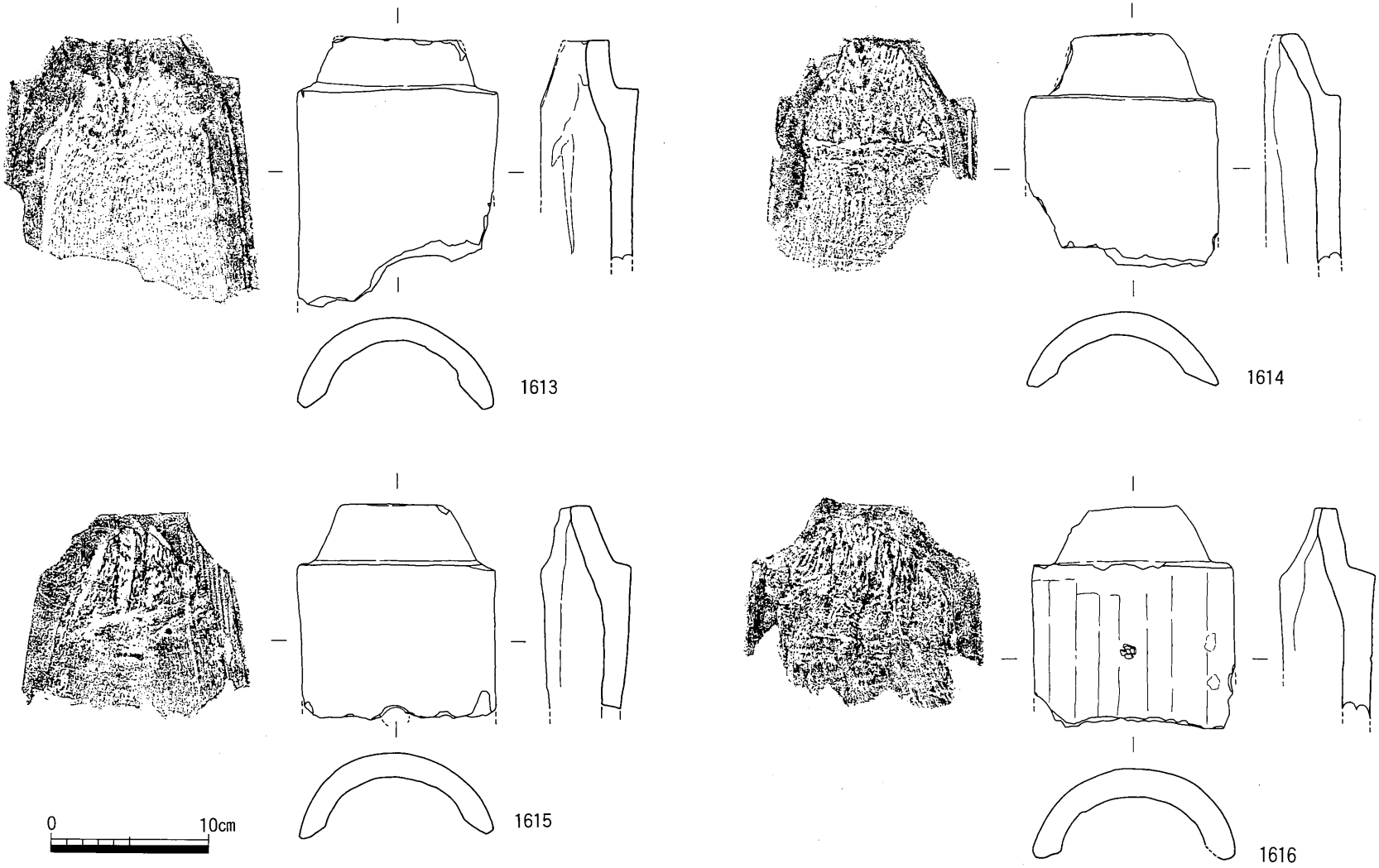
第284図　SK39出土遺物実測図



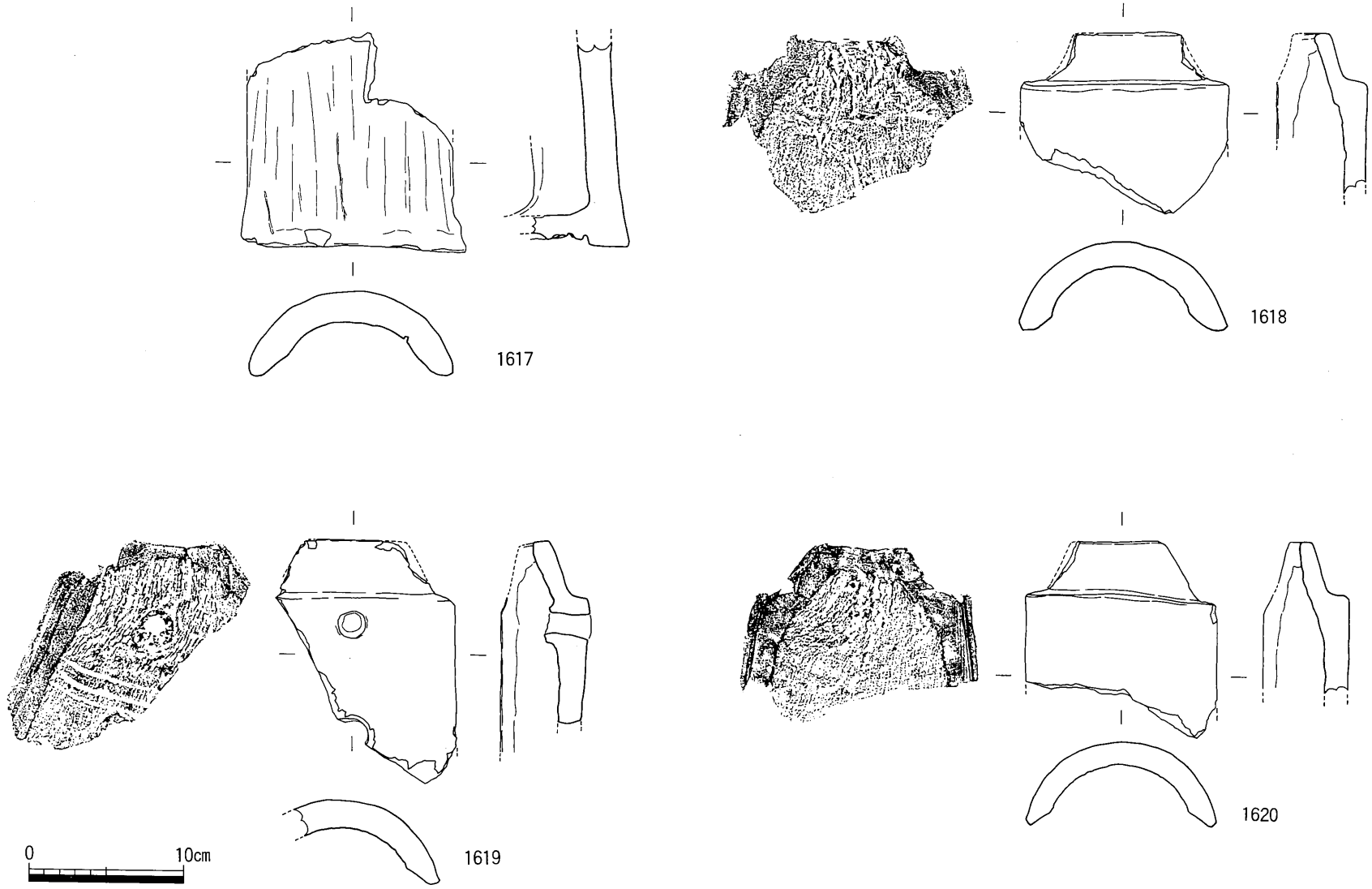
第279図　SD09出土遺物実測図(2)



第280図　SD09出土遺物実測図(3)



第281図　SD09出土遺物実測図(4)



第282図　SD09出土遺物実測図(5)

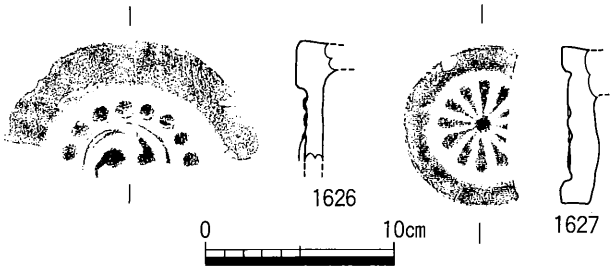
SK 43

調査区中央やや南よりの部分で検出した土坑である。SK 33と規模等は同様である。

第285図はSK 43から出土した遺物の実測図である。

1626は三巴文軒丸瓦である。

1627は小菊瓦である。十二葉の菊花文である。



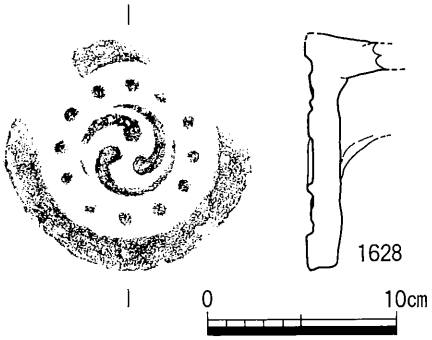
第285図　SK43出土遺物実測図

SK 44

SK 43の西側で検出した土坑である。SK 33等と規模，性格は酷似している。

第286図はSK 44から出土した遺物の実測図である。

1628は三巴文軒丸瓦である。



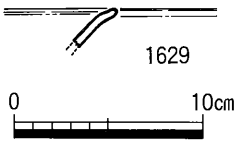
第286図　SK44出土遺物実測図

SK 45

SK 44の西側で検出した土坑である。SK 43・SK 44とほぼ等間隔に東西に並んでいる。規模等は，SK 43と酷似している。

第287図はSK 45から出土した遺物の実測図である。

1629は端反りの陶器の碗である。



第287図　SK45出土遺物実測図

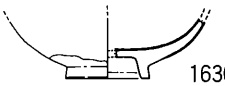
SK 46

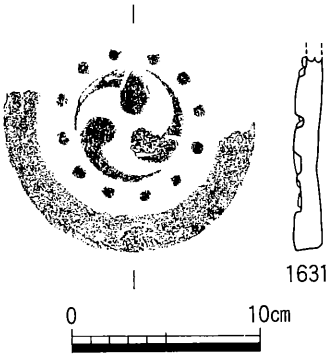
調査区南西部で検出した土坑である。規模等はSK 43等と同じである。

第288図はSK 46から出土した遺物の実測図である。

1630は陶器の碗の底部である。

1631は三巴文軒丸瓦である。





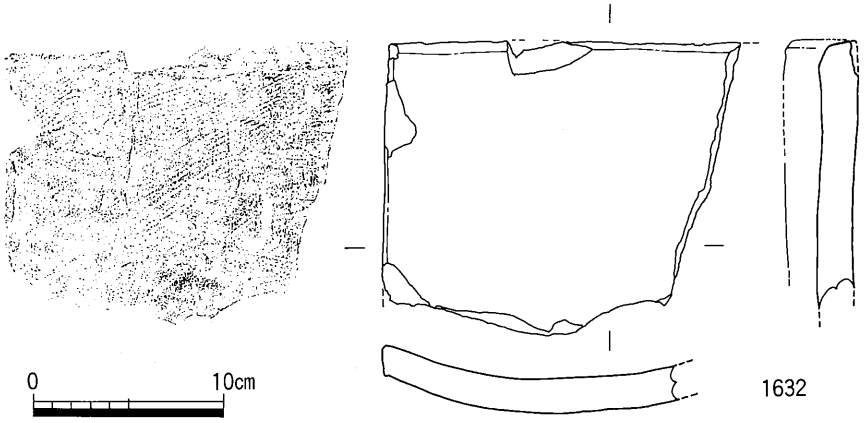
第288図　SK46出土遺物実測図

SK 50

調査区北西部で検出した土坑である。規模や性格等はSK 43等と同じである。

第289図はSK 50から出土した遺物の実測図である。

1632は平瓦である。凹面にはコビキ痕が認められる。



第289図　SK50出土遺物実測図

SK 51

調査区北部で検出した土坑である。規模や性格等はSK 43等と同じである。

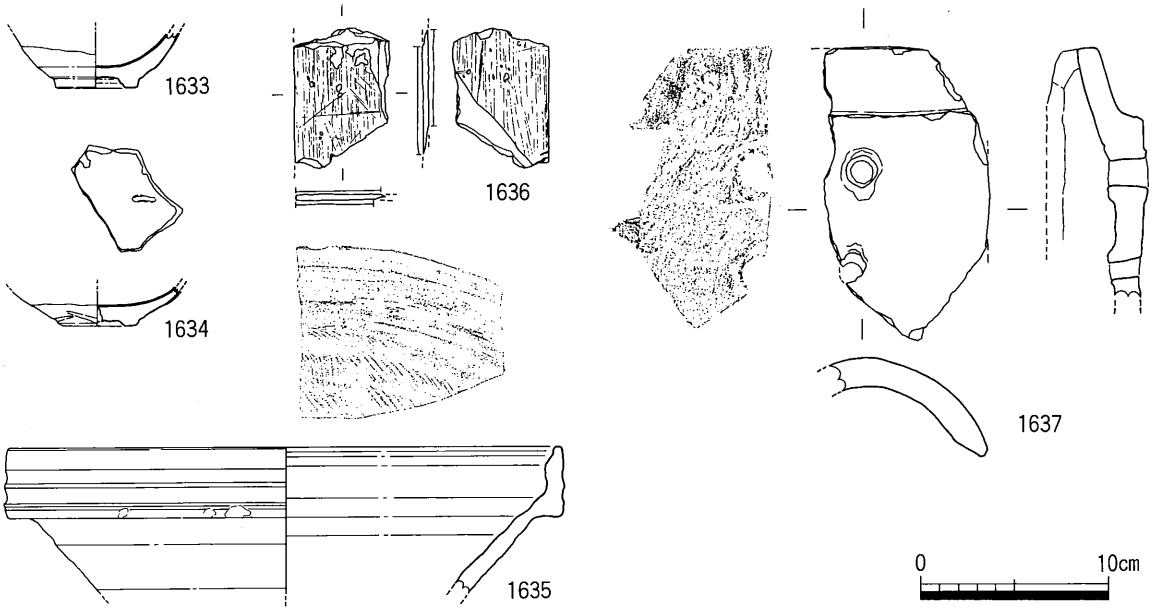
第290図はSK 51から出土した遺物の実測図である。

1633・1634は陶器の碗の底部である。

1635は備前産の擂鉢である。

1636は砥石である。

1637は丸瓦である。釘穴が2つあいている。



第290図　SK51出土遺物実測図

SK 52

調査区北東部で検出した土坑である。規模や性格等はSK 43等と同じである。

第291図はSK 52から出土した遺物の実測図である。

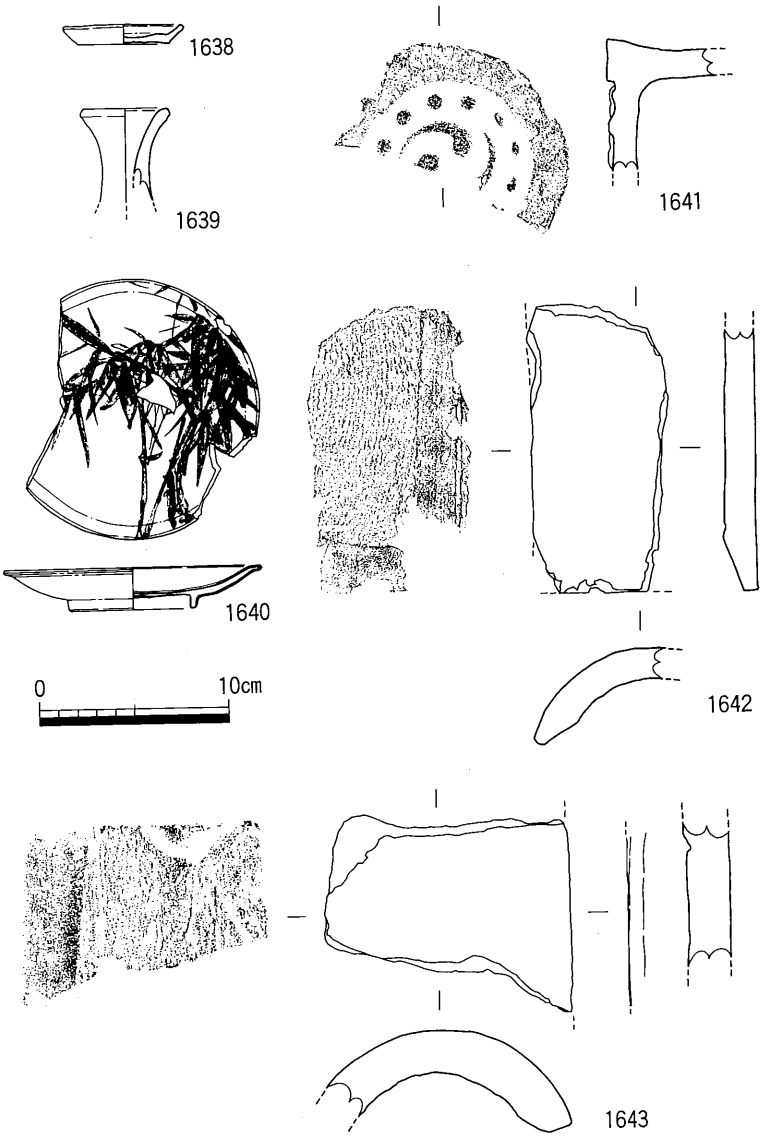
1638は土師器の小皿である。

1639は陶器の徳利状の壺の頸部である。

1640は磁器の皿である。内面には竹が描かれている。

1641は三巴文軒丸瓦である。

1642・1643は丸瓦である。1643は凹面に布を綴じた紐の痕跡が認められる。



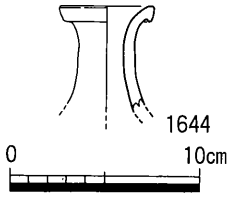
第291図　SK52出土遺物実測図

SK 53

調査区北東部，石垣のそばで検出した土坑である。規模や性格等はSK 43等と同じである。

第292図はSK 53から出土した遺物の実測図である。

1644は徳利状を呈する壺の頸の部分である。



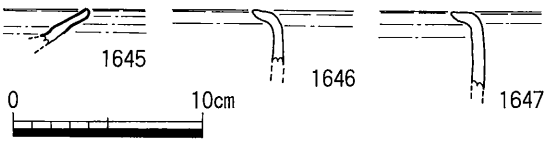
第292図　SK53出土遺物実測図

SK 54

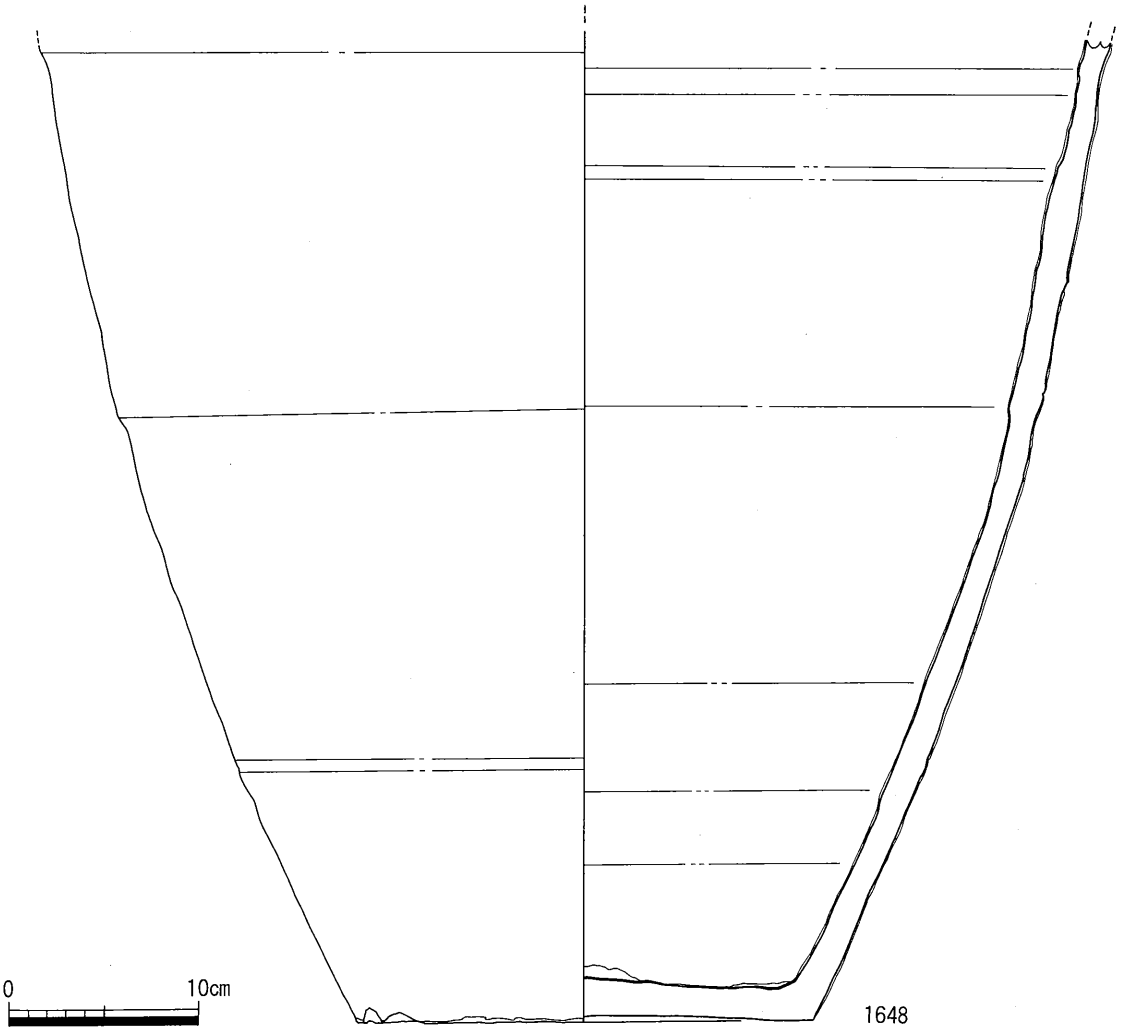
SA 04を破壊して構築された土坑である。直径約40cm程度で素焼きの甕を埋設していた。

第293図はSK 54から出土した遺物の実測図である。

1645は皿，1646・1647は備前産の鉢の口縁部である。短部は内側に折り曲げている。



第293図　SK54出土遺物実測図



第294図　SK55出土遺物実測図

SK 55

SK 54の東側で検出した土坑である。直径約50cmで陶器の甕を埋設していた。

第294図はSK 55から出土した遺物の実測図である。

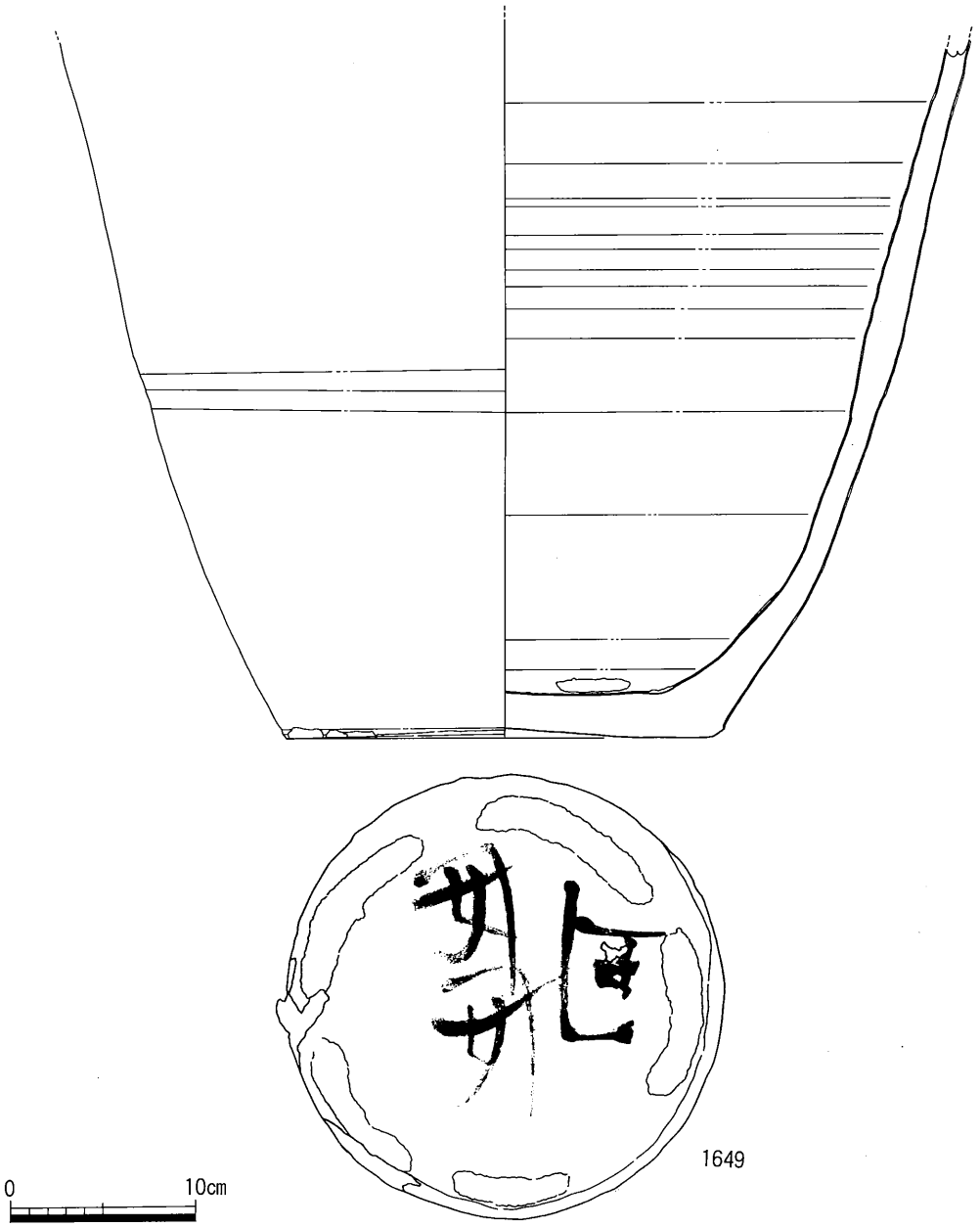
1648は陶器の大甕である。胎土・釉薬からみて阿波の大谷焼であると考えられる。

SK 58

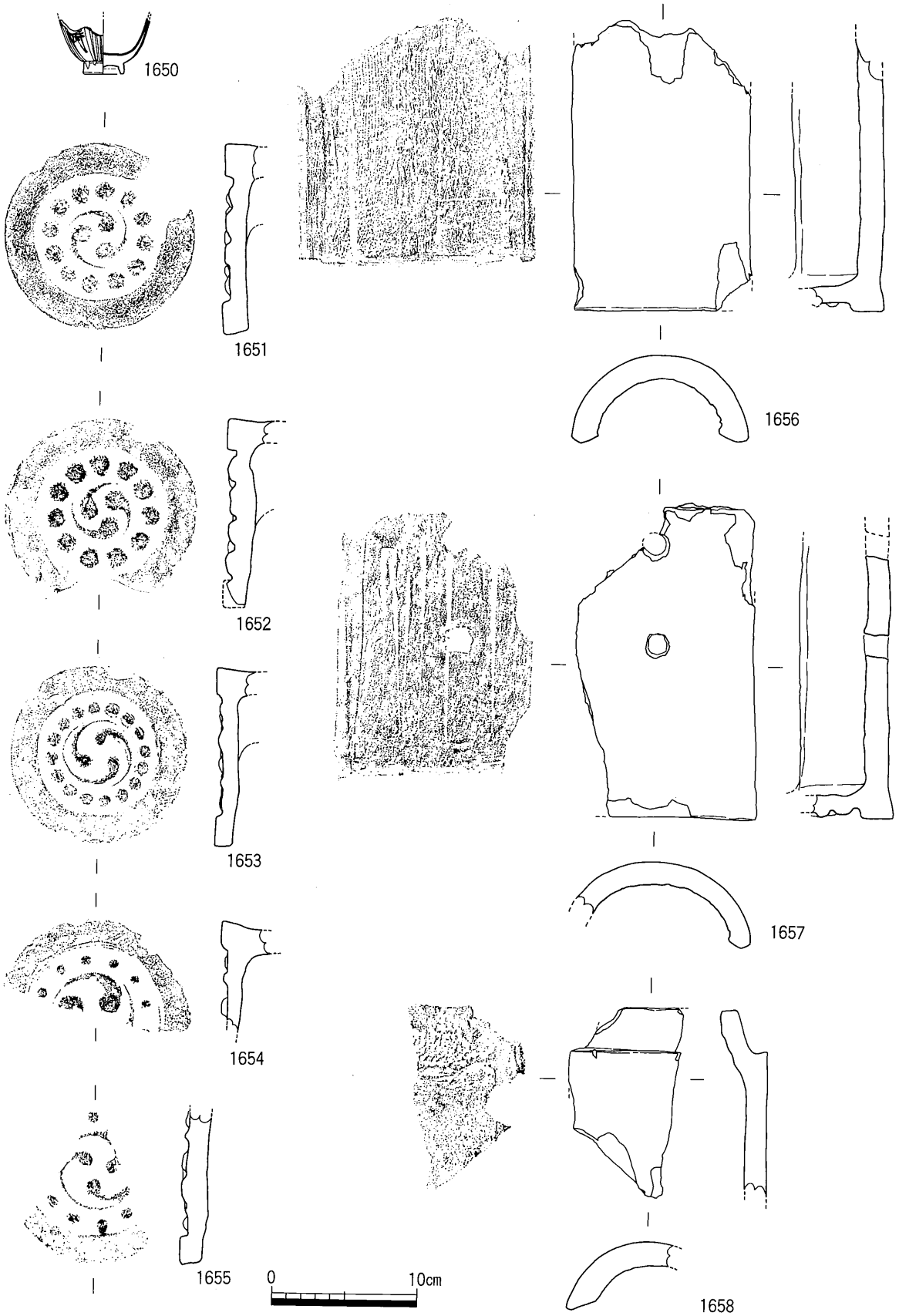
SK 55の東側で検出した土坑である。SK 55と規模・性格等は酷似している。

第295図はSK 58から出土した遺物の実測図である。

1649は大谷焼の大甕である。底部外面には「女」という字が2ヶ所，その他1ヶ所に墨書が認められる。



第295図　SK58出土遺物実測図



第296図　SK59出土遺物実測図

SK 59

調査区北東部で検出した土坑である。直径約50cmで規模・性格等はSK 55と酷似している。

第296図はSK 59から出土した遺物の実測図である。

1650は染付の酒盃である。

1651～1655は三巴文軒丸瓦である。1656，1657は軒丸瓦である。軒部は欠損している。

1658は丸瓦である。

SK 60

調査区ほぼ中央部で検出した土坑である。

第297・298図はSK 60から出土した遺物の実測図である。

1659～1661は土師器の皿である。1661は大型である。

1662は有溝土錘である。

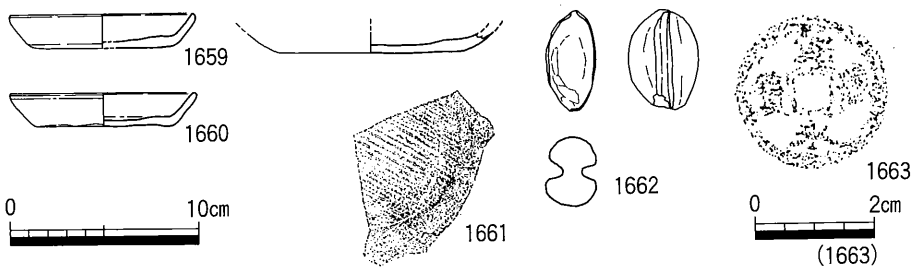
1663は古銭である。寛永通宝である。

1664～1668は三巴文軒丸瓦である。

1669は軒平瓦である。

1670～1673は丸瓦である。

1674は平瓦である。ヘラ状の工具でなでた痕跡が認められる。



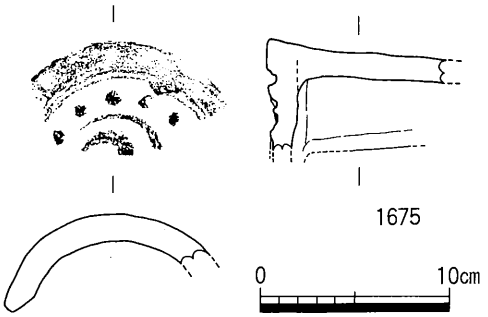
第297図　SK60出土遺物実測図(1)

SK 62

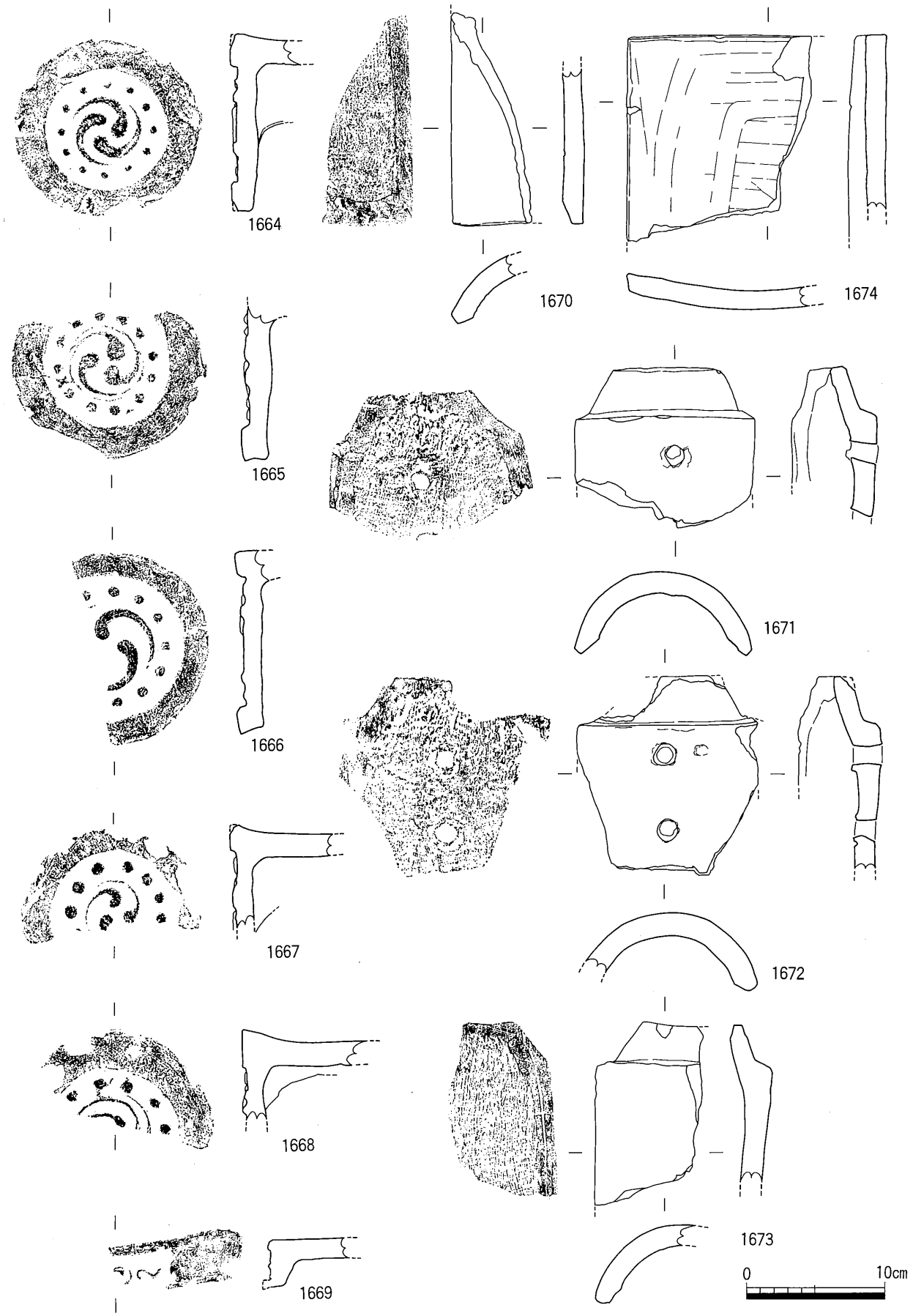
調査区東部で検出した土坑である。

第299図はSK 62から出土した遺物の実測図である。

1675は三巴文軒丸瓦である。



第299図　SK62出土遺物実測図

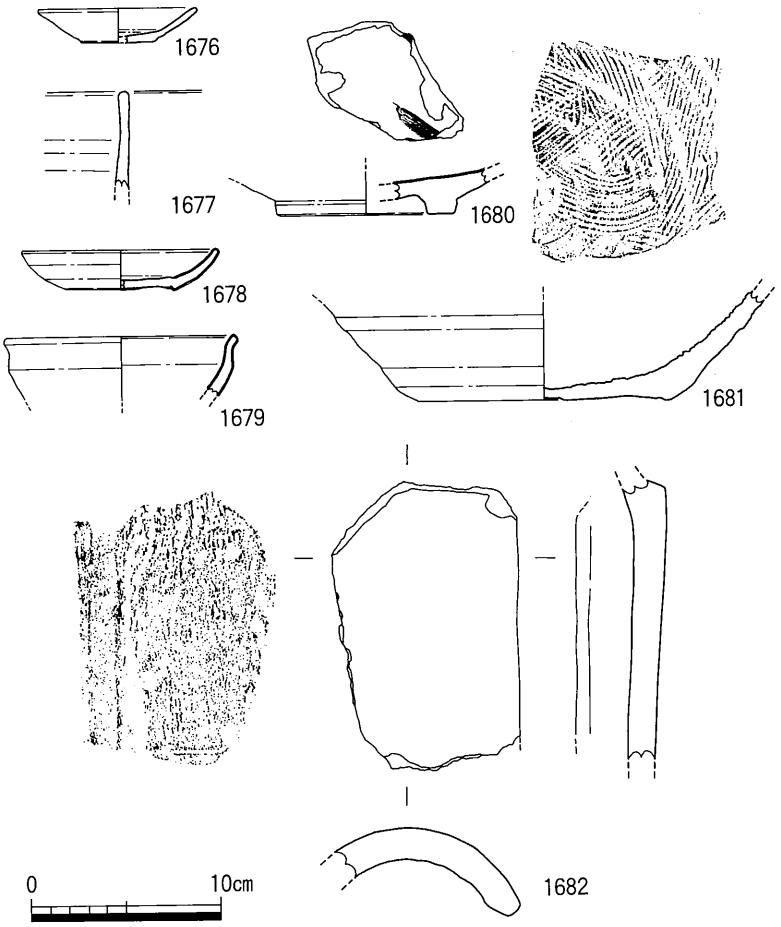


第298図　SK60出土遺物実測図(2)

SK 63

調査区中央部で検出した土坑である。規模・性格等はSK 62等と同じである。

第300図はSK 63から出土した遺物の実測図である。



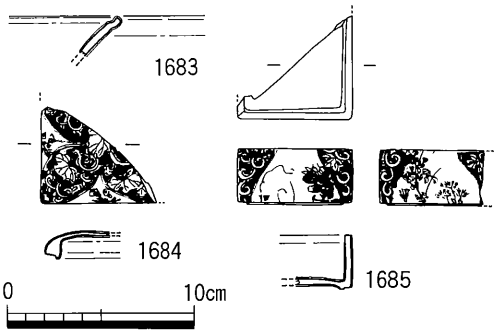
第300図　SK63出土遺物実測図

SK 64

調査区北東部の石垣のそばで検出した土坑である。SK 53と規模・性格等は酷似している。

第301図はSK 64から出土した遺物の実測図である。

1684・1685は染付の合子である。1684が蓋，1685が身である。蓋・身ともに草花文が描かれている。肥前産と考えられる。



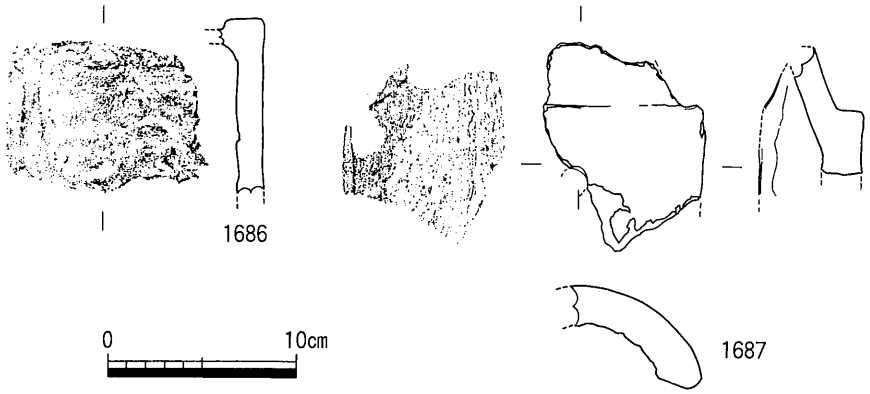
第301図　SK64出土遺物実測図

SK 66

調査区中央やや北よりの部分で検出した土坑である。

第302図はSK 66から出土した遺物の実測図である。

1687は丸瓦である。



第302図　SK66出土遺物実測図

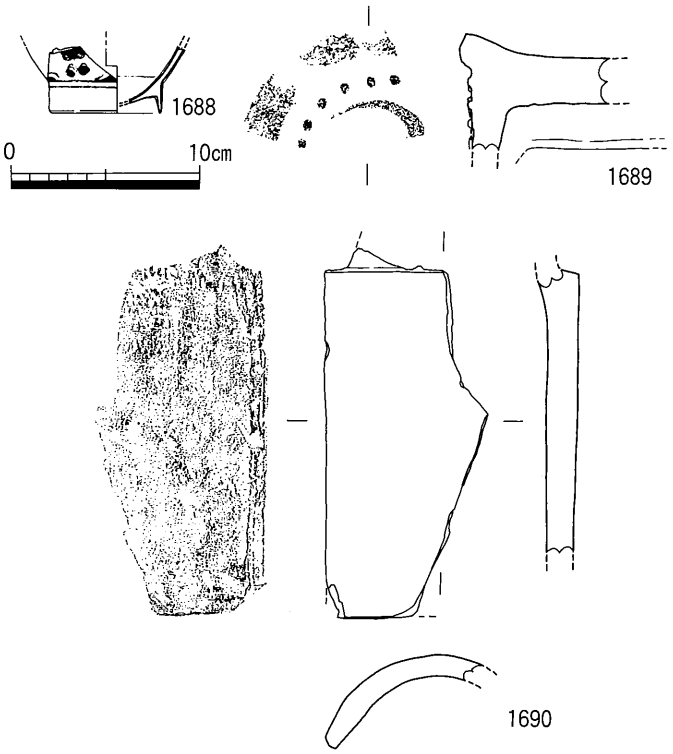
SK 67

調査区中央やや北より，SA 04付近で検出した土坑である。

第303図はSK 67から出土した遺物の実測図である。

1688は肥前産の染付碗である。いわゆるくらわんか茶碗と呼ばれるタイプのものである。

1689は軒丸瓦，1690は丸瓦である。



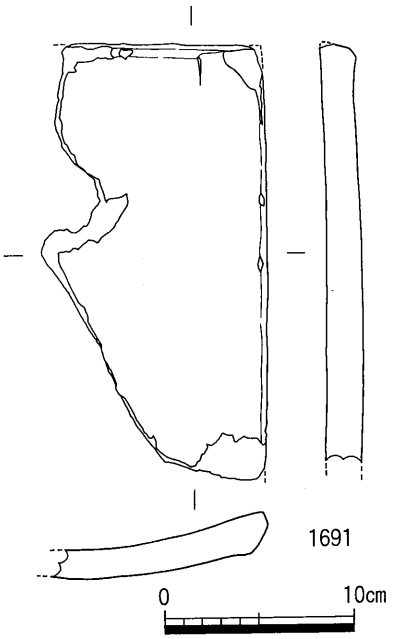
第303図　SK67出土遺物実測図

SK 68

調査区中央部で検出した土坑である。

第304図はSK 68から出土した遺物の実測図である。

1691は平瓦である。



第304図　SK68出土遺物実測図

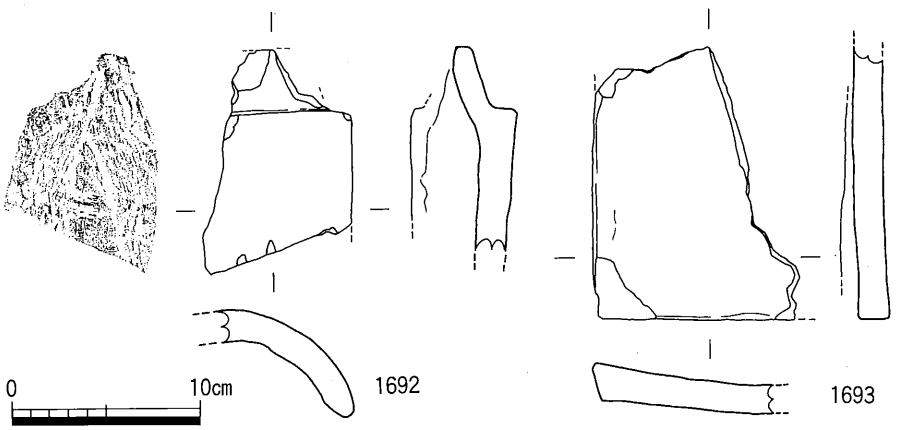
SK 70

調査区北西部で検出した土坑である。

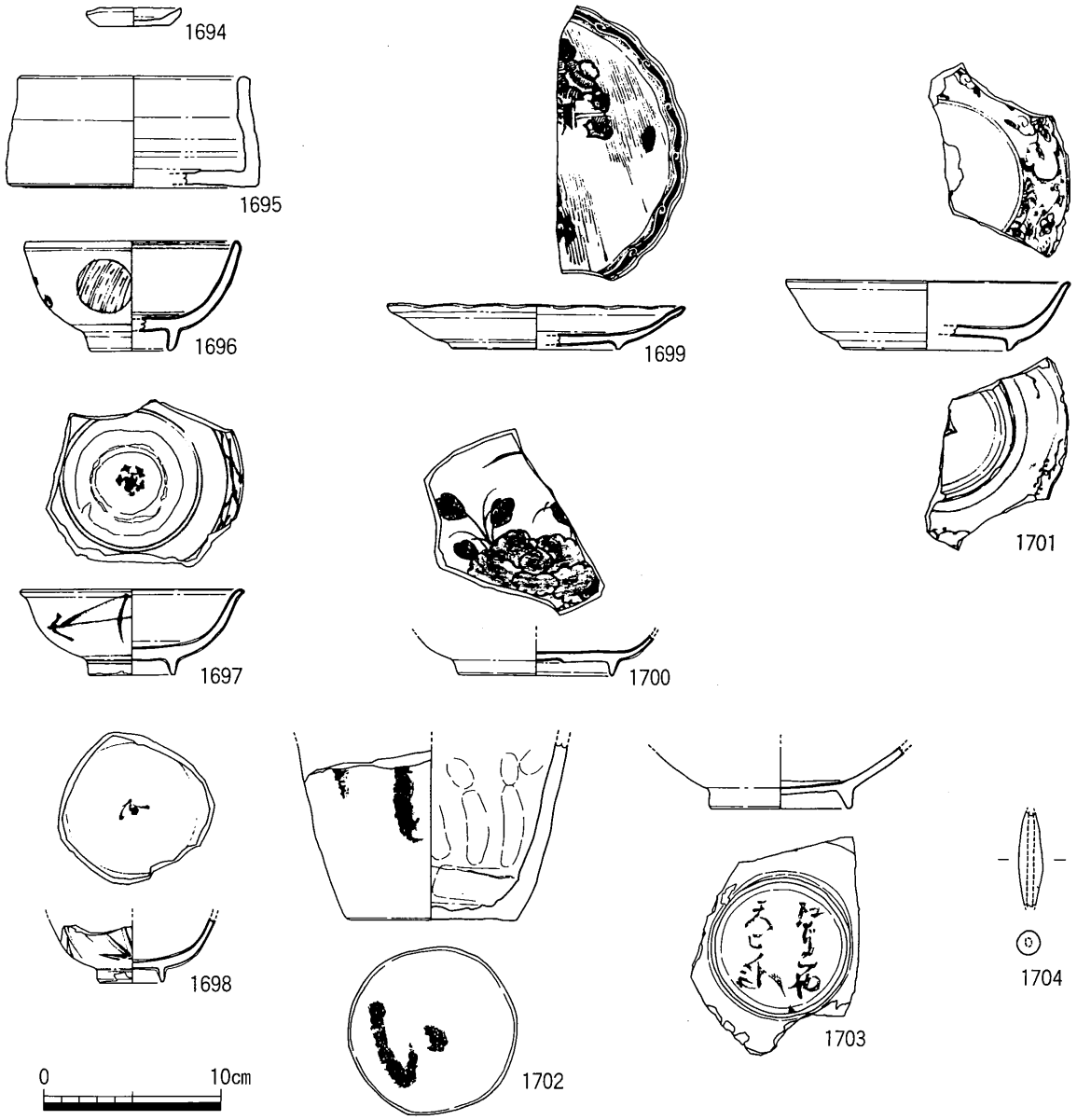
第305図はSK 70から出土した遺物の実測図である。

1692は丸瓦である。

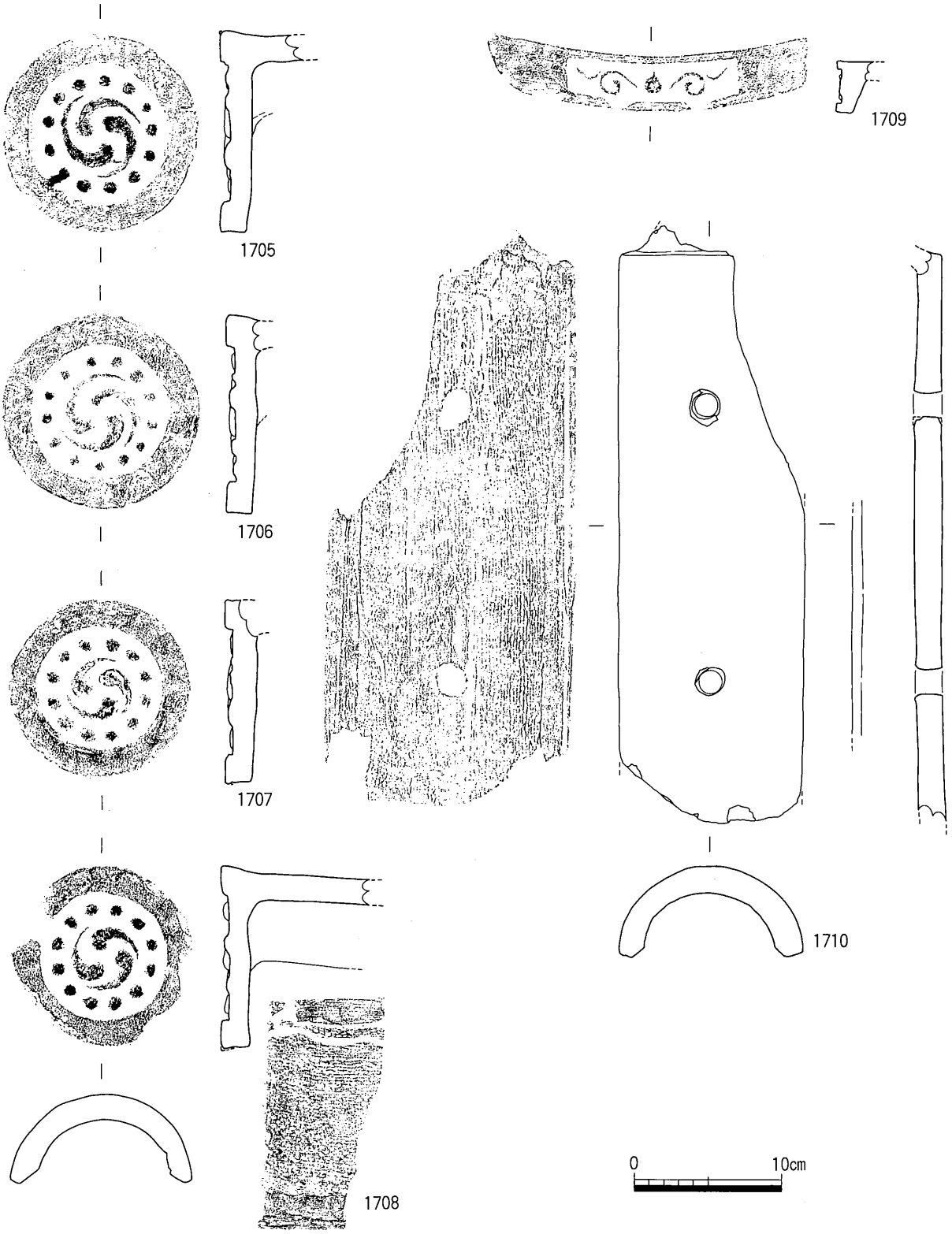
1693は平瓦である。



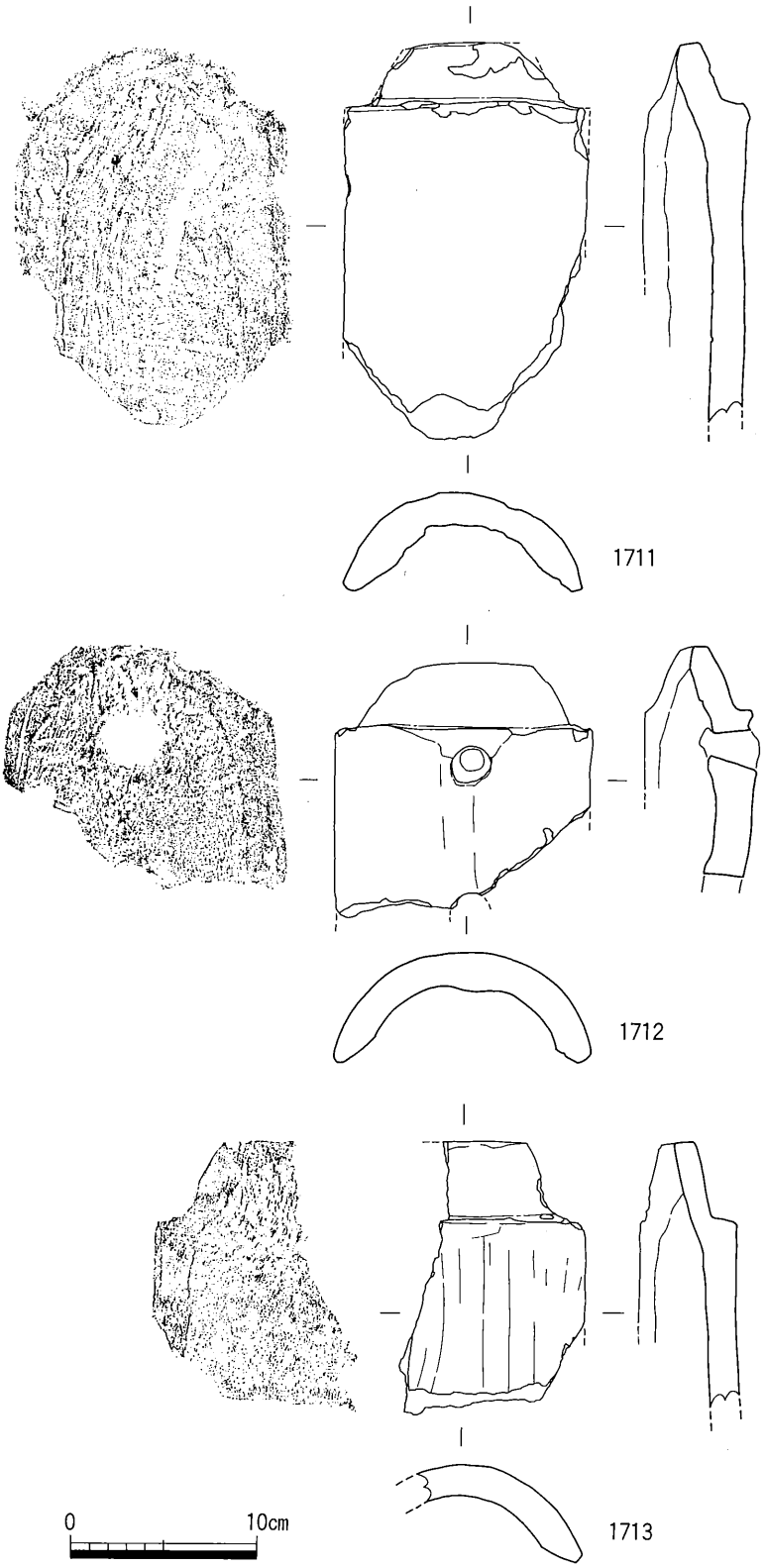
第305図　SK70出土遺物実測図



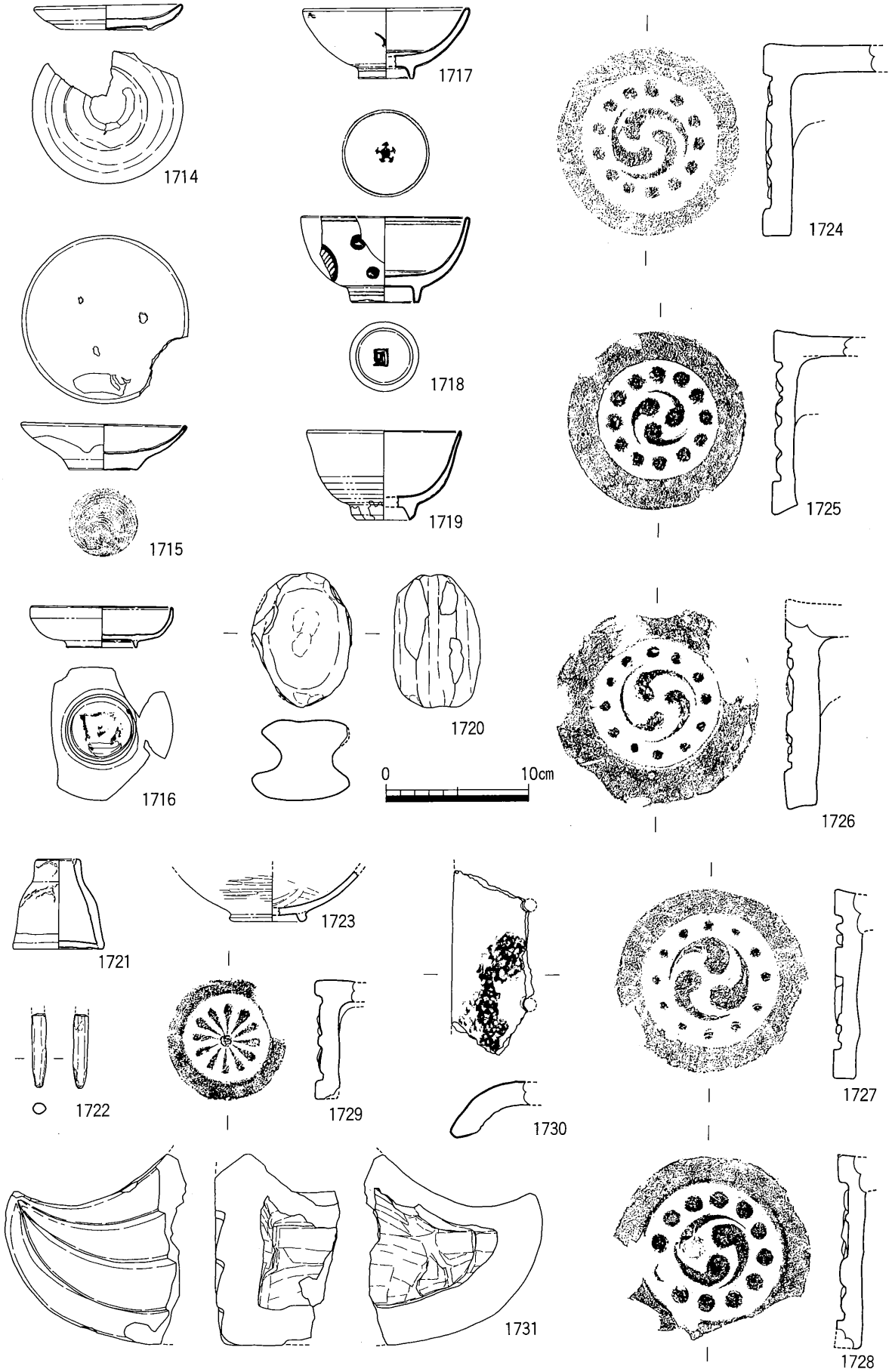
第306図　堀埋土中出土遺物実測図(1)



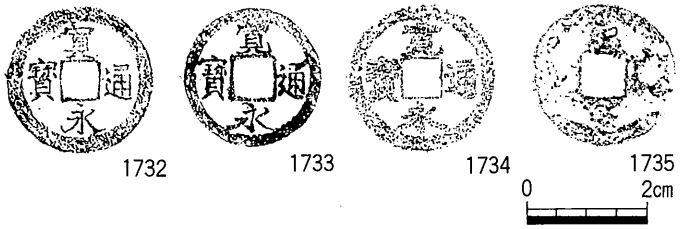
第307図　堀埋土中出土遺物実測図(2)



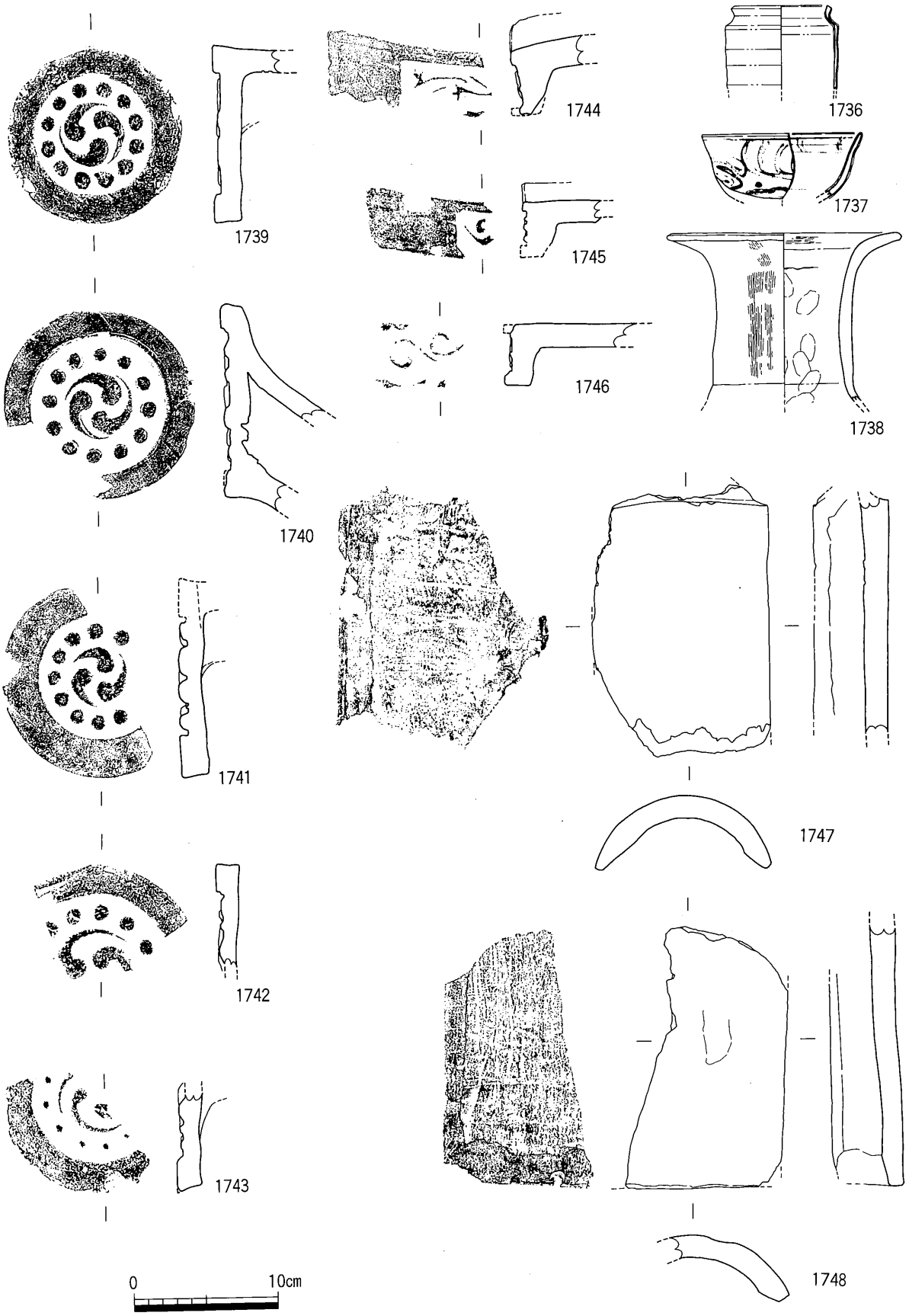
第308図　SK94出土遺物実測図



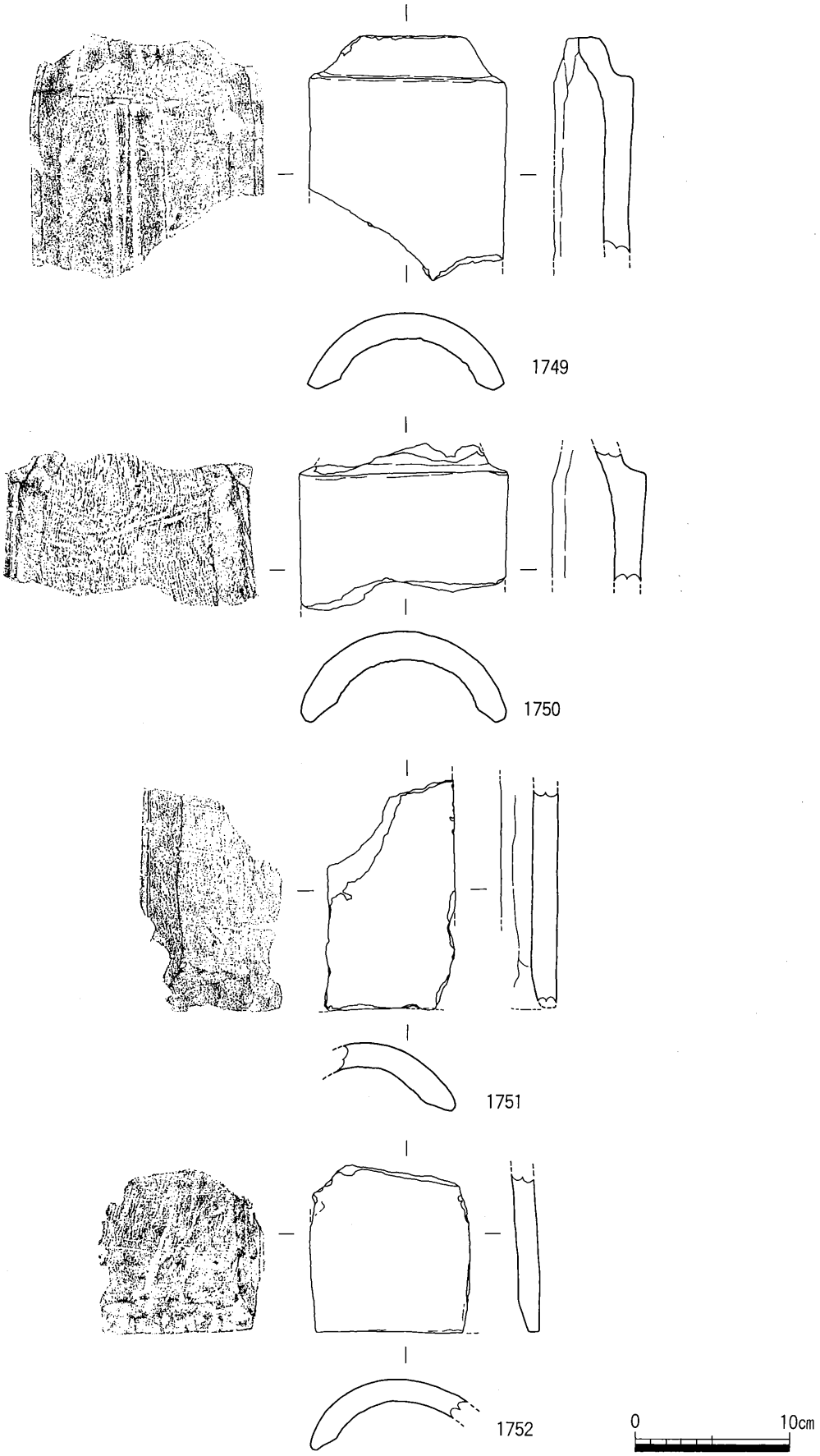
第309図　第Ⅰ遺構面上層出土遺物実測図(Ⅰ)



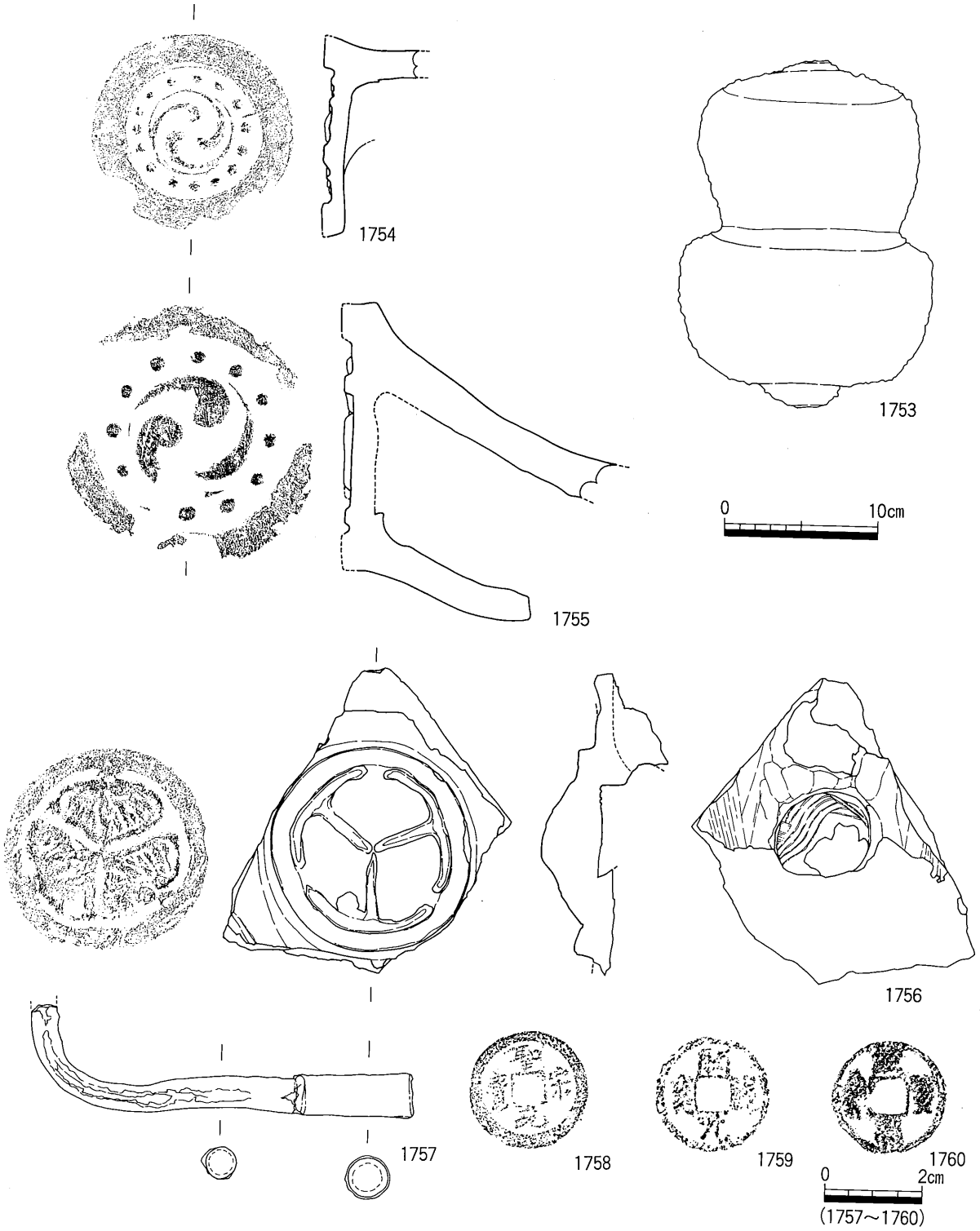
第310図　第Ⅰ遺構面上層出土遺物実測図(2)



第311図　その他の出土遺物実測図(1)



第312図　その他の出土遺物実測図(2)



第313図　その他の出土遺物実測図(3)

SX 34

SX 35

堀の埋土から出土した遺物について

今回の調査では東ノ丸の石垣およびその東側の堀跡を検出したが，堀の埋土中からも遺物が出土している。

第306・307図は堀の埋土から出土した遺物の実測図である。

1694は土師器の小皿である。

1695は備前産の鉢である。

1696～1701は染付である。1696～1698は碗，1699～1701は皿である。1697は見込に五弁花文のスタンプ文が認められる。

1702は土師質の甕である。外面および底部に墨書が認められる。そのうち底部は「い」と読める。

1703は陶器の鉢の低部である。「たばこや□□□」と認められる。明治以降のものであろう。

1704は管状土錘である。

1705～1708は三巴文軒丸瓦である。

1709は軒平瓦である。団栗状の中心飾りから子葉が1回転回するものである。

1710は丸瓦である。非常に長いもので釘穴が2つあいている。

SK 94

調査区北部で検出した土坑である。瓦片が大量に検出された。

第308図はSK 94から出土した遺物の実測図である。

1711～1713は丸瓦である。1712には釘穴が1つあいている。

第1遺構面上層の出土遺物について

第309・310図は第1遺構面上層から出土した遺物の実測図である。

1714は瀬戸・美濃産の丸皿である。1715は陶器の皿である。

1717・1718は染付の碗である。1718には見込に五弁花文，高台内部に渦福文が認められる。

1720は有溝土錘である。

1723は瓦質土器椀である。

1724～1728は三巴文軒丸瓦である。

1729は小菊瓦である。十二弁の菊花文である。

1730は施釉瓦である。白色の長石釉であることから瀬戸・美濃産であると考えられる。

1731は鬼瓦の裾の部分である。

1732～1735は古銭である。すべて寛永通宝である。

その他の出土遺物

第311～313図はその他の出土遺物である。

1737は染付碗である。

1738は弥生土器の壺である。下層の砂層からの混入であると考えられる。

1739・1741～1743は三巴文軒丸瓦である。

1740は三巴文の鳥衾である。

1744～1746は軒平瓦である。

1747～1752は丸瓦である。

1753は石製の五輪塔の一部である。花崗岩を加工して作っている。空輪と風輪とを一石で仕上げている。江戸時代後期以降のものであろう。

1754は三巴文軒丸瓦である。

1755は三巴文鳥衾である。

1756は鬼瓦の一部である。中心飾りは松平家の家紋である三葉葵である。

1757は金属器である。青銅製の煙管の一部であると考えられる。

1758～1760は古銭である。1758は聖宋元宝（初鋳年1101年），1759は開元通宝（初鋳年621年），1760は元豊通宝（初鋳年1078年）である。

第4章　ま　と　め

第1節　東の丸の変遷

ここでは，発掘調査で検出した遺構・遺物をもとに東の丸の変遷を追ってみたい。

第Ⅰ期（1588年以前，付図1参照）

この時期には，北半部において石組の墓であると考えられる遺構を数基検出したのみである。これらの墓には，有溝土錘が多く副葬されており，漁業を生業としていた人の墓であると考えられる。北側の県民ホールの調査の際にも同じ様相を呈しており，1588年，つまり，生駒親正が高松に入府する以前は，閑散とした漁村であったと考えられる。

第Ⅱ期（1588年～生駒家改易，付図1参照）

この時期は，生駒氏が高松藩を統治していた時期にあたる。調査地は，高松城の外側にあたり，武家屋敷と町人町が南北に並列していたことが「生駒藩屋敷割図」や「高松城下図屏風」などから見てとれる。「屋敷割図」によると，最も西側の町人町は「うほのたな町」になっており，地割の復元等から勘案すると，調査区内で検出した石垣の東側にあたると考えられる。

調査の結果，この時期の遺構としては礎石建物跡や井戸跡，石組の溝状遺構等があるが，この溝状遺構と礎石建物跡の主軸はほぼ同じであり，真北より約5°西偏する。また，溝状遺構は2条検出しているが，この2条の溝状遺構は約5mの間隔を空けて平行している。溝状遺構間の部分には，遺構はもちろん，礎石等と考えられる石材もほとんど検出していない。

以上のことから，この溝状遺構は道路の側溝であると考えられ，この時期には真北より約5°西偏した方向が地割の基準であったと考えられる。

第Ⅲ期（生駒家改易～東ノ丸造成，付図2参照）

この時期は，初代高松藩主である松平頼重の時代にほぼ相当する。この時期の遺構はのちの東ノ丸の造成により，破壊されている部分が多く，検出した遺構の多くは井戸である。この時期の様相を示す資料としては，「高松城下図屏風」があげられる。「屏風」では堀の東側には武家屋敷と商店が並ぶ様子が描かれている。調査地はこの「屏風」の三曲目の下側にあたり，広い敷地を持つ武家屋敷と長屋のような構造をし，入口に暖簾のようなものが認められる商店が並んでいる様子が伺える。遺構からはこのような様子を復元することは困難であるが，この時期の様相は基本的には第Ⅱ期と同様であると考えられる。

第Ⅳ期（東ノ丸造成～19世紀後半，付図3参照）

この時期は，いわゆる東ノ丸が造成されてから幕末にいたるまでの時期である。後世の撹乱がひどく，遺構の残存状況は悪い。その中で最も残りがいいのが石垣である。石垣の裏込め土中から出土した遺物の多くは17世紀後半もしくはその少し前のものがほとんどであることから石垣は17世紀後半に構築され

たものであることは疑いないであろう。

ただし，石垣そのものは構築してからまもなく，何度も崩落しており，多くの部分に補修の痕跡が認められる。これらの詳細については後節に譲ることとしたい。

第Ⅴ期（19世紀後半以降，付図４参照）

この時期は，幕末から明治にかけての時期にあたり，高松城がその役目を終える時期でもある。幕末には，調査区の北側に米蔵丸，南側に作事丸があったことが，絵図等から類推される。特に慶応２年ごろに描かれたとされている絵図には東西に長い倉庫が認められ，この倉庫は，北側の県民ホールの調査で検出している。

今回の調査では調査区の中央部に東西に長い石列が出土し，これが米蔵丸と作事丸との境界を示すものではないかと考えている。この石列の南側には多くの，礎石と考えられる石材が規則的に並んでおり，作事丸の建物の一部ではないかと考えられる。

第２節　検出した石垣遺構について

・石垣の特徴

今回の調査で検出した石垣は平均高約５ｍ，総延長66ｍに及ぶ。北側に現存する史跡石垣の延長であることは確実であるが，幕末の絵図（慶応２年ごろに描かれたといわれる）に見られる東門およびその内側の枡形は検出できなかった。県民ホールの調査においても検出されていないことから，東門は現在の県民ホールと今回の調査区の間の市道下に埋没している可能性が高いと考えられる。

石垣は検出面から数えて上から２段目に明確に目が通る部分が認められる。これは恐らく幕末もしくは近代に積み直した痕跡であると考えられる。上２段の石材に認められる飛矢幅は下部のものよりも狭く，これは金属製の矢を用いて石材を割ったことを示している。下部の石材に認められる飛矢幅は上段のものよりも広く，これは木製（恐らく樫材）の矢を用いて石材を割ったことを示している。この技法の差は明確な時期差と考えてよく，木田郡牟礼町や庵治町においては近代になって金属製の矢が使用されるようになったことから上段の石材は近世末期から近代に新たに積み直されたものであろう。なお，その際に石垣内部の東の丸から堀に排水するための組み合わせ式の石製の樋管も石垣内部に埋設されていた。

さて，下段の石垣であるが，全体を概観すると，何カ所か斜め方向に目が通っている部分が認められる。これは，逆三角形に崩落した石垣を解体せずに石材を崩落した部分に積み直した補修の痕跡と考えられる。特に図版71(2)図版72(1)にみられるように，大きな石材の周囲を形や大きさが比較的似通った若干小さめの石材を円形に配する「笑い積み」という技法が見られる。また，図版73(2)にみられるように，崩落した部分にあわせるように石材を斜めに積んだいわゆる「落とし積み」技法も認められる。「笑い積み」「落とし積み」技法はどちらも江戸時代中期以降に顕著に認められる石積み技法で，特に「落とし積み」は明治以降今日に至るまで比較的多用されているものである。

また，検出した石垣の最下段から１列上段の石材上面にやや目の通っている部分が認められる。この部分の上部で前述の崩落部分が認められるが，このラインより下部においては崩落部分は認められない。また，このラインより上部と下部の石積みには石材の隙間を埋める栗石の施工に明確な違いが認められ

る。すなわち，下部においては石材の隙間がかなり認められ，栗石もやや大きめのものをしっかりと埋め込んでいる。しかし上部においては石材の加工を念入りに行っているため，栗石の数は少なく，大きさも小さい。このことは石材を割って加工する技術の差であり，下部の石材の割方はいわゆる「打ち込みハギ」と呼ばれる16世紀末から17世紀前半にかけて城郭の石垣を構築する際に多用された技法であり，したがってより下部の石垣は寛文11年（1671年）の松平頼重による東の丸造成に際して構築されたオリジナルの石垣の一部であると考えられる。より上部の石垣はそれ以降江戸時代を通じて崩落した部分を補修したものであると考えられる。

蛇足ながら，下部の石垣については海砂で約１m覆って現状保存を図っている。

・石垣の内部施設について

〈石垣構築後〉

今回の調査で検出した石垣は近代初期に天端から約２mほど破却され，現地盤より下部に埋没してしまっていたため，上部構造は不明である。しかしながら，北側の県民ホール東側の東面石垣および艮櫓台から西へ延びる北面石垣が現存しているのでこれを概観してみよう。東面石垣は明らかに近代以降積み直されたものでほぼ全体が落とし積みによって積まれている。また，使用している石材も下層のものよりも小振りの黒色の濃い安山岩である。これに対して北面石垣はほぼ往時の姿を保っているものと思われる。これらの石垣を見る限りにおいてはその上部に多聞等の施設があったとは考えにくい。また，わずかに残る艮櫓付近の古写真を見ても多聞等は見あたらない。したがって，江戸時代を通じて，東の丸の東面石垣の上部は特別な施設はなかったものと考えられる。また，あったとしても外面に巡る塀のような施設程度のものであったであろう。

〈石垣構築前〉

今回の調査では石垣を解体した下層から２条の大規模な柵列を検出した。（SA 02・03）柱穴の間隔は約1.7mで延長20mに及ぶ。調査区南側へも続くものと考えられる。さらにその東側に幅２m，深さ50cmの溝状遺構（SD 01）があり，土地を明確に区画していたことを伺わせる。この柵列は少なくとも石垣構築以前のものであることは疑いない。また，この柵列は主軸方位が石垣とほぼ同じで真北より４°東へ偏っている。このことは，石垣構築に際し，当時あった土地区画のラインであるこの柵列を東の丸の東界として利用したことを示しているといえよう。東の丸造成以前には，生駒時代には武家屋敷と町人町があったことが「屋敷割図」より伺え，また，松平頼重入府以後は屋敷地があったことが「屏風」より伺える。特に「屏風」の当該地区の絵図に見られる南北の町割りは近世以後も踏襲されているので町割りのラインが石垣構築のラインであったのではないかと思われる。そうすれば，細長い町屋が柵列に相当するものと考えられる。しかしながら，ここで問題が一つ生じる。検出した柵列と町屋が一致するかどうかである。位置的には（図上ながら）同じ場所であるが，柵列の幅が町屋の建物となりうるか疑問である。さらに柵列の東側で検出した溝状遺構は柵列の北端を東西に横切るということである。「屏風」では町屋は後の東の丸の北端まで南北に延びており，検出した遺構と矛盾を来している。

この矛盾を解決するためにはどのように解釈したらよいであろうか。まず第一に時期的な差である。「屏風」には町屋は南北にまっすぐ延びているがこれは松平頼重が入府してから後にできた町屋ではないかという仮定である。つまり，検出した柵列および溝状遺構は，生駒時代に存在していたものではな

いかということである。このように考えるならば，先の矛盾はある程度解決できる。しかし，そうすると，「屏風」に記載されている南北に細長い町屋はどこに行ったのであろうか。発掘調査で検出した遺構にはこのように南北に長い建物跡等の遺構はなかった。

第3節　陶磁器類について

今回の調査では大量の瓦類の他に陶磁器が出土している。その総数は28ℓ入りコンテナに換算して約300箱にのぼる。陶磁器の種類別の比率は，肥前系の陶磁器が大部分を示す。しかしながら，これは総量に占める割合であり時期別に見ると東の丸造成以前においては圧倒的に瀬戸・美濃の陶器が多い。これは肥前における陶磁器の生産と流通に大きく関係するものであると考えられる。時期が下れば肥前系の陶磁器の割合が高くなり，第2遺構面から上層においてはほとんど瀬戸・美濃の製品は認められない。

また，特筆すべきことに17世紀代において舶載陶磁器の中に中国産の白磁や青花のほかに割合は少ないが朝鮮半島産の白磁が認められることである。このことは同時期の城郭であり，同じ生駒親正の手になる丸亀城においては確認されておらず，非常に興味深い。

以下に，陶磁器の種類別にその特徴をまとめてみたい。

1．瀬戸・美濃製品

第3遺構面およびその下層で多量に出土した。器種は皿がほとんどで碗が若干認められる。皿には菊花皿，折縁皿，丸皿がある。菊花皿は少量で中に2点ほど志野焼の製品が出土している。折縁皿には体部内面が花弁状になるものとそうでないものに大別できる。体部内面が花弁状にならないものの見込に草木の印刻花文が施されているものもある。丸皿は口径10cm前後のものと12cm前後のものが認められる。

志野焼は西の丸の調査でも向付が出土しており，17世紀前半以前には使用している食器類には瀬戸・美濃製品が多かったことを示している。

碗はすべて天目茶碗であり，端反りの程度から見てすべて16世紀末から17世紀前半にかけてのものであると考えられる。釉薬は鉄釉で色調は明るい茶色を呈するものが多い。一部黒斑が認められるものもある。

その他に1点ではあるが，第4遺構面上層の包含層中から織部焼の向付が出土している。底部の小片であるが内外面に，褐釉で文様を描いている。

その他に，他ではあまり出土例を見ない瓦類がある。数は非常に少ないが，鬼瓦や鳥衾，丸瓦片や平瓦片と思われるものが出土している。これらについては，次節において詳述するのでここでは省略する。

18世紀以後の出土遺物中にはほとんど瀬戸・美濃製品は認められなくなってくる。これは肥前産の陶磁器を多く消費するようになったためであると思われる。高松藩では17世紀中葉以後，肥前産の陶磁器を多量に搬入するようになったものと考えられる。

2. 肥前系陶磁器

肥前系陶器

肥前系の陶器としては，唐津焼がその大部分を占めるが，一部高取・上野などの筑前の窯跡の製品も若干認められる。器種は碗・皿がほとんどである。碗は一般的な碗のほかに天目茶碗も１点出土している。

肥前系磁器

肥前系の磁器としては，伊万里焼がその大部分を占める。出土量は第３遺構面より上層で爆発的に増加する。器種は大部分が碗であり，皿がそれに続く。

3. 舶載陶磁器

中国産白磁

ここで中国産白磁として取り上げるのは，端反り型の皿で高台は大きめの輪高台を持つもので，見込部分を蛇の目状に釉剝ぎするものとそうでない２種類のものである。いずれも器壁は薄手でやや艶のある白色釉を施している。数個体には，体部外面に貫入が認められる。内外面ともに窯道具の存在を示すものは見あたらない。見込みの釉を蛇の目状に剝いでいるものは重ね焼きをしたためであろう。

以上の特徴からこれらの白磁は明末～清初期の中国南部（景徳鎮およびその周辺）で生産されたものであると考えられる。

中国産青花

中国産の青花には，器種的には碗・皿・酒器がある。碗には丸形で深いものと浅いものの２種類が認められる。皿は小型のものから大型のものまで多様性に富む。酒器は，確認できたものとして杯がある。端反りのもので畳付に銘が認められる。生産地としては，器形・胎土等からみて景徳鎮産のものとさらに南の福建・広州産のものが認められる。また，皿には粗造で胎土が暗黄紫色を呈し，高台径が大きく丸く立ち上がるものがある。これらは，口縁部付近に２条の圏線を施し，見込部分に花文を描くものがほとんどである。これは，小野正敏氏がいわれる皿Ｅ群に属するものであると考えられる。(大橋康二氏は小皿Ｂ－４類と分類している。)したがって，この一群は16世紀末から17世紀初頭に中国南部で生産され，我国に搬入されたものであろう。

出土した中国産青花は，すべて18世紀以前に生産されたものであると考えられ，このことは今回の調査で出土した中国産青花に18世紀以降の特徴を示すものが皆無であることと符合する。これは，18世紀以降国内陶磁器（特に肥前系陶磁器）の生産量が飛躍的に増大し，かつ質的にも進歩し，国内の需要に十分対応できるようになったことを示しているものと考えられる。

朝鮮半島産白磁

第II期（生駒期）の遺構面およびその上層から興味深い白磁が数点出土している。図化していないものを含めるとかなりの個体数になると思われる。

これらはいずれも端反りの皿で高台部からやや内湾気味に立ち上がり大きく外反する。口縁端部は丸くおさめている。高台は削り出し輪高台で畳付け部分と内面見込の部分に砂目積みの痕跡が多数認めら

れる。この砂目積みは楕円形を呈する大型のもので初期の唐津製品に見られるものと酷似している。しかしながら唐津製品のものはほとんどが三個，一部に四個が見られるのみで明らかに違う様相を呈している。釉は白色釉でやや黄灰色がかる。

釉の特徴と砂目積みの特徴から朝鮮半島産（いわゆる李朝白磁）であると判断した。製作年代は16世紀末～17世紀初頭のものであると考えられる。

これらの李朝白磁は直接朝鮮半島から生駒氏の手に渡ったものであるかどうかは不明であるが生駒親正は文禄・慶長の役において朝鮮半島に出兵しており，また，佐賀県鎮西町には肥前名護屋城北側に生駒親正陣跡も残っている。したがってこれらの白磁が直接生駒氏の手に渡った可能性も十分に考えられる。しかし，当時の一大貿易港である堺の町並からも同様の李朝白磁は微量ながら出土しており，当時の貿易陶磁の１種類であることも間違いない。したがって堺の町を通じて手に入れた可能性も考えられる。いずれにせよ，上記の事柄を証明する文献資料は管見では知り得ないため，ここでは上記の２つを可能性として提示するにとどめておく。

第４節　瓦の分類について

今回の調査でもっとも多量に出土した遺物が瓦類である。出土した瓦類の総数は，コンテナに換算して約900箱にのぼる。瓦の種類は，軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・軒桟瓦・桟瓦・小菊瓦・滴水瓦・道具瓦・鬼瓦・鳥衾・鯱である。以下，種類ごとにその特徴をまとめることにする。

軒丸瓦

各時期の遺構面および包含層から多量に出土している。出土した軒丸瓦の文様はすべて連珠三巴文である。珠文のない三巴文の軒丸瓦は１点も出土していない。

軒丸瓦を分類する基準として，製作技法から見た分類，文様から見た分類，の二つに大別してそれぞれの中でさらに分類した。

軒丸瓦は丸瓦部を瓦当部分の裏面にはめ込み，若干の粘土を足してなで付けるという基本的な製作技法は中世以前のそれと変わってはいない。変わっているのは丸瓦の製作技法である。中世以前の丸瓦は一枚造りもしくは円筒状の粘土を半裁して作る２通りの方法がある。

今回の調査で出土した軒丸瓦と丸瓦には内面に布目圧痕の認められる一群がある。これは木型もしくは木製の円筒に粘土を巻き付けた際に離れをよくするために以前から用いられていたものでこれらの一群は古い様相を呈しているといえよう。また，別に布目ではなく，より目の粗い筵と呼ぶべきものの痕跡が認められる一群がある。これらは，布目に後出する要素として注目される。この布目・筵目による丸瓦の中には玉縁付近の内面に綴じ紐の痕跡が顕著に認められるものがあり，これは木製の円筒から円筒状の粘土をはずした後に布・筵を上へ引っ張り上げて除去する際に使用する紐であり，円筒状の粘土を半裁して作成する２枚造りによることは明白である。

そのほかにタタラからコビキする際の工具痕が認められる丸瓦がある。工具痕には丸瓦を縦方向に切り出す際に付いたコビキＡと横方向に切り出す際に付いたコビキＢの２種類の工具痕が認められる。このコビキ痕は16世紀後半から近畿地方で広く認められる方法で天正年間を境にコビキＡからコビキＢに漸移的に移行することが摂津高槻城の発掘調査によって明らかとなっている。高松城跡においては，16

世紀末から17世紀前半の生駒時代の遺構面および松平時代の遺構面を造成する際に用いた土層中から出土する瓦にはコビキＡとコビキＢの２種類の瓦が混在している。しかし17世紀後半の東の丸の造成以後の遺構面からはコビキＢがわずかに認められるのみである。大部分は布目やコビキ痕も全く認められない瓦である。

これは，いわゆるキララ（雲母粉）と呼ばれるハナレ砂を用いて製作したものであると考えられる。従前の布や筵を使用するよりも簡便であることから17世紀後半以降の瓦は成形の際，ほとんどキララを用いている。高松城跡においても東の丸造成以後の瓦はほとんどキララを用いて成形していることが明らかとなった。

高松城跡から出土した軒丸瓦の文様はすべて三巴文である。そのうちのほとんどはいわゆる左巻きに属し，右巻きはわずかである。

第５節　軒平瓦の製作技法について

今回の調査で出土した軒平瓦は約30種，1,000点にのぼる。文様の検討は前節で行ったが，ここでは製作技法について若干の私見を述べたい。

一口に製作技法といっても，タタラからコビキする切り出し，板もしくは桶状の工具を利用する成形，周囲を削ったり，ナデたりする調整など様々な技法があるが，ここで注目するのは軒平瓦の瓦当部と平瓦の接合方法である。中世以前の軒平瓦は瓦当部と平瓦を別々に作り，瓦当部の上端裏側に平瓦を差し込み，粘土を少し足して成形する方法と一枚の粘土板の片方を厚く作り，その部分を瓦当部にする一枚造りの２つの方法が一般的であった。特に讃岐では古代から中世にかけて綾南町陶の十瓶山古窯跡群をはじめとして県内各地で瓦生産が盛んであった。しかもこれらの軒平瓦は基本的には一枚造り技法で生産されていた。

ところが，今回の調査で出土した軸平瓦には一枚造りで生産されたものや瓦当部と平瓦部を別々に作る方法で生産されたものは皆無であった。もちろん，出土したものの中には製作技法のはっきりしないものは含まれているが，それらを除外したものは同じ技法によって作られていた。すなわち，平瓦の一方の端部の凸面に瓦当部の2/3程度の粘土板（いわゆる「顎」の部分）を接合し，軒平瓦の原型を作り，これを笵に押し当てて瓦当文様を施文していく方法である。今，この技法を仮に「顎継足技法」[1] と呼ぶこととする。「顎継足技法」は，従来から広く知られており，近世遺跡から出土する軒平瓦はほとんどがこの技法によって製作されており，それ故あまり注目されることもなかったと考えられる。

しかしながら，中世末期まで瓦を大量に生産していた讃岐において急に軒平瓦の製作技法が変化するこの事実は非常に重要である。以下に県内各地の瓦が出土している中世から近世の遺跡を取り上げ，瓦全体について概観した後，軒平瓦の製作技法について検討してみたい。

引田城跡（大川郡引田町）

引田城跡は，天正15年（1587年）生駒親正が讃岐に所領を安堵されてから最初に入府したとされている城で翌年天正16年（1588年）高松城の築城により，廃城になったと伝える。大川郡引田町に所在し，引田湾の北端に突き出た半島の頂部に位置する。現在も郭等が比較的よく残っており，県指定史跡となっている。二の丸・三の丸の周囲にはわずかながら石垣も残っており織豊期の城郭の形態を示している。

発掘調査はされておらず，採集品と伝えられる遺物が引田町立歴史民俗資料館に保管されている。瓦類は丸瓦・平瓦が主なものであるが，丸瓦内面にはコビキA手法が認められ，コビキBは認められない。16世紀末期のものと考えられる。その他の遺物も16世紀末を下らないと思われ，引田城跡出土の瓦類は16世紀末期の一括資料であると考えられる。

古江善光寺遺跡（三豊郡仁尾町）

県道詫間仁尾線道路改良工事に伴い，平成8年度に香川県教育委員会が発掘調査を行っている。[2] 所在地は三豊郡仁尾町古江である。

遺跡の概要および検出した遺構等については報告書を参照されたい。

出土遺物はコンテナにして約20箱であり，土器片が約50点でその他はすべて瓦類である。土器はほとんどが土師質の細片であり，時期のわかるものは少ない。ほかに少量の陶磁器があり，中に三島手の唐津焼の碗の底部が見られる。

瓦類には軒丸・軒平瓦，丸・平瓦のほかに鬼瓦の破片や雁振瓦の破片も出土している。軒丸瓦は8点出土しており，すべて連珠三巴文であり，内区の巴文の周囲には圏線が巡る。軒平瓦は7点出土している。そのうち4点が図化されている。文様はいずれも均整唐草文である。上下に区画線があり外区には連珠が施されている。また周縁上部にはきっちりと面取りが施されており，非常に丁寧な作りとなっている。丸瓦は291点出土している。そのうちのほとんどに，内面には布目圧痕が顕著に認められ，また，半数以上にコビキAが認められるものも多い。コビキBは1点も確認できなかった。またいわゆる行基葺の丸瓦片も6点出土している。珍しいものとしては丸瓦の頭の部分を斜めに切り取ったような本谷瓦も3点出土している。これは屋根の構造が複雑なことを示している。平瓦は出土した瓦類の中で圧倒的な数量を示しており，806点出土している。大部分は谷が深く（いわゆる反りが強い），古い様相を示すものである。また凸面に溝状，凹面に突起状の瓦止めを施している平瓦も43点出土している。それからコビキAの痕跡を持つ平瓦も確認している。

これらのことを考えあわせると，古江善光寺遺跡出土の瓦類は

①軒丸瓦のすべてに圏線がある。

②軒平瓦の文様に連珠が認められ，瓦当部の上下幅が大きい。

③丸瓦内面にコビキBを持つものが認められない。

④平瓦はいずれも谷が深く，丁寧な作りをしている。

という特徴を持っており，17世紀初頭以前に製作された瓦類である可能性が高いといえる。このことは，共伴する陶磁器類の中に17世紀前半以前のものが確認できることと矛盾しない。

したがって，古江善光寺遺跡出土遺物は16世紀後半から17世紀初頭にかけての良好な一括資料であるといえよう。

さて，古江善光寺遺跡の軒平瓦の製作技法について検討してみたい。軒平瓦は全部で7点出土しているが，完形品は1点もない。瓦当部の断面を詳細に観察すると，平瓦部の延長部分の下端にわずかながら3条の隙間のようなものが見える破片がある。これは「顎継足技法」によるものと考えられる。明確に観察できるのは1点だけでその他の破片には認められない。このことは，大部分の軒平瓦が「顎継足技法」によって製作されている高松城跡より若干先行して「顎継足技法」が受容されていたことを示している。

ここでは，古江善光寺遺跡が「顎継足技法」による軒平瓦が比較的早い段階（16世紀末～17世紀初頭）にみられることを指摘しておきたい。

註（1）　芦田淳一「元興寺極楽坊中世軒平瓦にみる瓦当接合技法の展開」
『元興寺文化財研究　№67』1998年12月　㈶元興寺文化財研究所
（2）　塩崎誠司「古江善光寺遺跡」（『香川県埋蔵文化財調査年報』）平成８年度，香川県教育委員会

表２　土器・石器観察表

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
1	SK02	土師質土器	擂鉢			11.1	外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：にぶい黄橙(7.5YR7/4)	外：指ナデ，内：ハケ目後卸目	1/4	
2	SK02	土師質土器	土鍋	45.0			外：黄灰(2.5Y6/1) 内：にぶい黄(2.5Y6/3)	外：指押さえ後ナデ，内：指押さえ後ナデ	1/2	
3	SK02	陶器	皿				外 釉：オリーブ黄(5Y6/4) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/4)	外：施釉，内：施釉	小片	瀬戸・美濃
4	ST02	弥生土器	甕	2.6			外：にぶい黄褐色(10YR5/4) 内：暗灰黄(2.5Y4/2)	外：摩滅，内：摩滅	底部完存	
5	SX01	土師質土器	土釜脚部				灰黄褐(10YR5/2)	板ナデ，ナデ，指押さえ後ナデ	小片	
6	SX01	陶器	擂鉢	27.9			外：灰褐(5YR4/2) 内：褐灰(10YR4/1)	外：回転ナデ，内：回転ナデ，卸目	1/8	備前
10	SX01	瓦	転用土製品	4.4	1.7		凸面：灰白(5Y7/1) 凹面：(N5/)		完存	
11	SX02	土師器	杯	10.7	2.4	4.0	外：灰白(10YR7/1) 内：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ，ヘラ切り，内：回転ナデ	1/2	
12	SX02	陶器	皿	12.0	2.1	6.5	外：灰黄(2.5Y7/2) 内：灰白(2.5Y8/2)	外：指押さえ，回転ナデ，施釉，糸切り，内：回転ナデ(摩滅)，施釉	1/4	瀬戸・美濃
13	SX02	土師質土器	土釜				外：橙(2.5YR6/6) 内：橙(5YR6/6)	外：横ナデ，内：横ナデ，ハケ目	小片	
14	SX02	陶器	皿	10.3	2.2	5.9	外 釉：オリーブ黄(5Y6/4) 内 胎：灰白(2.5Y8/2)	外：施釉，高台削出し，重ね焼痕，内：施釉，無釉	完存	瀬戸・美濃
15	SX02	土師質土器	管状土錘				にぶい赤褐(5YR5/4)	ナデ	ほぼ完存	
19	SX03	陶器	擂鉢	28.8			外：灰赤(10R4/2) 内：灰赤(10R4/2)	外：回転ナデ，内：回転ナデ，回転ナデ後卸目	1/8	備前
20	SX03	陶器	擂鉢				外：にぶい赤褐(5YR5/4) 内：にぶい赤褐(5YR4/4)	外：回転ナデ，自然釉，重ね焼き痕，内：回転ナデ，自然釉	小片	備前
21	SX03	磁器	皿			5.8	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，高台削出し，内：施釉，染付	3/8	
22	SX04	土師器	小皿	8.3	1.9	2.1	外：浅黄橙(10YR8/4) 内：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ，仕上げナデ	完存	
23	SX04	須恵質	壺				外：橙(7.5YR7/6) 内：浅黄橙(10YR8/4)	外：ヘラ記号，板ナデ，ヘラ削り後板ナデ，内：回転ナデ	小片	
24	SX05	土師器	杯	8.6	4.0	4.4	外：灰黄褐(10YR5/2) 内：にぶい黄橙(10YR6/3)	外：糸切り，回転ナデ，内：回転ナデ	1/3	
25	SX05	陶器	花入			5.4	外：にぶい赤褐(5YR4/3) 内：灰褐(5YR5/2)	外：ナデ，自然釉，内：回転ナデ	底部完存	備前
26	SX05	陶器	鉢	13.2			外：にぶい赤褐(2.5YR4/4) 内：暗赤褐(2.5YR3/4)	外：回転ナデ，ヘラ削り，内：回転ナデ	1/4	備前
27	SX06	土師質土器	土鍋				外：黒褐(2.5Y3/2) 内：黄灰(2.5Y4/1)	外：横ナデ，ハケ目後横ナデ，内：横ナデ，ハケ目	小片	
28	SX08	土師器	杯	10.9	2.9	4.8	外：浅黄橙(10YR8/4) 内：浅黄橙(10YR8/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/2	
29	SX08	土師質土器	土鍋	20.0	23.0		外：にぶい黄橙(10YR7/3) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	外：横ナデ，指押さえ後ナデ，内：横ナデ，指押さえ後ナデ	1/8	
30	SX08	土師質土器	土鍋	13.4			外：灰黄褐(10YR4/2) 内：浅黄橙(10YR8/4)	外：横ナデ，指ナデ，板ナデ，内：横ナデ，板ナデ後ナデ	1/3	
31	SX08	陶器	壺				外：灰赤(2.5YR4/2) 内：暗灰黄(2.5Y5/2)	外：回転ナデ，ヘラ削り，自然釉，内：回転ナデ，自然釉	1/4	備前
32	SX08	陶器	壺もしくは鉢			8.6	外：灰褐(7.5YR4/2) 内：赤褐(10R4/4)	外：回転ナデ，ヘラ削り，底部ヘラ切り，内：回転ナデ，指押さえ	1/2	備前

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
33	SX08	陶器	擂鉢			11.4	外：にぶい赤褐(2.5YR5/4) 内：にぶい赤褐(2.5YR5/4)	外：回転ナデ，ヘラ削り，内：卸目	1/4	備前
34	SX08	陶器	擂鉢	11.6			外：橙(2.5YR6/6) 内：橙(2.5YR6/6)	外：回転ナデ後板ナデ，ヘラ切り後ナデ，内：卸目(摩滅)	底部1/4	備前
35	SX08	陶器	擂鉢	27.9			外：にぶい赤褐(5YR4/3) 内：明赤褐(2.5YR5/6)	外：回転ナデ，内：ナデ後卸目	1/8	備前
36	SX08	陶器	擂鉢				外：にぶい赤褐(2.5YR4/3) 内：明赤褐(2.5YR5/6)	外：回転ナデ，内：回転ナデ，卸目	小片	備前
37	SX08	陶器	皿	11.2	2.4	5.5	外 釉：オリーブ灰(5Y5/4) 内 胎：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，重ね焼き痕，内：回転ナデ，施釉，蛇の目釉剝ぎ	1/3	瀬戸・美濃
38	SX08	瓦	転用土製品	6.1	1.7		表：暗灰(N3/) 裏：暗灰(N3/)		完存	
39	SX08	瓦	転用土製品	5.2	6.5		表：灰(N4/) 裏：灰(N4/)		完存	
44	SX10	瓦質土器	土鍋				外：灰(5Y4/1) 内：灰(5Y4/1)	外：横ナデ，内：横ナデ	小片	
45	SA01	陶器	鉢			13.8	外：黄灰(2.5Y6/1) 内：灰白(N7/)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/6	備前
46	SA01	陶器	鉢			27.0	外：にぶい黄褐(10YR4/3) 内：褐(7.5YR4/3)	外：回転ナデ，ヘラ切り，内：回転ナデ	小片	備前
47	SA01	陶器	碗			4.6	外 釉：灰白(10YR8/1) 胎：明赤褐(5YR5/6) 内：灰白(10YR8/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	2/3	
48	SA01	磁器	皿	11.8			外 釉：明青灰(10BG7/1) 内 釉：明青灰(10BG7/1)	外：回転ナデ後施釉，高台削出し，内：回転ナデ後施釉	1/5	
49	SA01	磁器	皿	9.0	2.3	4.8	外 釉：明青灰(10BG7/1) 内 釉：明青灰(10BG7/1)	外：施釉，染付，高台削出し，内：施釉，染付	1/4	景徳鎮
52	SA02	土師質土器	鉢				外：にぶい黄褐(10YR5/3) 内：にぶい橙(7.5Y6/4)	外：横ナデ，指押さえ後ナデ，内：板ナデ	小片	
53	SA02	土師質土器	擂鉢	19.4			外：暗黄褐(10YR7/6) 内：暗黄褐(10YR7/6)	外：指押さえ，内：ハケ目後卸目	1/4	
54	SA02	陶器	皿	9.8	2.3	5.7	外 釉：暗オリーブ(7.5Y4/3) 内 釉：暗オリーブ(7.5Y4/3)	外：施釉(畳付以外)，高台削出し，内：施釉	1/8	瀬戸・美濃
55	SA02	陶器	皿	10.4	2.3	5.6	外 釉：暗オリーブ(7.5Y4/3) 内 釉：暗オリーブ(7.5Y4/3)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	1/3	瀬戸・美濃
56	SA02	陶器	皿	10.7	2.3	6.2	外 釉：暗オリーブ(7.5Y4/3) 内 釉：暗オリーブ(7.5Y4/3)	外：施釉，高台削出し，重ね焼き痕，内：施釉	ほぼ完存	瀬戸・美濃
57	SA02	白磁	皿	11.3	2.6	5.8	外 釉：暗青灰(5B7/1) 胎：灰黄(2.5Y7/2) 内 釉：暗青灰(5B7/1) 胎：灰黄(2.5Y7/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	2/3	
58	SA02	磁器	碗				外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，高台削出し，内：施釉，染付	1/3	
59	SA02	石製品	砥石	現存長6.6	最大厚3.5	最大幅6.1		使用痕あり	完存	
68	SB01	土師質土器	土鍋				外：橙(7.5YR6/6) 内：明褐(7.5YR5/6)	外：横ナデ，指おさえ後ハケ目，内：横ナデ後ハケ目，指おさえ	小片	
69	SB01	陶器	鉢	20.6	7.6		外：明赤褐(2.5YR5/6) 内：赤(10R5/6)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/4	備前

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
70	SD 01	土師器	小皿	11.1	1.9	7.6	外：にぶい黄橙(10 YR 7/2) 内：浅黄橙(10 YR 8/3)	外：回転ナデ，回転ヘラ切り，内：回転ナデ	2/3	
71	SD 01	土師器	小皿	7.4			外：灰黄褐(10 YR 5/2) 内：にぶい黄橙(10 YR 6/3)	外：ナデ，糸切り，内：回転ナデ後ナデ	底部完存	
72	SD 01	土師質土器	土鍋				外：にぶい黄橙(10 YR 7/4) 内：にぶい黄橙(10 YR 7/4)	外：回転ナデ，ナデ，内：回転ナデ，指押さえ，板ナデ	小片	
73	SD 01	土師質土器	土鍋				外：にぶい黄橙(10 YR 7/2) 内：浅黄橙(7.5 YR 8/3)	外：指押さえ後ハケ目，横ナデ，内：板ナデ	小片	
74	SD 01	土師質土器	土鍋	29.8	8.9		外：にぶい黄橙(10 YR 6/3) 内：灰黄褐(10 YR 5/2)	外：指押さえ後板ナデ，板ナデ後ヘラミガキ(摩滅)，内：指押さえ後ナデ，指押さえ後ナデ後ヘラミガキ	1/2	
75	SD 01	陶器	皿				外：灰褐(7.5 YR 4/2) 内：灰褐(5 YR 4/2)	外：回転ナデ，回転ナデ後板ナデ，自然釉，内：回転ナデ	小片	備前
76	SD 01	陶器	壺			5.7	外：暗赤褐(5 YR 3/3) 内：黒褐(10 YR 3/2)	外：ヘラ削り，底部ヘラ記号，内：回転ナデ	1/3	備前
77	SD 01	陶器	甕				外：黒褐(7.5 YR 3/3) 内：明赤褐(2.5 YR 5/6)	外：回転ナデ，自然釉，内：回転ナデ，自然釉	小片	備前
78	SD 01	陶器	皿	9.5	2.1	5.7	外 釉：オリーブ黄(7.5 Y 6/3) 内 釉：オリーブ黄(7.5 Y 6/3) 胎：にぶい黄褐(10 YR 5/4)	外：施釉，高台削出し，重ね焼き痕，内：施釉，重ね焼き痕	1/2	瀬戸・美濃
79	SD 01	陶器	皿	11.0	2.2	6.5	外 釉：暗オリーブ(7.5 Y 4/3) 内 釉：暗オリーブ(7.5 Y 4/3)	外：施釉，高台削出し，重ね焼き痕，内：施釉，重ね焼き痕	1/2	瀬戸・美濃
80	SD 01	陶器	天目茶碗	11.2			外 釉：褐(7.5YR4/4) 胎：浅黄(2.5Y7/3) 内 釉：褐(7.5 YR 4/4)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	1/3	瀬戸・美濃
81	SD 01	陶器	天目茶碗	11.9			外 釉：極暗赤褐(2.5 YR 2/3) 胎：にぶい黄橙(10 YR 7/2) 内 釉：極暗赤褐(2.5 YR 2/3)	外：施釉，ヘラ削り，内：施釉	小片	瀬戸・美濃
82	SD 01	陶器	皿	9.8			外 釉：オリーブ黄(5 Y 6/3) 内 釉：オリーブ黄(5 Y 6/3)	外：回転ナデ後施釉，内：回転ナデ後施釉	小片	
83	SD 01	陶器	皿			4.8	外 釉：灰オリーブ(5 Y 6/2) 胎：にぶい黄(2.5 Y 6/3) 内 釉：灰オリーブ(5 Y 6/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	1/2	唐津
84	SD 01	陶器	皿	12.0			外 釉：灰(7.5 Y 6/1) 内 釉：灰(7.5 Y 6/1) 胎：にぶい黄(2.5 Y 6/3)	外：回転ナデ後施釉，内：回転ナデ後施釉	小片	唐津
85	SD 01	陶器	皿				外 釉：灰オリーブ(5 Y 6/2) 胎：灰白(5 Y 7/1) 内 釉：灰オリーブ(5 Y 6/2)	外：回転ナデ後施釉，回転ヘラ削り，内：回転ナデ後施釉	小片	唐津
86	SD 01	陶器	皿				外 釉：灰(5 Y 4/1) 内 釉：灰(5 Y 4/1)	外：施釉，内：施釉	小片	唐津
87	SD 01	陶器	碗			5.4	外 釉：灰白(10Y7/1) 胎：浅黄(2.5Y7/3) 内 釉：灰白(10 Y 7/1)	外：回転ナデ後施釉，高台削出し，内：回転ナデ後施釉	1/4	唐津
88	SD 01	陶器	碗			4.6	外 釉：灰黄(2.5Y6/2) 胎：浅黄(2.5Y7/4) 内 釉：灰黄(2.5 Y 6/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	5/8	唐津
89	SD 01	陶器	碗			4.8	外 釉：褐灰(7.5 YR 5/1) 胎：明赤褐(2.5 YR 5/6) 内 釉：褐灰(7.5 YR 5/1)	外：施釉，無釉，高台削出し，内：施釉，斜格子状の鉄絵	5/8	唐津
90	SD 01	陶器	碗	10.6	6.9	5.1	外 釉：浅黄(2.5 Y 7/3) 内 釉：浅黄(2.5 Y 7/3)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	ほぼ完存	唐津

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
91	SD01	陶器	碗	12.3			外 釉：黒褐(2.5Y3/2) 内 釉：黒褐(2.5Y3/2)	外：施釉，内：施釉	1/7	唐津
92	SD01	陶器	転用土製品	現存長3.8	最大厚1.2	最大幅3.8	外 釉：灰(7.5Y6/1) 内 釉：灰(7.5Y6/1)	外：施釉，内：施釉	完存	唐津
93	SD01	磁器	皿	12.5	3.0	4.5	外 釉：明青灰(10BG7/1) 内 釉：明青灰(10BG7/1)	外：施釉，高台削出し，内：施釉，染付	1/3	
94	SD01	磁器	皿	8.8			外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，内：施釉，染付	小片	
95	SD01	青磁	皿	13.1	3.6	4.4	外 釉：明緑灰(7.5GY7/1) 胎：灰黄(2.5Y7/2) 内 釉：明緑灰(7.5GY7/1) 胎：灰黄(2.5Y7/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉，蛇の目釉剥ぎ	1/5	
96	SD01	磁器	皿	13.1			外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：回転ナデ後施釉，染付，内：回転ナデ後施釉	1/4	
97	SD01	青磁	皿	18.8			外 釉：明緑灰(5G7/1) 内 釉：明緑灰(5G7/1)	外：施釉，内：施釉	1/8	
98	SD01	白磁	皿	12.8	3.8	4.4	外 釉：灰白(5Y7/1) 胎：灰白(5Y8/1) 内 釉：灰白(5Y7/1)	外：施釉，高台削出し，砂目積，内：施釉，砂目積	3/8	
99	SD01	弥生土器	高杯	24.4			外：灰黄褐(10YR5/2) 内：明黄褐(10YR7/6)	外：摩滅，内：ハケ目，摩滅	1/8	
100	SD01	弥生土器	壺			2.9	外：にぶい黄褐(5YR4/4) 内：にぶい黄褐(10YR5/4)	外：摩滅，内：指ナデ	底部完存	
101	SD01	土師器	小皿	9.3	1.7	6.9	外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/4	
102	SD01	土師器	小皿	9.7	2.1	5.8	外：浅黄橙(10YR8/4) 内：浅黄橙(10YR8/4)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	小片	
103	SD01	土師質土器	土釜	25.8			外：にぶい黄橙(10YR7/3) 内：褐灰(10YR4/1)	外：横ナデ，板ナデ後ナデ，内：横ナデ，ハケ目	小片	
104	SD01	瓦質土器	土鍋	29.3			外：黒褐(10YR3/1) 内：黒褐(10YR3/1)	外：ハケ目後指押さえ，指押さえ後ハケ目，ハケ目，内：横ナデ，ハケ目	ほぼ完存	
105	SD01	陶器	擂鉢	29.7			外：灰赤(10R4/2) 内：暗赤灰(10R4/1)	外：回転ナデ，内：回転ナデ，卸目	小片	備前
106	SD01	陶器	碗			4.3	外 釉：灰白(10Y7/1) 内 釉：灰白(10Y7/1)	外：高台削出し，施釉，内：回転ナデ後施釉	底部3/4	
107	SD01	陶器	碗			4.2	外 胎：にぶい黄橙(10YR6/3) 内 釉：灰オリーブ(5Y5/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	1/4	
108	SD01	陶器	碗				外 釉：オリーブ黄(5Y6/3) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/3)	外：回転ナデ後施釉，内：回転ナデ後施釉	小片	
109	SD01	陶器	皿			2.7	外 胎：にぶい赤褐(5YR5/4) 内 釉：灰白(10YR7/1)	外：施釉，回転ナデ，高台削出し，内：施釉，回転ナデ	1/4	
110	SD01	陶器	鉢			5.1	外 釉：オリーブ黄(5Y6/3) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/3)	外：高台削出し，施釉，内：施釉	1/3	
111	SD01	青磁	碗				外 釉：オリーブ灰(2.5GY6/2) 内 釉：オリーブ灰(2.5GY6/2)	外：回転ナデ後施釉，内：回転ナデ後施釉	小片	
112	SD01	土師質土器	有溝土錘	現存長10.3	最大厚5.6	最大幅6.1	浅黄橙(10YR8/3)	指ナデ	ほぼ完存	
115	SD01	弥生土器	甕	14.4			外：橙(5YR6/6) 内：橙(7.5YR6/6)	外：横ナデ，ハケ目，内：横ナデ，ナデ	1/8	
116	SD01	弥生土器	甕				外：にぶい褐(7.5YR5/4) 内：にぶい褐(7.5YR5/4)	外：横ナデ，摩滅，ハケ目，内：横ナデ，摩滅，ハケ目	小片	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
117	SD03	土師質土器	こね鉢	26.4			外：浅黄橙(10YR8/4) 内：浅黄橙(10YR8/4)	外：横ナデ，ハケ目後指押さえ後ナデ， 内：横ナデ，摩滅，剝離	1/8	
118	SD03	陶器	壺			3.1	外：褐灰(7.5YR5/1) 内：褐灰(7.5YR4/1)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	底部完存	備前
119	SD03	陶器	底部			10.1	外：灰黄褐(10YR4/2) 内：にぶい赤褐(2.5YR5/4)	外：回転ナデ後板ナデ，糸切り，内： 回転ナデ後指ナデ	1/4	備前
120	SD03	陶器	鉢	12.0	6.2	13.6	外：褐灰(5YR4/2) 内：褐灰(10YR4/1)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/6	備前
121	SD03	陶器	擂鉢				外：にぶい赤褐(5YR4/3) 内：灰赤(2.5Y4/2)	外：回転ナデ，重ね焼き痕，自然釉， 内：回転ナデ	小片	備前
122	SD03	陶器	擂鉢				外：にぶい赤褐(5YR4/4) 内：にぶい赤褐(5YR5/3)	外：回転ナデ，重ね焼き痕，内：回転 ナデ，自然釉，卸目	小片	備前
123	SD03	陶器	擂鉢				外：赤(10R5/6) 内：赤褐(10R4/4)	外：回転ナデ，回転ナデ後ヘラ削り， 内：回転ナデ後卸目	小片	備前
124	SD03	陶器	擂鉢	24.8			外：黄灰(2.5Y4/1) 内：灰(5Y5/1)	外：横ナデ，内：ナデ後卸目	小片	備前
125	SD03	陶器	擂鉢	28.6			外：明赤褐(2.5YR5/6) 内：明赤褐(2.5YR5/6)	外：回転ナデ，回転ナデ後ヘラ削り， 内：回転ナデ，卸目	小片	備前
126	SD03	陶器	鉢			9.2	外 釉：灰白(7.5Y7/2) 内 釉：灰白(7.5Y7/2) 胎：黄灰(2.5Y4/1)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/8	
127	SD03	陶器	天目茶碗	11.7	5.5	4.8	外 釉：黒褐(10YR2/2) 胎：灰白(2.5Y8/2) 内 釉：黒褐(10YR2/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	1/4	瀬戸・美濃
128	SD03	磁器	皿			7.0	外 釉：明青灰(10BG7/1) 内 釉：明青灰(10BG7/1)	外：施釉，高台削出し，内：施釉，染 付	1/6	
129	SD03	磁器	皿			5.8	外 釉：灰白(2.5GY8/1) 胎：灰白(5Y7/2) 内 釉：灰白(2.5GY8/1) 胎：灰白(5Y7/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉，蛇 の目釉剝ぎ	1/3	
130	SD03	陶器	転用土製品	現存長4.5	最大厚0.6	最大幅5.1	外 橙(5YR7/8) 内 橙(5YR7/8)	外：回転ナデ，糸切り後板ナデ，内： 回転ナデ後仕上げナデ	完存	備前
131	SD03	石製品	石臼	28.4	16.0	14.8			1/2	
184	SE02	土師質土器	土鍋	27.0			外：にぶい黄褐(10YR4/3) 内：浅黄橙(10YR8/4)	外：指押さえ，ナデ，内：ハケ目，ナデ	1/3	
185	SE02	陶器	擂鉢				外：にぶい赤褐(2.5YR4/3) 内：明赤褐(2.5YR5/6)	外：回転ナデ，内：回転ナデ，卸目	小片	備前
186	SE02	陶器	擂鉢				外：赤褐色(10R4/3) 内：赤褐色(10R4/3)	外：回転ナデ，内：回転ナデ，卸目	小片	備前
187	SE02	陶器	天目茶碗	107			外 釉：にぶい黄褐(10YR4/3) 内 釉：にぶい黄褐(10YR4/3)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ， 施釉	1/8	瀬戸・美濃
188	SE03	土師器	杯	10.0	2.0	4.6	外：浅黄橙(10YR8/4) 内：黄橙(10YR8/6)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	3/8	
189	SE03	土師器	皿	18.8			外：灰黄褐(10YR4/2) 内：褐灰(10YR4/1)	外：回転ナデ，ナデ，指押さえ，内： 回転ナデ，ナデ，指押さえ	1/4	
190	SE03	陶器	皿	10.0	2.2	6.5	外 釉：黄(5Y7/6) 内 釉：黄(5Y7/6)	外：施釉，高台削出し，重ね焼き痕， 内：施釉	ほぼ完存	瀬戸・美濃
191	SE03	陶器	鉢	30.6			外：明赤褐(5YR5/6) 内：にぶい赤褐(2.5YR4/3)	外：横ナデ，指押さえ後ナデ，内：横 ナデ，ナデ，卸目	1/4	備前
192	SE05	土師器	杯	10.9	2.7	7.2	外：灰白(2.5Y8/2) 内：灰白(2.5Y8/2)	外：回転ナデ，回転ヘラ切り，内：回 転ナデ	3/8	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
193	SE05	土師器	杯	8.0	1.6	6.4	外：にぶい黄橙(10YR7/3) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	外：回転ナデ，ヘラ切り後ナデ，内：回転ナデ，ナデ	完存	
194	SE05	瓦質土器	土鍋				外：黒褐(2.5Y3/2) 内：黒褐(2.5Y3/2)	外：横ナデ，ハケ目，ヘラ削り後ナデ，内：ハケ目，横ナデ	小片	
195	SE05	磁器	碗			4.2	外 釉：明青灰(5B7/1) 内 釉：明青灰(5B7/1)	外：回転ナデ，施釉，染付，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，染付	1/2	
196	SE05	弥生土器	鉢	9.6	2.7	1.1	外：にぶい黄橙(10YR6/3) 内：にぶい黄褐(10YR5/3)	外：摩滅，指押さえ後ナデ，内：ナデ	完存	
202	SE06	土師質土器	鉢	42.8			外：暗灰黄(2.5Y4/2) 内：灰黄褐(10YR5/2)	外：板ナデ後ナデ，ハケ目後指押さえ後板ナデ，板ナデ，内：板ナデ，板ナデ後ナデ	1/8	
203	SE06	土師器	杯	9.4	1.9	5.7	外：灰白(7.5Y7/1) 内：灰白(7.5Y7/1)	外：回転ナデ,ヘラ切り,内：回転ナデ	1/3	
204	SE06	土師器	椀			4.7	外：灰白(2.5Y8/2) 内：灰黄(2.5Y7/2)	外：指押さえ，ナデ，横ナデ,内：ナデ	底部完存	
205	SE06	瓦器	碗				外：暗灰(N3/) 内：灰(N4/)	外：回転ナデ，指押さえ，内：回転ナデ，ヘラミガキ	小片	和泉
206	SE06	瓦質土器	土鍋	31.4			外：灰(5Y5/1) 内：灰(5Y4/1)	外：横ナデ，指おさえ後ハケ目，内：ハケ目後横ナデ，ハケ目	1/4	
207	SE06	瓦質土器	土鍋	30.5			外：暗灰(N3/) 内：暗灰(N3/)	外：横ナデ，指押さえ，指押さえ後ハケ目，内：ハケ目，ハケ目後横ナデ	1/8	
208	SE06	陶器	碗	12.1	4.2	4.9	外 胎：にぶい黄(2.5Y6/3) 内 釉：灰(5Y6/1)	外：回転ナデ，ヘラ削り，高台削出し，施釉，内：回転ナデ，施釉	1/2	唐津
209	SE06	陶器	皿	11.1	3.2	3.6	外 釉：暗オリーブ(5Y4/4) 胎：にぶい褐(7.5YR6/3) 内 釉：暗オリーブ(5Y4/4)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	5/8	唐津
210	SE06	陶器	皿	11.9	2.6	5.2	外 釉：オリーブ(5Y5/4)胎：(7.5Y6/1) 内 釉：オリーブ(5Y5/4)	外：回転ナデ後施釉，高台削出し，砂目積，内：回転ナデ後施釉	1/7	唐津
211	SE06	陶器	皿				外 釉：明オリーブ灰(2.5GY7/2) 内 釉：明オリーブ灰(2.5GY7/2)	外：回転ナデ後施釉，内：回転ナデ後施釉	小片	唐津
212	SE06	陶器	皿			4.9	外 釉：にぶい黄(2.5Y6/3) 胎：浅黄(2.5Y7/3) 内 釉：にぶい黄(2.5Y6/3)	外：回転ナデ，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，胎土目積	完存	唐津
213	SE06	陶器	皿				外 釉：灰オリーブ(5Y6/2) 内 釉：灰オリーブ(5Y6/2)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉	小片	唐津
214	SE06	陶器	天目茶碗	9.8			外 釉：灰白(7.5Y7/1) 内 釉：灰白(7.5Y7/1)	外：回転ナデ後施釉，内：回転ナデ後施釉	1/8	瀬戸・美濃
215	SE06	陶器	皿	10.1	2.5	5.7	外 釉：暗オリーブ(7.5Y4/3) 内 釉：暗オリーブ(7.5Y4/3)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，底部重ね焼き痕，内：回転ナデ，施釉	1/2	瀬戸・美濃
216	SE06	陶器	皿	10.1	3.2	4.4	外 釉：オリーブ(5Y5/4) 胎：浅黄(2.5Y7/3) 内 釉：オリーブ(5Y5/4)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉	1/2	瀬戸・美濃
217	SE06	陶器	鉢	26.8	8.9	7.8	外 胎：浅黄燈(10YR8/4) 内 釉：にぶい黄(2.5Y6/3)	外：回転ナデ後施釉，回転ナデ，高台削出し，内：回転ナデ後施釉	1/8	
218	SE06	陶器	皿	31.2	6.4	14.6	外：灰褐(5YR4/2) 内：灰褐(5YR4/2)	外：回転ナデ，ヘラ削り，底部糸切り，内：回転ナデ	1/6	備前
219	SE06	磁器	皿				外 釉：灰白(2.5GY8/2) 内 釉：灰白(2.5GY8/2)	外：回転ナデ，施釉，染付，内：回転ナデ，施釉，染付	小片	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
220	SE06	磁器	皿				外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，内：施釉，染付	小片	
221	SE06	青磁	碗				外 釉：灰オリーブ(5Y5/3) 内 釉：灰オリーブ(5Y5/3)	外：施釉，内：施釉	小片	
222	SE06	瓦	転用土製品	現存長5.3	最大厚1.6	最大幅5.0	表：灰(N4/) 裏：灰(N4/)		完存	
223	SE06	須恵器	こね鉢	28.4	10.0	10.2	外：灰白(N8/) 内：灰白(7.5Y7/1)	外：回転ナデ後指ナデ，ヘラ削り，内：回転ナデ後指ナデ	2/3	東播系
224	SE06	弥生土器	甕				外：にぶい黄(7.5YR5/4) 内：にぶい黄(7.5YR5/4)	外：横ナデ，ハケ目，内：横ナデ，ヘラ削り	小片	
225	SE06	弥生土器	高杯				外：灰白(2.5Y7/1) 内：灰黄(2.5Y7/2)	外：不明，内：不明	小片	
232	SK04	土師質土器	土鍋				外：灰黄褐(10YR5/2) 内：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：横ナデ，指ナデ，内：板ナデ	小片	
233	SK04	瓦質土器	土鍋				外：黒褐(10YR3/1) 内：黒褐(10YR3/1)	外：横ナデ，ハケ目，内：ハケ目	小片	
234	SK08	陶器	壺	5.3			外：暗赤褐(2.5YR3/2) 内：暗赤褐(2.5YR3/2)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/2	備前
235	SK08	陶器	皿	10.7	2.2	5.9	外 釉：オリーブ黄(7.5Y6/3) 内 釉：オリーブ黄(7.5Y6/3)	外：施釉，内：施釉	1/5	瀬戸・美濃
236	SK12	土師質土器	土鍋				外：にぶい黄橙(10YR7/3) 内：灰黄褐(10YR6/2)	外：ナデ，ハケ目後指ナデ，内：ナデ	小片	
237	SK12	土師質土器	土釜	15.5			外：にぶい黄橙(10YR6/4) 内：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：横ナデ，指押さえ後板ナデ，穿孔煤付着，内：横ナデ，指押さえ後板ナデ	1/4	
238	SX11	陶器	擂鉢	30.7	13.7	14.4	外：黄褐(2.5Y5/3) 内：灰(N6/)	外：回転ナデ後指ナデ，ヘラ切り後ナデ，内：回転ナデ，卸目	1/4	備前
239	SX11	陶器	鉢	14.7			外：灰赤(2.5YR4/2) 内：灰赤(2.5YR4/2)	外：回転ナデ，回転ナデ後板ナデ，口縁端部の一部自然釉，内：回転ナデ	1/8	備前
241	SX12	土師器	小皿	9.0		7.5	外：橙(7.5YR7/6) 内：橙(7.5YR6/6)	外：回転ナデ，底部ハケ目後ナデ，内：回転ナデ	1/4	
242	SX12	土師器	杯	11.0	2.3	5.5	外：にぶい黄橙(10YR7/3) 内：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：回転ナデ，底部糸切り，内：回転ナデ	2/3	
243	SX12	陶器	皿	10.1	1.8	6.5	外 釉：灰オリーブ(5Y5/3) 内 釉：灰オリーブ(5Y5/3)	外：施釉，高台削出し，重ね焼き痕，内：施釉	2/3	瀬戸・美濃
244	SX12	陶器	皿	11.2	2.9	6.0	外 釉：浅黄(5Y7/4) 胎：浅黄(2.5Y7/4) 内 釉：浅黄(5Y7/4) 胎：灰白(2.5Y8/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	底部完存	瀬戸・美濃
245	SX12	陶器	皿	11.7	2.7	5.8	外 釉：浅黄(2.5Y7/4) 内 釉：浅黄(2.5Y7/4) 胎：にぶい黄燈(10YR7/3)	外：施釉，高台削出し，内：施釉，蛇の目釉剝ぎ	3/4	瀬戸・美濃
246	SX12	陶器	天目茶碗	11.2	6.3	4.2	外 釉：暗褐(10YR3/3) 胎：橙(7.5YR6/6) 内 釉：暗褐(10YR3/3)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ後施釉	底部完存 口縁1/8	瀬戸・美濃
247	SX12	陶器	天目茶碗	11.7	6.4	4.9	外 釉：褐(7.5YR4/4) 胎：浅黄橙(10YR8/3) 内 釉：褐(7.5YR4/4)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉	ほぼ完存	瀬戸・美濃
248	SX12	陶器	擂鉢			11.1	外：にぶい赤褐(2.5YR4/4) 内：明赤褐(2.5YR5/6)	外：回転ナデ，指押さえ，底部ヘラ切り，内：回転ナデ後卸目	3/4	備前

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
249	SX12	瓦質土器	土鍋	30.0	10.7		外：灰(5Y4/1) 内：オリーブ黒(5Y3/1)	外：横ナデ，指押さえ，ハケ目，内：ナデ，指押さえ，ハケ目	1/8	
250	SX12	瓦質土器	土鍋	32.6	13.1		外：オリーブ黒(7.5Y3/1) 内：オリーブ黒(5Y3/1)	外：横ナデ,ハケ目後指押さえ後ナデ,ハケ目，内：横ナデ，指押さえ後ハケ目後ナデ	完存	
251	SX12	瓦質土器	土鍋	33.7	12.2	9.1	外：オリーブ黒(5Y3/1) 内：オリーブ黒(5Y3/1)	外：横ナデ,ハケ目後指押さえ後ナデ,内：ハケ目後横ナデ，横ナデ，ハケ目	1/2	
252	SX12	瓦質土器	土鍋	29.6			外：黄灰(2.5Y4/1) 内：黄灰(2.5Y4/1)	外：横ナデ，指押さえ後ハケ目，内：ハケ目，ハケ目後横ナデ	7/8	
253	SX12	金属器	坩堝	6.3	3.3		外：黄灰(2.5Y4/1) 内：明灰(N3/)	外：ナデ,口縁端部にスラグ付着,内：ナデ，口縁端部にスラグ付着	2/3	
254	SX13	土師器	小皿	6.5	1.9	4.2	外：にぶい橙(5YR6/4) 内：灰黄褐(10YR6/2)	外：横ナデ，ヘラ切り後ナデ，内：横ナデ，摩滅	完存	
255	SX13	土師質土器	土鍋	29.2			外：浅黄橙(10YR8/3) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：摩滅，内：横ナデ，ナデ	1/8	
256	SX13	瓦質土器	土鍋				外：黄灰(2.5Y4/1) 内：暗灰黄(2.5Y5/2)	外：横ナデ，指押さえ後ハケ目，内：横ナデ，ハケ目	小片	
257	SX13	土師質土器	鉢	17.5			外：暗灰黄(2.5Y5/2) 内：黄灰(2.5Y4/1)	外：横ナデ，指押さえ後ナデ，内：横ナデ，ハケ目	1/8	
258	SX13	陶器	擂鉢				外：にぶい赤褐(2.5YR4/4) 内：にぶい赤褐(2.5YR4/3)	外：回転ナデ後ナデ，内：回転ナデ，卸目	小片	備前
259	SX13	陶器	皿			4.4	外 釉：黒(5Y2/1) 胎：にぶい黄橙(10YR6/4) 内 釉：黒(5Y2/1)	外：施釉，内：施釉，砂目積３ヶ所	2/3	唐津
260	SX13	陶器	皿			9.3	外 釉：灰白(7.5Y7/1) 胎：にぶい黄褐(10YR5/3) 内 釉：灰白(7.5Y7/1)	外：ヘラ削り，施釉，高台削出し，内：回転ナデ後施釉，砂目積	1/4	唐津
261	SX13	磁器	皿	10.0	2.3	5.8	外 釉：明青灰(10BG7/1) 内 釉：明青灰(10BG7/1)	外：施釉，染付，高台削出し，内：施釉	2/3	景徳鎮
262	SX13	磁器	皿	13.8	2.9	8.1	外 釉：明青灰(10BG7/1) 胎：灰白(5Y8/2) 内 釉：明青灰(10BG7/1)	外：施釉，染付，高台削出し，内：施釉	1/4	景徳鎮
263	SX13	土師器	土人形	最大高4.3	最大厚1.7	最大幅29	外：にぶい黄橙(10YR7/2) 内：にぶい黄橙(10YR7/2)	外：ナデ，一部赤色顔料付着	体部小片	
264	SX13	金属器	坩堝	5.9	4.0		外：褐灰(7.5YR5/1) 内：暗灰(N3/)	外：指ナデ，スラグ付着，内：指ナデ	完存	
267	SX13	弥生土器	高杯	13.3			外：にぶい黄褐(10YR5/4) 内：にぶい黄褐(10YR5/4)	外：摩滅，ヘラ削り後ハケ目(摩滅)，内：摩滅，ハケ目後ヘラミガキ(摩滅)	1/8	
268	SX14	土師質土器	土鍋	30.5			外：にぶい黄(2.5Y6/4) 内：にぶい黄褐(10YR5/3)	外：横ナデ，ハケ目後指押さえ，内：ハケ目後横ナデ，ハケ目	1/8	
269	SX14	土師質土器	土鍋	15.6			外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい黄褐(10YR5/4)	外：横ナデ，板ナデ後指ナデ，内：横ナデ，板ナデ後指ナデ	4/5	
270	SX14	瓦質土器	土釜	12.7			外：黄灰(2.5Y5/1) 内：黄灰(2.5Y4/1)	外：ハケ目，板ナデ，内：横ナデ，指押さえ，ハケ目	3/8	
271	SX14	陶器	擂鉢				外：灰褐(5YR4/2) 内：にぶい赤褐(5YR5/4)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	小片	備前
272	SX14	陶器	杯	6.6	5.1	2.3	外：にぶい赤褐(2.5YR4/4) 内：にぶい赤褐(2.5YR4/3)	外：回転ナデ，底部ヘラ記号，内：回転ナデ	底部完存	備前
273	SX14	陶器	壺		8.6	9.8	外：灰褐(5YR4/2) 内：褐(7.5YR4/3)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	3/8	備前

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
274	SX14	陶器	皿	10.4	1.9	5.3	外 釉：暗褐(10YR3/3) 内 釉：暗褐(10YR3/3)	外：施釉，高台削出し，重ね焼き痕， 内：施釉，重ね焼き痕	ほぼ完存	志野
275	SX14	陶器	碗			4.5	外 釉：灰白(10Y7/1) 胎：浅黄橙(10YR8/4) 内 釉：灰白(10Y7/1)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	1/3	瀬戸・美濃
276	SX14	陶器	天目茶碗	12.0	5.5		外 釉：暗褐(7.5YR3/4) 胎：にぶい黄橙(10YR7/4) 内 釉：暗褐(7.5YR3/4)	外：施釉，回転ナデ，内：施釉	1/4	瀬戸・美濃
277	SX14	磁器	皿	12.5			外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，染付，内：施釉，染付	1/8	肥前
278	SX15	土師器	小皿	6.8	0.9	5.1	外：浅黄橙(10YR8/3) 内：浅黄橙(10YR8/4)	外：回転ナデ，回転ヘラ切り，内：回転ナデ，仕上げナデ	1/4	
279	SX15	須恵質土器	小皿			5.2	外：灰白(5Y7/1) 内：灰白(5Y7/1)	外：回転ナデ後ナデ，横ナデ，回転ヘラ切り後ナデ，内：回転ナデ後ナデ	底部2/3	
280	SX15	陶器	皿				外 釉：灰白(5Y7/1) 胎：浅黄(2.5Y7/3) 内 釉：灰白(5Y7/1)	外：回転ナデ後施釉，部分的に釉剝離， 内：回転ナデ後施釉	小片	
281	SX15	磁器	小型杯			3.0	外 釉：灰白(2.5GY8/2) 内 釉：灰白(2.5GY8/2)	外：施釉，染付，高台削出し，内：施釉，染付	1/2	
282	SX15	磁器	皿	11.6	2.5	6.1	外 釉：明青灰(10BG7/1) 胎：浅黄(2.5Y7/3) 内 釉：明青灰(10BG7/1)	外：施釉，染付，高台削出し，内：施釉，染付	3/4	
283	SX15	磁器	碗			3.8	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N7/)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉	3/8	肥前
284	SX15	土師器	転用土製品				表：にぶい黄橙(10YR6/3) 裏：にぶい橙(7.5YR6/4)	表：回転ナデ後ナデ，裏：糸切り後板目痕	ほぼ完存	
285	SX15	土師器	転用土製品	4.0	0.7		表：橙(7.5YR7/6) 裏：にぶい橙(7.5YR7/4)	表：板ナデ，裏：ナデ	完存	
286	SX15	瓦	転用土製品	現存長4.6	最大厚2.0	最大幅4.5	表：暗灰(N3/) 裏：暗灰(N3/)	表：ナデ，裏：ナデ	完存	
383	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.0	1.7	5.3	外：にぶい黄橙(10YR7/3) 内：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	3/4	
384	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.2	2.1	4.2	外：浅黄橙(10YR8/4) 内：浅黄橙(10YR8/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	完存	
385	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.4	1.6	5.3	外：灰白(10YR7/2) 内：灰白(10YR7/2)	外：回転ナデ，ヘラ切り後板目痕，内：回転ナデ	ほぼ完存	
386	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.0	1.8	4.2	外：浅黄橙(10YR8/3) 内：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	2/3	
387	第4遺構面上層	土師器	小皿	7.3	1.9	3.4	外：浅黄橙(10YR8/3) 内：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ，ヘラ切り，内：回転ナデ	3/4	
388	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.2	1.9	3.3	外：灰白(10YR8/2) 内：灰白(10YR8/2)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
389	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.3	2.0	4.2	外：灰黄褐(10YR5/2) 内：灰黄褐(10YR5/2)	外：回転ナデ，糸切り後ナデ，内：回転ナデ	ほぼ完存	
390	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.3	2.1	3.7	外：橙(7.5YR6/6) 内：橙(7.5YR7/6)	外：回転ナデ，ヘラ切り後ナデ，内：回転ナデ，口縁部5ヶ所に煤付着	ほぼ完存	
391	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.6	1.5	6.1	外：浅黄橙(7.5YR8/3) 内：灰白(10YR8/2)	外：回転ナデ，ヘラ切り後板目痕，内：回転ナデ	ほぼ完存	
392	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.2	2.3	4.3	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，ヘラ切り後ナデ，内：回転ナデ	4/5	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
393	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.7	2.2	4.7	外：にぶい黄橙(7.5YR7/4) 内：にぶい黄橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ，黒斑あり，内：回転ナデ	ほぼ完存	
394	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.5	1.8	5.0	外：橙(7.5YR6/6) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り後ナデ，内：回転ナデ	ほぼ完存	
395	第4遺構面上層	土師器	小皿	7.9	1.2	5.7	外：浅黄橙(10YR8/3) 内：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ,ヘラ切り,内：回転ナデ	完存	
396	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.7	1.7	5.8	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，ヘラ切り後板目痕，内：回転ナデ	3/4	
397	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.1	2.0	3.7	外：橙(7.5YR6/6) 内：橙(7.5YR6/6)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	4/5	
398	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.5	2.2	4.6	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，ヘラ切り後ナデ，板目痕，内：回転ナデ後ナデ	2/3	
399	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.1	2.0	3.8	外：にぶい黄橙(10YR7/3) 内：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	2/3	
400	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.4	2.1	4.1	外：灰白(2.5Y8/2) 内：灰白(2.5Y8/2)	外：回転ナデ，ナデ，内：回転ナデ	ほぼ完存	
401	第4遺構面上層	土師器	小皿	8.6	1.9	4.1	外：橙(7.5YR7/6) 内：橙(7.5YR7/6)	外：回転ナデ，ヘラ切り後ナデ，内：回転ナデ	完存	
402	第4遺構面上層	土師器	小皿	9.0	1.8	5.4	外：橙(7.5YR7/6) 内：橙(7.5YR7/6)	外：回転ナデ，ヘラ切り後ナデ，内：回転ナデ	2/3	
403	第4遺構面上層	土師器	小皿	9.9	2.2	4.8	外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
404	第4遺構面上層	土師器	小皿	10.8	2.4	4.5	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	4/5	
405	第4遺構面上層	土師器	小皿	10.8	1.8	6.2	外：にぶい黄橙(10YR6/3) 内：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
406	第4遺構面上層	土師器	小皿	10.7	2.5	5.2	外：にぶい橙(7.5YR7/4) 内：橙(7.5YR7/6)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
407	第4遺構面上層	土師器	杯	8.3	3.7	4.8	外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：にぶい黄橙(10YR6/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	完存	
408	第4遺構面上層	土師器	杯	8.4	4.1	4.3	外：橙(7.5YR7/6) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	2/3	
409	第4遺構面上層	土師質土器	火鉢	19.6	17.5		外：にぶい黄橙(10YR6/4) 内：灰黄褐(10YR5/2)	外：横ナデ,板ナデ,ナデ,ヘラ削り,板ナデ,内：指押さえ後ナデ,ナデ後ハケ目	5/6	
410	第4遺構面上層	土師質土器	擂鉢	19.7	10.3	10.0	外：にぶい黄橙(10YR7/3) 内：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：横ナデ，ナデ，内：ハケ目後卸目	1/3	
411	第4遺構面上層	陶器	擂鉢			13.6	外：にぶい赤褐(2.5YR5/4) 内：にぶい赤褐(2.5YR4/3)	外：ハケ目後ナデ，回転ナデ後ナデ，内：ナデ，卸目	1/5	備前
412	第4遺構面上層	陶器	擂鉢	23.8	9.5	10.6	外：明赤褐(2.5YR5/6) 内：明赤褐(2.5YR5/6)	外：回転ナデ，ヘラ削り後ナデ，内：回転ナデ，卸目	4/5	備前
413	第4遺構面上層	陶器	擂鉢	31.4	13.1	13.0	外：にぶい赤褐(2.5YR5/4) 内：赤褐(10R5/4)	外：回転ナデ，ナデ，内：回転ナデ，卸目	1/5	備前
414	第4遺構面上層	陶器	皿	23.2	4.5	13.0	外：にぶい赤褐(5YR4/3) 内：にぶい赤褐(5YR4/3)	外：回転ナデ,ヘラ記号,内：回転ナデ	3/4	備前
415	第4遺構面上層	陶器	皿	24.3	4.4	15.4	外：にぶい赤褐(2.5YR4/3) 内：灰赤(2.5YR4/2)	外：回転ナデ，ヘラ削り，重ね焼き痕，内：回転ナデ	ほぼ完存	備前
416	第4遺構面上層	陶器	皿	30.0	6.4	16.6	外：暗赤褐(2.5YR3/3) 内：にぶい赤褐(2.5YR4/3)	外：回転ナデ，ヘラ削り後ナデ，重ね焼き痕，内：回転ナデ	1/2	備前
417	第4遺構面上層	陶器	皿	28.6	4.6	16.2	外：赤褐(10YR4/4) 内：赤褐(10YR4/4)	外：回転ナデ，ヘラ削り後ナデ，内：回転ナデ	4/5	備前

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
418	第4遺構面上層	陶器				12.0	外：赤褐(10R4/3) 内：赤褐(2.5YR4/6)	外：ヘラ削り後ナデ，ヘラ記号，内：回転ナデ	1/4	備前
419	第4遺構面上層	陶器	皿	10.2	2.2	8.0	外：にぶい赤褐(2.5YR4/3) 内：赤褐(10YR4/3)	外：回転ナデ，ナデ，ヘラ記号，内：回転ナデ	5/6	備前
420	第4遺構面上層	陶器	皿	11.0	2.4	5.0	外：にぶい赤褐(2.5YR4/3) 内：にぶい赤褐(2.5YR4/3)	外：回転ナデ，ヘラ記号，自然釉，ヘラ削り後ナデ，内：回転ナデ	1/2	備前
421	第4遺構面上層	陶器	壺			9.8	外：灰(N5/) 内：暗灰黄(2.5Y4/2)	外：回転ナデ，ヘラ削り，竹管文，内：回転ナデ，絞り目	2/3	備前
422	第4遺構面上層	陶器	壺	3.7			外 釉：灰赤(2.5YR4/2) 内：にぶい赤(7.5R4/4)	外：回転ナデ後ヘラ削り，ヘラ記号，内：回転ナデ，絞り目	2/3	備前
423	第4遺構面上層	陶器	壺	4.8			外：褐灰(10YR4/1) 内：褐灰(5YR4/1)	外：回転ナデ，ヘラ削り後ナデ，内：回転ナデ，絞り目	1/3	備前
424	第4遺構面上層	陶器	壺	3.2			外：褐灰(10YR4/1) 内：黒褐(10YR3/1)	外：回転ナデ，自然釉，内：回転ナデ，絞り目	口縁部完存	備前
425	第4遺構面上層	陶器	壺			5.6	外：にぶい赤褐(2.5YR4/3) 内：灰赤(2.5YR4/2)	外：回転ナデ，回転ナデ後板ナデ，ヘラ記号，内：回転ナデ，絞り目	1/2	備前
426	第4遺構面上層	陶器	壺			4.1	外：にぶい赤褐(5YR4/3) 内：灰赤(2.5YR4/2)	外：回転ナデ，ヘラ削り，ヘラ切り後ヘラ削り，ヘラ記号，内：回転ナデ	ほぼ完存	備前
427	第4遺構面上層	陶器	壺			5.0	外：赤褐(10YR4/3) 内：にぶい赤褐(2.5YR4/4)	外：回転ナデ，ヘラ削り後ナデ，内：回転ナデ，絞り目	1/2	備前
428	第4遺構面上層	陶器	壺			4.6	外：灰赤(2.5YR4/2) 内：灰赤(2.5YR4/2)	外：回転ナデ，ヘラ削り，ヘラ記号，内：回転ナデ	1/2	備前
429	第4遺構面上層	陶器	甕	12.8			外：暗褐(7.5YR3/3) 内：灰黄褐(10YR5/2)	外：回転ナデ，ヘラ記号，内：回転ナデ	小片	備前
430	第4遺構面上層	陶器	鉢	14.8	5.8	8.4	外：にぶい赤褐(5YR4/4) 内：灰赤(2.5YR4/2)	外：回転ナデ，ヘラ削り後ナデ，重ね焼き痕 内：回転ナデ	1/2	備前
431	第4遺構面上層	陶器	壺			5.8	外 釉：にぶい黄褐(10YR4/3) 内 釉：にぶい黄褐(10YR4/3)	外：施釉，無釉，回転ナデ，回転糸切り，内：施釉，回転ナデ	2/3	備前
432	第4遺構面上層	陶器	天目茶碗	11.1	6.6	3.6	外 釉：暗褐(7.5YR3/4) 胎：にぶい黄橙(10YR7/4) 内 釉：暗褐(7.5YR3/4)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	1/2	瀬戸・美濃
433	第4遺構面上層	陶器	天目茶碗	11.6	6.3	4.2	外 釉：オリーブ褐(2.5Y4/4) 胎：にぶい橙(7.5YR7/4) 内 釉：オリーブ褐(2.5Y4/4)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉	4/5	瀬戸・美濃
434	第4遺構面上層	陶器	天目茶碗	11.8	6.2	4.7	外 釉：褐(7.5YR4/4) 胎：浅黄橙(10YR8/4) 内 釉：褐(7.5YR4/4)	外：回転ナデ，施釉，回転ヘラ削り，高台削出し，内：回転ナデ，施釉	ほぼ完存	瀬戸・美濃
435	第4遺構面上層	陶器	皿	10.8	2.2	5.4	外 釉：褐(10YR4/4) 胎：灰白(5Y8/2) 内 釉：褐(10YR4/4)	外：施釉，内：施釉，重ね焼き痕3ヶ所	1/2	瀬戸・美濃
436	第4遺構面上層	陶器	皿	7.3	2.0	4.2	外 釉：オリーブ黄(5Y6/3) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/3)	外：施釉，回転ナデ，重ね焼き痕，内：施釉，回転ナデ	完存	瀬戸・美濃
437	第4遺構面上層	陶器	皿	10.2	3.2	5.6	外 釉：オリーブ黄(5Y6/4) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/4)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉，窯道具の痕跡あり	ほぼ完存	瀬戸・美濃
438	第4遺構面上層	陶器	皿	9.9	2.6	5.2	外 釉：暗褐(10YR3/4) 内 釉：暗褐(10YR3/4)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，重ね焼き痕，内：施釉，回転ナデ，胎土目積3ヶ所	1/3	瀬戸・美濃
439	第4遺構面上層	陶器	皿	9.9	2.5	5.0	外 釉：浅黄(5Y7/3) 内：浅黄(5Y7/3)	外：回転ナデ，施釉，重ね焼き痕，内：回転ナデ，施釉	3/4	瀬戸・美濃

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
440	第4遺構面上層	陶器	皿	10.0	2.1	5.2	外 釉：オリーブ黄(5Y6/3) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/3) 胎：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，重ね焼き痕，内：回転ナデ，施釉，釉剝ぎ	ほぼ完存	瀬戸・美濃
441	第4遺構面上層	陶器	皿	9.8	1.9	5.6	外 釉：にぶい黄(2.5Y6/4) 胎：にぶい黄橙(10YR6/4) 内 釉：にぶい黄(2.5Y6/4) 胎：にぶい黄橙(10YR6/4)	外：施釉，高台削出し，内：施釉，釉剝ぎ	4/5	瀬戸・美濃
442	第4遺構面上層	陶器	皿	10.6	2.0	5.2	外 釉：オリーブ黄(7.5Y6/3) 内 釉：オリーブ黄(7.5Y6/3) 胎：にぶい黄橙(10YR7/4)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，重ね焼き痕，内：施釉，釉剝ぎ	ほぼ完存	瀬戸・美濃
443	第4遺構面上層	陶器	皿	10.4	2.4	3.9	外 釉：オリーブ(5Y5/4) 胎：にぶい橙(7.5YR6/4) 内 釉：オリーブ(5Y5/4)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	3/4	瀬戸・美濃
444	第4遺構面上層	陶器	皿	10.4	1.9	6.0	外 釉：灰白(7.5Y7/2) 内 釉：灰白(7.5Y7/2)	外：回転ナデ，施釉，重ね焼き痕，内：回転ナデ，施釉	2/3	瀬戸・美濃
445	第4遺構面上層	陶器	皿	10.8	1.6	5.9	外 釉：オリーブ黄(5Y6/4) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/4)	外：施釉，重ね焼き痕，内：施釉，釉剝ぎ	4/5	瀬戸・美濃
446	第4遺構面上層	陶器	皿	11.6	2.5	6.4	外 釉：オリーブ黄(5Y6/4) 胎：浅黄橙(10YR8/3) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/4) 胎：浅黄橙(10YR8/3)	外：施釉，内：施釉	1/3	瀬戸・美濃
447	第4遺構面上層	陶器	皿	11.4	2.0	5.4	外 釉：オリーブ黄(5Y6/4) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/4) 胎：浅黄(2.5Y8/3)	外：回転ナデ，高台削出し，重ね焼き痕，内：回転ナデ，釉剝ぎ	7/8	瀬戸・美濃
448	第4遺構面上層	陶器	皿	10.8	2.8	6.0	外 釉：褐(7.5YR4/3) 内 釉：褐(7.5YR4/3)	外：回転ナデ，施釉，ヘラ切り，チャツ跡，内：回転ナデ，施釉，ハマ跡	ほぼ完存	瀬戸・美濃
449	第4遺構面上層	陶器	皿	11.0	2.4	6.4	外 釉：オリーブ黄(5Y6/4) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/4) 胎：にぶい黄橙(10YR7/4)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，重ね焼き痕，内：回転ナデ，施釉，釉剝ぎ	ほぼ完存	瀬戸・美濃
450	第4遺構面上層	陶器	皿	10.8	2.5	5.6	外 釉：浅黄(5Y7/4) 内 釉：浅黄(5Y7/4)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，重ね焼き痕，内：回転ナデ，施釉	ほぼ完存	瀬戸・美濃
451	第4遺構面上層	陶器	皿	10.4	2.7	5.1	外 釉：浅黄(5Y7/3) 内 釉：浅黄(5Y7/3)	外：施釉，高台削出し，重ね焼痕，内：施釉	ほぼ完存	瀬戸・美濃
452	第4遺構面上層	陶器	皿	10.4	1.8	5.6	外 釉：オリーブ黄(5Y6/4) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/4) 胎：灰白(10YR8/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉，蛇の目釉剝ぎ	5/6	瀬戸・美濃
453	第4遺構面上層	陶器	皿	9.8	2.8	4.4	外 釉：灰オリーブ(7.5Y6/2) 胎：橙(7.5YR7/6) 内 釉：灰オリーブ(7.5Y6/2)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，口縁部1ヶ所に煤付着	ほぼ完存	瀬戸・美濃
454	第4遺構面上層	陶器	皿	14.3	3.3	6.0	外 釉：浅黄(2.5Y7/3) 胎：浅黄(2.5Y8/3) 内 釉：浅黄(2.5Y7/3) 胎：浅黄(2.5Y8/3)	外：回転ナデ，高台貼り付け，内：回転ナデ，釉剝ぎ	1/3	志野
455	第4遺構面上層	陶器	皿	11.8	2.5	6.6	外 釉：灰白(5Y7/2) 内 釉：灰白(5Y7/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉，胎土目積3ヶ所	2/3	志野
456	第4遺構面上層	陶器	向付				外 釉：灰黄(2.5Y7/2) 胎：にぶい黄橙(10YR7/2) 内 釉：灰黄(2.5Y7/2)	外：施釉，染付，板ナデ，内：施釉，染付	小片	織部
457	第4遺構面上層	陶器	天目茶碗	12.0	6.5	5.8	外 釉：灰(5Y6/1) 胎：にぶい褐(7.5YR5/3) 内 釉：灰(5Y6/1)	外：施釉，回転ナデ，ヘラ削り，回転糸切り後削出し？，内：施釉	4/5	唐津
458	第4遺構面上層	陶器	碗	9.0	5.8	4.8	外 釉：浅黄(5Y7/3) 胎：灰白(5Y8/2) 内 釉：浅黄(5Y7/3)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉	2/3	京焼風陶器

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
459	第4遺構面上層	陶器	皿	10.2	2.7	5.9	外 釉：にぶい赤褐(5YR4/4) 内 釉：にぶい赤褐(5YR4/4)	外：回転ナデ，施釉，重ね焼き痕，ヘラ切り後ナデ，内：回転ナデ，施釉，重ね焼き痕３ヶ所	完存	唐津
460	第4遺構面上層	陶器	皿	10.0	2.7	4.0	外 釉：淡黄(2.5Y8/3) 胎：にぶい赤褐(5YR5/4) 内 釉：淡黄(2.5Y8/3)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉，砂目積３ヶ所か？	2/3	唐津
461	第4遺構面上層	陶器	皿	11.0	2.3	3.6	外 釉：灰オリーブ(5Y5/3) 胎：にぶい褐(7.5YR5/4) 内 釉：灰オリーブ(5Y5/3)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，砂目積３ヶ所	4/5	唐津
462	第4遺構面上層	陶器	皿	12.1	3.6	4.6	外 釉：灰オリーブ(5Y5/2) 胎：にぶい褐(7.5YR5/4) 内 釉：灰オリーブ(5Y5/2)	外：回転ナデ，施釉，回転削出し，内：回転ナデ，施釉，砂目積４ヶ所	5/6	唐津
463	第4遺構面上層	陶器	皿			4.2	外 釉：灰オリーブ(7.5Y5/3) 胎：赤褐(5YR4/6) 内 釉：灰オリーブ(7.5Y5/3)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，砂目積３ケ所	2/3	唐津
464	第4遺構面上層	陶器	皿		2.4	5.4	外 釉：黄灰(2.5Y6/1) 胎：にぶい赤褐(2.5YR4/3) 内 釉：黄灰(2.5Y6/1)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，胎土目積４ヶ所，鉄絵	底部完存	唐津
465	第4遺構面上層	陶器	皿	12.6	3.7	5.0	外 釉：灰オリーブ(5Y5/2) 胎：褐(7.5YR4/3) 内 釉：灰オリーブ(5Y5/2) 胎：褐(7.5YR4/3)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，釉剝ぎ，鉄絵	4/5	唐津
466	第4遺構面上層	陶器	皿	13.2	3.8	4.8	外 釉：灰オリーブ(5Y6/2) 胎：にぶい黄橙(10YR6/3) 内 釉：灰オリーブ(5Y6/2)	外：回転ナデ，施釉，回転ヘラ削り後ナデ，内：回転ナデ，施釉，鉄絵	1/3	唐津
467	第4遺構面上層	陶器	皿	12.4	3.9	4.2	外 釉：灰白(2.5Y8/1) 胎：にぶい黄褐(10YR5/3) 内 釉：灰白(2.5Y8/1)	外：施釉，回転ナデ，鉄絵，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，鉄絵	1/3	唐津
468	第4遺構面上層	陶器	鉢	19.0	9.2	6.0	外 釉：灰白(7.5Y7/1) 胎：にぶい橙(7.5YR7/4) 内 釉：灰白(7.5Y7/1)	外：施釉，回転ナデ，高台削出し，内：施釉，回転ナデ	1/3	唐津
469	第4遺構面上層	青磁	碗	18.0			外 釉：オリーブ灰(10Y5/2) 内 釉：オリーブ灰(10Y5/2)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉	小片	中国産
470	第4遺構面上層	青磁	皿	11.9	3.9	6.0	外 釉：明緑灰(7.5GY7/1) 胎：にぶい黄橙(10YR6/3) 内 釉：明緑灰(7.5GY7/1)	外：施釉，高台削出し，蛇の目釉剝ぎ，内：施釉	1/2	中国産
471	第4遺構面上層	磁器	盃	6.8	4.2	2.4	外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 内 明緑灰(7.5GY8/1)	外：施釉，無釉，染付，高台削出し，内：施釉，染付	1/3	景徳鎮
472	第4遺構面上層	磁器	碗	11.9			外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，染付，内：施釉，染付	1/3	景徳鎮
473	第4遺構面上層	磁器	碗	12.0	5.2	4.0	外：灰白(5Y8/2) 内：灰白(5Y8/2)	外：施釉，染付，下半に貫入，高台削出し，内：施釉，染付	1/4	景徳鎮
474	第4遺構面上層	磁器	碗			4.2	外 釉：明緑灰(10GY8/1) 内 釉：明緑灰(10GY8/1)	外：施釉，染付，畳付無釉，高台削出し，内：施釉，染付	1/3	景徳鎮
475	第4遺構面上層	磁器	碗			4.3	外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 内 釉：明緑灰(7.5GY8/1)	外：染付，施釉，畳付無釉，高台削出し，内：染付，施釉	1/2	景徳鎮
476	第4遺構面上層	磁器	碗			4.3	外 釉：明緑灰(10GY8/1) 内 釉：明緑灰(10GY8/1)	外：染付，施釉，高台削出し，内：染付，施釉	底部完存	景徳鎮
477	第4遺構面上層	磁器	碗			4.0	外 釉：灰白(5GY8/1)胎：灰白(2.5Y8/2) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：回転ナデ，施釉，染付，高台削出し，内：回転ナデ，施釉	底部完存	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
478	第4遺構面上層	磁器	皿	11.6	3.1	3.6	外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 胎：灰黄(2.5Y7/2) 内 釉：明緑灰(7.5GY8/1)	外：施釉，無釉，内：施釉，染付	1/2	中国産
479	第4遺構面上層	磁器	皿			6.2	外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 内 釉：明緑灰(7.5GY8/1)	外：回転ナデ，施釉，染付，高台削出し，底部「大明年造」銘，内：回転ナデ，施釉，染付，見込に龍	1/2	中国産
480	第4遺構面上層	磁器	皿	11.2	2.3	6.3	外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 内 釉：明緑灰(7.5GY8/1)	外：回転ナデ，染付，施釉，高台削出し，畳付無釉，内：回転ナデ，染付，施釉	1/3	中国産
481	第4遺構面上層	磁器	皿	9.6	2.5	4.1	外 釉：明緑灰(10GY8/1) 内 釉：明緑灰(10GY8/1)	外：施釉，染付，高台削出し，畳付無釉，内：施釉，染付	1/2	中国産
482	第4遺構面上層	磁器	皿		1.9	7.3	外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 内 釉：明緑灰(7.5GY8/1)	外：回転ナデ，施釉，染付，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，染付	1/2	景徳鎮
483	第4遺構面上層	磁器	皿	14.2	3.8	5.8	外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 胎：明赤褐(2.5YR5/6) 内 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 胎：淡黄(2.5Y8/3)	外：施釉，染付，高台削出し，鉄塗り，内：施釉，蛇の目釉剥ぎ	1/3	景徳鎮
484	第4遺構面上層	磁器	皿	12.4	3.5	6.6	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，高台削出し，畳付無釉，底部「天下太平」銘，内：施釉	1/3	中国産
485	第4遺構面上層	磁器	皿	10.4	3.0	5.6	外 釉：灰白(10Y7/2) 内 釉：灰白(10Y7/2)	外：施釉，染付，高台削出し，内：施釉，染付	4/5	福建
486	第4遺構面上層	磁器	皿	10.0	2.8	5.8	外 釉：灰白(5Y7/2) 内 釉：灰白(5Y7/2)	外：施釉，染付，貫入，高台削出し，畳付無釉，内：施釉，染付	4/5	福建
487	第4遺構面上層	磁器	皿	10.2	2.9	6.0	外 釉：灰白(5Y7/2) 胎：にぶい黄橙(10YR7/3) 内 釉：灰白(5Y7/2)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，染付，内：回転ナデ，施釉，染付	2/3	福建
488	第4遺構面上層	磁器	皿	11.0	3.0	4.4	外 釉：灰白(7.5Y7/1) 胎：にぶい黄橙(10YR7/4) 内 釉：灰白(7.5Y7/1)	外：施釉，染付，高台削出し，無釉，貫入，内：施釉，染付，貫入	2/3	福建
489	第4遺構面上層	磁器	皿	10.2	3.2	5.6	外 釉：灰黄(2.5Y7/2) 胎：にぶい黄橙(10YR7/4) 内 釉：灰黄(2.5Y7/2)	外：回転ナデ，施釉，染付，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，染付	1/2	福建
490	第4遺構面上層	磁器	皿	15.6	3.3	8.7	外 釉：明緑灰(10GY8/1) 胎：にぶい黄橙(10YR7/4) 内 釉：明緑灰(10GY8/1)	外：染付，施釉，高台削出し，畳付無釉，内：染付，施釉	1/3	景徳鎮
491	第4遺構面上層	磁器	皿	24.9	4.6	15.4	外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 内 釉：明緑灰(7.5GY8/1)	外：施釉，染付，高台削出し，畳付無釉，内：施釉，染付	小片	景徳鎮
492	第4遺構面上層	磁器	皿			15.6	外 釉：明緑灰(10GY8/1) 内 釉：明緑灰(10GY8/1)	外：染付，施釉，高台削出し，畳付無釉，砂付着，内：染付，施釉	1/4	景徳鎮
493	第4遺構面上層	白磁	皿	11.3	3.4	6.6	外 釉：灰白(5Y8/1) 内 釉：灰白(5Y8/1)	外：回転ナデ，施釉，貫入，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，貫入	2/3	景徳鎮
494	第4遺構面上層	白磁	皿	13.0	3.1	7.6	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	1/4	景徳鎮
495	第4遺構面上層	白磁	皿	12.4	3.7	5.8	外 釉：灰白(7.5Y7/1) 胎：灰黄(2.5Y7/2) 内 釉：灰白(7.5Y7/1)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，蛇の目釉剥ぎ	1/2	景徳鎮
496	第4遺構面上層	白磁	皿	13.4	3.3	6.4	外 釉：灰白(5Y7/1) 胎：淡黄(2.5Y8/3) 内 釉：灰白(5Y7/1)	外：施釉，高台削出し，内：施釉，蛇の目釉剥ぎ，重ね焼き痕	4/5	景徳鎮
497	第4遺構面上層	白磁	皿	13.6	3.5	6.0	外 釉：灰白(10Y8/1) 胎：明赤褐(5YR5/8) 内 釉：灰白(10Y8/1)	外：回転ナデ，施釉，鉄塗り，内：回転ナデ，施釉，蛇の目釉剥ぎ	2/3	景徳鎮
498	第4遺構面上層	白磁	皿	15.2	3.9	5.0	外 釉：灰白(7.5Y7/1) 胎：浅黄橙(10YR8/3) 内 釉：灰白(7.5Y7/1)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉	1/2	景徳鎮

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
499	第4遺構面上層	白磁	皿	16.2			外 釉：灰白(5Y8/1) 内 釉：灰白(5Y7/1)	外：施釉，内：施釉	小片	景徳鎮
500	第4遺構面上層	白磁	皿			10.0	外 釉：灰白(2.5Y8/1) 内 釉：灰白(2.5Y8/1)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉	1/4	景徳鎮
501	第4遺構面上層	磁器	皿			6.1	外 釉：灰白(5Y7/1) 胎：にぶい黄橙(10YR 7/4) 内 釉：灰白(5Y7/1)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，砂目積３ヶ所？	1/3	
502	第4遺構面上層	磁器	皿	18.0			外 釉：灰白(7.5Y7/1) 内 釉：灰白(7.5Y7/1)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉	小片	
503	第4遺構面上層	瓦質土器	三足付香炉	12.9	5.3	9.2	外：褐灰(10YR4/1) 内：黄灰(2.5Y5/1)	外：ヘラミガキ後雷文・十字文，沈線４条，板ナデ，内：回転ナデ	1/3	
504	第4遺構面上層	白磁	皿	16.8	4.2	5.2	外 釉：灰白(5Y8/2) 内 釉：灰白(5Y8/2)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉	1/3	朝鮮半島
505	第4遺構面上層	白磁	皿			5.4	外 釉：明オリーブ灰(2.5GY7/1) 内 釉：明オリーブ灰(2.5GY7/1)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉	1/3	朝鮮半島
506	第4遺構面上層	白磁	皿	15.4	3.4	7.2	外 釉：灰白(2.5GY8/1) 内 釉：灰白(2.5GY8/1)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉	1/4	朝鮮半島
507	第4遺構面上層	白磁	皿			6.2	外 釉：灰白(7.5Y7/2) 内 釉：灰白(7.5Y7/2)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉	2/3	朝鮮半島
508	第4遺構面上層	白磁	皿			7.6	外 釉：灰白(10Y8/1) 内 釉：灰白(10Y8/1)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉	底部完存	朝鮮半島
509	第4遺構面上層	白磁	皿	16.0	3.0	7.2	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，内：施釉	1/5	朝鮮半島
510	第4遺構面上層	土師質土器	かまど？				外：にぶい黄橙(10YR6/3) 内：褐灰(7.5YR4/1)	外：板ナデ，ナデ，内：板ナデ，ナデ，煤付着	小片	
511	第4遺構面上層	土師質土器	有溝土錘	現存長8.4	最大厚6.4	最大幅5.0	浅黄橙(10YR8/3)	指ナデ	完存	
512	第4遺構面上層	土師質土器	有溝土錘	現存長9.1	最大厚5.6	最大幅5.5	灰白(10YR8/2)	指ナデ	ほぼ完存	
513	第4遺構面上層	土師質土器	有溝土錘	現存長9.3	最大厚4.8	最大幅6.4	橙(7.5YR7/6)	指ナデ	ほぼ完存	
514	第4遺構面上層	土師質土器	有溝土錘	現存長8.7	最大厚5.5	最大幅6.0	橙(5YR6/6)	指ナデ	ほぼ完存	
515	第4遺構面上層	土師質土器	有溝土錘	現存長9.2	最大厚5.8	最大幅6.6	にぶい黄橙(10YR6/3)	指ナデ	完存	
516	第4遺構面上層	土師質土器	有溝土錘	現存長10.2	最大厚5.9	最大幅5.9	橙(7.5YR7/6)	指ナデ	ほぼ完存	
517	第4遺構面上層	土師質土器	管状土錘	現存長5.3		最大幅1.1	橙(5YR6/6)	ナデ，一部ヘラ削り	完存	
518	第4遺構面上層	土師質土器	管状土錘	現存長5.5	最大厚0.4	最大幅1.2	淡黄(2.5Y8/3)	指ナデ	完存	
519	第4遺構面上層	土師質土器	管状土錘	現存長6.3	最大厚0.4	最大幅1.0	橙(5YR6/6)	指ナデ	完存	
520	第4遺構面上層	土師質土器	管状土錘	現存長6.4	最大厚0.5	最大幅1.5	にぶい褐(7.5YR5/4)	指ナデ	ほぼ完存	
521	第4遺構面上層	土製品	土人形	現存長4.7	最大高3.9	最大幅2.2	灰白(2.5Y8/2)	ナデ	完存	犬
522	第4遺構面上層	金属器	坩堝	7.2	2.9	1.3	外：灰褐(7.5YR6/2) 内：赤褐(10R4/2)	外：指ナデ，ガラス質熔着，内：指ナデ	完存	
523	第4遺構面上層	金属器	坩堝	8.6			外：灰赤(2.5YR5/2) 内：灰褐(7.5YR4/2)	外：指押さえ後ナデ，内：指押さえ後ナデ	1/3	
524	第4遺構面上層	骨角器	不明	現存長10.2	最大厚0.4	最大幅1.8			完存	
525	第4遺構面上層	石器	砥石	現存長10.5	最大厚3.0	最大幅3.0			小片	
526	第4遺構面上層	石器	砥石	現存長6.1	最大厚3.6	最大幅5.8		磨滅	小片	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
568	SP01	土師器	小皿	8.2	2.3	4.6	外：にぶい黄橙(10YR6/3) 内：にぶい黄橙(10YR6/3)	外：回転ナデ，糸切り後板ナデ，内：回転ナデ，ナデ	1/3	
569	SP01	陶器	擂鉢				外：にぶい赤褐(5YR4/3) 内：黄灰(2.5Y4/1)	外：回転ナデ，内：回転ナデ，卸目	小片	備前
570	SP02	土師器	小皿	6.7	1.4	2.8	外：灰白(10YR8/2) 内：灰白(10YR8/2)	外：回転ナデ，ナデ，内：回転ナデ後ナデ	1/3	
571	SP02	土師器	小皿	6.8	1.6	3.4	外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	外：回転ナデ，糸切り，煤付着，内：回転ナデ，煤付着	1/2	
572	SP02	土師器	杯			4.4	外：橙(7.5YR7/6) 内：橙(7.5YR7/6)	外：回転ナデ後ナデ，内：回転ナデ後ナデ	1/4	
573	SP02	土師器	杯	10.8	3.0	5.6	外：にぶい黄褐(10YR6/3) 内：にぶい黄橙(10YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/8	
574	SP03	陶器	皿	11.2	4.0	4.8	外 釉：灰オリーブ(5Y5/2) 胎：にぶい赤褐(5Y4/4) 内 釉：灰オリーブ(5Y5/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉，砂目積３ヶ所	1/3	唐津
577	SK15	土師器	小皿	11.1	2.0	6.4	外：灰白(10YR8/2) 内：灰白(10YR8/2)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/2	
578	SK15	土師器	小皿	11.5	2.1	6.9	外：浅黄橙(10YR8/3) 内：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ，糸切り後板目痕，内：回転ナデ	1/2	
579	SK15	土師器	小皿	11.4	1.7	7.2	外：にぶい黄橙(10YR7/3) 内：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/2	
580	SK15	土師器	小皿	11.1	1.9	6.6	外：浅黄橙(10YR8/3) 内：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ，糸切り後板目痕，内：回転ナデ，回転ナデ後ナデ	1/2	
581	SK15	土師器	小皿	11.2	2.0	6.1	外：浅黄橙(10YR8/3) 内：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	3/4	
582	SK15	土師器	小皿	12.0	2.0	7.5	外：にぶい黄橙(10YR7/3) 内：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/2	
583	SK15	土師器	小皿	11.5	2.0	7.0	外：にぶい黄橙(10YR7/3) 内：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
584	SK15	土師器	小皿	11.4	1.9	6.8	外：浅黄橙(10YR8/3) 内：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	2/3	
585	SK15	土師器	小皿	11.4	2.2	6.9	外：浅黄橙(10YR8/2) 内：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	4/5	
586	SK15	土師器	小皿	11.6	1.6	6.6	外：にぶい黄橙(10YR7/3) 内：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	底部	3/8
587	SK15	陶器	皿	24.0	4.1	14.0	外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ後ヘラ削り，内：回転ナデ	1/2	備前
588	SK18	陶器	皿	22.1	3.9	11.4	外：にぶい赤褐(5YR4/3) 内：にぶい赤褐(2.5YR4/3)	外：回転ナデ，ヘラ削り，ヘラ記号，内：回転ナデ	1/3	備前
589	SK18	磁器	皿	35.6			外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，内：施釉，染付	1/6	肥前
590	SK18	土師器	転用土製品	現存長4.2	最大厚0.6	最大幅4.5	表：橙(5YR6/6) 裏：橙(7.5YR6/6)	表：回転ナデ，裏：回転ナデ，糸切り	完存	
591	SK18	磁器	転用土製品	現存長3.0	最大厚0.4	最大幅3.0	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	表：施釉，染付，外：施釉，染付，高台削出し	底部1/4	
594	SX17	土師質土器	土釜	現存長8.9	最大厚3.0	最大幅2.5	明赤褐(2.5YR5/6)	指押さえ	ほぼ完存	
595	SX17	陶器	擂鉢	23.0	9.8	8.9	外：明赤褐(2.5YR5/6) 内：明赤褐(2.5YR5/6)	外：回転ナデ，ヘラ削り，内：回転ナデ，回転ナデ後卸目	1/4	備前
596	SX17	陶器	皿	9.6	2.3	5.0	外 釉：オリーブ黄(5Y6/3) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/3)	外：施釉，重ね焼き痕，内：施釉	底部1/2	瀬戸・美濃

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
597	SX17	陶器	皿	12.9			外 釉：灰オリーブ(5Y6/2) 内 釉：灰オリーブ(5Y6/2) 胎：にぶい黄橙(10YR6/3)	外：回転ナデ,施釉, 内：施釉	1/8	唐津
598	SX17	磁器	碗				外 釉：明緑灰(7.5GY7/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉, 内：施釉,染付	小片	肥前
599	SX17	磁器	碗			5.2	外 釉：灰白(2.5GY8/1) 内 胎：灰白(2.5Y8/1)	外：施釉,染付,高台削出し,畳付無釉,内：回転ナデ	1/7	肥前
600	SX17	磁器	皿			4.1	外 釉：明オリーブ灰(5GY7/1) 内 釉：灰白(2.5GY8/1)	外：施釉, 染付, 高台削出し, 内：施釉, 染付	1/3	肥前
609	SX18	土師器	杯	9.8	2.8	6.4	外：浅黄(2.5Y7/3) 内：浅黄(2.5Y7/3)	外：回転ナデ, ナデ, 内：回転ナデ, ナデ	1/4	
610	SX18	土師器	小皿	10.3	2.2	6.3	外：灰黄(2.5Y7/2) 内：灰黄(2.5Y7/2)	外：回転ナデ, 糸切り, 内：回転ナデ	ほぼ完存	
611	SX18	土師器	小皿	10.6	2.1	7.2	外：橙(7.5YR7/6) 内：橙(7.5YR7/6)	外：回転ナデ, ヘラ切り後ナデ, 内：回転ナデ	1/2	
612	SX18	土師質土器	土鍋	33.0			外：灰黄褐(10YR4/2) 内：灰黄褐(10YR5/2)	外：板ナデ, 指押さえ後ナデ, 内：板ナデ	1/8	
613	SX18	須恵質土器	鉢	20.4			外：灰(N6/) 内：灰(5Y6/1)	外：回転ナデ, 内：回転ナデ	小片	
614	SX18	陶器	土釜	9.9			外：暗赤褐(5YR3/3) 内：灰黄褐(10YR4/2)	外：回転ナデ, 自然釉, 内：回転ナデ, 自然釉	1/2	備前
615	SX18	陶器	皿	11.7	3.8	4.1	外 釉：明オリーブ灰(2.5GY7/2) 胎：にぶい黄橙(10YR7/4) 内 釉：明オリーブ灰(2.5GY7/2) 胎：にぶい黄橙(10YR7/4)	外：回転ナデ後施釉,高台削出し,内：回転ナデ後施釉, 砂目積３ヶ所	2/3	唐津
616	SX18	陶器	皿			4.6	外 釉：灰オリーブ(7.5Y5/3) 胎：灰黄(2.5Y6/2) 内 釉：灰オリーブ(7.5Y5/3)	外：施釉, 高台削出し, 内：施釉	完存	唐津
617	SX18	陶器	皿	11.8	3.0	3.7	外 釉：灰オリーブ(5Y5/3) 胎：灰黄褐(10YR5/2) 内 釉：灰オリーブ(5Y5/3) 胎：灰黄褐(10YR5/2)	外：回転ナデ, 施釉, 高台削出し, 内：回転ナデ, 施釉	1/2	唐津
618	SX18	陶器	皿	12.5	3.6	4.5	外 釉：黄褐(2.5Y5/3) 胎：にぶい黄褐(10YR6/4) 内 釉：黄褐(2.5Y5/3)	外：回転ナデ, 施釉, 高台削出し, 内：回転ナデ, 施釉, 砂目積３ヶ所	ほぼ完存	唐津
619	SX18	磁器	合子(蓋)	14.7			外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉, 染付, 内：施釉	1/6	肥前
620	SX18	土師質土器	土鍋	26.3	14.6		外：浅黄橙(10YR8/4) 内：浅黄橙(10YR8/4)	外：横ナデ,ハケ目後指押さえ後ナデ,指押さえ後ナデ, 煤付着, 内：指押さえ後ナデ	ほぼ完存	
621	SX18	陶器	擂鉢	28.6	14.0	11.4	外：灰黄褐(10YR4/2) 内：灰(N5/)	外：回転ナデ, ナデ後ヘラ削り, ヘラ切り, 内：回転ナデ, 卸目	1/4	備前
622	SX18	陶器	甕	31.0			外：赤褐(10R4/3) 内：にぶい赤褐(5YR5/3)	外：ヘラ削り後ナデ,内：板ナデ,ナデ	3/8	備前
630	SX19	磁器	碗	13.7	3.8		外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 内 釉：明緑灰(7.5GY8/1)	外：施釉, 染付, 内：施釉, 染付	1/8	肥前
631	SX20	土師器	小皿	6.9	1.2	4.0	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ, 糸切り, 内：回転ナデ	1/2	
632	SX20	土師器	小皿	7.8	1.2	4.8	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	7/8	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
633	SX20	土師器	小皿	8.3	1.7	4.8	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	1/4	
634	SX20	土師器	小皿	8.9	1.6	5.5	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	1/2	
635	SX20	土師器	小皿	8.8	1.6	5.5	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	ほぼ完存	
636	SX20	土師器	小皿	9.0	1.8	6.2	外：にぶい橙(7.5YR7/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	1/3	
637	SX20	土師器	小皿	8.9	2.0	5.2	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	2/3	
638	SX20	土師器	小皿	9.0	1.6	5.8	外：にぶい橙(7.5YR7/4) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	完存	
639	SX20	土師器	小皿	8.9	2.1	5.3	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	2/3	
640	SX20	土師器	小皿	9.2	1.9	5.4	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	2/3	
641	SX20	土師器	小皿	9.1	1.7	5.9	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	完存	
642	SX20	土師器	小皿	9.1	1.8	5.7	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	2/3	
643	SX20	土師器	小皿	9.4	2.0	5.9	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	完存	
644	SX20	土師器	小皿	9.4	1.8	5.5	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	1/2	
645	SX20	土師器	小皿	9.5	2.0	5.5	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	3/4	
646	SX20	土師器	小皿	9.5	2.5	5.7	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	完存	
647	SX20	土師器	小皿	9.7	1.9	5.8	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	底部ほぼ完存	
648	SX20	土師器	小皿	9.8	1.9	5.8	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ後ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/2	
649	SX20	土師器	小皿	9.3	2.0	5.2	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	ほぼ完存	
650	SX20	土師器	小皿			5.6	外：橙(7.5YR6/6) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	底部ほぼ完存	
651	SX20	土師器	小皿	7.2	1.4	4.7	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	完存	
652	SX20	土師器	小皿	7.2	1.6	4.9	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	3/4	
653	SX20	土師器	小皿	8.6	1.7	5.0	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	3/4	
654	SX20	土師器	小皿	8.9	1.6	5.0	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	完存	
655	SX20	土師器	小皿	8.9	1.6	5.9	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	1/2	
656	SX20	土師器	小皿	9.1	1.9	5.6	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	2/3	
657	SX20	土師器	小皿	9.0	1.7	5.1	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	完存	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
658	SX20	土師器	小皿	9.1	1.1	5.8	外：にぶい橙(7.5YR7/4) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	完存	
659	SX20	土師器	小皿	9.2	1.8	5.5	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	3/4	
660	SX20	土師器	小皿	9.2	1.7	5.2	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	ほぼ完存	
661	SX20	土師器	小皿	9.2	2.1	4.9	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	3/4	
662	SX20	土師器	小皿	9.4	1.5	5.7	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	底部ほぼ完存	
663	SX20	土師器	小皿	9.4	1.7	6.3	外：にぶい黄橙(10YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	3/4	
664	SX20	土師器	小皿	9.4	2.0	5.3	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	ほぼ完存	
665	SX20	土師器	小皿	9.4	2.0	5.3	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	2/3	
666	SX20	土師器	小皿	9.5	1.8	5.5	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	完存	
667	SX20	土師器	小皿	9.7	2.0	5.6	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	5/8	
668	SX20	土師器	小皿	9.5	2.0	5.4	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	ほぼ完存	
669	SX20	土師器	小皿	9.7	2.0	5.9	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	2/3	
670	SX20	土師器	小皿	7.3	1.7	4.2	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	底部完存	
671	SX20	土師器	小皿	7.7	1.6	4.9	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	ほぼ完存	
672	SX20	土師器	小皿	8.6	1.5	5.7	外：灰黄(2.5Y7/2) 内：灰白(2.5Y8/2)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	1/2	
673	SX20	土師器	小皿	8.5	1.7	5.9	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	5/8	
674	SX20	土師器	小皿	8.7	1.8	5.4	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	完存	
675	SX20	土師器	小皿	8.6	1.8	5.5	外：橙(5YR6/6) 内：橙(7.5YR6/6)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	完存	
676	SX20	土師器	小皿	8.9	1.6	5.4	外：にぶい橙(7.5YR7/4) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	完存	
677	SX20	土師器	小皿	9.0	2.0	5.1	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	ほぼ完存	
678	SX20	土師器	小皿	8.7	1.8	4.5	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	2/3	
679	SX20	土師器	小皿	8.9	1.8	5.2	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	3/4	
680	SX20	土師器	小皿	9.0	1.6	5.8	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ，糸切り後ナデ，内：回転ナデ	3/4	
681	SX20	土師器	小皿	8.9	1.9	5.7	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	2/3	
682	SX20	土師器	小皿	9.0	2.1	5.1	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	2/3	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
683	SX20	土師器	小皿	9.3	1.7	5.7	外：にぶい橙(7.5YR7/4) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
684	SX20	土師器	小皿	9.1	1.8	5.7	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	底部完存 口縁1/8	
685	SX20	土師器	小皿	9.2	1.9	5.9	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
686	SX20	土師器	小皿	9.4	2.2	5.2	外：にぶい橙(7.5YR7/4) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/2	
687	SX20	土師器	小皿	9.7	2.0	5.6	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	3/8	
688	SX20	土師器	小皿	10.0	2.2	6.0	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	3/4	
689	SX20	土師器	皿	14.6	2.3	9.1	外：浅黄橙(10YR8/3) 内：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ，ヘラ切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
690	SX20	土師器	小皿	7.2	1.4	4.8	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
691	SX20	土師器	小皿	8.6	1.6	5.5	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
692	SX20	土師器	小皿	8.8	1.7	5.7	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
693	SX20	土師器	小皿	8.8	1.6	4.7	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	3/4	
694	SX20	土師器	小皿	8.7	1.6	5.3	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り後ナデ，内：回転ナデ	ほぼ完存	
695	SX20	土師器	小皿	9.0	1.6	5.6	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	3/4	
696	SX20	土師器	小皿	8.8	2.2	5.3	外：にぶい橙(7.5YR7/4) 内：橙(7.5YR7/6)	外：回転ナデ,糸切り,内：回転ナデ	ほぼ完存	
697	SX20	土師器	小皿	9.0	1.5	5.2	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	5/8	
698	SX20	土師器	小皿	9.0	1.5	5.5	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
699	SX20	土師器	小皿	9.1	1.7	5.4	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	2/3	
700	SX20	土師器	小皿	9.0	1.7	5.0	外：橙(7.5YR6/6) 内：橙(7.5YR6/6)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/2	
701	SX20	土師器	小皿	9.2	1.8	6.1	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
702	SX20	土師器	小皿	9.0	1.9	5.3	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	底部完存	
703	SX20	土師器	小皿	9.1	1.9	5.4	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/2	
704	SX20	土師器	小皿	9.4	1.7	5.2	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	底部ほぼ完存	
705	SX20	土師器	小皿	9.4	2.0	5.3	外：にぶい黄橙(10YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	完存	
706	SX20	土師器	小皿	9.1	1.9	5.7	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
707	SX20	土師器	小皿	9.4	2.0	5.3	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	2/3	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
708	SX20	土師器	小皿	9.7	2.1	5.3	外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	底部完存 口縁1/4	
709	SX20	土師器	小皿	9.7	1.8	5.7	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
710	SX20	土師器	小皿	7.1	1.5	4.0	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：ナデ，糸切り，内：ナデ	完存	
711	SX20	土師器	小皿	7.6	1.6	5.1	外：にぶい橙(7.5YR7/4) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	完存	
712	SX20	土師器	小皿	8.5	1.7	4.7	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/2	
713	SX20	土師器	小皿	8.7	1.7	5.1	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
714	SX20	土師器	小皿	8.8	1.8	4.8	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
715	SX20	土師器	小皿	9.1	1.5	4.9	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	7/8	
716	SX20	土師器	小皿	9.0	1.9	5.6	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/3	
717	SX20	土師器	小皿	8.9	1.7	5.7	外：にぶい黄橙(10YR6/3) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	完存	
718	SX20	土師器	小皿	9.0	1.6	5.7	外：にぶい黄橙(10YR6/4) 内：にぶい黄橙(10YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	完存	
719	SX20	土師器	小皿	8.8	2.0	5.4	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/3	
720	SX20	土師器	小皿	9.3	1.9	5.4	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	3/4	
721	SX20	土師器	小皿	9.1	2.0	5.4	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	底部完存	
722	SX20	土師器	小皿	9.4	2.0	5.7	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	完存	
723	SX20	土師器	小皿	9.7	2.2	5.5	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	完存	
724	SX20	土師器	小皿	9.5	2.1	6.2	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	2/3	
725	SX20	土師器	小皿	9.4	2.2	6.0	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	3/8	
726	SX20	土師器	小皿	9.8	1.6	5.7	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/2	
727	SX20	土師器	小皿	9.9	2.3	5.9	外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	完存	
728	SX20	土師器	小皿	9.1	1.8	5.6	外：にぶい橙(7.5YR7/4) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	完存	
729	SX20	陶器	杯	8.0	3.7	3.1	外 釉：黄褐(2.5Y5/3) 胎：にぶい褐(7.5YR5/4) 内 釉：黄褐(2.5Y5/3)	外：施釉，回転ナデ，糸切り，内：施釉	1/4	唐津
730	SX20	陶器	底部				外 釉：浅黄(2.5Y7/3) 内 釉：浅黄(2.5Y7/3)	外：施釉，内：施釉，色絵	ほぼ完存	
731	石垣内裏込土中	土師器	小皿	8.6	1.7	5.2	外：褐灰(10YR5/1) 内：褐灰(10YR5/1)	外：回転ナデ，糸切り，煤付着，内：回転ナデ	1/2	
732	石垣内裏込土中	陶器	皿	10.4	2.5	6.2	外 釉：オリーブ黄(7.5Y6/3) 内 釉：オリーブ黄(7.5Y6/3)	外：施釉，重ね焼き痕，内：施釉	7/8	瀬戸・美濃

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
733	石垣内裏込土中	陶器	皿	10.1	2.2	6.4	外 釉：オリーブ黄(7.5Y6/3) 内 釉：オリーブ黄(7.5Y6/3)	外：施釉，高台削出し，重ね焼き痕，内：施釉，無釉，回転ナデ	ほぼ完存	瀬戸・美濃
734	石垣内裏込土中	陶器	擂鉢	16.3		6.8	外：暗褐(7.5YR3/3) 内：暗赤褐(5YR3/3)	外：回転ナデ，ヘラ削り，重ね焼き痕，底部ヘラ削り後ナデ，内：回転ナデ，回転ナデ後卸目	1/3	備前
735	石垣内裏込土中	陶器	碗	10.9	7.8	4.6	外 釉：オリーブ灰(2.5GY6/1) 内 釉：オリーブ灰(2.5GY6/1)	外：施釉，染付，高台削出し，内：施釉	1/3	唐津
736	石垣内裏込土中	陶器	杯	6.7	4.1	3.1	外 釉：灰オリーブ(5Y6/2) 胎：にぶい褐(7.5YR5/4) 内 釉：灰オリーブ(5Y6/2)	外：回転ナデ，施釉，糸切り，内：回転ナデ，施釉	3/4	唐津
737	石垣内裏込土中	磁器	皿			6.6	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，高台削出し，底部「天下太平」銘，内：施釉	5/8	肥前
738	石垣内裏込土中	磁器	碗			4.5	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，染付，高台削出し，内：施釉，染付	1/2	肥前
739	石垣内裏込土中	磁器	碗				外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，染付，内：施釉，染付	小片	肥前
740	石垣内裏込土中	瓦器	碗	13.2	3.6		外：黄灰(2.5Y4/1) 内：灰(5Y5/1)	外：回転ナデ，指押さえ，摩滅，内：回転ナデ，ヘラミガキ，沈線一条	1/4	楠葉
741	石垣内裏込土中	土師質土器	有溝土錘	現存長7.8	最大厚4.8	最大幅5.8	橙(7.5YR7/6)	指押さえ	完存	
742	石垣内裏込土中	土師質土器	管状土錘	現存長5.5	最大厚0.4	最大幅1.1	橙(2.5YR6/6)	指ナデ	完存	
743	石垣内裏込土中	土師器	製塩土器			3.1	外：明褐(7.5YR5/6) 内：にぶい黄褐(10YR5/4)	外：指ナデ，内：指ナデ	底部完存	
750	第3遺構面上層	土師器	小皿	7.9	1.3	3.4	外：浅黄橙(10YR8/4) 内：浅黄橙(10YR8/4)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	3/4	
751	第3遺構面上層	土師器	小皿	7.9	1.8	3.5	外：浅黄橙(7.5YR8/4) 内：浅黄橙(7.5YR8/4)	外：回転ナデ，糸切り後ナデ，内：回転ナデ	完存	
752	第3遺構面上層	土師器	小皿	11.0	2.7	6.6	外：橙(7.5YR6/6) 内：橙(7.5YR6/6)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	5/6	
753	第3遺構面上層	陶器	皿	8.0	1.6	3.6	外 胎：灰黄(2.5Y5/2) 内 釉：にぶい黄(2.5Y6/4)	外：回転ナデ，ヘラ削り，内：回転ナデ，施釉，胎土目積３ヶ所	完存	唐津
754	第3遺構面上層	陶器	皿	11.0	3.5	4.5	外 釉：オリーブ黄(7.5Y6/3) 胎：灰褐(5YR4/2) 内 釉：オリーブ黄(7.5YR6/3)	外：回転ナデ，施釉，回転ヘラ削り後ナデ，内：回転ナデ，施釉，胎土目積３ヶ所	1/2	唐津
755	第3遺構面上層	陶器	皿	11.4	3.6	5.1	外：灰オリーブ(7.5Y5/3) 内：灰オリーブ(7.5Y5/3)	外：粘土巻き上げ後横ナデ，ナデ，内：粘土巻き上げ後横ナデ	4/5	唐津
756	第3遺構面上層	陶器	皿	11.0	3.3	3.8	外 釉：灰オリーブ(5Y6/2) 胎：橙(5YR6/6) 内 釉：灰オリーブ(5Y6/2)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉	1/2	唐津
757	第3遺構面上層	陶器	皿	9.6	2.7	5.6	外 釉：オリーブ(5Y5/4) 胎：浅黄(2.5Y7/3) 内 釉：オリーブ(5Y5/4)	外：回転ナデ，施釉，ヘラ切り後ナデ，重ね焼き痕，内：回転ナデ，施釉，釉剝ぎ	2/3	瀬戸・美濃
758	第3遺構面上層	陶器	皿	10.4	2.1	5.4	外 釉：浅黄(5Y7/3) 内 釉：浅黄(5Y7/3) 胎：灰白(2.5Y8/2)	外：回転ナデ，施釉，ヘラ切り後ナデ，内：回転ナデ，施釉，釉剝ぎ	1/2	瀬戸・美濃
759	第3遺構面上層	陶器	皿	11.5	2.6	5.8	外 釉：浅黄(2.5Y7/4) 内 釉：浅黄(2.5Y7/4) 胎：浅黄橙(10YR8/3)	外：施釉，無釉，貫入，高台削出し，内：施釉，無釉，貫入	ほぼ完存	瀬戸・美濃
760	第3遺構面上層	陶器	皿	11.6	2.5	5.2	外 釉：浅黄(2.5Y7/4) 内 釉：浅黄(2.5Y7/4) 胎：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：施釉，内：施釉	2/3	瀬戸・美濃
761	第3遺構面上層	陶器	ミニチュア天目茶碗	6.5	3.3	2.4	外 釉：暗褐(10YR3/3) 胎：浅黄(2.5Y7/3) 内 釉：暗褐(10YR3/3)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉	完存	瀬戸・美濃

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
762	第3遺構面上層	陶器	碗	10.8	6.2	4.7	外 釉：灰オリーブ(5Y5/3) 胎：にぶい橙(7.5YR6/4) 内 釉：灰オリーブ(5Y5/3)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	4/5	瀬戸・美濃
763	第3遺構面上層	陶器	碗			5.4	外 釉：灰白(10Y8/1) 胎：にぶい橙(7.5YR6/4) 内 釉：灰白(10Y8/1)	外：回転ナデ，施釉，回転ヘラ削り，高台削出し，貫入，内：回転ナデ，施釉，貫入	5/6	瀬戸・美濃
764	第3遺構面上層	陶器	天目茶碗	10.7	5.7	4.0	外 釉：黒褐(10YR3/2) 胎：浅黄橙(10YR8/3) 内 釉：黒褐(10YR3/2)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉	ほぼ完存	瀬戸・美濃
765	第3遺構面上層	陶器	注口付鉢	13.8	5.9	8.2	外：にぶい赤褐(5YR4/3) 内：灰赤(2.5YR4/2)	外：回転ナデ，ヘラ削り後ナデ，重ね焼き痕，内：回転ナデ	1/2	備前
766	第3遺構面上層	陶器	注口付鉢	18.8	6.7	11.4	外：にぶい赤褐(5YR4/3) 内：にぶい赤褐(5YR4/3)	外：回転ナデ，ヘラ削り後ナデ，ヘラ記号，重ね焼き痕，内：回転ナデ	1/3	備前
767	第3遺構面上層	陶器	鉢	16.0	5.8	9.2	外：灰赤(2.5YR4/2) 内：暗赤灰(10R4/1)	外：回転ナデ，ヘラ削り後ナデ，ヘラ記号，重ね焼き痕，内：回転ナデ	1/3	備前
768	第3遺構面上層	陶器	甕	13.0	18.7	8.6	外：明赤褐(2.5YR5/6) 内：赤褐(10R5/4)	外：回転ナデ，ヘラ削り後ナデ，内：回転ナデ	1/3	備前
769	第3遺構面上層	陶器	壺			4.4	外：にぶい黄褐(10YR5/3) 内：灰黄褐(10YR5/2)	外：回転ナデ，ヘラ削り後ナデ，ヘラ記号，内：回転ナデ	1/2	備前
770	第3遺構面上層	陶器	壺			4.4	外：赤褐(10R4/4) 内：赤褐(10R4/4)	外：回転ナデ，ヘラ削り後ナデ，ヘラ記号，内：回転ナデ	2/3	備前
771	第3遺構面上層	磁器	皿	8.6	1.7	4.4	釉：にぶい青緑	外：回転ナデ，施釉，高台削出し 内：回転ナデ，施釉	完存	
772	第3遺構面上層	磁器	皿	11.6	4.2	4.3	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，染付	完存	
773	第3遺構面上層	白磁	皿	11.0	2.8	6.0	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉	1/4	
774	第3遺構面上層	陶器	転用土製品	現存長3.9	最大厚1.1	最大幅4.5	釉：黒褐(7.5YR2/2) 胎：にぶい褐(7.5Y6/3)		ほぼ完存	瀬戸・美濃
775	第3遺構面上層	陶器	転用土製品	現存長4.8	最大厚1.0	最大幅4.8	釉：黒褐(7.5Y3/2) 胎：にぶい赤褐(5YR5/4)	表：回転ナデ，施釉，裏：高台削出し	完存	瀬戸・美濃
776	第3遺構面上層	磁器	転用土製品	現存長5.8	最大厚0.9	最大幅5.9	外 釉：明オリーブ灰(5GY7/1) 内 釉：明オリーブ灰(5GY7/1)	表：施釉，染付，裏：施釉，染付，高台削出し	完存	肥前
777	第3遺構面上層	磁器	転用土製品	現存長3.8	最大厚0.4	最大幅3.9	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	表：施釉，裏：施釉，高台削出し，染付	完存	肥前
778	第3遺構面上層	土師質土器	有溝土錘	現存長10.3	最大厚5.0	最大幅6.0	橙(5YR6/6)	指ナデ	ほぼ完存	
808	SD04	陶器	碗			4.8	外 釉：オリーブ(5Y5/4) 胎：にぶい黄橙(10YR7/3) 内 釉：オリーブ(5Y5/4)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	完存	唐津
809	SD04	陶器	碗		2.9	5.0	外 釉：にぶい黄褐(10YR4/3) 内 釉：にぶい黄褐(10YR4/3)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	7/8	唐津
810	SD04	陶器	皿	16.0	3.0	4.7	外 釉：オリーブ黄(5Y6/4) 胎：灰黄(2.5Y6/2) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/4)	外：施釉，高台削出し，内：施釉，砂目積，鉄釉	1/2	唐津
811	SD04	磁器	皿	13.5	2.8	6.0	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：回転ナデ後施釉，高台削出し，かなり貫入，内：回転ナデ後施釉，染付	1/3	肥前
812	SD04	磁器	碗	9.6	7.4	4.2	外 釉：灰白(2.5GY8/1) 内 釉：灰白(2.5GY8/1)	外：施釉，染付，内：施釉	1/2	肥前
813	SD04	磁器	碗		6.2	4.0	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，染付，高台削出し，内：施釉	1/4	肥前

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
814	SD06	土師器	小皿	8.4	2.2	3.4	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：橙(7.5YR7/6)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/4	
815	SD06	土師器	小皿	9.6	1.9	6.0	外：にぶい黄橙(10YR6/4) 内：にぶい黄橙(10YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/4	
816	SD06	土師質土器	土鍋	20.0	5.2		外：にぶい黄橙(10YR6/4) 内：浅黄橙(7.5YR8/4)	外：回転ナデ，内：回転ナデ後ハケ目	1/8	
817	SD06	土師質土器	土鍋				外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：浅黄(2.5YR7/4)	外：横ナデ，ナデ，列点文，内：横ナデ，指押さえ後ナデ	小片	
818	SD06	陶器	鉢	16.0	6.1	10.3	外：にぶい赤褐(2.5YR4/3) 内：赤褐(10R4/3)	外：回転ナデ，回転ナデ後ヘラ削り後ナデ，内：回転ナデ	1/4	備前
819	SD06	陶器	擂鉢				外：灰褐(5YR4/2) 内：灰褐(5YR5/2)	外：回転ナデ，自然釉，内：回転ナデ，自然釉	口縁部小片	備前
820	SD06	陶器	擂鉢				外：灰褐(5YR5/2) 内：にぶい赤褐(2.5YR4/3)	外：回転ナデ，重ね焼き痕，内：回転ナデ後卸目	小片	備前
821	SD06	陶器	壺	4.2			外：褐灰(5YR4/1) 内：灰赤(2.5YR4/2)	外：自然釉，回転ナデ，内：回転ナデ	1/2	備前
822	SD06	磁器	転用土製品	現存長4.2	最大厚0.6	最大幅3.9	表 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 裏 釉：明緑灰(7.5GY8/1)	表：施釉，裏：施釉，染付	完存	
823	SD07	陶器	ミニチュア天目茶碗	5.6	3.0	2.4	外 釉：褐(7.5YR4/4) 胎：にぶい黄橙(10YR7/4) 内 釉：褐(7.5YR4/4)	外：回転ナデ後施釉，回転ヘラ削り，高台削出し，内：回転ナデ後施釉	1/2	瀬戸・美濃
824	SE07	須恵器	底部			6.3	外：灰(7.5Y6/1) 内：灰(7.5Y6/1)	外：回転ナデ，内：不明	底部ほぼ完存	
825	SE07	土師質土器	有溝土錘	現存長9.1	最大厚6.9	最大幅7.0	橙(5YR6/6)	ナデ	完存	
828	SE08	土師器	小皿	8.4	1.8	5.5	外：浅黄橙(10YR8/3) 内：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ，ヘラ切り，内：回転ナデ	5/8	
829	SE08	土師器	小皿	9.2	1.9	5.4	外：にぶい橙(7.5YR7/4) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	完存	
830	SE08	土師器	小皿	9.1	2.0	5.0	外：にぶい黄橙(10YR7/3) 内：浅黄橙(10YR8/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	3/8	
831	SE08	土師器	小皿	10.4	2.0	6.6	外：にぶい橙(7.5YR7/4) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/3	
832	SE08	土師質土器	土鍋				外：黄灰(2.5Y5/1) 内：灰黄褐(10YR5/2)	外：横ナデ，板ナデ後指押さえ，内：横ナデ	小片	
833	SE08	瓦質土器	土鍋	30.2			外：黒褐(10YR3/1) 内：黒褐(10YR3/1)	外：ナデ，ハケ目後ナデ，内：ハケ目，ナデ	1/8	
834	SE08	陶器	皿	10.4	3.4	4.9	外 釉：オリーブ灰(10YR6/2) 内：暗灰黄(2.5Y5/2)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉	3/4	唐津
835	SE08	陶器	皿			4.8	外 釉：灰オリーブ(7.5Y6/2) 胎：にぶい黄橙(10YR6/4) 内 釉：灰オリーブ(7.5Y6/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	1/4	唐津
836	SE08	石製品	円盤状石製品	現存長9.9	最大厚1.7	最大幅9.6		使用痕あり	完存	
840	SE09	瓦質土器	土釜	13.6			外：褐灰(10YR4/1) 内：にぶい黄橙(10YR6/3)	外：ナデ，ハケ目，内：ナデ，指押さえ後ハケ目	1/6	
841	SP04	須恵質土器	こね鉢				外：灰白(5Y7/1) 内：灰白(5Y7/1)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/8	
842	SK23	土師器	小皿	8.5	1.8	5.7	外：浅黄橙(10YR8/3) 内：にぶい橙(7.5YR7/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/2	
843	SK23	土師器	小皿	8.2	1.7	6.0	外：灰白(10YR8/2) 内：灰白(10YR8/2)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/2	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
844	SK23	土師器	小皿			7.0	外：にぶい橙(7.5YR7/4) 内：にぶい黄橙(10YR7/2)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ，墨書	1/2	
845	SK23	土師質土器	皿				外：にぶい黄橙(10YR6/3) 内：灰黄褐(10YR5/2)	外：回転ナデ，ナデ，内：回転ナデ，ナデ，内面煤付着	口縁部小片	
846	SK23	陶器	壺			12.1	外：褐(7.5YR4/3) 内：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：板ナデ，ヘラ削り，底部外面に「三」の刻印，内：回転ナデ，回転ナデ後ナデ	底部1/3	備前
847	SK23	陶器	碗	12.6	5.5		外 釉：灰オリーブ(5Y6/2) 胎：浅黄(2.5Y 7/3) 内 釉：灰オリーブ(5Y6/2)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉	1/8	唐津
848	SK23	陶器	碗	11.0	7.0	4.7	外 釉：灰オリーブ(5Y6/2) 胎：橙(7.5YR 6/6) 内 釉：灰オリーブ(5Y6/2)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉	底部1/2	唐津
849	SK23	陶器	皿			4.2	外 釉：灰オリーブ(7.5Y6/2) 胎：褐(7.5YR 4/3) 内 釉：灰オリーブ(7.5Y6/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉，胎土目積３ヶ所	2/3	唐津
850	SK23	陶器	皿	11.2	3.7	3.6	外 釉：浅黄(2.5Y8/3) 胎：灰黄褐(10YR6/2) 内 釉：浅黄(2.5YR8/3) 胎：褐灰(10YR6/1)	外：施釉，二次焼成受けている，煤付着，内：施釉	ほぼ完存	唐津
851	SK23	陶器	皿	12.2	3.4	4.3	外 釉：灰オリーブ(5Y6/2) 胎：にぶい黄(2.5Y6/3) 内 釉：灰オリーブ(5Y6/2)	外：施釉，回転ナデ，高台削出し，内：施釉，重ね焼き痕３ヶ所，胎土目積	1/2	唐津
852	SK23	陶器	皿	11.4			外 釉：オリーブ黄(5Y6/3) 胎：にぶい褐(7.5YR5/4) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/3)	外：回転ナデ，内：回転ナデ後施釉	1/8	唐津
853	SK23	土師器	転用土製品	現存長3.1	最大厚1.0	最大幅3.3	外：橙(7.5YR6/6) 内：橙(7.5YR6/6)	表：回転ナデ，裏：回転ナデ	完存	
861	SK24	土師器	小皿	5.4	1.4	2.9	外：橙(5YR6/6) 内：橙(5YR6/6)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	完存	
862	SK24	土師器	小皿	6.1	1.4	2.5	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	ほぼ完存	
863	SK24	土師器	小皿	5.9	1.6	2.5	外：橙(5YR6/6) 内：橙(5YR6/6)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	2/3	
864	SK24	陶器	蓋	10.1	2.4		外 釉：赤褐(2.5YR4/8) 内 胎：橙(2.5YR6/6)	外：回転ナデ，ヘラ削り後施釉，内：回転ナデ	4/5	
865	SK24	陶器	蓋	6.6	2.0	3.6	外：橙(5YR6/6) 内：橙(2.5YR6/6)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	3/4	
866	SK24	陶器	碗			4.2	外釉：暗オリーブ(5Y4/3) 胎：にぶい褐(7.5YR5/4) 内 釉：暗オリーブ(5Y4/3)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	ほぼ完存	
867	SK24	陶器	急須				外 釉：黒褐(7.5YR3/2) 胎：にぶい褐(7.5 YR5/3) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/3) 胎：にぶい褐(7.5YR5/3)	内：回転ナデ，施釉 把手外面：回転ナデ，施釉 把手内面：回転ナデ	把手完存	
868	SK24	陶器	鉢？	8.4	8.9	8.4	外：にぶい赤褐(2.5YR5/6) 内：にぶい赤褐(2.5YR5/6)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	7/8	
869	SK24	陶器	急須	8.1			外 釉：赤褐(5YR4/8) 胎：にぶい赤褐(5YR 5/4) 内 胎：にぶい赤褐(5YR5/4)	外：回転ナデ後施釉，回転ナデ，煤付着，内：回転ナデ	2/3	
870	SK24	土師質土器	凉炉	21.3			外：灰白(2.5Y8/1) 内：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：回転ナデ，内：回転ナデ，ハケ目	1/2	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
871	SK24	土師質土器	植木鉢	14.8	9.5	8.9	外：明赤褐(5YR5/8) 内：橙(5YR6/6)	外：回転ナデ，糸切り，穿孔，内：回転ナデ	7/8	
872	SK24	土師質土器	植木鉢	23.2	15.1	18.0	外：にぶい黄橙(10YR6/3) 内：にぶい黄橙(10YR6/3)	外：回転ナデ後横ナデ，板ナデ，ナデ，内：回転ナデ	7/8	
873	SK24	土師質土器	凉炉	21.9	16.6		外：灰白(2.5Y8/2) 内：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：回転ナデ，透孔一ヶ所，内：回転ナデ	完存	
874	SK24	土師質土器	架				凹面：にぶい橙(7.5YR7/4) 凸面：にぶい黄橙(10YR6/3)	凸面：ナデ，凹面：ナデ 円孔透しあり	1/4	
875	SK24	陶器	擂鉢	29.4	10.9	15.3	外：橙(2.5YR6/6) 内：橙(2.5YR6/6)	外：回転ナデ，ヘラ削り，内：回転ナデ，卸目	1/2	備前
876	SK24	陶器	蓋	13.6	3.6		外 釉：淡黄(2.5Y8/3) 胎：淡黄(2.5Y8/4) 内 釉：淡黄(2.5Y8/3) 胎：淡黄(2.5Y8/4)	外：施釉，内：施釉	ほぼ完存	
877	SK24	陶器	土瓶	15.2	10.3	6.0	外 釉：灰白(10Y7/2) 胎：灰黄(2.5Y7/2) 内 釉：灰白(10Y7/2) 胎：灰黄(2.5Y7/2)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉	ほぼ完存	
878	SK24	陶器	植木鉢	20.4			外：にぶい褐(7.5YR5/4) 内：灰褐(5YR4/2)	外：回転ナデ，回転ナデ後ヘラ削り，内：回転ナデ	1/4	備前
879	SK24	陶器	植木鉢	20.2	8.4	13.0	外 釉：灰白(5Y8/2) 胎：灰白(2.5Y8/2) 内 釉：灰白(5Y8/2) 胎：灰白(2.5Y8/2)	外：回転ナデ，施釉，見込に墨書「ウノ」，内：回転ナデ，施釉	7/8	
880	SK24	陶器	鉢	25.6	14.4	15.2	外 釉：にぶい黄橙(10YR7/4) 内 釉：にぶい黄橙(10YR7/4) 胎：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ，施釉，重ね焼き痕，内：施釉，重ね焼き痕	1/2	
881	SK24	磁器	皿	7.1	2.2	3.2	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，内：施釉	ほぼ完存	
882	SK24	磁器	盃	7.6	3.3	2.8	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，内：施釉	ほぼ完存	
883	SK24	磁器	碗	9.7			外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，二重網目文，染付，内：施釉	1/8	
884	SK24	陶器	皿	7.7	1.9	3.2	外：灰白(10YR8/2) 内 釉：灰オリーブ(5Y6/2)	外：回転ナデ，回転ヘラ切り，内：回転ナデ後施釉，ハリ支え	7/8	
885	SK24	磁器	盃	7.5	3.2	2.6	外 釉：灰白(7.5Y8/1) 内 釉：灰白(7.5Y8/1) 鉄釉：明赤褐(5YR5/6)	外：施釉，染付，内：施釉，染付，口縁部鉄釉	ほぼ完存	
886	SK24	青磁	皿	9.0	1.8	6.1	外 釉：明緑灰(10GY7/1) 内 釉：明緑灰(10GY7/1)	外：施釉，畳付無釉，高台削出し，内：施釉	ほぼ完存	
887	SK24	青磁	皿	8.9	1.9	5.8	外 釉：明緑灰(10GY7/1) 内 釉：明緑灰(10GY7/1)	外：施釉，内：施釉	完存	
888	SK24	陶器	皿	13.8	2.3	7.9	外 釉：緑色 内 釉：緑色，胴部 明赤褐(2.5Y6/8)，たてがみ 褐(7.5YR4/3)	外：施釉，内：施釉	2/3	
889	SK24	磁器	徳利	2.8	14.9	4.9	外 釉：灰オリーブ(5Y6/2) 胎：灰オリーブ(5Y6/2) 内 釉：灰オリーブ(5Y6/2) 胎：灰オリーブ(5Y6/2)	外：施釉，染付，回転ナデ，内：施釉，回転ナデ	ほぼ完存	
890	SK25	土師器	小皿			7.0	外：灰白(2.5Y8/2) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/4	
891	SK25	土師質土器	擂鉢				外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	外：ナデ，内：ハケ目後卸目	小片	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
892	SK25	陶器	皿	10.8	2.9	4.6	外 釉：灰黄褐(10YR6/2) 胎：橙(5YR6/6) 内 釉：灰黄褐(10YR6/2) 胎：橙(5YR6/6)	外：施釉，内：施釉	2/3	唐津
894	SK28	土師質土器	甕	45.8			外：灰(5Y4/1) 内：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：横ナデ，指押さえ後ナデ，タタキ目，内：ハケ目，摩滅	1/6	
895	SK28	土師質土器	土鍋	25.8			外：褐灰(10YR6/1) 内：浅黄橙(10YR8/4)	外：横ナデ，指押さえ後ハケ目後板ナデ，内：ハケ目	1/5	
896	SK28	土師器	小皿	7.6	1.7	3.4	外：浅黄橙(10YR8/4) 内：浅黄橙(10YR8/4)	外：回転ナデ，糸切り，煤付着，内：回転ナデ	完存	
897	SK28	土師器	小皿	8.0	2.1	3.3	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：橙(5YR6/6)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	2/3	
898	SK28	土師器	杯	11.3	2.7	5.4	外：にぶい褐(7.5YR5/4) 内：橙(5YR6/6)	外：回転ナデ，糸切り，墨書，内：回転ナデ，摩滅，剝離	1/2	
899	SK28	陶器	皿	25.8	4.4	16.8	外：にぶい赤褐(2.5YR4/3) 内：にぶい赤褐(2.5YR5/4)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/4	備前
900	SK28	陶器	鉢	15.5	5.2	9.0	外：にぶい赤褐(5YR4/3) 内：灰赤(2.5YR4/2)	外：回転ナデ後ヘラ削り，重ね焼き痕，内：回転ナデ，指押さえ	3/8	備前
901	SK28	陶器	甕	13.0			外：暗赤褐(5YR3/3) 内：灰褐(7.5YR4/2)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	小片	備前
902	SK28	陶器	壺もしくは甕			9.4	外：暗赤褐(2.5YR3/4) 内：にぶい黄橙(10YR6/4)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/3	備前
903	SK28	陶器	碗			4.7	外 胎：にぶい黄橙(10YR6/4) 内 釉：灰オリーブ(5Y6/2)	外：無釉，内：施釉，胎土目積２ヶ所（３ヶ所か？）	7/8	唐津
904	SK28	陶器	鉢			6.9	外 釉：オリーブ黄(5Y6/3) 胎：灰オリーブ(5Y6/2) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/3)	外：施釉，内：施釉，重ね焼き痕	1/4	唐津
905	SK28	陶器	皿	10.7	2.0	7.1	外 釉：浅黄(2.5Y8/3) 内 釉：浅黄(2.5Y8/3) 胎：浅黄(2.5Y8/3)	外：施釉，内：施釉，無釉	1/7	瀬戸・美濃
906	SK28	陶器	碗	11.2			外 釉：オリーブ黄(7.5Y6/3) 胎：灰白(2.5Y8/2) 内 釉：オリーブ黄(7.5Y6/3)	外：回転ナデ，施釉，無釉，内：回転ナデ，施釉	3/8	瀬戸・美濃
907	SK28	陶器	天目茶碗	11.4	5.2	4.2	外 釉：黒褐(10YR2/2) 胎：にぶい黄橙(10YR7/2) 内 釉：黒褐(10YR2/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	1/3	瀬戸・美濃
908	SK28	陶器	転用土製品	現存長4.4	最大厚0.8	最大幅4.4	表 釉：黒褐(10YR2/2) 裏 胎：にぶい黄橙(10YR7/3)	表：施釉，裏：高台削出し	ほぼ完存	瀬戸・美濃
909	SK28	白磁	皿				外 釉：灰白(10Y8/1) 内 釉：灰白(10Y8/1)	外：施釉，貫入，内：施釉，貫入	小片	
910	SK28	磁器	盃	6.6	3.4	2.6	外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 内 釉：明緑灰(7.5GY8/1)	外：施釉，染付，底部「大明年製」銘 内：施釉，染付	1/6	肥前
911	SK28	土製品	土人形	現存長6.1	最大高4.5	最大幅3.1	にぶい橙(7.5YR6/4) 黒褐(2.5Y3/1)	指ナデ	ほぼ完存	犬
918	SK29	陶器	壺			5.3	外：にぶい赤褐(5YR5/3) 内：にぶい赤褐(5YR5/4)	外：底部ヘラ記号，内：回転ナデ	底部1/2	備前
919	SK29	陶器	皿	10.1	2.8	4.3	外 釉：暗灰黄(2.5Y5/2) 内 釉：暗灰黄(2.5Y5/2) 胎：にぶい黄(2.5Y6/3)	外：施釉，高台削出し，重ね焼き痕，内：施釉	1/6	唐津
920	SK29	陶器	天目茶碗	11.2			外 釉：暗褐(10YR3/3) 内 釉：暗褐(10YR3/3) 胎：淡黄(2.5Y8/3)	外：回転ナデ後施釉，内：回転ナデ後施釉	1/4	瀬戸・美濃

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
921	SK29	陶器	鉢	26.2			外：黒褐(10YR3/1) 内：褐灰(7.5YR4/1)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	小片	備前
924	SK31	陶器	蓋	7.3	2.4	3.4	外：橙(5YR6/6) 内：明赤褐(5YR5/8)	外：回転ナデ，内：回転ナデ，施釉	口縁部3/4	
925	SK31	陶器	碗	10.6			外 釉：にぶい黄橙(10YR6/3) 内 釉：にぶい黄橙(10YR6/3)	外：施釉，染付，内：施釉	1/8	
926	SK31	陶器	鉢	21.0			外 釉：オリーブ灰(10Y5/2) 内 釉：オリーブ灰(10Y5/2) 胎：灰黄褐(10YR6/2)	外：回転ナデ後施釉，外面に雷文，内：回転ナデ後施釉	小片	
927	SK31	陶器	盃			3.4	外 釉：灰白(7.5Y7/1) 内 釉：灰白(7.5Y7/1)	外：回転ナデ，施釉，染付，内：施釉	底部完存	
928	SK31	磁器	盃	6.2	4.5	3.0	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，内：施釉	1/2	
929	SK31	磁器	盃	6.9	3.6	2.4	外 釉：灰白(7.5Y7/2) 内 釉：灰白(7.5Y7/2)	外：施釉，内：施釉	1/2	
930	SK31	磁器	盃	8.6			外 釉：灰白(7.5Y7/2) 内 釉：灰白(7.5Y7/2)	外：回転ナデ後施釉，内：回転ナデ後施釉	1/4	
931	SK31	磁器	碗	10.8			外 釉：灰白(5Y7/1) 内 釉：灰白(5Y7/1)	外：回転ナデ後施釉，内：回転ナデ後施釉，染付	1/8	
932	SK31	磁器	碗				外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，内：施釉，染付	小片	
933	SK31	磁器	皿	8.9	2.9	3.1	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，染付，内：施釉，染付，見込「成化年制」銘	3/8	
934	SK31	磁器	碗			4.0	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：染付，施釉，高台削出し，内：染付，施釉	小片	
935	SK31	磁器	皿			4.2	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：染付，施釉，高台削出し，内：染付，施釉	1/4	
936	SK31	磁器	碗	10.5	5.5	4.3	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：回転ナデ後施釉，染付，高台削出し，内：回転ナデ後施釉，染付	1/4	
937	SK31	磁器	碗	9.7			外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，内：施釉，染付	3/8	
938	SK31	磁器	碗	12.4	5.6	4.8	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，染付，内：施釉，染付，見込五弁花文スタンプ	1/2	
939	SK31	磁器	碗	11.2			外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，内：施釉，染付	1/4	
971	SX21	陶器	擂鉢	17.2	6.0	8.2	外：にぶい赤褐(2.5YR4/3) 内：赤褐(10R4/3)	外：ナデ，板ナデ，ヘラ削り，ヘラ記号，内：回転ナデ後卸目	1/2	備前
972	SX21	陶器	甕	38.2			外：褐灰(5YR5/1) 内：にぶい赤褐(2.5YR5/4)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	小片	
975	SX24	陶器	擂鉢				外：灰褐 (5YR4/2) 内：灰褐 (5YR5/2)	外：自然釉，回転ナデ，内：回転ナデ	口縁部小片	備前
976	SX24	陶器	碗			4.6	外 釉：明オリーブ灰(5GY7/1) 内 釉：明オリーブ灰(5GY7/1)	外：施釉，染付，高台削出し，内：施釉	底部1/2	
977	SX24	陶器	碗			4.4	外 釉：灰白(10Y7/1) 内 釉：灰(7.5Y6/1)	外：施釉，内：施釉	1/2	
978	SX24	陶器	灯明皿	9.1	1.3	5.0	外：にぶい赤褐(2.5YR4/4) 内：にぶい赤褐(2.5YR4/4)	外： 回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ，煤付着	ほぼ完存	
979	SX24	陶器	皿			4.3	外 釉：灰黄(2.5Y7/2) 内 釉：灰黄(2.5Y7/2)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：施釉.胎土目積４ヶ所	底部完存	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
980	SX24	陶器	三脚付鉢			6.5	外 釉：暗赤褐(2.5YR3/2) 内 釉：暗赤褐(2.5YR3/2) 胎：にぶい黄褐(10YR5/3)	外：施釉，底部ヘラ削り，内：施釉	1/4	
981	SX24	磁器	碗	11.4	6.2	4.6	外 釉：明緑灰(10GY7/1) 内 釉：明緑灰(10GY8/1)	外：高台削出し，染付，施釉，底部「渦福文」，内：施釉，染付	2/3	肥前
982	SX24	磁器	皿	10.8	2.7	6.0	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，染付，畳付無釉，内：施釉，染付	1/2	
983	SX24	磁器	盃	7.1	3.9	2.7	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉,染付，内：施釉	2/3	
984	SX24	磁器	碗	8.6			外 釉：灰白(7.5Y8/1) 内 釉：灰白(7.5Y8/1)	外：施釉,染付，内：施釉	3/8	
985	SX24	瓦質土器	土馬？	現存長5.4		最大幅4.6	灰(5Y4/1)	指押さえ，指ナデ	小片	
986	SX24	石製品	碁石状石製品	現存長2.3	最大厚1.1	最大幅2.4			完存	
987	SX24	石製品	不明石製品	現存長5.2	最大厚2.3	最大幅6.9		外：ミガキ，内：ミガキ	小片	
1149	SX28	土師器	皿	8.9	1.8	5.9	外：にぶい橙(5YR6/4) 内：にぶい橙(5YR6/4)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/3	
1150	SX28	陶器	皿	10.8	1.5	6.4	外 釉：浅黄(2.5Y7/3) 内 釉：浅黄(2.5Y7/3) 胎：灰白(2.5Y8/2)	外：施釉，内：施釉	1/3	瀬戸・美濃
1151	SX28	瓦質土器	土鍋				外：黒褐(7.5YR3/2) 内：黒褐(7.5YR3/1)	外：横ナデ，指押さえ後ハケ目，内：ハケ目	小片	
1152	SX28	瓦質土器	土鍋	28.3			外：灰(5Y4/1) 内：灰(5Y4/1)	外：横ナデ，格子目タタキ後ハケ目後指押さえ，内：横ナデ，ハケ目	小片	
1253	SX29	土師質土器	土鍋	51.6			外：黒褐(2.5Y3/2) 内：灰黄褐(10YR5/2)	外：横ナデ,ハケ目後指押さえ後ナデ，板ナデ，内：ハケ目後ナデ	1/8	
1254	SX29	土師器	小皿	8.8	1.4	6.0	外：にぶい橙(5YR7/4) 内：橙(5YR7/6)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/4	
1255	SX29	土師器	杯	8.2	4.0	4.9	外：橙(7.5YR7/6) 内：橙(7.5YR7/6)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	底部1/4	
1256	SX29	土師質土器	土釜				外：暗灰黄(2.5Y5/2) 内：にぶい赤褐(5YR5/4)	外：横ナデ，ナデ，内：横ナデ，板ナデ	小片	
1257	SX29	瓦質土器	土鍋				外：灰(5Y4/1) 内：灰(5Y4/1)	外：横ナデ，指押さえ後ナデ，内：ハケ目	小片	
1258	SX29	土師質土器	土鍋				外：灰黄褐(10YR5/2) 内：灰黄褐(10YR5/2)	外：ハケ目後指押さえ，内：板ナデ	小片	
1259	SX29	陶器	鉢	10.3			外：にぶい赤褐(5YR5/3) 内：灰褐(5YR5/2)	外：回転ナデ，火ダスキ，内：回転ナデ	1/4	備前
1260	SX29	陶器	鉢			7.6	外：灰褐(5YR4/2) 内：灰褐(5YR4/2)	外：回転ナデ，回転ナデ後ヘラ削り，ヘラ記号，内：回転ナデ	完存	備前
1261	SX29	陶器	天目茶碗	10.3			外 胎：にぶい黄橙(10YR6/4) 内 釉：暗褐(10YR3/3)	外：回転ナデ後施釉，回転ナデ，内：回転ナデ後施釉	1/3	瀬戸・美濃
1262	SX29	陶器	壺	2.8			濃い釉：黒褐(7.5YR3/1) 淡い釉：にぶい黄(2.5Y6/4)	外：施釉，内：施釉	ほぼ完存	
1263	SX29	陶器	鉢				外 釉：暗灰黄(2.5Y4/2) 内 釉：暗灰黄(2.5Y4/2) 胎：にぶい赤褐(5YR4/3)	外：施釉，ハケ目，内：施釉	小片	唐津
1264	SX29	陶器	擂鉢	12.0			外：にぶい赤褐(5YR4/3) 内：灰オリーブ(5YR4/2)	外：回転ナデ，ヘラ切り後ナデ，内：回転ナデ，回転ナデ後卸目	1/4	備前

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
1265	SX29	陶器	鉢			13.4	外 胎：にぶい赤褐(5YR4/3) 内 釉：灰オリーブ(5Y4/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	1/2	唐津
1266	SX29	陶器	碗	11.7			外 釉：灰白(10Y7/1) 内 釉：灰白(10Y7/1)	外：施釉，内：施釉	1/6	唐津
1267	SX29	磁器	碗			4.6	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，内：施釉	底部完存	
1268	SX29	磁器	碗			4.8	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，染付，高台削出し，内：施釉，染付	1/4	景徳鎮
1269	SX29	磁器	碗	11.0			外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，内：施釉	1/8	
1270	SX29	磁器	碗			4.0	外 釉：明オリーブ灰(2.5GY7/1) 内 釉：明オリーブ灰(2.5GY7/1)	外：施釉，染付，内：施釉	底部完存	肥前
1271	SX29	石製品	砥石	現存長6.4	最大厚0.9	最大幅4.6		使用痕あり		
1273	SX29	陶器	陶板片	現存長8.0	最大厚2.3	最大幅7.5	濃い釉：黒褐(7.5YR3/2) 淡い釉：灰白(7.5YR7/2) 胎：褐灰(10YR5/1)	表：削り後ナデ，施釉，裏：削り後ナデ	小片	瀬戸・美濃
1274	SX29	陶器	陶板片	現存長11.9	最大厚1.8	最大幅10.5	釉：黒褐(10YR2/2) 胎：灰黄(2.5Y7/2)	表：施釉，裏：ナデ	小片	瀬戸・美濃
1275	SX29	陶器	陶板片	現存長11.0	最大厚2.2	最大幅13.3	濃い釉：黒褐(10YR3/2) 淡い釉：灰白(5Y7/1) 胎：灰白(2.5Y8/2)	表：削り後ナデ,施釉,裏：削り後ナデ	1/3	瀬戸・美濃
1276	SX29	陶器	陶板片	現存長8.2	最大厚2.4	最大幅9.9	釉：オリーブ黒(5Y3/1) 胎：にぶい赤褐(5YR4/4)	表：ハケ目，裏：施釉	小片	瀬戸・美濃
1277	SX29	陶器	陶板片	現存長18.9	最大厚2.4	最大幅12.7	濃い釉：黒褐(10YR3/2) 淡い釉：灰白(5Y7/2) 胎：にぶい橙(5YR6/4)	表：施釉，裏：施釉	小片	瀬戸・美濃
1459	SX31	土師器	杯	9.6	2.6	5.5	外：にぶい黄橙(10YR6/3) 内：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	5/8	
1460	SX31	瓦質土器	土鍋				外：褐灰(10YR4/1) 内：褐灰(10YR4/1)	外：横ナデ，指押さえ後ナデ，内：ハケ目後ナデ	小片	
1461	SX31	陶器	皿	12.1	3.2	6.9	外：明赤褐(2.5YR5/6) 内：にぶい赤褐(2.5YR4/4)	外：回転ナデ，底部糸切り，内：回転ナデ，内面煤付着	1/4	備前
1462	SX31	陶器	擂鉢				外：にぶい赤褐(5YR4/3) 内：灰褐(5YR4/2)	外：回転ナデ，板ナデ，内：回転ナデ，卸目	小片	備前
1463	SX31	陶器	皿	23.5			外：黒褐(7.5YR3/2) 内：にぶい赤褐(2.5YR4/3)	外：回転ナデ，ヘラ削り後ナデ，内：回転ナデ，重ね焼き痕	1/4	備前
1464	SX31	陶器	碗			4.2	外 釉：灰(5Y6/1) 内 釉：灰(5Y6/1)	外：回転ナデ後施釉,高台削出し,内：回転ナデ後施釉	底部2/3	唐津
1465	SX31	陶器	皿			4.4	外 釉：灰白(2.5Y7/1) 内 釉：灰白(2.5Y7/1)	外：施釉，畳付無釉，貫入，内：施釉，貫入	1/2	唐津
1466	SX31	陶器	不明	現存長9.8	最大厚2.7	最大幅10.3	外：暗赤灰(10YR4/1) 黄灰(2.5Y4/1) 内：灰白(10YR7/1)	外：施釉，内：回転ナデ	小片	
1468	SX31	土師質土器	有溝土錘	現存長10.4	最大厚6.8	最大幅7.0	暗赤褐(5YR3/3)	ナデ	ほぼ完存	
1489	SX32	陶器	皿			4.4	外 釉：灰黄褐(10YR5/2) 胎：にぶい橙(5YR6/4) 内 釉：灰黄褐(10YR5/2)	外：施釉，回転ナデ，内：施釉	底部完存	唐津
1490	SX32	陶器	皿			5.2	外 釉：灰白(5Y8/2) 内 釉：灰白(5Y8/2)	外：施釉，内：施釉，砂目積	1/4	唐津

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
1491	第2遺構面上層	陶器	皿	10.3	1.6	6.7	外 釉：にぶい赤褐(5YR4/4) 内 釉：にぶい赤褐(5YR4/4)	外：回転ナデ，施釉，重ね焼き痕，内：回転ナデ，施釉，重ね焼き痕	5/6	瀬戸・美濃
1492	第2遺構面上層	陶器	皿	10.9	3.1	4.8	外 釉：にぶい黄橙(10YR6/3) 胎：にぶい黄橙(10YR7/4) 内 釉：にぶい黄橙(10YR6/3)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉	3/4	唐津
1493	第2遺構面上層	陶器	皿	10.4	2.7	4.2	外 釉：オリーブ黄(5Y6/3) 胎：にぶい黄橙(10YR7/3) 内 釉：オリーブ黄(5Y6/3)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，胎土目積4ヶ所	ほぼ完存	唐津
1494	第2遺構面上層	陶器	碗	11.1	7.7	4.9	外 釉：浅黄(2.5Y7/4) 内 釉：浅黄(2.5Y7/4)	外：回転ナデ，施釉，畳付無釉，貫入，内：回転ナデ，施釉，貫入	2/5	京焼風陶器
1495	第2遺構面上層	陶器	壺			4.8	外：にぶい赤褐(2.5YR4/3) 内：暗赤褐(7.5R3/1)	外：回転ナデ，回転ヘラ削り後ナデ，ヘラ切り後ナデ，ヘラ記号，内：回転ナデ	ほぼ完存	備前
1496	第2遺構面上層	磁器	皿	14.2	2.8	7.1	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉，染付	1/6	景徳鎮
1497	第2遺構面上層	磁器	皿	14.6	2.9	8.8	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，染付，畳付無釉，内：施釉，染付	1/3	景徳鎮
1498	第2遺構面上層	磁器	碗	18.0			外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，内：施釉，染付	小片	肥前
1499	第2遺構面上層	磁器	碗	10.2	5.8	2.0	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，内：施釉，染付	1/2	肥前
1500	第2遺構面上層	磁器	碗	10.9	6.4	4.2	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，内：施釉，染付	1/3	肥前
1501	第2遺構面上層	磁器	碗	10.2	5.9	4.4	外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 内 釉：明緑灰(7.5GY8/1)	外：施釉，染付，内：施釉，染付，見込「成化□□」銘	1/2	肥前
1502	第2遺構面上層	磁器	碗	9.5	4.9	3.7	外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 内 釉：明緑灰(7.5GY8/1)	外：施釉，染付，畳付無釉，内：施釉，染付	1/2	肥前
1503	第2遺構面上層	磁器	碗	10.2	4.7	4.2	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：回転ナデ，施釉，二重網目文，染付，内：回転ナデ，施釉，重ね焼き痕	1/4	肥前
1504	第2遺構面上層	磁器	碗			4.4	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，染付，「大明年製」銘，内：施釉	1/2	肥前
1505	第2遺構面上層	磁器	碗			4.6	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：回転ナデ，施釉，染付，内：回転ナデ，施釉，染付	底部完存	肥前
1506	第2遺構面上層	磁器	碗	9.8	7.0	4.6	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：回転ナデ，施釉，染付，重ね焼き痕，内：回転ナデ，施釉	2/3	肥前
1507	第2遺構面上層	磁器	碗			5.8	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，染付，内：施釉，染付	底部完存	肥前
1508	第2遺構面上層	磁器	碗	9.2	6.7	5.6	外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 内 釉：明緑灰(7.5GY8/1)	外：回転ナデ，施釉，染付，内：回転ナデ，施釉	1/4	肥前
1509	第2遺構面上層	陶器	転用土製品			4.8	外 釉：灰オリーブ(5Y5/2) 胎：灰(5Y4/1) 内 釉：灰オリーブ(5Y5/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉，砂目積4ヶ所	底部完存	唐津
1510	第2遺構面上層	陶器	転用土製品	現存長5.8	最大厚0.4	最大幅6.3	表：にぶい赤褐(2.5YR5/3) 裏：灰赤(2.5YR4/2)	表：回転ナデ，自然釉，裏：ヘラ記号	完存	備前
1511	第2遺構面上層	土師質土器	有溝土錘	現存長9.0	最大厚5.3	最大幅6.0	にぶい橙(7.5YR6/4)	ナデ	ほぼ完存	
1512	第2遺構面上層	須恵器	杯蓋				外：灰(N5/) 内：灰(N6/)	外：回転ナデ，ヘラ切り後回転ナデ，内：回転ナデ	1/3	
1513	第2遺構面上層	須恵器	杯身	12.8			外：灰(N5/) 内：灰(N6/)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/6	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
1514	第2遺構面上層	弥生土器	脚付鉢			3.6	外：褐(7.5YR4/6) 内：褐(7.5YR4/6)	外：指ナデ，内：板ナデ後ナデ	底部完存	
1515	第2遺構面上層	土製品	鞴羽口	現存長11.5	最大厚3.5	最大幅9.9	にぶい黄橙(10YR7/3)	ナデ，ガラス質付着	小片	
1516	第2遺構面上層	石製品	砥石	現存長10.6	最大厚2.5	最大幅3.7		使用痕あり		
1517	第2遺構面上層	石製品	砥石	現存長7.0	最大厚1.6	最大幅2.8		使用痕あり	ほぼ完存	
1518	第2遺構面上層	石製品	硯	現存長10.9	最大厚0.9	最大幅4.5			小片	
1578	SA04	磁器	碗				外 釉：明緑灰(7.5GY7/1) 内 釉：明緑灰(7.5GY7/1)	外：施釉，染付，内：施釉	小片	
1579	SA04	土師質土器	有溝土錘	現存長8.2	最大厚5.8	最大幅6.1	にぶい橙(7.5YR7/4)	ナデ	完存	
1582	SD09	陶器	碗	11.2			外 釉：黒褐(10YR3/1) 内 釉：灰(5Y6/1)	外：施釉，内：施釉	小片	唐津
1583	SD09	陶器	鉢				外：褐灰(5YR4/1) 内：暗灰(N3/)	外：回転ナデ，自然釉，内：回転ナデ	小片	備前
1621	SK33	土師質土器	火鉢	34.0			外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい黄褐(10YR5/3)	外：回転ナデ，刻印，内：回転ナデ，煤付着	1/10	
1622	SK39	陶器	凉炉	22.8			外 釉：灰白(7.5Y7/1) 暗青灰(5PB3/1) 内 胎：浅黄(2.5Y7/3)	外：回転ナデ，施釉 内：回転ナデ，施釉	小片	
1625	SK39	弥生土器	底部			4.1	外：明赤褐(5YR5/6) 内：明赤褐(5YR5/6)	外：ナデ，内：板ナデ？	ほぼ完存	
1629	SK45	陶器	碗				外 釉：灰オリーブ(5Y5/2) 内 釉：灰オリーブ(5Y5/2)	外：施釉，内：施釉	口縁部小片	唐津
1630	SK46	陶器	碗			4.4	外 釉：にぶい黄(2.5Y6/4) 胎：灰黄(2.5Y 7/2) 内 釉：にぶい黄(2.5Y6/4)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	1/4	
1633	SK51	陶器	碗			4.2	外 釉：灰オリーブ(7.5Y6/2) 胎：にぶい黄橙(10YR6/3) 内 釉：灰オリーブ(7.5Y6/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	1/2	
1634	SK51	陶器	碗			4.0	外 釉：灰オリーブ(5Y6/2) 胎：にぶい黄橙(10YR6/3) 内 釉：灰オリーブ(5Y6/2)	外：回転ナデ後施釉，高台削出し，内：回転ナデ後施釉，胎土目積	1/2	
1635	SK51	陶器	擂鉢	29.0			外：灰黄褐(10YR5/2) 内：灰褐(7.5YR5/2)	外：回転ナデ，内：回転ナデ，卸目	1/8	備前
1636	SK51	石製品	砥石	現存長7.4	最大厚5.1	最大幅5.1		使用痕あり		
1638	SK52	土師器	小皿	6.4	1.0	4.9	外：淡黄(2.5Y8/3) 内：淡黄(2.5Y8/3)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	完存	
1639	SK52	陶器	壺	4.4			外：灰褐(5YR4/2) 内：暗赤褐(5YR3/3)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	3/8	
1640	SK52	磁器	皿	13.4	2.2	6.6	外 釉：灰白(5Y7/2) 内 釉：灰白(5Y7/2)	外：施釉，高台削出し，内：施釉	ほぼ完存	
1644	SK53	陶器	壺	5.0			外：明赤褐(2.5YR3/2) 内：明赤褐(2.5YR3/2)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/2	備前
1645	SK54	陶器	皿				外 釉：灰白(5Y7/2) 胎：にぶい黄橙(10YR 7/4) 内 釉：灰白(5Y7/2)	外：施釉，内：施釉	小片	唐津
1646	SK54	陶器	鉢				外 釉：暗赤褐(5YR3/3) 内 釉：暗赤褐(5YR3/3)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	小片	備前
1647	SK54	陶器	鉢				外 釉：黒褐(7.5YR3/2) 内 釉：黒褐(7.5YR3/2)	外：施釉，内：施釉	小片	備前

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
1648	SK55	陶器	甕			24.2	外 釉：暗赤褐(5YR3/2) 内 釉：暗赤褐(5YR3/2)	外：回転ナデ後施釉，重ね焼き痕５ヶ所，内：回転ナデ後施釉，重ね焼き痕，付着物あり	ほぼ完存	大谷
1649	SK58	陶器	甕			23.8	外 釉：暗赤褐(10R3/3) 内 釉：暗赤褐(10R3/3)	外：板ナデ後施釉，ヘラ削り後ナデ，砂目積５ヶ所，墨書，内：回転ナデ後施釉，砂目積５ヶ所	底部完存	大谷
1650	SK59	磁器	盃			2.7	外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 胎：灰黄(2.5Y7/2) 内 釉：明緑灰(7.5GY8/1)	外：施釉，染付，内：施釉	3/4	
1659	SK60	土師器	皿	9.6	1.8	8.0	外：にぶい黄橙(10YR7/2) 内：灰白(10YR8/2)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/3	
1660	SK60	土師器	皿	9.8	1.8	7.2	外：灰白(10YR8/2) 内：灰白(10YR8/2)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	1/4	
1661	SK60	土師器	皿			9.6	外：灰黄(2.5Y7/2) 内：灰白(10YR8/2)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/3	
1662	SK60	土師質土器	有溝土錘	現存長5.2	最大厚3.6	最大幅2.6	にぶい橙(7.5YR6/4)	指ナデ	ほぼ完存	
1676	SK63	土師器	小皿	8.2	1.8	4.0	外：にぶい黄橙(10YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR7/4)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	1/2	
1677	SK63	陶器	鉢				外：にぶい赤褐(5YR4/3) 内：にぶい赤褐(5YR4/3)	外：回転ナデ，内：回転ナデ	小片	
1678	SK63	陶器	皿	10.3	2.1	5.6	外 釉：灰オリーブ(5Y5/3) 内 釉：灰オリーブ(5Y5/3) 胎：浅黄(2.5Y7/3)	外：施釉，重ね焼き痕，内：施釉，釉剝ぎ	1/2	瀬戸・美濃
1679	SK63	陶器	天目茶碗	12.0			外 釉：赤黒(2.5YR2/1) 暗褐(7.5YR3/4) 内 釉：赤黒(2.5YR2/1) 暗褐(7.5YR3/4)	外：施釉，内：施釉	小片	瀬戸・美濃
1680	SK63	陶器	底部			9.1	外 胎：淡黄(2.5Y8/3) 内 釉：にぶい黄橙(10YR7/3)	外：高台削出し，内：施釉，胎土目積	1/4	
1681	SK63	陶器	擂鉢			13.4	外：にぶい赤褐(2.5YR5/4) 内：赤褐(10YR5/4)	外：回転ナデ，内：回転ナデ，卸目	底部1/4	備前
1683	SK64	陶器	皿				外 釉：灰黄褐(10YR5/2) 内 釉：灰黄褐(10YR5/2)	外：施釉，内：施釉	小片	唐津
1684	SK64	磁器	合子(蓋)	現存長5.1	最大厚0.9	最大幅6.2	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，内：施釉	1/2	
1685	SK64	磁器	合子(身)	現存長2.9	最大厚0.5	最大幅6.1	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，内：施釉	1/2	
1688	SK67	磁器	碗			5.8	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：回転ナデ，施釉，染付，高台削出し，内：回転ナデ，施釉，染付	1/3	肥前
1694	堀埋土中	土師器	小皿	5.3	1.1	4.0	外：明黄褐(10YR7/6) 内：橙(7.5YR7/6)	外：回転ナデ，糸切り，内：回転ナデ	完存	
1695	堀埋土中	陶器	鉢	12.4	6.3	13.8	外：灰黄褐(10YR5/2) 内：褐灰(10YR4/1)	外：回転ナデ，自然釉，内：回転ナデ，自然釉	1/2	備前
1696	堀埋土中	磁器	碗	12.0	6.2	4.5	外 釉：明オリーブ灰(2.5GY7/1) 内 釉：明オリーブ灰(2.5GY7/1)	外：回転ナデ後施釉，染付，高台削出し，内：回転ナデ後施釉，染付	1/2	肥前
1697	堀埋土中	磁器	碗	12.3	4.8	4.9	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，染付，高台削出し，内：施釉，染付，見込五弁花文コンニャク判，重ね焼痕	1/3	肥前
1698	堀埋土中	磁器	碗			3.6	外 釉：灰白(5GY8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：回転ナデ後施釉，染付，高台削出し，内：回転ナデ後施釉，染付	底部完存	肥前
1699	堀埋土中	磁器	皿	16.8	2.5	9.6	外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，高台削出し，内：施釉，染付	1/2	肥前
1700	堀埋土中	磁器	皿			8.7	外 釉：灰白(5GY8/1) 胎：灰白(5Y8/1) 内 釉：灰白(5GY8/1)	外：施釉，畳付無釉，内：施釉，染付	1/2	肥前

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
1701	堀埋土中	磁器	皿	15.8	3.9	9.1	外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 内 釉：明緑灰(7.5GY8/1)	外：施釉，染付，内：施釉，染付	3/8	肥前
1702	堀埋土中	土師質土器	甕			9.6	外：浅黄(2.5Y8/3) 漆もしくは墨：暗灰黄(2.5Y5/2) 内：浅黄(2.5YR7/4)	外：摩滅，漆もしくは墨書きの文字あり，内：回転ナデ，指押さえ	ほぼ完存	
1703	堀埋土中	陶器	鉢			7.9	外 釉：灰白(5Y7/1) 胎：灰黄(2.5Y7/2) 内 釉：灰白(5Y7/1) 胎：にぶい黄橙(10YR6/3)	外：回転ナデ，施釉，墨書，内：回転ナデ，施釉	底部完存	
1704	堀埋土中	土師質土器	管状土錘	現存長5.4	最大厚0.5	最大幅1.4	にぶい赤褐(5YR5/4)	指ナデ	ほぼ完存	
1714	第1遺構面上層	陶器	皿	10.1	1.8	5.8	外 釉：オリーブ黄(7.5Y6/3) 内 釉：オリーブ黄(7.5Y6/3)	外：施釉，貫入，重ね焼き痕，内：施釉，貫入，無釉	5/6	瀬戸・美濃
1715	第1遺構面上層	陶器	皿	11.6	3.3	4.2	外 釉：黄褐(2.5Y5/4) 胎：にぶい黄褐(10YR5/4) 内 釉：黄褐(2.5Y5/4) 胎：にぶい黄褐(10YR5/4)	外：回転ナデ，施釉，糸切り，内：回転ナデ，施釉，胎土目積３ヶ所	ほぼ完存	唐津
1716	第1遺構面上層	陶器	皿	9.8	2.9	4.9	外：にぶい赤褐(2.5YR4/4) 内：にぶい赤褐(2.5YR4/4)	外：回転ナデ，自然釉，高台貼付け，糸切り後一部ヘラ削り，墨書，内：回転ナデ	4/5	備前
1717	第1遺構面上層	磁器	碗	11.5	4.9	3.8	外 釉：灰白(10Y7/1) 内 釉：灰白(10Y7/1)	外：施釉，染付，内：施釉，重ね焼き痕，蛇の目釉剥ぎ	1/4	肥前
1718	第1遺構面上層	磁器	碗	11.6	6.0	4.8	外 釉：明オリーブ灰(2.5GY7/1) 内 釉：明オリーブ灰(2.5GY7/1)	外：回転ナデ，施釉，内：回転ナデ，施釉，見込五弁花文コンニャク判	2/3	肥前
1719	第1遺構面上層	青磁	碗	10.8	6.2	3.8	外 釉：オリーブ灰(2.5GY6/1) 胎：浅黄(5Y7/3) 内 釉：オリーブ灰(2.5GY6/1) 胎：浅黄(5Y7/3)	外：回転ナデ，施釉，ヘラ削り，高台削出し，内：回転ナデ，施釉	1/5	
1720	第1遺構面上層	土師質土器	有溝土錘	現存長9.4	最大厚5.5	最大幅7.0	にぶい褐(7.5YR5/4)	指ナデ	ほぼ完存	
1721	第1遺構面上層	陶器	不明	2.4	6.3	6.2	外 釉：明赤褐(2.5YR5/8) 胎：明赤褐(2.5YR5/6) 内 釉：明赤褐(2.5YR5/8) 胎：橙(5YR6/6)	外：型押し後ナデ，施釉，内：ナデ	ほぼ完存	
1722	第1遺構面上層	石器	不明石製品	現存長5.1	最大厚0.9	最大幅1.0				
1723	第1遺構面上層	瓦質土器	椀			4.6	外：灰白(5Y7/1) 内：灰白(5Y7/1)	外：回転ナデ後横方向のヘラミガキ，高台貼付け後ナデ，内：板ナデ後ナデ	1/3	西村産？
1736	その他	陶器	鉢	6.4			外 釉：灰白(5Y7/2) 内 釉：灰白(5Y7/2) 胎：淡黄(2.5Y8/3)	外：回転ナデ後施釉，内：回転ナデ後施釉	小片	
1737	その他	磁器	碗	10.8			外 釉：灰白(N8/) 内 釉：灰白(N8/)	外：施釉，染付，内：施釉，染付	1/4	
1738	その他	弥生土器	壺	15.6			外：にぶい黄橙(10YR6/3) 内：にぶい黄橙(10YR6/3)	外：ハケ目後ナデ，内：ハケ目後ナデ，指押さえ	口縁部完存	
1753	その他	石製品	五輪塔	現存長22.3		最大幅17.4			完存	
1761	SD08	陶器	碗	10.5			外 釉：灰オリーブ(5Y6/2) 内 釉：灰オリーブ(5Y6/2)	外：施釉 内：施釉	口縁1/8	瀬戸・美濃
1762	SD08	陶器	天目茶碗	11.9			外 釉：黒(N1.5/) 胎：灰赤(10R5/2) 内 釉：黒(N1.5/)	外：回転ナデ，施釉 内：施釉	口縁1/8	瀬戸・美濃
1763	SD08	磁器	皿			5.1	外 釉：明青灰(5BG7/1) 内 釉：明青灰(5BG7/1)	外：施釉 内：施釉，染付	底部1/2	肥前
1764	SD08	青磁	皿			5.9	外 釉：オリーブ灰(2.5GY6/1) 内 釉：オリーブ灰(2.5GY6/1)	外：施釉 内：施釉	底部3/8	

番号	遺構名	種　類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　　調	整形・調整の特徴	残存量	備　考
1765	SD08	陶器	皿			4.4	外 釉：オリーブ灰(10Y6/2) 胎：にぶい赤褐(5YR5/3) 内 釉：オリーブ灰(10Y5/2)	外：回転ナデ，施釉 内：施釉，砂目積	底部5/8	唐津
1766	SD08	陶器	皿	11.0	1.6	7.2	外 釉：浅黄(5Y7/4)～オリーブ(5Y5/4) 胎：淡黄(5Y8/3) 内 釉：浅黄(5Y7/4)～暗オリーブ(5Y4/3)	外：施釉 内：施釉，蛇の目釉剝ぎ	底部1/8	瀬戸・美濃
1767	SD08	陶器	皿			4.4	外 釉：暗オリーブ(5Y4/4) 胎：にぶい橙(7.5YR6/4) 内 釉：にぶい黄(2.5Y6/4)～黄褐(2.5Y5/3)	外：回転ナデ，施釉，高台削出し 内：施釉	底部1/2	唐津
1768	SD08	陶器	碗			3.8	外 釉：灰黄褐(10YR5/2) 胎：にぶい橙(7.5YR6/4) 内 釉：灰オリーブ(5Y5/2)	外：回転ナデ，施釉 内：施釉	底部1/4	唐津
1769	SD08	陶器	皿			11.1	外 釉：灰白(5Y8/1) 胎：灰黄(2.5Y6/2) 内 釉：灰白(5Y8/1)	外：ヘラ削り，高台削出し，施釉 内：施釉	底部1/8	
1770	SD08	陶器	燭台				外 釉：黒褐(2.5Y3/1) 内 釉：黒褐(2.5Y3/1)	外：施釉，刻印，糸切り 内：施釉	破片	
1771	SD08	土師質土器	有溝土錘	現存長3.1	最大厚2.4	最大幅2.8	灰白(10YR7/1)	ナデ	完存	
1772	SD08	磁器	転用土製品	現存長5.4	最大厚0.8	最大幅5.4	外 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 胎：浅黄橙(10YR8/4) 内 釉：明緑灰(7.5GY8/1) 胎：浅黄橙(10YR8/4)	表：施釉，蛇の目釉剝ぎ 裏：高台削出し，施釉	完存	肥前
1773	SD08	磁器	碗	11.2	6.3	4.5	外 釉：明青灰(5BG7/1) 内 釉：明青灰(5BG7/1)	外：施釉，染付 内：施釉	1/8	肥前
1774	SD08	磁器	碗	10.8	5.7	4.4	外 釉：明青灰(10BG7/1) 内 釉：明青灰(10BG7/1)	外：施釉，染付 内：施釉	1/2	肥前
1775	SD08	磁器	碗	10.8			外 釉：明青灰(5BG7/1) 胎：灰白(10Y8/1) 内 釉：明青灰(5BG7/1)	外：施釉，染付 内：施釉	口縁1/4	肥前
1776	SD08	磁器	碗	8.6	4.4	7.2	外 釉：明青灰(10GY8/1) 内 釉：明青灰(10G7/1) 胎：灰白(N8/)	外：施釉，染付 内：施釉	1/3	肥前
1777	SD08	白磁	碗	8.8			外 釉：灰白(5Y7/1) 内 釉：灰白(5Y7/1)	外：施釉 内：施釉	口縁1/8	
1778	SD08	磁器	皿	13.2			外 釉：明青灰(10G7/1) 内 釉：明青灰(10G7/1)	外：施釉，染付 内：施釉，染付	口縁2/8	
1779	SD08	陶器	灯明皿	9.6	1.9		外 釉：暗赤灰(2.5YR3/1)～暗赤灰(10R3/2) 内 釉：黒褐(7.5YR3/1)～暗赤褐(10R3/2)	外：回転ナデ，重ね焼痕 内：回転ナデ	口縁1/4	備前
1780	SD08	白磁	紅皿	5.0	1.6	2.1	外：暗緑灰(10GY8/1) 胎：灰白(5Y8/1) 外：暗緑灰(10GY8/1)	外：施釉，鎬 内：施釉	1/4	
1781	SD08	磁器	碗			6.0	外：暗緑灰(10GY8/1) 外：暗緑灰(10GY8/1)	外：施釉，染付 内：染付	底部7/8	
1782	SD08	石	転用土製品	現存長4.5	最大厚1.2	最大幅4.4	表：灰(N4/) 裏：灰(N4/)		完存	安山岩
1783	SD08	陶器	転用土製品	現存長3.7	最大厚0.9	最大幅3.6	表：黄灰(2.5Y6/1)，にぶい橙(5YR6/3) 裏：灰(7.5Y6/1)	表：回転ナデ，施釉 裏：施釉	完存	
1784	SD08	陶器	転用土製品	現存長3.3	最大厚0.8	最大幅3.2	表：灰黄褐(10YR5/2) 胎：赤褐(10R4/3) 裏：黄灰(2.5Y6/1)	表：回転ナデ，施釉 裏：施釉	完存	
1785	SD08	瓦	転用土製品	現存長5.4	最大厚1.4	最大幅4.8	表：暗青灰(5PB4/1)～灰(7.5Y6/1) 裏：灰(N4/)	表：ナデ，穿孔１ヶ所 内：ナデ	完存	
1786	SD08	瓦	転用土製品	現存長7.6	最大厚1.6	最大幅8.4	表：灰(N4/)～灰白(5Y6/1) 裏：暗灰(N3/)	表：ナデ 内：ナデ	完存	

表３　軒丸瓦観察表

番号	遺構名	種類	器種	直径(cm)	現存長(cm)	厚さ(cm)	整形・調整の特徴	凸　面	凹　面	側　面	筒部長(cm)	筒部径(cm)	備　考
7	SX01	瓦	軒丸瓦	11.3		1.7							三巴文
50	SA01	瓦	軒丸瓦		(13.5)	1.7		削り，ナデ	布目痕，接合痕，ナデ		(11.5)		
113	SD01	瓦	軒丸瓦	(15.0)	(11.0)	1.7		摩滅	布目痕わずかに残る,摩滅			15.0	三巴文
132	SD03	瓦	軒丸瓦	(12.6)	(13.7)	1.5		削り，ナデ	削り，ナデ			(12.6)	三巴文
133	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.6)	(10.8)	1.9		削り	布目痕，削り，ナデ			(13.6)	三巴文
134	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.8)		1.7		削り，ナデ	布目痕，ナデ			(13.8)	三巴文
135	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.2)	(4.0)	1.5		削り，ナデ				(13.2)	三巴文
136	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.2)		1.7							三巴文
137	SD03	瓦	軒丸瓦	(15.2)		1.7							三巴文
138	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.4)		1.8							三巴文
139	SD03	瓦	軒丸瓦	(12.4)		1.7							三巴文
140	SD03	瓦	軒丸瓦	(12.6)		1.5							三巴文
141	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.0)		1.7							三巴文
143	SD03	瓦	軒丸瓦	13.6		1.7							三巴文
144	SD03	瓦	軒丸瓦	14.0		2.2						(14.0)	三巴文
145	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.8)		1.6							三巴文
146	SD03	瓦	軒丸瓦	13.6		2.0							三巴文
147	SD03	瓦	軒丸瓦	(12.4)		1.7							三巴文
148	SD03	瓦	軒丸瓦	(14.0)		1.7							三巴文
149	SD03	瓦	軒丸瓦	(12.8)		1.6							三巴文
150	SD03	瓦	軒丸瓦	(14.6)		1.9							三巴文
151	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.2)		2.0							三巴文
152	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.8)		1.6							三巴文，笵傷あり
153	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.2)		1.9							三巴文
154	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.7)		1.9							三巴文
155	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.2)		1.9							三巴文
156	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.4)		1.9							三巴文
157	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.2)	(8.7)	2.0							三巴文
158	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.8)		1.9							三巴文
159	SD03	瓦	軒丸瓦	(13.4)		1.8							三巴文
226	SE06	瓦	軒丸瓦	13.0	(4.2)	1.9		ナデ			(2.3)	(13.0)	三巴文
227	SE06	瓦	軒丸瓦	(13.6)	(4.3)			削り後ナデ	ナデ				三巴文
240	SX11	瓦	軒丸瓦	(15.0)		2.1		削り後ナデ				15.0	三巴文
287	SX15	瓦	軒丸瓦	12.1	(13.9)	2.1		削り，ナデ	コビキA			12.1	三巴文
288	SX15	瓦	軒丸瓦	12.3	(7.3)	2.1		削り，ミガキ				12.3	三巴文
289	SX15	瓦	軒丸瓦	(14.2)		1.8		削り，ナデ				(14.2)	三巴文
291	SX15	瓦	軒丸瓦	14.6		2.3		削り，ナデ					三巴文
292	SX15	瓦	軒丸瓦	(15.4)	(12.2)	2.5		削り，ナデ	削り，ナデ			(15.4)	三巴文
293	SX15	瓦	軒丸瓦	(15.0)	(7.0)	2.4		削り	板ナデ			(15.0)	三巴文，笵傷あり
294	SX15	瓦	軒丸瓦	(14.2)		1.5							三巴文
295	SX15	瓦	軒丸瓦	(15.2)		1.9		削り					三巴文
296	SX15	瓦	軒丸瓦	(13.2)									三巴文

番号	遺構名	種類	器種	直径(cm)	現存長(cm)	厚さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	筒部長(cm)	筒部径(cm)	備考
297	SX15	瓦	軒丸瓦	(13.4)		2.0		削り，ナデ				(13.4)	三巴文
298	SX15	瓦	軒丸瓦	(14.2)		2.3							三巴文
299	SX15	瓦	軒丸瓦	(14.8)		2.4							三巴文
300	SX15	瓦	軒丸瓦	(14.0)		2.2							三巴文
301	SX15	瓦	軒丸瓦	(14.6)		2.4							三巴文
527	第4遺構面上層	瓦	軒丸瓦	16.2	(16.5)	3.1			布目痕		(16.5)	(16.2)	三巴文
528	第4遺構面上層	瓦	軒丸瓦	14.4	(13.4)	2.2					(13.4)	14.4	三巴文
529	第4遺構面上層	瓦	軒丸瓦	14.5	(7.9)	2.2					(7.9)		三巴文
530	第4遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.6	(3.8)	1.7		削り			(3.8)	(13.6)	三巴文
531	第4遺構面上層	瓦	軒丸瓦	11.8	(3.4)	1.4					(3.4)	(11.8)	三巴文
601	SX17	瓦	軒丸瓦	12.2	(2.8)	1.3					(2.8)		三巴文
608	SX17	瓦	軒丸瓦	(13.7)	(31.1)	1.8					(30.2)	13.7	
625	SX18	瓦	軒丸瓦	(10.3)	(11.1)	2.3			横方向の細かいコビキ痕あり		(11.1)	(10.3)	
744	石垣内裏込土中	瓦	軒丸瓦	12.3	(3.9)	1.5	いぶしあり				(3.9)	(12.3)	三巴文
779	第3遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.6	(2.8)	1.7	780と同笵				(2.8)		三巴文
780	第3遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.4	(4.6)	1.5					(4.6)		三巴文
781	第3遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.0	(7.1)	1.7					(7.1)	(13.0)	三巴文
782	第3遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.8	(9.8)	1.9	いぶしあり				(9.8)	(13.8)	三巴文
783	第3遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.0	(2.9)	1.7					(2.9)		三巴文
784	第3遺構面上層	瓦	軒丸瓦	15.6	(3.9)	3.0					(3.9)		三巴文
785	第3遺構面上層	瓦	軒丸瓦	14.2	(20.8)	2.3		削り	コビキA		(20.8)	14.2	三巴文
786	第3遺構面上層	瓦	軒丸瓦	12.7	(3.0)	1.5					(3.0)	(12.7)	三巴文
787	第3遺構面上層	瓦	軒丸瓦	12.7	(2.9)	1.3					(2.9)		三巴文
826	SE07	瓦	軒丸瓦	(11.0)									三巴文
837	SE08	瓦	軒丸瓦	14.6	(8.8)	3.4		ヘラミガキ	削り，ナデ			(14.6)	三巴文
838	SE08	瓦	軒丸瓦		(7.7)	2.0		削り，ナデ	ナデ				三巴文
839	SE08	瓦	軒丸瓦	(14.0)	(8.9)	2.0			削り，ナデ			(14.0)	
855	SK23	瓦	軒丸瓦	(12.0)	(9.6)	1.6		削り，ナデ	ナデ		(9.6)	12.0	三巴文
912	SK28	瓦	軒丸瓦	(12.6)	(4.2)	1.6		削り，ナデ	ナデ			(12.6)	三巴文
913	SK28	瓦	軒丸瓦	(13.2)		1.5		削り，ナデ				(13.2)	三巴文
914	SK28	瓦	軒丸瓦	(12.2)		1.8							三巴文
940	SK31	瓦	軒丸瓦	(12.4)	(13.3)	1.5		削り，ナデ			(13.3)	12.4	三巴文
941	SK31	瓦	軒丸瓦	(14.0)	(13.1)	1.4	いぶしあり	ナデ，削り			(13.1)	14.0	三巴文
942	SK31	瓦	軒丸瓦	13.3	(9.0)	1.3		ナデ	布目痕，コビキ痕		(9.0)	(13.3)	三巴文
943	SK31	瓦	軒丸瓦	12.0	(2.6)	1.3					(2.6)		三巴文
944	SK31	瓦	軒丸瓦	13.0	(3.0)	1.9					(3.0)		三巴文
945	SK31	瓦	軒丸瓦	13.8	(9.2)	1.6	いぶしあり	ヘラミガキ			(9.2)	(13.8)	三巴文
946	SK31	瓦	軒丸瓦	13.9	(4.1)	1.6	いぶしあり				(4.1)	(13.9)	三巴文
947	SK31	瓦	軒丸瓦	13.2	(4.7)	1.8	いぶしあり				(4.7)		三巴文
948	SK31	瓦	軒丸瓦	12.1	(2.8)	1.9					(2.8)		三巴文
949	SK31	瓦	軒丸瓦	(13.2)	(3.0)	1.6					(3.0)		三巴文
950	SK31	瓦	軒丸瓦	(13.4)	(11.1)	1.4		削り，ナデ			(11.1)	(13.4)	三巴文

番号	遺構名	種類	器種	直径(cm)	現存長(cm)	厚さ(cm)	整形・調整の特徴	凸　面	凹　面	側　面	筒部長(cm)	筒部径(cm)	備　考
951	SK31	瓦	軒丸瓦	(12.4)		1.5							三巴文
952	SK31	瓦	軒丸瓦	(12.4)	(3.1)	2.1	いぶしあり，ハナレ砂使用				(3.1)		三巴文
953	SK31	瓦	軒丸瓦	(12.8)	(7.3)	1.4					(7.3)		三巴文
960	SK31	瓦	軒丸瓦	(12.0)	22.4	1.8		ヘラミガキ	布目痕		19.6	12.0	
989	SX24	瓦	軒丸瓦	12.4	(0.7)	1.7					(0.7)		三巴文，笵傷あり
990	SX24	瓦	軒丸瓦	12.6	(1.5)	2.0					(1.5)		三巴文，笵傷あり
991	SX24	瓦	軒丸瓦	12.4	(2.8)	1.5					(2.8)		三巴文
992	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.8)	(2.9)	1.6					(2.9)		三巴文
993	SX24	瓦	軒丸瓦	13.9	(2.1)	1.4					(2.1)		三巴文
994	SX24	瓦	軒丸瓦	13.0	(3.6)	1.5					(3.6)		三巴文
995	SX24	瓦	軒丸瓦	13.1	(3.2)	1.8					(3.2)		三巴文
996	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.6)	(2.8)	1.3					(2.8)		三巴文
997	SX24	瓦	軒丸瓦	12.8	(2.2)	1.3	いぶしあり				(2.2)		三巴文
998	SX24	瓦	軒丸瓦	13.0	(3.9)	1.7					(3.9)	(13.0)	三巴文
999	SX24	瓦	軒丸瓦	12.6	(1.7)	1.3					(1.7)		三巴文，笵傷あり
1000	SX24	瓦	軒丸瓦	12.6	(3.8)	1.5	いぶしあり				(3.8)		三巴文，笵傷あり
1001	SX24	瓦	軒丸瓦	12.8	(2.9)	2.2					(2.9)		三巴文
1002	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.4)	(3.4)	1.6					(3.4)		三巴文
1003	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.7)	(3.0)	1.3					(3.0)		三巴文
1004	SX24	瓦	軒丸瓦	(15.6)	(2.5)	2.2					(2.5)		三巴文
1005	SX24	瓦	軒丸瓦	13.0	(3.1)	1.4					(3.1)		三巴文
1006	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.8)	(2.6)	1.7					(2.6)		三巴文
1007	SX24	瓦	軒丸瓦	(14.2)	(7.1)	1.4					(7.1)	(14.2)	三巴文
1008	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.8)	(3.3)	1.9	いぶしあり				(3.3)		三巴文
1009	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.0)	(3.0)	1.6					(3.0)		三巴文
1010	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.8)	(8.7)	1.6	いぶしあり				(8.7)	(12.8)	三巴文
1011	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.8)	(3.3)	1.5					(3.3)	(12.8)	三巴文
1012	SX24	瓦	軒丸瓦	(11.8)	(2.6)	1.3					(2.6)		三巴文，笵傷あり
1013	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.6)	(3.4)	1.3					(3.4)	(12.6)	三巴文
1014	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.8)	6.4	1.0					(6.4)		三巴文
1015	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.0)	(2.2)	1.5					(2.2)		三巴文
1016	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.2)		1.3							三巴文
1017	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.0)	(7.1)	2.0					(7.1)		三巴文
1018	SX24	瓦	軒丸瓦	(13.2)		1.6							三巴文
1019	SX24	瓦	軒丸瓦	(13.6)	(2.3)	1.4					(2.3)		三巴文
1020	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.6)	(5.1)	1.8					(5.1)		三巴文
1021	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.6)		1.4							三巴文
1022	SX24	瓦	軒丸瓦	(14.2)		2.0							三巴文
1023	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.4)	(3.1)	1.5	いぶしあり				(3.1)		三巴文，笵傷あり
1024	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.6)	(2.5)	1.8					(2.5)		三巴文
1025	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.0)	(3.1)	1.5					(3.1)		三巴文
1026	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.0)	(6.3)	1.3					(6.3)	(12.0)	三巴文，笵傷あり

番号	遺構名	種類	器種	直径(cm)	現存長(cm)	厚さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	筒部長(cm)	筒部径(cm)	備考
1027	SX24	瓦	軒丸瓦	(13.0)	(2.3)	1.4					(2.3)		三巴文
1028	SX24	瓦	軒丸瓦	(14.0)	(3.0)	1.5					(3.0)		三巴文
1029	SX24	瓦	軒丸瓦	(11.4)		1.5							三巴文
1030	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.2)	(1.9)						(1.9)		三巴文
1031	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.2)		1.5	いぶしあり						三巴文
1067	SX24	瓦	軒丸瓦	(11.8)	22.4	1.4		削り，板ナデ	布目痕，削り		19.3	11.8	
1087	SX24	瓦	軒丸瓦	(12.2)	(15.9)	2.1	瓦当面いぶしあり	ヘラミガキ	指頭痕，削り		(15.9)	12.2	
1100	SX25	瓦	軒丸瓦	12.6	(3.4)	1.9					(3.4)	(12.6)	三巴文
1101	SX26	瓦	軒丸瓦	13.8		1.3			ナデ				三巴文
1102	SX26	瓦	軒丸瓦	(14.6)		1.9			ナデ				三巴文
1103	SX26	瓦	軒丸瓦	(13.4)		1.8							三巴文
1108	SX27	瓦	軒丸瓦	12.6	(5.5)	1.5					(5.5)	(12.6)	三巴文，笵傷あり
1109	SX27	瓦	軒丸瓦	12.2	(3.9)	1.8	いぶしあり				(3.9)	(12.2)	三巴文
1110	SX27	瓦	軒丸瓦	12.2	(3.7)	1.5					(3.7)	(12.2)	三巴文
1111	SX27	瓦	軒丸瓦	12.5	(4.4)	1.4					(4.0)		三巴文
1112	SX27	瓦	軒丸瓦	(14.2)	(14.1)	1.8		削り，ナデ	布目痕，コビキB		(14.1)	14.2	三巴文
1113	SX27	瓦	軒丸瓦	(12.2)	(2.6)	1.5					(2.6)		三巴文
1140	SX27	瓦	軒丸瓦		(14.7)	1.6			削り		(14.7)		
1153	SX28	瓦	軒丸瓦	(12.2)	23.8	2.3	瓦当接合部に溝あり			削り，ナデ	20.8	12.2	三巴文
1154	SX28	瓦	軒丸瓦	14.1	19.9	2.3	瓦当部板ナデ					14.1	三巴文
1155	SX28	瓦	軒丸瓦	13.6	(13.3)	1.8			コビキB，削り，ナデ			(13.6)	三巴文
1156	SX28	瓦	軒丸瓦	(14.0)		1.9							三巴文
1157	SX28	瓦	軒丸瓦	(13.6)	(6.4)	1.9							三巴文
1158	SX28	瓦	軒丸瓦	(14.6)	(3.5)	1.9		削り，ナデ			(1.7)	(14.6)	三巴文，笵傷あり
1159	SX28	瓦	軒丸瓦	14.0	(9.5)	1.6					(7.4)	(14.0)	三巴文
1160	SX28	瓦	軒丸瓦	(13.2)	(6.7)	1.5		削り，ナデ	コビキ痕，削り，ナデ			(13.2)	三巴文
1161	SX28	瓦	軒丸瓦	13.2	(10.4)	1.7						13.2	三巴文
1162	SX28	瓦	軒丸瓦	13.4	(8.1)	1.5			コビキ痕，削り，ナデ		(7.5)	13.4	三巴文
1163	SX28	瓦	軒丸瓦	(13.0)	(11.7)	2.1			削り，ナデ		6.2	13.0	三巴文
1164	SX28	瓦	軒丸瓦	(14.6)	(3.3)	1.5					(8.7)	(14.6)	三巴文
1165	SX28	瓦	軒丸瓦	(14.0)	(5.3)	2.0							三巴文，笵傷あり
1166	SX28	瓦	軒丸瓦	(13.3)		2.1							三巴文，笵傷あり
1167	SX28	瓦	軒丸瓦	(13.8)	(7.1)	1.7							三巴文，笵傷あり
1168	SX28	瓦	軒丸瓦	(13.2)		1.7							三巴文
1169	SX28	瓦	軒丸瓦	(14.8)	(6.6)	1.8							三巴文，笵傷あり
1278	SX29	瓦	軒丸瓦	12.2	(8.5)	1.5			布目痕，削り，ナデ		(6.6)	12.2	三巴文
1279	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.1)	(9.6)	1.5		削り，ナデ			(9.6)	(12.1)	三巴文
1280	SX29	瓦	軒丸瓦	13.1	(10.1)	1.3		削り，ナデ			(10.1)	(13.1)	三巴文
1281	SX29	瓦	軒丸瓦	12.8	(5.0)	1.2		削り，ナデ	強いナデ		(5.0)	(12.8)	三巴文
1282	SX29	瓦	軒丸瓦	12.3	(4.8)	1.7					(4.8)	(12.3)	三巴文
1283	SX29	瓦	軒丸瓦	12.9		2.2							三巴文，接合痕(櫛描)
1284	SX29	瓦	軒丸瓦	13.0		1.5							三巴文

番号	遺構名	種類	器種	直径(cm)	現存長(cm)	厚さ(cm)	整形・調整の特徴	凸　面	凹　面	側　面	筒部長(cm)	筒部径(cm)	備　考
1285	SX29	瓦	軒丸瓦	12.4	(5.0)	1.4		削り，ナデ	ナデ		(5.0)	(12.4)	三巴文
1286	SX29	瓦	軒丸瓦	(14.4)		1.5							三巴文
1287	SX29	瓦	軒丸瓦	12.8		1.4							三巴文
1288	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.0)	(6.6)	1.4		削り，ナデ			(6.6)	(13.0)	三巴文
1289	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.6)	(9.1)	1.4					(9.1)	(12.6)	三巴文
1290	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.2)	(10.3)	1.6			削り		(10.3)	(13.2)	三巴文
1291	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.4)	(6.7)	0.9		削り，ナデ	削り，ナデ		(6.7)	(12.4)	三巴文
1292	SX29	瓦	軒丸瓦	12.7	(3.6)	1.6					(3.6)	(12.7)	三巴文
1293	SX29	瓦	軒丸瓦	12.8		1.5							三巴文，笵傷あり
1294	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.0)		1.5							三巴文
1295	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.6)	(6.3)			削り，ナデ				(12.6)	三巴文
1296	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.9)		1.5		削り，ナデ				(12.9)	三巴文
1297	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.0)		1.6		削り，ナデ			(3.7)	(13.0)	三巴文
1298	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.0)				削り，ナデ				(12.0)	三巴文
1299	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.4)	(5.9)	1.3		削り，ナデ			(5.9)	(13.4)	三巴文
1300	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.2)		1.6	ハナレ砂使用	削り，ナデ				(13.2)	三巴文
1301	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.8)	(4.2)			削り，ナデ			(4.2)	(12.8)	三巴文
1302	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.0)		1.7		削り，ナデ				(13.0)	三巴文
1303	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.0)		1.4		削り，ナデ				(12.0)	三巴文
1304	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.8)	(4.8)	1.5					(4.8)	(13.8)	三巴文
1305	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.6)	(6.9)	1.5		削り，ナデ				(13.6)	三巴文
1306	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.0)		1.6		ナデ				(12.0)	三巴文
1307	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.6)	(9.6)	1.7		削り，ナデ			(9.6)	(12.6)	三巴文
1308	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.4)	(9.7)	1.5		削り，ナデ			(9.7)	(12.4)	三巴文
1309	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.0)		2.0		削り，ナデ					三巴文
1310	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.0)	(5.0)	1.4	ハナレ砂使用	削り，ナデ			(5.0)	(13.0)	三巴文
1311	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.0)		1.7		ナデ					三巴文
1312	SX29	瓦	軒丸瓦	(11.8)		1.4		ナデ				(11.8)	三巴文
1313	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.2)		1.3						(12.2)	三巴文
1314	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.1)		1.8							三巴文
1315	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.4)		1.3							三巴文
1316	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.2)		1.9							三巴文
1317	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.4)		1.6							三巴文
1318	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.0)		1.5							三巴文
1319	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.4)	(5.7)	1.4							三巴文
1320	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.0)	(6.7)	1.7							三巴文
1321	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.4)		1.6							三巴文
1322	SX29	瓦	軒丸瓦	(11.2)		1.6							三巴文
1323	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.0)		1.3							三巴文
1324	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.8)		1.4							三巴文
1325	SX29	瓦	軒丸瓦	(13.2)		1.9							三巴文
1326	SX29	瓦	軒丸瓦	(15.0)	(7.1)	1.6							三巴文
1327	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.0)		1.5							三巴文

番号	遺構名	種類	器種	直径(cm)	現存長(cm)	厚さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	筒部長(cm)	筒部径(cm)	備考
1328	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.8)		1.6							三巴文
1329	SX29	瓦	軒丸瓦	(12.0)		1.5							三巴文
1330	SX29	瓦	軒丸瓦	(11.6)		1.0							三巴文
1331	SX29	瓦	軒丸瓦	(11.0)		1.4							三巴文
1469	SX31	瓦	軒丸瓦	13.8	(4.0)	2.1					(4.0)	(13.8)	三巴文
1470	SX31	瓦	軒丸瓦	11.9	(4.2)	1.5					(4.2)	(11.9)	三巴文
1519	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	15.6	(13.3)	2.0					(13.3)	15.6	三巴文
1520	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	12.1	(9.6)	1.3					(9.6)	(14.0)	三巴文
1521	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	14.0	(5.5)	1.3					(5.5)	12.1	三巴文
1522	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	10.6	(8.0)	2.4					(8.0)	(10.6)	三巴文
1523	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	11.7	(6.5)	1.9					(6.5)	11.7	三巴文
1524	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.4	(4.7)	1.4					(4.7)	(13.4)	三巴文
1525	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.0	(4.5)	1.5					(4.5)	(13.0)	三巴文
1526	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	12.2	(5.4)	1.4					(5.4)	(12.2)	三巴文
1527	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.7	(6.2)	1.6					(6.2)	(13.7)	三巴文
1528	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	12.5	(4.2)	1.6					(4.2)		三巴文
1529	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	12.6	(3.0)	1.6					(3.0)		三巴文
1530	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.8	(2.2)	1.8	いぶしあり				(2.2)		三巴文
1531	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	12.8	(2.2)	1.4					(2.2)		三巴文
1532	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.0	(3.3)	1.3					(3.3)		三巴文
1533	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	12.5	(3.3)	1.6					(3.3)		三巴文
1534	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.3	(1.9)	1.8					(1.9)		三巴文
1535	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	12.5	(2.1)	1.6					(2.1)		三巴文
1536	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	12.4	(1.8)	1.5					(1.8)		三巴文
1537	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	12.4	(2.2)	1.6					(2.2)		三巴文
1538	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.0	(2.7)	1.3					(2.7)		三巴文
1539	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.4	(4.5)	1.5					(4.5)	(13.4)	三巴文
1540	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	(12.3)	(2.9)	1.5					(2.9)		三巴文
1541	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	12.9	(6.4)	1.7					(6.4)	(12.9)	三巴文
1542	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	14.0	(2.6)	1.8	いぶしあり				(2.6)		三巴文
1543	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	14.0	(2.7)	1.5					(2.7)	(14.0)	三巴文
1544	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.2	(7.0)	1.7					(7.0)	(13.2)	三巴文
1545	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.2	(4.1)	1.7					(4.1)	(13.2)	三巴文
1546	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	12.8	(2.1)	1.8					(2.1)		三巴文
1571	第2遺構面上層	瓦	軒丸瓦	(11.4)	22.6	1.5	いぶしあり				20.4	11.4	
1580	SA04	瓦	軒丸瓦	(12.2)	(2.6)	1.7					(2.6)		三巴文
1584	SD09	瓦	軒丸瓦	12.6	(6.9)	1.5					(6.9)	(12.6)	三巴文
1585	SD09	瓦	軒丸瓦	12.0	(5.3)	1.4					(5.3)	(12.0)	三巴文，笵傷あり
1586	SD09	瓦	軒丸瓦	12.2	(3.6)	1.7					(3.6)		三巴文
1587	SD09	瓦	軒丸瓦	(12.6)	(3.2)	1.7					(3.2)		三巴文
1588	SD09	瓦	軒丸瓦	12.2	(6.5)	1.3					(6.5)	(12.2)	三巴文
1589	SD09	瓦	軒丸瓦	(15.2)	(3.4)	1.4					(3.4)	(15.2)	三巴文

番号	遺構名	種類	器種	直径(cm)	現存長(cm)	厚さ(cm)	整形・調整の特徴	凸　面	凹　面	側　面	筒部長(cm)	筒部径(cm)	備　考
1590	SD09	瓦	軒丸瓦	(12.9)	(2.2)	1.8					(2.2)		三巴文
1591	SD09	瓦	軒丸瓦	(13.3)	(6.4)	1.8					(6.4)	13.3	三巴文
1592	SD09	瓦	軒丸瓦	(11.9)	(8.7)	1.5		削り，ナデ	削り		(8.7)	11.9	三巴文
1593	SD09	瓦	軒丸瓦	(13.0)	(7.2)	1.1		削り，ナデ			(7.2)	(13.0)	三巴文
1594	SD09	瓦	軒丸瓦	(14.2)	(3.2)	1.7					(3.2)		三巴文
1595	SD09	瓦	軒丸瓦	(15.2)	(3.4)	1.7					(3.4)		三巴文
1596	SD09	瓦	軒丸瓦	(13.0)	(3.2)	1.7					(3.2)		三巴文
1597	SD09	瓦	軒丸瓦	(12.8)	(1.8)	1.4					(1.8)		三巴文，笵傷あり，斑がずれている
1598	SD09	瓦	軒丸瓦	(14.2)	(1.8)	1.8					(1.8)		三巴文
1599	SD09	瓦	軒丸瓦	(13.0)	(2.1)	1.5					(2.1)		三巴文
1600	SD09	瓦	軒丸瓦	(13.0)	(2.8)	1.5					(2.8)		三巴文
1617	SD09	瓦	軒丸瓦	(13.3)	(14.4)	2.0		削り，ナデ	布目痕，削り		(14.4)	13.3	
1626	SK43	瓦	軒丸瓦	(13.2)	(3.3)	(0.9)					(3.3)		三巴文
1628	SK44	瓦	軒丸瓦	12.5	(5.0)	1.7					(5.0)	(12.5)	三巴文
1631	SK46	瓦	軒丸瓦	(12.6)	(3.3)	1.3					(3.3)		三巴文
1641	SK52	瓦	軒丸瓦	(13.2)	(5.8)	1.4		削り，ナデ	布目痕		(5.8)	(13.2)	三巴文
1651	SK59	瓦	軒丸瓦	13.0		1.7	瓦当面ハナレ砂使用						三巴文，接合痕(数条の溝)
1652	SK59	瓦	軒丸瓦	15.0	3.2	1.5							三巴文
1653	SK59	瓦	軒丸瓦	12.2		1.2							三巴文
1654	SK59	瓦	軒丸瓦	(13.0)		1.7							三巴文
1655	SK59	瓦	軒丸瓦	(13.2)		1.6							三巴文
1656	SK59	瓦	軒丸瓦	(11.9)	(19.9)	1.6		削り，ナデ	削り，ナデ，面取		(19.9)	11.9	三巴文
1657	SK59	瓦	軒丸瓦	(12.1)	(21.6)	1.6		削り，ナデ	削り		(21.6)	(12.1)	三巴文
1664	SK60	瓦	軒丸瓦	12.7	(7.1)	1.7					(7.1)	(12.7)	三巴文，笵傷あり
1665	SK60	瓦	軒丸瓦	(14.0)	(3.8)	1.7					(3.8)		三巴文，笵傷あり
1666	SK60	瓦	軒丸瓦	13.2	(3.0)	1.8					(3.0)		三巴文
1667	SK60	瓦	軒丸瓦	(13.2)	(7.2)	1.6		削り，ナデ	布目痕		(7.2)	(13.2)	三巴文
1668	SK60	瓦	軒丸瓦	(14.6)	(9.2)	1.7		削り，ナデ	布目痕		(9.2)	(14.6)	三巴文，笵傷あり
1675	SK62	瓦	軒丸瓦	(13.0)	(9.5)	1.2		削り，ナデ	布目痕，削り		(9.5)	(13.0)	三巴文
1686	SK66	瓦	軒丸瓦	(13.0)	(9.3)	1.4		削り，ナテ			(9.3)	(13.0)	
1689	SK67	瓦	軒丸瓦	(13.0)	(8.0)	2.4		削り，ナデ	布目痕		(8.0)	(13.0)	三巴文
1705	堀埋土中	瓦	軒丸瓦	13.5	(5.6)	1.2					(5.6)	(13.5)	三巴文
1706	堀埋土中	瓦	軒丸瓦	13.3	(2.4)	1.7	いぶしあり				(2.4)		三巴文
1707	堀埋土中	瓦	軒丸瓦	12.3	(2.2)	1.7					(2.2)		三巴文
1708	堀埋土中	瓦	軒丸瓦	12.1	(10.0)	1.9					(10.0)	12.1	三巴文
1724	第１遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.4	(7.4)	2.1					(7.4)	(13.4)	三巴文
1725	第１遺構面上層	瓦	軒丸瓦	12.8	(5.5)	1.7	いぶしあり				(5.5)	(12.8)	三巴文
1726	第１遺構面上層	瓦	軒丸瓦	14.6	(3.7)	2.0					(3.7)		三巴文
1727	第１遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.4	(2.0)	1.6					(2.0)		三巴文
1728	第１遺構面上層	瓦	軒丸瓦	13.4	(1.9)	1.8					(1.9)		三巴文

番号	遺構名	種類	器種	直径(cm)	現存長(cm)	厚さ(cm)	整形・調整の特徴	凸　面	凹　面	側　面	筒部長(cm)	筒部径(cm)	備　考
1739	その他	瓦	軒丸瓦	12.2	(4.8)	1.9					(4.8)	(12.2)	三巴文，笵傷あり
1741	その他	瓦	軒丸瓦	(13.5)	(2.4)	1.9	いぶしあり				(2.4)		三巴文
1742	その他	瓦	軒丸瓦	(13.0)	(1.7)	1.6	瓦当面いぶしあり				(1.7)		三巴文
1743	その他	瓦	軒丸瓦	(13.6)	(2.8)	1.8					(2.8)		三巴文
1754	その他	瓦	軒丸瓦	13.0	(6.1)	1.7					(6.1)	(13.0)	三巴文
1788	SD08	瓦	軒丸瓦	12.8		1.4		ナデ	布目痕	削り	(9.9)	(12.8)	三巴文
1789	SD08	瓦	軒丸瓦	12.9		2.0		ナデ			(4.2)	(12.9)	三巴文

表 4　軒平瓦観察表

番号	遺構名	種類	器種	現存長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	垂れ長厚さ (cm)	垂れ長長さ (cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
8	SX01	瓦	軒平瓦	(6.8)	(12.3)		1.6	(2.0)	4.0			布目痕			均整唐草文
9	SX01	瓦	軒平瓦	(9.5)	(16.9)		2.1	(1.7)	4.4		縦方向の削り後ナデ	横方向のナデ	削り		均整唐草文
16	SX02	瓦	軒平瓦	(8.9)	(12.1)		1.6	2.6	(4.3)		削り	削り，ナデ	削り，ナデ		均整唐草文
17	SX02	瓦	軒平瓦	(10.7)	(12.0)	(11.5)	1.9	2.1	4.0		布目，ナデ	削り，ナデ			均整唐草文
18	SX02	瓦	軒平瓦	(9.4)	(10.2)		2.2	2.6	4.4		削り後ナデ	ナデ	削り		均整唐草文
114	SD01	瓦	軒平瓦		(8.6)		1.7	2.6	4.5		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		均整唐草文
160	SD03	瓦	軒平瓦	(8.8)	25.1		1.7	1.6	3.7		削り，ナデ	削り，ナデ	削り		均整唐草文
161	SD03	瓦	軒平瓦	(11.3)			1.5	1.1	4.1		削り，ナデ	削り，ナデ	削り		均整唐草文
162	SD03	瓦	軒平瓦	(5.7)	(16.5)		1.5	1.9	3.7	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		均整唐草文
163	SD03	瓦	軒平瓦	(8.7)	(15.5)	(16.0)	1.5	1.2	3.9	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		均整唐草文
164	SD03	瓦	軒平瓦	(3.3)				1.6	4.0						均整唐草文
165	SD03	瓦	軒平瓦	(10.7)	25.4		1.5	1.8	3.9		削り，ナデ	削り，ナデ	削り		均整唐草文
166	SD03	瓦	軒平瓦		(7.2)		1.3	1.6	3.8		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		均整唐草文
167	SD03	瓦	軒平瓦	(8.9)			1.5	1.3	4.0		削り，ナデ	削り，ナデ			均整唐草文
168	SD03	瓦	軒平瓦	(3.6)			1.6	1.7	3.6		削り	削り，ナデ	削り，ナデ		均整唐草文
169	SD03	瓦	軒平瓦					1.9	3.6			削り，ナデ	削り，ナデ		均整唐草文
170	SD03	瓦	軒平瓦	(3.2)	(12.2)			2.5	4.0						均整唐草文
171	SD03	瓦	軒平瓦		(14.3)			1.9	3.6	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ			均整唐草文
172	SD03	瓦	軒平瓦	(8.0)	(10.0)		2.0	1.7	3.9		削り，ナデ	削り			均整唐草文
173	SD03	瓦	軒平瓦	(7.3)	(8.2)		1.6	1.7	3.6		削り，ナデ	削り，ナデ			均整唐草文
174	SD03	瓦	軒平瓦				1.1	1.5	3.5	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		均整唐草文
175	SD03	瓦	軒平瓦	(5.6)	(12.3)		1.6	1.9	3.3		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		均整唐草文
228	SE06	瓦	軒平瓦	(8.7)	(9.4)		1.6	2.5	4.1		ナデ	縦削り後横削り	削り		
229	SE06	瓦	軒平瓦	(9.2)	(5.7)		2.2	3.1	4.4		横削り後ナデ	削り後ナデ	削り後ナデ		
302	SX15	瓦	軒平瓦	(14.8)			2.1	1.9	4.7		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
303	SX15	瓦	軒平瓦	(14.2)			2.0	1.8	4.6						
304	SX15	瓦	軒平瓦	(15.8)	(22.9)		2.7	2.6	5.2		削り，ナデ	削り，ナデ	削り		
305	SX15	瓦	軒平瓦	(12.3)	25.1		1.8	2.6	4.7		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ	削り，ナデ		
306	SX15	瓦	軒平瓦	(7.4)	22.0		1.9	(2.2)	5.0		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
307	SX15	瓦	軒平瓦		(9.8)			2.2	5.4		削り，ナデ	削り，ナデ			
308	SX15	瓦	軒平瓦					2.6	5.2		削り，ナデ	削り，ナデ			
309	SX15	瓦	軒平瓦		(11.7)			2.6	5.2			削り，ナデ			
310	SX15	瓦	軒平瓦	(4.7)	(1.9)		2.2	2.7	5.1			削り，ナデ			
311	SX15	瓦	軒平瓦	(17.4)	22.8		2.0	1.6	4.3		削り，ナデ	布目痕，ナデ	削り，ナデ		均整唐草文
312	SX15	瓦	軒平瓦	(10.1)	20.8		1.7	1.9	4.1		削り，ナデ	布目痕，ナデ	削り，ナデ		
313	SX15	瓦	軒平瓦				1.7	2.0	4.6			削り，ナデ	削り，ナデ		
314	SX15	瓦	軒平瓦	(9.4)	23.2		1.8	2.0	4.4		ナデ	布目痕，ナデ	削り，ナデ		均整唐草文
315	SX15	瓦	軒平瓦	(5.6)	(11.4)		1.8	(1.9)	4.3		削り，ナデ	布目痕，ナデ	削り，ナデ		
316	SX15	瓦	軒平瓦					1.9	4.3			布目痕，削り，ナデ	削り，ナデ		
317	SX15	瓦	軒平瓦	(8.6)	(12.4)		2.0	1.8	3.9		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ	削り，ナデ		
318	SX15	瓦	軒平瓦	(2.9)	(15.3)			1.9	4.6		削り，ナデ	布目痕	削り，ナデ		
319	SX15	瓦	軒平瓦	(13.9)	(13.8)		1.6	1.6	4.0		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ	削り，ナデ		

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
320	SX15	瓦	軒平瓦	(10.0)			1.7	2.0	4.5		削り，ナデ	布目痕，ナデ	削り，ナデ		
321	SX15	瓦	軒平瓦		22.8			2.0	4.2			布目痕			均整唐草文
322	SX15	瓦	軒平瓦	(8.1)			1.7	1.8	4.1		削り，ナデ	布目痕，ナデ	削り，ナデ		
323	SX15	瓦	軒平瓦	(5.2)	(8.6)		1.6	2.2	4.0						
324	SX15	瓦	軒平瓦						3.7						
532	第4遺構面上層	瓦	軒平瓦	(23.6)	24.9		2.2	2.7	4.4		ナデ	ナデ，布目痕	ナデ		
533	第4遺構面上層	瓦	軒平瓦	(12.5)	24.9		2.5	2.8	4.3		ナデ	ナデ，布目痕，	ナデ		
534	第4遺構面上層	瓦	軒平瓦	(13.4)	24.4		2.1	2.5	4.9		ナデ	ナデ	ナデ		
535	第4遺構面上層	瓦	軒平瓦	(10.1)			2.3	2.6	4.7		ナデ	ナデ	ナデ		
536	第4遺構面上層	瓦	軒平瓦	(17.1)	21.2		1.5	1.6	3.1		ナデ	ナデ	ナデ		
537	第4遺構面上層	瓦	軒平瓦	(10.7)			2.2	2.8	5.1		ナデ	ナデ	ナデ		
538	第4遺構面上層	瓦	軒平瓦	(11.0)			1.9	1.6	3.0		ナデ	ナデ			
539	第4遺構面上層	瓦	軒平瓦	(7.7)			1.5	2.0	4.0		ナデ	ナデ			
540	第4遺構面上層	瓦	軒平瓦	(5.5)	(11.4)		1.5	1.2	3.3						
575	SP03	瓦	軒平瓦	(10.6)			1.6	1.4	3.8		削り，ナデ	削り，ナデ			
592	SK19	瓦	軒平瓦	(13.4)	(11.4)		2.3		4.0	平瓦＋顎	削り，ナデ	布目痕，ナデ	削り，ナデ		
603	SX17	瓦	軒平瓦	(2.1)	(14.4)			1.6	4.5	平瓦＋顎，いぶしあり					
604	SX17	瓦	軒平瓦	(6.7)			1.5		3.3		削り，ナデ	削り，ナデ			
626	SX18	瓦	軒平瓦	(3.6)	(13.4)		1.4	2.0	4.2			布目痕後ナデ			均整唐草文
745	石垣内裏込土中	瓦	軒平瓦	(7.9)	23.4		1.7	1.6	4.4	平瓦＋顎	ナデ	ナデ	ナデ		
746	石垣内裏込土中	瓦	軒平瓦	(12.9)	(22.6)		1.5	1.2	3.5	平瓦＋顎	ナデ	ナデ	ナデ		
789	第3遺構面上層	瓦	軒平瓦	(9.4)	22.8		1.7	2.0	4.2		ナデ	ナデ	ナデ		
790	第3遺構面上層	瓦	軒平瓦	(8.5)	22.5		1.5				ナデ	ナデ	ナデ		
791	第3遺構面上層	瓦	軒平瓦	(5.9)			1.6		3.0	平瓦＋顎	ナデ	削り，ナデ	ナデ		
792	第3遺構面上層	瓦	軒平瓦	(6.7)			1.3		3.5	平瓦＋顎	ナデ	ナデ	ナデ		
793	第3遺構面上層	瓦	軒平瓦	(2.7)			1.6	1.4	3.6	平瓦＋顎					
794	第3遺構面上層	瓦	軒平瓦	(8.5)			1.6		4.0	平瓦＋顎	ナデ	ナデ	ナデ		
795	第3遺構面上層	瓦	軒平瓦	(6.9)	(15.7)		1.5	1.4	4.2	平瓦＋顎	ナデ	ナデ	ナデ		
796	第3遺構面上層	瓦	軒平瓦	(6.8)			1.6	2.2	4.1	平瓦＋顎	ナデ	ナデ			
797	第3遺構面上層	瓦	軒平瓦	(4.0)			1.4	1.5	3.9	平瓦＋顎	ナデ	ナデ			
798	第3遺構面上層	瓦	軒平瓦	(2.7)			1.4	1.6	3.6	平瓦＋顎	ナデ	ナデ	ナデ		
856	SK23	瓦	軒平瓦		(7.9)		1.4	1.5	3.6						
915	SK28	瓦	軒平瓦	(2.2)	(9.0)			1.1	3.6						
916	SK28	瓦	軒平瓦	(8.4)	21.9		1.6	1.2	3.8	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		均整唐草文
917	SK28	瓦	軒平瓦	(18.8)	21.4		1.4	1.2	3.3		削り，ナデ	削り，ナデ(板，指)	削り		均整唐草文
963	SK31	瓦	軒平瓦	(7.4)	22.8		1.6	1.6	4.0		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		均整唐草文
964	SK31	瓦	軒平瓦	(14.6)	(14.6)		1.5	1.7	3.7						
965	SK31	瓦	軒平瓦	(6.1)	(9.3)		1.3	1.0	3.2		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1033	SX24	瓦	軒平瓦	(13.8)	23.8		1.9	1.6	5.8	平瓦＋顎	削り，ナデ，指ナデ	削り，板ナデ	削り，ナデ		
1034	SX24	瓦	軒平瓦	(6.5)	25.7			1.4	5.9	平瓦＋顎			削り，ナデ		
1035	SX24	瓦	軒平瓦	(6.9)	24.3		1.6	2.0	6.0	平瓦＋顎		削り，ナデ			
1036	SX24	瓦	軒平瓦	(4.0)	(6.9)		1.7	1.8	6.0	平瓦＋顎					

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
1037	SX24	瓦	軒平瓦	(10.0)	22.7		1.4	1.3	3.7	平瓦+顎，いぶしあり	削り，ハケ，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1038	SX24	瓦	軒平瓦	(4.9)	22.8		1.6	1.2	3.9	平瓦+顎，いぶしあり	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1039	SX24	瓦	軒平瓦	(5.8)	(20.9)		1.6	1.4	4.2	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1040	SX24	瓦	軒平瓦	(10.0)	(11.7)		1.4	1.4	3.5	平瓦+顎，いぶしあり	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1041	SX24	瓦	軒平瓦	(2.1)	(8.7)			1.5	3.7	平瓦+顎，いぶしあり					
1042	SX24	瓦	軒平瓦	(3.5)	(13.7)			1.5	4.6	平瓦+顎					
1043	SX24	瓦	軒平瓦	(3.2)	(6.9)			1.6		平瓦+顎					
1044	SX24	瓦	軒平瓦	(2.5)	(8.3)			1.4	3.7	平瓦+顎，いぶしあり					
1045	SX24	瓦	軒平瓦	(4.9)				1.1	3.9						
1046	SX24	瓦	軒平瓦	(2.5)				1.6	4.3	平瓦+顎，いぶしあり					
1047	SX24	瓦	軒平瓦	(11.7)	(12.2)	(9.4)	1.3	1.5	3.7	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1048	SX24	瓦	軒平瓦	(4.7)	(11.5)		1.2	1.7	3.7	平瓦+顎，いぶしあり	削り，ナデ	削り，ナデ			
1049	SX24	瓦	軒平瓦	(3.0)	(8.4)			1.4	3.7	平瓦+顎，いぶしあり					
1050	SX24	瓦	軒平瓦	(5.8)	(16.4)		1.3	1.6	3.9	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1051	SX24	瓦	軒平瓦	(6.1)	(14.9)		1.7	1.3	3.9	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1052	SX24	瓦	軒平瓦	(2.5)	(5.3)		1.1	1.0	3.25	平瓦+顎					
1053	SX24	瓦	軒平瓦	(8.4)	(11.3)		1.2	1.3	3.2	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ			
1054	SX24	瓦	軒平瓦	(2.6)	(8.8)			1.3	3.9	平瓦+顎					
1055	SX24	瓦	軒平瓦	(2.1)	(10.0)			(0.9)	3.2						
1056	SX24	瓦	軒平瓦	(5.8)	(12.6)		1.6	1.2	3.8	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1057	SX24	瓦	軒平瓦	(2.6)	(10.8)				3.7	平瓦+顎					
1058	SX24	瓦	軒平瓦	(2.5)	(7.5)			1.5	3.5	平瓦+顎，いぶしあり					
1059	SX24	瓦	軒平瓦	(6.0)	(10.6)	(8.3)	1.7	1.4	3.8	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1060	SX24	瓦	軒平瓦	(5.5)	(10.5)		1.5			平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1061	SX24	瓦	軒平瓦	(2.6)	(8.9)			(0.9)	2.8	平瓦+顎					
1062	SX24	瓦	軒平瓦	(3.3)	(10.8)		1.5	1.2	3.4	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1063	SX24	瓦	軒平瓦	(8.0)	(11.9)		1.3	1.1	3.4	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1064	SX24	瓦	軒平瓦	(2.7)	(7.9)			1.4	3.4	いぶしあり					
1065	SX24	瓦	軒平瓦	(3.6)	(9.7)		1.3	1.3	3.7	平瓦+顎，いぶしあり					
1066	SX24	瓦	軒平瓦	(2.9)	(8.4)				3.1	平瓦+顎，刻印あり					
1104	SX26	瓦	軒平瓦				1.7		4.0	平瓦+顎	ナデ				
1105	SX26	瓦	軒平瓦	(23.3)	27.2		1.7	1.5	4.7	平瓦+顎	タタキ，削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1116	SX27	瓦	軒平瓦	(3.3)	(11.1)		1.3	1.2	3.7	平瓦+顎					
1171	SX28	瓦	軒平瓦	(12.0)	21.9		1.4	1.3	4.0		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1172	SX28	瓦	軒平瓦	(15.7)	21.5		1.3	2.1	4.1		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1173	SX28	瓦	軒平瓦	(2.8)	22.0		1.3	2.1	4.1				削り，ナデ		
1174	SX28	瓦	軒平瓦	(5.9)			1.9	2.1	4.1		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1175	SX28	瓦	軒平瓦	(8.3)			1.5	(2.8)	(3.9)		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1176	SX28	瓦	軒平瓦	(4.9)			1.7	1.7	3.6		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1177	SX28	瓦	軒平瓦	(5.2)			1.5	1.6	3.9		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1178	SX28	瓦	軒平瓦				2.2		4.0				削り，ナデ		
1179	SX28	瓦	軒平瓦	(5.1)			1.5	1.6	3.8	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
1180	SX28	瓦	軒平瓦	(5.2)	(11.5)		1.4	2.1	3.7	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1181	SX28	瓦	軒平瓦	(5.4)			1.4				削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1182	SX28	瓦	軒平瓦	(8.0)			1.6	1.9	3.0	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1183	SX28	瓦	軒平瓦	(5.3)			1.2	1.7	3.5	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1184	SX28	瓦	軒平瓦	(4.5)	(9.5)		1.4			平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1185	SX28	瓦	軒平瓦	(6.3)	(12.4)		1.7				削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1186	SX28	瓦	軒平瓦	(8.9)			1.8	1.9	3.4	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1333	SX29	瓦	軒平瓦	(7.3)			1.3	0.7	3.7	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1334	SX29	瓦	軒平瓦	(6.5)				1.2	4.0		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1335	SX29	瓦	軒平瓦	(10.5)			1.4	1.2	3.3	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1336	SX29	瓦	軒平瓦	(10.8)			1.6	1.3	3.7	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1337	SX29	瓦	軒平瓦	(7.2)				1.15	3.9	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1338	SX29	瓦	軒平瓦	(8.7)			1.4		3.4	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1339	SX29	瓦	軒平瓦					1.2	3.8			削り，ナデ			
1340	SX29	瓦	軒平瓦				1.1	1.2	3.7		削り，ナデ	削り，ナデ			
1341	SX29	瓦	軒平瓦	(3.8)			1.5	1.1	3.9		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1342	SX29	瓦	軒平瓦	(4.2)				1.9	3.3	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1343	SX29	瓦	軒平瓦	(3.6)	(4.6)		1.1	3.3		平瓦+顎					
1344	SX29	瓦	軒平瓦	(5.5)	(11.2)		1.4	1.1	3.0	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1345	SX29	瓦	軒平瓦	(6.9)	23.7		1.0	1.1	3.4	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1346	SX29	瓦	軒平瓦	(10.3)			1.4	1.4	3.6		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1347	SX29	瓦	軒平瓦	(8.0)			1.3	1.2	3.4	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1348	SX29	瓦	軒平瓦				1.2		3.4			削り			
1349	SX29	瓦	軒平瓦				1.4	1.3	3.4		削り，ナデ	削り，ナデ			
1350	SX29	瓦	軒平瓦	(9.4)			1.3	1.1	3.3		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1351	SX29	瓦	軒平瓦	(13.3)	(11.9)		1.9	1.3	3.7	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1352	SX29	瓦	軒平瓦	(14.0)	(13.3)		1.2	1.2	3.3	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1353	SX29	瓦	軒平瓦	(7.4)			1.4	1.3	3.4	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1354	SX29	瓦	軒平瓦	(3.5)			1.3	1.3	3.2	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1355	SX29	瓦	軒平瓦	(8.7)	(16.3)		1.4	1.2	3.2		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1356	SX29	瓦	軒平瓦	(9.6)			1.7	1.4	3.2	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1357	SX29	瓦	軒平瓦	(5.2)	(8.0)		1.6	1.3	4.0	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1358	SX29	瓦	軒平瓦	(9.2)			1.5		3.6	平瓦+顎	削り,指押さえ,ナデ	削り，ナデ			
1359	SX29	瓦	軒平瓦	(5.7)			1.5	2.0	4.1		削り，ナデ	削り，ナデ			
1360	SX29	瓦	軒平瓦	(2.8)	(8.8)			2.0	3.8	平瓦+顎			削り，ナデ		
1361	SX29	瓦	軒平瓦	(3.9)	(13.4)		1.2	1.15	3.0	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1362	SX29	瓦	軒平瓦	(7.3)			1.3	1.2	3.3	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1363	SX29	瓦	軒平瓦	(5.8)			1.3	1.8	3.2		削り，ナデ	削り，ナデ			
1364	SX29	瓦	軒平瓦	(6.9)	(13.5)		1.4	1.4	3.3	平瓦+顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1365	SX29	瓦	軒平瓦						3.5						
1366	SX29	瓦	軒平瓦					1.3	3.5						
1367	SX29	瓦	軒平瓦	(7.0)			1.5	1.4	3.5		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
1368	SX29	瓦	軒平瓦	(6.3)	(5.8)		1.7			平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1369	SX29	瓦	軒平瓦	(6.7)	(5.4)		1.5	0.9	3.5		削り，ナデ	削り，ナデ			
1370	SX29	瓦	軒平瓦	(3.7)					3.5		削り，ナデ	削り，ナデ			
1371	SX29	瓦	軒平瓦	(10.5)			2.0	1.9	4.7		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		均整唐草文
1372	SX29	瓦	軒平瓦	(12.8)			1.5	1.9	3.3	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1472	SX31	瓦	軒平瓦	(7.1)			1.7	1.3	4.1	平瓦＋顎，いぶしあり	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1473	SX31	瓦	軒平瓦	(12.5)	(9.3)		1.6	1.3	3.8		削り，ナデ	削り，ナデ			
1474	SX31	瓦	軒平瓦	(5.6)	(10.6)		1.5	1.4	3.7	平瓦＋顎，いぶしあり	削り，ナデ	削り，ナデ			
1475	SX31	瓦	軒平瓦	(2.3)			(1.2)	1.2	3.8	平瓦＋顎			削り，ナデ		
1476	SX31	瓦	軒平瓦	(8.6)	(10.5)		1.5	1.6	3.6	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1477	SX31	瓦	軒平瓦	(6.9)			1.7	1.4	3.3		削り，ナデ	削り，ナデ			
1478	SX31	瓦	軒平瓦	(7.1)			1.3	1.3	3.4	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1479	SX31	瓦	軒平瓦	(6.5)			1.6	3.6	1.8		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1480	SX31	瓦	軒平瓦	(5.1)			1.4	1.3	3.1	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1481	SX31	瓦	軒平瓦	(3.2)			1.3	1.2	3.5	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1547	第２遺構面上層	瓦	軒平瓦	(8.7)	(23.0)		1.2	1.3	3.5	平瓦＋顎	ナデ	ナデ	ナデ		
1548	第２遺構面上層	瓦	軒平瓦	(9.2)	(22.0)		1.4	1.4	4.3	平瓦＋顎	ナデ	ナデ	ナデ		
1549	第２遺構面上層	瓦	軒平瓦	(9.0)	(25.0)		1.9	2.1	4.5		ナデ	ナデ	ナデ		
1550	第２遺構面上層	瓦	軒平瓦	(6.0)	(23.6)		1.7	1.7	4.7	平瓦＋顎	ナデ	ナデ	ナデ		
1551	第２遺構面上層	瓦	軒平瓦	(8.3)	(26.0)		1.4	1.5	4.3	平瓦＋顎	ナデ	ナデ	ナデ		
1552	第２遺構面上層	瓦	軒平瓦	(8.1)	(16.8)		1.4	1.8	3.7	平瓦＋顎	ナデ	ナデ	ナデ		
1553	第２遺構面上層	瓦	軒平瓦	(9.4)	(9.2)		1.4	1.1	3.9	平瓦＋顎	ナデ	ナデ			
1554	第２遺構面上層	瓦	軒平瓦	(3.1)				1.7	3.7						
1555	第２遺構面上層	瓦	軒平瓦	(17.9)	(25.2)		1.5	1.6	4.2	いぶしあり	ナデ	ナデ	ナデ		
1601	SD09	瓦	軒平瓦	(9.4)	(7.4)		1.9	1.2	3.4	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1602	SD09	瓦	軒平瓦	(2.7)	(9.3)			(1.6)	(2.4)	平瓦＋顎					
1603	SD09	瓦	軒平瓦	(4.6)	(9.9)		1.4		3.5	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1604	SD09	瓦	軒平瓦	(4.2)	(5.3)		1.3	1.2	3.6	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1605	SD09	瓦	軒平瓦	(2.0)	(3.8)			1.6	4.0	平瓦＋顎					
1606	SD09	瓦	軒平瓦	(6.4)	(8.8)		1.6	1.1	3.1		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1607	SD09	瓦	軒平瓦	(12.6)	(9.8)			1.3	3.7						
1608	SD09	瓦	軒平瓦	(12.3)	(13.2)		1.6		3.2	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1609	SD09	瓦	軒平瓦	(3.5)	(10.0)			1.7	3.8	平瓦＋顎					
1610	SD09	瓦	軒平瓦	(9.2)	(7.7)		1.4	1.5	3.2	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1669	SK60	瓦	軒平瓦	(6.8)	(10.8)		1.4	1.6	3.5	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1709	堀埋土中	瓦	軒平瓦	(2.6)	20.6			1.2	3.5	平瓦＋顎					
1744	その他	瓦	軒平瓦	(5.1)	(10.6)		1.9		(4.4)	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1745	その他	瓦	軒平瓦	(5.6)	(8.3)		1.5	1.8	3.9	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ		
1746	その他	瓦	軒平瓦	(9.1)	(5.4)		1.6	1.9	4.2	平瓦＋顎	削り，ナデ	削り，ナデ			
1790	SD08	瓦	軒平瓦	(6.5)			1.4	1.8			ナデ，ハケ	ナデ	削り，ナデ		

表5　丸瓦観察表

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	厚さ(cm)	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
40	SX08	瓦	丸瓦	(26.2)	2.5	(22.2)	3.4	(9.4)	(8.2)		縦方向の削り	布目痕及び綴紐痕			
43	SX08	瓦	丸瓦	(7.9)	1.6	(7.9)					削り，ナデ	布目痕，コビキ痕，削り面取り			
51	SA01	瓦	丸瓦	(15.8)	1.8	(12.0)	3.8	(10.9)	(3.3)		削り，ナデ	削り，ナデ，布目痕			
60	SA02	瓦	丸瓦	(27.0)	1.6	(23.0)	4.2				削り，ナデ	削り，布目痕			
61	SA02	瓦	丸瓦	25.9	1.8	22.6	3.1	12.2	6.0		削り，ナデ	コビキB，削り			
62	SA02	瓦	丸瓦	25.9	1.9	22.5	3.4	(7.4)	(4.5)			コビキB，削り，布目痕			
63	SA02	瓦	丸瓦	25.4	1.8	23.0	3.1	13.0	(5.1)		削り，ナデ	削り，ナデ，布目痕			
64	SA02	瓦	丸瓦	(11.0)	1.6			13.3			削り，ナデ	コビキB，削り			
65	SA02	瓦	丸瓦	(17.0)	1.7	(13.5)	(3.3)	(12.3)			削り，ナデ	削り，ナデ，布目痕			
66	SA02	瓦	丸瓦	28.0	1.8	24.3	3.7	(7.9)	(5.5)			コビキB，削り，布目痕			
67	SA02	瓦	丸瓦	25.6	1.9	22.4	3.3	12.8			削り，ナデ	削り，ナデ			
176	SD03	瓦	丸瓦	(18.3)	1.5	(14.9)	3.4	13.9			削り，ナデ	布目痕，コビキB			
177	SD03	瓦	丸瓦	(9.4)	1.8	(5.7)	3.7	14.2	8.7		削り，ナデ	布目痕，削り			
178	SD03	瓦	丸瓦	(16.8)	1.8	(13.8)	(3.2)	13.3	(5.6)		削り，ナデ	布目痕，コビキB，ハケ，削り，ナデ			
179	SD03	瓦	丸瓦	(10.5)	1.7	(7.2)	3.3	12.9	7.4		削り，ナデ	布目痕，削り			
180	SD03	瓦	丸瓦	(10.0)	1.7	(6.5)	3.6	12.4				削り，布目痕			
181	SD03	瓦	丸瓦	(15.4)	2.1			14.3			削り(横方向)	コビキB，削り，布目痕			
182	SD03	瓦	丸瓦	(13.7)	1.5	(8.3)	5.4	(8.1)	(5.3)		削り，ナデ	布目痕，削り			
183	SD03	瓦	丸瓦	(12.9)	1.5	(12.9)		13.5				コビキB，削り			
265	SX13	瓦	丸瓦	(14.7)	2.1		3.1				削り，ナデ	綴紐痕，コビキA，削り，ナデ			
325	SX15	瓦	丸瓦	(22.6)	2.1	(17.6)	5.0	13.9			削り	削り			
326	SX15	瓦	丸瓦	(22.5)	2.0	(18.8)	3.7	13.7	(7.3)			布目痕，綴紐痕，削り			
327	SX15	瓦	丸瓦	(11.9)	2.4	(7.9)	(4.1)	(13.6)	(5.7)			布目痕，削り			
328	SX15	瓦	丸瓦	(13.8)	1.7	(9.0)	4.8	10.9	6.7		タタキ，ナデ	布目痕，綴紐痕，コビキA，削り			
329	SX15	瓦	丸瓦	(22.1)	2.1	(18.3)	3.8	13.5			削り，ナデ	削り			
330	SX15	瓦	丸瓦	(21.7)	2.5	(20.5)	(1.2)	(12.6)			削り，ナデ	コビキA，削り			
331	SX15	瓦	丸瓦	(14.3)	2.3	(9.1)	5.2	11.9	(6.0)		削り，ナデ	布目痕			
332	SX15	瓦	丸瓦	(14.9)	2.0	(11.5)	3.4	11.5			削り，ナデ	布目痕，削り			
333	SX15	瓦	丸瓦	(25.0)	2.1	(20.3)	(5.0)	14.1	(3.7)			布目痕，綴紐痕，コビキA			
334	SX15	瓦	丸瓦	(21.6)	2.2	(16.5)	5.1	12.5			削り，ナデ	布目痕，綴紐痕，削り			
335	SX15	瓦	丸瓦	(11.1)	2.2	(10.5)	(0.5)	12.7				布目痕，綴紐痕，削り			
336	SX15	瓦	丸瓦	(11.7)	1.8	(8.7)	3.0	11.6				布目痕，削り			
337	SX15	瓦	丸瓦	(16.9)	2.2	(11.8)	5.1				削り，ナデ	布目痕，綴紐痕，削り			
338	SX15	瓦	丸瓦	(20.0)	2.2	(15.4)	4.5	13.5	(3.5)			布目痕，削り			
339	SX15	瓦	丸瓦	(19.3)	2.3	(14.9)	4.4	13.0				布目痕，削り			
340	SX15	瓦	丸瓦	(18.4)	2.0	(14.9)	(3.1)	14.1	8.2			コビキB，綴紐痕			
341	SX15	瓦	丸瓦	(17.1)	2.0	(12.2)	(4.9)	11.7				布目痕，コビキA，綴紐痕，削り			
342	SX15	瓦	丸瓦	(15.8)	2.3	(11.4)	(4.4)	14.4			削り，ヘラミガキ	布目痕，削り			

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	厚さ(cm)	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
343	SX15	瓦	丸瓦	(14.8)	2.5	(14.8)		12.0				布目痕，綴紐痕，コビキA			
344	SX15	瓦	丸瓦	(15.4)	2.0	(12.0)	(3.7)	(11.3)	(3.5)		タタキ，ナデ	布目痕，削り			
345	SX15	瓦	丸瓦	(10.6)	2.2	(6.5)	4.2	13.3	(4.9)		削り	布目痕，コビキA，削り			
346	SX15	瓦	丸瓦	(15.3)	2.2	(10.8)	(4.5)	(12.7)			ヘラミガキ	布目痕，削り，ナデ			
348	SX15	瓦	丸瓦	(22.6)	2.1			12.8			ヘラミガキ	コビキ痕，削り			
349	SX15	瓦	丸瓦	(22.5)	2.1			12.1			削り，ナデ	布目痕，綴紐痕，削り，ナデ			
350	SX15	瓦	丸瓦	(14.1)	1.7	(14.1)						布目痕，コビキA，削り			
351	SX15	瓦	丸瓦	(14.4)	1.7			(9.1)				布目痕，綴紐痕，削り			
352	SX15	瓦	丸瓦	(12.1)	1.8	(12.1)						コビキA，削り			
353	SX15	瓦	丸瓦	(21.4)	2.3			11.1			タタキ，ナデ	布目痕，綴紐痕，削り			
354	SX15	瓦	丸瓦	(19.0)	2.1			12.2				布目痕，綴紐痕，削り			
355	SX15	瓦	丸瓦	(14.9)	2.3						タタキ，ナデ	削り，コビキA			
356	SX15	瓦	丸瓦	(16.0)	2.1			11.8				布目痕，綴紐痕，削り			
357	SX15	瓦	丸瓦	(13.1)	2.0			11.7			タタキ，ナデ	削り			
358	SX15	瓦	丸瓦	(18.0)	2.2	(18.0)					削り，ナデ	布目痕，コビキA，削り			φ3mm砂粒少量含む
359	SX15	瓦	丸瓦	(18.1)	2.0			14.3				布目痕，削り，コビキA			
360	SX15	瓦	丸瓦	(17.7)	2.3			(12.5)				布目痕，コビキA，削り			
361	SX15	瓦	丸瓦	(19.3)	1.8			14.4			タタキ，ナデ	布目痕，綴紐痕，削り，コビキA			
362	SX15	瓦	丸瓦	(20.0)	1.9			13.2				コビキA，削り			
363	SX15	瓦	丸瓦	(19.3)	1.8	(19.3)		12.8				コビキA，削り			
364	SX15	瓦	丸瓦	(20.6)	2.4			13.3			削り，ナデ	削り，コビキA			
365	SX15	瓦	丸瓦	(15.7)	1.3	(15.7)		10.3			タタキ，ナデ	布目痕，綴紐痕，削り，コビキA			
378	SX16	瓦	丸瓦	29.0	2.1	26.5	2.5	14.2	8.7		削り，ナデ	布目痕，削り，コビキA			
379	SX16	瓦	丸瓦	26.4	2.1	23.4	3.0	14.3			削り，ナデ	削り，コビキA			
541	第4遺構面上層	瓦	丸瓦	28.4	2.4	25.4	3.0	14.8	8.7			コビキA，布目痕，綴紐痕			
542	第4遺構面上層	瓦	丸瓦	29.7	2.2	26.3	3.4	14.0	(5.7)			コビキA，布目痕			
543	第4遺構面上層	瓦	丸瓦	29.0	2.2	26.6	2.4	13.9	(6.1)			コビキA			
544	第4遺構面上層	瓦	丸瓦	27.6	2.3	25.0	2.6	14.3	(5.1)			コビキA			
545	第4遺構面上層	瓦	丸瓦	(27.0)	2.1	(12.2)	4.8	11.3	(0.5)			コビキA，布目痕			
576	SP03	瓦	丸瓦	(21.6)	1.9	(18.2)	3.5	14.3	(6.6)		削り，ナデ	削り，布目痕			
605	SX17	瓦	丸瓦	(12.7)	1.7	(9.3)	(3.4)	(10.7)	6.2		削り，ナデ	布目痕，コビキ痕，削り			
606	SX17	瓦	丸瓦	(8.9)	1.3	(8.9)		12.4			削り，ナデ	削り			
623	SX18	瓦	丸瓦	30.3	2.4	27.5	3.2	12.9	5.1		ハケ目後ナデ	削り，布目痕，コビキA			
624	SX18	瓦	丸瓦	(12.2)	1.9						削り後ナデ	コビキA			
748	石垣内裏込土層	瓦	丸瓦	(23.1)	1.9	(19.5)	3.6	15.6	(6.5)		タタキ，ナデ	布目痕，綴紐痕，コビキA			
749	石垣内裏込土層	瓦	丸瓦	(16.0)	2.3	(13.1)	(3.2)	14.4	(7.2)			布目痕，綴紐痕，コビキA			
799	第3遺構面上層	瓦	丸瓦	(24.0)	2.2	(20.7)	3.3	11.9	(4.7)		ミガキ	コビキB，布目痕			
800	第3遺構面上層	瓦	丸瓦	29.4	2.0	25.0	4.4	12.0	6.0		タタキ，ナデ	削り，ナデ，コビキA，布目痕			

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	厚さ(cm)	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
801	第3遺構面上層	瓦	丸瓦	(14.4)	1.8	(11.3)	3.1	12.0	(4.7)			ナデ	削り，ナデ，布目痕，むしろ目		
827	SE07	瓦	丸瓦	(15.9)	1.7	(13.5)	2.4	12.8	(6.2)		削り，ナデ	布目痕，コビキB，削り			
857	SK23	瓦	丸瓦	(14.2)	2.3	(11.6)	2.6	12.9	6.2		削り，ナデ	削り，布目痕，綴紐痕			
858	SK23	瓦	丸瓦	(21.5)	1.9	21.5		(8.5)				削り，コビキ痕，布目痕			
922	SK29	瓦	丸瓦	(10.4)	1.7	(7.2)	3.2	13.8	7.6		削り，ナデ	ヘラミガキ，玉縁部に布目痕			
955	SK31	瓦	丸瓦	23.4	1.9	20.7	2.7	13.4	7,0		削り，ナデ	削り，布目痕			
956	SK31	瓦	丸瓦	(19.1)	1.4	(16.7)	2.4	11.4	3.4		ナデ	削り，布目痕			
957	SK31	瓦	丸瓦	22.3	1.5	19.3	3.1	12.4			削り，ナデ	削り，布目痕			
958	SK31	瓦	丸瓦	22.4	1.5	20.2	2.2	13.4			ヘラミガキ	削り，布目痕			
959	SK31	瓦	丸瓦	(11.7)	1.8	(8.6)	3.1	12.1	(7.2)		削り，ナデ	ヘラ状圧痕，布目痕			
961	SK31	瓦	丸瓦	(14.9)	1.7	(11.8)	3.1	13.1	(4.0)		ヘラミガキ	削り，ヘラ状圧痕，布目痕			
962	SK31	瓦	丸瓦	(14.3)	1.8	(10.9)	3.4	(9.2)	(6.4)			削り，コビキ痕，布目痕			
967	SK32	瓦	丸瓦	(13.7)	1.4	(13.7)		12.5				削り，布目痕			
968	SK32	瓦	丸瓦	(15.1)	1.5	(11.6)	(3.5)	(12.9)	6.8		ヘラミガキ	布目痕			
973	SX21	瓦	丸瓦	(16.8)	1.4	(13.6)	3.2	12.9	(5.3)		削り，ナデ	削り，コビキ痕			
974	SX21	瓦	丸瓦	(15.5)	1.8	(13.1)	2.4	12.9	(5.5)		削り，ナデ	削り，ナデ			
1068	SX24	瓦	丸瓦	(23.3)	1.5	(20.4)	(2.9)	(7.5)	(1.2)		削り，ナデ	布目痕，コビキB			
1069	SX24	瓦	丸瓦	(14.7)	1.4	(11.0)	3.8	11.7	(5.0)		削り，ナデ	布目痕			
1070	SX24	瓦	丸瓦	(10.8)	1.7	(7.1)	3.7				削り，ナデ	布目痕，削り			
1071	SX24	瓦	丸瓦	24.0	1.4	20.7	3.3	12.4	(6.3)		削り，ナデ	布目痕，コビキB，削り			
1072	SX24	瓦	丸瓦	(23.0)	1.4	(19.6)	3.4	12.7	(3.3)		削り，ヘラミガキ，ナデ	布目痕，コビキB，削り			
1073	SX24	瓦	丸瓦	(14.4)	1.4	(10.3)	4.1	11.5	5.8		削り，ナデ，ヘラミガキ	布目痕，削り			
1074	SX24	瓦	丸瓦	(14.5)	1.6	(11.1)	3.4	12.6	5.6		削り，ナデ	布目痕，削り			
1075	SX24	瓦	丸瓦	(22.1)	1.9			14.0		行基葺き	削り，ナデ	布目痕，削り			
1076	SX24	瓦	丸瓦	(17.6)	1.7	(13.7)	3.9	12.2			削り，ナデ，ヘラミガキ	削り			
1077	SX24	瓦	丸瓦	(14.1)	1.7	(11.4)	2.7	12.5	(5.3)		削り，ナデ，ヘラミガキ	布目痕，削り			
1078	SX24	瓦	丸瓦	(16.0)	1.7	(12.0)	4.1	11.9	(3.8)		削り，ナデ	布目痕，削り			
1079	SX24	瓦	丸瓦	(13.3)	1.8	(10.2)	(3.1)	12.4	(5.3)		削り，ナデ	布目痕，削り			
1080	SX24	瓦	丸瓦	(13.3)	1.6	(10.1)	3.2	13.0	6.8		削り，ナデ	布目痕，削り			
1081	SX24	瓦	丸瓦	(12.3)	1.8	(9.0)	3.3	12.1			削り，ナデ	布目痕，削り			
1082	SX24	瓦	丸瓦	(13.1)	1.9	(10.1)	3.0	11.3	5.4		削り，ナデ	削り			
1083	SX24	瓦	丸瓦	(7.8)	1.4	(5.0)	2.8	12.9	6.8		削り，ナデ，ヘラミガキ	布目痕，削り			
1084	SX24	瓦	丸瓦	(22.7)	2.0	(22.7)		14.1				布目痕，コビキ痕，削り			
1085	SX24	瓦	丸瓦	(17.1)	1.5	(17.1)					削り，ナデ	布目痕，削り			
1086	SX24	瓦	丸瓦	(18.8)	1.8	(18.8)					削り，ナデ，ヘラミガキ	布目痕			
1088	SX24	瓦	丸瓦	(10.3)	1.6	(10.3)		(9.8)			削り，ナデ，タタキ	削り			
1106	SX26	瓦	丸瓦	(13.4)	2.3	(9.1)	4.3	12.3	(6.5)		削り，ナデ	布目痕，削り			
1119	SX27	瓦	丸瓦	24.2	1.5	19.9	4.3	12.7	(7.2)		タタキ，ヘラ削り，ナデ	削り，布目痕			
1120	SX27	瓦	丸瓦	24.5	1.5	21.3	3.2	13.0	(7.1)		ヘラ削り，ナデ	削り，布目痕，コビキB			
1121	SX27	瓦	丸瓦	(14.9)	1.9	(11.4)	3.5	13.4	8.3		削り，ナデ	削り，布目痕			
1122	SX27	瓦	丸瓦	(17.9)	1.7	(14.2)	3.7	(8.5)	(6.2)			削り，布目痕			

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	厚さ(cm)	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
1123	SX27	瓦	丸瓦	26.0	1.6	22.5	3.5	(13.1)	6.8		ヘラ削り	削り，布目痕，コビキB			
1124	SX27	瓦	丸瓦	23.8	1.8	19.7	4.1	13.4	(4.4)		ヘラミガキ	削り，布目痕，コビキB			
1125	SX27	瓦	丸瓦	(13.9)	1.8	(10.1)	3.8	11.3	(6.2)		ヘラミガキ	削り，ナデ，布目痕			
1126	SX27	瓦	丸瓦	(17.5)	1.8	(13.9)	3.6	13.2	(6.4)			削り，布目痕，コビキB			
1127	SX27	瓦	丸瓦	21.8	1.6	18.8	3.0	12.1			ヘラミガキ	削り，布目痕			
1128	SX27	瓦	丸瓦	22.8	1.5	19.4	3.4	12.5	6.6		ヘラミガキ	削り，布目痕，コビキB			
1129	SX27	瓦	丸瓦	(16.8)	1.7	(12.6)	4.2	12.8	6.5		ヘラ削り	削り，布目痕，コビキB			
1130	SX27	瓦	丸瓦	(16.7)	1.4	(12.9)	3.8	12.9	(5.4)		ヘラミガキ	削り，布目痕			
1131	SX27	瓦	丸瓦	(22.8)	1.8	(19.6)	3.1	(10.9)	(5.9)			綴紐痕			
1132	SX27	瓦	丸瓦	(22.9)	1.7	(20.1)	2.9	12.7	(5.3)		ヘラミガキ	布目痕，コビキB			
1133	SX27	瓦	丸瓦	(16.1)	1.5	(12.7)	3.4	12.1	(4.9)			布目痕			
1134	SX27	瓦	丸瓦	(14.5)	1.8	(11.5)	(3.0)	12.7	(7.5)		ヘラミガキ	布目痕			
1135	SX27	瓦	丸瓦	(22.3)	1.8	(19.0)	3.3	8.1	6.2		ヘラミガキ	削り，布目痕，コビキB			
1136	SX27	瓦	丸瓦	(19.5)	2.0	(16.2)	3.3	(9.7)	(2.5)		ヘラミガキ	綴紐痕，削り，ナデ			
1137	SX27	瓦	丸瓦	(17.0)	2.0	(13.6)	3.4	13.9	(7.0)			削り，布目痕，コビキB			
1138	SX27	瓦	丸瓦	(16.2)	1.8	(12.4)	3.8	13.5	(4.3)		削り，ナデ	布目痕			
1139	SX27	瓦	丸瓦	(15.8)	1.9	(13.0)	2.9	13.1			ヘラミガキ	削り，コビキB			
1141	SX27	瓦	丸瓦	(13.7)	2.8	(10.8)	2.9					綴紐痕，削り			
1142	SX27	瓦	丸瓦	(15.8)	2.0	(15.8)					削り，ナデ	削り，布目痕，コビキB			
1143	SX27	瓦	丸瓦	(17.5)	1.8	(17.5)		(11.3)			ヘラミガキ	削り			
1144	SX27	瓦	丸瓦	(13.8)	1.4	(13.8)		12.0			ヘラミガキ	削り，布目痕，コビキB			
1145	SX27	瓦	丸瓦	(15.0)	1.2	(15.0)		(11.9)			ヘラミガキ	コビキA，削り			
1146	SX27	瓦	丸瓦	(12.1)	1.8	(12.1)						削り			
1147	SX27	瓦	丸瓦	(12.4)	1.9	(12.4)					ヘラミガキ	削り，布目痕，コビキB			
1187	SX28	瓦	丸瓦	30.6	2.3	26.6	4.0	15.2	8.0		削り，ナデ	布目痕，コビキB，削り，ナデ			
1188	SX28	瓦	丸瓦	26.6	1.5	23.4	3.2	13.1	7.8		削り，ナデ	布目痕，コビキB，削り，ナデ			
1189	SX28	瓦	丸瓦	26.2	1.8	23.2	3.0	13.0	7.7		削り，ナデ	布目痕，コビキB，削り，ナデ			
1190	SX28	瓦	丸瓦	(14.5)	1.6	(12.1)	2.4	13.5	(4.9)		削り，ナデ	布目痕，綴紐痕，削り，ナデ			
1191	SX28	瓦	丸瓦	(14.3)	1.5	(11.0)	3.3	(12.3)	7.5		削り	布目痕，綴紐痕，削り，ナデ			
1192	SX28	瓦	丸瓦	32.6	2.2	28.6	4.0	13.7	7.3		削り，ナデ	布目痕，コビキB，削り，ナデ			
1193	SX28	瓦	丸瓦	28.4	2.2	24.7	3.7	13.6	(6.0)		削り，ナデ，ヘラミガキ	布目痕，削り，ナデ			
1194	SX28	瓦	丸瓦	(13.0)	2.6	(13.0)					削り，板ナデ	削り，ナデ			
1195	SX28	瓦	丸瓦	(14.3)	2.1	(11.0)	3.3	13.7	(6.9)		削り，ナデ，指押さえ	布目痕，削り，ナデ			
1196	SX28	瓦	丸瓦	27.6	1.8	24.7	2.9	13.8	(6.8)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1197	SX28	瓦	丸瓦	27.8	1.9	24.0	3.9	13.9	(6.8)		削り，ナデ	布目痕，綴紐痕，削り，ナデ			
1198	SX28	瓦	丸瓦	(13.7)	1.8	(11.8)	2.9	12.5			削り，ナデ，指押さえ	削り，ナデ			
1199	SX28	瓦	丸瓦	(14.0)	2.5	(10.2)	3.9	13.6	(7.7)			削り，ナデ			
1200	SX28	瓦	丸瓦	25.2	1.7	21.8	3.4	12.7	(4.1)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	厚さ(cm)	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
1201	SX28	瓦	丸瓦	(25.1)	1.95	(25.1)		13.6			削り，ナデ	布目痕，コビキ痕，削り，ナデ			
1202	SX28	瓦	丸瓦	(15.3)	1.5	(12.4)	10.9	12.2	8.3		削り，ナデ	布目痕，コビキ痕，削り，ナデ			
1203	SX28	瓦	丸瓦	(16.9)	1.8	(13.8)	(3.0)	13.4	(8.2)			布目痕，削り，ナデ			
1204	SX28	瓦	丸瓦	23.8	1.9	21.4	2.4	12.6	(4.6)			布目痕，コビキ痕，削り，ナデ			
1205	SX28	瓦	丸瓦	25.5	2.3	21.8	3.7	18.6	(7.6)		削り	布目痕，綴紐痕，ヘラ削り，削り，ナデ			
1206	SX28	瓦	丸瓦	(16.9)	1.7	(13.2)	4.1	12.7	(5.8)		削り，ナデ	布目痕，削り			
1207	SX28	瓦	丸瓦	(16.6)	2.3	(13.1)	3.5	13.4	(7.5)		削り，ナデ	布目痕，コビキ痕，削り，ナデ，面取			
1208	SX28	瓦	丸瓦	(25.9)	1.9	(22.3)	(3.6)	13.5	(5.4)		削り，ナデ	綴紐痕，削り，ナデ			
1209	SX28	瓦	丸瓦	25.5	1.8	22.2	3.4	12.3	(4.9)		削り，ナデ	布目痕，コビキ痕，削り，ナデ			
1210	SX28	瓦	丸瓦	(13.2)	1.8	(9.6)	3.4			凸面に刻印	削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1211	SX28	瓦	丸瓦	(16.2)	2.1	(12.2)	4.0	13.0	(7.5)	凸面に刻印(花文)	削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1212	SX28	瓦	丸瓦	25.0	1.9	21.6	3.4	(10.6)	5.4		削り，ナデ	綴紐痕，削り，ナデ			
1213	SX28	瓦	丸瓦	(24.4)	1.7	(23.8)	0.4	(11.5)			削り，ナデ	布目痕，コビキ痕，削り，ナデ			
1214	SX28	瓦	丸瓦	(16.1)	1.9	(13.5)	3.0	12.9	(5.6)		削り，ナデ	布目痕，綴紐痕，削り，ナデ			
1215	SX28	瓦	丸瓦	(14.8)	2.5	(11.5)	3.3	13.2	(6.4)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1216	SX28	瓦	丸瓦	(22.3)	1.9	(18.9)	3.4	13.7	6.4		削り，ナデ	削り，ナデ			
1217	SX28	瓦	丸瓦	(22.7)	1.9	(19.7)	(3.0)	12.9			削り，ナデ	布目痕，綴紐痕，削り，ナデ			
1218	SX28	瓦	丸瓦	(13.2)	2.3	(9.6)	3.6	13.8	(5.4)		削り，ナデ	綴紐痕，削り，ナデ			
1219	SX28	瓦	丸瓦	(16.0)	1.9	(16.0)		12.8			削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1220	SX28	瓦	丸瓦	21.2	1.5	17.9	3.3	11.9	6.4		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1221	SX28	瓦	丸瓦	(15.3)	2.5	(11.9)	3.4	13.1	6.9		削り，ナデ，指押さえ	布目痕，綴紐痕，削り，ナデ			
1222	SX28	瓦	丸瓦	(18.0)	1.6	(14.3)	3.7	12.9	(8.0)		削り，ナデ	コビキB，綴紐痕，削り，ナデ			
1223	SX28	瓦	丸瓦	(18.6)	1.9	(14.9)	3.7	13.2	7.8		削り，ナデ	綴紐痕，削り，ナデ			
1224	SX28	瓦	丸瓦	(18.6)	1.8	(14.9)	4.1	12.6	(3.7)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1225	SX28	瓦	丸瓦	(17.3)	2.0	(16.3)	3.0	13.5	8.4		削り，ナデ	コビキB，綴紐痕，削り，ナデ			
1226	SX28	瓦	丸瓦	(16.2)	1.8	(12.3)	3.9	12.9	6.6	凸面に刻印	削り，ナデ	布目痕，綴紐痕，削り，ナデ			
1227	SX28	瓦	丸瓦	(20.3)	2.0	(17.0)	(2.3)	12.9	(6.8)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1228	SX28	瓦	丸瓦	(19.1)	2.0	(19.1)		12.8			削り，ナデ	布目痕，コビキB，削り，ナデ			
1229	SX28	瓦	丸瓦	(16.4)	1.7	(16.4)		11.7			削り，ヘラミガキ	布目痕，コビキB，面取			
1230	SX28	瓦	丸瓦	(20.9)	1.9	(17.9)	3.0	12.1	(4.2)		削り，ナデ	布目痕，コビキB			
1374	SX29	瓦	丸瓦	27.7	2.0	23.8	3.9	12.9	7.6		削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り			
1375	SX29	瓦	丸瓦	27.8	2.8	23.4	4.0	13.1	(3.2)		削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1376	SX29	瓦	丸瓦	(11.3)	1.5	(7.6)	(3.6)	(12.7)	(6.6)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1377	SX29	瓦	丸瓦	(10.0)	2.0	(6.9)	(3.1)	12.3			削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	厚さ(cm)	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
1378	SX29	瓦	丸瓦	25.2	1.8	21.9	3.3	13.1	(6.3)		削り，ナデ	コビキB，削り，ナデ			
1379	SX29	瓦	丸瓦	26.0	1.8	22.0	4.1	13.4	(5.0)		削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1380	SX29	瓦	丸瓦	(10.7)	1.6	(7.0)	3.8	12.4	(5.6)		削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1381	SX29	瓦	丸瓦	(13.5)	1.5	(10.1)	3.4	12.2	(4.0)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1382	SX29	瓦	丸瓦	24.0	1.5	21.1	2.9	11.9	(4.7)		削り	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1383	SX29	瓦	丸瓦	22.5	1.5	19.2	3.3	12.2			削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1384	SX29	瓦	丸瓦	(12.6)	1.7	(9.2)	(3.6)	12.8	7.4		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1385	SX29	瓦	丸瓦	(10.9)	1.7	(7.9)	3.0		6.8		削り，ナデ	綴紐痕，削り，ナデ			
1386	SX29	瓦	丸瓦	22.6	1.5	19.1	3.5	11.9	6.4		削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1387	SX29	瓦	丸瓦	22.5	1.6	19.3	3.2	13.0			削り，ナデ	コビキB，布目痕，ナデ			
1388	SX29	瓦	丸瓦	(12.2)	1.8	(8.3)	(3.9)	11.8	5.0	釘穴２ヶ所	削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1389	SX29	瓦	丸瓦	(13.2)	1.4	(10.4)	(2.8)	12.2	(5.4)		削り，ナデ	コビキB，削り，ナデ			
1390	SX29	瓦	丸瓦	21.2	1.5	18.2	3.0	12.2	5.9		削り，ナデ	布目痕，指押さえ，ナデ			
1391	SX29	瓦	丸瓦	21.5	(2.0)	18.1	3.4	12.4			削り，ナデ	コビキB，削り，ナデ			
1392	SX29	瓦	丸瓦	(14.1)	1.7	(10.6)	3.5	12.0	(5.2)		削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1393	SX29	瓦	丸瓦	(12.5)	1.5	(9.5)	3.0	12.6	(3.4)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1394	SX29	瓦	丸瓦	21.9	1.5	19.1	2.8	12.2			削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1395	SX29	瓦	丸瓦	21.8	1.5	18.6	3.2	12.0			削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1396	SX29	瓦	丸瓦	(14.3)	1.7	(11.1)	3.2	12.1	(4.0)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			径6㎜の石粒を含む
1397	SX29	瓦	丸瓦	(11.8)	1.6	(7.8)	4.0	13.2	(7.2)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1398	SX29	瓦	丸瓦	21.7	1.3	18.7	3.0	12.0	(4.9)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1399	SX29	瓦	丸瓦	21.7	1.5	18.4	3.3	12.6	5.8		削り，ナデ	布目痕，指押さえ，削り，ナデ			
1400	SX29	瓦	丸瓦	(12.9)	1.6	(9.4)	3.5	12.6	(6.4)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1401	SX29	瓦	丸瓦	(13.5)	1.6	(9.4)	4.2	12.5	5.1		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1402	SX29	瓦	丸瓦	24.9	2.0	21.8	3.1	(7.0)	(4.0)		削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1403	SX29	瓦	丸瓦	(23.7)	1.4	(19.7)	4.2	13.0	(4.6)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1404	SX29	瓦	丸瓦	(14.2)	1.7	(10.6)	3.6	12.6	7.6		削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1405	SX29	瓦	丸瓦	(15.1)	1.6	(11.8)	(3.3)	11.6	(3.5)		削り，ナデ	コビキB，削り，ナデ			
1406	SX29	瓦	丸瓦	(23.9)	1.5	(20.1)	3.1	12.8	6.7		削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1407	SX29	瓦	丸瓦	(22.3)	1.4	(18.9)	3.4	12.3	5.5		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1408	SX29	瓦	丸瓦	(16.8)	1.8	(13.5)	(3.3)	12.4			削り，ナデ	削り，ナデ			
1409	SX29	瓦	丸瓦	(16.3)	1.5	(13.1)	(3.4)	12.1	7.0		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1410	SX29	瓦	丸瓦	(22.0)	1.6	(18.6)	3.4	12.3	(6.0)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1411	SX29	瓦	丸瓦	(19.7)	1.5	(16.2)	3.5	11.9	(4.0)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1412	SX29	瓦	丸瓦	(16.2)	2.0	(12.8)	(3.7)	14.0	(6.7)		削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	厚さ(cm)	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
1413	SX29	瓦	丸瓦	(16.5)	1.7	(12.5)	4.0				削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1414	SX29	瓦	丸瓦	(18.9)	1.8		4.2	14.7	(8.0)	刻印あり	削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1415	SX29	瓦	丸瓦	(20.6)	1.4	(17.4)	3.2	11.9	(4.4)		削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1416	SX29	瓦	丸瓦	(18.9)	1.6	(15.5)	3.4	12.5	(6.6)		削り，ナデ	削り，ナデ			
1417	SX29	瓦	丸瓦	(18.9)	1.7	18.5	(0.4)	12.0			削り，ナデ	コビキB，削り，ナデ			
1418	SX29	瓦	丸瓦	(21.2)	1.7	(17.6)	3.6				削り，ナデ	コビキB，削り，ナデ			
1419	SX29	瓦	丸瓦	(20.9)	1.5	(16.5)	4.4	(8.6)	(2.9)	釘穴2ヶ所	削り，ナデ	削り，ナデ			
1420	SX29	瓦	丸瓦	(14.4)	1.5	(10.9)	3.6	(11.3)	(5.6)		削り，ナデ	綴紐痕，布目痕，削り，ナデ			
1421	SX29	瓦	丸瓦	(16.2)	1.7	(12.2)	(4.0)				削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1422	SX29	瓦	丸瓦	(16.3)	1.6	(13.6)	2.7	(8.5)	(3.7)		削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1423	SX29	瓦	丸瓦	(11.9)	1.4	(8.7)	(3.2)	(7.9)	(2.7)		削り，ナデ	削り，ナデ			
1424	SX29	瓦	丸瓦	(15.3)	1.4	(15.3)		11.8			削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1425	SX29	瓦	丸瓦	(12.6)	1.6			12.1			削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1426	SX29	瓦	丸瓦	(16.2)	1.4	(12.9)	3.3	(7.5)	(3.3)		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1427	SX29	瓦	丸瓦	(16.8)	1.4	(12.9)	(3.7)	(5.8)			削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1429	SX29	瓦	丸瓦	(9.9)	1.5	(6.7)	(3.2)				削り，ナデ				
1430	SX29	瓦	丸瓦	(19.4)	1.5	(18.7)	(0.7)				削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1431	SX29	瓦	丸瓦	(18.2)	2.0	(18.2)		13.7			削り，ナデ	コビキB，布目痕，削り，ナデ			
1432	SX29	瓦	丸瓦	(16.2)	2.1	(16.2)					削り，ナデ	コビキB，削り，ナデ			
1433	SX29	瓦	丸瓦	(13.2)	1.6	(13.2)		11.8			削り，ナデ	コビキB，削り，ナデ			
1482	SX31	瓦	丸瓦	24.9	1.5	21.2	3.7	13.3	7.4		削り，ナデ	布目痕，コビキ痕			
1483	SX31	瓦	丸瓦	23.6	1.5	20.1	3.5	12.4	(6.1)		削り，ナデ	布目痕			
1484	SX31	瓦	丸瓦	(13.4)	1.6	(9.9)	3.5	12.0	6.6		削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ			
1485	SX31	瓦	丸瓦	(24.5)	1.7	(20.7)	3.8	(8.9)	(4.0)		削り，ナデ	布目痕			
1486	SX31	瓦	丸瓦	21.4	1.8	12.0	3.4	12.0	(6.4)		削り，ナデ	布目痕，削り			
1570	第2遺構面上層	瓦	丸瓦	(23.9)	2.1	(20.7)	3.2	13.7	(6.2)			コビキB，むしろ目，削り，ナデ			
1581	SA04	瓦	丸瓦	(13.8)	1.6	(9.4)	4.4	12.1	7.5		削り，板ナデ	布目痕			
1611	SD09	瓦	丸瓦	(24.3)	2.0	(20.7)	3.6	13.4			削り，ナデ	布目痕，削り			
1612	SD09	瓦	丸瓦	(12.3)	1.7	(8.3)	3.9	11.2	(6.1)		削り，ナデ	布目痕，コビキ痕，削り			
1613	SD09	瓦	丸瓦	(17.4)	1.4	(14.1)	3.6	12.7	(7.0)		削り，ナデ	布目痕，削り			
1614	SD09	瓦	丸瓦	(14.3)	1.5	(10.3)	4.0	12.2	(6.2)		削り，ナデ	布目痕，コビキ痕，削り			
1615	SD09	瓦	丸瓦	(14.0)	1.5	(10.1)	4.0	12.3	6.3		削り，ナデ	布目痕，コビキ痕，削り			
1616	SD09	瓦	丸瓦	(13.5)	1.8	(9.2)	4.3	12.3	5.7	花弁刻印あり	削り，ナデ	布目痕，削り			
1618	SD09	瓦	丸瓦	(11.8)	1.6	(8.7)	(3.1)	13.4			削り，ナデ	布目痕，削り			
1619	SD09	瓦	丸瓦	(11.9)	1.8	(8.4)	3.5	(9.4)			削り，ナデ	布目痕，コビキB，削り			
1620	SD09	瓦	丸瓦	(12.8)	1.4	(9.3)	3.8	12.2	(5.1)		削り，ナデ	布目痕，削り			
1623	SK39	瓦	丸瓦	(9.7)	1.5	(9.7)		(8.1)			削り，ナデ	布目痕			

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	厚さ(cm)	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
1637	SK51	瓦	丸瓦	(15.4)	1.5	(11.7)	3.7	(8.6)	(5.5)		削り，ナデ	布目痕			
1642	SK52	瓦	丸瓦	(15.1)	1.6	(15.1)					削り，ナデ	布目痕，削り			
1643	SK52	瓦	丸瓦	(10.1)	2.2	(10.1)					削り，ナデ	布目痕，削り，綴紐痕			
1658	SK59	瓦	丸瓦	(12.8)	1.7	(9.8)	3.0				削り，ナデ				
1670	SK60	瓦	丸瓦	(15.3)	1.4	(15.3)					削り，ナデ	削り，ナデ，布目痕，コビキ痕			
1671	SK60	瓦	丸瓦	(11.6)	1.6	(8.1)	3.5	12.7	7.6		削り，ナデ	布目痕，削り			
1672	SK60	瓦	丸瓦	(14.3)	1.6	(10.8)	3.5	(12.9)	(3.4)		削り，ナデ	布目痕，削り			
1673	SK60	瓦	丸瓦	(13.0)	1.5	(9.9)	3.1	(7.3)	(4.0)		削り，ナデ	布目痕，削り			
1682	SK63	瓦	丸瓦	(15.1)	1.6	(14.6)	(0.5)	(9.8)			削り，ナデ	布目痕			
1687	SK66	瓦	丸瓦	(6.7)	2.1	(3.4)	3.3	(7.2)			削り，ナデ	削り,布目痕,コビキ痕			
1690	SK67	瓦	丸瓦	(19.6)	1.6	(18.4)	(1.3)	(8.5)			削り，ナデ	削り，コビキ痕			
1692	SK70	瓦	丸瓦	(11.7)	1.7	(8.3)	3.4	(6.3)	(0.9)		削り，ナデ	布目痕，削り，綴紐痕			
1710	堀埋土中	瓦	丸瓦	(39.8)	1.8	(37.9)	(1.9)	12.6			ナデ	むしろ目，削り，ナデ			
1711	SK94	瓦	丸瓦	(21.3)	1.7	(18.0)	3.3	(13.0)	(4.7)		削り，ナデ	削り，ナデ，コビキ痕			
1712	SK94	瓦	丸瓦	(13.0)	2.0	(9.5)	3.5	13.6	6.3		削り，ナデ	削り，布目痕			
1713	SK94	瓦	丸瓦	(14.5)	1.6	(10.4)	4.1	(10.1)	(4.5)		削り，ナデ	削り			
1747	その他	瓦	丸瓦	(18.8)	1.6	(17.7)	(1.3)	12.2			削り，ナデ	コビキ痕，削り，ナデ			
1748	その他	瓦	丸瓦	(20.0)	1.5	(20.0)					削り，ナデ	布目痕，削り			
1749	その他	瓦	丸瓦	(15.7)	1.6	(12.2)	2.9	12.6	6.7		削り，ナデ	布目痕,削り,ヘラ調整			
1750	その他	瓦	丸瓦	(10.6)	1.7	(8.6)	(2.1)	13.2			削り，ナデ	布目痕，削り			
1751	その他	瓦	丸瓦	(13.8)	1.6	(13.8)		(8.2)			削り，ナデ	コビキ痕，削り			
1752	その他	瓦	丸瓦	(10.6)	1.4	(10.6)		(10.2)			削り，ナデ	布目痕，削り			

表6　平瓦観察表

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
41	SX08	瓦	平瓦	(12.1)			1.5		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り	
42	SX08	瓦	平瓦	(9.0)			1.9		削り	削り	削り，ナデ		
197	SE05	瓦	平瓦	(22.2)	(23.7)	(21.9)	2.1		タタキ，削り，ナデ	布目痕，削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
198	SE05	瓦	平瓦	(12.8)		(11.0)	2.4		タタキ，ナデ	布目痕，コビキ痕	切り込み,分割後未調整	ナデ	
366	SX15	瓦	平瓦	(16.2)	(13.9)		2.2		削り	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
367	SX15	瓦	平瓦	(20.9)		(14.0)	2.5		削り	削り，ナデ		削り	
368	SX15	瓦	平瓦	(14.5)			1.8		削り，ナデ	削り，ナデ		削り	
369	SX15	瓦	平瓦	(12.4)			2.0		削り	削り，ナデ		削り	
370	SX15	瓦	平瓦	(20.2)			2.2		削り	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
371	SX15	瓦	平瓦	30.1			2.2		削り	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
372	SX15	瓦	平瓦	(13.6)			1.7		削り，ナデ	削り,側縁のみナデ(横後縦)	削り	削り	
373	SX15	瓦	平瓦	(24.5)		18.4	1.8		削り	削り(横後縦)，ナデ	削り	削り	
374	SX15	瓦	平瓦	(6.8)		20.1	1.8		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，面取	削り	
375	SX15	瓦	平瓦	(20.4)		(15.6)	2.2		削り	削り，ナデ	削り,ナデ,凹面側面取	削り，凹面側面取	
376	SX15	瓦	平瓦	(21.4)			1.8		削り	削り，ナデ	削り，凹面側面取	削り，凹面側面取	
377	SX15	瓦	平瓦	(15.3)		(11.9)	2.6		削り，ナデ	削り，面取	削り	削り，面取	
380	SX16	瓦	平瓦	31.9	(1.0)	(21.5)	2.3		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
381	SX16	瓦	平瓦	(18.2)	(19.1)		2.5		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ，ヘラ状圧痕	
382	SX16	瓦	平瓦	(25.1)		(16.8)	1.8		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
546	第4遺構面上層	瓦	平瓦	32.0		22.9	1.9		ナデ	コビキA，ナデ	ナデ	ナデ	
547	第4遺構面上層	瓦	平瓦	(19.8)		(16.2)	1.8		縄目タタキ	コビキA，ナデ	ナデ		
548	第4遺構面上層	瓦	平瓦	(21.4)	22.8	(14.8)	1.7		削り，ナデ	ナデ，布目痕	ナデ	ナデ	
549	第4遺構面上層	瓦	平瓦	(22.0)		22.4	2.4		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
550	第4遺構面上層	瓦	平瓦	(24.8)	25.2		2.1		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ，布目痕	
593	SK19	瓦	平瓦	(16.1)		(9.4)	2.1		削り，ナデ	削り，ナデ，タタキ痕	削り，ナデ	削り，ナデ	
607	SX17	瓦	平瓦	(14.6)		21.5	1.4		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
627	SX18	瓦	平瓦	(23.3)		(7.6)	2.1		削り後一部ナデ	削り後ナデ	削り後ナデ	削り後ナデ	
628	SX18	瓦	平瓦	(25.6)		(11.5)	1.9		縦方向の削り	縦方向の削り後ナデ一部指紋あり			
629	SX18	瓦	平瓦	(20.5)		23.6			削り後一部ナデ	削り後ナデ	削り後ナデ	削り後ナデ	
803	第3遺構面上層	瓦	平瓦	(24.9)		22.3	1.6		タタキ，ナデ	コビキA,ナデ,ハケ目	削り，ナデ	削り，ナデ	
859	SK23	瓦	平瓦	(18.5)		(9.8)	2.0		タタキ，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
923	SK29	瓦	平瓦	31.6	(9.0)	(11.5)	2.1		削り，粗いナデ	削り後ハケ目後ナデ			
1089	SX24	瓦	平瓦	(20.5)		21.9	1.4		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1090	SX24	瓦	平瓦	(18.6)	(18.3)		1.9		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1091	SX24	瓦	平瓦	27.0	(17.5)	(14.1)	1.7		削り，ナデ(縦)	削り，板ナデ(横)，指ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1092	SX24	瓦	平瓦	26.8			1.8		削り，ナデ(縦)	削り，ナデ(横)	削り，ナデ	削り，ナデ	
1093	SX24	瓦	平瓦	23.5	(3.9)	(7.9)	1.5		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
1094	SX24	瓦	平瓦	(16.4)			2.1		削り，ナデ	削り，ナデ，布目痕	削り，ナデ	削り，ナデ	
1095	SX24	瓦	平瓦	(12.9)			1.8		削り，ナデ	削り，ナデ			
1096	SX24	瓦	平瓦	(7.8)			1.4		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1097	SX24	瓦	平瓦	(9.1)	(5.2)		1.5		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1107	SX26	瓦	平瓦	(13.5)		(10.9)	1.5		削り，ナデ	削り，ナデ	削り	削り	
1148	SX27	瓦	平瓦	23.4	(14.6)	18.3	1.5		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1231	SX28	瓦	平瓦	(21.3)		20.0	1.7		削り	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1232	SX28	瓦	平瓦	28.4			2.3		削り	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1233	SX28	瓦	平瓦	25.2	(9.5)	(16.6)	1.9		削り	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ，指押さえ	
1234	SX28	瓦	平瓦	(19.3)	(10.5)		3.3		削り	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1235	SX28	瓦	平瓦	25.0	(11.5)	(8.5)	(2.2)	手づくねに近い	削り，ナデ	削り，ナデ，指押さえ	指押さえ，ナデ	削り，ナデ	
1236	SX28	瓦	平瓦	24.7	(13.2)	(9.3)	2.1		削り，粗いナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ，布目痕	
1237	SX28	瓦	平瓦	28.0	(22.6)	21.5	3.1	狭端面に刻印	削り	削り，板ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1238	SX28	瓦	平瓦	(14.8)	(14.6)		1.9	端面に刻印	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1239	SX28	瓦	平瓦	25.3	(9.6)	20.5	2.0		削り，板ナデ	削り，ナデ	ナデ，分割痕	削り，ナデ	
1240	SX28	瓦	平瓦	25.6	(9.4)	19.6	1.6		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1241	SX28	瓦	平瓦	27.6	(18.5)	(10.6)	1.7		削り，粗いナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1242	SX28	瓦	平瓦	28.0		(12.0)	1.7		削り,ナデ,ヘラミガキ	削り，ナデ(横)	削り，ナデ	削り，ナデ	
1243	SX28	瓦	平瓦	30.8	(13.3)	(8.1)	2.3		削り	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1244	SX28	瓦	平瓦	25.4	(9.2)	(4.9)	1.7		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1245	SX28	瓦	平瓦	28.0	(11.9)		1.8		削り	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1246	SX28	瓦	平瓦	27.6	(10.0)	(8.2)	2.0		削り，板ナデ	削り，ナデ(横)	削り，ナデ	削り，ナデ	
1247	SX28	瓦	平瓦	27.8			1.6		削り，板ナデ	削り後ナデ，板ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1434	SX29	瓦	平瓦	26.6	(8.8)	20.8	1.7		削り	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1435	SX29	瓦	平瓦	26.3			1.6	凸面に瓦当文様2ケ所	削り	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1436	SX29	瓦	平瓦	(10.8)		(22.8)	1.2		削り，ナデ	削り，ナデ，指押さえ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1437	SX29	瓦	平瓦	12.2		(21.2)	1.4		削り	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1438	SX29	瓦	平瓦	(13.7)	(15.4)		1.5	凸面にヘラ記号	削り，ナデ	削り，板ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1439	SX29	瓦	平瓦	26.2	(14.8)	(12.3)	1.7		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1440	SX29	瓦	平瓦	26.9			1.5		削り，ナデ	削り，板ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1441	SX29	瓦	平瓦	27.2	(11.1)	(12.4)	1.5		削り，ナデ	削り，板ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1442	SX29	瓦	平瓦	27.0		(11.9)	1.5		削り，ナデ	削り，板ナデ	削り，ナデ	削り	
1443	SX29	瓦	平瓦	30.6	(5.9)	(10.8)	2.6		削り	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1444	SX29	瓦	平瓦	30.4	(7.6)	(10.4)	2.3		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1445	SX29	瓦	平瓦	28.4	(6.9)	(4.4)	1.9		削り，ナデ	削り，板ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1446	SX29	瓦	平瓦	27.9	(13.3)	(5.4)	1.6		削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1447	SX29	瓦	平瓦	24.4	(12.3)	(10.8)	1.4		削り，指押さえ	削り，板ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	玉縁径(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	備考
1448	SX29	瓦	平瓦	(11.5)	(13.0)		2.4			削り	削り，板ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1449	SX29	瓦	平瓦	27.2	(13.0)	(9.8)	1.5			削り，ナデ	削り，板ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1450	SX29	瓦	平瓦	27.9			2.0			削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1451	SX29	瓦	平瓦	(17.8)			1.5			削り，ナデ	削り,板ナデ,指押さえ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1452	SX29	瓦	平瓦	(17.9)		(14.2)	1.6			削り	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1453	SX29	瓦	平瓦	(13.9)		(14.8)	2.1			削り	削り，ナデ，コビキ？	削り，ナデ	削り，ナデ	
1454	SX29	瓦	平瓦	(15.6)		(10.6)	1.4			削り	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1487	SX31	瓦	平瓦	(20.4)		(14.4)	1.5			削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1632	SK50	瓦	平瓦	(14.3)			1.8			削り，ナデ	削り，ハケ目，ナデ，コビキB	削り，ナデ	削り，ナデ，面取	
1674	SK60	瓦	平瓦	(14.8)		(13.3)	1.5			削り，ナデ	削り，板ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1691	SK68	瓦	平瓦	(22.9)		(9.6)	1.8			削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	
1693	SK80	瓦	平瓦	(14.3)	(10.3)		1.5			削り，板ナデ	削り，板ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	

表7　小菊瓦観察表

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	備考
602	SX17	瓦	小菊瓦					1.5	(9.4)										
788	第3遺構面上層	瓦	小菊瓦	(2.2)				1.3	8.3						(2.2)				
893	SK27	瓦	小菊瓦	(4.0)			1.5	1.2	9.4						(4.0)				笵傷あり
954	SK31	瓦	小菊瓦	(2.6)				1.5	10.2	いぶしあり					(2.6)				
1114	SX27	瓦	小菊瓦	(2.2)				2.2	11.4	いぶしあり									
1170	SX28	瓦	小菊瓦	(5.7)			1.5	1.2	10.5		削り，ナデ				(4.3)				
1332	SX29	瓦	小菊瓦					1.1	6.6										三巴文
1471	SX31	瓦	小菊瓦	(1.1)				1.4	6.6						(1.1)				三巴文
1559	第2遺構面上層	瓦	小菊瓦	(2.4)				1.6	9.1						(2.4)				
1560	第2遺構面上層	瓦	小菊瓦	(2.1)				1.5	9.6						(2.1)				
1561	第2遺構面上層	瓦	小菊瓦	(2.5)			1.4	1.2	10.1						(2.5)				
1562	第2遺構面上層	瓦	小菊瓦	(3.5)			1.3	1.6	9.6						(3.5)				
1563	第2遺構面上層	瓦	小菊瓦	(2.0)				1.8	9.0						(2.0)				
1564	第2遺構面上層	瓦	小菊瓦	(2.7)				1.6	9.2						(2.7)				
1565	第2遺構面上層	瓦	小菊瓦	(2.4)				1.4	9.9						(2.4)				
1566	第2遺構面上層	瓦	小菊瓦	(3.0)				1.6	8.6						(3.0)				
1567	第2遺構面上層	瓦	小菊瓦	(2.3)				1.7	8.3						(2.3)				
1568	第2遺構面上層	瓦	小菊瓦	(2.6)			1.2	1.3	8.2						(2.6)				
1624	SK39	瓦	小菊瓦					1.4	6.2										三巴文
1627	SK43	瓦	小菊瓦	(1.7)				1.6	8.2	いぶしあり					(1.7)				
1729	第1遺構面上層	瓦	小菊瓦	(2.8)			1.5	1.7	8.3						(2.8)				

表8　滴水瓦観察表

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	備考
1115	SX27	瓦	滴水瓦	(3.9)				(2.3)											
1373	SX29	瓦	滴水瓦	(6.0)	(14.6)					平瓦＋顎		削り，ナデ	削り，ナデ						
1557	第2遺構面上層	瓦	滴水瓦	(5.0)	(24.5)		2.2	1.7	11.0		ナデ	ナデ	ナデ						

表9　軒桟瓦観察表

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	備考
747	石垣内裏込土中	瓦	軒桟瓦	(15.8)			(4.0)				ナデ	ナデ	ナデ						三巴文
1556	第2遺構面上層	瓦	軒桟瓦	(7.5)	(22.6)		1.6	1.4	4.0	いぶしあり，ハナレ砂	ナデ	ナデ	ナデ						
1558	第2遺構面上層	瓦	軒桟瓦	(17.1)	(13.7)		1.6	1.5	3.9	いぶしあり	ナデ	ナデ	ナデ						三巴文
1569	第2遺構面上層	瓦	軒桟瓦	(1.6)				1.3	6.6						(1.6)				三巴文

表10　掛瓦観察表

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	備考
1098	SX24	瓦	掛瓦	(13.1)			1.7				削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ					
1099	SX24	瓦	掛瓦	(9.5)	(8.8)		1.6				削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ						
1456	SX29	瓦	掛瓦	(17.1)	(11.9)		1.6				削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ	削り，ナデ					

表11　垂木瓦観察表

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	備考
1577	第2遺構面上層	瓦	垂木瓦	(15.1)			1.4	2.0		いぶしあり，刻印	ナデ		ナデ						

表12　鬼瓦観察表

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	備考
142	SD03	瓦	鬼瓦	(14.3)	(17.6)		3,0				ナデ								
860	SK23	瓦	鬼瓦	(11.7)	(6.4)		2.4												
966	SK31	瓦	鬼瓦	(7.5)	(8.7)		5.1												葵文
969	SK32	瓦	鬼瓦		(11.6)		6.9				ナデ	ヘラ削り	ナデ						
970	SK32	瓦	鬼瓦	(11.3)	(14.7)		3.2												
1248	SX28	瓦	鬼瓦	(10.3)	(21.8)		5.8				削り，ナデ	指ナデ							
1249	SX28	瓦	鬼瓦	(13.0)	(9.8)		2.0				削り，ナデ	ナデ							
1250	SX28	瓦	鬼瓦	(14.3)	(11.3)						ナデ	ナデ							
1251	SX28	瓦	鬼瓦	(10.8)	(17.2)		5.0				削り，ナデ	ナデ，ヘラ削り							
1252	SX28	瓦	鬼瓦	(13.1)	(21.7)		1.4				ナデ	ナデ，ヘラ削り							
1457	SX29	瓦	鬼瓦	(13.9)	(11.8)		3.0				削り，ナデ	ナデ，ヘラ切り	削り，ナデ	削り，ナデ					
1458	SX29	瓦	鬼瓦	82.8	40.8	4.9					削り，ナデ	ナデ	削り，ナデ						
1731	第1遺構面上層	瓦	鬼瓦	(13.2)	(12.5)		3.4				ナデ	ヘラ削り							
1756	その他	瓦	鬼瓦	(19.8)	(18.6)		3.75					ナデ							三葉葵
1787	SD08	瓦	鬼瓦					2.5				ナデ							葵文

表13　鳥衾観察表

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	備考
290	SX15	瓦	鳥衾	(5.8)					14,4		削り，ナデ								三巴文
1740	その他	瓦	鳥衾	(7.1)			1.4		13.4			指ナデ，ヘラ調整			(7.1)				三巴文
1755	その他	瓦	鳥衾	(18.6)			2.3		17.5						(18.6)		12.4		三巴文

表14　陶器製丸瓦観察表

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	備考
1428	SX29	瓦	陶器製丸瓦	(9.0)			1.8				削り，ナデ，施釉					2.8	9.5	(4.6)	瀬戸・美濃
1730	第1遺構面上層	瓦	陶器製丸瓦	(12.8)			1.7				施釉				(12.8)				瀬戸・美濃

表15　陶器製鬼瓦観察表

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	備考
551	第4遺構面上層	陶器	陶器製鬼瓦	(9.7)	幅(11.3)		3.3				施釉	無釉，ハケ目，後ナデ	施釉						瀬戸・美濃
802	第3遺構面上層	陶器	陶器製鬼瓦	(6.2)	幅(10.7)		3.0				施釉		施釉						瀬戸・美濃
1117	SX27	陶器	陶器製鬼瓦	(13.3)			4.0			白色釉，青色釉，鉄釉	施釉	ヘラ削り，ナデ	施釉						瀬戸・美濃
1467	SX31	陶器	陶器製鬼瓦	(6.0)	幅(6.2)		3.4				施釉	ヘラ削り	施釉						瀬戸・美濃
1574	第2遺構面上層	陶器	陶器製鬼瓦	14.0	幅(25.8)		3.3				施釉	削り，ナデ	ナデ，施釉	ナデ，施釉					瀬戸・美濃
1575	第2遺構面上層	陶器	陶器製鬼瓦	(9.3)			3.1				施釉	ナデ	施釉						瀬戸・美濃

表16　陶器製鳥衾観察表

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	備考
1032	SX24	陶器	陶器製鳥衾								施釉								瀬戸・美濃，三巴文
1118	SX27	陶器	陶器製鳥衾	(6.2)			1.1		(7.2)	白色釉，青色釉，鉄釉	施釉		施釉		(6.2)		7.2		瀬戸・美濃，三巴文
1576	第2遺構面上層	陶器	陶器製鳥衾	(7.0)					9.2		施釉		施釉				8.8		瀬戸・美濃，三巴文

表17　鯱観察表

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	備考
552	第4遺構面上層	瓦	鯱	(10.5)			2.2				板ナデ,ナデ	ナデ							鰭の部分
1488	SX31	瓦	鯱	(10.8)	幅(14.2)		5.0												
1572	第2遺構面上層	瓦	鯱	(39.7)	幅(22.0)	高さ(18.9)	3.3												
1573	第2遺構面上層	瓦	鯱	(17.0)	幅(19.2)														

表18　不明瓦観察表

番号	遺構名	種類	器種	現存長(cm)	広端幅(cm)	狭端幅(cm)	厚さ(cm)	垂れ長厚さ(cm)	垂れ長長さ(cm)	整形・調整の特徴	凸面	凹面	側面	端面	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	備考
347	SX15	瓦	用途不明瓦	(17.2)			2.2					布目痕，コビキA				(3.8)			
1455	SX29	瓦	用途不明瓦	(5.8)			1.6												

表19　銭観察表

番号	遺　構　名	種　類	器　　種	初鋳年	備　考
266	SX 13	銅銭	元豊通宝	1078年	
556	第4遺構面上層	銅銭	開元通宝	621年	
557	第4遺構面上層	銅銭	開元通宝	621年	
558	第4遺構面上層	銅銭	皇宋通宝	1039年	
559	第4遺構面上層	銅銭	皇宋通宝	1039年	
560	第4遺構面上層	銅銭	皇宋通宝	1039年	
561	第4遺構面上層	銅銭	皇宋通宝	1039年	
562	第4遺構面上層	銅銭	天聖元宝	1023年	
563	第4遺構面上層	銅銭	天聖元宝	1023年	
564	第4遺構面上層	銅銭	天聖元宝	1023年	
565	第4遺構面上層	銅銭	元[豊？]通宝	1078年	
566	第4遺構面上層	銅銭	景徳元宝	1004年	
567	第4遺構面上層	銅銭	洪徳通宝	1470年	
807	第3遺構面上層	銅銭	寛永通宝		
1663	SK 60	銅銭	寛永通宝		
1732	第1遺構面上層	銅銭	寛永通宝		
1733	第1遺構面上層	銅銭	寛永通宝		
1734	第1遺構面上層	銅銭	寛永通宝		
1735	第1遺構面上層	銅銭	寛永通宝		
1758	その他	銅銭	聖宋元宝	1101年	
1759	その他	銅銭	開元通宝	621年	
1760	その他	銅銭	元豊通宝	1078年	

表20　金属器観察表

番号	遺　構　名	種　　類	器　　種	残存量	整形・調整の特徴	備　　考
553	第 4 遺構面上層	青銅製品	切羽	ほぼ完存		
554	第 4 遺構面上層	青銅製品	不明			
555	第 4 遺構面上層	銅製品	杓子	ほぼ完存		
804	第 3 遺構面上層	鉄製品				
805	第 3 遺構面上層	青銅製品	小刀（束）			
806	第 3 遺構面上層	青銅製品	小刀（鞘？）			
854	SK 23	鉄製品	不明			
988	SX 24	鉄製品	鉄釘	完存		
1272	SX 29	鉄製品				
1757	その他	青銅製品	煙管	ほぼ完存		

表21　木器観察表

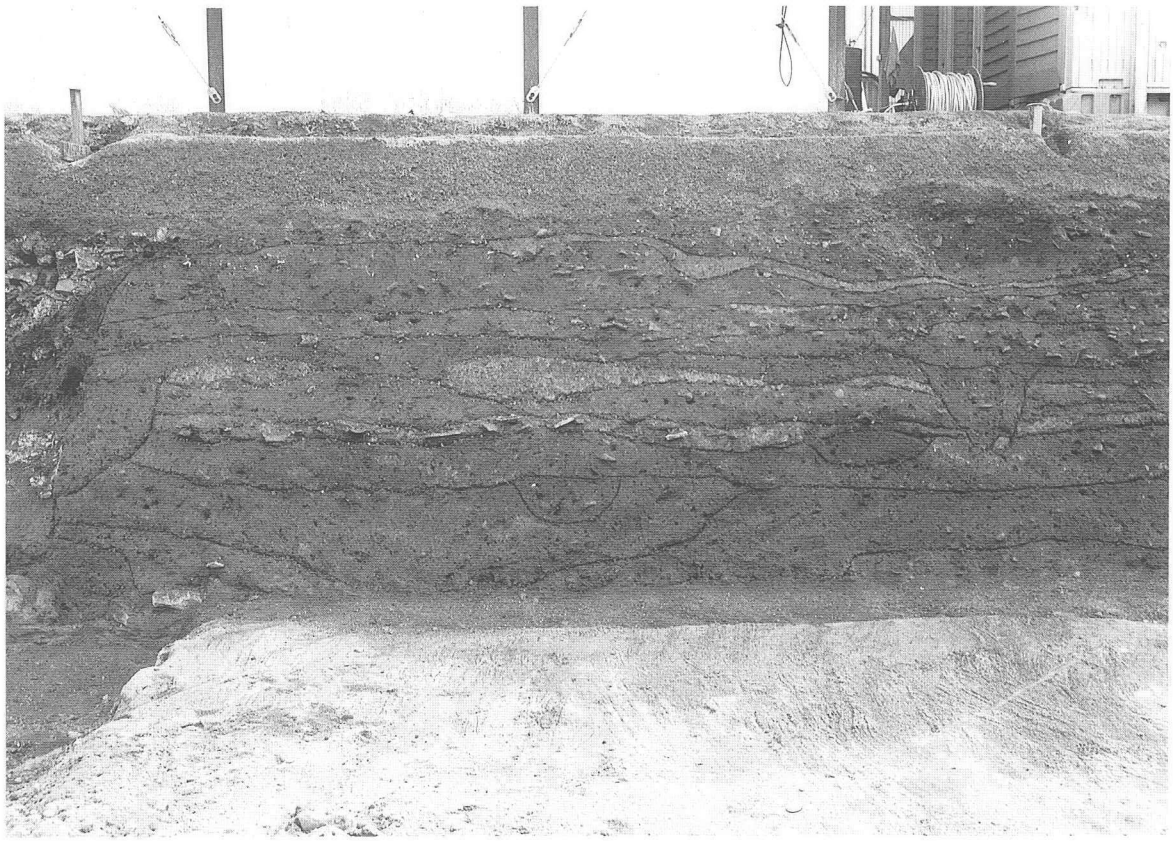
番号	遺構名	種　類	器　　種	残存量	色　　調	整形・調整の特徴
199	SE 05	木製品	漆椀	ほぼ完存		漆？
200	SE 05	木製品	下駄	1 / 5		
201	SE 05	木製品	板状木製品	ほぼ完存		墨書
230	SE 06	木製品	漆椀	ほぼ完存		漆
231	SE 06	木製品	漆椀	ほぼ完存		漆

図　　版

(1) 調査前風景

(2) 調査風景（機械掘削）

図版 2



(1)　南壁土層断面（北より）

(2)　南壁土層断面（北より）